長崎県文化財調査報告書　第85集

諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

Ⅲ

鷹　野　遺　跡

1986

長崎県教育委員会

はじめに

このたび，鷹野遺跡の調査報告書を公刊することになりました。この報告書は，長崎県教育委員会が、事業主体である地域振興整備公団の要請を受けて緊急発掘調査を行なった成果を，調査報告書の第III集として取りまとめたものであります。

発掘調査は、昭和53年４月から昭和57年１月まで，工業団地予定区域内の西輪久道，鷹野，平の３遺跡について実施いたしました。

地下の埋蔵文化財は，私たちが遠い祖先から受け継いだ遺産であり，これを損なわないで，後世に引き継ぐことは私たちに課せられた責務であります。

開発事業は，規模の大小にかかわらず遺跡破壊の問題を抱えておりますが，文化財サイドと開発サイドとの緊密な連絡と調整によって不作為の遺跡破壊は回避できる余地が十分ありますし，その実績も多く持っております。

諫早中核工業団地については，計画段階から埋蔵文化財の保護には地域振興整備公団に，特に配慮していただき，長牟田遺跡（２ha）は緑地公園として現状保存し，また鷹野遺跡内の炉跡３基は移築復元し，諫早市郷土館に展示されています。

本調査に御協力を賜りました関係の皆様に厚くお礼を申し上げますとともに，この調査報告を通して埋蔵文化財についての理解を深めていただければ幸いです。

昭和61年３月

長崎県教育長

伊　藤　昭　六

例　　言

1．本書は諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書の第III分冊である。

2．調査遺跡，期間，所在地は次のとおりである。

鷹野遺跡　　昭和50年12月４日～昭和50年12月10日（試掘調査）
　　昭和54年６月　　～昭和56年６月　　（本調査）

長崎県諫早市津久葉町に所在する。

3．発掘調査の事業主体は地域振興整備公団で，調査指導を長崎県教育委員会が行い，副島和明（文化財保護主事），中村和正（現，外海町教育委員会），中田敦之（現，松浦市教育委員会）が担当した。

4．整理作業は長崎県教育委員会が行い，副島，伴　耕一朗（文化財調査員），小野ゆかりが従事した。

5．本書は分担執筆した。Ⅰ，II，IV，Ⅴ－１，３－(1)，IV－１，２－(1)，３，Ⅶ，Ⅷ－１－(1)，(2)－①，２－(1)，を副島，III－１を久原巻二（文化課研修員），IV－２小野，Ⅴ－３－(2)川畑敏則（文化課研修員），Ⅴ－２－(2)，(3)，(4)，VI－２－(2)，(3)，(4)，Ⅷ－１－(2)－②，２－(2)を伴が執筆した。

6．IX－２は，奈良教育大学市川米太教授，IX－３は，㈶元興寺文化財研究所松田隆嗣研究員，IX－４は，大阪市立大学粉川昭平教授に玉稿を賜わった。

7．遺物の実測・製図は副島，伴，小野，川畑，中村，松岡清美，森洋子，冨田知江，宮崎美保，広川裕子（整理補助員）が行った。

8．出土遺物は，長崎県教育委員会が保管している。

9．本書の編集は副島，伴が担当した。

本 文 目 次

Ⅰ．調査に至るまで…… 1
Ⅱ．調査経過…… 2
　1．試掘調査…… 2
　2．本調査…… 3
Ⅲ．遺跡の地理的歴史的環境…… 5
　1．地理的環境…… 5
　2．周辺の遺跡…… 9
Ⅳ．鷹野遺跡の調査…… 13
　1．調査概要…… 13
　2．層　　位…… 15
Ⅴ．鷹野遺跡Ａ地点…… 19
　1．先土器時代　(1)　遺　構…… 19
　　(2)　出土遺物…… 20
　　(3)　遺物分布状況…… 61
　　(4)　小　結…… 67
　2．縄文時代　(1)　遺　構　①竪穴状遺構…… 77
　　②集石遺構…… 85
　　③炉穴遺構…… 95
　　④礫群遺構…… 101
　　⑤不明土壙…… 104
　　(2)　遺物出土状況…… 107
　　(3)　出土遺物　①土器…… 107
　　②石器…… 110
　　(4)　Ａ地点の遺物の分布状況及び小結…… 173
　3．中・近世　(1)　遺　構…… 179
　　(2)　中・近世の遺物…… 181
Ⅵ．鷹野遺跡Ｂ地点…… 183
　1．先土器時代　(1)　出土遺物…… 183
　2．縄文時代　(1)　遺　構　①竪穴状遺構…… 189
　　②集石遺構 ……190
　　③炉穴遺構…… 197

④石蓋土壙…… 205
⑤礫群遺構 …… 209
⑥不明土壙…… 210
(2) 遺物出土状況…… 212
(3) 出土遺物 ①土器…… 212
②石器…… 215
(4) B地点の遺物の分布状況及び小結…… 265
3．中世 (1) 遺 構…… 271
Ⅶ. 落ち込み・ドーナツ状土壙について…… 273
Ⅷ. まとめ…… 281
1．鷹野遺跡の成果と問題…… 281
(1) 先土器時代…… 281
(2) 縄文時代 ①検出遺構について…… 282
②出土遺物について…… 283
2．西大川沿いの遺跡群について…… 296
(1) 先土器時代…… 296
(2) 縄文時代…… 297
Ⅸ. 科学分析による古環境復元…… 371
1．長崎県鷹野遺跡試料花粉分析報告…… 371
2．鷹野遺跡並に西輪久道遺跡の熱ルミネッセンス年代…… 377
3．鷹野遺跡より出土した炭化物の樹種について…… 379
4．鷹野遺跡より出土した炭化物の種子について…… 385
5．C^{14}年代測定結果報告書 …… 387
Ⅹ. 遺構の保存処理…… 388
1．遺構の写真測量及び遺構の切り取り…… 388

挿図目次

Fig. 1　位置図
Fig. 2　諫早中核工業団地関係遺跡及び試掘壙…… 2
Fig. 3　周辺地質図…… 6
Fig. 4　遺跡周辺の地形連続断面図…… 7
Fig. 5　周辺の標高帯別遺跡分布と高度頻度曲線…… 8
Fig. 6　周辺の遺跡…… 11
Fig. 7　調査区及び遺跡周辺地形図…… 14
Fig. 8　鷹野遺跡Ｂ地点層位図…… 16
Fig. 9　鷹野遺跡Ａ地点層位図……17・18
Fig. 10　集石遺構(1／30) …… 19
Fig. 11　先土器時代・第Ⅲ層出土石器①…… 23
Fig. 12　先土器時代・第Ⅲ層出土石器②…… 24
Fig. 13　先土器時代・第Ⅲ層出土石器③…… 25
Fig. 14　先土器時代・第Ⅲ層出土石器④…… 26
Fig. 15　先土器時代・第Ⅲ層出土石器⑤…… 27
Fig. 16　先土器時代・第Ⅲ層出土石器⑥…… 28
Fig. 17　先土器時代・第Ⅲ層出土石器⑦…… 29
Fig. 18　先土器時代・第Ⅲ層出土石器⑧…… 30
Fig. 19　先土器時代・第Ⅲ層出土石器⑨…… 31
Fig. 20　先土器時代・出土石器⑩…… 33
Fig. 21　先土器時代・出土石器⑪…… 34
Fig. 22　先土器時代・出土石器⑫…… 35
Fig. 23　先土器時代・出土石器⑬…… 36
Fig. 24　先土器時代・出土石器⑭…… 37
Fig. 25　先土器時代・出土石器⑮…… 39
Fig. 26　先土器時代・出土石器⑯…… 40
Fig. 27　先土器時代・出土石器⑰…… 42
Fig. 28　先土器時代・出土石器⑱…… 43
Fig. 29　先土器時代・出土石器⑲…… 44
Fig. 30　先土器時代・出土石器⑳…… 45
Fig. 31　先土器時代・Ｂ～Ｈ-2～11区遺物分布図(1) (1/200) ……63・64

Fig. 32 細石器の利用石材別分布図(2)（1/200）……65・66
Fig. 33 細石刃の部位別・石材別における数量…… 67
Fig. 34 細石刃計測表…… 68
Fig. 35 器種別・層位別出土一覧表…… 71
Fig. 36 先土器時代石器計測表①…… 72
Fig. 37 先土器時代石器計測表②…… 73
Fig. 38 鷹野遺跡Ａ地点遺構配置図…… 76
Fig. 39 １号竪穴状遺構内遺物出土状況…… 77
Fig. 40 １号竪穴状遺構（1/40）…… 78
Fig. 41 １号竪穴状遺構（台石）…… 79
Fig. 42 ２号竪穴状遺構（1/80）…… 79
Fig. 43 ３号竪穴状遺構内遺物出土状況…… 80
Fig. 44 ３号竪穴状遺構（1/40）…… 81
Fig. 45 ４号竪穴状遺構（1/80）……83・84
Fig. 46 集石遺構①（1/30）…… 86
Fig. 47 集石遺構②（1/30）…… 87
Fig. 48 集石遺構③（1/30）…… 88
Fig. 49 集石遺構④（1/30）…… 90
Fig. 50 集石遺構⑤（1/30）…… 91
Fig. 51 集石遺構⑥（1/30）…… 92
Fig. 52 集石遺構⑦（1/30）…… 93
Fig. 53 炉穴遺構①（1/30）…… 96
Fig. 54 炉穴遺構②（1/30）…… 97
Fig. 55 炉穴遺構③（1/30）…… 99
Fig. 56 １号礫群（1/30）…… 101
Fig. 57 ２・３号礫群（1/40）…… 102
Fig. 58 礫群・不明土壙（1/30）…… 103
Fig. 59 不明土壙（1/40）…… 105
Fig. 60 不明土壙（1/40）…… 106
Fig. 61 縄文時代の土器（1/2）…… 109
Fig. 62 各地区出土石鏃…… 110
Fig. 63 縄文時代の石器―石鏃①（2/3）…… 112
Fig. 64 縄文時代の石器―石鏃②（2/3）…… 113
Fig. 65 縄文時代の石器―石鏃③（2/3）…… 114

Fig. 66 縄文時代の石器—石鏃④（2/3） …… 115
Fig. 67 縄文時代の石器—石鏃⑤（2/3） …… 116
Fig. 68 縄文時代の石器—石鏃⑥（2/3） …… 117
Fig. 69 縄文時代の石器—石鏃⑦（2/3） …… 118
Fig. 70 縄文時代の石器—石鏃⑧（2/3） …… 119
Fig. 71 縄文時代の石器—石鏃⑨（2/3） …… 120
Fig. 72 縄文時代の石器—石鏃⑩（2/3） …… 121
Fig. 73 縄文時代の石器—石鏃⑪（2/3） …… 122
Fig. 74 石鏃石材別依存度…… 122
Fig. 75 石鏃長幅比…… 123
Fig. 76 石鏃抉り長幅比…… 123
Fig. 77 縄文時代の石器—石匙①（2/3） …… 137
Fig. 78 縄文時代の石器—石匙②（2/3） …… 138
Fig. 79 各地区出土石匙…… 139
Fig. 80 各地区出土スクレイパー…… 139
Fig. 81 縄文時代の石器—スクレイパー①（2/3） …… 140
Fig. 82 縄文時代の石器—スクレイパー②（2/3） …… 141
Fig. 83 縄文時代の石器—スクレイパー③（2/3） …… 142
Fig. 84 縄文時代の石器—スクレイパー④（2/3） …… 143
Fig. 85 縄文時代の石器—スクレイパー⑤（2/3） …… 144
Fig. 86 縄文時代の石器—スクレイパー⑥（2/3） …… 145
Fig. 87 各地区出土加工痕ある石器…… 149
Fig. 88 各地区出土使用痕ある剝片…… 149
Fig. 89 縄文時代の石器—加工痕ある石器（2/3） …… 150
Fig. 90 縄文時代の石器—使用痕ある剝片①（2/3） …… 151
Fig. 91 縄文時代の石器—使用痕ある剝片②（2/3） …… 152
Fig. 92 縄文時代の石器—使用痕ある剝片③（2/3） …… 153
Fig. 93 縄文時代の石器—石槍（2/3） …… 156
Fig. 94 各地区出土石槍…… 157
Fig. 95 各地区出土彫器…… 157
Fig. 96 縄文時代の石器—彫器（2/3） …… 157
Fig. 97 縄文時代の石器—楔形石器（2/3） …… 158
Fig. 98 各地区出土楔形石器…… 159
Fig. 99 各地区出土石斧…… 159

Fig.100 縄文時代の石器—石斧（2/3） …… 160
Fig.101 各地区出土磨石・敲石…… 161
Fig.102 各地区出土凹石・砥石…… 161
Fig.103 縄文時代の石器—磨石・敲石①（1/3） …… 162
Fig.104 縄文時代の石器—敲石②（1/3） …… 163
Fig.105 縄文時代の石器—敲石・凹石・砥石③（1/3） …… 164
Fig.106 縄文時代の石器—剝片①（2/3） …… 167
Fig.107 縄文時代の石器—剝片②（2/3） …… 168
Fig.108 縄文時代の石器—剝片③（2/3） …… 169
Fig.109 縄文時代の石器—石核①（2/3） …… 170
Fig.110 縄文時代の石器—石核②（2/3） …… 171
Fig.111 第II層—土器出土分布図……175・176
Fig.112 第II層—石器出土分布図 ……177・178
Fig.113 列石群…… 180
Fig.114 集石土壙…… 181
Fig.115 中・近世の遺物（1/2） …… 182
Fig.116 先土器時代・出土石器①…… 184
Fig.117 先土器時代・出土石器②…… 185
Fig.118 先土器時代・出土石器③…… 186
Fig.119 鷹野遺跡B地点遺構配置図…… 190
Fig.120 5・6号竪穴状遺構（1/80） …… 191
Fig.121 集石遺構①（1/30） …… 192
Fig.122 集石遺構②（1/30） …… 193
Fig.123 集石遺構③（1/30） …… 194
Fig.124 集石遺構④（1/30） …… 195
Fig.125 集石遺構⑤（1/30） …… 196
Fig.126 炉穴遺構①（1/30） …… 199
Fig.127 炉穴遺構②（1/30） …… 200
Fig.128 炉穴遺構③（1/30） …… 202
Fig.129 炉穴遺構④（1/30） …… 204
Fig.130 石蓋土壙（1/30） …… 206
Fig.131 1号礫群（1/40） …… 206
Fig.132 集石・炉穴遺構群と2号礫群（1/80） ……207・208
Fig.133 3号礫群・不明土壙（1/30） …… 209

Fig.134 不明土壙（1/40）…… 210
Fig.135 縄文時代の土器（1/2）…… 213
Fig.136 各地区出土石鏃…… 215
Fig.137 縄文時代の石器—石鏃①（2/3）…… 216
Fig.138 縄文時代の石器—石鏃②（2/3）…… 217
Fig.139 縄文時代の石器—石鏃③（2/3）…… 218
Fig.140 縄文時代の石器—石鏃④（2/3）…… 219
Fig.141 縄文時代の石器—石鏃⑤（2/3）…… 220
Fig.142 縄文時代の石器—石鏃⑥（2/3）…… 221
Fig.143 縄文時代の石器—石鏃⑦（2/3）…… 222
Fig.144 縄文時代の石器—石鏃⑧（2/3）…… 223
Fig.145 縄文時代の石器—石鏃⑨（2/3）…… 224
Fig.146 縄文時代の石器—石鏃⑩（2/3）…… 225
Fig.147 石鏃石材別依存度…… 225
Fig.148 石鏃長幅比…… 226
Fig.149 石鏃抉り長幅比…… 226
Fig.150 各地区出土スクレイパー…… 239
Fig.151 縄文時代の石器—スクレイパー①（2/3）…… 240
Fig.152 縄文時代の石器—スクレイパー②（2/3）…… 241
Fig.153 各地区出土加工痕ある石器…… 243
Fig.154 各地区出土使用痕ある剝片…… 243
Fig.155 縄文時代の石器—加工痕ある石器
使用痕ある剝片①（2/3）…… 244
Fig.156 使用痕ある剝片②（2/3）…… 245
Fig.157 使用痕ある剝片③（2/3）…… 246
Fig.158 縄文時代の石器—石槍（2/3）…… 249
Fig.159 各地区出土石槍…… 250
Fig.160 各地区出土彫器…… 250
Fig.161 縄文時代の石器—彫器（2/3）…… 250
Fig.162 縄文時代の石器—楔形石器①（2/3）…… 251
Fig.163 縄文時代の石器—楔形石器②（2/3）…… 252
Fig.164 各地区出土楔形石器…… 253
Fig.165 各地区出土磨石・敲石・凹石・砥石・石皿…… 253
Fig.166 縄文時代の石器—磨石・敲石・凹石①（1/3）…… 254

Fig.167 縄文時代の石器—凹石・砥石・石皿②（1/3） …… 255
Fig.168 縄文時代の石器—剝片①（2/3） …… 258
Fig.169 縄文時代の石器—剝片②（2/3） …… 259
Fig.170 縄文時代の石器—石核①（2/3） …… 261
Fig.171 縄文時代の石器—石核②（2/3） …… 262
Fig.172 縄文時代の石器—石核③（2/3） …… 263
Fig.173 第II層—土器出土分布図…… 266
Fig.174 第II層—石器出土分布図…… 267
Fig.175 第III層—土器出土分布図…… 268
Fig.176 第III層—石器出土分布図…… 269
Fig.177 不明土壙（1/30） …… 271
Fig.178 落ち込み・ドーナツ状土壙配置図…… 272
Fig.179 落ち込み・ドーナツ状土壙①（1/60） …… 275
Fig.180 ドーナツ状土壙②（1/60） …… 276
Fig.181 ドーナツ状土壙③（1/60） …… 277
Fig.182 集石遺構模式図…… 282
Fig.183 炉穴遺構模式図…… 282
Fig.184 A・B地点石鏃長さ対比グラフ…… 285
Fig.185 A・B地点石鏃幅対比ブラフ…… 285
Fig.186 A・B地点石鏃厚さ対比グラフ…… 285
Fig.187 A・B地点石鏃抉り幅対比グラフ…… 286
Fig.188 A・B地点石鏃抉り深度対比グラフ…… 286
Fig.189 A・B地点石鏃重量対比グラフ（完形品のみ） …… 286
Fig.190 A・B地点石鏃先端角度対比グラフ…… 287
Fig.191 A・B地点石鏃平均形…… 287
Fig.192 各遺跡出土石鏃の石材別依存度…… 288
Fig.193 各遺跡位置図…… 288
Fig.194 各遺跡出土石鏃の長幅比…… 289
Fig.195 石鏃未製品（2/3） …… 291
Fig.196 熱発光曲線…… 377
Fig.197 1号竪穴状遺構写真測量成果資料（1/40） …… 388

表　目　次

Tab. 1　諫早中核工業団地関係試掘調査遺跡…… 3
Tab. 2　諫早中核工業団地関係遺跡一覧表…… 4
Tab. 3　周辺遺跡地名表…… 10
Tab. 4　先土器時代の石器計測表……47～61
Tab. 5　先土器時代出土石器石材別・層位別一覧表…… 74
Tab. 6　集石遺構一覧表…… 85
Tab. 7　炉穴遺構一覧表…… 95
Tab. 8　土器一覧表（A地点）…… 108
Tab. 9　石鏃破損部位別一覧表…… 110
Tab. 10　石鏃計測表……124～134
Tab. 11　石匙計測表…… 138
Tab. 12　スクレイパー計測表……146・147
Tab. 13　加工痕ある石器・使用痕ある剝片一覧表……154・155
Tab. 14　石槍計測表…… 156
Tab. 15　彫器計測表…… 158
Tab. 16　楔形石器計測表…… 159
Tab. 17　石斧計測表…… 160
Tab. 18　磨石・敲石・凹石・砥石計測表…… 165
Tab. 19　剝片・石核一覧表…… 172
Tab. 20　先土器時代の石器計測表……187・188
Tab. 21　集石遺構一覧表…… 197
Tab. 22　炉穴遺構一覧表…… 198
Tab. 23　土器一覧表（B地点）…… 214
Tab. 24　石鏃破損部位別一覧表…… 215
Tab. 25　石鏃計測表……227～237
Tab. 26　スクレイパー計測表…… 242
Tab. 27　加工痕ある石器・使用痕ある剝片計測表……246・247
Tab. 28　石槍計測表…… 248
Tab. 29　楔形石器計測表…… 252
Tab. 30　磨石・敲石・凹石・砥石・石皿計測表…… 256
Tab. 31　剝片・石核一覧表……263・264

Tab. 32　落ち込み一覧表…… 278
Tab. 33　ドーナツ状土壙一覧表……279・280
Tab. 34　鷹野遺跡試料表…… 371
Tab. 35　鷹野遺跡試料花粉分析結果…… 375
Tab. 36　鷹野遺跡並に西輪久道遺跡の熱ルミネッセンス年代…… 378
Tab. 37　鷹野遺跡出土炭化物樹種鑑定結果一覧表…… 381
Tab. 38　C^{14}年代測定結果報告書 …… 387

図版目次

PL. 1　調査前の遺跡周辺航空写真…… 303
PL. 2　鷹野遺跡遠景，試掘調査，調査風景，壁面写真…… 304
PL. 3　C－8区壁面写真・先土器時代の集石遺構…… 305
PL. 4　1・2号竪穴状遺構…… 306
PL. 5　1～4号竪穴状遺構…… 307
PL. 6　1・2号，4～6号，8・9号集石遺構…… 308
PL. 7　2・3号集石遺構…… 309
PL. 8　10～16号集石遺構，1～3・6号炉穴遺構…… 310
PL. 9　7・8・15号炉穴遺構…… 311
PL. 10　1・2号礫群，2・3・5～7号不明土壙
近世の列石群・集石土壙…… 312
PL. 11　先土器時代・出土石器①（1/1） …… 313
PL. 12　先土器時代・出土石器②（1/1） …… 314
PL. 13　先土器時代・出土石器③（1/1） …… 315
PL. 14　先土器時代・出土石器④（1/1） …… 316
PL. 15　先土器時代・出土石器⑤（1/1） …… 317
PL. 16　先土器時代・出土石器⑥（1/1） …… 318
PL. 17　先土器時代・出土石器⑦（1/1） …… 319
PL. 18　先土器時代・出土石器⑧（1/1） …… 320
PL. 19　先土器時代・出土石器⑨（1/1） …… 321
PL. 20　先土器時代・出土石器⑩（1/1） …… 322
PL. 21　先土器時代・出土石器⑪（1/1） …… 323
PL. 22　先土器時代・出土石器⑫（1/1） …… 324

PL. 23　縄文時代の土器（1/2）…… 325
PL. 24　縄文時代の石器―石鏃①（1/1）…… 326
PL. 25　縄文時代の石器―石鏃②（1/1）…… 327
PL. 26　縄文時代の石器―石鏃③（1/1）…… 328
PL. 27　縄文時代の石器―石鏃④（1/1）…… 329
PL. 28　縄文時代の石器―石鏃⑤（1/1）…… 330
PL. 29　縄文時代の石器―石鏃⑥（1/1）…… 331
PL. 30　縄文時代の石器―石鏃⑦（1/1）…… 332
PL. 31　縄文時代の石器―石鏃⑧（1/1）…… 333
PL. 32　縄文時代の石器―石鏃⑨（1/1）…… 334
PL. 33　縄文時代の石器―石鏃⑩（1/1）…… 335
PL. 34　縄文時代の石器―石鏃⑪（1/1）…… 336
PL. 35　縄文時代の石器―石匙・スクレイパー①（1/2）…… 337
PL. 36　縄文時代の石器―スクレイパー②
　　使用痕ある剝片①（1/2）・加工痕ある石器…… 338
PL. 37　縄文時代の石器―使用痕ある剝片②・石槍・彫器・
　　楔形石器・石斧（1/2），砥石①（1/12）…… 339
PL. 38　縄文時代の石器―磨石・敲石①（1/3）…… 340
PL. 39　縄文時代の石器―敲石・凹石・砥石②(1/3，1/6)…… 341
PL. 40　縄文時代の石器―剝片・石核（1/2）…… 342
PL. 41　先土器時代・出土石器①（1/1）…… 343
PL. 42　先土器時代・出土石器②（1/1）…… 344
PL. 43　縄文時代の土器（1/2）…… 345
PL. 44　縄文時代の石器―石鏃①（1/1）…… 346
PL. 45　縄文時代の石器―石鏃②（1/1）…… 347
PL. 46　縄文時代の石器―石鏃③（1/1）…… 348
PL. 47　縄文時代の石器―石鏃④（1/1）…… 349
PL. 48　縄文時代の石器―石鏃⑤（1/1）…… 350
PL. 49　縄文時代の石器―石鏃⑥（1/1）…… 351
PL. 50　縄文時代の石器―石鏃⑦（1/1）…… 352
PL. 51　縄文時代の石器―石鏃⑧（1/1）…… 353
PL. 52　縄文時代の石器―石鏃⑨（1/1）…… 354
PL. 53　縄文時代の石器―石鏃⑩（1/1）…… 355
PL. 54　縄文時代の石器―スクレイパー・加工痕ある石器・

使用痕ある剝片（1/2） …… 356
PL. 55　縄文時代の石器―石槍（1/1） …… 357
PL. 56　縄文時代の石器―楔形石器・彫器（1/1） …… 358
PL. 57　縄文時代の石器―磨石・敲石・凹石・砥石・石皿(1/6) … 359
PL. 58　縄文時代の石器―剝片・石核（1/2） …… 360
PL. 59　壁面写真・遺構検出状況…… 361
PL. 60　5・6号竪穴状遺構，18・19・21・23・24号集石遺構 … 362
PL. 61　7・20号集石遺構…… 363
PL. 62　17号集石遺構…… 364
PL. 63　22号集石遺構…… 365
PL. 64　11・12・14・16～19号炉穴遺構…… 366
PL. 65　10・22・23・25～27・29・30号炉穴遺構…… 367
PL. 66　石蓋土壙・1号礫群・1～3号不明土壙・
　　中世の不明土壙 …… 368
PL. 67　調査風景・遺構調査…… 369
PL. 68　ドーナツ状土壙…… 370
PL. I　花粉・胞子化石名・状況写真…… 376
PL. II　樹種同定写真…… 383
PL. III　遺構の切り取り作業①…… 389
PL. IV　遺構の切り取り作業②…… 390
PL. V　遺構の切り取り作業③・空中写真測量…… 391
PL. VI　実験考古学…… 392

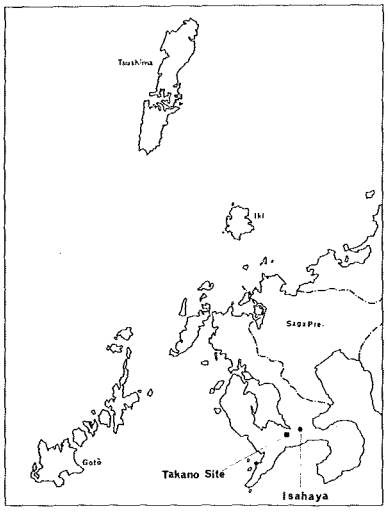


Fig. 1　位置図

Ⅰ．調査に至るまで

諫早市の西部地区である貝津，久山町に諫早市による内陸工業団地造成が計画され，昭和49年５月27日に諫早市長より予定地域内の埋蔵文化財についての調査の依頼を受けた。長崎県教育委員会（以下，県教委とする。）は昭和49年６月14日～同年６月15日までの２日間，計画区域内の現地踏査を実施し，３箇所の遺跡を確認した。

その後，昭和50年に「県央新都市開発整備構想」が策定され，種々の計画の中で内陸工業団地計画も諫早中核工業団地として構想を新たにし，同年２月に長崎県知事，諫早市長の要請を受けた地域振興整備公団（以下，地域公団とする。）によって，工業再配置政策推進の一環として，長崎県とくに「県央新都市」開発整備の展開される県央部の適正な発展，地域形成を図る中核的な機能を果すように計画策定されたのが，諫早中核工業団地造成計画で，同時に事業主体が諫早市，諫早市土地開発公社から地域公団に移管された。

当該団地の計画面積は約230haで，工業用地は，約109haにおよぶ大規模な工業団地の造成計画であった。

昭和50年２月以降，県教委は地域公団と造成予定地内の埋蔵文化財の取扱いについて協議を重ね，地域公団の要請を受けて，昭和50年12月４日～同年12月20日までの17日間にわたり，現地踏査で確認した３箇所と試掘調査時に発見した１箇所を含む４遺跡についての試掘調査を実施した。（調査結果についてはⅡ，およびTab.1を参照）

県教委は調査結果に基づいて，地域公団と協議を重ね，４箇所の遺跡のうち，長牟田遺跡については緑地公園として現状のまま残すことになり，他の遺跡については記録保存処置を行うことになった。

また，諫早中核工業団地造成に伴う発掘調査については，調査の事業主体は地域振興整備公団諫早開発所で，調査の指導を長崎県教育委員会が行うことで，昭和53年４月より昭和57年１月まで発掘調査を実施した。

註１　長崎県教育委員会，地域振興整備公団　1981　「西輪久道遺跡・鷹野遺跡」諫早中核工業団地関係埋蔵文化財発掘調査

II. 調査経過

1. 試掘調査

昭和50年12月4日～同年12月20日までの17日間，現地踏査で確認した遺跡の調査を実施した。

現状は畑地，果樹園と大部分は山林で，踏査の際に多量の遺物を採集した遺跡である。標高約30m～37m程の丘陵上にA～Dトレンチを4箇所設定した。（A～Cトレンチは2m×2mの計28m²。）

各トレンチ共に遺物の出土量が多く，Cトレンチで縄文時代早期の炉址[註1]を1基検山した。遺物は縄文時代早期の土器，石器類が第II層赤褐色粘質土より出土した。調査結果より遺跡の範囲は更に西側へ拡がることが予察された。

併せて，西輪久道，平，長牟田遺跡の試掘調査も実施した。（Tab.1を参照）

以上の調査結果を踏まえて協議を行い，記録保存することになった。

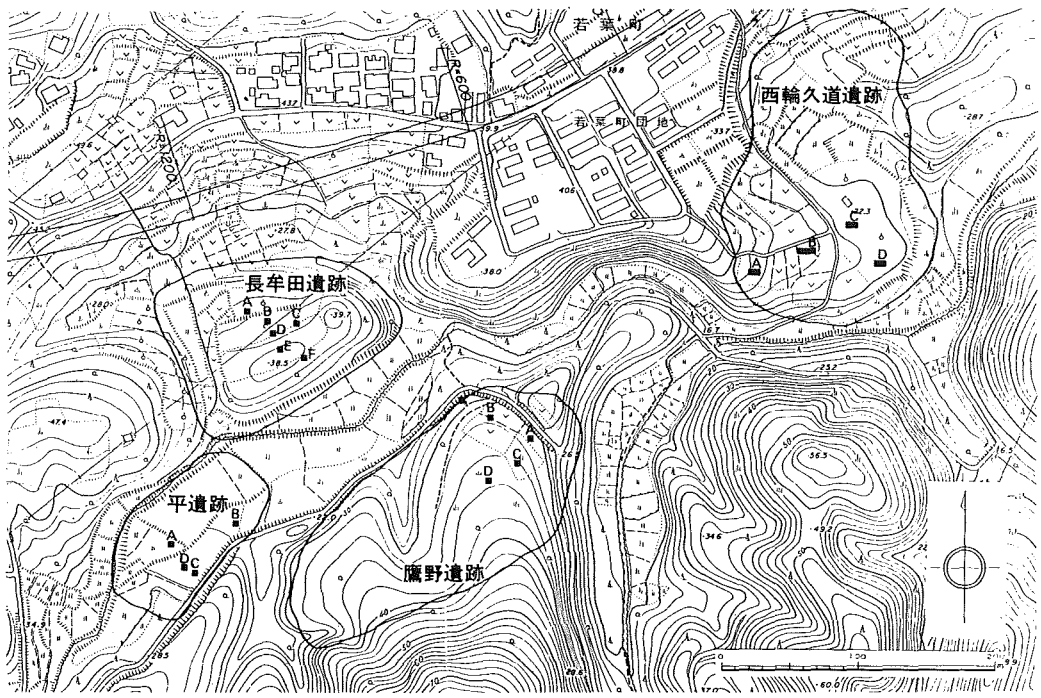


Fig. 2　諫早中核工業団地関係遺跡及び試掘壙

2．本調査

発掘調査は西輪久道，鷹野，平遺跡の順序で昭和53年４月24日から西輪久道遺跡の調査を実施し，終了後鷹野遺跡の調査を行った。

調査は昭和54年６月～７月に遺跡の南側丘陵部分の山頂部を削平して九州横断自動車道建設工事が進み，当該工業団地の境界部分について併行して削平工事を行いたいとの要望が地域公団よりあり，一時西輪久道遺跡の調査を中断し，工事区域部分の調査を先に実施した。

西輪久道遺跡の調査終了に伴い，同年11月より本格的に調査を実施した。調査はＡ地点の南側から北側の丘陵先端へと進めて行った。(発掘調査終了時まで，鷹野遺跡東側丘陵部，西側丘陵部という呼称を用いてきたが，本報告書より，Ａ地点，Ｂ地点という呼びかたに変更する。)

Ａ地点は先土器時代のナイフ形石器，細石器を主体とする石器群，縄文時代早期～前期初頭にかけての集落址，近世の列石群等を検出した。

また，雑木林に覆われた西側丘陵部の一部について，削平工事が行われた際に縄文土器片数点が発見され，新たにＢ地点（西側丘陵部）の伐採，および発掘調査をＡ地点の調査終了後に実施した。

このＢ地点では縄文時代早期の遺構群を検出した。

調査は昭和56年６月まで実施し終了した。(その後，遺構の実測，および補完調査を平遺跡の調査と併行して行った。)

この間，昭和56年５月に鷹野遺跡の１号竪穴状遺構の地上写真測量を実施した。

同年５月に２号・20号集石，11号炉穴遺構の炉址３基を理化学的保存処置後に遺構部分を切り取る作業を，奈良国立文化財研究所の遺物処理

Tab. 1　諫早中核工業団地関係試掘調査遺跡

番号	遺跡名	所在地	確認した分布面積㎡	試掘面積㎡	時期・内容
1	西輪久道遺跡	諫早市貝津町字西輪久道	8.000	88	先土器～縄文時代の包蔵地。ナイフ形石器、剥片、土器片。
2	鷹野遺跡	〃 貝津町字鷹野	10.000	28	縄文時代の集落跡。炉址、土器片(縄文早期)
3	長牟田遺跡	〃 若葉町字長牟田	25.000	24	先土器～縄文時代の包蔵地。中世の山城。複合遺跡。
4	平遺跡	〃 貝津町字平	7.000	16	縄文時代の包蔵地。
計			45.000	156	

研究室長沢田正昭，秋山隆保技官の現地指導を受けて実施した。(現在諫早市郷土館に展示中。)

発掘調査は昭和53年4月～昭和56年1月まで実施し，本報告書（第III集）の刊行をもって，中核団地関係の発掘調査事業は全て終了しました。

この間，文化庁水野正好調査官，別府大学賀川光夫教授，橘　昌信助教授，奈良教育大学市川米太教授の現地指導をいただきました。

地域振興整備公団諫早開発所，諫早市教育委員会，県内外の皆様と発掘調査に従事していただいた市内の調査補助員の方々に感謝いたします。

Tab. 2　諫早中核工業団地関係遺跡一覧表

調査年度	遺跡名	分布面積 m²	調査面積 m²	調査期間	調査担当者	調査員
昭和53年度	西輪久道遺跡	8.000	3.375	S53.4.24～S54.2.9	副島	稲富 中村
昭和54年度	西輪久道遺跡	(8.000)	1.525	S54.4.9～S54.11.1	副島	中村 中田
	鷹野遺跡	10.000	1.785	S54.11.1～S55.1.30	副島	中村 中田
昭和55年度	鷹野遺跡	(10.000)	3.625	S55.4.8～S56.1.30	副島	中村 中田
	平遺跡	7.000	23	S56.1.20～S56.1.30	副島	中村 中田
昭和56年度	鷹野遺跡	(10.000)	500	S56.4.7～S56.5.30	副島	中村 中田
	平遺跡	(7.000)	2.800	S56.6.1～S57.1.20	副島	中村 中田
昭和57年度	平遺跡 長牟田遺跡	報告書作成		S57.4.1～S58.2.28	副島	片山
昭和58年度	西輪久道遺跡 鷹野遺跡	整理作業		S58.4.1～S59.3.31	副島	伴
昭和59年度	西輪久道遺跡	報告書作成		S59.4.1～S60.3.31	副島	伴
	鷹野遺跡	整理作業				
昭和60年度	鷹野遺跡	報告書作成		S60.4.1～S61.3.31	副島	伴

III. 遺跡の地理的歴史的環境

1. 地理的環境

鷹野遺跡は，大村湾（津水湾）の最奥部南岸の丘陵地帯にあり，西大川に沿った標高24～37mの北向き緩斜面上に立地する。行政上は諫早市津久葉町（旧貝津町）に所在しており，北緯32度49分17秒，東経130度00分27秒に位置する。

遺跡の所在する諫早市は，肥前半島から長崎・西彼杵半島と島原半島とが分岐する地峡部にあり，鉄道・主要国道が交叉する交通の要衝となっている。人口88,374は，長崎・佐世保に次いで長崎県内第三位であり，県内市町村中最も人口増加が著しい[註1]。面積は146.8㎢である。東に有明海，西に大村湾，南に橘湾（千々石湾）と三方を海で囲まれ，北には秀峰多良がそびえている。多良山系から流下する本明川沿いに市街中心地があり，本明川のもたらす土砂は遠浅の有明海へ干拓地を拡げ，諫早平野という県内最大の穀倉地帯をつくっている。昭和40年代後半からは，長崎市の人口膨張と工業再配置策によって住宅団地や工業団地が造成され，人口も急増するとともに都市機能も拡充し，県央の中核都市としての面目をますます高めている。

津久葉町は諫早市の西端にあり，西隣の西彼杵郡多良見町と接する地にある。以前からの貝津，久山，若葉の三町から一文字づつをもらってつくられた新しい町である。工業団地の進出や長崎自動車道の建設によって，にわかに変貌をとげた地域である。

周辺の地形は大きく山地，丘陵と平地に分類できる。山地は，遺跡の南方背後にそびえる井樋ノ尾岳（406.8m），八天岳（296.7m）などの溶岩円頂丘（トロイデ）群で，喜々津一矢上と東大川一江浦川の2つの線にはさまれた地域の南半部に当る。これらは山陰系火山活動による安山岩類からなり，長崎火山の中央部をなしている[註2]。

丘陵は，諫早炭田[註3]を挟む古第三紀の砂岩を中心とした堆積岩による地形で，碁盤ノ辻（270m）や高岳（137.9m）など南に高く，北へ高度を逓減して，遺跡近くでは50m内外の低い丘陵となっている。碁盤ノ辻，高岳や城山は頂部に玄武岩をのせ，一層平頂をつくっている。丘陵は，北西一南東方向とそれに直交する北東一南西方向との断層起源と思われ

る侵食谷が顕著で，小さく分断されている。西大川・久山川・東大川の丘陵内を流れる河系模様も，斜格子状に近くなっている。

大村湾南岸に開けた平地は，国道34号線や国鉄長崎本線も走る生活の主要舞台で，氾濫原や海岸平野に加え，一段高く海岸段丘地形も見られる。しかし有明海側に比して低平地の発達は弱く，大村湾の南奥部（津水湾）では，—10mの等深線が沿岸まで迫っている。

西大川は碁盤ノ辻北麓に源を発し，東北流して鷹野遺跡近くで小支流を加え，その後北流して大村湾に注いでいる。国土地理院発行の地形図上では，約3.3km程の長さがあり，幅狭い谷底平野をつくっている。谷頭部での勾配は大きいが，中下流は比較的なだらかで，大きな遷移点もない。

鷹野遺跡は，碁盤ノ辻から北へのびた丘陵のひとつが西大川の谷底平野に到達する所にあり，遺跡の中心部は現河床から比高15mを測る。大村湾岸から直線距離で約1.4km，西大川に沿って約2.5km奥に在る。現在は高速自動車道や工業団地造成による削平のため，地形の旧状をとどめないが，以前は古第三紀層からなる老年期性の丘陵が展開し，標高80mの小独立丘陵の北緩斜面の先端に遺跡は占地し，前面に西大川のつくった幅約80mの氾濫原がみられた。

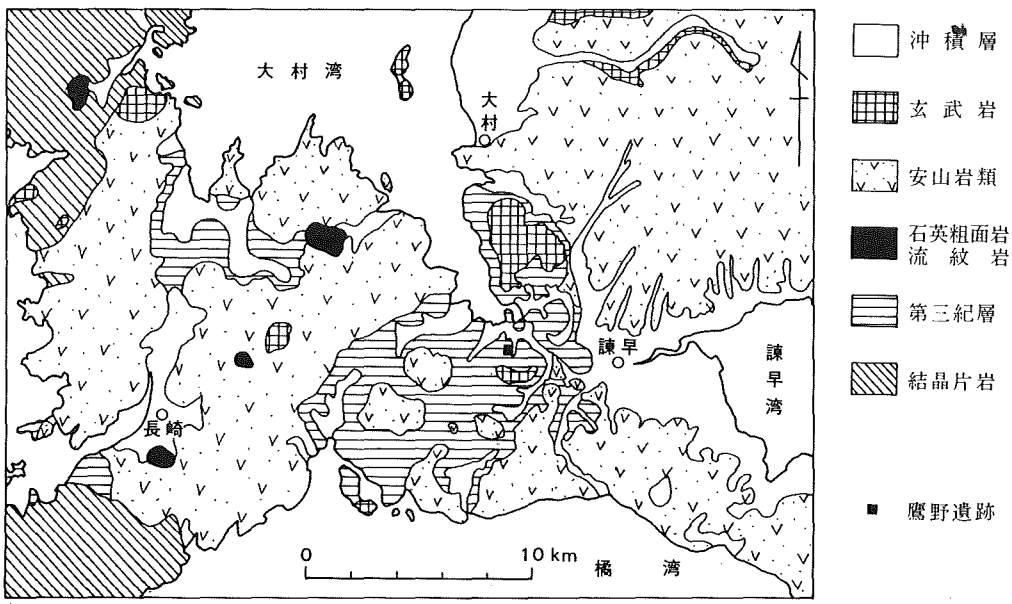


Fig. 3 周辺地質図

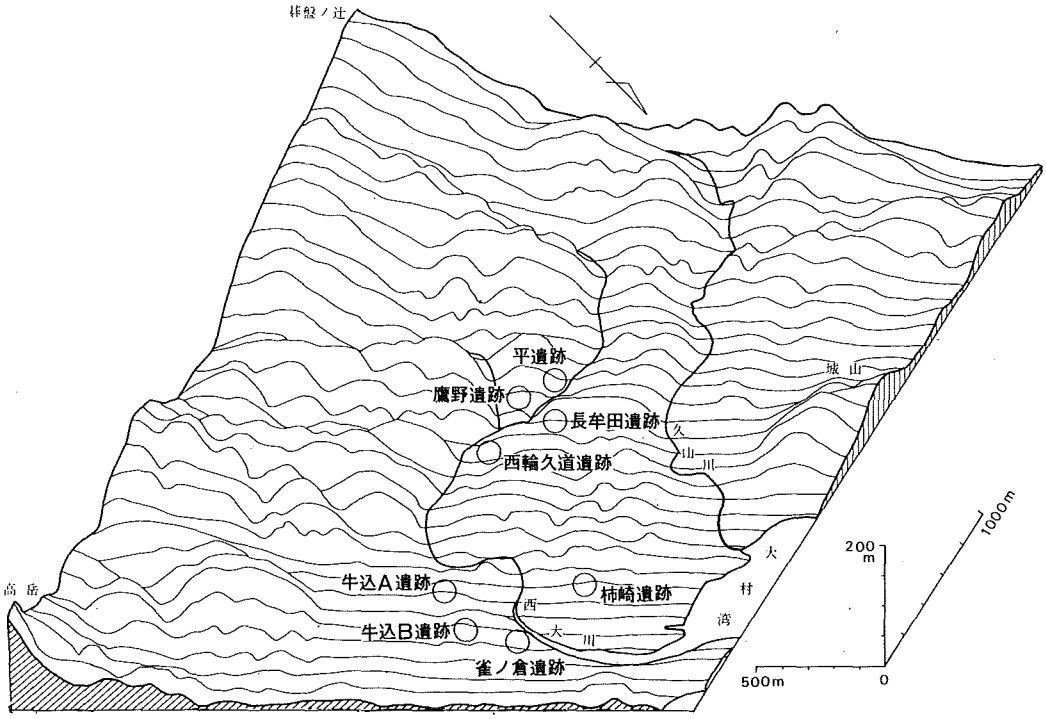


Fig. 4　遺跡周辺の地形連続断面図

Fig. 5は鷹野遺跡を中心とした半径10kmの範囲[註4]の遺跡を時代別，標高帯別にグラフに示したものである。先土器時代44，縄文時代127，弥生時代50の計221遺跡[註5]が所在し，調査の疎密など考慮しなければならない点も多いが，立地の全体的傾向を示していると思われる。このグラフに同地域内の地形の高度頻度曲線を重ね，標高帯ごとの遺跡分布と面積との比率を比較してみた。地形の高度頻度の特色は，諫早干拓地を反映して，標高20m未満の面積が最も広く(17.0%)，高度を増すにつれ比率は下っている。第三紀層の丘陵地形や多良山系の山麓端に相当する40～160mが，地域内の面積の半分近い47.7%も占めている。遺跡の分布比率では，40m未満が49.3%と多く，60m未満まで加えると60.2%まで増え，全体として平野面や丘陵端に立地している遺跡が多いことが知れる。島原半島同様，200m前後にも小さなピークを見せている。これに対して100m近くは，地形の面積に比して遺跡分布が少ない。ここは丘陵の尾根筋や沖積平野との比高差のある山麓に当り，遺跡の立地が途切れることがわかる。

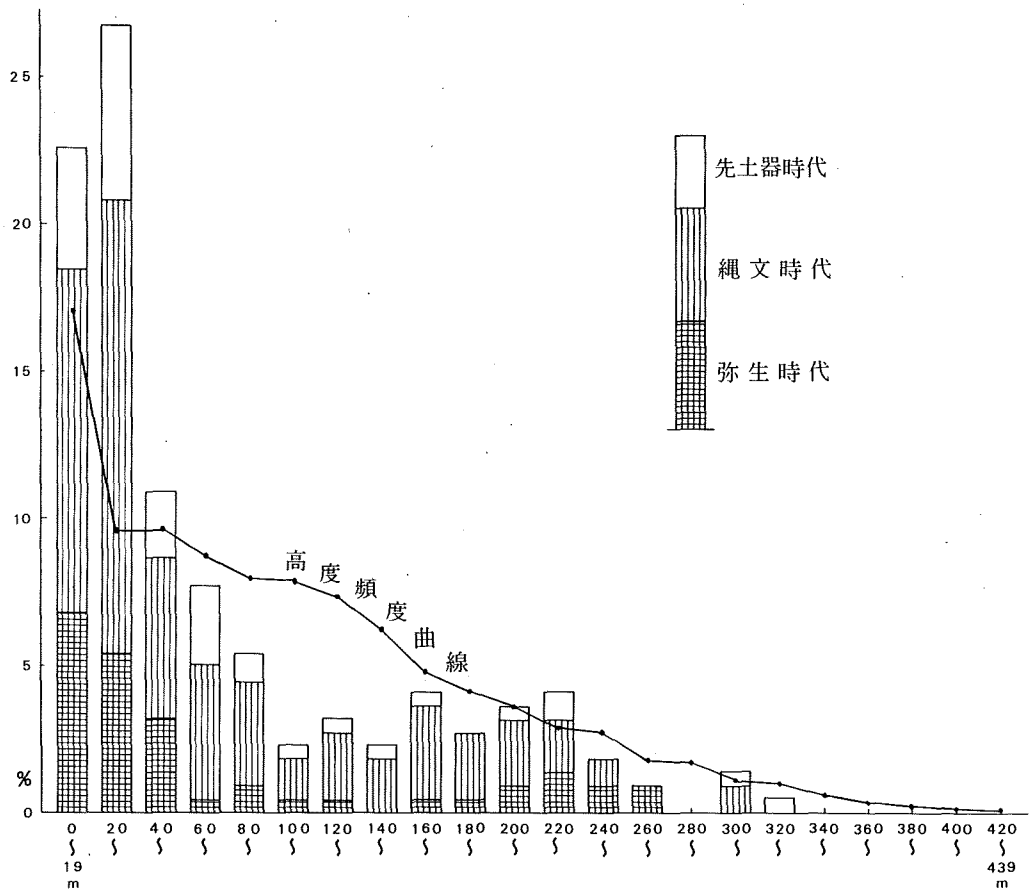


Fig. 5　周辺の標高帯別遺跡分布と高度頻度曲線

西大川流域には，鷹野遺跡を初め[註6]平，西輪久[註7]道，牛込A・B[註8]，雀ノ倉[註9]浜田[註9]，柿崎[註9]，東大久保[註10]など多くの遺跡が立地し，しかも先土器時代から縄文時代へ至る複合遺跡がほとんどである。平・浜田遺跡は沖積地に立地しているが，他は丘陵や段丘の先端にあり，西大川の氾濫原に面して比高の小さい遺跡ばかりで，共通性が多い。また鷹野・西輪久道や牛込などは，浅い谷や凹地状の地形を遺跡内にもっており，何らかの意図的利用も考えられる。またこれらの遺跡のほとんどは，比較的安定した遺物包含層や遺構を有しており，洪積世末から沖積世初めにかけての大きな地形環境変化の中にあって，低標高ながら大きな自然的地形改変を受けなかったことを示している。薄い沖積層を除去すれば，往時も現今と似た地形環境をしていたと思われる。

ヴュルム氷期の極盛期をすぎて，大村湾にようやく海水がもどってこようとするころこの地域にヒトが住みついたと思われる。海水準は一時的な停滞を経て沖積世に入ると急激な上昇を見せ，6,000年前ごろには現海面をこえる縄文海進がおこっている[註11]。鷹野遺跡から得られたC^{14}年代は，9,000年前というものが多いが，そのころを遺跡の主体と考えると当時の海水準は，20～10数m低位にあったという[註12]。仮に15m低いとすれば，海岸線は約8㎞ほど沖にあり，西大川は東大川や久山川を合わせて，狭い大村湾へ注いでいたことであろう。従って現海水面下にも多くの遺跡が沈んでいると考えられる[註13]。また炉跡から検出された樹種の同定によれば，コナラなどの落葉広葉樹が多く，増温期にあるとはいえ現在よりはやや冷涼な気候下にあったことを示している。

雲仙・多良・長崎火山の三山塊にはさまれた諫早地峡西部の低丘陵地にあって，この西大川流域は地形・水や動植物資源など当時の生活を支える条件にも恵まれ，多くの遺跡の立地をみたと思われる。

2．周辺の遺跡

鷹野遺跡の周辺には他にも多くの遺跡が立地している。まず，先土器時代から縄文時代にかけては，平遺跡(12)[註6]，西輪久道遺跡(10)[註7]，牛込A・B遺跡(22・21)[註8]，雀ノ倉遺跡(20)[註9]，浜田遺跡(19)[註9]，柿崎遺跡(24)[註9]，東大久保遺跡(4)[註10]等がある。雀ノ倉遺跡，牛込A・B遺跡は，旧大村湾に突出した標高10～20m程の丘陵上に立地しており，低湿地を挟み柿崎遺跡と対峙している。また，柿崎遺跡の約150m東には湧水地点があり，現在も溜池として利用されている。平遺跡，西輪久道遺跡は，鷹野遺跡と同様に，西大川流域にあり，中核工業団地区域に立地している。前者は河川により形成された標高26～29mの沖積地にある。後者は，中流の河岸段丘上，標高約20mにありFig. 5を参照すると両者とも遺跡の集中する標高0～40mの範囲に含まれる。前述の遺跡もほとんどこの中に含まれており，ひとつの傾向を示している様に思われる。

弥生時代から古墳時代にかけての遺跡には，箱式石棺を出土した貝津横島A遺跡(3)，標高約10mの小丘上に立地している滑川遺跡(5)，化屋大島遺跡(16)，久山古墳(13)等が挙げられる。滑川遺跡は現在，数基は破壊されているが，ある程度の基数は包蔵されている。

中世には津水港が栄え，城・砦等が造られ，それらが中世の遺跡として確認されている。例えば，標高38～40mの丘陵の先端部に位置している長牟田遺跡(9)[註6]は，山城跡があり丘陵を凹形に切断した遺構が残されている。尚，この遺跡は諫早中核工業団地内の緑地公園として保存されることになっている。また，本丸跡が山頂に，馬出跡が山の中腹部に残存している久山城遺跡(7)，その北には，二重の空濠や，土塁，石塁等が確認されている真崎城跡などもある。

近世に至っては，小倉を出発点として海外との唯一の玄関口であった長崎へ向う長崎街道が通るなど，太古の時代から現在に至るまでの歴史の流れが感じられる。

Tab. 3　周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	遺跡所在地	時代	種別	遺構・出土遺物等	備考
1	西佐竹遺跡	諫早市貝津町西佐竹	縄文	祭礼遺跡？	石斧4本が一括埋納	諫早市教育委員会所蔵
2	貝津横島B遺跡	貝津町横島	縄文	散布地	黒曜石剝片	
3	貝津横島A遺跡	貝津町横島	弥生~古墳	墓址	箱式石棺	
4	東大久保遺跡	貝津町東大久保	先・縄文	散布地	細石核・石鏃	
5	滑川遺跡	久山町滑川	縄文~古墳	墓址・包蔵地	箱式石棺・石匙・土器	
6	赤島遺跡	久山町	縄文	散布地	削器・剝片	
7	久山城	久山町	中世	山城	本丸・馬場	
8	笹原遺跡	久山町	縄文	散布地	黒曜石剝片	
9	長牟田遺跡	津久葉町長牟田	縄文・中世	包蔵地・山城	土器・石鏃等	緑地保存
10	西輸久道遺跡	津久葉町	先・縄文	集落址	炉址・土器・細石刃等	本書
11	鷹野遺跡	津久葉町	先・縄文	集落址	集石・炉穴遺構・工房址	
12	平遺跡	津久葉町	先・縄文	包蔵地	土器・細石刃・石是・石鏃等	
13	久山古墳	久山町	古墳	古墳		上部が削平されている。
14	下後古場遺跡	土師野尾町	縄文	散布地	黒曜石剝片	
15	船蔵石遺跡	土師野尾町		積石塚		
16	化屋大島遺跡	西彼杵郡多良見町化屋名	弥生	墓址	箱式石棺7基・副葬土器	
17	化屋遺跡B	〃	縄文	散布地	黒曜石剝片	
18	合戦場遺跡	〃	縄文	散布地	黒曜石剝片	
19	浜田遺跡	諫早市貝津町	先・縄文	包蔵地	土器・掻器・石鏃等	調査により消滅
20	雀ノ倉遺跡	貝津町	先・縄文	包蔵地	石釣・石核・細石刃等	〃
21	牛込B遺跡	貝津町	先~古墳	包蔵地	土器・石鏃・台形石器等	〃
22	牛込A遺跡	貝津町	先・縄文	包蔵地	土器・ナイフ形石器等	〃
23	岩下遺跡	貝津町	縄文・近世	包蔵地	石垣・建物址・陶磁器等	
24	柿崎遺跡	貝津町	先・縄文	包蔵地	礫群・ナイフ形石器・楔形石器	調査により一部削減

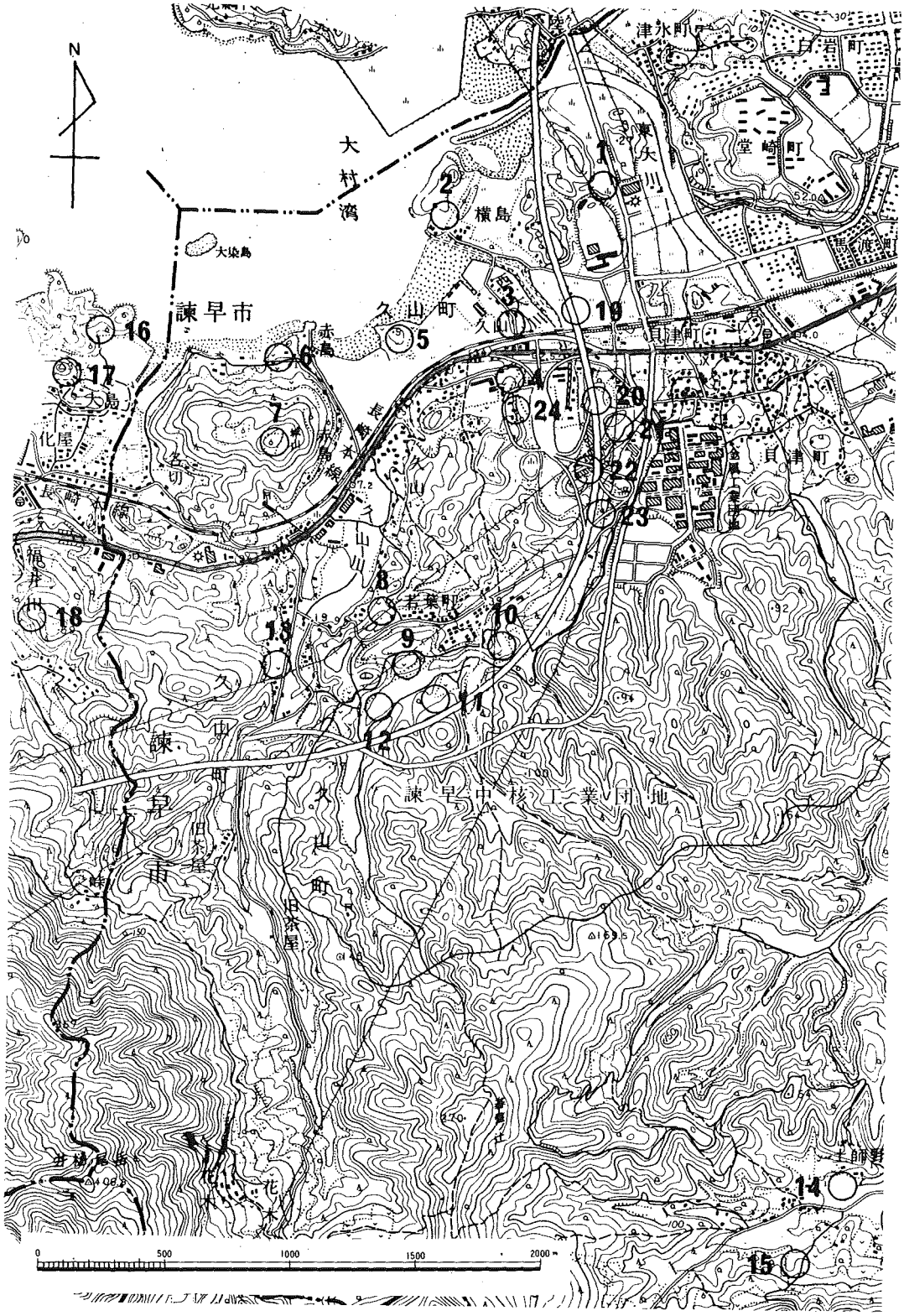

N
大村湾
大染島
諫早市
久山町
横島
赤島
大島
化屋
名切
若葉町
貝津町
堂崎町
白岩町
津水町
東大川
諫早市
久山町
旧茶屋
諫早中核工業団地
0
500
1000
1500
2000m

Fig. 6 周辺の遺跡

註1　昭和60年11月19日付長崎新聞

註2　石井泰義　1981　「変化に富む地形」　『新長崎風土記』「長崎県の歴史と風土」　創土社所収

鎌田泰彦　1981　「複雑な地質構造」　同上

註3　山崎達雄・松本徳夫・菰田正俊　1965　「諫早炭田の地質」　九州大学生産科学研究所報告　第40号

註4　国土地理院発行の2万5千分の1の地形図　「諫早」「諫早南部」「大村」「長崎東北部」の図幅範囲

註5　長崎県文化課が行った，遺跡周知事業による埋蔵文化財包蔵地カードを基礎資料として使用した。所産文化期が複合している場合，各時代ごとに別遺跡として数えた。遺跡の面積が広く，標高幅が大きいものについては，その中心値を用いた。

註6　長崎県教育委員会　1983　「諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　I」

註7　長崎県教育委員会　1985　「諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　II」

長崎県教育委員会　1983　「九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　III」

註8　長崎県教育委員会　1982　「九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　II」

註9　長崎県教育委員会　1981　「九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　I」

註10　長崎県教育委員会　昭和56年度遺跡周知事業埋蔵文化財包蔵地カード

註11　本報告書のIX－3，C^{14}年代測定結果報告書　を参照

註12　松島義章　1983　「小規模なおぼれ谷に残されていた縄文海進の記録」海洋科学　151

註13　本報告書のIX－4，樹種同定　を参照

参考文献

小野忠熙　1980　「日本考古地理学」ニュー・サイエンス社

長崎県　1973　『土地分類基本調査』「長崎」「大村」「肥前小浜」5万分の1

波多江信広　1976　「大村湾を中心とする地域の地質構造発達史」　鹿児島大学理学部紀要　7

国土地理院　1979　『沿岸海域土地条件図』「大村」　2万5千分の1

内外地図　1960　「長崎県地質図」

Ⅳ．鷹野遺跡の調査

1．調査概要

遺跡は西大川流域に形成された標高約24m～37m程の低丘陵上に立地し，浅い谷部を狭みA地点（東側丘陵）とB地点（西側丘陵）に分れる。

遺跡は諫早市津久葉町に所在し，調査対称面積は約10,000m²である。

調査はグリット方法で実施し，磁北を基準にして東西・南北に各5m単位の網目方眼にグリットを組む。（列A－1区，イ－32区）

A地点の調査　発掘調査は当核団地造成計画に合わせ，A地点の南側より開始した。ST－12，T～V－15，T・V－18，Y・Z－18，Y～ロ－22区の調査を実施した。その結果は遺物の包含もなく終了後に工事着工となった。

本格的な調査はS区から北側へ向って開始した。当初5m×5m単位の調査で遺構等の検出が遅れ，掘り過ぎた件数が増えたために，途中より10m×10mの範囲で掘り下げる方法に切り替えた。

遺跡はH～B－2～11区に先土器時代の細石器文化所産の集石遺構1基と遺物が検出された。

遺跡のほぼ全域より縄文時代早期末の遺構群（竪穴状遺構4基，集石遺構16基，炉穴遺構9基，不明遺構8基，礫群5区，ピット群等）と遺物が多数検出された。

この縄文早期の遺構群の存り方から，小規模な集落址が形成されていたことが窺われる。遺構群は第II層で検出され，第II層はC^{14}年代測定で$36,200^{+2420}_{-1880}$y.B.P（$35,200^{+2420}_{-1820}$y.B.P）の年代を得ている。

また，C～H－8～14区に近世の列石群と集石土壙1基が検出された。この遺構構築の際に先土器・縄文時代の包含層・遺構を壊している。

B地点の調査　A地点の調査終了後に北側部分より調査を開始し，南側の谷部へと拡げて行った。調査面積は約2,000m²程の狭い範囲であったが，1,650m²程の調査を実施した。

縄文時代早期前半～中葉にかけての遺構群（竪穴状遺構2基，集石遺構10基，炉穴遺構20基，石蓋土壙1基，礫群3基，不明土壙3基等）と多数の遺物が検出された。遺構群は検出状況より第II層とIII層に分れ形成時期に若干の時期差があるようだ。

また，ニ・ホ－35・36区で中世の不明土壙を1基検出した。

以上の調査状況の中でドーナツ状土壙と呼称される大小さまざまの土壙

がA地点117基，B地点14基程検出され，包含層を破壊しており，この土壙形成前の古環境の中での生活跡の形成を知るうえで，大変重要な遺跡の調査であった。

調査は昭和54～56年度にかけて，5,900m²について実施し終了した。

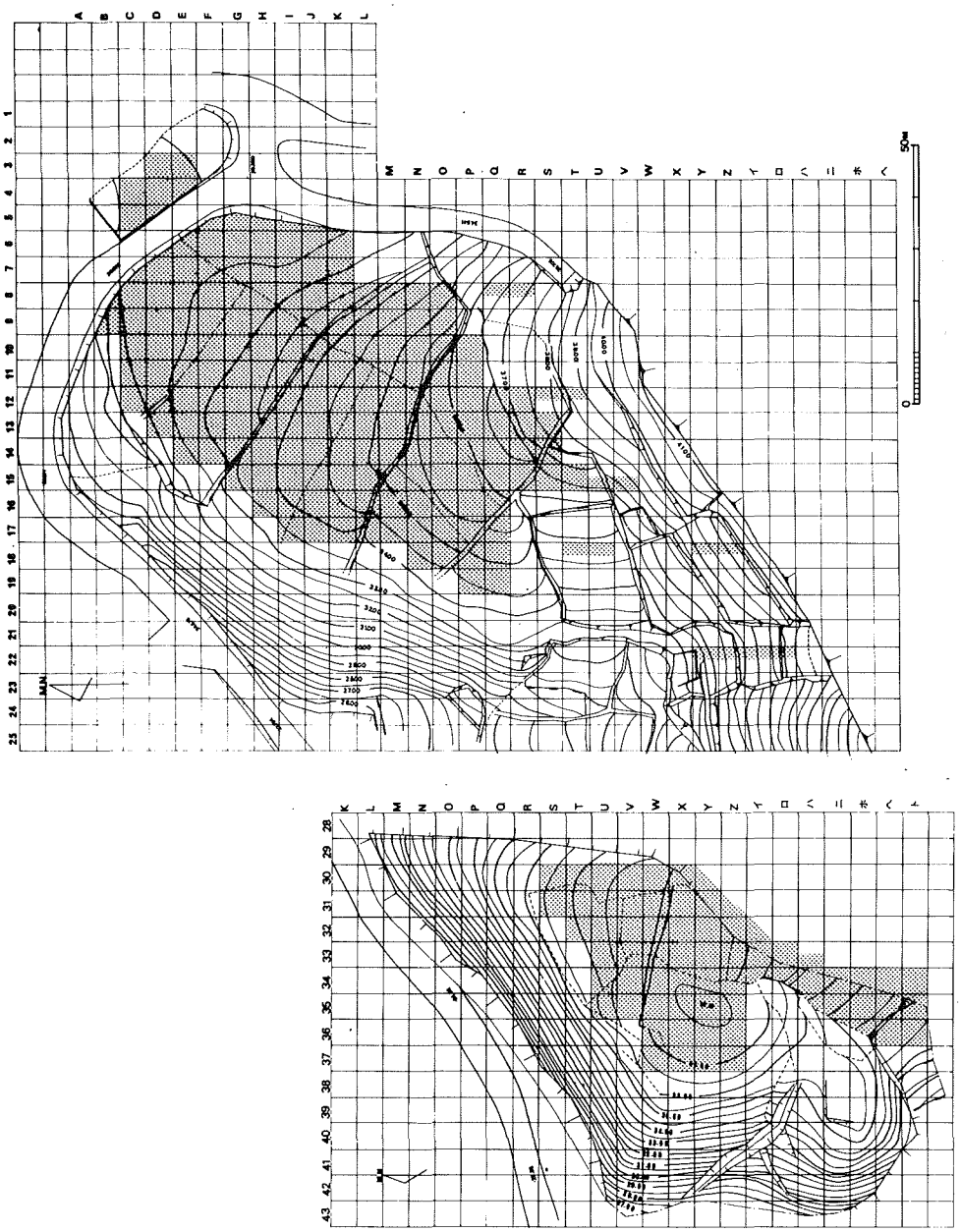


Fig. 7　調査区及び遺跡周辺地形図

2．層位

遺跡は地理的・歴史的環境の中で触れているように，高岳・碁盤ノ辻からなる丘陵部より北西に4つの尾根が延び，その谷部からの流れを集水して大村湾に注ぐ西大川が走り，その上流域に位置し，標高約80m程の低山頂より南→北側へ急傾斜で，標高40m位からなだらかな傾斜面に変わり，一担テラス状の平担部を形成して東側および北側に急激な傾斜でもって西大川に至る。

A地点はその平担部分に当り，B地点は狭い範囲の平担部から南側に傾斜する浅狭な谷間に生活面が検出され，西側に更に浅い谷部があり，南側の山頂を背部にして三方を河川および谷部に囲まれた丘陵上に立地している。

A地点の層位　調査区の東西，南北の土層断面で解かるように，ドーナツ状土壙の形成覆土の断面が至る所に観察されるが，全体的に整然とした土層堆積を示している。

縄文時代の包含層はこの第II層で遺構・遺物が検出されている。

ただ，C－9～11区，C～H－8～10区付近は列石構築の際に削平されており，土層堆積状況が違っている。B～G－2～9区の列石遺構外の先土器時代の細石器文化所産の遺物が多量に集中していた地区の土層堆積は表土，第II層黄褐色土，第III層赤褐色土，第IV層黄褐色混砂礫層，砂岩岩盤に至るが，削平のために第II層は部分的に検出され，ほとんどが第III層赤褐色土である。

第II層および第III層上面には縄文時代の遺物が出土し，D・E－7・8区に検出された2号竪穴状遺構の西側断面は第II層・III層面を掘り込んで構築されている。

この地区での先土器時代の包含層は第III層に集中して出土し，第IV層および砂岩盤上に集石遺構が1基検出されている。

B地点の層位　S～T－30～33区，W～Z－36・37区の丘陵部の先端部分に当り，土層堆積もみだれ，礫石が集中して検出されるなどで，良好ではなかった。

また，ヘ・ト－34～36区の調査区は3方からの土砂の堆積で2m程埋っており，土層堆積状況の確認のみで調査継続を取りやめた地区である。

丘陵の平担部分U～Y－30～35区の土砂堆積状況は表土，第II層黄褐色粘質土，第III層赤褐色粘質土と堆積し，1m程で砂岩の基盤に至る。

また，南側の浅い谷部に形成された土層堆積状況は北→南側への急な傾斜にそって、一担なだらかな面にレンズ状に約2.6m程深く堆積する。

堆積土は基本的にⅠ～Ⅵ層・基盤と同様な状況を示すが，新たな土層が検出されている。第Ⅱ層とⅢ層の間に②層濁暗赤褐色粘質土（小さな砂礫を含む），Ⅲ層下に④暗赤褐色粘質土，⑤濁黄褐色粘質土が堆積し，第Ⅳ層暗赤褐色粘質土(砂礫を含む)，第Ⅴ層濁黄褐色砂礫土，第Ⅵ層黄赤色礫・基盤へと堆積状況を呈す。

遺物は第Ⅱ・Ⅲ層，②層，③層，Ⅳ層，Ⅴ層に出土している。

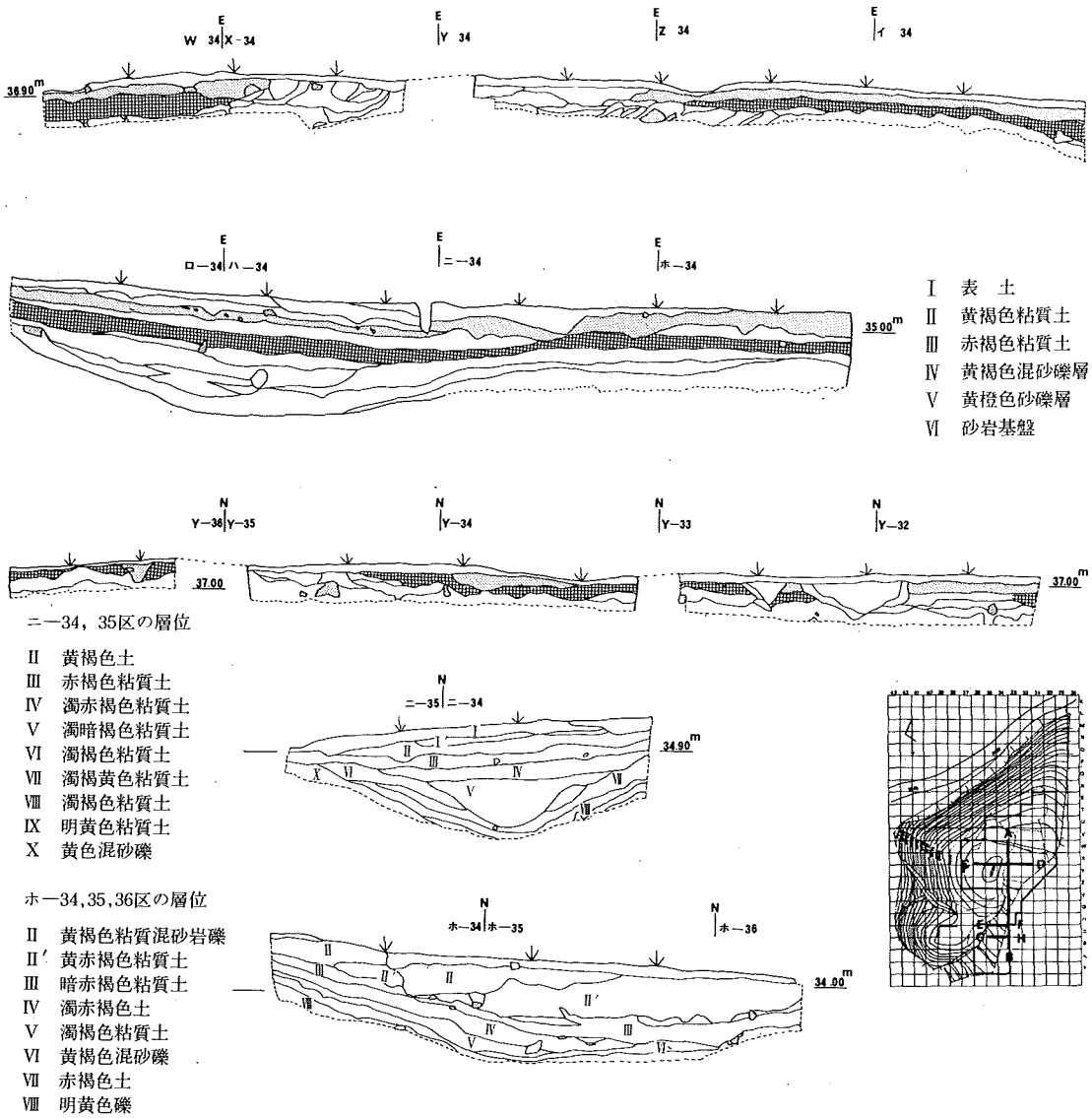
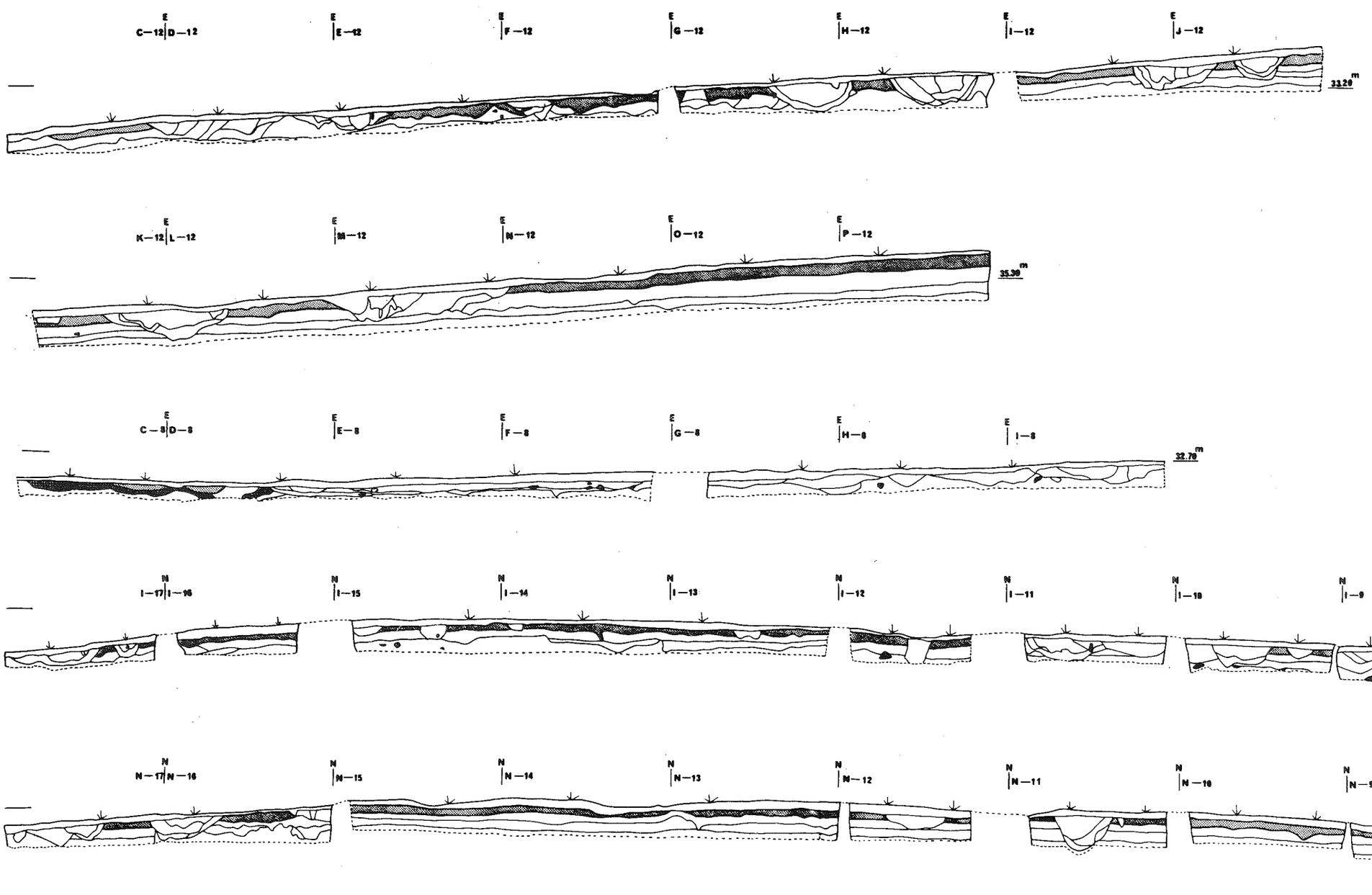


Fig. 8 鷹野遺跡B地点層位図



Ⅱ層　褐黄色土層（赤褐色）

Ⅲ層　褐色土層（赤褐色）

Ⅳ層　暗茶褐色砂礫土層（黄褐色）

Ⅴ層　明赤褐色粘質土層

Ⅵ層　暗赤褐色粘質土層

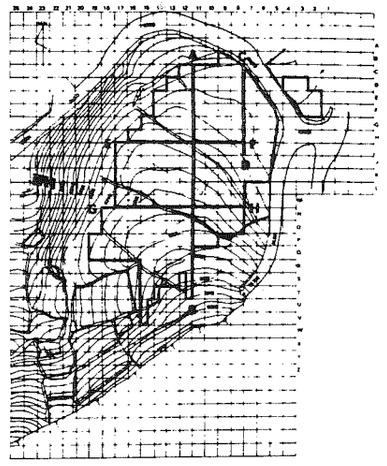


Fig. 9　鷹野遺跡A地点層位図

Ⅴ．鷹野遺跡Ａ地点

１．先土器時代

（１）遺構

集石遺構
(Fig. 10)

遺跡の北端部分のＣ－８区で，細石器を主体とする石器群の遺物集中範囲に１箇所検出された。

第Ⅲ層赤褐色土直下から第Ⅳ層黄灰色岩盤直上で，砂岩の板状石と拳大位の玄武岩礫13個を利用して帯状にみられる。また，北側に玄武岩礫が８個程みられ，もともと集石されたものが散乱したものであろうと考えられる。それらの礫石は火熱を受け赤変し，炭化物も集中して検出された。遺物は細石刃と砕片が各１点出土。

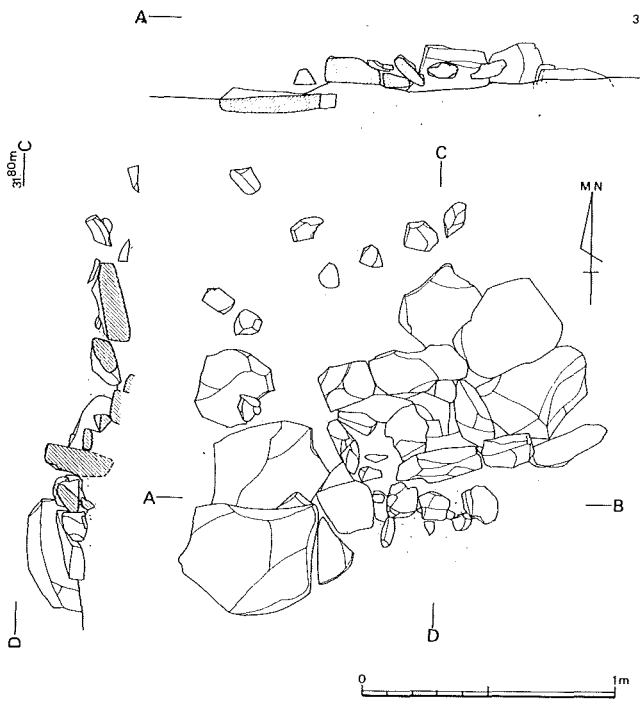


Fig. 10 集石遺構(1／30)

（2）出土遺物

先土器時代の遺物は第Ⅲ層に細石器を主体とする石器群とナイフ形石器を主体とする石器群の遺物が出土している。

細石器を主体にする石器群の遺物

遺跡の北端部分に当るB～H～Z～11区の第Ⅲ層面で検出した。

遺物は細石核4点，細石核調整剝片2点，細石核のブランク2点，細右刃643点が出土した。その内，細石刃の接断面接合が6例ある。

細石器
(Fig.11－1～4)

1～3は半円錐形状を呈す。1は細石刃剝離痕が7条みられ，調整打面で，底・側面部は両面より交互に調整を施している。一側面部に自然面を残す。また剝片剝離の打角は直角に近い。

2の打面は平担面に調整し，背面より調整剝離で側面部を作り出し，背面部分は自然面を残す。剝片剝離の打角は鈍角に近い。

3は正面に5条の剝離痕が残る。打面は平担面に調整剝離し整え，側面部分は背面より調整を施す。

4は円錐形状を呈す。打面は調整され，側・背面に自然面を残す。

利用石材は黒曜石A製2点；B製1点，C製1点。

細石核ブランク
(Fig.11－5，6)

5，6は甲板部分が幅挟で，細長く舟底状を呈す。5は周縁加工されたものを，側面側より一撃で打面の甲板部分を作出し，打面および側面部分より調整剝離で整えている。黒曜石A製。

6は雇平な礫を利用し，一撃で甲板部分を作出し，両側面に粗い調整剝離を施し整えている。一側面に自然面を残す。黒曜石B製。

細石核再生剝片
(Fig.11－7，8)

7は半円錘形状を呈する細石核の細石刃剝離面再製のための調整剝片で，細石核の側面の先端部よりの打撃で調整している。黒曜石A製。

8も同様な調整剝片で，細石刃核の打面部より調整されたもの。黒曜石B製)

細石刃
(Fig.11－9～14
Fig. 12—19)

細石刃は頭部，中間部，先端部の部位別に分け記載した。

9～14は接断面接合した細石刃で，6例みられる。

9は頭部と中間部が接合し，現長4.3cm×幅0.7cmを計り，接合距離は2.5mである。黒曜石B製。

10は中間部と先端部が接合し，現長3.4cm×幅0.8cmを計り，接合距離

は0.2mである。黒曜石B製。

11は中間部と中間部の接合で，現長3.3cm×0.7cmを計り，接合距離は3.2mである。黒曜石A製。

12は頭部と中間部の接合で，現長1.8cm×0.6cmを計る。接合距離は1.2mである。黒曜石B製。

13は頭部と中間部の接合で，現長1.6cm×0.7cmを計り，接合距離2mをみる。黒曜石B製。

14は中間部と中間部の接合で，現長1.5cm×0.7cmを計り，接合距離は2.2mをみる。黒曜石B製。

以上で，全体的に0.7～0.8cmの幅挟で，9～11は現長3cmを越え，細身で長い細石刃が多いようだ。

15～119は頭部で幅が1cmを越えるものは5点程で，他は0.8cm～0.3cmで現長は2.5cm～0.4cm程の間を計る。利用石材は黒曜石B製91点，A製55点，C製18点。120～329，356～426は中間部で幅が1cm～0.5cmの間が多く，1cmを越えるものは少ない。総数377点で，石材は黒曜石B製が190点，A製159点，C製28点を数えB製が多い。

330～355，427～435は先端部で総数64点と少ない。石材は黒曜石B製37点，A製24点，C製3点。

以上の第Ⅲ層出土の細石器を主体とする石器群の遺物は半円錐形状を呈す細石核と細石刃を主としたものである。

その他に出土した細石器

遺構，落ち込み，ドーナツ状土壙，表土より出土した細石器の遺物については，第Ⅲ層で細石器の文化層が確認されているので区別した。

遺物は細石核1点，細石核再生剝片2点，細石核ブランク1点，細石刃85点の出土をみる。

細石核 (Fig19－481)

扁平で，正面観は長方形状を呈す。(長方柱状の形状) 剝片剝離痕は正，側面まで7条みられ，打面は調整され，側，背面も調整加工が施されている。利用石材は黒曜石A製。

細石核ブランク (Fig.19－484)

扁平な小円礫を利用し，打面部の作出段階で終っている。側面は自然面，背面は一端より調整が施され，正面も数条の調整剝離痕が残る。

この石器は481の細石核と円様な形態のものと思われる。利用石材は黒曜石A製。

細石核再生剝片
(Fig. －482, 483)

482は打面部の再生のために，側面部よりの打撃で調整されたものである。打面は調整され，五条の剝片剝離面が残る。もとの形状は半円錘形状を呈す。石材は黒曜石A製。

483は剝片剝離面の再生剝片で，打面部より調整剝離痕が残る。もとの形状は半円錘形状を呈す。石材は黒曜石A製。

483は剝片剝離面の再生剝片で，打面部より調整剝離されたもの。石材は黒曜石B製。

細石刃

細石刃は頭部，中間部，先端部の部位別に分けて記載した。

接断面接合資料が3例ある。

485は中間部の接合で，現長2.8cm×幅0.9cmを計り，接合距離は40cmである。

486も中間部の接合で，現長3cm×幅0.75cmを計り，接合距離は1.6mである。485，486共に石材利用は黒曜石A製。

487は頭部と中間部の接合で，現長2.8cm×幅0.8cmを計り，接合距離は攪乱層出土のため不明である。石材は黒曜石B製。

細石刃の頭部は488～505の18点で，現長2.5cm×0.8cmで，幅は1cm～0.6cm程で，利用石材は黒曜石A製8点，B製8点，C製2点である。

中間部は436～475，506～520の55点が出土し，現長2cm～0.5cm，幅0.8cm～0.5cm程で，利用石材は黒曜石A製22点，B製25点，　C製8点である。

先端部は476～480の5点が出土し，黒曜石A製である。

以上は第III層出土以外の細石器で，扁平で長方柱状を呈す細石核と同様な形状を呈す細石核ブランク，および半円錐形状の細石核の再生剝片と第III層出土遺物では若干の相違がみられる。

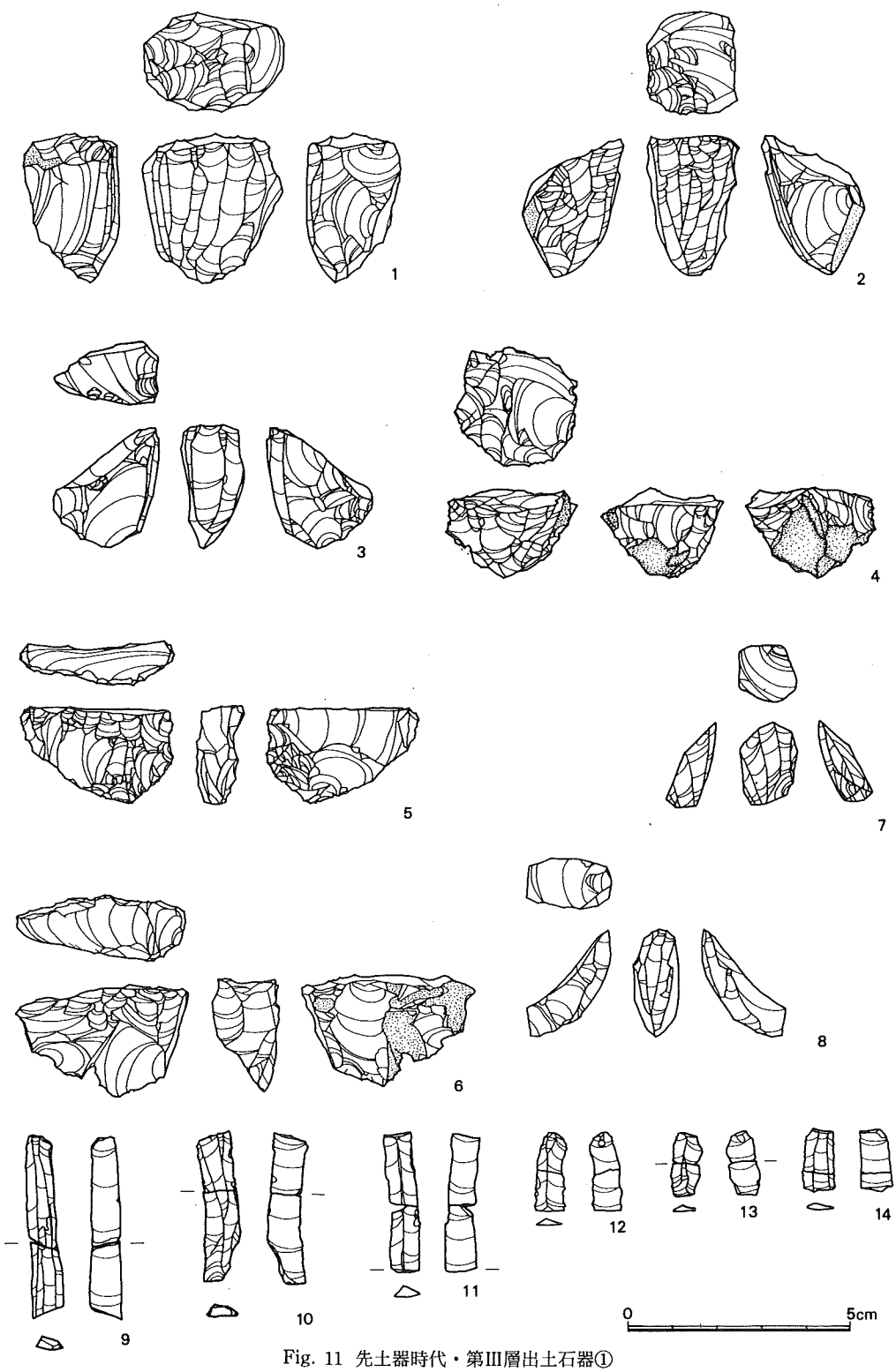


Fig. 11 先土器時代・第III層出土石器①

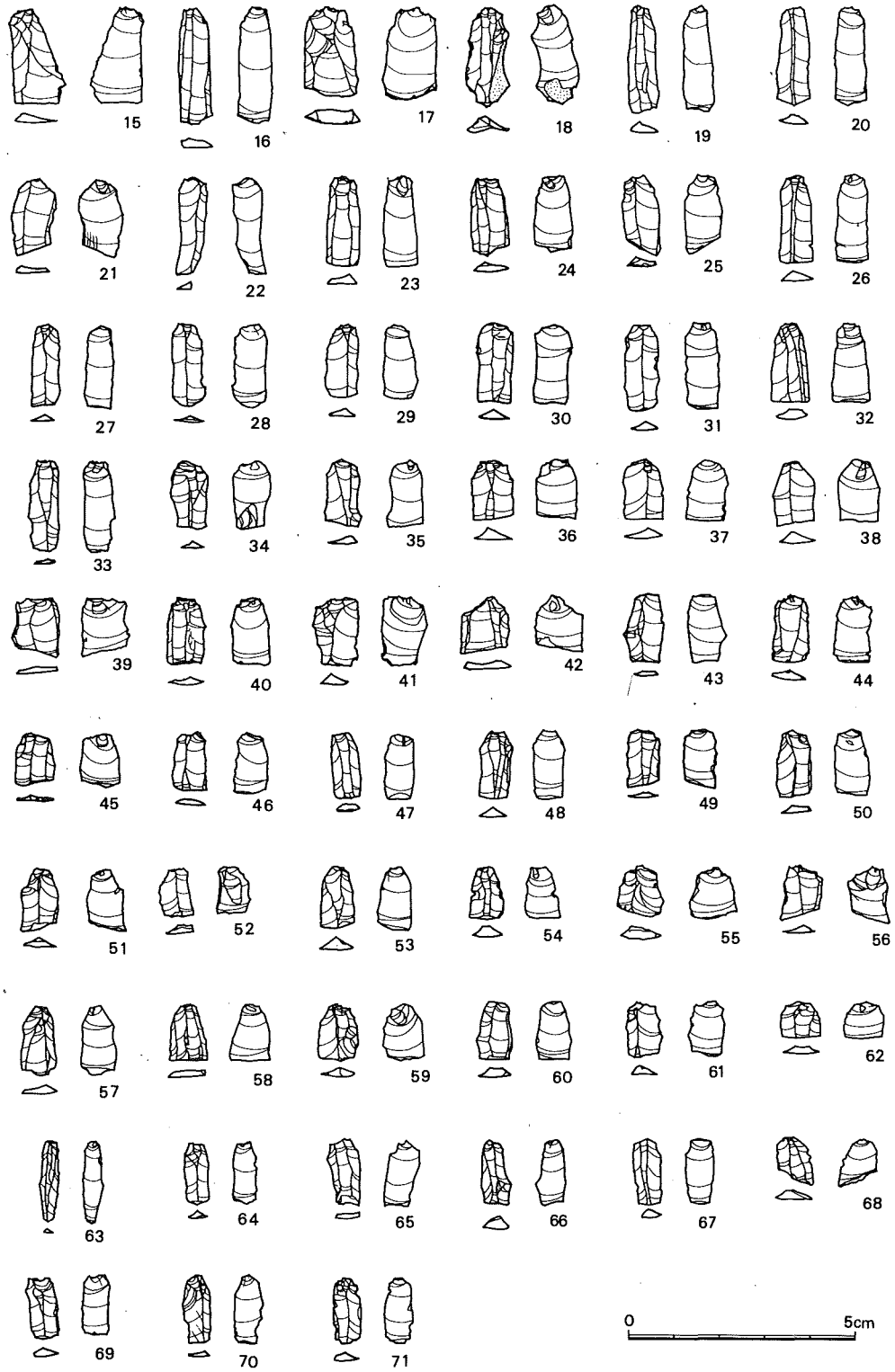


Fig. 12 先土器時代・第III層出土石器②

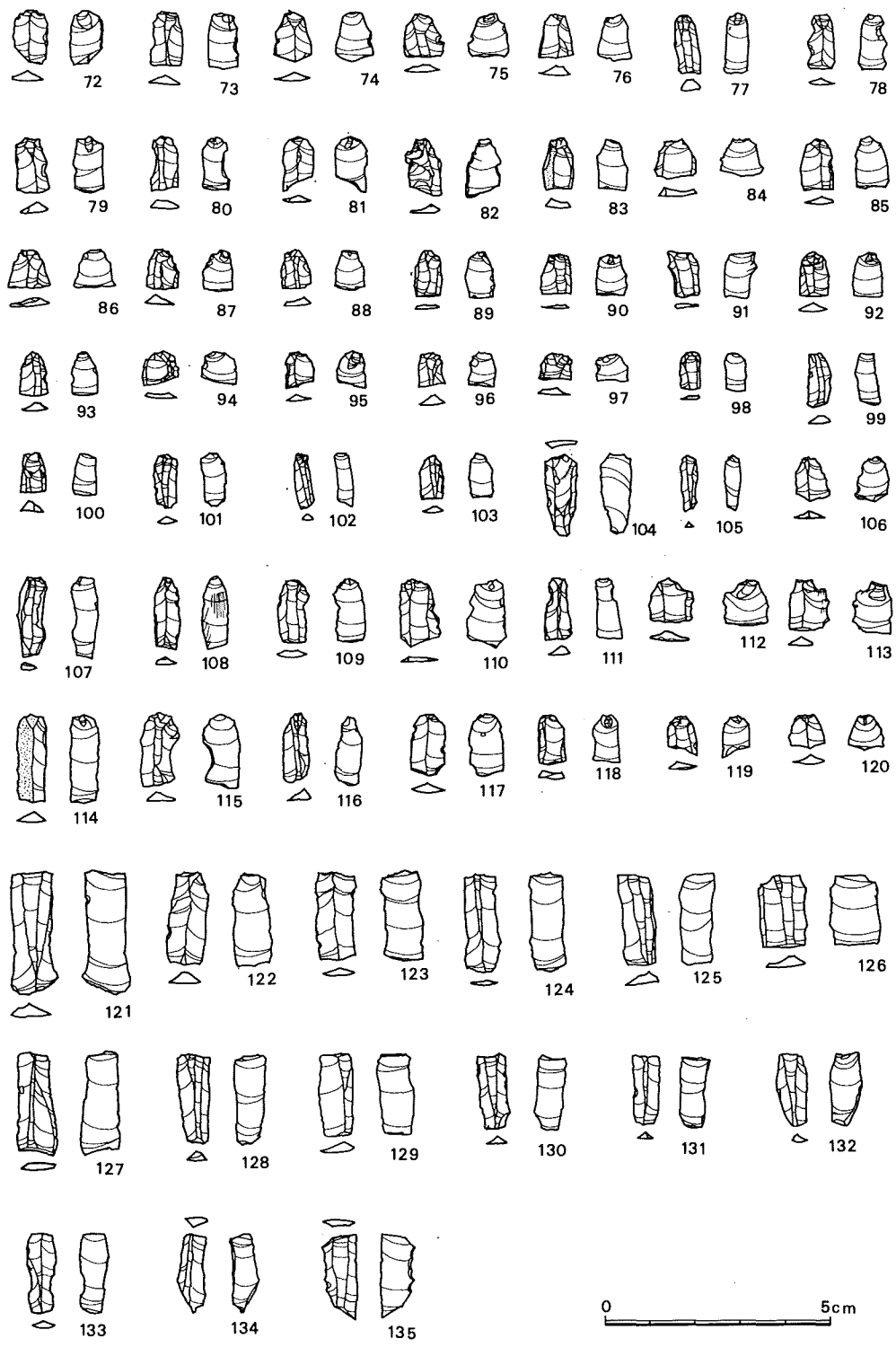


Fig. 13 先土器時代・第III層出土石器③

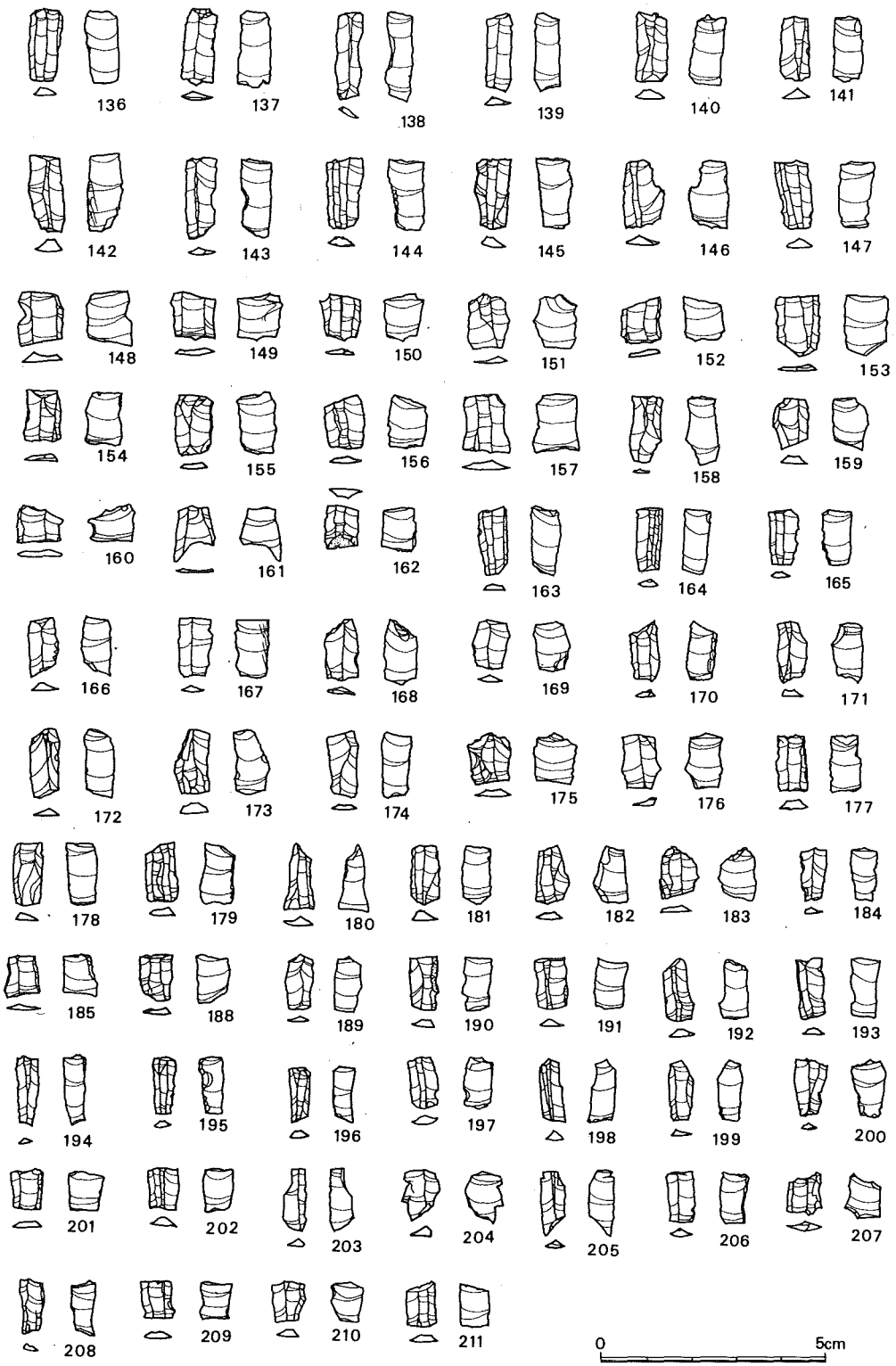


Fig. 14 先土器時代・第III層出土石器④

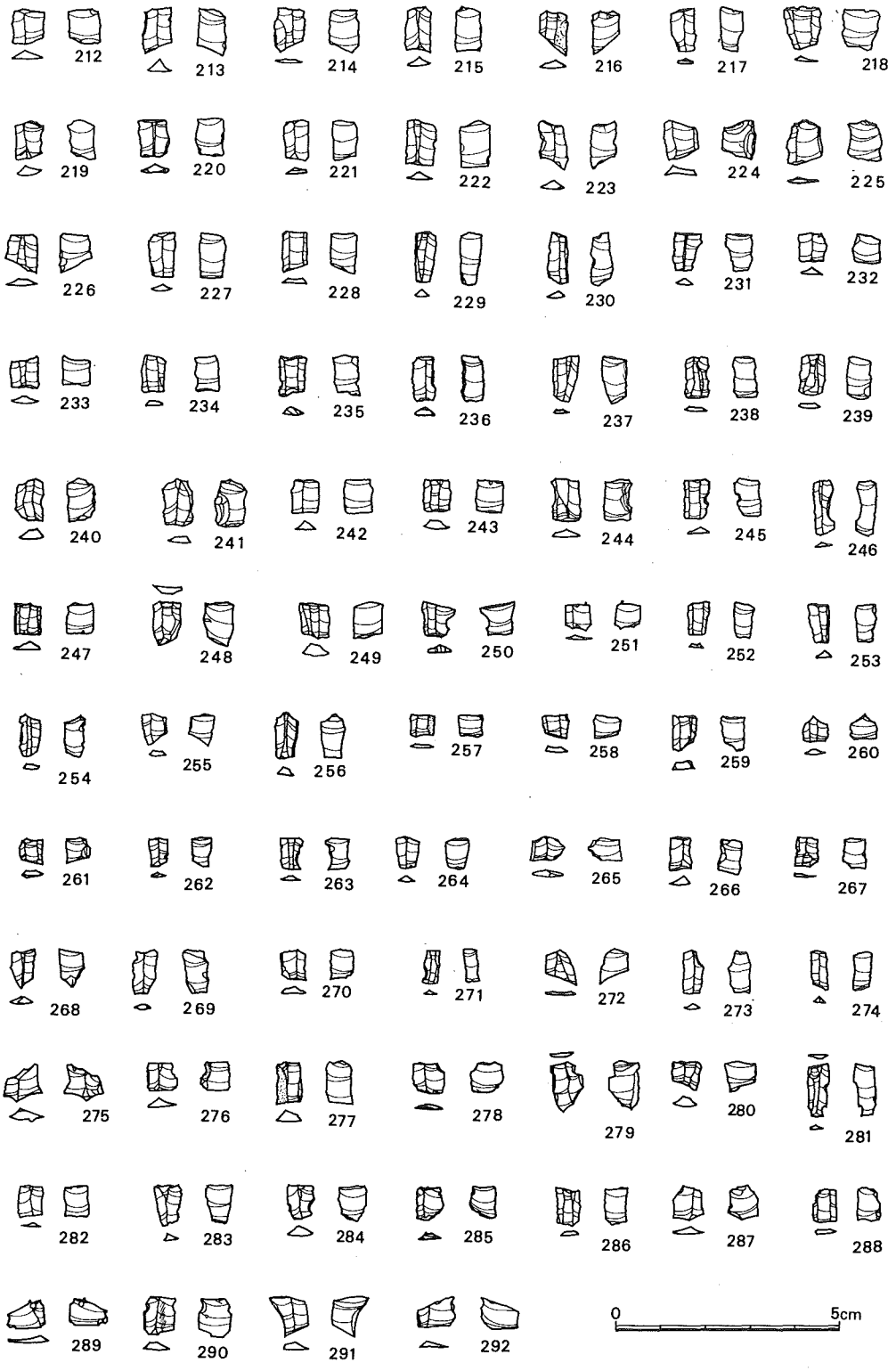


Fig. 15 先土器時代・第III層出土石器⑤

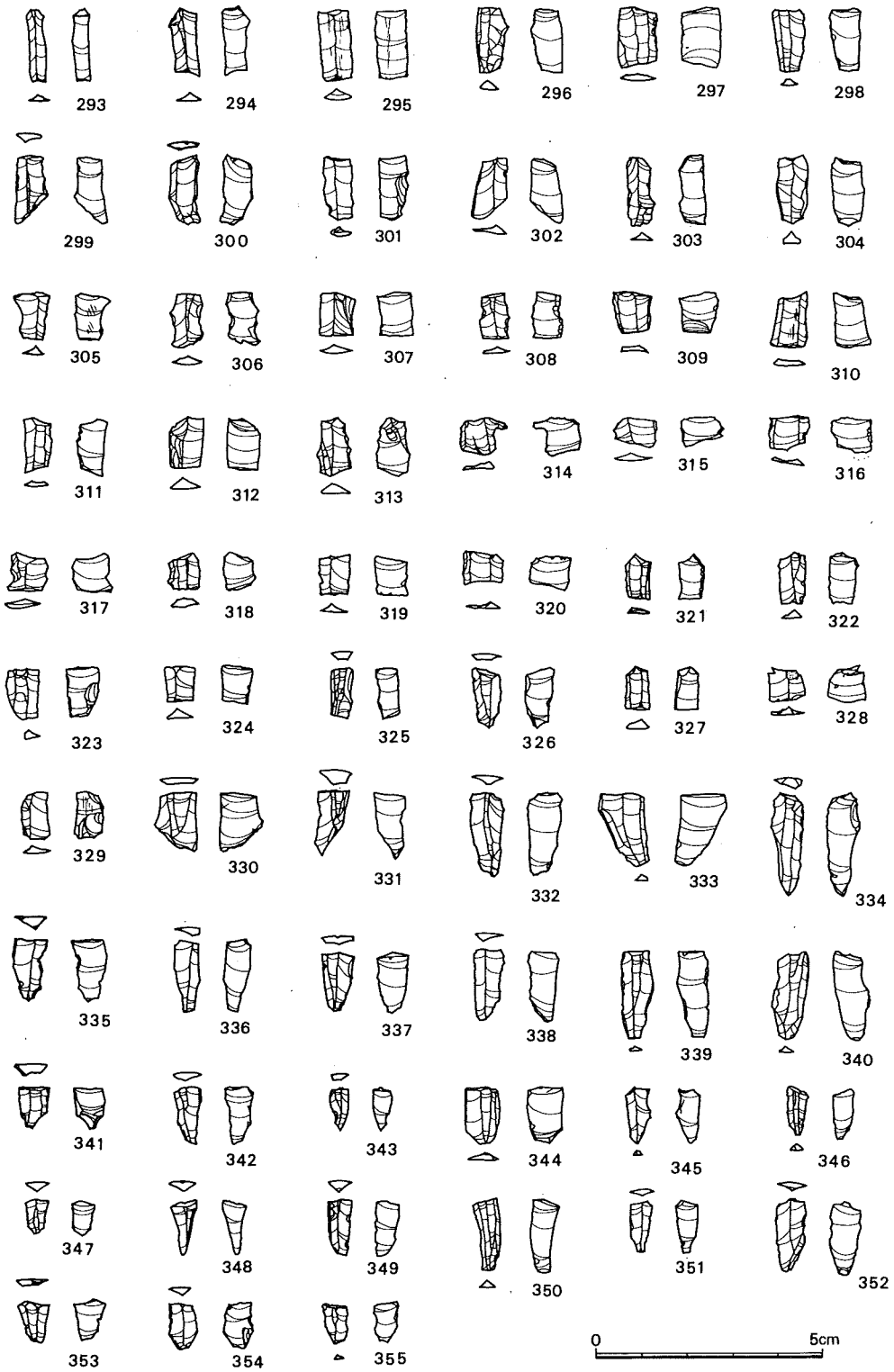


Fig. 16 先土器時代・第III層出土石器⑥

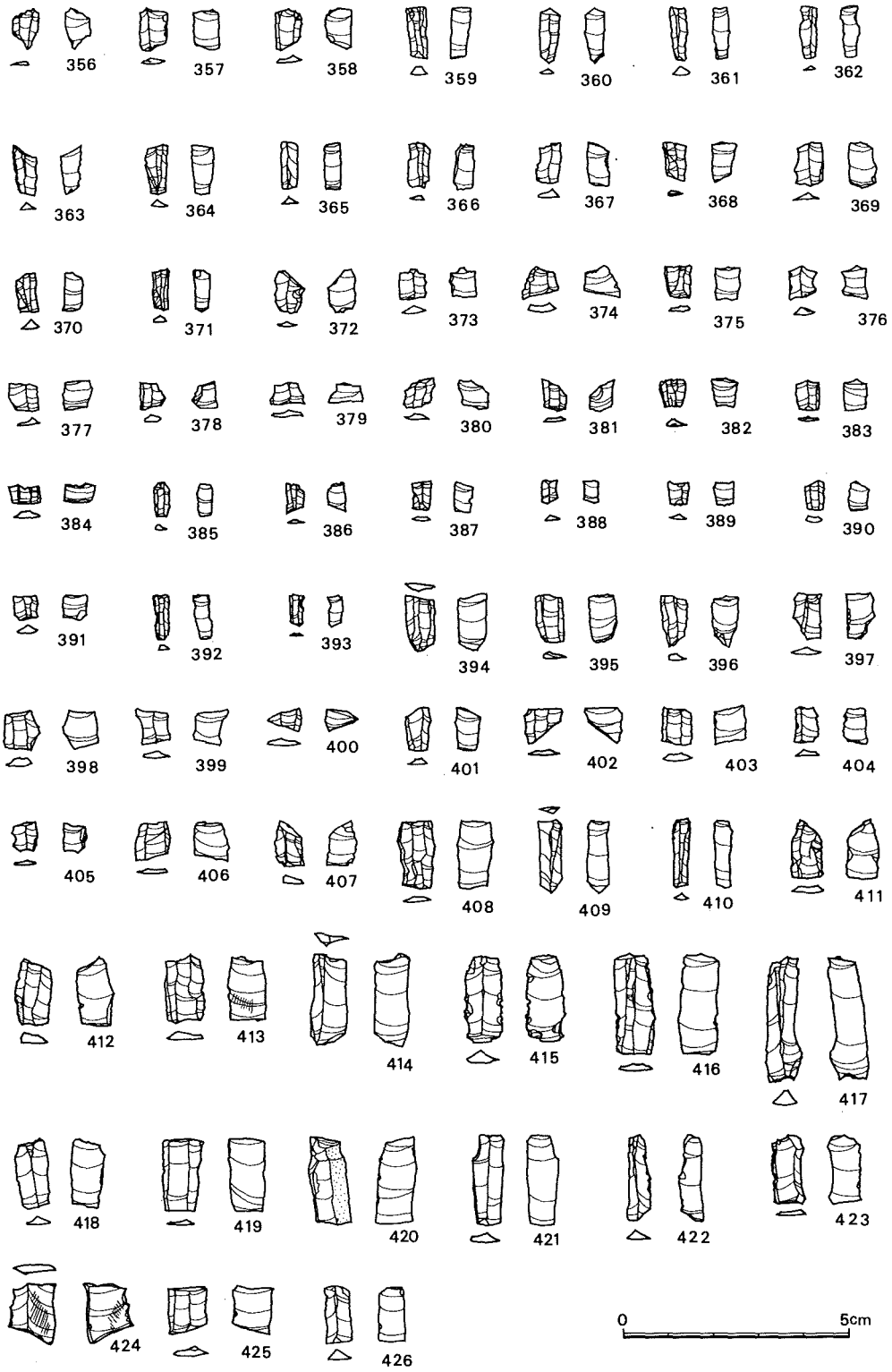


Fig. 17 先土器時代・第III層出土石器⑦

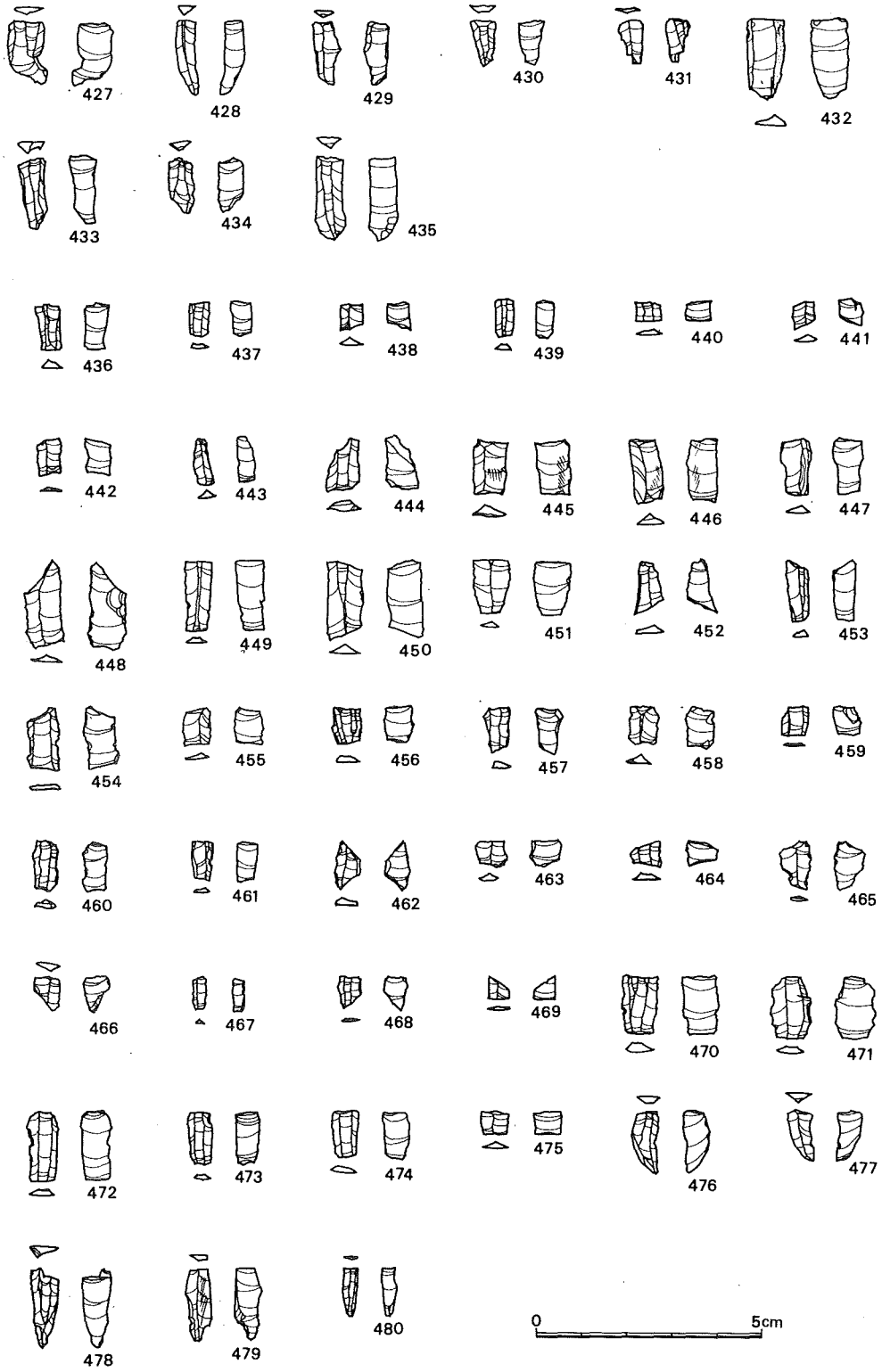


Fig. 18 先土器時代・第III層出土石器⑧

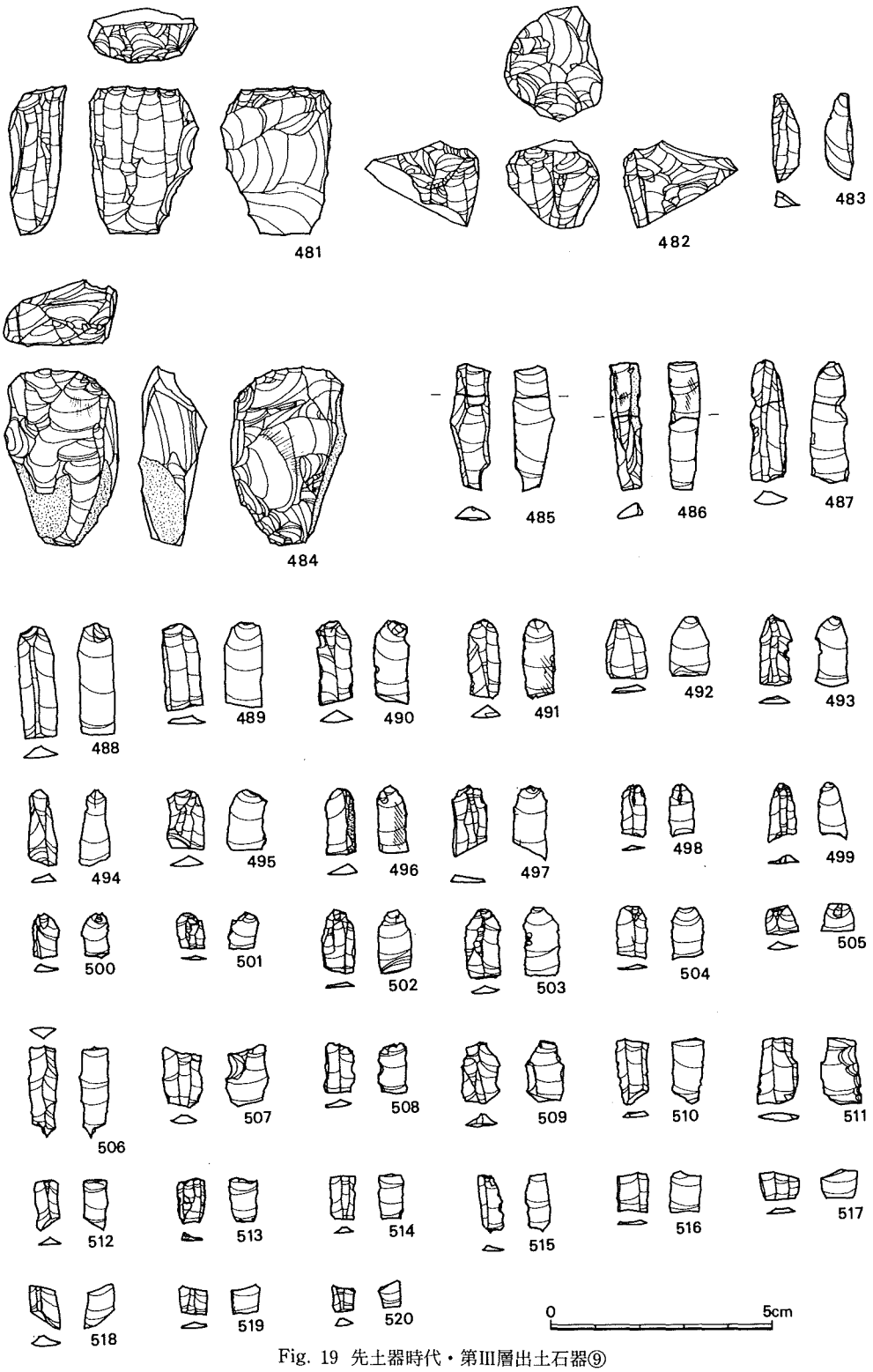


Fig. 19 先土器時代・第III層出土石器⑨

ナイフ形石器を主体にする石器群の遺物

第III層および縄文時代の遺構，ドーナツ状土壙等から出土したもので，包含層は確認出来なかった。ただ，総数182点の遺物が出土した。

ナイフ形石器
(Fig. 20～24—79)

A地点のナイフ形石器は87点を数え，器種の側縁部の2次加工により，二側縁加工のものと，一側縁加工のものに分れる。

縦長剝片を利用し，両側縁部に2次加工を施し，柳葉形状を呈すものである。(1～43)

1～6は素材の剝片をそのまま利用し，曲線を呈す刃部を残し，刃潰し加工を施すもの。利用石材は黒曜石A製1点，B製3点，C製1点。

7—21は斜行する刃部を残し，刃潰し加工を施すもので，刃部長が器長に対して半分を占め，胴部が張り，幅広のもの。その中で器裏面の基部調整を施すもの（7，8）と施さないもの（9，10，14）で，他は基部を欠損している。また器長が4cmを越える大形のものと，それ以下の小形のものがある。利用石材は黒曜石A製11点，B製2点，C製1点，安山岩製1点。10は先端部と基部が接合する。

22～43は斜行する刃部を残し，刃潰し加工を施すもので，器長に対して刃部長がほぼ半分を占めるもの。

素材の剝片を切断し2次加工を施した4cm以下のもので，刃部が幅広のものと幅挟のものがあり，器裏面の基部調整は施さない。利用石材は黒曜石A製14点，B製7点，C製3点。

44～67は切出形状を呈すものである。斜行する刃部をもち，刃部長と器長の比率が半々で，三角形状を呈すもの(44，45)，斜行する刃部を残し，器長に対して刃部が半分以下の小形で幅・なもの（46～53，57)，側縁部の2次加工が一方は湾曲し，他方は曲線を呈すように施されたもの(54～56)，刃部が基部と平行あるいは曲線を呈す不定形のもの(58～61)がある。

62～67は斜行する刃部と基部を残し，刃潰し加工を施すもので，61～64は縦長剝片，65～67は横長剝片を利用している。

利用石材は黒曜石A製16点，B製5点，C製1点，安山岩製2点。

68～76は横長剝片を利用し，一側縁部に刃潰し加工を施したもので，器長が4cmを越す大形のものとそれ以下の小形のものがある。利用石材は黒曜石A製6点，B製3点。

77～79は縦長剝片の打面部をそのまま基部に利用した幅広のもので，いずれも先端部分を欠損している。利用石材は黒曜石A製3点。

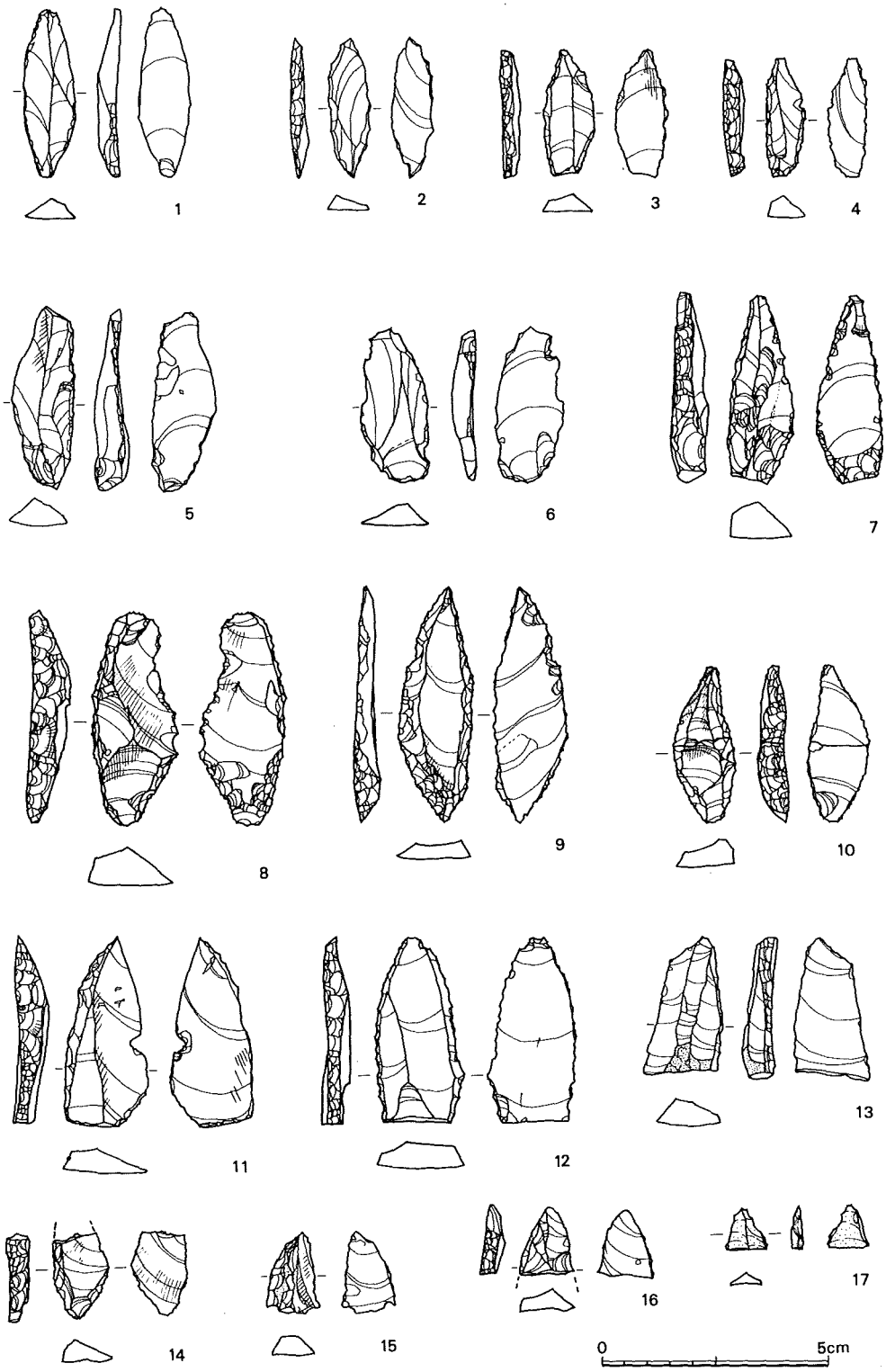


Fig. 20 先土器時代・出土石器⑩

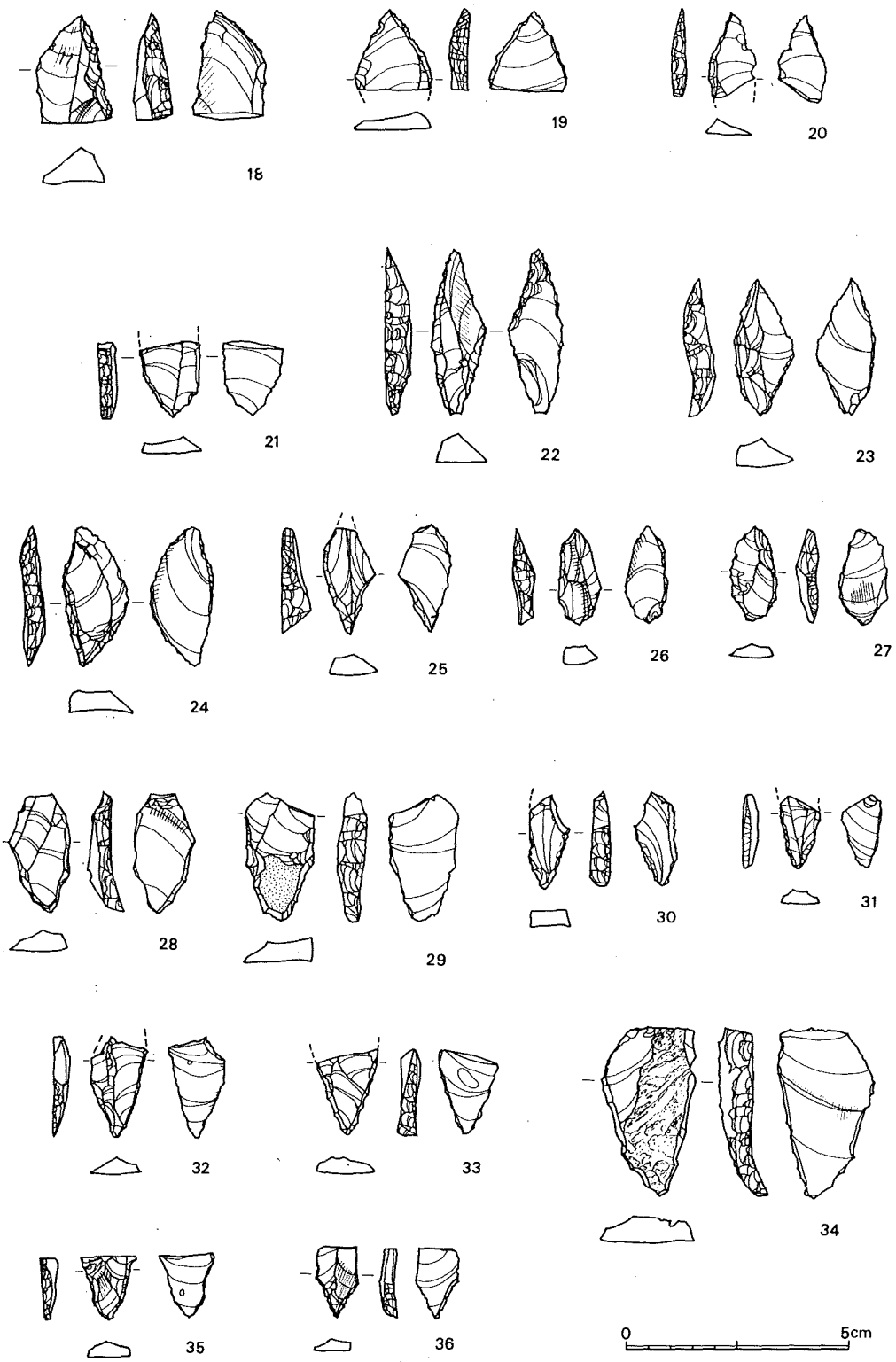


Fig. 21 先土器時代・出土石器⑪

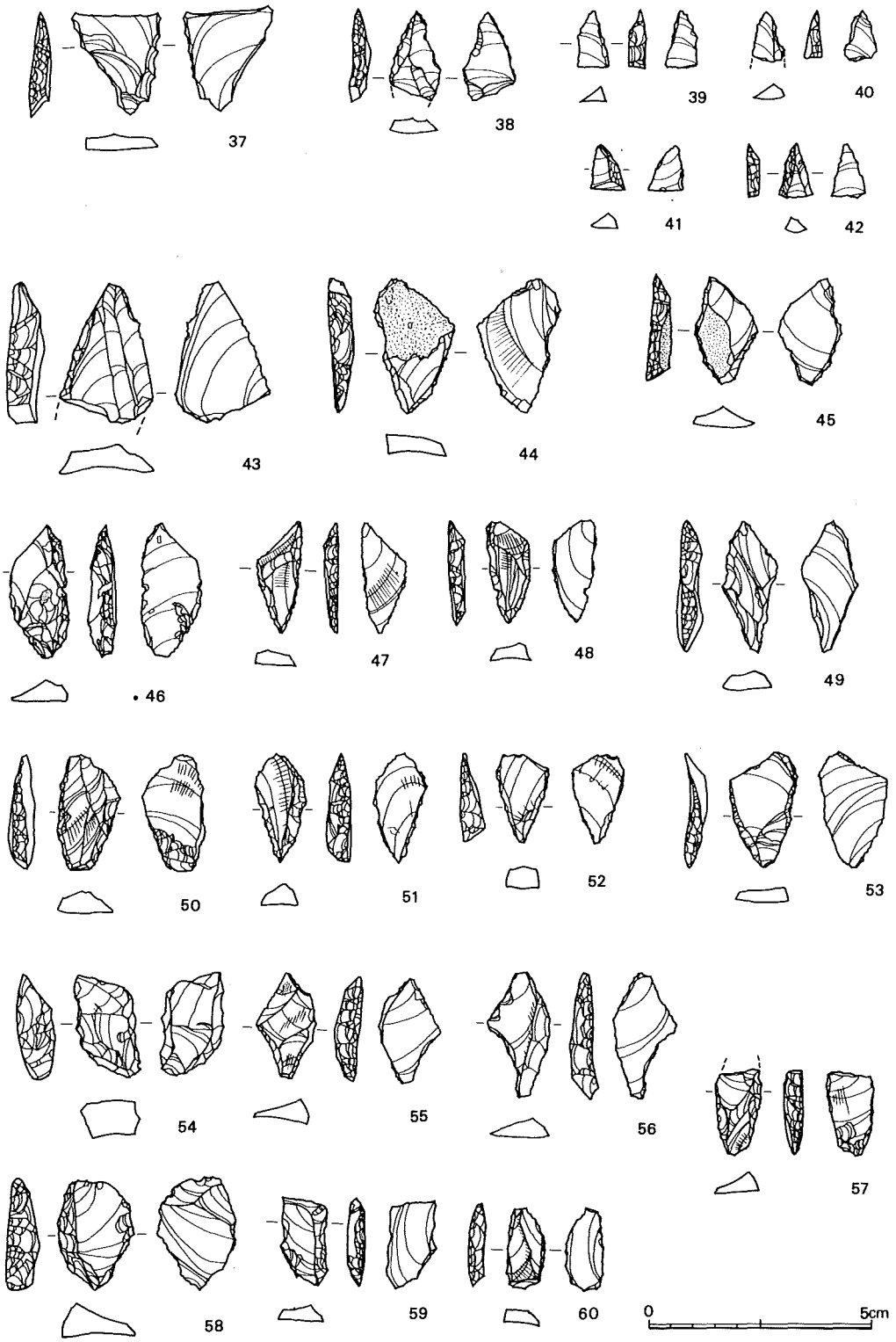


Fig. 22 先土器時代・出土石器⑫

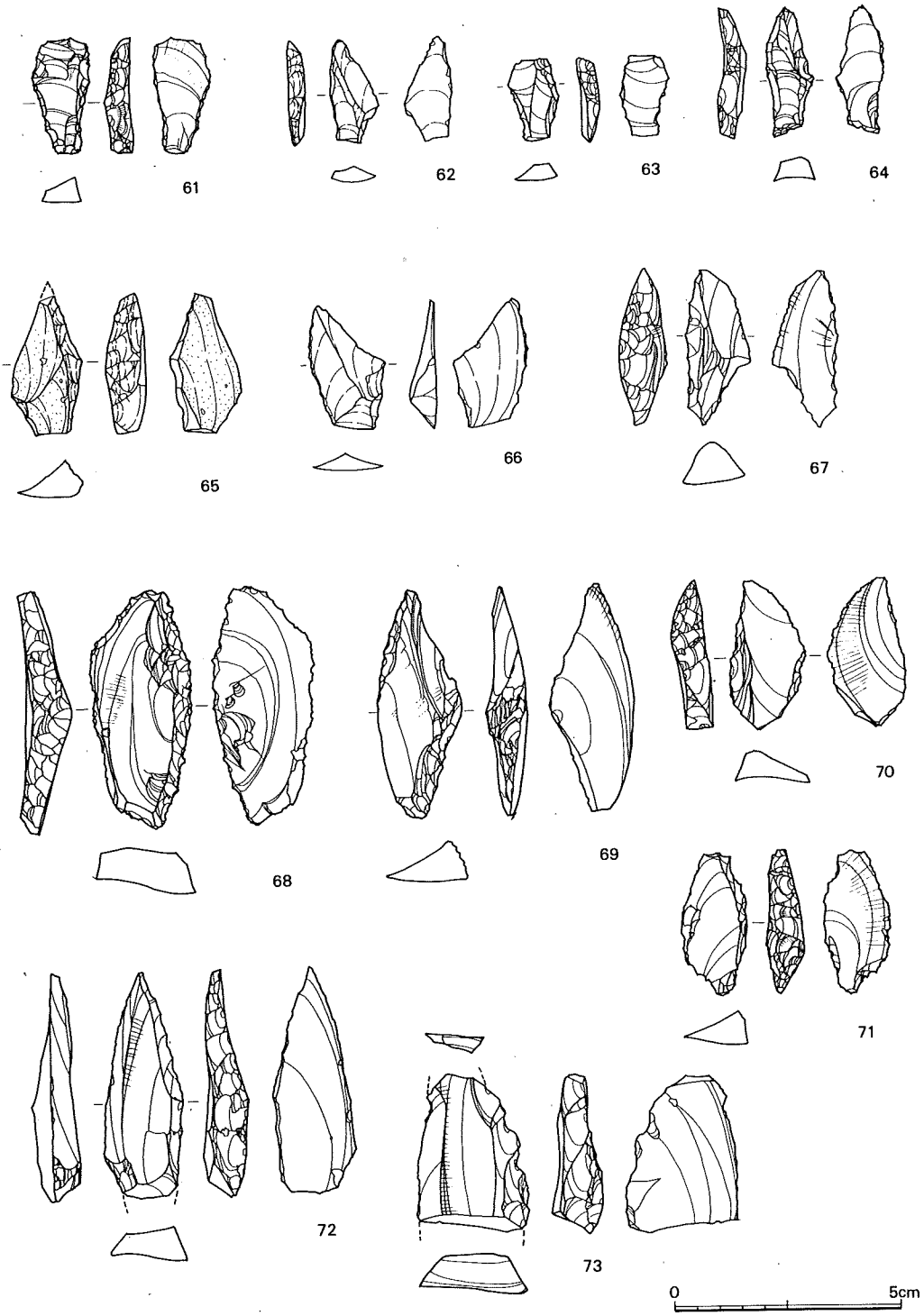


Fig. 23 先土器時代・出土石器⑬

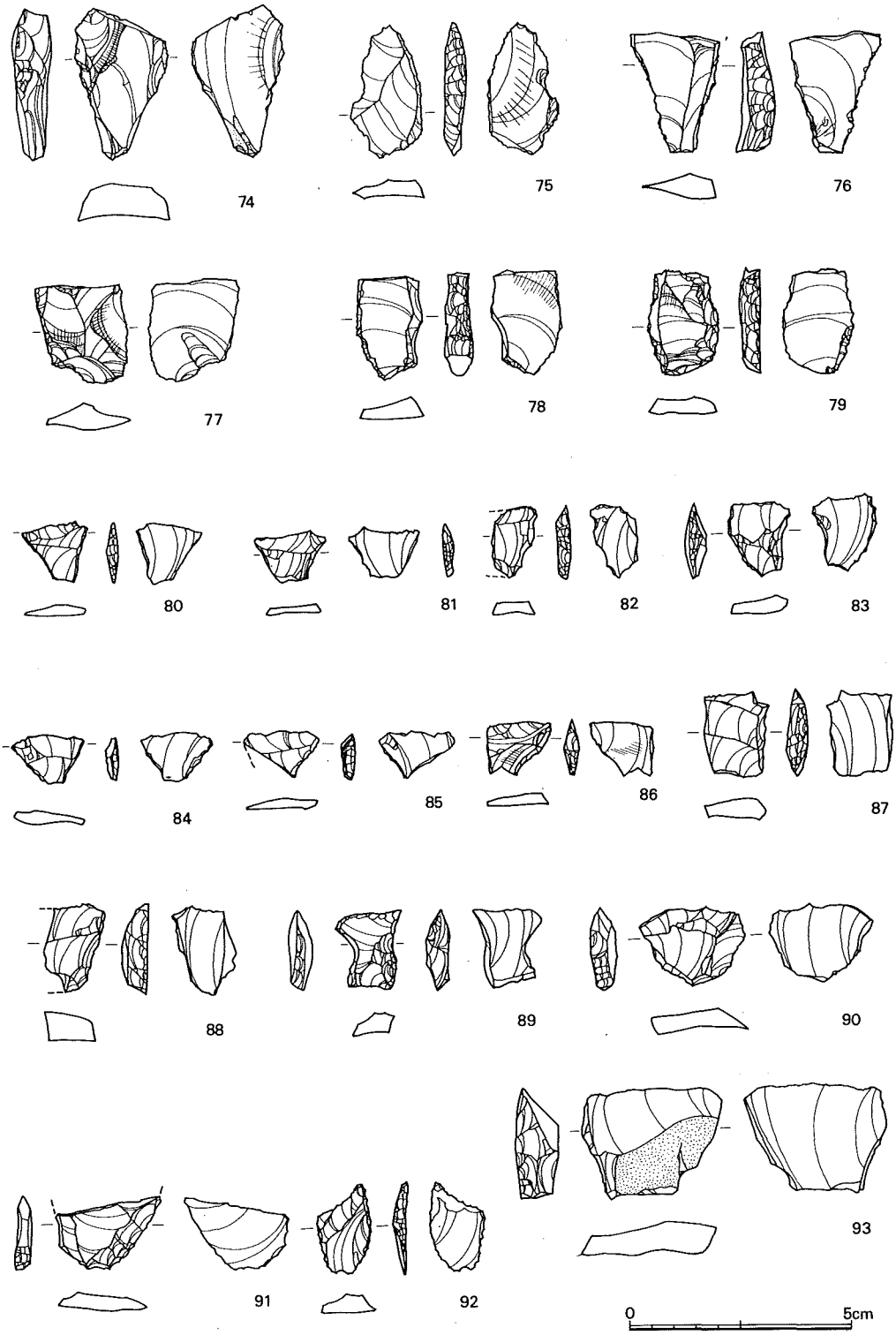


Fig. 24 先土器時代・出土石器⑭

以上，A地点のナイフ形石器は87点を数え，縦長剝片利用で二側縁加工を施し，柳葉形状を呈すもの，切出形状を呈すもの，素材剝片を基部に利用したものと一側縁加工で横長剝片を利用したものに分けられる。

台形・台形様石器
(Fig. 24—80～
Fig. 25～26—122)

総数45点を数え，刃部および側縁部の2次加工に特徴を持つ。

80～92は縦長剝片を利用した小形の台形石器で，刃部と基部が平行し刃部に最大幅をもち，台形状を呈す。二側縁の2次加工は主要剝離面側より急角度に施すもの。側縁部の2次加工は折断面を利用し，一側縁部のみ施すもの（86，87，93）と一側縁部のみ施すもの（90）以外は両側縁共に施すもので，中でも93は大形で他のものとは機能面で相違を呈すものであろう。利用石材は黒曜石A製5点，B製6点，C製1点。

94～101は台形様石器で横長剝片を利用し，直線的な刃部に斜交ないし直交する刃部を一側縁部にもつもので，側縁部の2次加工は一方は湾曲するように主要剝離面側より，他方は器表面より急角度に調整加工を施すもので，両側縁部の2次加工は錯交する剝離で整える。器表面に一端より平担な剝離を施すものがある。(96～98，101）利用石材は黒曜石A製4点，B製3点，C製1点。

102～113は台形様石器である。曲線的な刃部を呈し，刃部の両端が突出し，尖ったもの（102)。刃部と基部がほぼ平行して台形状を呈し，刃部の両端が突出し，側縁部の2次加工が錯交する剝離が施されるもの（103，104）とそうでないもの（105～107)。曲線的な刃部を呈し，102程に刃部の両端の突出がみられないもので，側縁部の2次加工は錯交する剝離を施し，器表面に一端より調整剝離を施すもの(108～111)。刃部と基部が平行し，三角形状を呈し，側縁部の2次加工は主要剝離面より鋭角に施すもの（112，113）がある。利用石材は黒曜石A製7点，B製2点，安山岩製2点。

114～122は直線ないし斜行する刃部を呈し，刃部に対して器長が長いもので，器表面に平坦な調整加工を施す。側縁部の2次加工が一側縁部あるいは折断面を利用し，他方は平坦な調整剝離を施すもの（114～118)。一端は調整加工で，他は折断面のもの(121)，器表面より2次加工を施し，平坦な調整剝離を施すもの（120)，鋭角に主要剝離面より施すもの（119)，縦長剝片を利用し，表・裏面より平坦な調整剝離で整えるもの（122）がある。利用石材は黒曜石A製3点，B製6点。

以上のとおり，A地点の台形・台形様石器は台形石器（80～92）と台

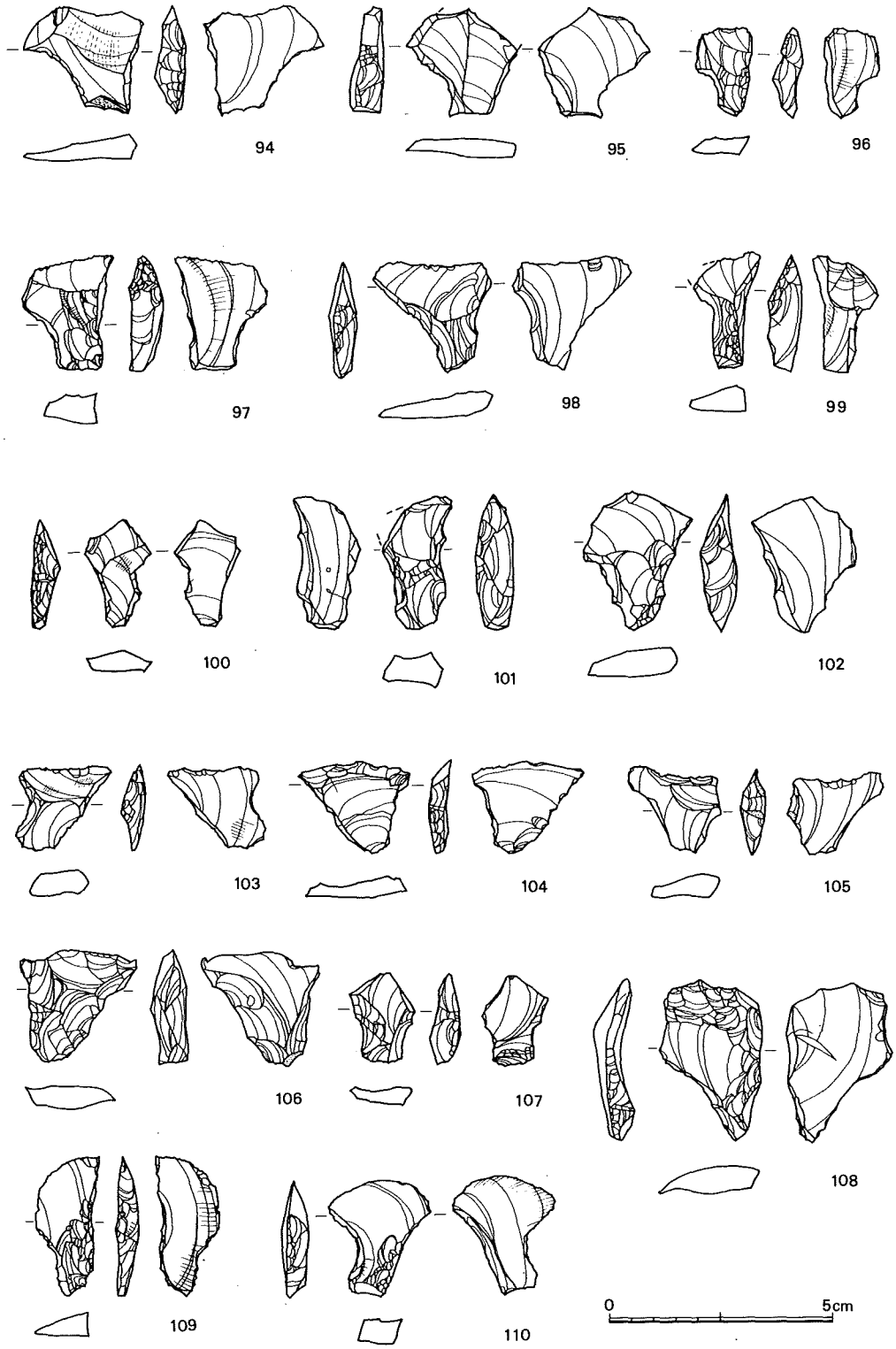


Fig. 25 先土器時代・出土石器⑮

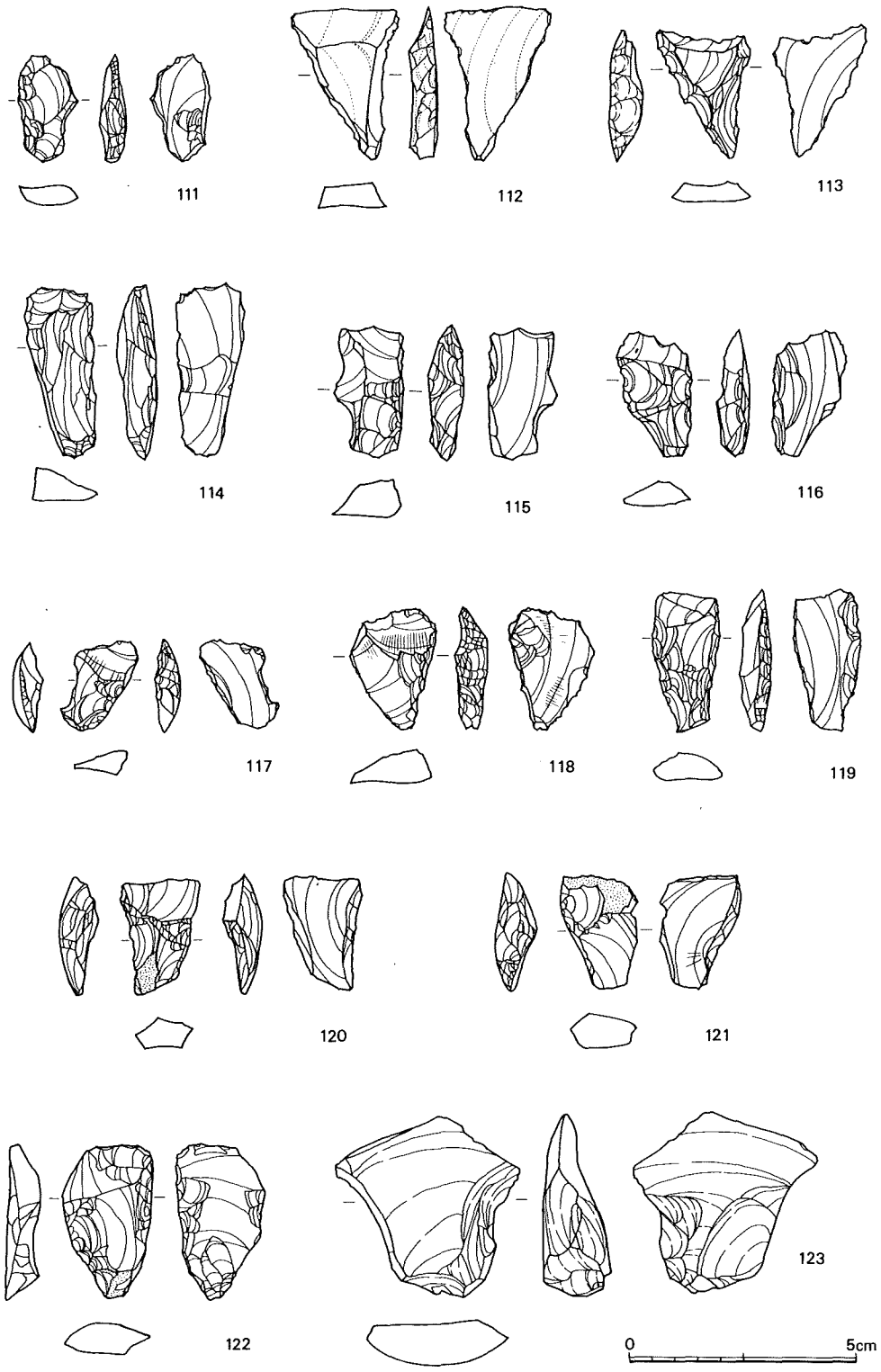


Fig. 26 先土器時代・出土石器⑯

形様石器（93～122）に分けられる。また台形様石器の中でも機能的な相違であろうか，形態的に分かれるようだ。

剝片尖頭器（Fig.26—123）　安山岩製で縦長剝片の打瘤部を基部に利用し，基部および一側縁部に2次加工を施している。斜行する刃部を呈すもので，先端部を欠損している。

三稜尖頭器（Fig.27—124～129）　横長および縦長剝片を利用し，主要剝離面側より急角度の2次加工を施し，断面が三角形状を呈し，稜上より再調整剝離を施すもの。127，129は先端部を欠損。利用石材は黒曜石A製2点，B製2点，安山岩製2点。

角錐状石器（Fig.27—130～132）　横長剝片を利用し，素材の打面側および他側縁部に主要剝離面側より2次加工を施すもので，先端部分が尖る。132は両端を欠損するもので，側縁部の2次加工は粗く，主要剝離面側にも粗い調整剝離を施している。

130の2次加工はナイフ形石器の刃潰し加工と同様な加工を施す。

利用石材は黒曜石A製1点，B製2点。

尖頭状石器（Fig. 27 —133, 134。Fig28—135～137）　横長剝片を利用し，素材剝片の打面部に2次加工を施し，それは他側の一部までおよぶもの。133，134は先端部欠損，134は基部を欠損している。利用石材は黒曜石

その他の尖頭器（Fig. 28 —128～140）　138は大形で断面が菱形を呈す。尖頭部が尖り，2次加工は粗い調整が施されている。安山岩製。

139は扁平な剝片の周縁に主要剝離面より2次加工を施し，主要剝離面の器先端部に調整剝離を施している。黒曜石B製。

140は三面加工の尖頭器で，胴，基部を欠損している。黒曜石B製。

楔形石器（Fig.28—141）　表・裏面共に平担な調整剝離を施したもの。裁断面を入れる前の段階のものと考えられる。

掻器・削器（Fig.28—142, 143, 145, 146）　142は掻器で胴部を欠損している。入念に主要剝離面より2次加工を施している。黒曜石A製。

143は打断剝片を利用し，側縁部に表裏面より2次加工を施したもの

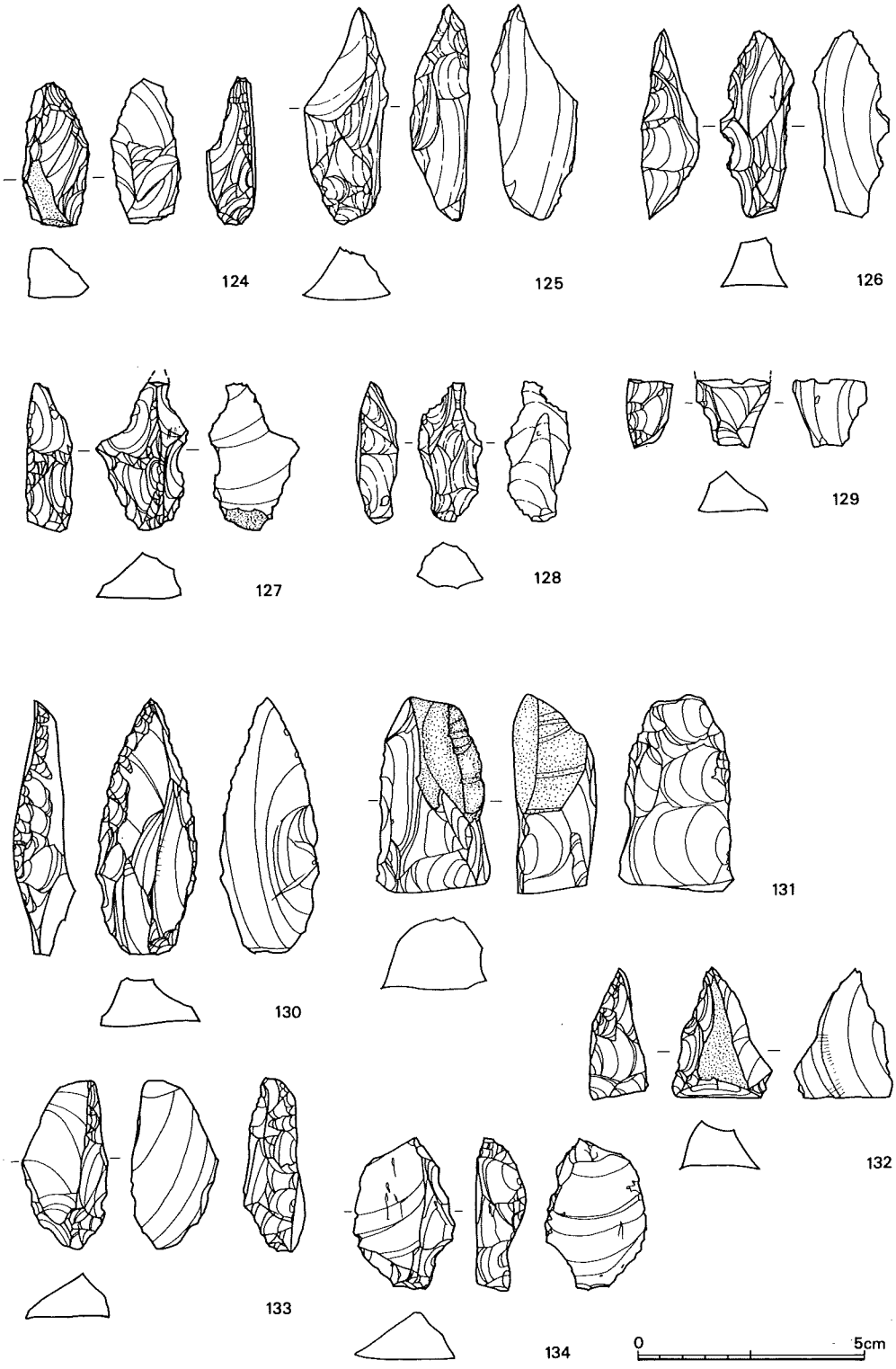


Fig. 27 先土器時代・出土石器⑰

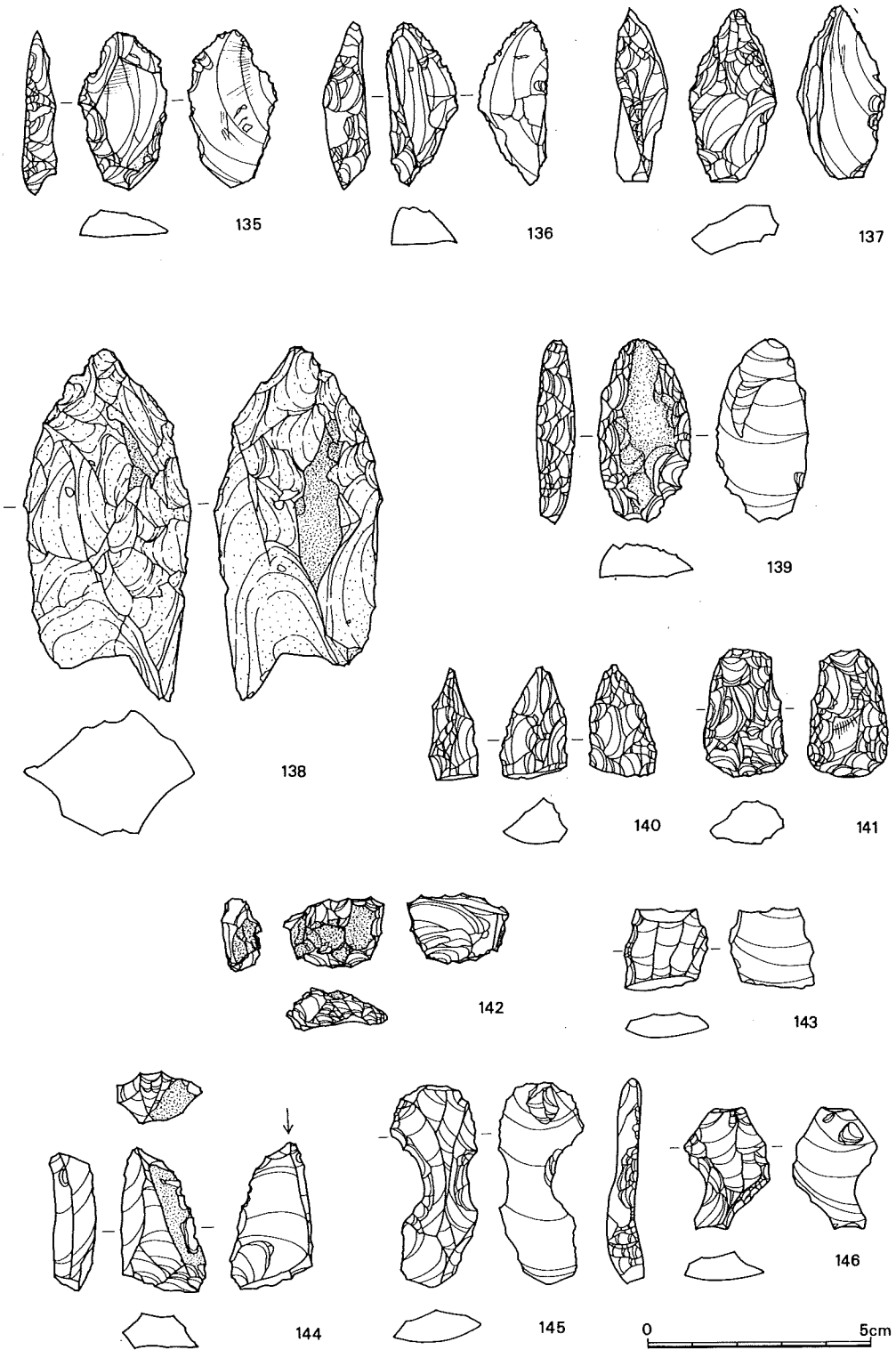


Fig. 28 先土器時代・出土石器⑱

で，145・146は共に両側縁に抉入状に加工痕があり，いずれも先端部分に2次加工が施されている。利用石材は黒曜石A製2点，B製1点。

彫器 (Fig. 28—144)　切断した縦長剝片を利用し，一側縁部に一条の樋状剝離を施したもので，先端から他側縁部にかけ調整剝離を施す。黒曜石B製。

加工痕ある石器 (Fig. 29 —147)　折断した縦長剝片の一端に主要剝離面側より急角度の2次加工を施したものである。黒曜石C製。

使用痕ある剝片 (Fig. 29 —148, 149)　148は不定形剝片を利用し，先端部に刃こぼれが顕著である。149は縦長剝片を利用し，両側縁部に刃こぼれがみられ，先端部折断。利用石材は黒曜石A製1点。B製1点。

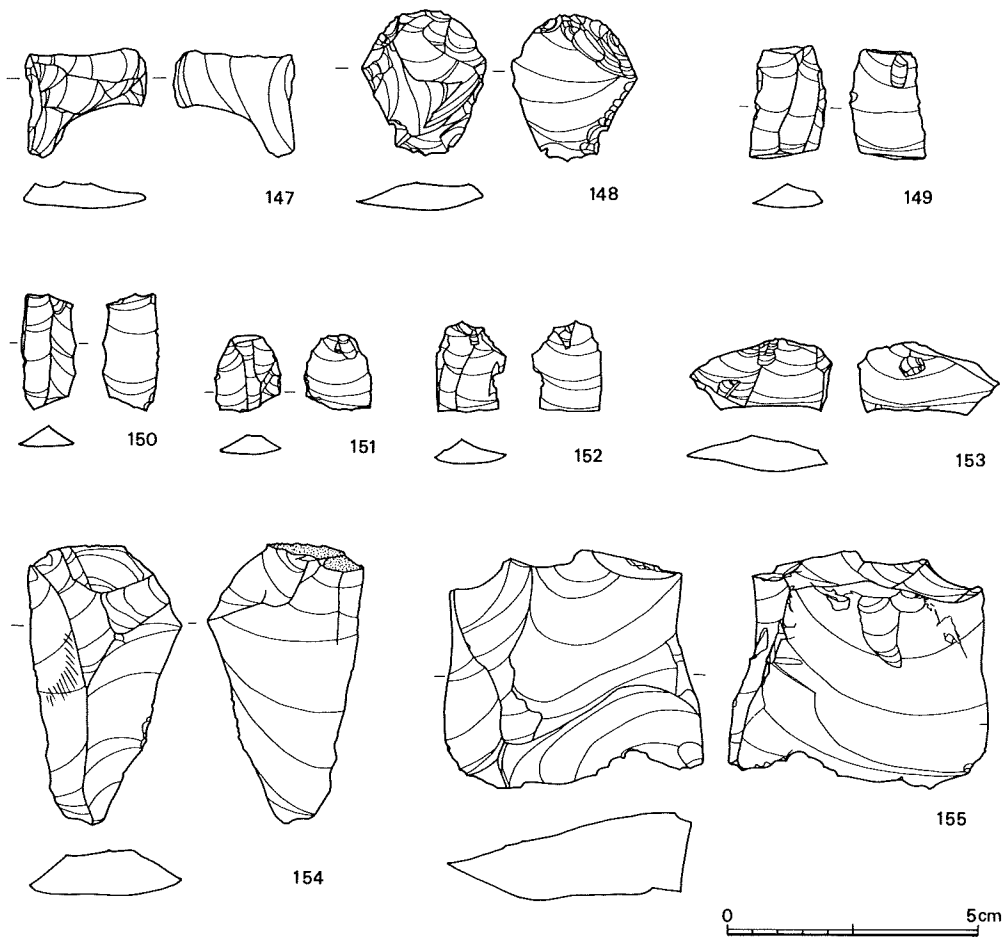


Fig. 29 先土器時代・出土石器⑲

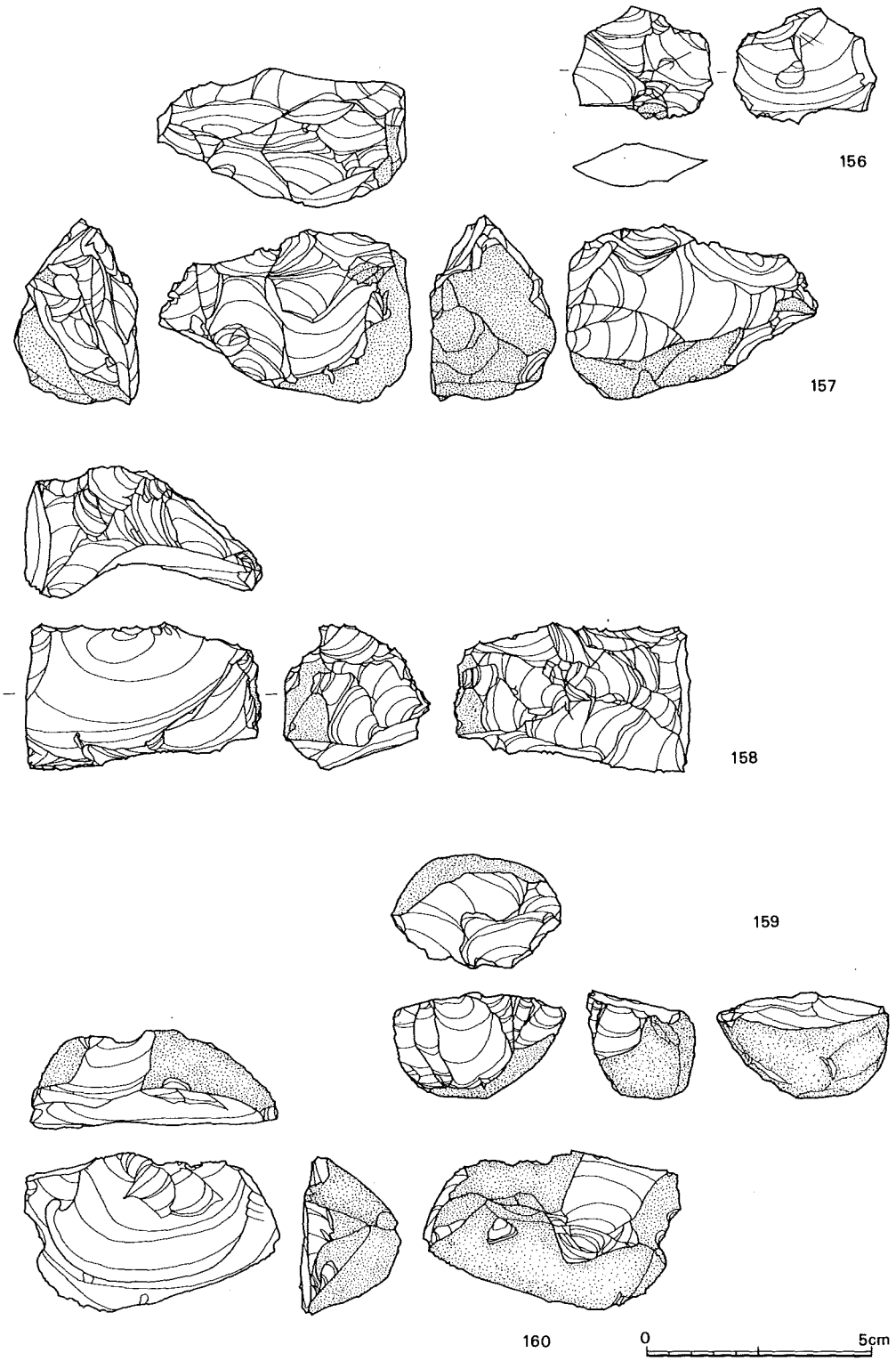


Fig. 30 先土器時代・出土石器⑳

石核 (Fig. 30—157～160)

横長剝片を目的に剝片剝離した（157，158，160）と縦長剝片を剝離した（159）に分けられる。

157は156の剝片と接合するもので，この石核は打面が自然面の縦長剝片を剝離し，その剝離痕面を打面にして，再び横長剝片を剝離している。断面が三角形状を呈し，打面と剝離面のなす稜は波状を呈す。黒曜石B製。

158，160は横長剝片を剝離したもので，160の打面部は自然面である。黒曜石A製。

159は小円礫を利用し，平担打面を呈し，6条の剝離痕を残す。皆，底面は自然面を残す。黒曜石C製。

剝片 (Fig. 29—150～155，Fig. 30—156)

150は折断剝片で，151～154は縦長剝片で，打面部が平担なもの（153），線状（151），調整（152，156），自然面（154）を呈す。

155は平担打面で打面部が肥厚する横長剝片である。利用石材は黒曜石A製2点，B製4点。

Tab. 4　先土器時代の石器計測表

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	形態分類	計測値 (cm, g) 全長	最大巾	厚さ	重量	備考
11－1	C 8	III	細石核	B_2		3.25	3.32	2.22	21.9	
2	F 6	〃	〃	A		3.3	2.12	1.99	11.3	
3	C 9	〃	〃	A		2.55	2.34	1.28	6.0	
4	D11	〃	石核	A		1.76	2.73	1.8	10.9	
5	C 9	〃	細石核ブランク	A		2.04	3.37	0.78	5.3	
6	G 6	〃	細石核ブランク	B 2		2.4	3.77	1.33	10.15	
7	C 9	〃	細石核再生剝片	A		1.94	1.12	0.62	1.15	
8	E 8	〃	細石核再生剝片	B_2		2.86	1.05	0.99	2.3	
9	D 8	〃	細石刃	B_2	頭	2.55	0.65	0.3	0.55	接合
	D 8	〃	〃	B_2	中	1.8	0.8	0.3	0.35	
10	D 8	〃	〃	B_1	中	1.35	0.8	0.29	0.25	接合
	D 8	〃	〃	B_1	先	2.1	0.85	0.29	0.6	
11	C 9	〃	〃	A	中	1.7	0.65	0.26	0.2	接合
	C 9	〃	〃	A	中	1.6	0.65	0.26	0.25	
12	D 8	〃	〃	B_1	頭	0.9	0.6	0.18	0.15	接合
	D 8	〃	〃	B_1	中	0.9	0.65	0.18	0.1	
13	F 2	〃	〃	B_2	頭	0.8	0.7	0.14	0.1	接合
	F 2	〃	〃	B_2	中	0.85	0.7	0.14	0.1	
14	C 8	〃	〃	B_2	中	1.0	0.7	0.19	0.1	接合
	C 8	〃	〃	B_2	中	0.5	0.7	0.19	0.05	
12－15	C 8	〃	〃	B_2	頭	2.1	1.1	0.23	0.5	
16	E 6	〃	〃	B_2	頭	2.6	0.75	0.21	0.55	
17	F 6	〃	〃	B_2	頭	2.0	1.25	0.35	0.95	
18	C 9	〃	〃	A	頭	2.15	0.9	0.38	0.5	
19	C 8	〃	〃	B_2	頭	2.3	0.7	0.27	0.45	
20	C 9	〃	〃	B_2	頭	2.1	0.65	0.2	0.3	
21	D 8	〃	〃	B_2	頭	1.75	0.9	0.18	0.5	
22	C 9	〃	〃	B_2	頭	2.1	0.65	0.2	0.4	
23	C 9	〃	〃	B_1	頭	2.0	0.9	0.25	0.4	
24	C 8	〃	〃	B_2	頭	1.7	0.9	0.21	0.35	
25	C 8	〃	〃	B_2	頭	1.8	0.8	0.25	0.3	
26	E 6	〃	〃	B_2	頭	2.0	0.7	0.21	0.4	
27	D 8	〃	〃	B_2	頭	1.9	0.6	0.18	0.2	
28	B 9	〃	〃	B_2	頭	1.9	0.75	0.2	0.2	
29	B 9	〃	〃	B_2	頭	1.7	0.75	0.2	0.25	
30	D 8	〃	〃	B_2	頭	1.8	0.8	0.2	0.35	
31	C 9	〃	〃	B_2	頭	1.95	0.85	0.25	0.25	
32	C10	〃	〃	A	頭	1.75	0.8	0.25	0.4	
33	B 9	〃	〃	B_2	頭	2.05	0.65	0.13	0.3	
34	C 8	〃	〃	A	頭	1.5	0.8	0.2	0.25	
35	B 8	〃	〃	B_1	頭	1.5	0.75	0.2	0.3	
36	C 8	〃	〃	B_2	頭	1.3	0.95	0.28	0.3	
37	E 6	〃	〃	B_2	頭	1.3	0.85	0.25	0.3	
38	C 8	〃	〃	B_2	頭	1.4	0.9	0.28	0.3	
39	E 9	〃	〃	B_2	頭	1.3	1.05	0.17	0.3	
40	B 9	〃	〃	B_2	頭	1.5	0.85	0.2	0.3	
41	C 8	〃	〃	B_2	頭	1.5	1.0	0.3	0.45	
42	C 8	〃	〃	B_2	頭	1.2	1.0	0.2	0.25	

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	形態分類	計測値 (cm g) 全長	最大巾	厚さ	重量	備考
12−43	D 8	III	細石刃	B_2	頭	1.5	0.9	0.12	0.2	
44	C 8	〃	〃	B_2	頭	1.5	0.8	0.21	0.2	
45	B 9	〃	〃	B_1	頭	1.2	0.95	0.18	0.2	
46	B 8	〃	〃	A	頭	1.35	0.75	0.18	0.2	
47	C 9	〃	〃	B_2	頭	1.5	0.8	0.2	0.2	
48	E 6	〃	〃	B_1	頭	1.5	0.75	0.22	0.15	
49	D 7	〃	〃	B_2	頭	1.3	0.75	0.15	0.2	
50	E 9	〃	〃	A	頭	1.5	0.8	0.18	0.2	
51	C 8	〃	〃	A	頭	1.4	0.8	0.25	0.2	
52	C 9	〃	〃	B_2	頭	1.05	0.7	0.2	0.1	
53	E 6	〃	〃	B_2	頭	1.35	0.8	0.3	0.4	
54	C 8	〃	〃	A	頭	1.15	0.7	0.28	0.2	
55	B 8	〃	〃	B_2	頭	1.1	1.0	0.3	0.4	
56	C 8	〃	〃	A	頭	1.15	0.9	0.2	0.2	
57	E 7	〃	〃	A	頭	1.55	0.75	0.2	0.2	
58	E 9	〃	〃	A	頭	1.3	0.85	0.2	0.3	
59	C 8	〃	〃	A	頭	1.25	0.85	0.25	0.2	
60	E 7	〃	〃	B_1	頭	1.3	0.8	0.22	0.25	
61	B 9	〃	〃	B_2	頭	1.2	0.8	0.2	0.2	
62	E 8	〃	〃	B_2	頭	0.8	0.9	0.2	0.15	
63	E 9	〃	〃	A	頭	1.8	0.4	0.1	0.15	
64	C 8	〃	〃	B_2	頭	1.4	0.55	0.2	0.15	
65	C 8	〃	〃	B_2	頭	1.5	0.7	0.18	0.2	
66	F 5	〃	〃	B_2	頭	1.5	0.65	0.3	0.2	
67	C 8	〃	〃	B_2	頭	1.4	0.65	0.2	0.1	
68	C 9	〃	〃	A	頭	1.15	0.8	0.22	0.2	
69	D 8	〃	〃	B_2	頭	1.35	0.6	0.2	0.2	
70	D 8	〃	〃	A	頭	1.5	0.6	0.12	0.1	
71	D 8	〃	〃	B_2	頭	1.45	0.6	0.2	0.2	
13−72	E 6	〃	〃	B_2	頭	1.2	0.75	0.3	0.2	
73	C 8	〃	〃	B_2	頭	1.2	0.7	0.2	0.2	
74	D 7	〃	〃	A	頭	1.1	0.85	0.2	0.15	
75	E 8	〃	〃	B_2	頭	1.0	0.9	0.16	0.15	
76	C 8	〃	〃	B_2	頭	1.0	0.75	0.25	0.15	
77	C 8	〃	〃	A	頭	1.3	0.5	0.25	0.15	
78	E 6	〃	〃	A	頭	1.25	0.6	0.15	0.1	
79	C 8	〃	〃	A	頭	1.15	0.7	0.25	0.15	
80	C 9	〃	〃	B_2	頭	1.2	0.65	0.21	0.2	
81	D 8	〃	〃	B_2	頭	1.2	0.75	0.16	0.1	
82	C 8	〃	〃	A	頭	1.3	0.75	0.2	0.15	
83	C 8	〃	〃	B_2	頭	1.15	0.7	0.21	0.2	
84	C 8	〃	〃	B_2	頭	0.9	0.9	0.21	0.15	
85	D11	〃	〃	B_2	頭	1.15	0.7	0.18	0.15	
86	C 8	〃	〃	B_2	頭	0.9	0.9	0.2	0.1	
87	F 8	〃	〃	A	頭	0.9	0.7	0.2	0.1	
88	C 8	〃	〃	B_2	頭	0.9	0.65	0.2	0.1	
89	D 7	〃	〃	B_2	頭	1.0	0.6	0.1	0.1	
90	E 8	〃	〃	A	頭	0.9	0.7	0.1	0.1	

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	形態分類	計測値 (cm g) 全長	最大巾	厚さ	重量	備考
13−91	C 8	III	細石刃	B_2	頭	1.0	0.7	0.1	0.1	
92	E 6	〃	〃	A	頭	1.0	0.7	0.2	0.1	
93	D 6	〃	〃	A	頭	1.0	0.6	0.19	0.1	
94	E 6	〃	〃	A	頭	0.7	0.8	0.13	0.05	
95	D 4	〃	〃	B_2	頭	0.8	0.65	0.15	0.1	
96	C 8	〃	〃	A	頭	0.75	0.6	0.25	0.1	
97	E 6	〃	〃	A	頭	0.65	0.7	0.18	0.05	
98	E13	〃	〃	A	頭	0.9	0.45	0.08	0.01	
99	F 2	〃	〃	B_1	頭	1.15	0.6	0.2	0.1	
100	C 8	〃	〃	B_2	頭	0.9	0.5	0.25	0.1	
101	D 9	〃	〃	B_2	頭	1.15	0.5	0.16	0.1	
102	C 9	〃	〃	B_1	頭	1.3	0.4	0.2	0.1	
103	E 6	〃	〃	A	頭	0.95	0.55	0.15	0.05	
104	E 2	〃	〃	B_2	頭	1.8	0.7	0.15	0.3	
105	C 8	〃	〃	A	頭	1.25	0.4	0.2	0.05	
106	F 7	〃	〃	A	頭	1.0	0.75	0.2	0.1	
107	C 8	〃	〃	A	頭	1.8	0.55	0.2	0.15	
108	E 6	〃	〃	A	頭	1.6	0.65	0.2	0.15	
109	F 9	遺構	〃	A	頭	1.4	0.65	0.18	0.1	
110	C11	III	〃	A	頭	1.4	0.85	0.15	0.3	
111	C 8	〃	〃	C_2	頭	1.4	0.55	0.2	0.1	
112	B 8	〃	〃	C_2	頭	0.9	0.95	0.2	0.15	
113	C 7	〃	〃	C_2	頭	1.1	0.9	0.2	0.2	
114	D 6	〃	〃	C_1	頭	1.95	0.65	0.23	0.3	
115	C 8	〃	〃	C_2	頭	1.6	0.8	0.21	0.3	
116	B 9	〃	〃	C_2	頭	1.5	0.75	0.28	0.3	
117	D 8	〃	〃	C_2	頭	1.4	0.85	0.23	0.2	
118	I 14	〃	〃	C_1	頭	1.1	0.6	0.2	0.15	
119	C 8	〃	〃	C_2	頭	0.9	0.7	0.2	0.1	
120	C 9	〃	〃	C_1	頭	0.75	0.8	0.2	0.1	
121	B 9	〃	〃	B_1	中	2.7	1.0	0.35	1.05	
122	B 8	〃	〃	B_2	中	2.05	0.85	0.28	0.5	
123	B 8	〃	〃	B_2	中	2.0	0.85	0.18	0.3	
124	B 9	〃	〃	B_2	中	2.2	0.65	0.1	0.3	
125	B 9	〃	〃	B_1	中	2.0	0.7	0.3	0.4	
126	E 6	〃	〃	B_1	中	1.6	1.0	0.25	0.45	
127	D 7	〃	〃	B_2	中	2.25	0.9	0.18	0.65	
128	C 8	〃	〃	B_2	中	2.05	0.8	0.25	0.4	
129	E 7	〃	〃	B_1	中	1.8	0.7	0.2	0.3	
130	C 8	〃	〃	B_2	中	1.65	0.6	0.2	0.3	
131	C 9	〃	〃	B_2	中	1.55	0.65	0.18	0.15	
132	C 9	〃	〃	B_2	中	1.65	0.7	0.2	0.25	
133	D 9	〃	〃	B_2	中	1.75	0.65	0.2	0.2	
134	E10	〃	〃	B_2	中	1.75	0.55	0.31	0.2	
135	D 8	〃	〃	B_2	中	1.85	0.8	0.18	0.25	
14−136	C 8	〃	〃	B_2	中	1.65	0.75	0.21	0.2	
137	D 8	〃	〃	B_2	中	1.75	0.75	0.18	0.2	
138	C10	〃	〃	B_2	中	1.9	0.55	0.25	0.2	

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	形態分類	計測値 (cm g) 全長	最大巾	厚さ	重量	備考
139	E 6	〃	〃	B_2	中	1.7	0.55	0.2	0.25	
140	E 6	〃	〃	B_2	中	1.6	0.75	0.2	0.3	
141	E 9	〃	〃	B_2	中	1.45	0.65	0.28	0.2	
142	D 8	〃	〃	B_2	中	1.75	0.8	0.28	0.4	
143	C 9	〃	〃	B_2	中	1.8	0.7	0.2	0.15	
144	B 9	〃	〃	B_2	中	1.6	0.8	0.2	0.3	
14-145	B 8	II	細石刃	B_2	中	1.6	0.8	0.2	0.3	
146	E 6	〃	〃	B_2	中	1.45	0.95	0.21	0.25	
147	C11	〃	〃	B_2	中	1.5	0.75	0.2	0.3	
148	E 6	〃	〃	B_1	中	1.25	1.0	0.21	0.3	
149	D 4	〃	〃	B_2	中	1.1	1.0	0.18	0.2	
150	C 8	〃	〃	B_1	中	1.0	0.9	0.18	0.15	
151	C 9	〃	〃	B_1	中	1.3	0.9	0.15	0.15	
152	E 6	〃	〃	B_2	中	1.0	0.9	0.2	0.15	
153	E 6	〃	〃	B_2	中	1.3	1.0	0.13	0.15	
154	F 3	〃	〃	B_2	中	1.15	0.8	0.2	0.2	
155	E 8	〃	〃	B_2	中	1.35	0.85	0.16	0.25	
156	D 8	〃	〃	B_1	中	1.2	0.85	0.18	0.2	
157	C 9	〃	〃	B_2	中	1.25	1.0	0.3	0.35	
158	B 9	〃	〃	B_2	中	1.5	0.7	0.08	0.2	
159	E 6	〃	〃	B_2	中	1.05	0.8	0.2	0.2	
160	C 8	〃	〃	B_2	中	0.9	1.0	0.18	0.15	
161	C 9	〃	〃	B_2	中	1.2	0.85	0.15	0.1	
162	E 6	〃	〃	B_2	中	1.0	0.7	0.22	0.15	
163	E 6	〃	〃	B_2	中	1.55	0.7	0.14	0.2	
164	D 8	〃	〃	B_1	中	1.4	0.65	0.18	0.2	
165	D 8	〃	〃	B_2	中	1.2	0.65	0.15	0.15	
166	E 6	〃	〃	B_2	中	1.25	0.7	0.18	0.2	
167	D 8	〃	〃	B_2	中	1.3	0.75	0.14	0.15	
168	C 8	〃	〃	B_1	中	1.4	0.75	0.22	0.15	
169	D 8	〃	〃	B_2	中	1.1	0.8	0.17	0.05	
170	C 8	〃	〃	B_2	中	1.3	0.65	0.2	0.15	
171	C 9	〃	〃	B_2	中	1.35	0.7	0.17	0.2	
172	E 2	〃	〃	A	中	1.5	0.7	0.2	0.2	
173	E 6	〃	〃	B_2	中	1.25	0.7	0.28	0.2	
174	E 6	〃	〃	B_2	中	1.5	0.85	0.15	0.2	
175	E 6	〃	〃	C_2	中	1.1	0.95	0.2	0.2	
176	C 9	〃	〃	B_2	中	1.2	0.75	0.23	0.2	
177	E 8	〃	〃	B_1	中	1.3	0.65	0.24	0.2	
178	E 6	〃	〃	B_1	中	0.85	0.7	0.2	0.25	
179	C 9	〃	〃	B_2	中	1.4	0.7	0.24	0.2	
180	C 8	〃	〃	B_2	中	1.45	0.7	0.23	0.15	
181	E 6	〃	〃	B_2	中	0.8	0.7	0.22	0.2	
182	E 6	〃	〃	B_2	中	1.3	0.75	0.19	0.2	
183	E 6	〃	〃	C_1	中	1.15	0.9	0.18	0.15	
184	D 8	〃	〃	B_2	中	1.2	0.6	0.15	0.1	
185	E 6	〃	〃	B_2	中	0.9	0.8	0.2	0.15	
188	B 9	〃	〃	B_2	中	1.1	0.75	0.18	0.1	

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	形態分類	計測値 (cm g) 全長	最大巾	厚さ	重量	備考
189	E 2	〃	〃	B_2	中	1.25	0.65	0.13	0.1	
190	E 6	〃	〃	B_2	中	1.25	0.65	0.18	0.2	
191	C 7	〃	〃	B_2	中	1.1	0.65	0.15	0.2	
192	G 7	〃	〃	B_2	中	1.4	0.65	0.18	0.15	
193	C 8	〃	〃	B_1	中	1.3	0.6	0.18	0.15	
194	C11	〃	〃	B_2	中	1.55	0.5	0.15	0.15	
14-195	D 7	II	細石刃	B_2	中	1.25	0.55	0.14	0.1	
196	D 8	〃	〃	B_2	中	1.25	0.45	0.18	0.1	
197	F 6	〃	〃	B_2	中	1.1	0.6	0.2	0.1	
198	C 8	〃	〃	B_1	中	1.45	0.5	0.25	0.15	
199	E 7	〃	〃	B_2	中	1.35	0.55	0.18	0.15	
200	B 9	〃	〃	B_2	中	1.35	0.7	0.15	0.1	
201	C 8	〃	〃	B_2	中	0.9	0.7	0.15	0.1	
202	F 9	〃	〃	B_2	中	0.95	0.7	0.2	0.1	
203	D 4	〃	〃	B_2	中	1.45	0.5	0.21	0.1	
204	B 9	〃	〃	B_2	中	1.1	0.75	0.2	0.1	
205	E 2	〃	〃	B_2	中	1.4	0.55	0.18	0.1	
206	C 9	〃	〃	B_2	中	1.15	0.6	0.2	0.1	
207	C 9	〃	〃	B_1	中	1.0	0.8	0.2	0.1	
208	C 7	〃	〃	B_2	中	1.25	0.5	0.15	0.1	
209	C 8	〃	〃	B_2	中	0.9	0.75	0.15	0.1	
210	C 9	〃	〃	B_1	中	0.9	0.7	0.2	0.1	
211	E 6	〃	〃	B_2	中	1.0	0.65	0.15	0.1	
15-212	D 6	〃	〃	B_2	中	0.8	0.7	0.16	0.1	
213	C 8	〃	〃	B_2	中	1.0	0.7	0.3	0.15	
214	E 6	〃	〃	B_2	中	1.0	0.65	0.08	0.1	
215	E 9	〃	〃	B_2	中	1.0	0.6	0.22	0.1	
216	E 6	〃	〃	B_2	中	1.0	0.7	0.16	0.1	
217	C 8	〃	〃	B_2	中	0.95	0.55	0.2	0.1	
218	C 8	〃	〃	B_2	中	0.95	0.8	0.1	0.05	
219	F11	〃	〃	B_1	中	0.8	0.6	0.22	0.1	
220	B 8	〃	〃	B_2	中	0.85	0.65	0.22	0.1	
221	E 9	〃	〃	B_2	中	0.9	0.5	0.08	0.05	
222	D 7	〃	〃	B_2	中	1.1	0.7	0.15	0.1	
223	H11	〃	〃	B_2	中	1.1	0.6	0.2	0.1	
224	E 6	〃	〃	B_1	中	0.85	0.75	0.23	0.1	
225	F 9	〃	〃	B_2	中	1.0	0.75	0.12	0.15	
226	D 4	〃	〃	B_2	中	0.9	0.7	0.18	0.1	
227	D 7	〃	〃	B_2	中	1.0	0.65	0.15	0.1	
228	D 8	〃	〃	B_2	中	0.9	0.6	0.13	0.1	
229	D 7	〃	〃	B_2	中	1.15	0.55	0.15	0.1	
230	D 8	〃	〃	B_1	中	1.15	0.5	0.18	0.1	
231	C 9	〃	〃	B_2	中	0.85	0.6	0.15	0.1	
232	C 8	〃	〃	B_2	中	0.65	0.6	0.15	0.05	
233	C 8	〃	〃	B_2	中	0.7	0.65	0.16	0.1	
234	C 8	〃	〃	B_2	中	0.85	0.45	0.1	0.05	
235	C 8	〃	〃	B_2	中	0.85	0.55	0.18	0.1	
236	F 7	〃	〃	B_2	中	1.0	0.5	0.2	0.1	

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	形態分類	計測値(cm g) 全長	最大巾	厚さ	重量	備考
237	D 8	III	細石刃	B_2	中	1.05	0.6	0.1	0.1	
238	E 6	〃	〃	B_2	中	0.95	0.5	0.12	0.05	
239	D 4	〃	〃	B_2	中	0.95	0.55	0.13	0.1	
240	E 6	〃	〃	B_2	中	1.0	0.65	0.26	0.2	
241	C 8	〃	〃	B_2	中	1.1	0.6	0.18	0.15	
242	C 9	〃	〃	B_2	中	0.8	0.65	0.18	0.1	
243	C 8	〃	〃	B_2	中	0.65	0.55	0.18	0.1	
244	D 8	〃	〃	B_1	中	0.95	0.7	0.18	0.1	
245	F 9	〃	〃	B_2	中	0.85	0.6	0.15	0.05	
246	D 8	〃	〃	B_2	中	1.2	0.45	0.12	0.05	
247	G 6	〃	〃	B_2	中	0.65	0.6	0.22	0.1	
248	D 3	〃	〃	B_2	中	1.0	0.65	0.18	0.2	
249	E 8	〃	〃	B_1	中	0.8	0.65	0.27	0.1	
250	F11	〃	〃	B_2	中	0.75	0.7	0.18	0.1	
251	E 6	〃	〃	B_2	中	0.6	0.6	0.15	0.05	
252	C 8	〃	〃	B_1	中	0.7	0.45	0.08	0.01	
253	H10	〃	〃	B_2	中	0.9	0.45	0.17	0.05	
254	E 2	〃	〃	B_2	中	0.9	0.5	0.13	0.1	
255	F 2	〃	〃	B_2	中	0.7	0.55	0.12	0.05	
256	X35	〃	〃	B_2	中	0.45	0.4	0.18	0.1	
257	D 7	〃	〃	B_2	中	0.5	0.55	0.11	0.05	
258	D 8	〃	〃	B_2	中	0.55	0.65	0.15	0.1	
259	F 2	〃	〃	B_2	中	0.8	0.6	0.22	0.1	
260	D 9	〃	〃	B_2	中	0.6	0.6	0.1	0.05	
261	D 8	〃	〃	B_2	中	0.6	0.5	0.18	0.05	
262	D 7	〃	〃	B_2	中	0.65	0.4	0.12	0.05	
263	E 7	〃	〃	B_2	中	0.7	0.5	0.13	0.05	
264	B 8	〃	〃	B_2	中	0.65	0.5	0.15	0.05	
265	B 9	〃	〃	B_2	中	0.55	0.75	0.18	0.1	
266	D 8	〃	〃	B_1	中	0.75	0.5	0.18	0.15	
267	E 6	〃	〃	B_2	中	0.75	0.5	0.12	0.05	
268	C 8	〃	〃	B_2	中	0.85	0.55	0.21	0.1	
269	C 9	〃	〃	B_2	中	0.9	0.55	0.15	0.05	
270	C 8	〃	〃	B_1	中	0.7	0.55	0.18	0.05	
271	Q17	〃	〃	B_2	中	0.75	0.35	0.1	0.01	
272	E 2	〃	〃	A	中	0.85	0.65	0.13	0.05	
273	C 8	〃	〃	B_1	中	0.95	0.5	0.13	0.05	
274	K16	〃	〃	B_2	中	0.9	0.4	0.16	0.1	
275	C 9	〃	〃	A	中	0.8	0.9	0.34	0.1	
276	E 9	〃	〃	A	中	0.6	0.65	0.2	0.1	
277	F 7	〃	〃	A	中	0.95	0.6	0.26	0.1	
278	F10	〃	〃	A	中	0.75	0.7	0.12	0.05	
279	C 8	〃	〃	A	中	1.1	0.65	0.08	0.1	
280	B 8	〃	〃	A	中	0.65	0.7	0.2	0.1	
281	E 6	〃	〃	A	中	1.2	0.55	0.08	0.05	
282	C 8	〃	〃	A	中	0.7	0.5	0.14	0.05	
283	C 8	〃	〃	A	中	0.85	0.6	0.18	0.1	
284	E 6	〃	〃	A	中	0.75	0.6	0.15	0.05	

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	形態分類	計測値 (cm g) 全長	最大巾	厚さ	重量	備考
285	G 9	III	細石刃	A	中	0.7	0.65	0.18	0.05	
286	C 8	〃	〃	A	中	0.85	0.5	0.13	0.05	
287	E 6	〃	〃	A	中	0.8	0.7	0.15	0.05	
288	D 8	〃	〃	A	中	0.75	0.55	0.13	0.05	
289	E13	〃	〃	A	中	0.55	0.9	0.14	0.1	
290	D 8	〃	〃	A	中	0.85	0.65	0.18	0.1	
291	E10	II	細石刃	A	中	0.95	0.8	00.2	00.15	
292	C 8	〃	〃	A	中	0.65	0.85	0.15	0.05	
16-293	F 8	〃	〃	A	中	1.6	0.45	0.15	0.1	
294	G10	〃	〃	A	中	1.45	0.6	0.22	0.2	
295	C 9	〃	〃	A	中	1.55	0.65	0.23	0.2	
296	B 8	〃	〃	A	中	1.4	0.7	0.22	0.2	
297	E 7	〃	〃	A	中	1.3	0.8	0.18	0.25	
298	B 8	〃	〃	A	中	1.4	0.7	0.14	0.25	
299	I 9	〃	〃	A	中	1.5	0.7	0.21	0.2	
300	D 8	〃	〃	A	中	1.5	0.7	0.18	0.2	
301	C 8	〃	〃	A	中	1.4	0.65	0.21	0.15	
302	C 9	〃	〃	A	中	1.4	0.75	0.21	0.15	
303	M11	〃	〃	A	中	1.5	0.65	0.17	0.15	
304	C 9	〃	〃	A	中	1.4	0.65	0.27	0.15	
305	K13	〃	〃	A	中	1.05	0.8	0.2	0.1	
306	E 6	〃	〃	A	中	1.2	0.7	0.2	0.15	
307	E 6	〃	〃	A	中	0.95	0.8	0.21	0.25	
308	E 6	〃	〃	A	中	1.0	0.65	0.13	0.1	
309	C 8	〃	〃	A	中	0.9	0.9	0.15	0.15	
310	G 5	〃	〃	A	中	1.25	0.75	0.15	0.2	
311	D 8	〃	〃	A	中	1.25	0.65	0.13	0.1	
312	D 8	〃	〃	A	中	1.15	0.75	0.28	0.15	
313	C 9	〃	〃	A	中	1.25	0.7	0.22	0.2	
314	C 8	〃	〃	A	中	0.8	0.9	0.19	0.1	
315	E 6	〃	〃	A	中	0.65	1.0	0.14	0.1	
316	C 7	〃	〃	A	中	0.75	0.9	0.13	0.05	
317	E 8	〃	〃	A	中	0.9	0.85	0.23	0.15	
318	C 9	〃	〃	A	中	0.8	0.7	0.2	0.1	
319	C 8	〃	〃	A	中	0.8	0.7	0.2	0.1	
320	C 8	〃	〃	A	中	0.75	0.9	0.16	0.1	
321	M 8	〃	〃	A	中	0.95	0.6	0.12	0.1	
322	C 7	〃	〃	A	中	1.15	0.6	0.18	0.1	
323	C 8	〃	〃	A	中	1.1	0.7	0.2	0.15	
324	C 9	〃	〃	A	中	0.8	0.7	0.24	0.1	
325	D 8	〃	〃	A	中	1.1	0.5	0.21	0.1	
326	E 2	〃	〃	A	中	1.4	0.65	0.14	0.05	
327	D 8	〃	〃	A	中	1.0	0.55	0.19	0.1	
328	C 9	〃	〃	A	中	0.8	0.8	0.2	0.1	
329	B 9	〃	〃	A	中	1.0	0.4	0.28	0.1	
330	E 6	〃	〃	B_2	先	1.3	0.95	0.16	0.35	
331	C 9	〃	〃	B_2	先	1.35	0.7	0.31	0.2	
332	E 6	〃	〃	B_1	先	1.85	0.7	0.19	0.2	

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	形態分類	計測値 (cm g) 全長	最大巾	厚さ	重量	備考
333	C 9	III	細石刃	B_1	先	1.65	1.05	0.15	0.35	
334	C 9	〃	〃	B_2	中	2.25	0.7	0.27	0.3	
335	F 7	〃	〃	B_1	先	1.4	0.8	0.28	0.15	
336	D 8	〃	〃	B_2	先	1.6	0.55	0.17	0.15	
337	D 8	〃	〃	B_1	先	1.33	0.72	0.18	0.15	
338	C 9	〃	〃	B_2	先	1.55	0.7	0.18	0.2	
339	C 8	〃	〃	B_2	先	1.95	0.7	0.12	0.3	
340	C 9	〃	〃	B_2	先	1.95	0.7	0.15	0.35	
341	B 9	〃	〃	B_2	先	0.9	0.8	0.25	0.1	
342	C 8	〃	〃	B_2	先	1.3	0.65	0.16	0.1	
343	E 6	〃	〃	B_2	先	0.95	0.45	0.15	0.05	
344	C 9	〃	〃	B_2	中	1.25	0.8	0.21	0.2	
345	B 8	〃	〃	B_2	先	1.25	0.5	0.12	0.1	
346	B 9	〃	〃	B_2	先	1.05	0.5	0.14	0.05	
347	C 8	〃	〃	B_1	先	0.75	0.5	0.22	0.05	
348	B 8	〃	〃	B_1	先	1.15	0.6	0.24	0.1	
349	E 6	〃	〃	A	先	1.25	0.5	0.23	0.1	
350	H12	〃	〃	A	先	1.6	0.6	0.16	1.05	
351	D 8	〃	〃	A	先	1.15	0.5	0.15	0.05	
352	D 7	〃	〃	A	先	1.6	0.7	0.18	0.15	
353	G10	〃	〃	A	先	0.9	0.65	0.16	0.1	
354	E 7	〃	〃	A	先	1.1	0.65	0.21	0.1	
355	B 8	〃	〃	B_2	先	0.8	0.55	0.1	0.1	
17-356	C 8	〃	〃	A	中	0.9	0.55	0.08	0.05	
357	B 9	〃	〃	A	中	0.95	0.6	0.14	0.1	
358	D 7	〃	〃	A	中	0.9	0.65	0.18	0.05	
359	E 6	〃	〃	A	中	1.15	0.45	0.17	0.05	
360	D 4	〃	〃	A	中	1.2	0.4	0.1	0.1	
361	L11	〃	〃	A	中	1.15	0.35	0.21	0.05	
362	D 8	〃	〃	A	中	1.15	0.4	0.11	0.05	
363	L11	〃	〃	A	中	1.15	0.45	0.2	0.1	
364	D 8	〃	〃	A	中	1.05	0.45	0.13	0.1	
365	F 6	〃	〃	A	中	1.05	0.45	0.15	0.1	
366	B 8	〃	〃	A	中	1.0	0.45	0.13	0.1	
367	C 8	〃	〃	A	中	1.0	0.5	0.21	0.1	
368	C 8	〃	〃	A	中	0.9	0.5	0.12	0.05	
369	C 9	〃	〃	A	中	1.0	0.6	0.2	0.1	
370	C 8	〃	〃	A	中	0.9	0.5	0.15	0.05	
371	D 8	〃	〃	A	中	0.9	0.35	0.16	0.05	
372	E 7	〃	〃	A	中	0.95	0.65	0.13	0.05	
373	D 8	〃	〃	A	中	0.7	0.6	0.18	0.1	
374	E 7	〃	〃	A	中	0.7	0.75	0.22	0.05	
375	C 7	〃	〃	A	中	0.75	0.6	0.12	0.1	
376	C 8	〃	〃	A	中	0.7	0.55	0.2	0.05	
377	C 8	〃	〃	A	中	0.7	0.7	0.18	0.05	
378	C 8	〃	〃	A	中	0.6	0.55	0.18	0.05	
279	C 8	〃	〃	A	中	0.5	0.8	0.16	0.05	
380	C11	〃	〃	A	中	0.8	0.6	0.14	0.05	

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	形態分類	計測値 (cm g) 全長	最大巾	厚さ	重量	備考
381	D 8	III	細石刃	A	中	0.7	0.55	0.14	0.01	
382	F 6	〃	〃	A	中	0.6	0.6	0.15	0.05	
383	D 7	〃	〃	A	中	0.7	0.5	0.1	0.05	
384	E 6	〃	〃	A	中	0.5	0.6	0.14	0.05	
385	C 9	〃	〃	A	中	0.75	0.3	0.13	0.05	
386	E 7	〃	〃	A	中	0.7	0.35	0.08	0.01	
387	D 7	〃	〃	A	中	0.65	0.45	0.15	0.05	
388	I 10	〃	〃	A	中	0.5	0.3	0.12	0.01	
389	E 6	〃	〃	A	中	0.5	0.5	0.13	0.65	
390	G 5	〃	〃	A	中	0.6	0.4	0.11	0.01	
391	C 8	〃	〃	A	中	0.5	0.5	0.2	0.05	
392	I 16	〃	〃	A	中	1.0	0.35	0.13	0.05	
393	E 6	〃	〃	A	中	0.7	0.4	0.06	0.01	
394	E 6	〃	〃	C_1	中	1.25	0.7	0.18	0.2	
395	H10	〃	〃	C_1	中	1.1	0.65	0.18	0.1	
396	E 6	〃	〃	C_1	中	1.15	0.55	0.16	0.1	
397	E 8	〃	〃	C_1	中	1.0	0.65	0.17	0.05	
398	C 8	〃	〃	C_1	中	0.9	0.95	0.21	0.15	
399	E 6	〃	〃	C_1	中	0.85	0.7	0.13	0.05	
400	E 6	〃	〃	C_1	中	0.5	0.8	0.16	0.05	
401	E 7	〃	〃	C_1	中	1.0	0.6	0.13	0.1	
402	D 8	〃	〃	C_1	中	0.8	0.85	0.13	0.05	
403	E 7	〃	〃	C_1	中	0.8	0.7	0.18	0.1	
404	F 6	〃	〃	C_1	中	0.8	0.55	0.14	0.05	
405	F 5	〃	〃	C_1	中	0.55	0.5	0.08	0.05	
406	E 6	〃	〃	C_2	中	0.85	0.75	0.08	0.1	
407	E 6	〃	〃	C_2	中	1.0	0.65	0.22	0.1	
408	E 6	〃	〃	C_2	中	1.45	0.8	0.14	0.2	
409	C 8	〃	〃	C_2	中	1.65	0.5	0.16	0.15	
410	E 6	〃	〃	C_2	中	1.55	0.4	0.13	0.1	
411	E 6	〃	〃	C_2	中	1.3	0.7	0.14	0.2	
412	B 9	〃	〃	C_2	中	1.4	0.8	0.25	0.3	
413	B 9	〃	〃	A	中	1.45	0.85	0.18	0.3	
414	C 9	〃	〃	A	中	2.0	0.8	0.26	0.4	
415	D 8	〃	〃	A	中	1.9	0.9	0.26	0.5	
416	D 8	〃	〃	A	中	2.25	0.9	0.16	0.5	
417	B 8	〃	〃	A	中	2.8	0.8	0.33	0.7	
418	C 8	〃	〃	A	中	1.45	0.75	0.18	0.2	
419	C 8	〃	〃	A	中	1.6	0.85	0.06	0.3	
420	C 8	〃	〃	A	中	2.0	0.8	0.24	0.45	
421	B 9	〃	〃	A	中	1.95	0.65	0.22	0.2	
422	M11	〃	〃	A	中	1.95	0.6	0.17	0.15	
423	C 8	〃	〃	A	中	1.6	0.65	0.14	0.2	
424	I 12	〃	〃	A	中	1.35	1.05	0.18	0.35	
425	C 9	〃	〃	A	中	1.0	0.85	0.22	0.1	
426	C 8	〃	〃	A	中	1.25	0.6	0.24	0.15	
18-427	C 8	〃	〃	A	先	1.4	0.8	0.15	0.15	
428	C 8	〃	〃	A	先	1.6	0..5	0.19	0.1	

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	形態分類	計測値 (cm g) 全長	最大巾	厚さ	重量	備考
429	C10	III	細石刃	A	先	1.4	0.55	0.17	0.05	
430	C 8	〃	〃	A	先	1.05	0.55	0.16	0.1	
431	E 6	〃	〃	A	先	0.05	0.5	0.12	0.05	
432	C 8	〃	〃	A	中	2.0	0.8	0.18	0.45	接合
	C 8	〃	〃	A	先	1.8	0.85	0.18	0.35	
433	C 8	〃	〃	B_2	先	1.5	0.65	0.2	0.2	
434	X35	〃	〃	C_1	先	1.2	0.6	0.23	0.1	
435	C 9	〃	〃	C_1	先	1.85	0.65	0.24	0.3	
436	E 7	ドーナツ	〃	B_2	中	1.05	0.55	0.2	0.1	
437	D 8	遺構	〃	B_2	中	0.8	0.5	0.12	0.05	
438	D 7	〃	〃	B_2	中	1.6	0.55	0.18	0.05	
439	E 7	〃	〃	B_2	中	0.9	0.4	0.18	0.1	
440	E 7	ドーナツ	〃	B_2	中	0.4	0.55	0.12	0.01	
441	D 7	遺構	〃	B_2	中	0.6	0.55	0.19	0.05	
442	N10	落ち込み	〃	B_2	中	0.3	0.6	0.08	0.05	
443	F 3	ドーナツ	〃	B_2	中	1.05	0.4	0.2	0.05	
444	I 6	遺構	〃	A	中	1.2	0.8	0.29	0.15	
445	K 7	〃	〃	A	中	1.2	0.8	0.27	0.2	
446	J 6	落ち込み	〃	A	中	1.45	0.75	0.22	0.25	
447	E 2	〃	〃	A	中	1.25	0.8	0.2	0.1	
448	B 9	〃	〃	A	中	1.8	0.8	0.17	0.3	
449	D 7	遺構	〃	A	中	1.6	0.65	0.16	0.2	
450	E10	〃	〃	C_2	中	1.7	0.8	0.21	0.35	
451	M11	表土	〃	A	中	1.19	0.83	0.23	0.15	
452	H10	ドーナツ	〃	C_1	中	1.2	0.65	0.2	0.1	
453	F 6	〃	〃	A	中	1.4	0.5	0.18	0.1	
454	F 5	表土	〃	A	中	1.4	0.75	0.13	0.15	
455	D 8	遺構	〃	A	中	0.85	0.65	0.18	0.1	
456	F 6	ドーナツ	〃	A	中	0.85	0.7	0.19	0.1	
457	J 10	落ち込み	〃	A	中	1.05	0.65	0.17	0.1	
458	K11	〃	〃	A	中	0.9	0.65	0.28	1.0	
459	E 6	表土	〃	A	中	0.66	0.57	0.08	0.08	
460	J 10	落ち込み	〃	A	中	1.1	0.55	0.2	0.1	
461	D 7	遺構	〃	A	中	0.9	0.45	0.15	0.15	
462	D 8	〃	〃	A	中	1.1	0.55	0.17	0.1	
463	B 8	落ち込み	〃	A	中	0.6	0.65	0.2	0.05	
464	F 6	〃	〃	A	中	0.55	0.7	0.19	0.05	
465	D 7	遺構	〃	A	中	1.1	0.7	0.15	0.1	
466	G 9	〃	〃	A	中	0.8	0.55	0.2	0.1	
467	L12	ドーナツ	〃	A	中	0.7	0.3	0.1	0.05	
468	E 7	〃	〃	A	中	0.75	0.5	0.08	0.05	
469	D10	遺構	〃	A	中	0.5	0.5	0.08	0.01	
470	E 7	〃	〃	C_1	中	1.3	0.8	0.2	0.35	
471	D 4	表土	〃	C_2	中	1.4	0.85	0.18	0.25	
472	D 9	遺構	〃	C_2	中	1.6	0.7	0.2	0.2	
473	E 8	〃	〃	C_1	中	1.2	0.55	0.17	0.15	
474	E 8	〃	〃	C_2	中	1.0	0.6	0.14	0.05	
475	D 9	落ち込み	〃	C_2	中	0.5	0.65	0.18	0.05	

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	形態分類	計測値 (cm g) 全長	最大巾	厚さ	重量	備考
476	E 6	〃	細石刃	A	先	1.4	0.55	0.19	0.1	
477	H14	ドーナツ	〃	A	先	1.1	0.6	0.28	0.1	
478	F 6	落ち込み	〃	A	先	1.8	0.65	0.3	0.25	
479	E10	遺構	〃	A	先	1.65	0.6	0.15	0.15	
480	D 7	〃	〃	A	先	1.1	0.3	0.1	0.05	
19-481	F 7	〃	細石核	A		3.35	2.39	1.13	10.2	
482	D 4	表土	細石核再生剝片	A		2.15	2.51	1.6	7.7	
483	D 3	落ち込み	〃	B_2		1.96	0.56	0.3	0.35	
484	H10	〃	細石核ブランク	A		3.98	2.53	1.28	14.1	
485	D 7	遺構	細石刃	A	中	0.65	0.8	0.3	0.1	接合
	D 7	〃	〃	A	中	2.1	0.95	0.3	0.45	
486	D 7	〃	〃	A	中	1.35	0.7	0.36	0.3	接合
	D 7	〃	〃	A	中	1.65	0.65	0.36	0.35	
487	E 7	〃	〃	B_2	中	2.7	0.8	0.28	0.1	接合
	E 7	〃	〃	B_2	中	1.05	0.68	0.28	0.6	
488	E 8	〃	〃	B_2	中	2.55	0.85	0.28	0.6	
489	D 9	〃	〃	A	中	2.0	0.85	0.2	0.45	
490	D 4	落ち込み	〃	A	中	1.9	0.8	0.28	0.45	
491	D 7	遺構	〃	B_2	中	1.8	0.75	0.3	0.35	
492	D 8	〃	〃	B_2	中	1.35	0.9	0.16	0.25	
493	D 7	〃	〃	A	中	1.6	0.7	0.2	0.25	
494	D 7	〃	〃	B_2	中	1.75	0.7	0.18	0.25	
495	D 8	〃	〃	B_1	中	1.3	0.9	0.24	0.3	
496	D 7	〃	〃	A	中	1.55	0.65	0.26	0.15	
497	F 6	ドーナツ	〃	B_2	中	1.5	0.8	0.2	0.25	
498	D 7	遺構	〃	B_2	中	1.2	0.55	0.11	0.1	
499	G 9	〃	〃	A	中	1.25	0.65	0.18	0.1	
500	D 7	〃	〃	B_2	中	1.0	0.6	0.18	0.1	
501	E 2	落ち込み	〃	A	中	0.9	0.55	0.08	0.05	
502	E 7	ドーナツ	〃	A	中	1.45	0.8	0.11	0.2	
503	F10	表土	〃	A	中	1.54	0.78	0.22	0.2	
504	K 6	遺構	〃	C_2	中	1.2	0.7	0.1	0.1	
505	E 8	〃	〃	C_1	中	0.7	0.75	0.19	0.75	
506	D 8	〃	〃	B_2	中	2.0	0.7	0.21	0.25	
507	B 9	落ち込み	〃	B_2	中	1.3	0.9	0.18	0.3	
508	D 7	遺構	〃	B_2	中	1.15	0.65	0.15	0.15	
509	C 9	列石内	〃	A	中	1.35	0.8	0.29	0.15	
510	D 7	遺構	〃	B_2	中	1.5	0.75	0.12	0.2	
511	D 6	表土	〃	B_1	中	1.5	0.9	0.17	0.4	
512	E 8	遺構	〃	B_2	中	1.15	0.6	0.22	0.1	
513	G11	〃	〃	B_2	中	1.0	0.6	0.15	0.1	
514	E 8	〃	〃	B_2	中	1.0	0.55	0.14	0.1	
515	F 6	落ち込み	〃	B_2	中	1.3	0.5	0.14	0.1	
516	D 8	遺構	〃	B_2	中	0.95	0.75	0.1	0.05	
517	D 7	〃	〃	B_2	中	0.65	0.8	0.13	0.1	
518	C 9	列石内	〃	B_2	中	1.05	0.6	0.18	0.1	
519	D 7	遺構	〃	B_1	中	0.7	0.6	0.18	0.05	
520	E 8	〃	〃	B_1	中	0.6	0.5	0.18	0.05	

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	形態分類	計測値 (cm・g)				
						全長	最大幅	厚さ	刃部長	重量
20—1	L13	II	ナイフ形石器	C_1	I—1	3.6	1.05	0.39	3.65	1.2
2	G 6	〃	〃	B_2	〃	3.0	0.85	0.33	2.3	0.8
3	F 6	落ち込み	〃	B_2	〃	(2.8)	1.1	0.37	2.7	1.2
4	F 8	II	〃	B_2	〃	2.6	0.85	0.38	2.6	0.9
5	J 12	ドーナツ	〃	B_2	〃	(3.95)	1.25	0.74	(3.75)	2.9
6	L11	II	〃	B_2	〃	(3.25)	1.45	0.42	3.25	0.2
7	E 8	II	〃	A	I—2	(4.0)	1.4	0.77	(3.05)	4.0
8	K11		〃	A	〃	(4.7)	1.8	0.81	(3.15)	6.6
9	K 8	II	〃	A	〃	5.15	1.55	0.55	3.5	3.7
10	G11	〃	〃 接	A	〃	(1.9)	1.2	0.46	(2.0)	0.8
	H10	〃	〃 合	A	〃	(1.85)	1.35	0.55	(1.35)	1.5
11	L11	〃	〃	A	〃	4.05	1.75	0.58	3.5	3.5
12	K 6	遺構	〃	B_2	〃	(4.15)	1.95	0.5	4.15	5.1
13	E 9	II	〃	B_2	〃	(3.2)	1.6	0.65	(2.9)	3.1
14	G14	落ち込み	〃	A	〃	(1.85)	1.2	0.52	(1.75)	1.0
15	C 9	列石内	〃		〃	(1.85)	1.15	0.44	(1.7)	0.8
16	F10	II	〃	A	〃	(1.55)	1.2	0.4	(1.65)	0.6
17	G15	ドーナツ	〃	安山岩	〃	(1.9)	1.85	0.26	(1.0)	0.2
21—18	G10	II	〃	A	〃	(2.35)	1.55	0.77	(2.35)	2.2
19	D 7	II	〃	A	〃	(1.75)	1.7	0.42	(1.9)	1.0
20	G11	II	〃	C_2	〃	(1.85)	1.05	0.3	(1.55)	0.4
21	G 7	落ち込み	〃	C_2	〃	(1.45)	1.35	0.34	(1.7)	0.9
22	E 7	II	〃	C_2	I—3	3.7	1.2	0.53	2.0	1.9
23	E10	〃	〃	A	〃	3.0	1.3	0.6	1.9	1.7
24	E 6	〃	〃	C_1	〃	3.0	1.4	0.46	1.2	1.7
25	I 11	〃	〃	B_2	〃	(2.25)	1.0	0.61	(1.05)	1.0
26	K11	〃	〃	A	〃	2.15	0.95	0.4	1.5	0.7
27	H11	〃	〃	A	〃	2.1	0.95	0.42	1.0	0.6
28	P10	〃	〃	B_2	〃	(2.6)	1.3	0.49	2.6	1.5
29	D11	〃	〃	A	〃	(2.85)	1.5	0.53	(2.25)	2.3
30	H15	ドーナツ	〃	A	〃	2.05	0.85	0.47	0.5	0.9
31	D 6	II	〃	C_1	〃	(1.6)	0.9	0.3	(1.5)	0.4
32	M12	落ち込み	〃	A	〃	(2.2)	1.15	0.3	(1.8)	0.7
33	F 7	II	〃	B_2	〃	(1.85)	0.8	0.44	(1.7)	0.9
34	G 6	ドーナツ	〃	B_2	〃	(3.75)	2.0	0.75	(3.1)	5.4
35	K11	落ち込み	〃	A	〃	(1.4)	1.2	0.36	(1.5)	0.5
36	F 6	II	〃	B_2	〃	(1.65)	0.95	0.33	(0.9)	0.4
22—37	G11	〃	〃	C_2	〃	(2.35)	1.9	0.44	(1.95)	1.5
38	G12		〃	A	〃	(1.9)	1.15	0.37	(2.1)	0.7
39	F 5	II	〃	B_2	〃	(1.25)	0.65	0.31	(0.45)	0.2
40	H14	〃	〃	A	〃	(1.05)	0.7	0.33	(1.0)	0.2
41	D 8	〃	〃	A	〃	(1.0)	0.8	0.36	(1.0)	0.2
42	I 14	〃	〃	A	〃	(1.2)	0.75	0.27	(1.15)	0.2
43	E 7	〃	〃	A	〃	(3.1)	1.95	0.73	(2.8)	3.5
44	E 9	〃	〃	A	〃	3.0	1.7	0.47	1.8	2.1
45	H11	落ち込み	〃	A	〃	2.25	1.35	0.4	(1.55)	1.2
46	D11	II	〃	A	II—2	3.0	1.25	0.62	(1.55)	1.8
47	G10	〃	〃	A	〃	2.5	0.95	0.28	2.5	0.6

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	形態分類	計測値（cm・g）				
						全長	最大幅	厚さ	刃部長	重量
48	F 7	II	ナイフ形石器	A	II－2	2.3	0.9	0.32	2.2	0.9
49	I 13	〃	〃	A	〃	2.9	1.05	0.55	1.35	1.3
50	C10	／	〃	A	〃	(2.65)	1.35	0.54	(1.2)	1.8
51	D10	II	〃	A	〃	2.5	1.15	0.49	(0.95)	1.2
52	C 9	〃	〃	A	〃	(2.0)	1.2	0.57	(0.3)	1.0
53	C 9	〃	〃	A	〃	2.55	1.5	0.34	(2.15)	1.1
54	H 7	〃	〃	B_2	〃	2.65	1.35	0.7	(1.1)	2.7
55	H11	〃	〃	A	〃	1.35	2.35	0.51	(1.35)	1.2
56	G 6	ドーナツ	〃	B_2	〃	2.75	1.45	0.53	1.55	1.3
57	I 10	II	〃	A	〃	(1.9)	1.0	0.4	(1.8)	0.8
58	F 7	〃	〃	A	〃	2.5	1.75	0.67	(0.75)	2.5
59	G 6	〃	〃	A	〃	2.05	0.95	0.42	1.25	0.7
60	E 8	〃	〃	B_2	〃	(1.9)	0.8	0.32	1.65	0.6
61－61	E 7	〃	〃	A	〃	(2.55)	1.2	0.62	(1.75)	1.9
62	N11	〃	〃	安山岩	II－3	2.25	1.0	0.32	1.65	0.7
63	F 9	〃	〃	A	〃	(1.85)	1.6	0.4	(0.6)	0.8
64	F 7	〃	〃	B_2	〃	2.85	1.0	0.44	(1.7)	1.1
65	H 6	落ち込み	〃	安山岩	〃	(3.0)	1.4	0.79	(2.15)	3.1
66	P11	III	〃	B_2	〃	2.9	1.45	0.57	2.1	1.4
67	G13	ドーナツ	〃	C_1	〃	3.45	1.35	0.83	2.35	2.9
68	I 14	／	〃	A	IV	5.25	2.2	1.0	(2.1)	11.0
69	F 6	落ち込み	〃	B_2	〃	5.0	1.3	0.83	5.1	4.7
70	F 6	II	〃	A	〃	(3.15)	1.6	0.66	(2.7)	2.9
71	E13	〃	〃	A	〃	3.2	1.45	0.76	(2.6)	2.4
72	H10	落ち込み	〃	B_2	〃	4.95	1.65	0.87	4.1	6.4
73	G10	II	〃	A	〃	(3.35)	2.4	0.95	(3.5)	7.3
24－74	B 9	〃	〃	B_2	〃	(3.25)	2.1	0.67	(3.05)	4.8
75	D 7	〃	〃	A	〃	2.95	1.6	0.4	(2.5)	1.7
76	H 7	〃	〃	B_2	〃	(2.45)	1.5	0.78	(2.8)	2.4
77	K12	〃	〃	A	III	(2.3)	1.9	0.7	(2.1)	2.6
78	H16	〃	〃	A	〃	(2.25)	1.45	0.6	(2.3)	5.8
79	G10	〃	〃	A	〃	(2.35)	1.5	0.44	(2.3)	2.0
80	G 8	落ち込み		B_2	I	1.3	1.45	0.23	1.4	0.4
81	F 5	II	〃	C_1	〃	1.1	1.6	0.2	1.6	0.3
82	G 8	〃	〃	A	〃	1.6	(0.75)	0.29	0.7	0.4
83	F11	落ち込み	〃	B_2	〃	1.65	1.3	0.42	1.17	0.8
84	E 9	II	〃	B_2	〃	1.05	1.55	0.26	1.56	0.3
85	C 9	〃	〃	A	〃	1.08	1.67	0.22	1.6	0.3
86	I 12	〃	〃	A	〃	1.7	1.2	0.22	1.4	0.4
87	I 8	〃	〃	A	〃	1.9	1.35	0.43	1.1	1.0
88	H 8	〃	〃	B_2	〃	12.0	(1.1)	0.63	(1.1)	1.5
89	P10	〃	〃	A	〃	1.75	1.5	0.47	1.4	0.9
90	F 6	〃	〃	B_2	〃	2.25	1.45	0.59	2.13	1.8
91	F 6	落ち込み	〃	B_2	〃	2.5	1.4	0.34	2.34	1.1
92	J 10	／	〃	A	〃	2.0	1.29	0.33	1.2	0.7
93	F 6	II	〃	B_2	〃	2.45	3.05	0.93	3.0	6.8
25－94	N12	〃	〃	B_2	III	2.3	(2.45)	0.62	(1.67)	2.4

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	形態分類	計測値 (cm・g)				
						全長	最大幅	厚さ	刃部長	重量
95	D 4	〃	〃	A	〃	(2.35)	(2.5)	0.7	(0.9)	3.3
96	D 4	II		A	III	1.45	1.4	0.44	1.2	0.9
97	J 6	遺構	〃	A	〃	(2.55)	(2.1)	0.74	(1.75)	2.5
98	H15	II	〃	C_2	〃	2.55	1.95	0.6	2.5	2.4
99	H11	落ち込み	〃	A	〃	2.5	1.5	0.76	(1.15)	1.8
100	Q 8	II	〃	A	〃	2.3	(1.3)	0.53	(1.13)	1.2
101	T18	〃	〃	B_2	〃	2.9	1.55	0.81	0.85	3.1
102	E 3	〃	〃	B_2	IV－1	3.0	2.05	0.73	2.6	3.5
103	I 6	遺構	〃	A	IV－2	2.05	2.0	0.53	2.09	1.2
104	G 6	II	〃	A	〃	2.5	1.95	0.39	2.5	1.6
105	G 6	〃	〃	B_2	〃	2.0	(1.8)	0.54	(0.55)	1.3
106	E 2	ドーナツ	〃	B_2	〃	2.6	2.55	0.76	2.55	3.2
107	C 9	II	〃	A	〃	(1.95)	1.25	0.58	(1.0)	1.3
108	F 2	遺構	〃	A	IV－3	(3.55)	2.27	0.78	(2.2)	4.4
109	D 3	II	〃	A	〃	3.13	1.47	0.49	2.15	1.6
110	D12	／	〃	A	〃	2.6	1.9	0.55	2.15	2.2
26-111	F11	II	〃	A	〃	2.35	1.15	0.53	0.5	1.4
112	K 8	II	〃	安山岩	IV－4	3.4	2.3	0.54	2.3	3.4
113	M 8	ドーナツ	〃	〃	〃	3.05	1.95	0.67	1.9	2.5
114	E 2	〃	〃	B_2	V－2	3.81	1.46	0.74	1.35	3.9
115	Q19	落ち込み	〃	B_2	〃	2.85	1.45	0.8	1.35	3.1
116	E 7	II	〃	B_2	〃	2.85	(1.5)	0.71	(0.5)	2.3
117	I 7	ドーナツ	〃	A	〃	2.3	1.75	0.58	0.6	1.2
118	I 6	遺構	〃	A	〃	2.65	1.65	0.73	1.45	2.6
119	D 6	II	〃	B_2	V－3	3.1	1.4	0.68	0.75	2.8
120	F 8	〃	〃	B_2	〃	2.55	1.65	0.7	1.65	2.4
121	E 8	〃	〃	A	〃	2.5	1.7	0.84	1.5	2.7
122	K 8	〃	〃	B_2	〃	3.25	1.85	0.7	1.4	3.8
123	F 8	〃	剝片尖頭器	安山岩	I	4.0	4.0	1.51		15.32
27-124	H10	落ち込み	三稜尖頭器	A	II－1	3.15	1.4	1.06		4.1
125	C 8	II	〃	B_2	〃	47	1.8	0.17		8.1
126	H 6	〃	〃	A	〃	4.08	0.67	1.15		5.4
127	E 9	〃	〃	B_2	〃	3.25	1.95	0.91		4.5
128	E 9	〃	〃	B_2	〃	3.0	1.4	0.92		3.4
129	G14	〃	〃	A	〃	(1.5)	1.55	0.97		2.9
130	H11	〃	角錐状石器	B_2	II－3	5.65	2.15	1.16		10.9
131	H 7	〃	〃	B_2	〃	4.25	2.5	1.65		19.43
132	E12	〃	〃	A	〃	(2.95)	2.05	1.15		5.15
133	F 9	〃	尖頭状石器	B_2	III	(3.85)	1.9	1.15		6.8
134	I 6	〃	〃	〃	3.35	1.1	0.98		5.8	
28-135	F 6	〃	〃	〃	3.5	1.95	0.7		3.9	
136	K13	〃	〃	〃	3.6	1.55	0.85		4.25	
137	E 8	II	〃	A	〃	3.85	1.75	0.96		6.2
138	I 16	〃	安山岩	IV	7.8	3.75	3.15		60.0	
139	J 13	II	〃	B_2	〃	4.05	2.05	0.79		7.2
140	E10	II	〃	B_2	〃	(2.55)	1.35	1.0		2.8
141	E 9	〃	楔形石器	A		2.78	1.7	0.9		4.1
142	D 4	〃	掻器	A		1.49	2.24	0.82		2.2
143	D 8	〃	削器	B_2		1.78	1.83	0.48		2.1

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	形態分類	計測値（cm・g） 全長	最大幅	厚さ	刃部長	重量
144	H 6	落ち込み	グレイバー	B_2		3.45	1.82	0.9		5.05
145	K12	II	削器	A		4.46	1.87	0.72		4.3
146	E 8	〃	〃	A		2.76	1.87	0.46		2.3
29-147	E 2	集石内	加工痕ある削器	C_2		2.19	2.44	0.54		2.15
148	E 2	II	使用痕ある剝片	A		2.86	2.43	1.54		3.1
149	D 4	落ち込み	〃	B_2		2.18	1.42	0.6		1.6
150	D 8	II	剝片	A						
151	F 6	落ち込み	〃	B_2		1.4	1.23	0.35		0.6
152	C10	II	〃	A		1.74	1.37	0.33		0.75
153	C 9	〃	〃	A		1.38	2.82	0.6		2.1
154	K12	〃	〃			5.54	2.95	0.93		11.9
155	F 6	落ち込み	〃	B_2		4.52	5.09	1.79		43.2
30-156	D 7	遺構		B_2		2.49	3.03	0.85		5.15
157	D 7	〃		B_2		3.72	5.48	2.68		45.55
158	I 10	II	〃	A		3.07	5.17	2.62		34.6
159	F 5	〃	〃	C_1		2.89	3.73	2.18		19.6
160	H14	〃	〃	A		3.5	5.71	1.9		29.25

(3) 遺物分布状況

鷹野遺跡A地点の先土器時代の遺物遺存状況は第III層に細石器を主体とする石器群と縄文時代の文化層に混じってナイフ形石器を主体とする石器群の遺物が出土している。

細石器を主体とする石器群

B～H－2～11区の狭い範囲に集中する傾向がみられる。この中でも，B・C－8・9区，D－7・8区，E・F－6区は北西にかけ長さ2.4m×幅8m程の帯状に細長く出土する。

集中箇所は縄文時代の遺構構築の際にも包含層の大部分を破壊されてはいるが，B～D－7～9区付近とE－7区付近の2箇所に特に集中をみせる。また他の地区では，これほどの集中箇所もみない。

B～D－7～9区付近の遺物遺存状況は，C－8区に集石遺構が1基検出され，礫石が焼けて赤変し，その周囲および礫石下に炭化物が検出され，炉址としての性格をもつものと考えられ，その周囲に遺物が集中する傾向がみられる。

また，その周辺で細石刃の接断面接合が6例あり，接合する遺物間の距離は最短で0.2m，最長で3.2m程を測り，半円錐形の細石核2点（利用石材黒曜石A，B製各1点），細石核再生剝片1点（黒曜石A製），細石核ブランク1点（黒曜石A製）と細石刃333点が長径15m×短径8m程の範囲に集中をみせる。

細石刃の部位別における遺存状況をみると，細石刃頭部86点，中間部209点，先端部38点と数量的に中間部が多数を占める。

また，利用石材別でみてみると，黒曜石A製は頭部18点，中間部108点，先端部11点である。黒曜石B製は頭部60点，中間部92点，先端部26点で，黒曜石C製は頭部8点，中間部9点，先端部1点である。この利用石材別では黒曜石A製137点，B製178点，C製18点と，数量的にはC製を除いてA，B製共に多く出土している。

同様にE－7区付近の遺物遺存状況は，径5m程の円形状の範囲に半円錐形の細石核1点（黒曜石A製）と細石刃89点が出土する。

細石刃の部位別における遺存状況をみると，細石刃頭部17点，中間部70点，先端部11点と中間部を除いて少ない。

また，利用石材別でみると黒曜石A製は頭部8点，中間部27点，先端部7点の42点である。黒曜石B製は頭部8点，中間部29点，先端部4点の41点である。黒曜石C製は頭部1点，中間部14点の15点である。

この地区での遺物出土点数は少ない。

その他の地区では，D・E・F－2～4区に細石核再生剝片1点，細石36点の少量が出土するが，遺物が集中する状況は窺われないようだ。細石刃は中間部が多く，利用石材は黒曜石B製が多いようだ。

E・F－7区の3号竪穴状遺構の底面で細石刃が集中して検出された。

細石刃の接断面接合が2例みられ，細石刃の部位別では頭部11点，中間部29点，先端部2点の42点が出土し，利用石材別では黒曜石B製が25点を占める。

ナイフ形石器を主体とする石器群

ナイフ形石器182点，台形・台形様石器45点，尖頭器類18点等を含め多数の遺物が出土している。

特にE～H－6～11区にかけては多数のナイフ形石器が出土しているが，第II層および列石群，縄文時代の遺構，ドーナツ状土壙内出土遺物が多数を占め，第III層出土の石器は少ない。

このことは，ナイフ形石器を主体にする石器群の包含層が破壊されたことが考えられるようだ。

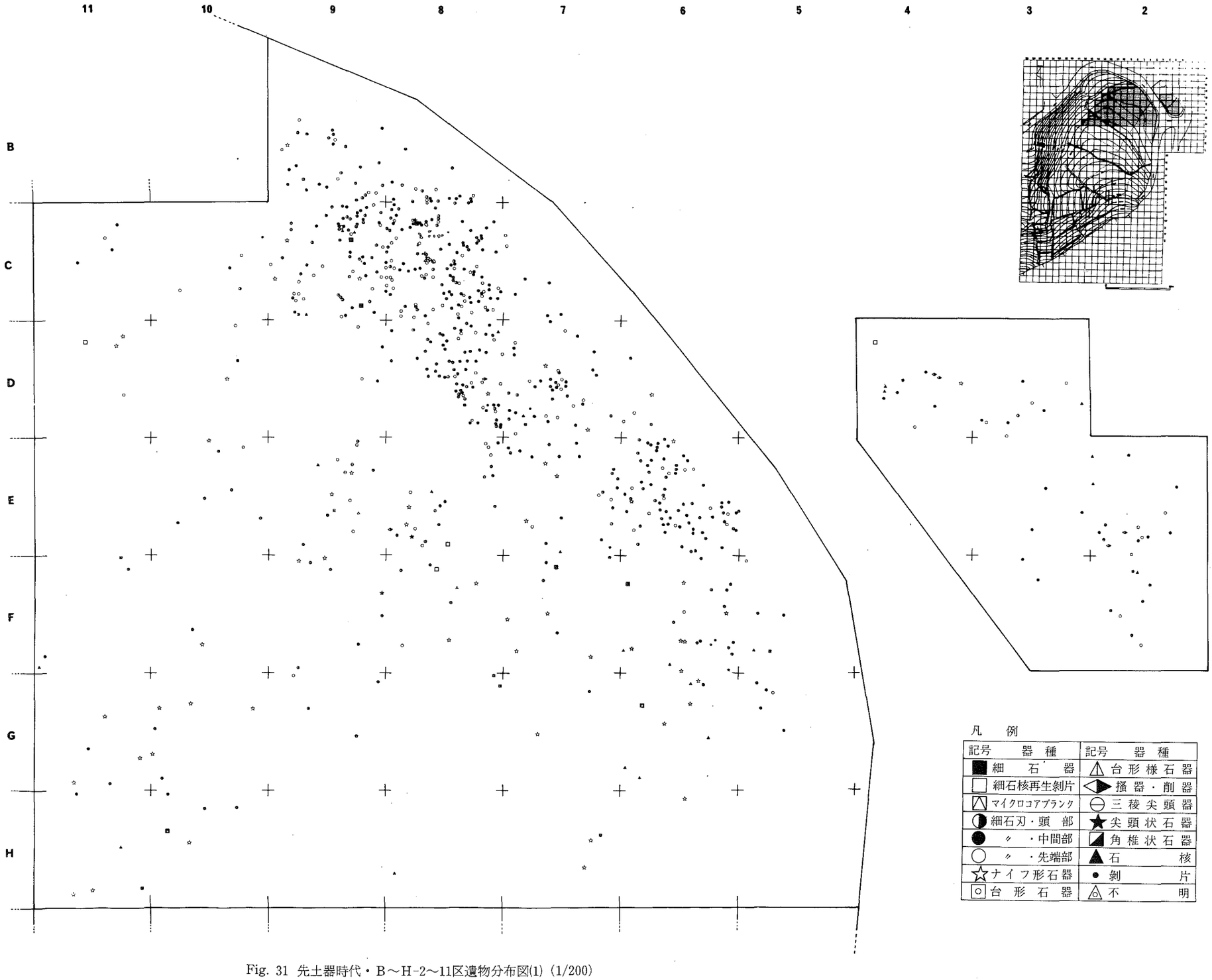


Fig. 31 先土器時代・B～H-2～11区遺物分布図(1) (1/200)

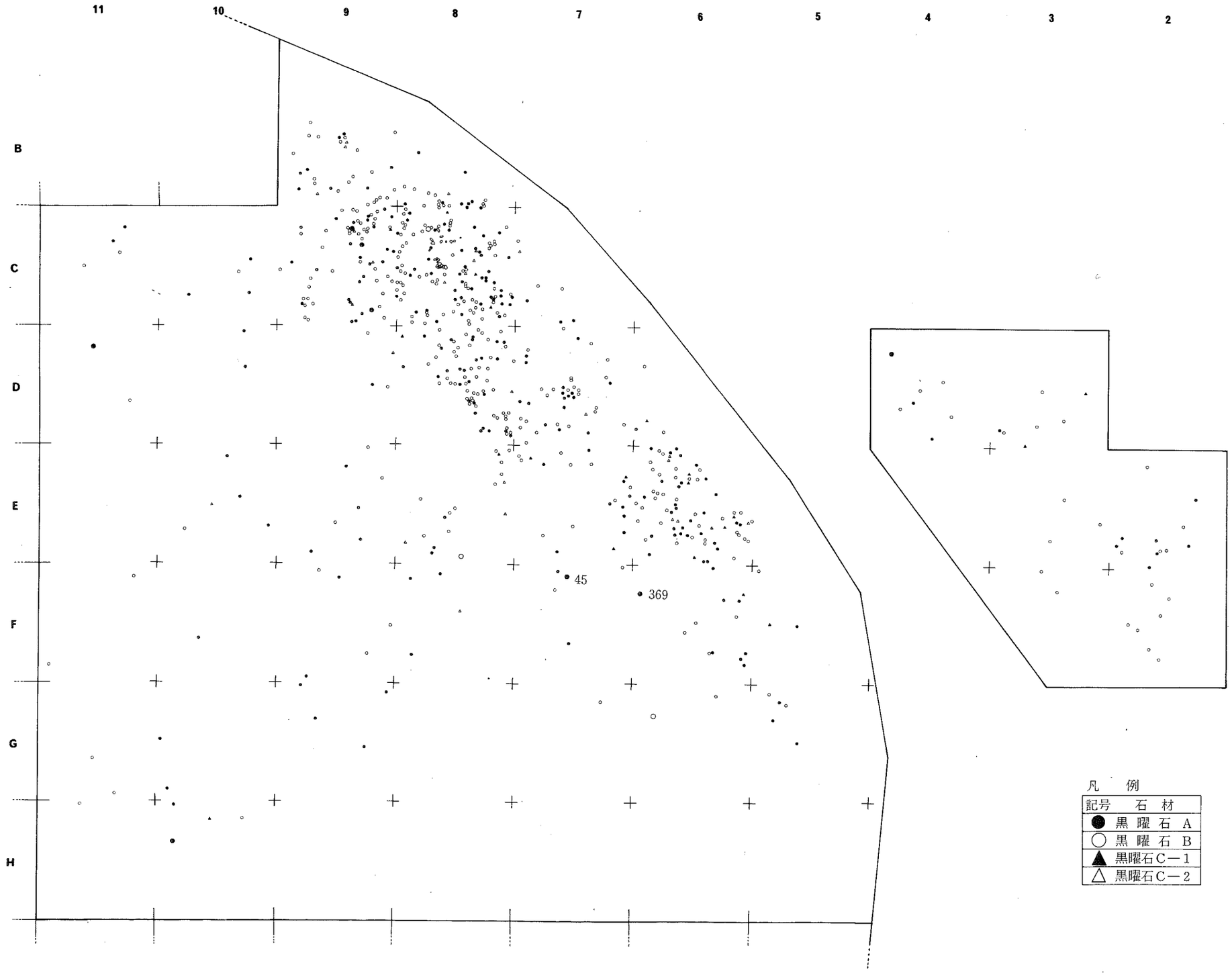


Fig. 32 細石器の利用石材別分布図(2) (1/200)

(4) 小結

A地点では細石器を主体とする石器群とナイフ形石器を主体とする石器群の遺物が出土している。

細石器を主体とする石器群について

この石器群の遺物は細石核5点，細石核再生剝片4点，細石核ブランク3点，細石刃677点の総数689点が出土している。

特に遺跡の北端部分に帯状に細長く遺物が集中する傾向がある。この遺物集中範囲の拡がりについては地形的に更に北側への範囲拡大が考えられるが，調査区の北端部分はすぐ岩盤に至る程堆積状況が悪く，また道路建設の際に破壊され，約10m程で丘陵先端へ達し，急激な傾斜面で西大川の川岸に至るために乏しいようだ。更に南側は列石群で包含層のほとんどが削平されている状況である。

遺物の集中箇所はB～D－7～9区付近とE－7区付近の2箇所にみられる。

遺物集中範囲（B～D－7～9区）は細石核2点，細石核再生剝片1点，細石核ブランク1点，細石刃333点の総数337点が出土している。

細石核は2点共に半円錐形の「野岳型」細石核で，再生剝片も同様な細石核の調整剝片であろう。ただ，細石核ブランクは舟底形態のものと考えられ，舟底形細石核が出土していないので，今後検討しなければならない。

細石刃の利用石材も黒曜石A～B製が多量を占め，C製が若干出土しているが細石核はこの範囲には検出されていない。

遺物集中範囲（E－7区）は細石核1点，細石刃89点の総数90点が出土している。

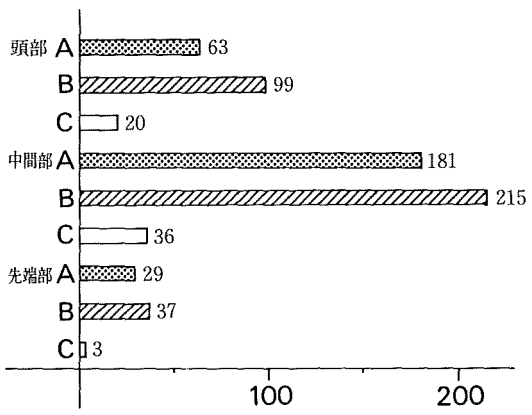


Fig. 33 細石刃の部位別・石材別における数量

細石核は半円錐形の「野岳型」細石核である。細石刃の利用石材も黒曜石A～B製が大部分を占め，C製が18点程出土している。

以上のように，A地点では半円錐形の「野岳型」細石核をもつ石器群と考えられる。

また，縄文早期の遺構および列石群より，扁平で方柱状を呈す細石核1点と，細石核ブランク1点が出土しており，形

態的には「野岳型」細石核の範疇に入るものと考えられる。

A地点の細石刃は総数677点が出土し，利用石材（Fig.33）は黒曜石だけに限られ，その内にB製が351点，A製273点と多く，C製は59点と少ない。

細石刃の部位別における形状は，Fig.34の計測表のように，長さは頭部で6㎜～21㎜，中間部で5㎜～20㎜，先端部で6㎜～17㎜位の範囲に集中し，幅も頭部で3㎜～10㎜，中間部で4㎜～9㎜，先端部で3㎜～8㎜位で長くて幅狭なものと短長で幅広なものがみられるようだ。

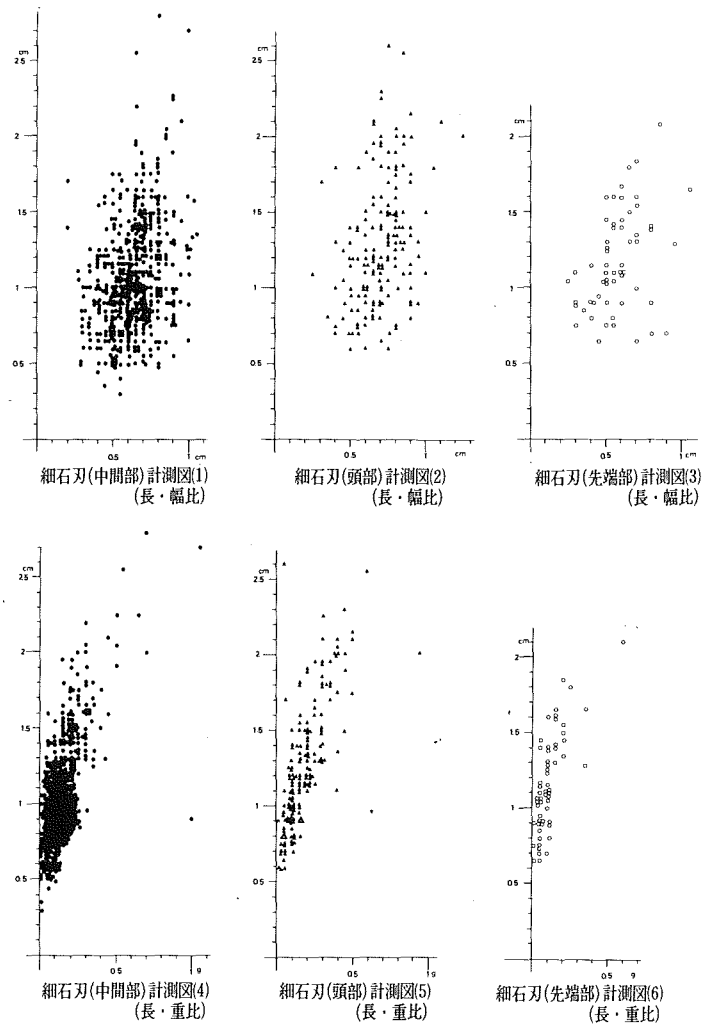


Fig. 34 細石刃計測表

出土石器の形態分類について

ナイフ形石器を主体とする石器群の遺物で比較的多量に出土するナイフ形石器，台形・台形様石器，尖頭器類について形態分類を行った。（分類は西輪久道遺跡での形態分類をもとに行った。）

ナイフ形石器

ナイフ形石器は第IV層２点，第III層７点，第II層74点，遺構・落ち込み・ドーナツ状土壙28点，表土５点の総数111点を数える。（Tab. 5）

石器の製作技術，刃部形態で分類を行い，ナイフ形石器の二側縁加工はⅠ－１～３，II－２，３，III類。一側縁加工はIV類と分かれる。

Ⅰ類　縦長剝片を利用し，斜行する刃部を残し，他は刃潰し加工を施したもの。

Ⅰ－１類（Fig. 20－１～６，Fig. 116－４，17～20）は柳葉形状を呈し，剝片に刃潰し加工を施したもの。基部裏面加工はない。黒曜石Ｂ製４点，Ｃ製２点。

Ⅰ－２類（Fig. 20－７～17，Fig. 21－18～21，Fig. 116－７，13～14）は剝片を接断し，長くて斜行する刃部を残して刃潰し加工を施したもの。基部の裏面加工を施すものと，施さないものがある。Ⅰ－３類に比べて幅広のもの。黒曜石Ａ点，Ｂ点，Ｃ点。

Ⅰ－３類（Fig. 21－22～36，Fig. 22－37～43，Fig. 116－１～３，５，６，８～10）は直線的な斜行する刃部をもち，器長と刃部長の長さの割合がほぼ半々で，細身の三角形状を呈すもの。黒曜石Ａ点，Ｂ点，Ｃ点。

II類　切出形状を呈すもので，斜行する刃部をもつ。（刃部長と器長の長さの割合が半々か，器長がまさるもの。）

II－１類（Fig. 22－44，45）刃部長と器長の長さの割合がほぼ同じで，三角形状を呈すもの。黒曜石Ａ製２点，基部裏面加工はなし。

II－２類（Fig. 22－46～60，23－61，116－11）刃部長が器長に比べて短いもので，切出形状を呈すもの。黒曜石Ａ製12点，Ｂ製３点，基部裏面加工を施すもの２点の他は調整加工を施さない。

II－３類（Fig. 23－62～67）刃部長が器長に比べて長く，切出形状を呈し，平担な基部を作り出すもの。安山岩製２点，黒曜石Ｃ１，Ａ１，Ｂ２点，基部の裏面加工はなし。

III類　（Fig. 24－77～79，116－12，15，16）剝片の打面部をそのまま基部に利用した幅広のもの。黒曜石Ａ３点，Ｂ１点，G10－11は欠損後に再加工を施したもの。

IV類　（Fig. 23－68～73，24－74～76）横長剝片の一側縁部のみ刃潰し加工を施し，他方を刃部として利用したもの。

以上のようにⅠ～Ⅳ類に分類され，更に細分される。
ナイフ形石器の機能は切載を主にするもの（Ⅲ）と切載・刺突を主にするもの（Ⅰ，Ⅱ，Ⅳ）に分けられる。

台形・台形様石器　台形・台形様石器は第Ⅳ層1点，第Ⅲ層2点，第Ⅱ層35点，遺構・ドーナツ状土壙・落ち込み・表土18点の総数56点を数える。

石器の刃部形態・石器製作技術よりⅠ－Ⅴ類に分類した。

Ⅰ類　（Fig.24—80～93，Fig.116—21～23）小形の台形石器で縦長剝片を横位置に利用し，刃部と基部が平行し，刃部に最大幅をもち，台形状を呈すもの。二側縁の2次加工は主要剝離面側より急角度に施すものと折断面を利用し，一側縁部のみ施すものがある。

Ⅱ類　曲線的な刃部を呈し，側縁部の刃潰し加工は主要剝離面側より施し，基部より刃部にかけ直線的な側縁部で，台形状を呈す。

Ⅲ類　（Fig.25—94～101，Fig.117—24～30）横長剝片を利用した台形様石器で，直線的な刃部に斜交ないし直交する刃部を一側縁部にもつもの。

側縁部の2次加工は一方は湾曲するように主要剝離面側より，他方は器表面より急角度に調整加工を施し，錯交する剝離で整え，また器表面に一端より平坦な調整剝離を施す。

Ⅳ類　曲線的な刃部を呈し，刃部の一端および両端が鋭利に尖ったもの。側縁部の2次加工は主要剝離面側より湾曲状に，他方は器表面より急角度に整え，錯交する剝離を施すものとそうでないものがある。また器表面に一端より平坦な調整剝離を施す。

Ⅳ－1類（Fig.25—102）曲線的な刃部を呈し，刃部の両端が突出したもの。側縁部の2次加工は錯交する剝離を施す。

Ⅳ－2類（Fig.25—103～107）刃部と基部にほぼ平行して台形状を呈し，刃部の一端および両端が突出し，側縁部の2次加工が錯交する剝離が施されるものと，そうでないものがある。

Ⅳ－3類（Fig.25—108～110，Fig.26—111）曲線的な刃部を呈し刃部の両端がⅣ－1・2程に突出がみられないもの。側縁部の2次加工は錯交する剝離を施す。

Ⅳ－4類（Fig.26—112・113，Fig.117—32）刃部と基部が平行し三角形状を呈す。側縁部の2次加工は主要剝離面側より鋭角に施す。

Ⅴ類　直線ないし斜行する刃部を有し，刃部に対して器長が長く，平行的な側縁観をもつもので，器表面に平坦な調整加工を施す。

V－1類　側縁部の一端および両端に折断面を利用するもの。器表面に平坦な調整加工を施す。

V－2類（Fig.26—114～118）一側縁部に2次加工を施すもの。

V－3類（Fig.26—119～122）側縁部の2次加工は両面に鈍角で面的な調整加工を施す。

以上，Ⅰ～Ⅴ類に分類され，Ⅰ類は「百花台型」[註1]，Ⅱ類は「日の岳型」[註2]，Ⅲ類は「原の辻型」[註3]，Ⅳ類は「枝玄木型」[註4]を含む。またⅣ－3類の三角形状およびⅤ類の短冊形状を呈す台形様石器は石器の機能面での相違性であろうか。

尖頭器類　尖頭器は素材の利用，製作技術等でⅠ～Ⅳ類に分けた。

Ⅰ類　（Fig.26—123）縦長剝片の折面部を基部に利用し，基部および一側縁部に2次加工を施し，斜行する刃部を呈す。

Ⅱ類　横長剝片の主要剝離面側より面的な2次加工を施したもの。

Ⅱ－1類（Fig.27—124～129）稜上より再調整剝離を施し，断面が三角形状で，平面観が三稜を呈す。

Ⅱ－2類　断面が台形状で，平面観が四稜を呈すもの。

Ⅱ－3類（Fig.27—130～132）ナイフ形石器の刃潰し加工と同様な2次

分類／層位	Ⅰ類			Ⅱ類		Ⅲ類	Ⅳ類
	1	2	3	2	3		
層	5	2	13	12	5	6	4
その他	3	1	2	2	1		5
計	8	3	15	14	6	6	9
	26			20			

ナイフ形石器

分類／層位	Ⅰ類	Ⅱ類		Ⅲ類	Ⅳ類
		1	3		
層	1	6	2	3	5
その他		2		2	3
計	1	8	2	5	8
		10			

尖頭器

分類／層位	Ⅰ類	Ⅲ類	Ⅳ類				Ⅴ類	
			1	2	3	4	2	3
層	8	6	1	3	1	1	1	4
その他	4	1		2	1	2	3	
計	12	7	1	5	2	3	4	4
			11				8	

台形・台形様石器

Fig. 35　器種別・層位別出土一覧表

加工を施し，断面が台形状で，平面観が四稜を呈すもの。

III類　(Fig.27—133・134，Fig.28—135～137) 横長剝片の打面部に急角度の2次加工を施したもの。断面が扁平な三角形状を呈す。

IV類　(Fig.28—138～140) 断面が半円状を呈し，二面ないし三面に面的な加工を施し，平面観は三稜を呈す。

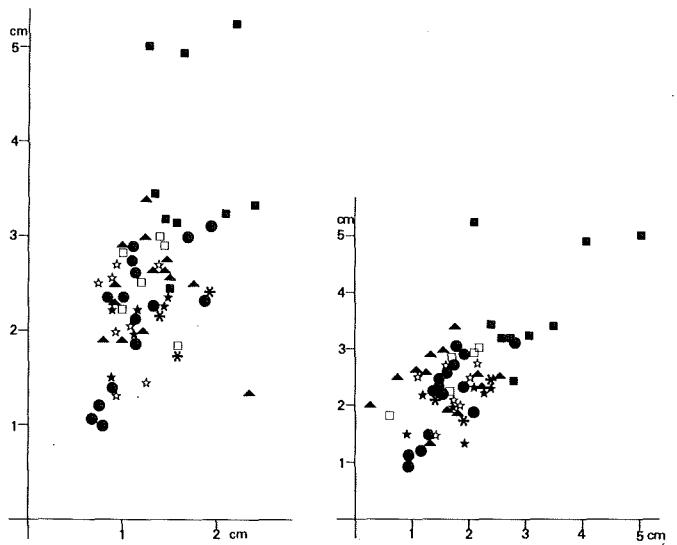
以上のⅠ～IV類に分類され，Ⅰ類は剝片尖頭器，II類は三稜尖頭器，角錐状石器，舟底形石器，III類は尖頭状石器と呼ばれている。

註1　麻生　優・白石浩之　1976「百花台遺跡」日本の旧石器文化一遺跡と遺物(下)雄山閣

註2　白石浩之『西南日本におけるナイフ形石器終末期の予察』神奈川考古第3号

註3　萩原博文『原の辻型台形石器について』人間・遺跡・遺物一わが考古学論集1一麻生　優編　文献出版

註4　杉原荘介・戸沢充則　1971「佐賀県原遺跡における細石器文化の様相」考古学集刊　4—4

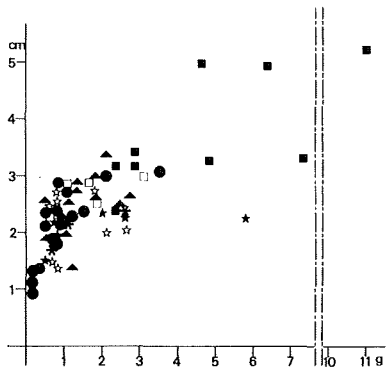


ナイフ形石器計測図(1)
(長・幅比)

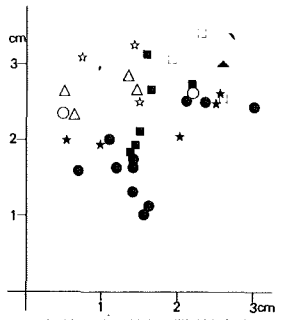
ナイフ形石器計測図(2)
(長・刃部長比)

ナイフ形石器 —☆ Ⅰ類1　✱ Ⅰ類2　● Ⅰ類3　▲ II類2　□ II類3　★ III類
台形・台形様石器 —● Ⅰ類　■ III類　▲ IV類1　★ IV類2　○ IV類3　□ IV類4
△ V類2　☆ V類3
尖頭器類 —▲ II類1　● II類3　■ III類　★ VI類
細石刃 —● 中間部　▲ 頭部　○ 先端部

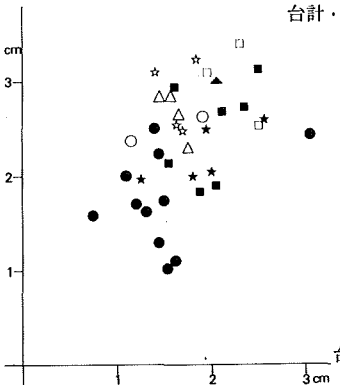
Fig. 36　先土器時代石器計測表①



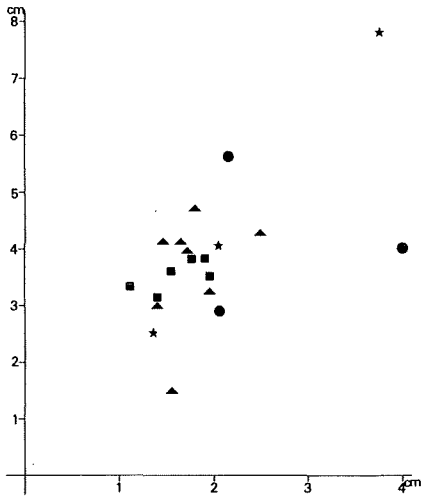
ナイフ形石器計測図(3)（長・重比）



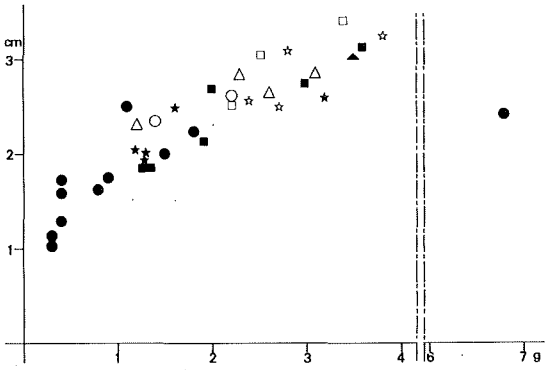
台計・台形様石器計測図(1)
（刃部長・長比）



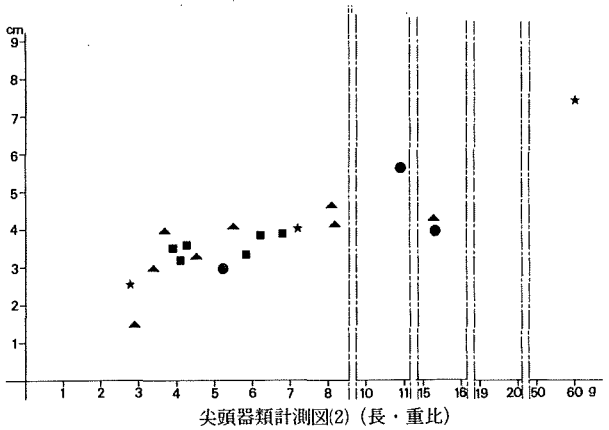
台形・台形様石器計測図(2)
（長・幅比）



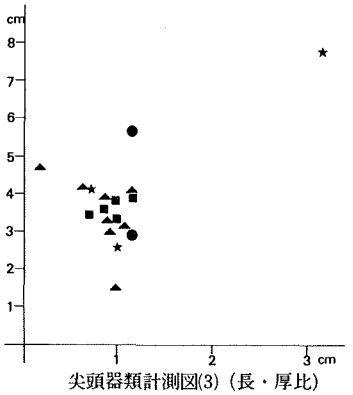
尖頭器類計測図(1)（長・幅比）



台形石器計測図(3)（長・重比）



尖頭器類計測図(2)（長・重比）



尖頭器類計測図(3)（長・厚比）

Fig. 37 先土器時代石器計測表②

ナイフ形石器を主体とする石器群について

A地点ではナイフ形石器，台形・台形様石器，尖頭器類等を含め182点の石器が出土しているが，明確な包含層は確認出来なかった。

出土石器のうちナイフ形石器は二側縁加工の小形のナイフ形石器が多数を占め，それに瀬戸内の影響を受けた横長剥片利用の一側縁加工のナイフ形石器が出土している。

また，台形・台形様石器も「百花台型」，「原の辻型」，「枝去木型」が多く，側縁部の2次加工が錯交する剝離で施されている石器で多数を占めている傾向があるようだ。

尖頭器類は剝片尖頭器1点で三稜尖頭器，角錐状石器，尖頭状石器類が17点と出土点数が多い。

A地点でのナイフ形石器を主体にする石器群は小形のナイフ形石器，「百花台型」，「枝去木型」の台形・台形様石器，三稜尖頭器，尖頭状

Tab. 5　先土器時代出土石器石材別・層位別一覧表

出土	石材＼器種	ナイフ形石器	台形石器	台形様石器	掻器	削器	加工痕のある石器	使用痕のある剝片	彫器	剝片尖頭器	三稜尖頭器	角錐状石器	尖頭状石器	尖頭器	石核	細石核	細石核プランク	細石核再生剝片	細石刃	楔形石器	剝片	ブランディングチップ	計
層位	黒曜石　A	50	4	15	1	3		1			2		1		4	2	1	1	179	1	2	1	268
	〃　B	21	2	11		1					4	3	3	2		1	1	1	352		2		404
	〃　C	11	2	2											2	1							65
	安山岩	1		2						1													4
	チャート							1													1		2
	頁　岩							1											6				1
状土壙ドーナツ	黒曜石　A	3		1															7				10
	〃　B	3	1	1																			12
	〃　C	1																					1
	安山岩	1		1															10				2
落込み	黒曜石　A	7	1										1				1		8				20
	〃　B	3	2	2				1	1		1							1	1		2		21
	〃　C	1		2																			4
	安山岩	1																	15				1
遺構	黒曜石　A			4												1			36				20
	〃　B	2													1				9		1		40
	〃　C	1					1												3				11
表土	黒曜石　A	5	1	2									1					1	2				13
	〃　B																		2				2
	〃　C																		2				2
	安山岩													1									1
計		111	13	43	1	4	1	4	1	1	7	3	6	3	7	5	3	4	677	1	8	1	904

石器類を伴うものと，横長剝片利用のナイフ形石器，二側縁加工のナイフ形石器，「原の辻型」「枝去木型」の台形様石器，尖頭器類を伴うものの２つの時間差をもつ石器群が考えられよう。

利用石材　鷹野遺跡の石材遺存度は黒曜石が99％を占め，安山岩，チャート，真岩が１％程である。

黒曜石は断口の色調により三種類に分けられる。

黒曜石Ａは漆黒色，黒色を呈す。良質でガラス質に富む。原産地は腰岳（佐賀県伊万里市），大崎半島（長崎県川棚町），針尾（佐世保市）産が該当する。

黒曜石Ｂは灰青色を呈す。パテナーが著しい。針尾，淀姫東浜（佐世保市）産。

黒曜石Ｃは灰白色を呈す。ガラス質に富む。Ｃ類はＣ－１と２に細分され，Ｃ－１は灰白色で２は不純物を含む灰黒色をなす。針尾産と産地不明。

以上の分類でもって記載した。（針尾産の中には古里，古里海岸，勝負越Ａ・Ｂ，中山Ａ・Ｂ，田の上，牛ノ岳，針尾人崎遺跡を含めた地域群として捉えた。）

註１．長崎県教育委員会・電源開発株式会社　1982　針尾人崎遺跡
長崎県文化財調査報告書　第60集

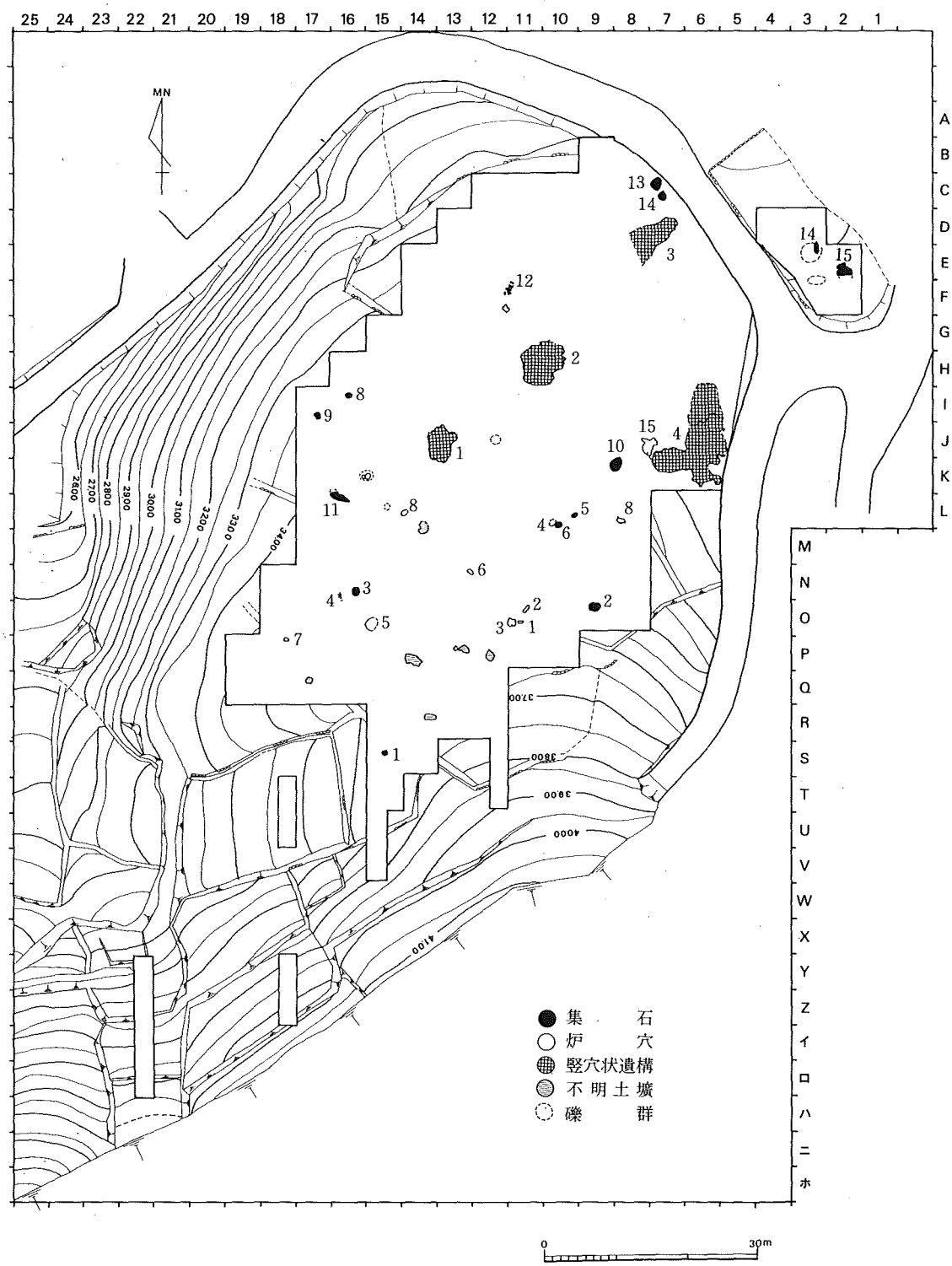


Fig. 38 鷹野遺跡A地点遺構配置図

2．縄文時代

(1) 遺　構

竪穴状遺構　4基の竪穴状遺構が検出された。

1号　J－13・14区で検出。規模は長径4.8m×短径（張り出し部分）4m，
(Fig. 39～41)　中間部分短径2.9m程で，上面観は五角形状の異形を呈す。

土壙の掘り込みは北端部分で35cm，中央部分が若干高くなり22cm，南端部分が深くなり45cmを数え，皿状を呈す。

土壙の北東部分に幅1・3m×長さ1m程の張り出し部分がみられ，20cm程の深さでなだらかな傾斜をもちながら床面に至る。この部分は出入口に当るものと考えられる。

土壙内および周囲に柱穴は確認できなかった。ただ，床面に礫が点在し，中央部分が若干高くなり，その東端部分の床面に硬質砂岩礫（径26cm×厚さ7cm）を利用した台石が1個検出された。この台石の周囲は若干の掘り込みがみられ，床面と台石の間に土を敷き，ほぼ水平になるように配慮され，台石の固定に根メに砂岩板状礫と火山岩礫を用い，前者は傾斜面の下方に，後者は斜め上に置かれ，台石を水平位置に保ち，上方の側面に板状の火山岩礫がくさびのように床面にくい込み，台石の移動をふせいでいる。これらの礫以外はなく，作業者と台石の位置関係を示唆するものであろう。

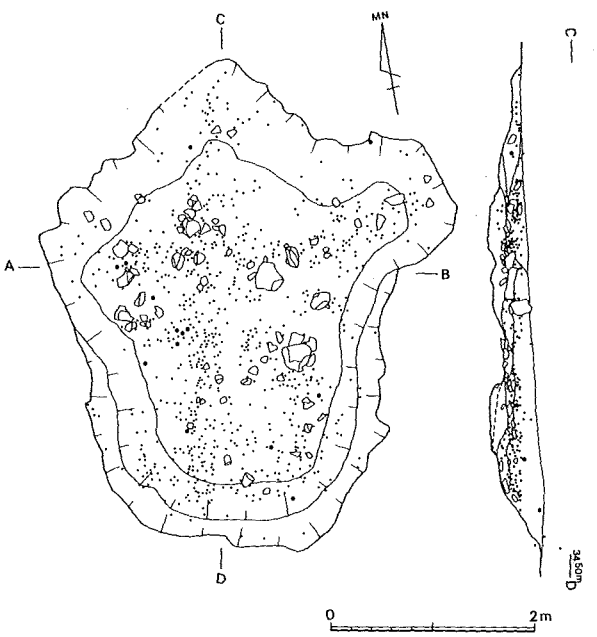


Fig. 39　1号竪穴状遺構内遺物出土状況

遺構床面・周壁はマンガン・鉄分の沈着で，固く締っている。このような現象は2～6号竪穴状遺構，3号不明土壙に限っており，当時の人々の生活の中で，踏み固められた部分のみに鉱物が沈着し，このような状態ができたのであろ

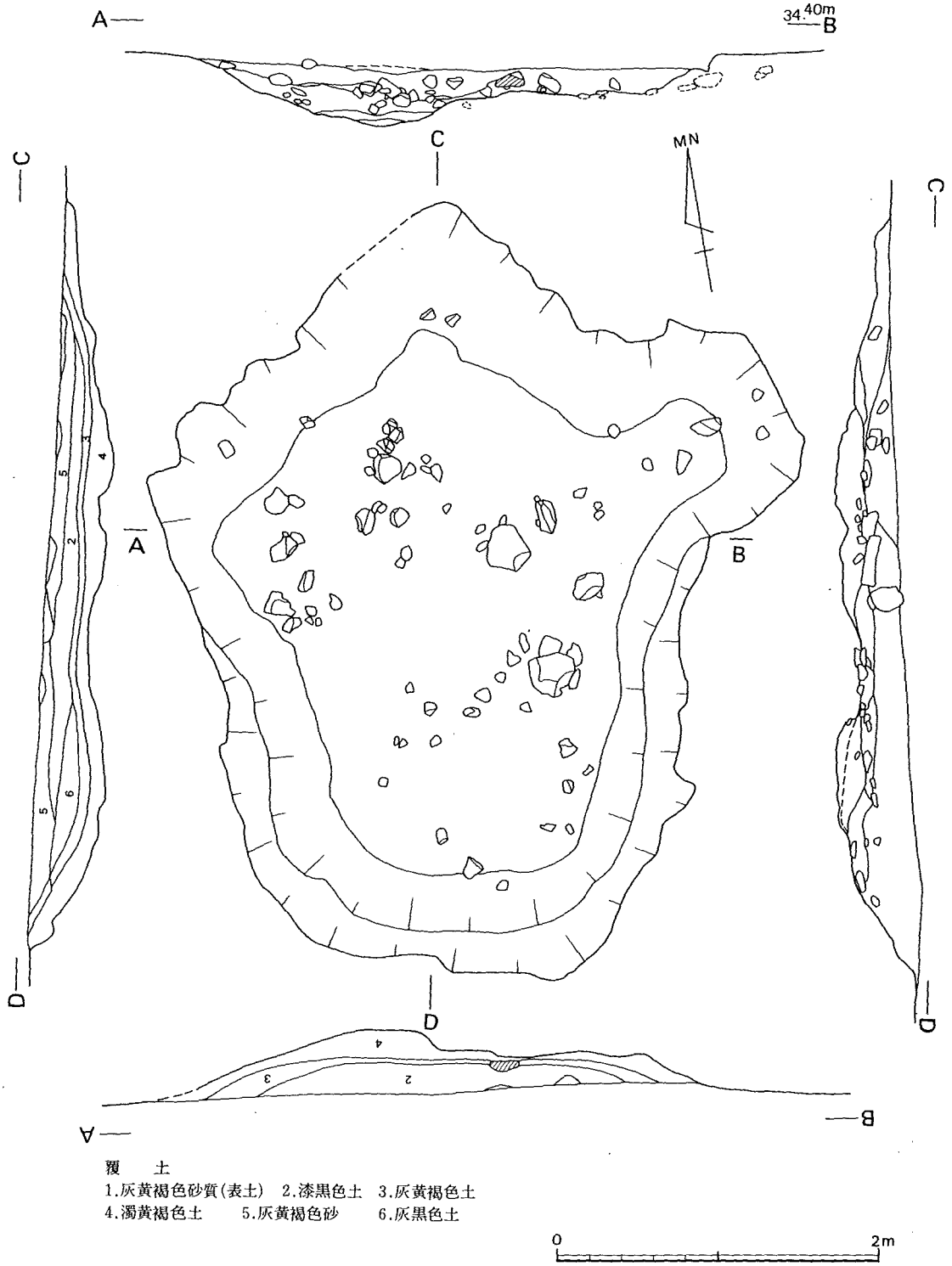


Fig. 40　1号竪穴状遺構（1/40）

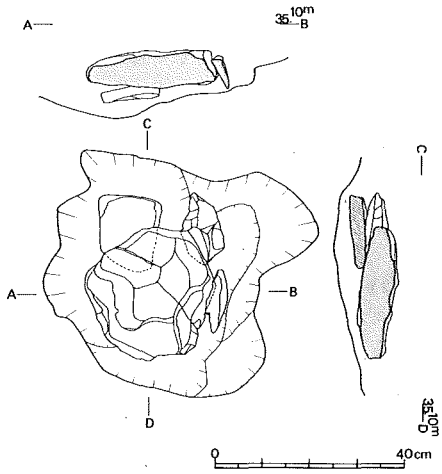


Fig. 41　1号竪穴状遺構（台石）

う。

遺構内床面に局部磨製石斧，石鏃，石鏃未製品，剝片と1,200点を越す砕片が出土し，この遺構は石器製作の工房跡で，住居としても使用されていたのであろう。

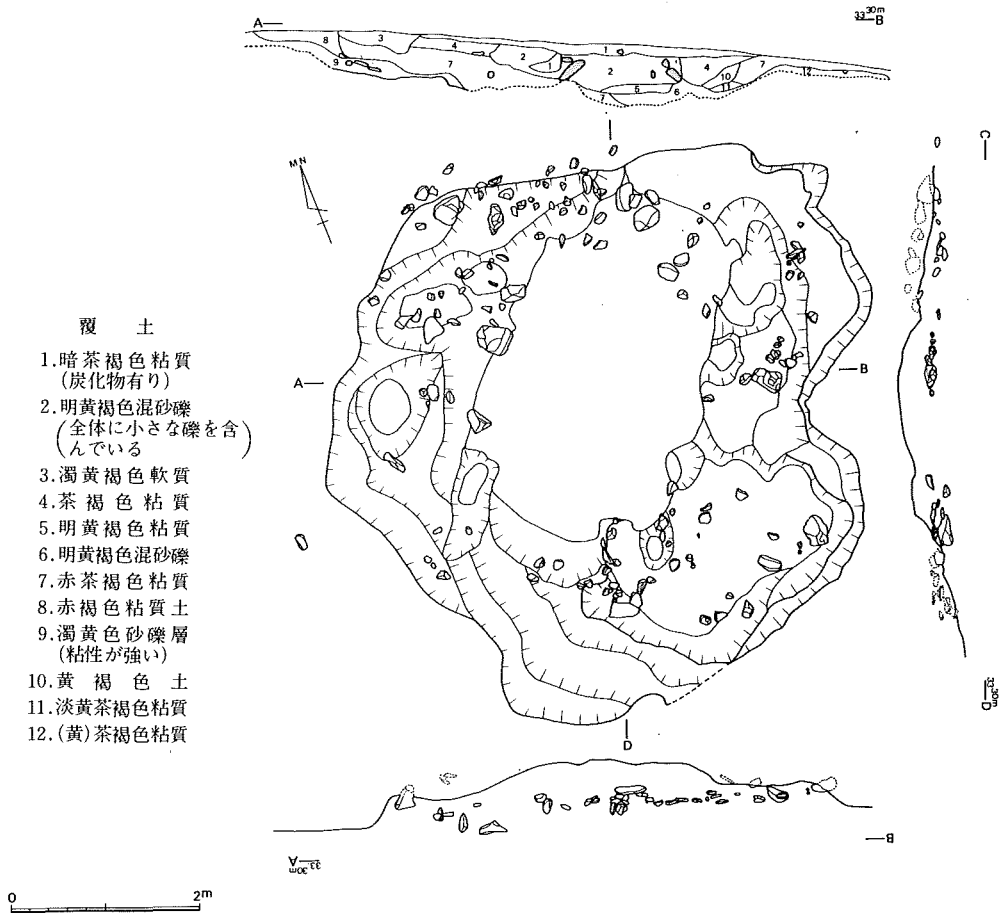


Fig. 42　2号竪穴状遺構（1/80）

2号　G・H—10・11区で検出。この遺構の中央部分の床面が，長径3.8m，
(Fig.42)　短径2.4m程の範囲をドーナツ状土壙のために壊されている。

遺構の規模は長径5.8m×短径5.6m程のほぼ円形状を呈す。土壙の掘り込みは東側壁面で約25cmの深さで，西側はなだらかに立ち上がる。全体的には約25cm程の皿状を呈すようだ。

遺構の東側の床・周壁面部分はマンガン・鉄分の沈着で固く締り，西側はその痕跡が少ない。また土壙内に頭大位の礫石がみられるが，柱穴は確認できなかった。

3号　D・E—7・8区で検出。この遺構の西端部分は近世の列石群で壊
(Fig.43)　され，E—7区にかかる東側部分は掘りすぎたようだ。

規模は現長径6.2m×短径3.5m東側部分の短径2.4m×深さ20cm程で，全体の規模は不明であるが，不定形状を呈すものと考えられる。

土壙の掘り込みは浅く，ほぼ平担面を呈す。床面に挙大位の礫石が東側と西側に敷き詰められており，敷石住居跡と考えられる。この礫石は砂岩がほとんどで，本来は全面に敷き詰められていたものが，遺構プラン確認がおくれたため，部分的に欠除している。

床面の礫石下はマンガンの沈着で固く締っている。遺物はこの礫石の上に，全域にほぼ平担にみられ，礫石面が床面と考えられる。また柱穴は確認できなかった。

遺物は石鏃6点，石核4点，加工痕のある石器，剝片，砕片が多数出土している。

Fig. 43　3号竪穴状遺構内遺物出土状況

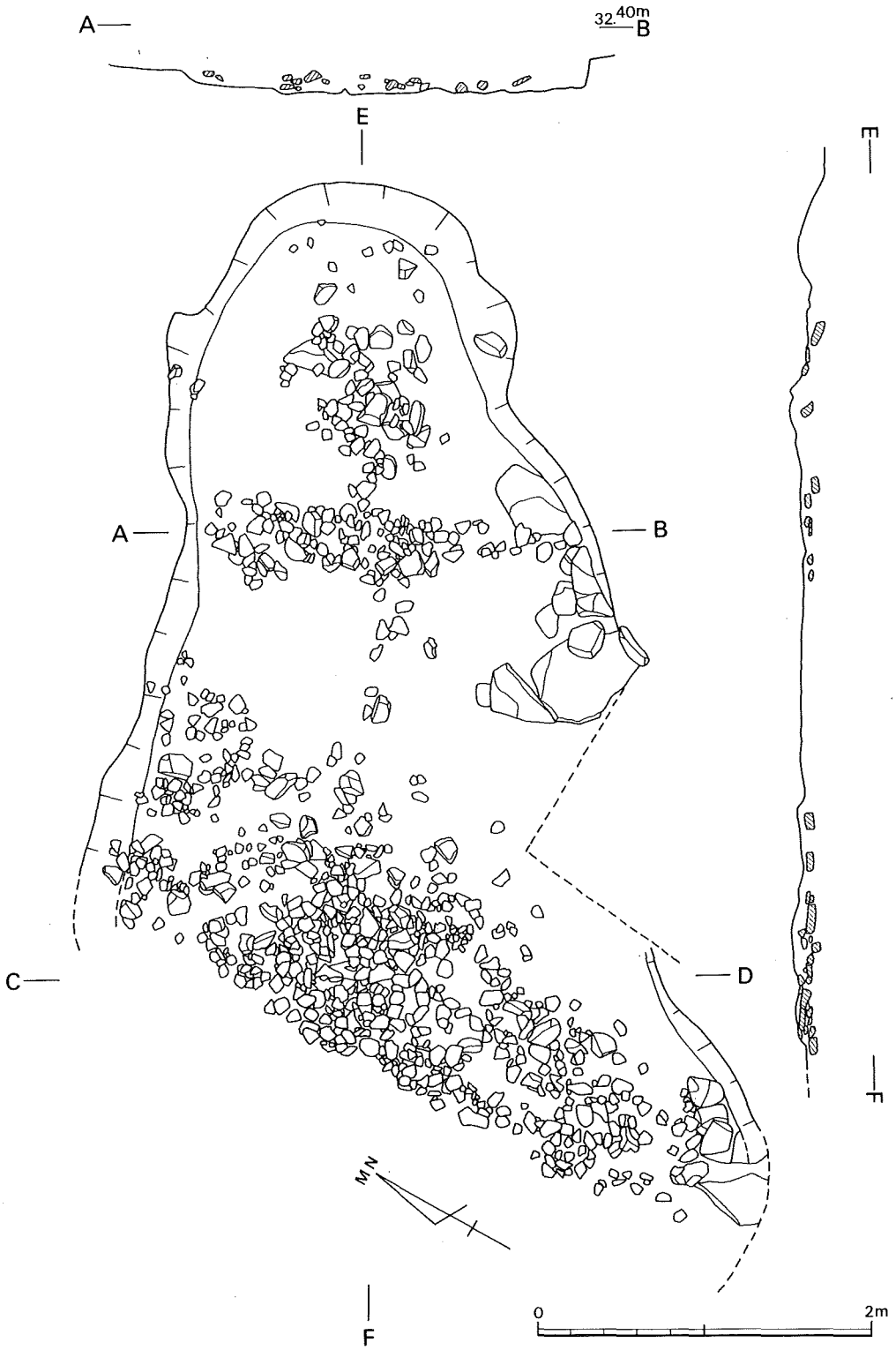


Fig. 44　3号竪穴状遺構（1/40）

4号　J・K－6・7区で検出。この遺構は先に南側半分の調査を実施後，
(Fig.44)　更に北へ延びることが確認されたので拡張した。また東側の一端は現在の道路建設の際に壊されている。

遺構は南北に13m×東西5.5m程で，南北に帯状に細長く，更に南側に東西約5m×南北に2.7m程突き出た部分があり，広範囲にまたがる。

この遺構は全体的に東側部分の上端が東へ行くほど低く，後世に削平されている状況が窺われる。また北端部分の土壙の掘り込みは，はっきりとは確認できなかったが，一応この敷石の範囲と考えられる。

土壙部分の掘り込みは西端部分で約80cm程で深く，東端部分は浅い。ただ，礫石が敷かれた面は東西，南北共に平担面を形成する。

この土壙内の底面に礫石が4箇所に区画された領域をもち敷かれている。北端部分は径4m程の円形状の範囲に敷石が顕著で，中央部分は径4m程の円形状を呈し，その周縁部分に浅い溝の掘り込みが巡り，その中に礫石が詰った状況で検出されている。更に南端部分にも径4m程で円形状を呈し，周縁部分に浅い溝が巡り，敷石された状況が検出されている。

また，西端部分の床面上にも敷石がみられ，それぞれ単体としての生活の場の一端を占めていたのであろう。

南端部分の敷石の中央部分に径50cm×深さ55cm程の規模で柱穴が確認されている。

遺物は打製石斧1点，石鏃4点，敲石2点，使用痕のある剝片1点，土器片6点，剝片24点，砕片24点と出土遺物は少ない。

以上のように竪穴状遺構は4基検出されたが，この遺構を竪穴状としたのは4号に柱穴が1つ検出されているだけで，他は確認できていないためであるが，遺構の性格として住居址として捉えたい。

1号は石器製作跡兼住居跡と考えられ，2号は住居跡，3・4号は敷石住居跡で，特に4号は3～4軒分の区画された領域が確認されている。

また，この鷹野遺跡では全体的に石器の出土頻度に比べて極端に土器の出土が少ない傾向があり，この遺構出土遺物もその状況下にあるようだ。そのことは周辺遺跡群でも同様な傾向を示す。

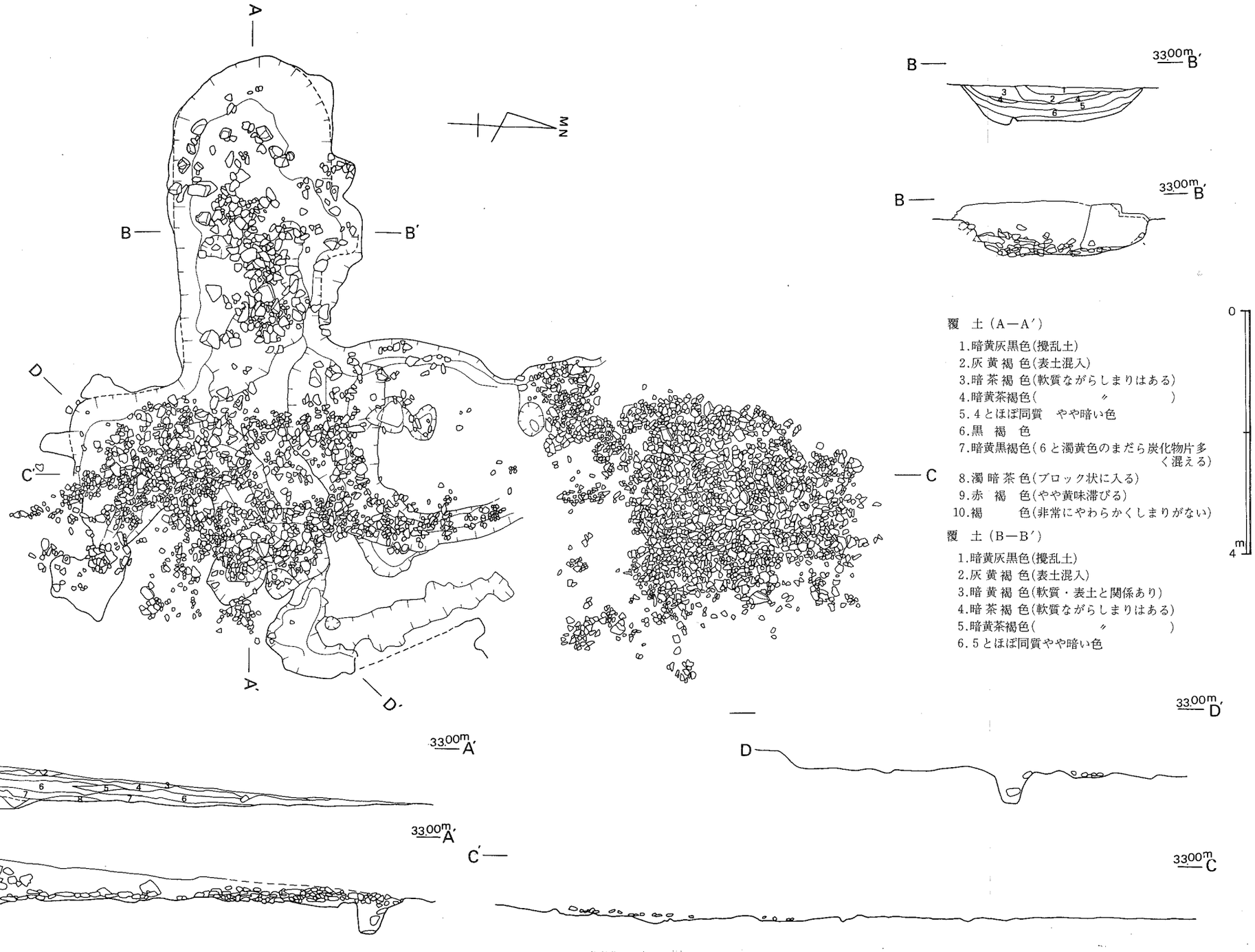


Fig. 45　4号竪穴状遺構（1/80）

② **集石遺構**　第II層で15基検出された。遺構は土壙の掘り込み部分をもつものと，もたずに平担なものがあり，B地点程集中する傾向はなく，立地する地形に則して竪穴遺構群の周辺に検出されている。B地点と同様に，礫石が焼けた痕跡をもち，土壙の掘り込み部分が焼け，炭化物を検出することから炉址として捉えた。

1号 (Fig.46)　S—15区で検出。土壙は深さ20cm程の皿状を呈し，礫石は炉底面より約15cm程炭化物を含む土層の上に集石し，礫石が詰った状態で検出された。礫の焼けた痕跡は明確でない。また土壙内に扁平礫を利用して，「コ」の字状に配置した状況が窺われる。

2号 (Fig.46)　O—12区で検出。土壙は2段に掘り込まれ，上段は長径1.6m×短径1.2m×深さ7cm程の楕円形状を呈し，拳大位の礫石が散然と詰り，下段に礫石が詰った状態で径85cm×深さ40cm程の円形状の掘り込みが検出された。

礫石と炉底面の間の約5cmに多量の炭化物を含む黒色土が検出され，炉底面に木片の炭化物が塊状に多数検出された。この木片は樹種同定の結果，クヌギ・シイノキ・コナラ・サクラの樹種が使用されていること

Tab. 6　集石遺構一覧表

集石遺構	層位	形態分類	土壙形状	規模 上面プラン長径×短径(m)	規模 深さ(m)	土壙焼成	礫数	炭化物	出土遺物
1	II	A	円形	0.73	0.19	○	98	○	砕片2
2	II	A	円形	1.6×1.2 0.85	0.07 0.40	○	290	○	石核1、剥片1、砕片7(6)土器片9
3	II	A	円形	1.10	0.27	○	162	○	砕片1
4	ドーナツ状土壙	A	ナシ	0.8×0.4	×	×	50	○	石錐1、剥片1、砕片83
5	II	A	円形	0.77	0.15	○	16	○	
6	II	A	円形	0.90	0.14	○	20	○	砕片12
8	II	A	円形	0.87	0.20	×	35	×	剥片1
9	II	A	楕円楕	0.96×0.69	0.19	×	多数	×	
10	II	A	楕円形	0.6×(1.2)	0.45	×	35	○	石錐1、剥片3
11	II	A	長楕円形	3.20×(1.15)	0.45	○	62	○	剥片2、砕片73、土器片2
12	II	A	不明	2.0×0.9	×	×	51	○	石錐1、剥片6、砕片1
13	II	A	(円形)	1.53	0.26	○	63	○	砕片2
14	II	A	楕円形	1.50×0.9	0.23	○	101	×	剥片14、砕片10
15	II	A	分胴形	2.49	0.57		319		加工痕のある石器3、尖頭器1、石錐1、石1、剥片28、砕片62
16	II	A	円形	0.85	0.19	○	47		細石刃1、砕片4

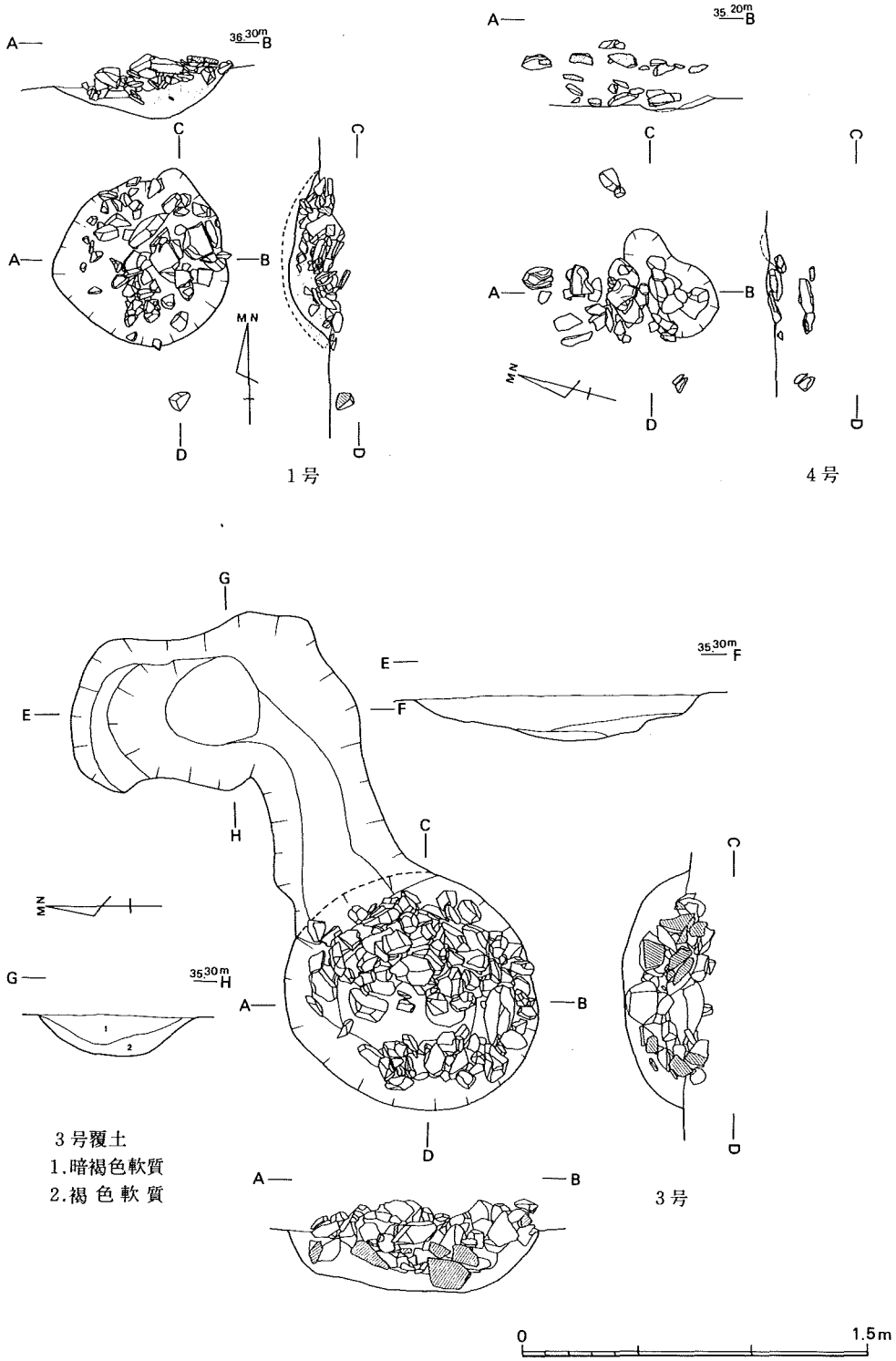


Fig. 46 集石遺構① (1/30)

が判明した。

炉底・周壁は焼土化し，礫石も熱を受け赤変している。

また，礫石は立石が多く，炉底に一個扁平な礫を敷いている。

この集石遺構を半分割し，科学的処理後に切り取る作業を実施した。

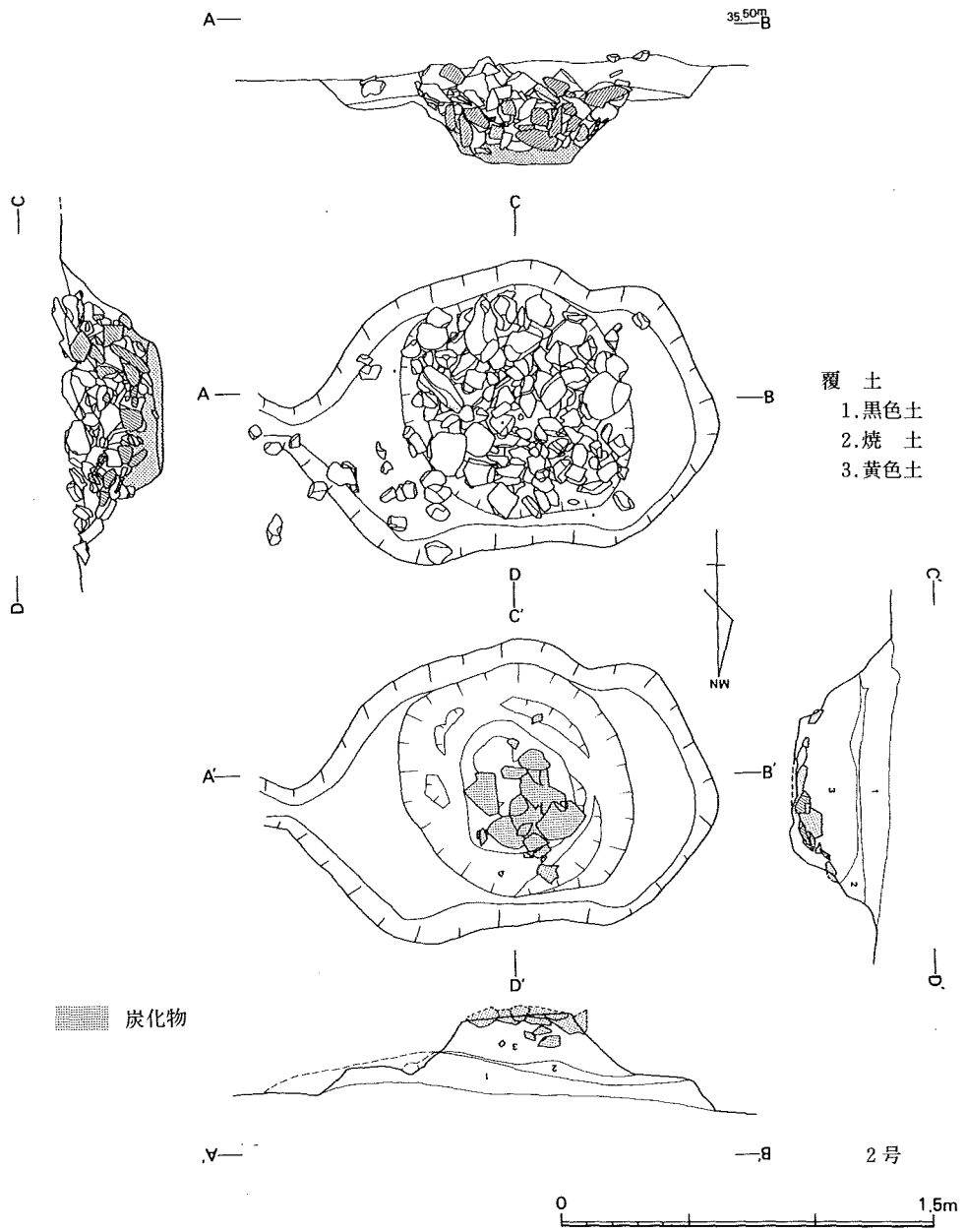


Fig. 47 集石遺構② (1/30)

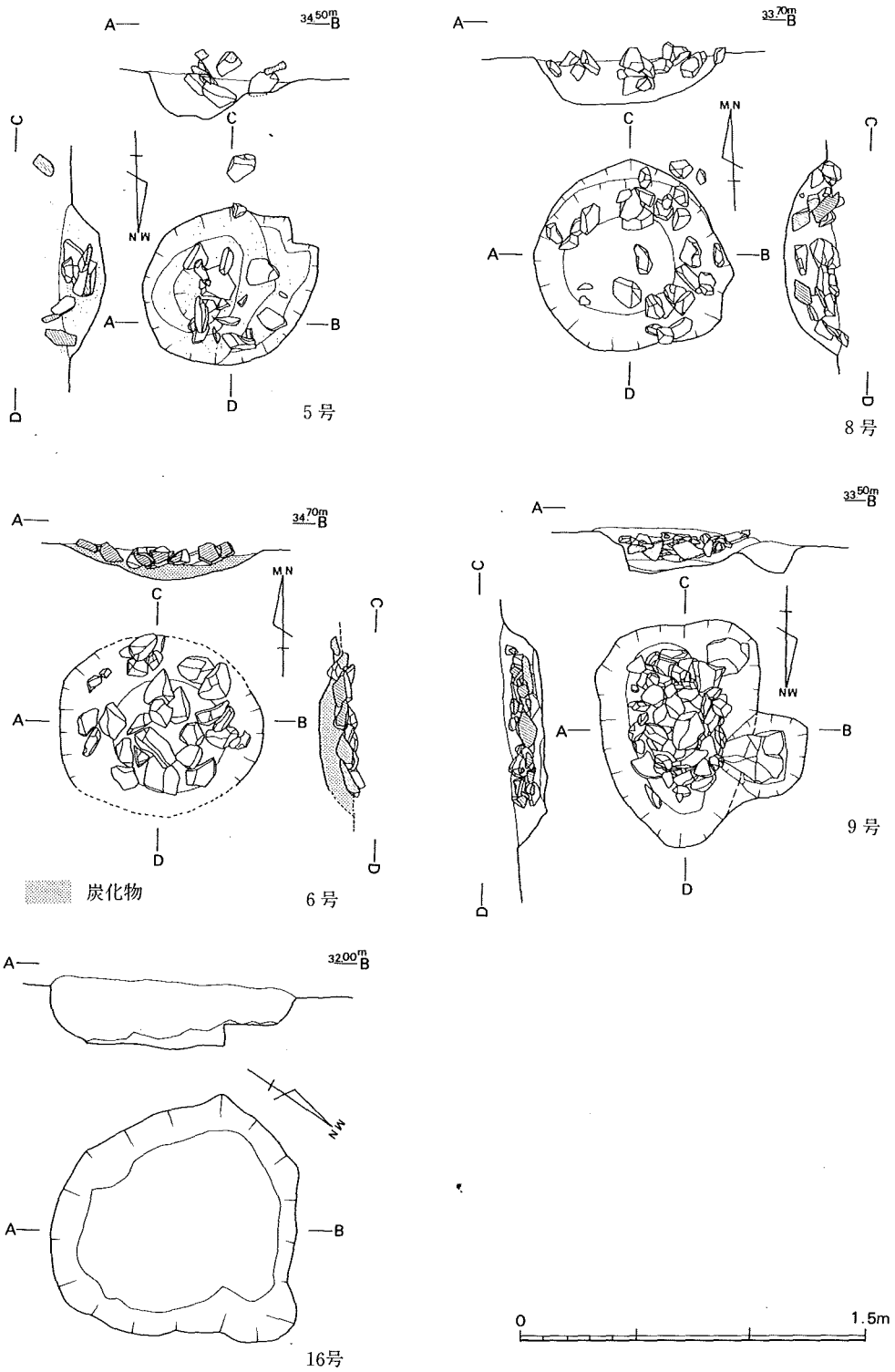


Fig. 48 集石遺構③ (1/30)

3号　N－16区で検出。土壙の掘り込みは径1.1m×深さ27cmの円形で皿状
(Fig.46)　を呈す。炉底に比較的大きな礫石を並置し，その上に礫石が集石したもので，検出状況より中央部分の礫石は除去され，周囲の礫石が残存した状態で検出された。礫石は赤変したものもみられ，炉底・周壁部分は焼土化が著しい。炉底面の炭化物の樹種同定でコナラが使用されている。土壙の東側に長径1.25m×短径0.75m×深さ20cm程の円形状の土壙があり，3号と浅い溝状の掘り込みで連結している。

集石遺構との関係は明らかではないが，連結部分には礫石が詰った状況がみられる。

3号集石の1.5m程西側に4号集石が検出されている。C^{14}年代測定で9,390±115Y.B.P.（9120±110Y.B.P.）の年代を得ている。

4号　N－16区で検出。4号はドーナツ状土壙の覆土に構築されている。
(Fig.46)　礫石の規模は南北80cm×東西40cm程の帯状を呈す。礫石の上・下端面は約20cm程の厚みをもっている。

礫石下に狭い範囲に浅い凹地がみられ，炭化物が集中して検出され，この面が集石の下底面と考えられる。

5号　L－11区で検出。土壙の掘り込みは径77cm×深さ20cm程の円形で皿状
(Fig.48)　を呈す。炉底面に礫石が5個検出され，炉底・周壁部分は焼けた痕跡があり，炭化物も検出された。

6号　L・M－11区で4号炉穴と隣接し，1.5m程北東側に5号集石がある。
(Fig.48)　調査の際に遺構の南北端部分を掘りすぎたようだ。

土壙の掘り込みは径90cm×深さ14cm程の円形で浅い皿状を呈す。炉底面と礫石の間に約6cm程の炭化物を含む土があり，その上に挙大位の礫石を並置した状況で検出された。

遺物は砕片12点が出土。

8号　I－16区で検出。土壙の掘り込みは径87cm×深さ20cm程の円形で皿状
(Fig.48)　を呈す。礫石は周壁部分に集中し，中央部分は取り除かれたのであろう。

土壙および礫石が焼けた痕跡は不明で，炭化物も検出できなかった。

9号　I－17区で検出。土壙の規模は長径0.96m×短径0.69m×深さ19cm程

(Fig.48)　で楕円形状を呈し，浅い皿状の掘り込みをもつ。

土壙内に挙大位の礫石がぎっしり詰った状態で検出された。土壙・礫石も焼けた痕跡はなく，炭化物も検出できなかった。

10号　K－9・10区で検出。遺構の西側部分は調査の際に掘りすぎた。

(Fig.49)　土壙の規模は長径1.6m×短径約1.2m×深さ45cm程の楕円形状を呈し，深い皿状の掘り込みをもつ。礫石は北側部分に集中し，炭化物を検出している。炉底，周壁部分の焼けた痕跡は確認できなかった。

遺物は石鏃1点，剝片3点が出土。

11号　L－16区で検出。土壙の規模は東西に帯状に長径3.2m×短径1.15m

(Fig.50)　程の長楕円形状を呈す。また北西部分に長径1.5m×短径1m×深さ45cm

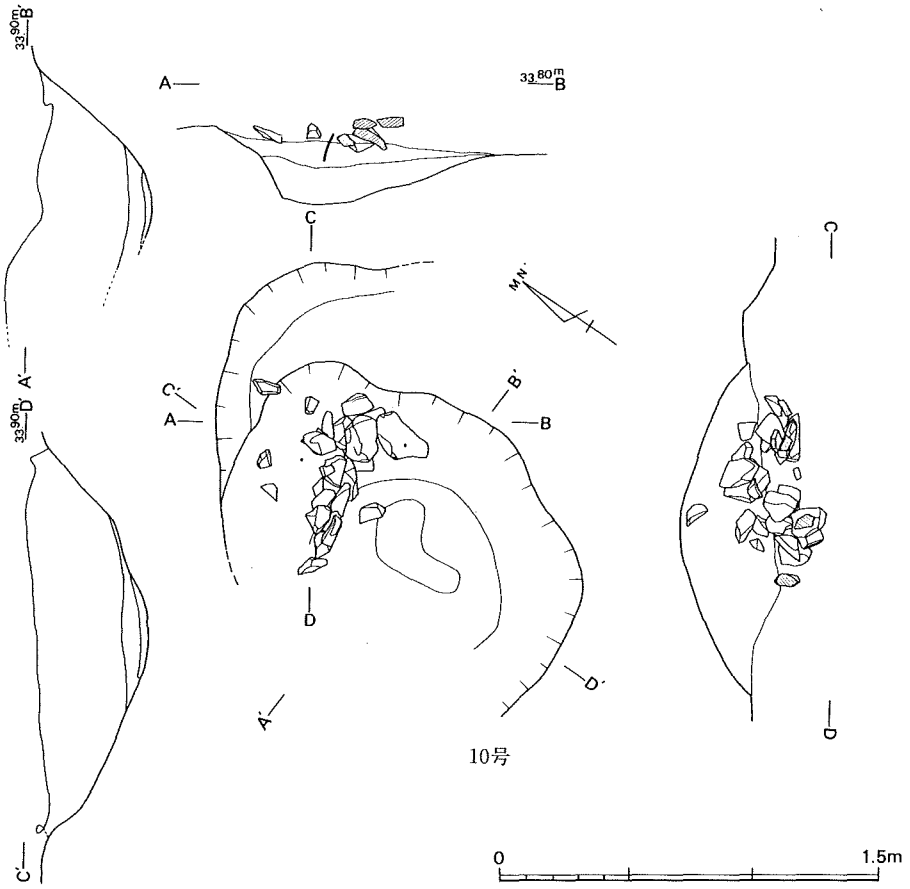


Fig. 49 集石遺構④ (1/30)

程の楕円形状の掘り込みをもつ。この炉底上に礫石がみられ，周壁部分も焼けている。

東南部分の土壙は南側に傾斜し，その面に挙大位の礫石がみられる。南側は調査の際に掘りすぎている。遺物の出土をみる。

12号 (Fig.51)　F－11区で検出。礫石は南北２ｍ×東西0.9ｍの範囲に帯状に検出され，礫石の上端から下端面は約50cm程の厚みをもつ。

土壙はドーナツ状土壙の覆土に構築され，明確な掘り込みは確認できなかった。礫石の検出状況からして，土壙の存在が窺われる。

礫石は焼け赤変し，接合するものが１例ある。

遺物は石鏃１点，剝片６点，砕片１点が出土。

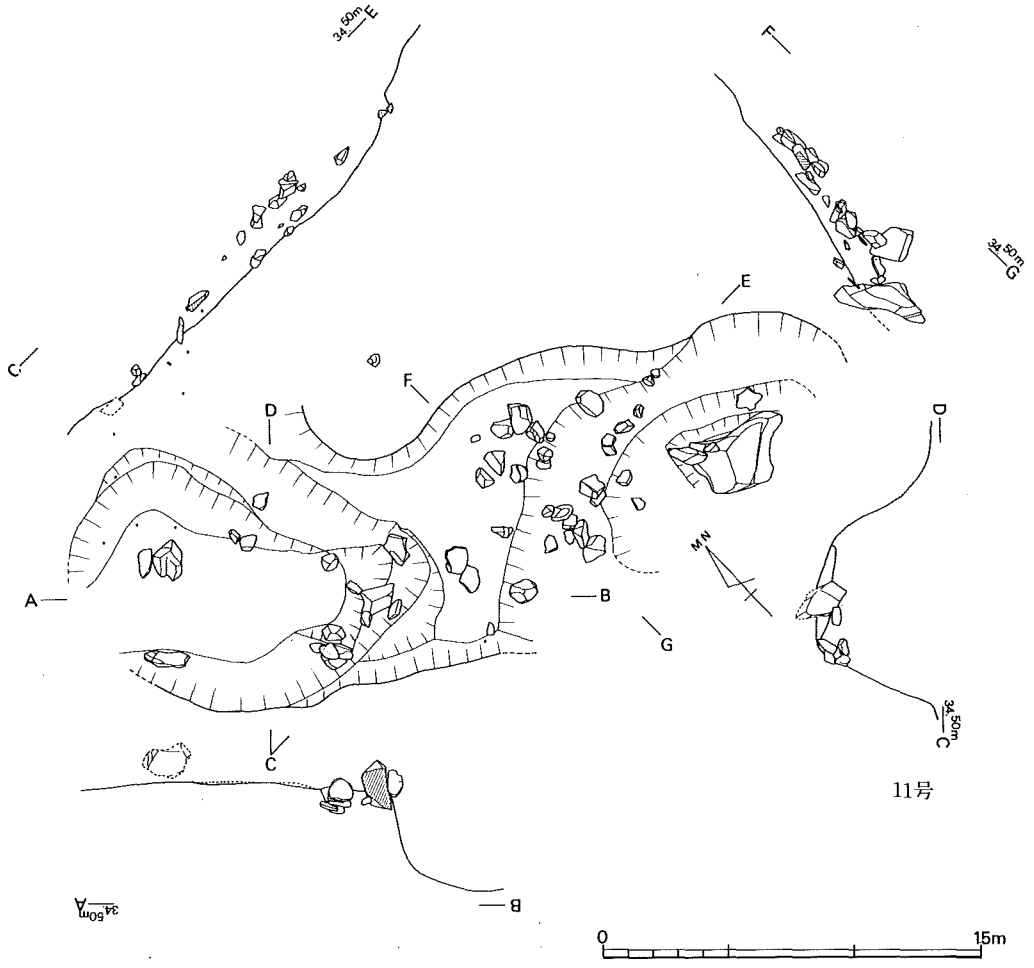


Fig. 50 集石遺構⑤ (1/30)

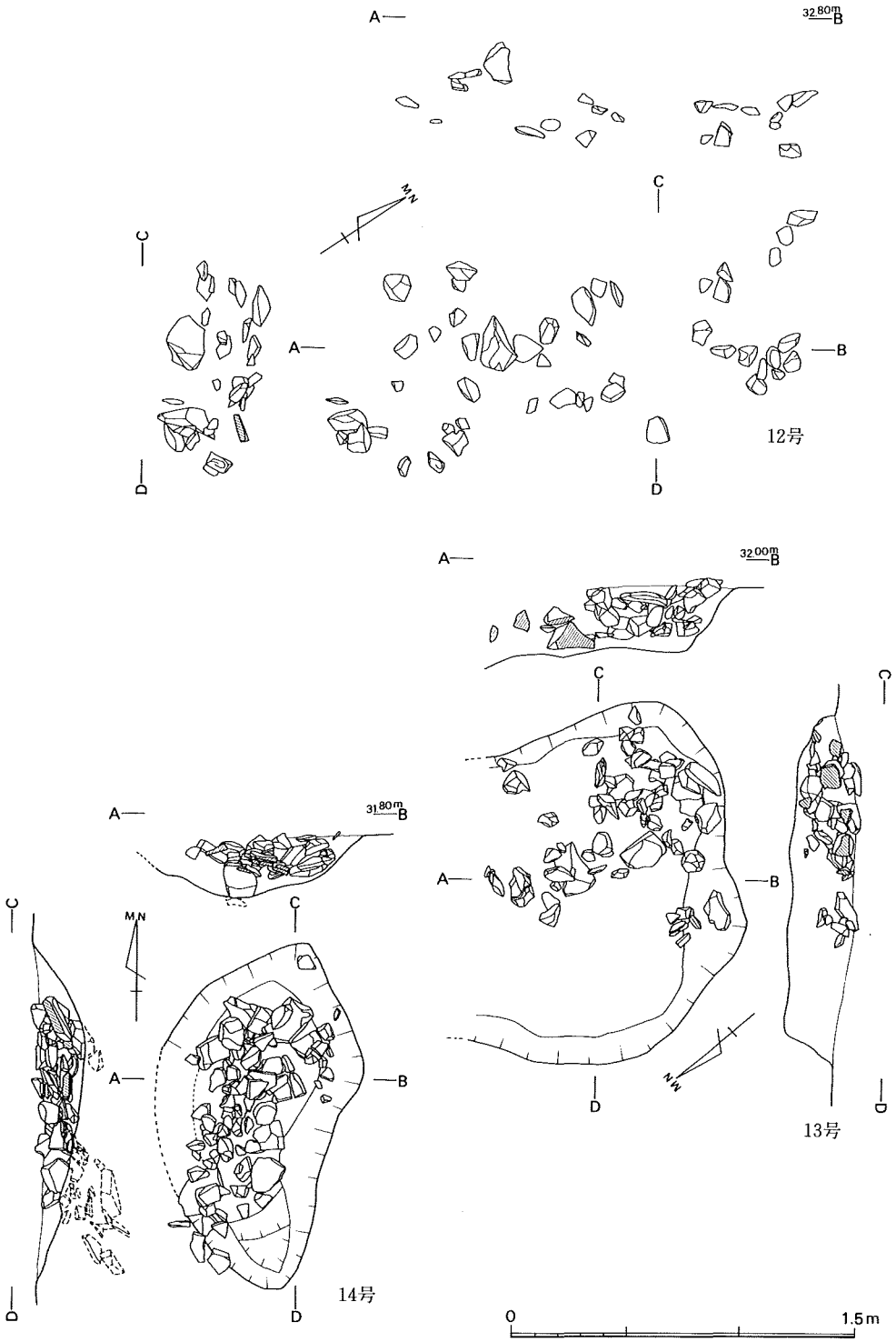


Fig. 51 集石遺構⑥ (1/30)

13号　C－7区で検出。土壙部の東端部分は現在の道路建設のために破壊され，土壙の規模は1.53mの円形を呈すと考えられ，深さは26cm程の掘り込みをもつ。礫石は東側に集中して検出された。
(Fig. 51)

14号　E－3区で検出。この集石の上部に1号礫群が乗っており，その下部に礫石が集中するものを14号集石とした。
(Fig. 51)

土壙の規模は南北1.5m×東西0.9m×深さ23cm程で楕円形状を呈し，浅い皿状の掘り込みをもち，南北にかけて深く傾斜する。

礫石は炉底に10個程の砂岩の板状石を花弁状に並置し，その上に礫石が詰った状況で検出された。炉底の礫石は焼けて赤変し，周壁部分も焼けた痕跡が窺われる。

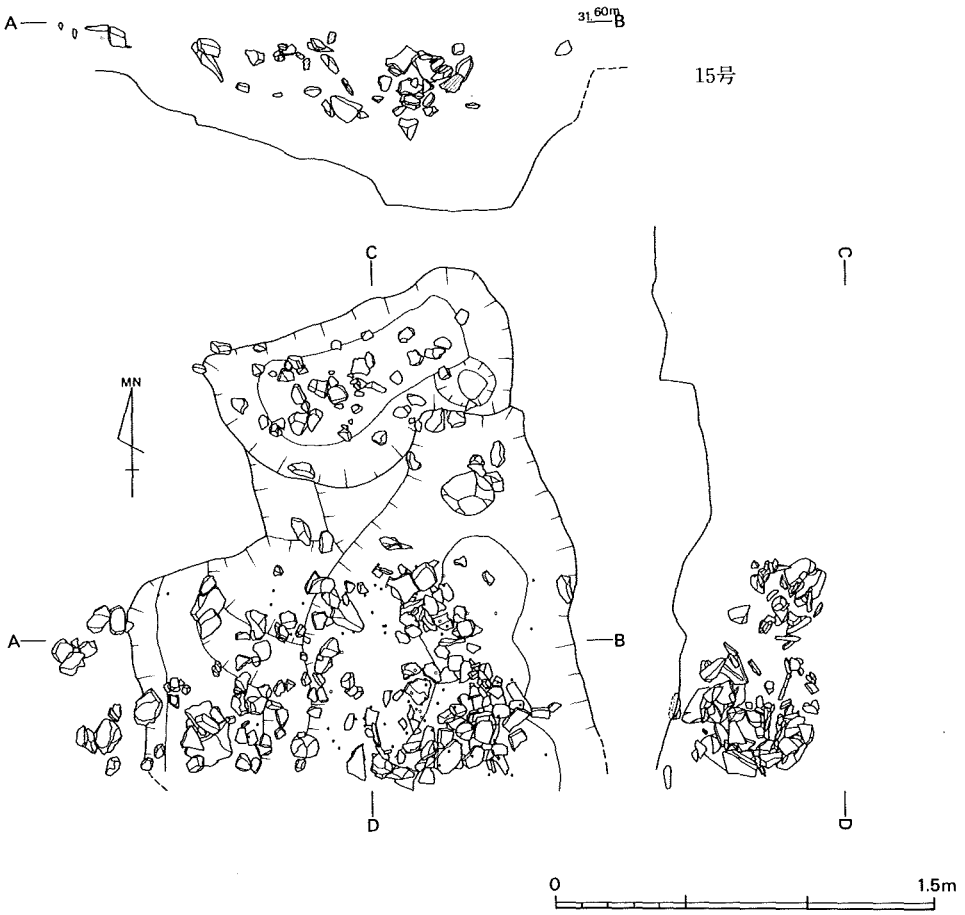


Fig. 52 集石遺構⑦ (1/30)

15号　遺構群の最東端のE・F－2区で検出された。土壙は2つの部分から
(Fig.52)　なり，北側の土壙は東西1.5m×南北0.7m程の楕円形状を呈す。この部分は調査の際に掘りすぎて，輪郭と礫石の検出にとどまった。

また南側の土壙は東西1.8m×南北現長1m程で楕円形状を呈すが，更に南側へ延びるものと思われる。深さは50cm程で礫石が集石している。検出された礫石，および炉底部分は焼けて赤変している。

集石の形状は分胴形を呈し，遺物は石鏃1点，敲石1点他多数出土。

16号　C－7区で13号集石に隣接して検出された。挿図では礫石を記載して
(Fig.48)　いないが，実測図作成前に大雨のために倒壊してしまった。

土壙の規模は径0.86m×深さ19cm程の円形状を呈す。礫石は土壙の周壁に沿ってみられ，焼けた痕跡がみられる。

以上の集石遺構は15基検出され，B地点と同様な形態を呈す。

特徴は①楕円形状で浅い皿状の土壙をもち，その中に礫石が詰った状況のもの（9，15号）とそうでないもの（10，11号）。また形状が円形を呈し，浅い皿状の土壙をもち，その中に礫石が余り残存しないもの（5，8，13，16号）がある。

②は①に比べて土壙の掘り込み部分が深く，炉底直上あるいは灰・炭化物の堆積土上に礫石を敷き並べた状況で，その上に礫石が詰ったもの（2号）と礫石が余り残存しないもの（3，6号）がある。

③は残い土壙に砂岩の板状石を花弁状に並置し，その上に礫石が集石するもの（14号）。

④は礫石が集石し，土壙部分の掘り込みがあるもの（4号）とないもの（12号）。

以上のような形態に分れ，土壙の底・周壁が焼け，礫石も赤変し，炭化物も多く検出されていることから，焼石を利用した調理用の炉址の用途面をもつものと考えられる。

また，B地点と同様に4，12号は炉址としての用途よりも，集石・炉穴で利用される礫石が，集積されたものと捉えられなくもないような検出状況を示す。

③ 炉穴遺構　遺構は第II層で10基検出された。

1号 (Fig.53)　O—12区で検出。土壙は東西0.75m×南北0.26m×深さ18cm程で楕円形状を呈し，浅い掘り込みをもつ。西端部分の炉底・壁に火熱を受けた痕跡が著しい。礫石が4個と炭化物が検出された。

遺物は剝片5点，砕片23点が出土。

C^{14}年代測定で9680±170Y.B.P.（9400±165Y.B.P）の年代を得ている。

2号 (Fig.53)　O—12区で検出。土壙は長径1.3m×短径0.4m×深さ25cm程の楕円形状を呈す。掘り込み部分は中央付近が若干へこみ，遺物・炭化物が集中する傾向をみせ，北端部分を除き周壁・炉底にかけ焼けた痕跡が著しい。遺物は剝片，砕片各2点出土。

3号 (Fig.53)　O—12区で検出。この炉穴は，当初南北に接して別々に2基つくられ，使用段階において，1基としての利用がなされたものと考えられる。

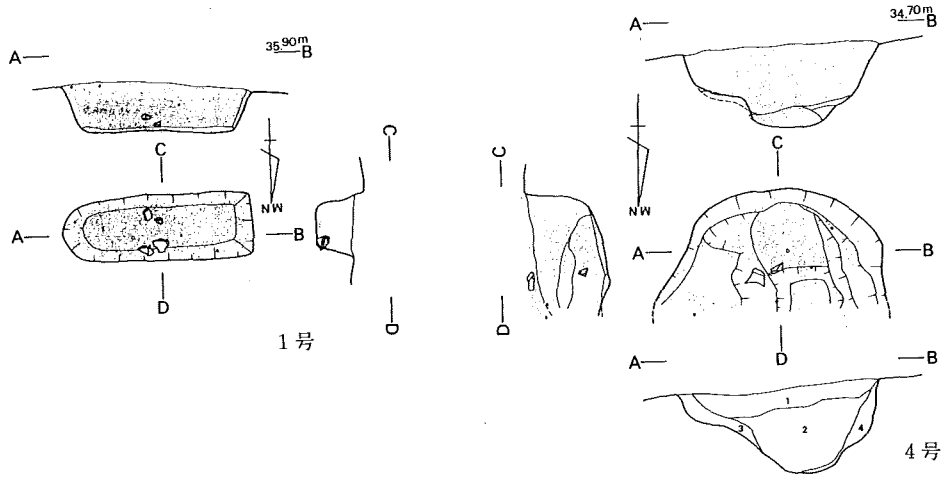
東側の土壙Ⓐは長径1.03m×短径0.66m×深さ30cm程の楕円形状を呈す。西側Ⓑに比べて炭化物が少ない。

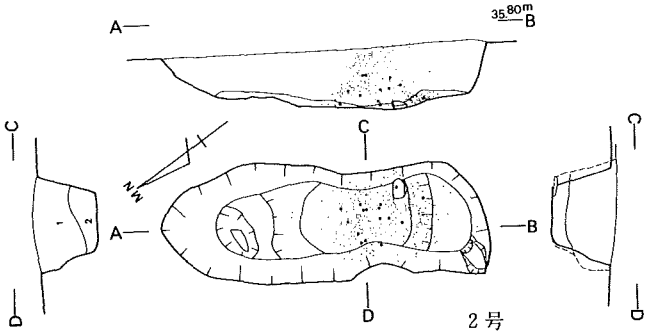
西側の土壙Ⓑは長径0.9m×短径0.55m×深さ30cm程の楕円形状で，炭化物を多量に含む。

ⒶⒷ共に土壙部分の南側壁面に火熱を受けた痕跡が顕著である。

Tab. 7　炉穴遺構一覧表

炉穴遺構	層位	形態	形状	規模 上面プラン 長径×短径(m)	規模 深さ(m)	土坊焼成	礫数	炭化物	出土遺物
	II	A	楕円形	0.75×0.26	0.18	○	4	○	剝片5、砕片23
2	II	A	楕円形	1.30×0.40	0.25	○	1	○	剝片2、砕片5
3	II	A	分胴形	Ⓐ1.03×0.66 Ⓑ0.90×0.55	0.30 0.30	○	×	○	剝片2、砕片30、土器片1
4	II	A	円形(?)	0.92×(0.49)	0.32	○	2	○	細石刃1、剝片1、砕片4、土器片1
5	II	A	円形(?)	(0.52)×0.95	0.22	×	0	○	石鏃1、砕片15
6	II	A	楕円形	0.87×0.53	0.22	○	10	○	砕片50、土器片2
7	II	A	楕円形	0.71×0.42	(0.17)	○	22	○	砕片3
8	II	A	円形(?)	$0.08\times^{0.70}_{(0.65)}$	0.32	○	8	○	砕片13
9	II	A	楕円形	1.10×0.69	0.20	○	12	○	高石1、剝片3砕片7
15	II	A	楕円形	Ⓐ1.8×0.95 Ⓐ2.16×0.76 Ⓐ1.31×0.62	0.42 0.40 0.38	○	140	○	石鏃3、石核2、剝片7、砕片32 土器片5





2号炉穴覆土

1.灰黄褐色土
(炭化物を含む)

2.暗灰褐色土
(炭化物、焼土塊を含む)

4号炉穴覆土

1.褐　色　土

2.赤 褐 色 土
(赤く焼け、炭化物を多く含む)

3.濁 黄 褐 色

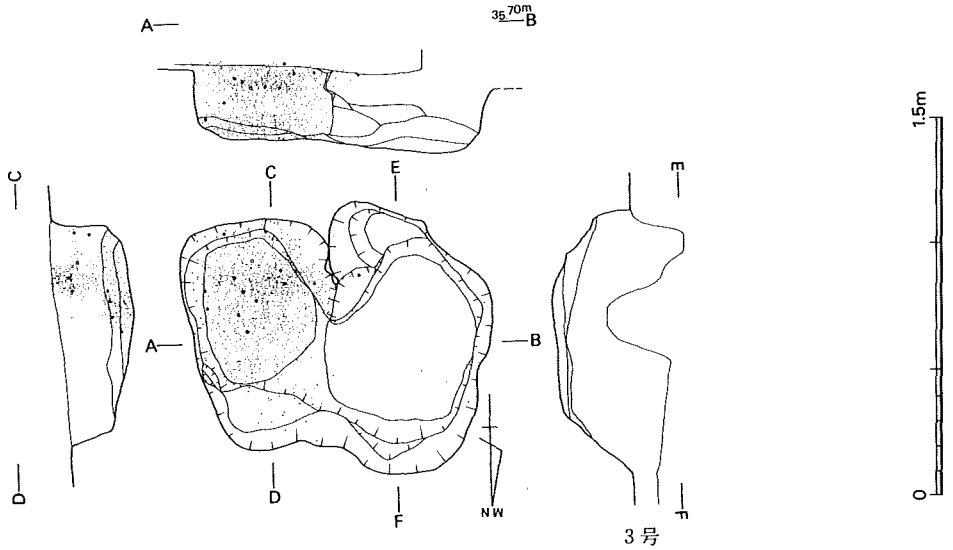
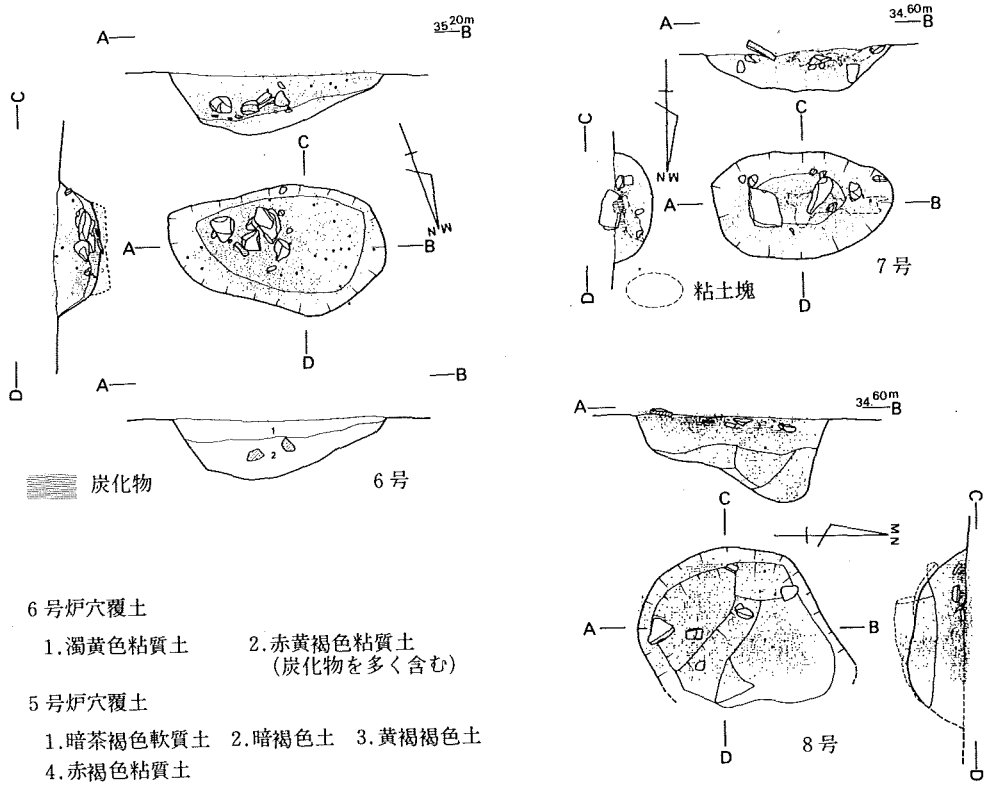


Fig. 53 炉穴遺構① (1/30)



6号炉穴覆土

1.濁黄色粘質土　　2.赤黄褐色粘質土
(炭化物を多く含む)

5号炉穴覆土

1.暗茶褐色軟質土　2.暗褐色土　3.黄褐褐色土
4.赤褐色粘質土

Fig. 54 炉穴遺構② (1/30)

遺物はⒷ内より剝片２点，砕片30点，土器片１点が出土。

４号　　L・M—11区で検出。遺構の北側半分は調査で掘りすぎたようだ。
(Fig.53)　　６号集石遺構と隣接して検出された。土壙は径92cm×深さ32cm程の円形状を呈し，深い掘り込みをもつ。礫石を２個検出。
遺物は細石刃１点，剝片１点，砕片４点，土器片１点出土。

５号　　O—15・16区で検出。遺構の西側半分は調査で掘りすぎたようだ。
(Fig.54)　　土壙は径95cm×深さ22cm程の円形状を呈すものと考えられ，浅い皿状の掘り込みをもつ。土壙の中心部に炭化物が集中する傾向がみられる。
遺物は石鏃１点，砕片15点が出土。

６号　　N—13区で検出。土壙は長径0.89m×短径0.53m×深さ22cm程の楕円
(Fig.54)　形状を呈し，浅い掘り込みをもつ。炉底・壁は焼土化し，炉底と礫石の間に焼土塊と比較的大きな炭化物が含まれ，赤変した礫石が10個程，炉内西側に集中し，炭化物も同様な傾向を示す。
遺物は熱を受けて赤変した土器片２点，砕片50点が出土。

７号　　P—18区で検出。土壙は東西0.71m×南北0.42m×深さ17cm程の楕円
(Fig.54)　形状で，浅い皿状の掘り込みをもつ。(遺構の確認段階で上面が削られており，実測図より若干深くなる。)
炉底・周壁共に火熱を受け焼土化が著しく，土壙の上面に扁平な砂岩の板状石と粘土塊がみられ，礫石は赤変している。

８号　　L—14・15区で検出。土壙西側の上縁部分は調査時に掘りすぎで，輪
(Fig.54)　郭は不明。
土壙は長径88cm×短径約70cm程の円形状を呈し，炉底面は南から北へ深く掘り込まれ，北端部分で32cmを数え，その部分の焼けた痕跡が著しい。礫石は土壙上面に８個と炭化物が多く検出された。

９号　　L—８区で検出。土壙は東西1.1m×南北0.69m程の楕円形状を呈す。
(Fig.55)　土壙の東端部分より，80cm程の範囲で約20cmの深さに掘り込まれている。礫石は12個程で上面に多くみられ，粘土塊，炭化物が検出された。

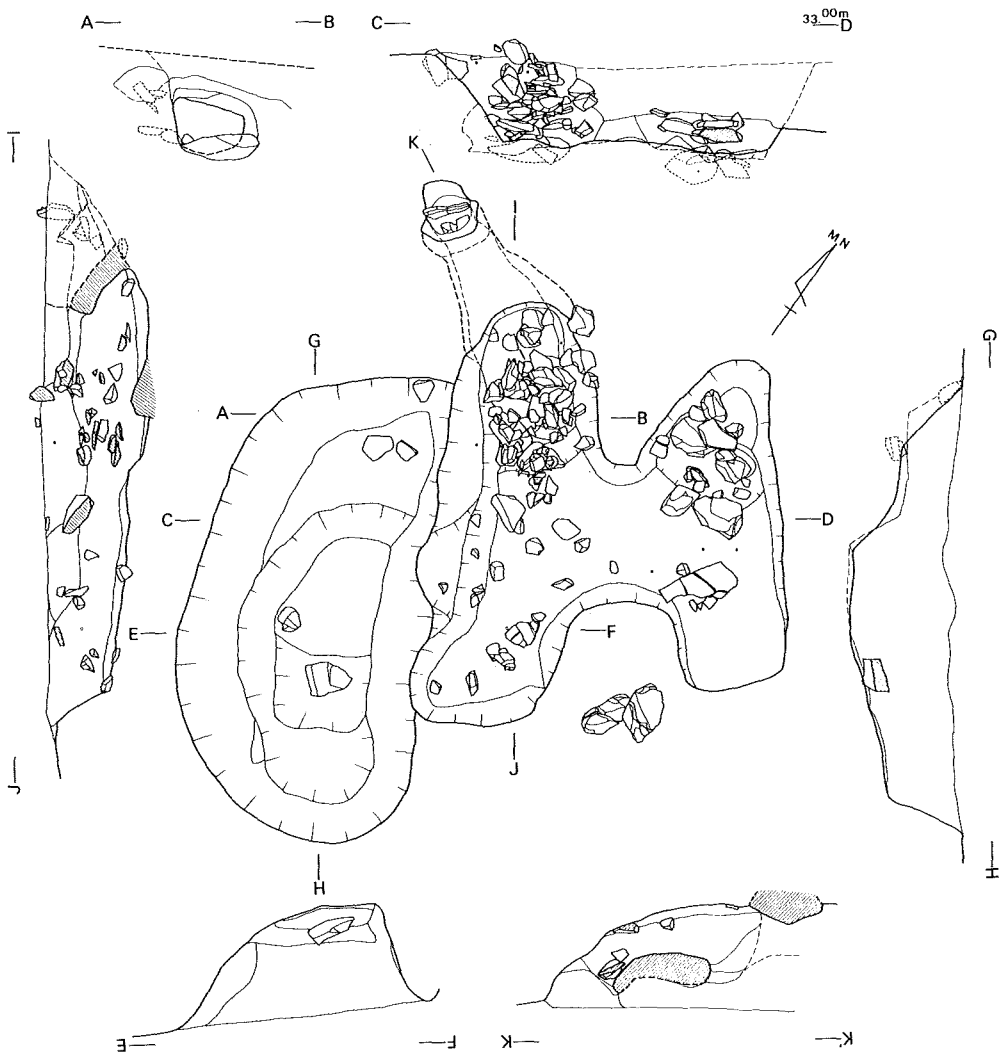


Fig. 55 炉穴遺構③ (1/30)

15号　4号竪穴状遺構に隣接し，J－7区で検出された。(試掘調査で炉址として，一部分を確認したもので，Cの遺構上縁を掘り過ぎたようだ。)
(Fig.55)

この炉穴は3つの土壙部分からなり，西側よりA，B，Cとする。

Aは長径1.8m×短径0.95m×深さ42cm程の楕円形状を呈し，深い掘り込みをもつ。土壙はBと接する部分の内壁面と炉底面が焼土化が著しく，礫石は5個検出。Aに接してB・Cと並んでおり，B・Cは分銅形状を呈している。

Bは長径2.16m×短径0.76m×深さ90cm程で楕円形状を呈し，北西端部に煙道部分（トンネル）が検出された。煙道部分は高さ20cm×幅28cm，出口部分は径18cm程の円径を呈し，先端部に向って細長く，上向きの傾斜面をもち，台形状の空間を形成している。また，その出口部分に礫石6個で穴をふさいだ状況が窺われる。

特に煙道部分の前面，炉底，周壁部分は焼けた痕跡が顕著であり，その部分の前面に礫石が集中し，詰った状況で検出された。その空間部分に炭化した食物類[註1]が多量に検出された。

Cは長径1.31m×短径0.62m×深さ38cm程の楕円形状を呈す。北端部分に比較的大きな礫が集中し，礫下の炉底，周壁部分が赤く焼けている。

遺物はBに集中し，石鏃3点，石核2点，剝片7点，砕片32点，土器片5点が出土している。

この煙道をもつ炉穴は，検出状況より，食料を蒸す・焼くという用途面が考えられるようだ。

またC^{14}年代測定で8970±90Y.B.P.(8710±90Y.B.P)の年代を得ている。

以上のように炉穴遺構が第II層で10基検出され，B地点と同様に土壙部分が焼け，土壙内礫石も焼けているものが多く，炭化物が顕著に検出されるために炉址として捉えた。

遺構の形状が楕円形と円形を呈すものに分れ，また煙道部分をもつ形態のものが一基検出されている。

楕円形状を呈すものは長径1.2mを越す大形のもの（2，15号）とそれ以下のもの（1，3，6，7，9号）に分れる。またその中で複数の炉穴をもつもの（3，15号）がある。

円形状を呈すものは径が60cmを越えるもの（4，5，8号）がある。

また，15号炉穴のように煙道をもち，根栽類等を蒸す，焼く，燻すという用途面が考えられるような遺構，楕円形状を呈すもの，円形を呈すものはそれぞれの用途面での利用目的の相違が表われたのであろう。

④ **礫群遺構**　第II層で5基の礫群が検出された。E・F－2・3区は礫石が他区に比べて多量に検出されており，広範囲にまとまって集石しているのを礫群とし，その中で特に集中した箇所を集石として区分した。

1号　E－3区で検出。規模は東西2.8m×南北3m程の範囲を1つの礫群
(Fig.56)　とした。特に東側に礫石が集中する箇所がみられ，その礫石下に土壙の掘り込みが検出され，砂岩の板状石が花弁状に配置されている。これを14号集石とした。

礫群の礫石は焼けて赤変したものもみられる。

Fig. 56　1号礫群 (1/30)

2号　F—3区で1号礫群の南側で検出規模は東西3.5m×南北1.8m程
(Fig.57)　で帯状に検出された。その範囲の中で東側に礫石が集中する箇所がある。
1号礫群と同様な状況で，礫石も焼けて赤変したものもあるが，ほとんどの礫石は明確ではない。隣接して東側に15号集石が検出されている。

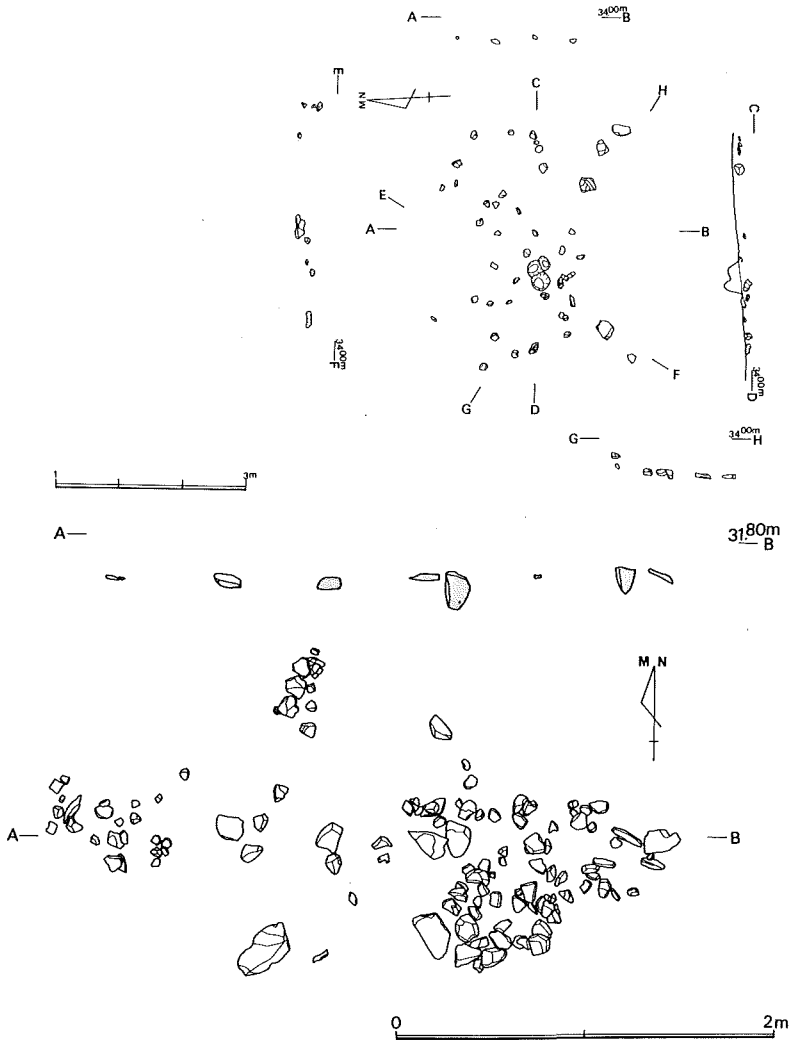


Fig. 57　2・3号礫群 (1/40)

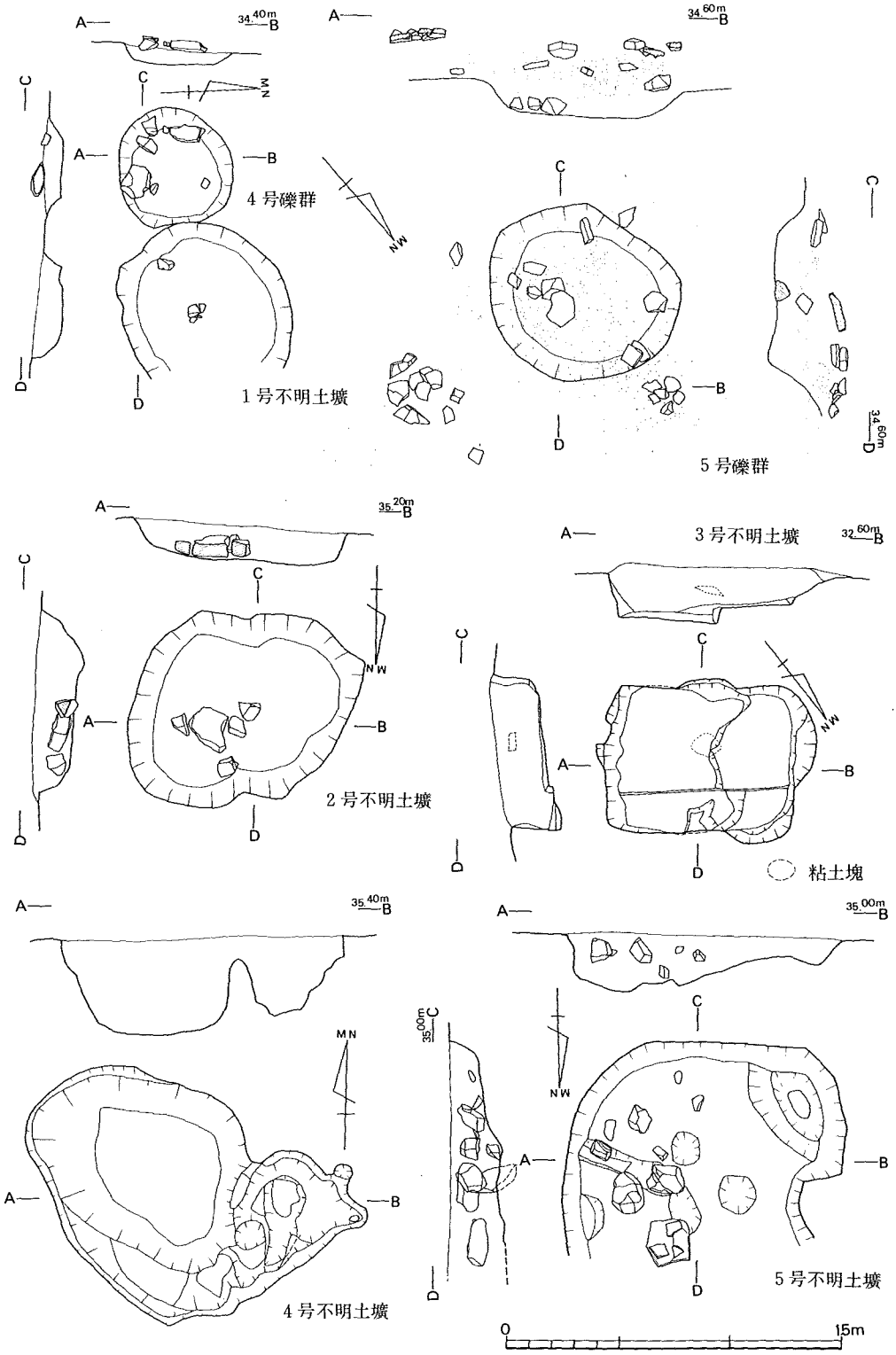


Fig. 58 礫群・不明土壙 (1/30)

3号　J－12区で検出。規模は径1.2m程の範囲に礫石が集石するもので，
(Fig.57)　掘り込みはみられない。また礫石が焼けた痕跡や炭化物も確定できなかった。中央部分に3個のピット状の掘り込みを検出。

4号　K－16区で検出。西側の土壙は径52cm×深さ10cm程の円形状を呈し，
(Fig.58)　浅い掘り込みをもつ。
礫石が7個程固まって検出され，火熱を受けたのか赤変している。

5号　L－15区で検出。土壙をもつもので，その規模は長径0.85m×短径
(Fig.58)　0.72m×深さ13cm程で円形状を呈す。
土壙内に礫石が9個と周囲の2箇所に集積した状況で検出され，礫石は焼けて赤変しているものもある。炭化物が検出されている。

以上のように，礫石が広範囲に集石するものと浅い土壙の掘り込みをもち，その内外に集石するものに分れる。
4 5号は土壙の掘り込みをもち，炭化物・赤変した礫石等他の集石・炉穴遺構と同様な炉址的な利用面をもつものと考えられるが，土壙の掘り込みが浅く，土壙内面に焼けた痕跡が確認できなかったので，礫群として捉えた。

⑤ 不明土壙　8基の遺構が検出されたが，性格が不明である。

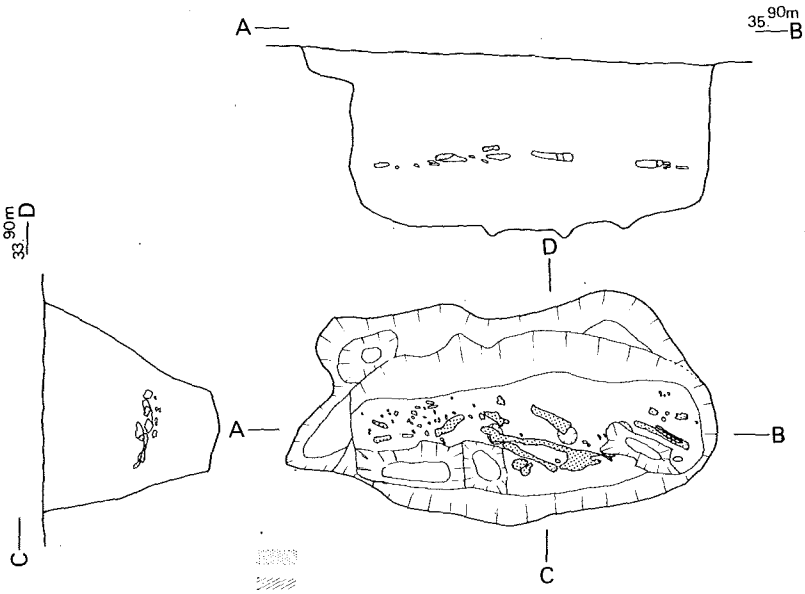
1号　K－16区で4号礫群と隣接して検出された。土壙の規模は径0.75m×
(Fig.58)　深さ13cm程の円形状を呈すと考えられ，底面に5個の礫石を検出した。

2号　Q－17区で検出。土壙の規模は東西1m×南北0.9m×深さ15cm程の
(Fig.58)　楕円形状を呈す。浅い掘り込み内の底面に砂岩の板状石が5個検出されすべて接合する。

3号　F－11・12区で検出。この遺構は第II層から掘り込んだものと考えら
(Fig.58)　れるが，砂岩の岩盤上で検出されたもので，調査時に掘りすぎたようだ。
土壙の規模は長径0.95m×短径0.7m×深さ23cm程の方形状を呈す。
底面は砂岩の基盤を掘り込んでおり，覆土中に粘土塊が検出されている。この遺構は墓址的様相をもつものであろう。

4号　P－13区で検出。土壙の規模は長径1.57m×短径1.05m程の不定形状を呈す。土壙の東側に径50cm×深さ35cm程の円形状と壁をへだて西側に径95cm×深さ44cm程の楕円形状を呈す掘り込みがみられる。

(Fig. 58)　特に東側の掘り込み面の東壁部分に締って，ガチガチに固い部分が検出され，このような状況は竪穴状遺構以外には確認できない。



6号不明土壙

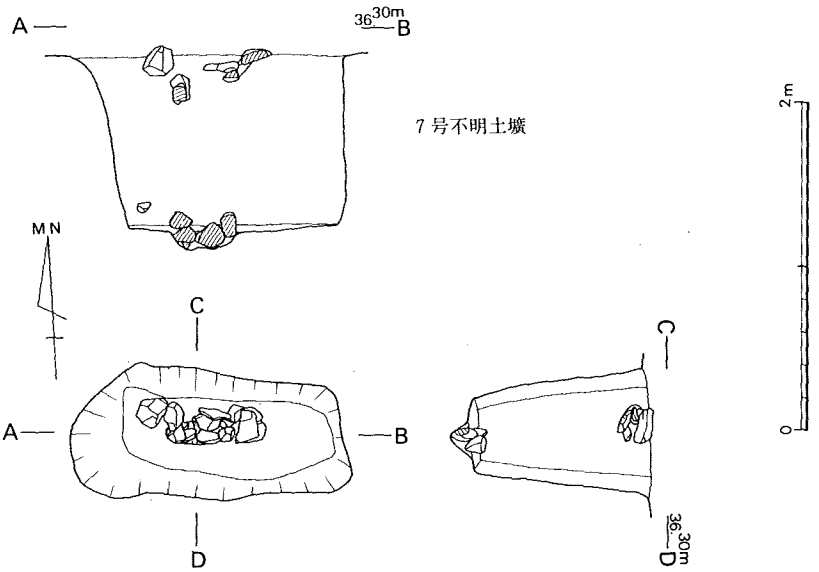


Fig. 59 不明土壙 (1/40)

5号　L・M－14区で検出。土壙の北側の部分は調査で掘りすぎている。
(Fig.58)　土壙の規模は東西1.2m×南北1m×深さ25cm程で，形状は不明。
礫石が西側に固まって検出され，土壙および礫石は火熱を受けた痕跡は確認できなかった。

6号　P－14区で検出。土壙の規模は東西2.3m×南北1.3m×深さ70cm程
(Fig.59)　の長楕円形状を呈す。掘り込みの東西端は直角に近く，他は傾斜をもって立ち上る。底面は平坦で，径10cm×深さ5cm程の小穴が並んで3個みられる。また礫石は無く，底面より約40cm程の所に塊状の炭化物がほぼ土壙内全面に検出された。土壙壁面が火熱を受けた痕跡は確認できず。

7号　R－14区で検出。土壙の規模は東西1.6m×南北0.8m×深さ1.2m
(Fig.59)　程の長楕円形状を呈す。掘り込みは鋭角に近い立ち上がりをもち，底面は平坦で，西端よりに東西40cm×南北22cm×深さ11cm程の浅い掘り込みをもつ。その凹地に礫石が詰り，土壙上面にも数個の礫石がみられる。

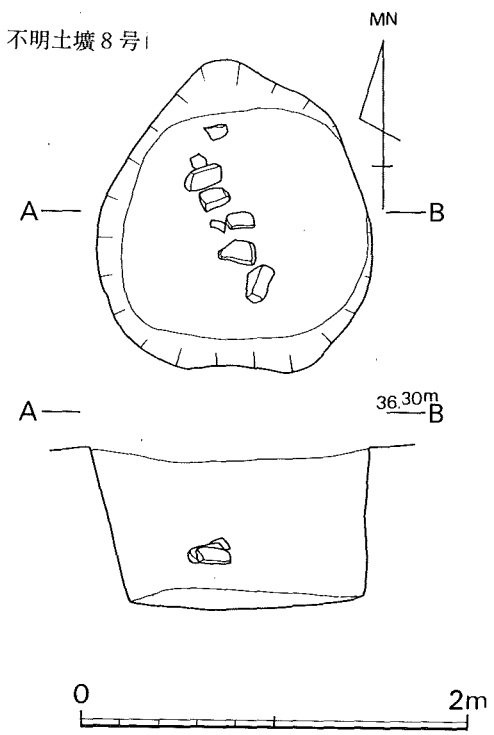


Fig. 60 不明土壙 (1/40)

8号　(Fig.60)
P－12区で検出。土壙の規模は，東西1.6m×南西1.4m×深さ80cm程の円形状を呈す。掘り込みは直角に近く，礫石は底面より約24cm程上面に8個程検出された。

土壙周壁，礫石が焼けた痕跡は確認できなかった。

以上の不明土壙群も特徴をもっている。

① 浅い土壙をもち，その中に礫石が在るもの（1．2．5号）
② 墓址的な様相を示すもの（3号）
③ 土壙の規模が大きく，深い掘り込みをもつもので，塊状の炭化物と小穴をもつもの(6号)，礫石と小穴をもつもの(7号)，礫石をもつもの（8号）である。
④ 性格不明のもの（4号）

(2) 遺物出土状況

本遺跡A地点は，南東部が最も標高が高く40m程をなす。北側へ伸びる舌状の低地丘陵を形成し北へ緩斜面となる。しかし北西部に至っては，標高33m付近よりかなり急斜面となる。従って遺物は標高33～40mの間にゆるやかな状況を成す幅広の尾根部分に広い範囲に渡って出土した。土層の堆積も先に触れたように乱れる状況も少く全体に整然としている。縄文時代の遺物は，第II層（赤褐色粘質土層）を主体として土器や多くの石器を出土している。第III層（黄褐色粘質土層）においても多少遺物は出土するが，細石刃などの旧石器時代の遺物と混在して出土しており，縄文時代の単独包含層としてはとらえにくく，あくまでも第II層に中心を成すものであろう。

出土する土器においては少い出土であり保存状況がよくないものが大半を占めながらも，わずかに押型文土器（楕円文）・条痕文土器の施文が確認できた。形態も円筒形や口縁が外反しラッパ状になるものなどがある。底部においても尖底のものと広めの平底を有するものが認められた。石器においては，層中からのもの，或いは各遺構内より出土するもので，多くの削片・剝片はもちろん，石鏃・石匙・スクレイパー・加工痕ある石器・使用痕ある剝片・石槍・彫器・楔形石器・石斧・磨石・敲石・凹石・砥石・石核と多種に及ぶ。

(3)出土遺物

① 土 器 (Fig. 61) 〔PL. 23 〕

A地点より出土する土器の内，9点を選び図化し記載した。

1は口唇末端をわずかに欠損するが，口縁から頸部に至るやや大きめの破片である。楕円押型文を施文する。他の土器片より風化を受ける度合は少ないが，中ほどには文様の磨滅が認められる。形状はゆるやかに外反しラッパ状を呈すると考えられる。焼成はやや良好で，胎土には細かい砂粒子を含む。色調は表裏ともに茶褐色である。2は口縁の大きな破片である。整ったやや幅広の条痕文を横位に施文する。保存状況はあまりよくなくボロボロともろい感じである。ほぼ直立する口縁をもつ円筒形の土器と考えられる。焼成は悪く胎土には荒い砂粒子を含む。色調は表裏ともに黒褐色である。3は口縁の小片でかなり薄手のものである。風化がひどく文様は全く判別できない。わずかに内湾する形状を呈する。

焼成はやや良好で，胎土は荒い砂粒子を含む。表裏ともに暗褐色の色調である。4は3と同じく口縁の小片である。やや外反する形状を呈する。全体的に焼成が悪いためか，風化がひどく若干の剝落も認められる。胎土には荒い砂粒子を含む。色調は表面が茶褐色，裏面は黒褐色である。5は口唇末端を極くわずかに欠損するが，口縁から頸部に至る大きい破片である。形状は頸部で小さく屈曲しラッパ状を呈する。風化がひどく表面は凹凸を成す。従って文様は不明である。焼成は悪く，荒い砂粒子を胎土に含む。色調は表面が暗褐色，裏面が茶褐色をなす。6は底部の小片である。底部末端を欠損し明確ではないが若干乳房状を呈すようである。本来の土器そのものもさほど大きくなかったものであろうと考えられる。焼成は良好で，胎土には細かい砂粒子を含む。色調は表面が茶褐色，裏面が暗褐色である。7は6と同じく尖底の土器の底部片である。底部末端は風化による剝落のため欠損し丸くなる。特に内面（裏面）の風化が著しく凹凸状になっている。焼成はやや良好で，細かい砂粒子を胎土に含む。色調は表裏ともに茶褐色である。8は平底の土器の底部片である。推定ではあるがおそらく底面の直径が13～14cm程と考えられる。また，底面においては約2cm程の厚みを有するが，胴部の方は7mm程度と薄い。焼成は良好，砂粒子を含む。色調は表裏ともに淡褐色である。9は8と同じく平底の土器の底部片である。8と比較すると小さいようである。推定の底面直径は11～12cm程と考えられる。やや角ばった感じである。焼成は良好で胎土にわずかに砂粒子を含む。色調は表面が赤褐色，裏面が茶褐色である。なお，6～9の底部片も風化が所によっては著しく，文様の判断できるものはない。

Tab. 8　土器一覧表（A地点）

挿図番号	出土区	出土層位	種類	部位	色調	特徴及び備考
1	J－14	落ち込み	楕円押型文	頸部	茶褐色	口唇を若干欠員。焼成は良好。
2	K－12	赤褐色粘質土	条痕文	口縁	黒褐色	やや幅広の条痕文を横位に施文。
3	F－5	赤褐色粘質土	不明	〃	暗褐色	表面の風化が著しく判別できない。
4	F－11	赤褐色粘質土	〃	口縁	黒褐色	焼成が悪く全体的にもろい。
5	F－12	落ち込み	〃	頸部	茶褐色	口唇を極くわずかに欠損する。焼成悪し。
6	N－12	赤褐色粘質土	〃	底部	〃	底部末端を欠損，風化進む。
7	F－3	ドーナツ状土〇	〃	〃	〃	底部末端は風化などにより剝落する。
8	F－5	赤褐色粘質土	〃	〃	淡褐色	かなり大型の土器が推定される。
9	E－3	赤褐色粘質土	〃	〃	赤褐色	やや薄い底部である。焼成良好。

Tab. 8　土器一覧表（A地点）

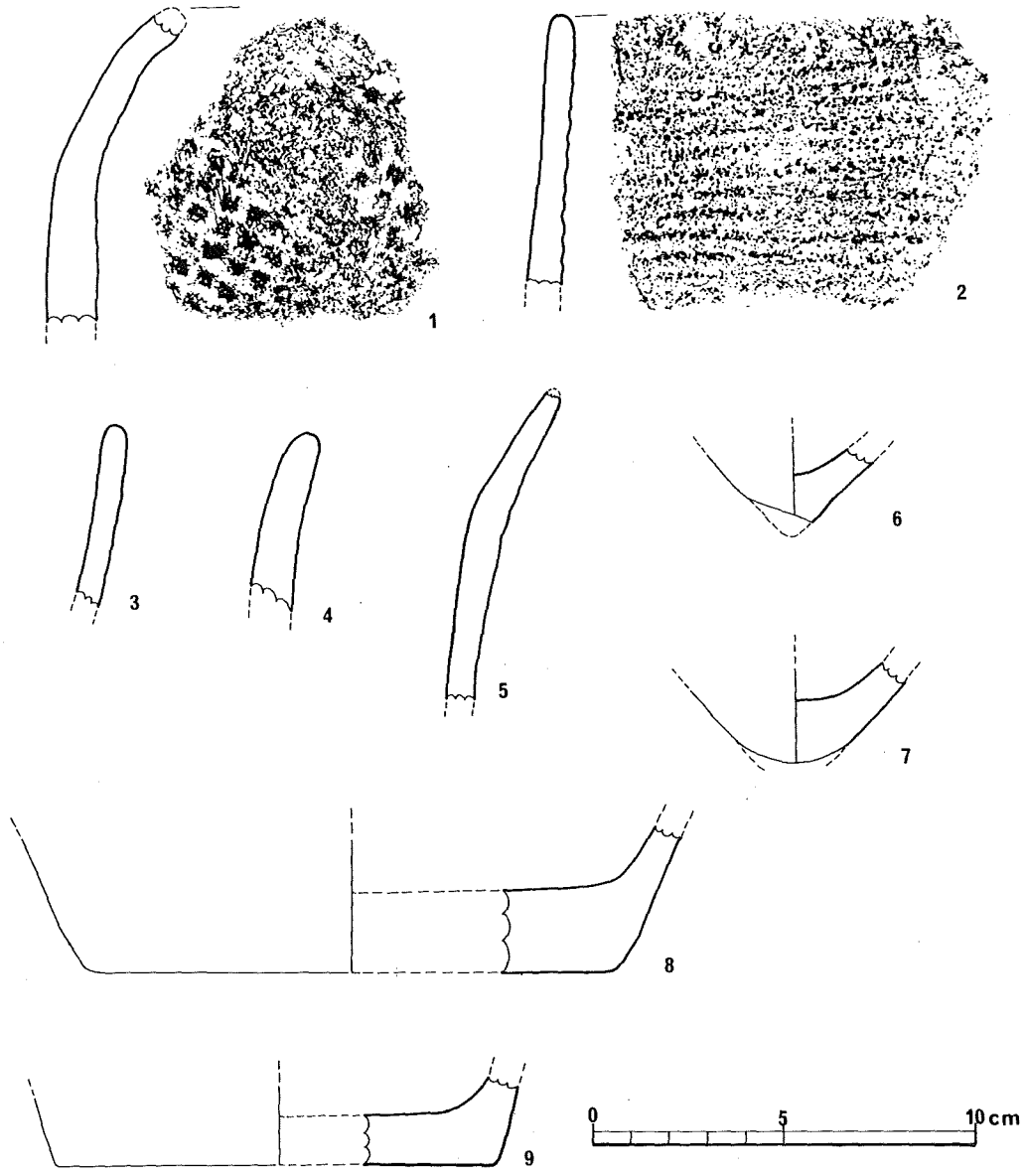


Fig. 61 縄文時代の土器 (1/2)

② 石　器

石鏃
(Fig.63～73)
〔PL. 24～34 〕

A地点で出土した石鏃は，418点である。層位中より出土のものが多くを占めるが，工房址・竪穴状遺構を始めとする各種の遺構からもかなりの出土がある。

本遺跡においても先刊の西輪久道遺跡にならい，石鏃の分類を試みた。先ず完形品と破損している部位によりA～Fに分けた。次に，基部の形状により平基もしくはそれに近いものをⅠ類，凹基のものをⅡ類とした。Ⅰ類は，やや外に丸く張り出すもの，一直線状に近いものをそれぞれIa・Ib類とした。Ⅱ類は，抉りの幅が深さを上まわっているものをⅡc類。抉りの幅と深さがほぼ等しいか，それに近いものをⅡd類。抉りの幅より深さが上まわるものをⅡe類とした。そして，更に石鏃の長幅に着目し，2：3に近いものを1，1：1に近いものを2，3：2に近いものを3，2：1に近いものを4，2：5に近いものを5とし5段階に分けた。なお分類においては，欠損部位はあるものの，推定できるものも含めた。また，EやFを始めとする1部のみ残存し，目立った特徴のないものは詳細を省き計測表のみの記載とした。

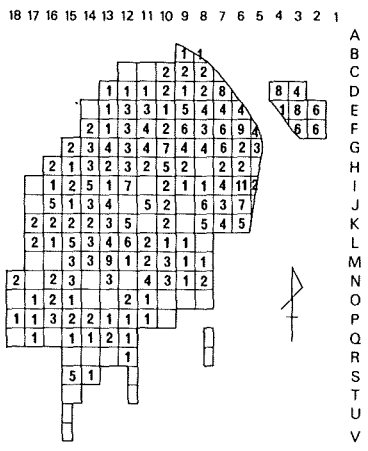


Fig. 62 各地区出土石鏃

Tab. 9　石鏃破損部位別一覧表

記号	破損部位		黒曜石	安山岩	その他	計
完		完形品	102	24	3	129
A		先端部破損	37	7	0	44
B		両脚破損	29	1	0	30
C		片脚破損	81	9	0	90
D		先端部片脚破損	26	3	0	29
E		先端部両脚破損	20	3	1	24
F		脚部のみ	70	2	0	72
計			365	49	4	418

Ⅰa類　1～11は，基部が下に張り出すものでⅠa類に分類，内1をⅠa1　2～4をⅠa2，5～11をⅠa3とした。

・Ⅰa1　1の1点のみで，黒曜石A製である。全体的に鈍く丸い感じである。二次加工は丁寧に施されている。

・Ⅰa2　4は粗雑な二次加工で，主要剝離面を表裏ともに大きく残す。

・Ⅰa3　5は黒曜石C製，側縁部は荒い鋸歯状を成す。6・7は安山岩製でやや粗雑な感じである。10・11は局部磨製石鏃で，特に11は先端を欠損するが全磨製に近い状況である。

Ⅰb類　12～34の22点は基部がほぼ一直線状になるもの，あるいは極くわずかに内湾するもので，Ⅰb類に分類，内12～18をⅠb2，19～34をⅠb3とした。

・Ⅰb2　12は黒曜石A製，長さ1cmを測る小型のものである。13・14・16などは，ほぼ正三角形状に近い形である。18の局部磨製石鏃はわずかではあるが先端が突出する。

・Ⅰb3　21は側縁も直線状を成し，均整のとれた二等辺三角形状を呈す。31～33はそれぞれ石材は異なるものの，側縁が外湾し酷似する形を成している。34は裏面の中央にわずかに磨製面が認められるものであり，特徴ある形を成す。黒曜石A製。

Ⅱc類　基部に抉りが多少認められるもので，35～208の174点はⅡc類に分類した。内35～44をⅡc1，45～69をⅡc2，70～188をⅡc3，189～208をⅡc4とした。

・Ⅱc1　35は黒曜石B製でパテナが著しい。表面の中央には自然面が残っており，二次加工も粗雑である。36～40は脚先端が鋭く尖り，幅広に開脚している。特に39は開脚の状況が大きい。42は黒曜石A製で先端が若干突出している。43は黒曜石A製で粗雑な二次加工である。44は片脚が欠損するため判然としないが，極めて特異的な脚部を成すもののようである。

・Ⅱc2　47・48は先端が鋭角を成し，側縁もわずかに鋸歯状の加工を施工している。63・67は2点とも左右の脚の長さが違う。65は黒曜石A製で比較的に小型のものである。68は黒曜石B製でやや大型のものである。裏面には主要剝離面を残す。64・69は局部磨製石鏃である。

・Ⅱc3　70は不整形のもので二次加工の状況や大きさより一応石鏃として扱ったが，側縁などを観察してみると，スクレイパー的な要素も考えることができよう。71・72はやや小型で丁寧な二次加工を施す。71は

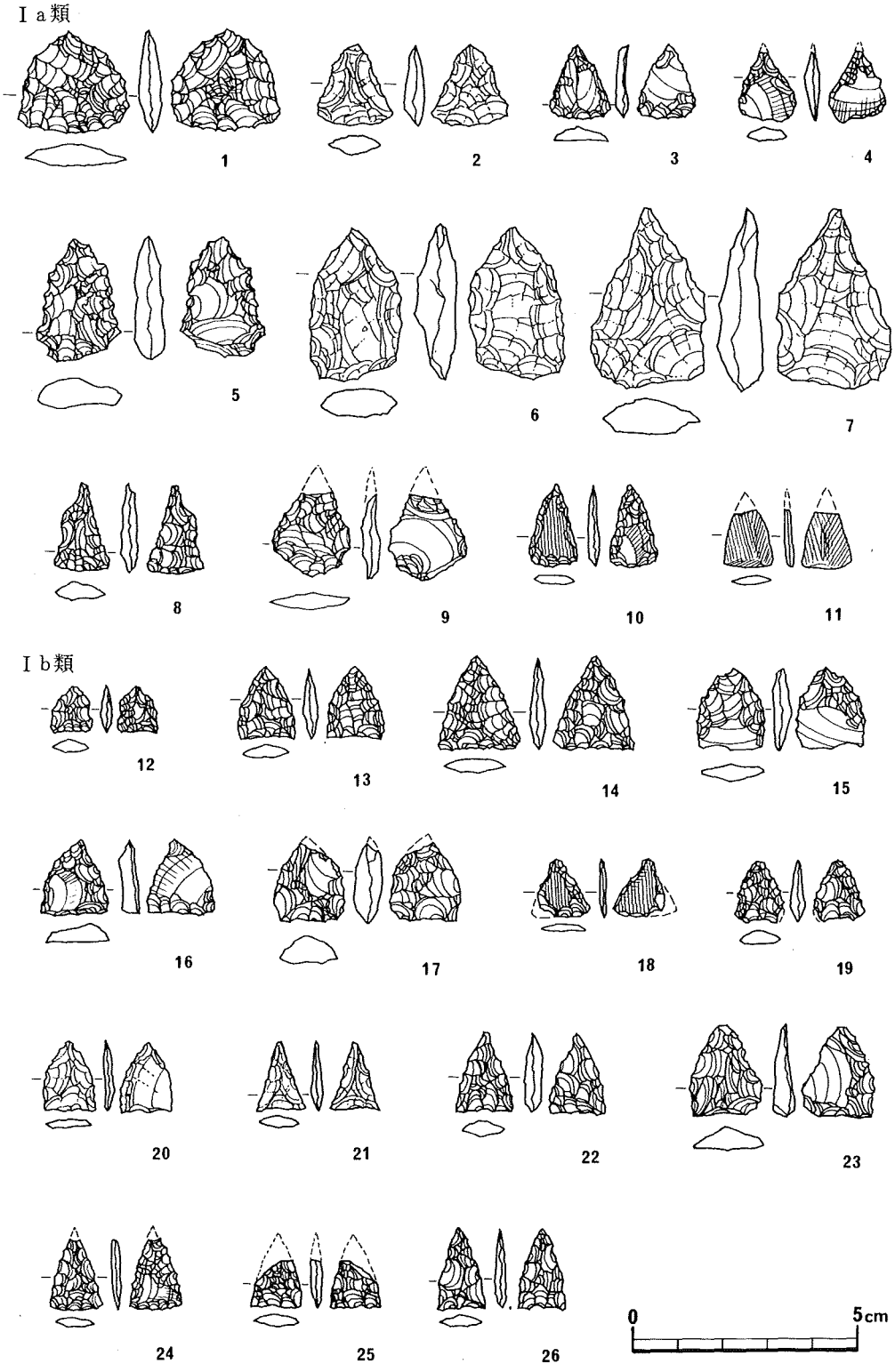


Fig. 63 縄文時代の石器—石鏃① (2/3)

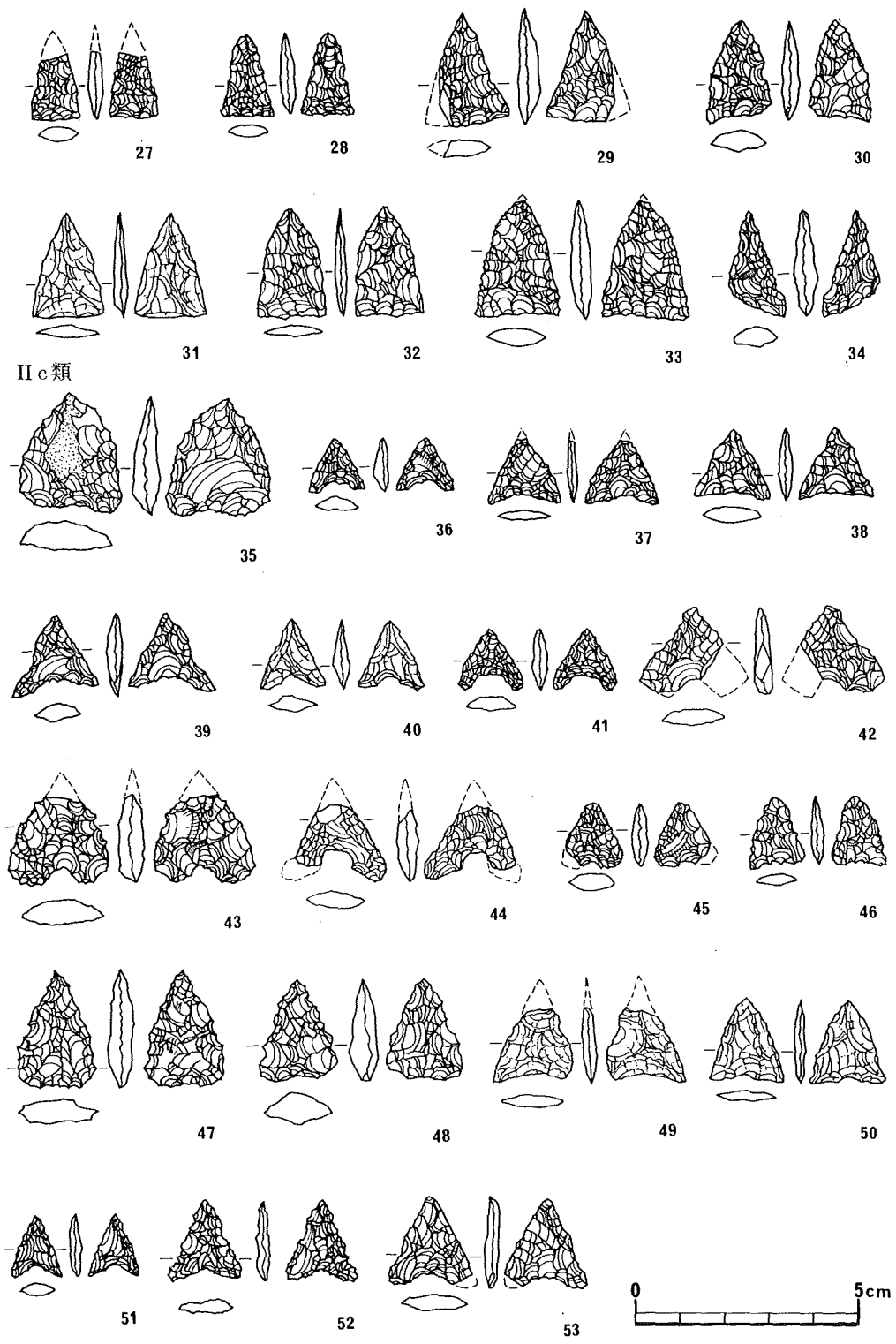


Fig. 64 縄文時代の石器—石鏃② (2/3)

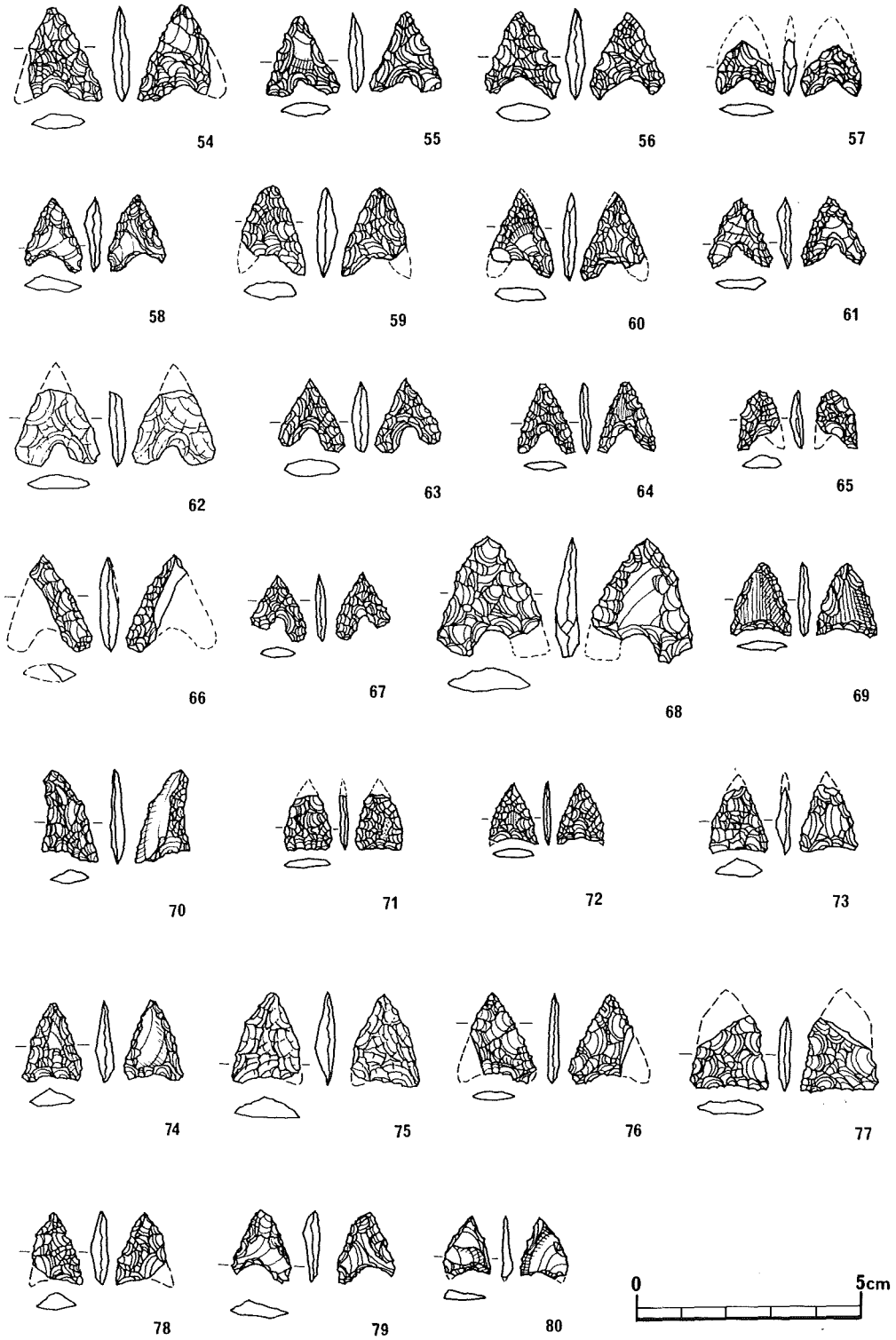


Fig. 65 縄文時代の石器—石鏃③ (2/3)

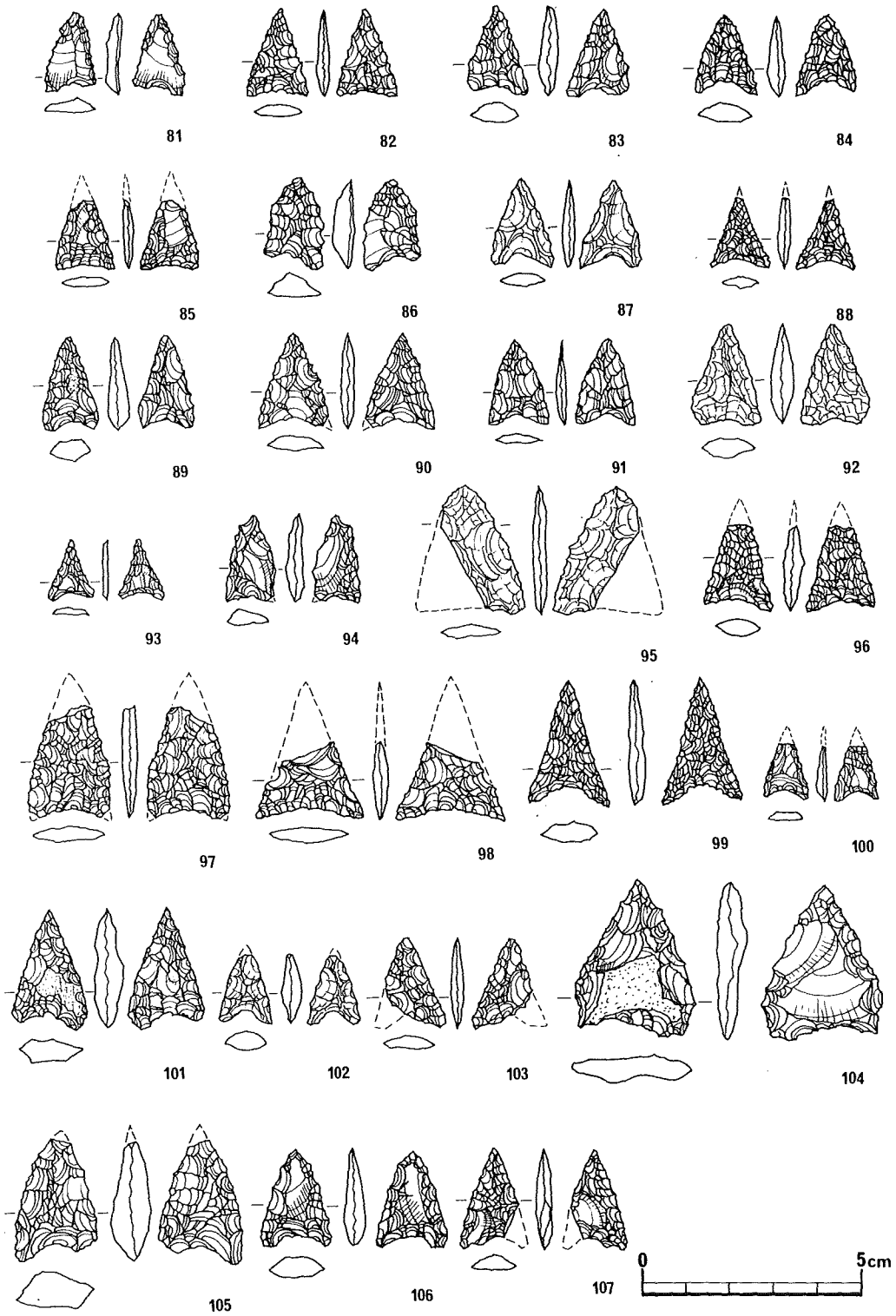


Fig. 66 縄文時代の石器—石鏃④ (2/3)

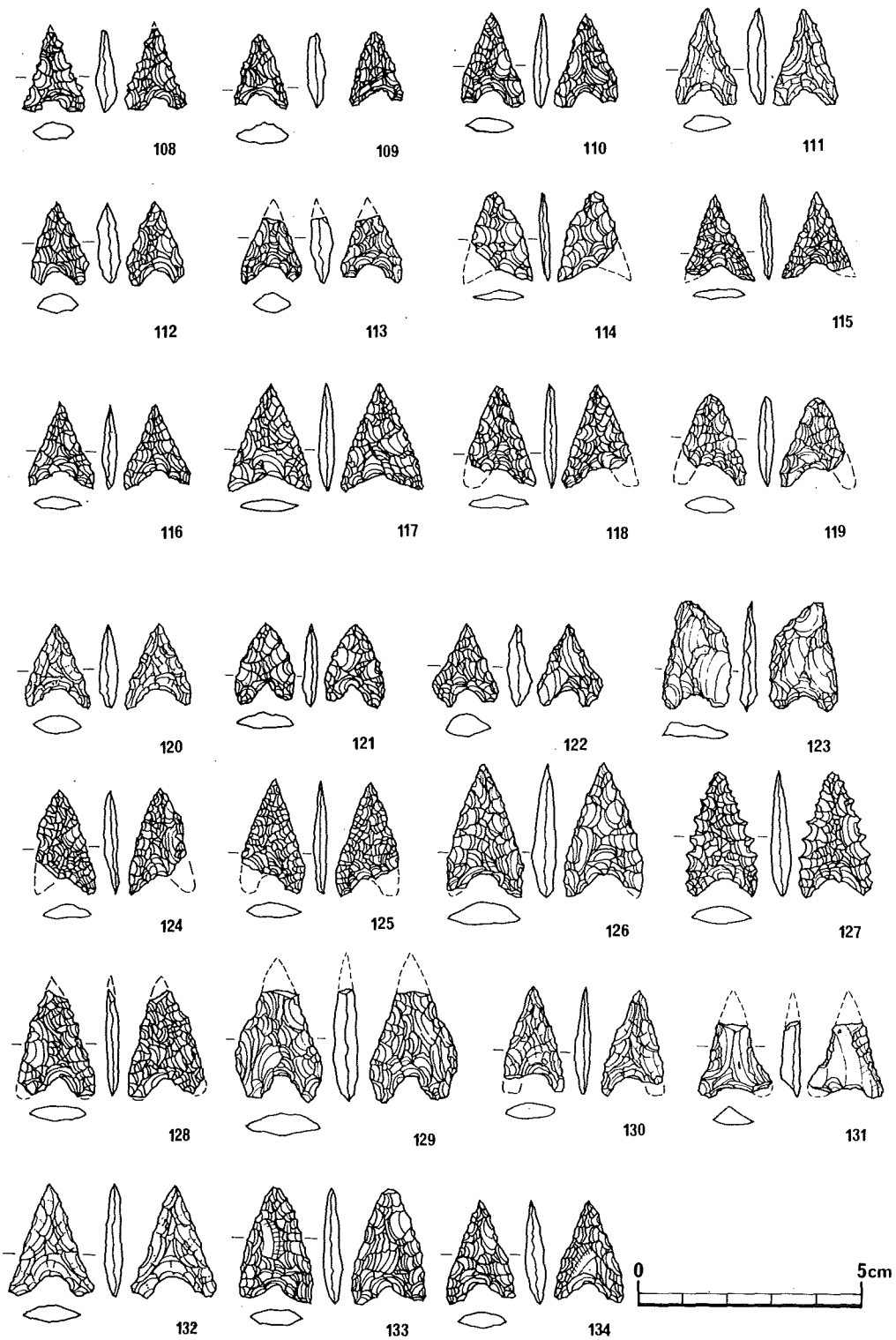


Fig. 67 縄文時代の石器—石鏃⑤ (2/3)

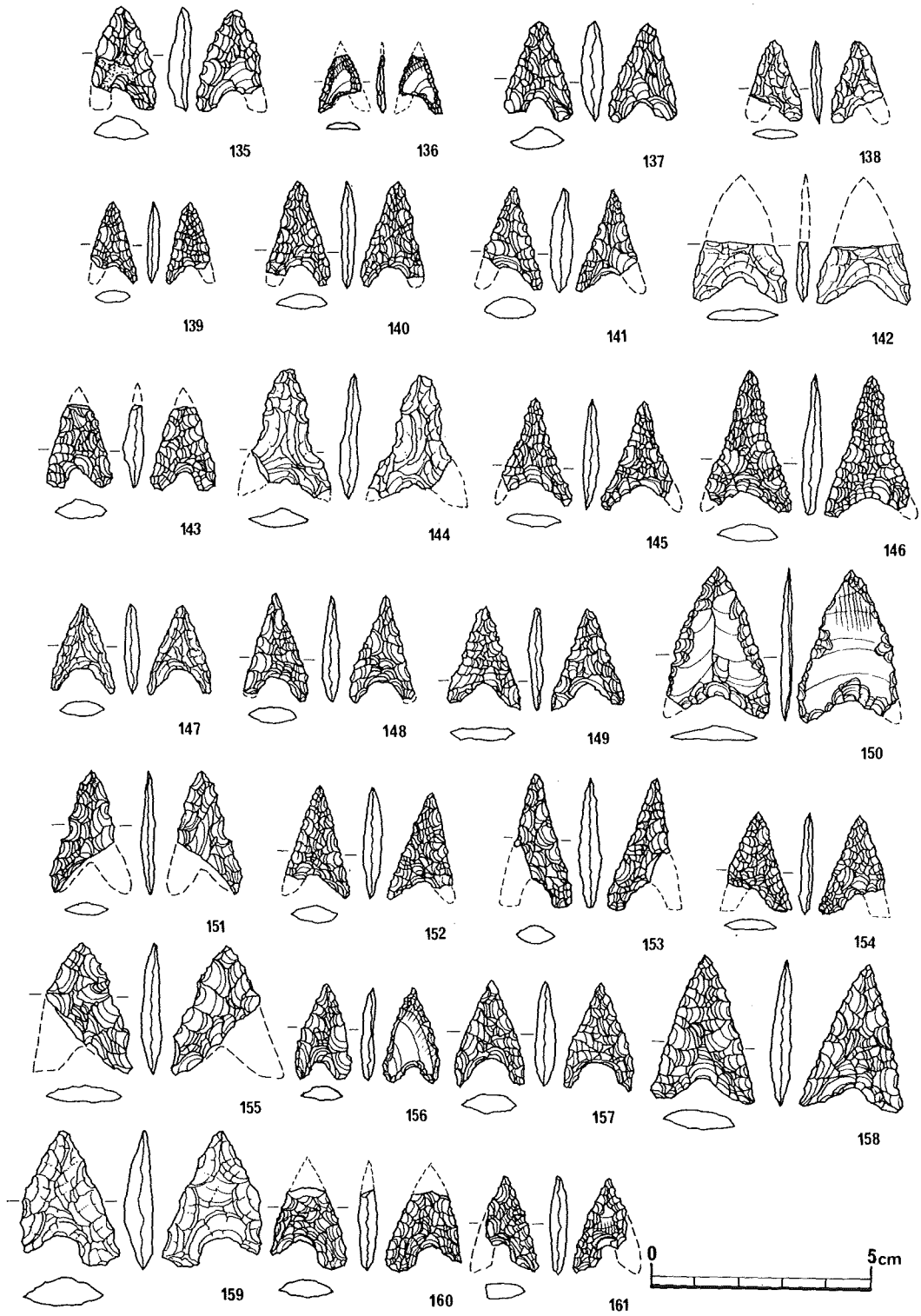


Fig. 68 縄文時代の石器—石鏃⑥ (2/3)

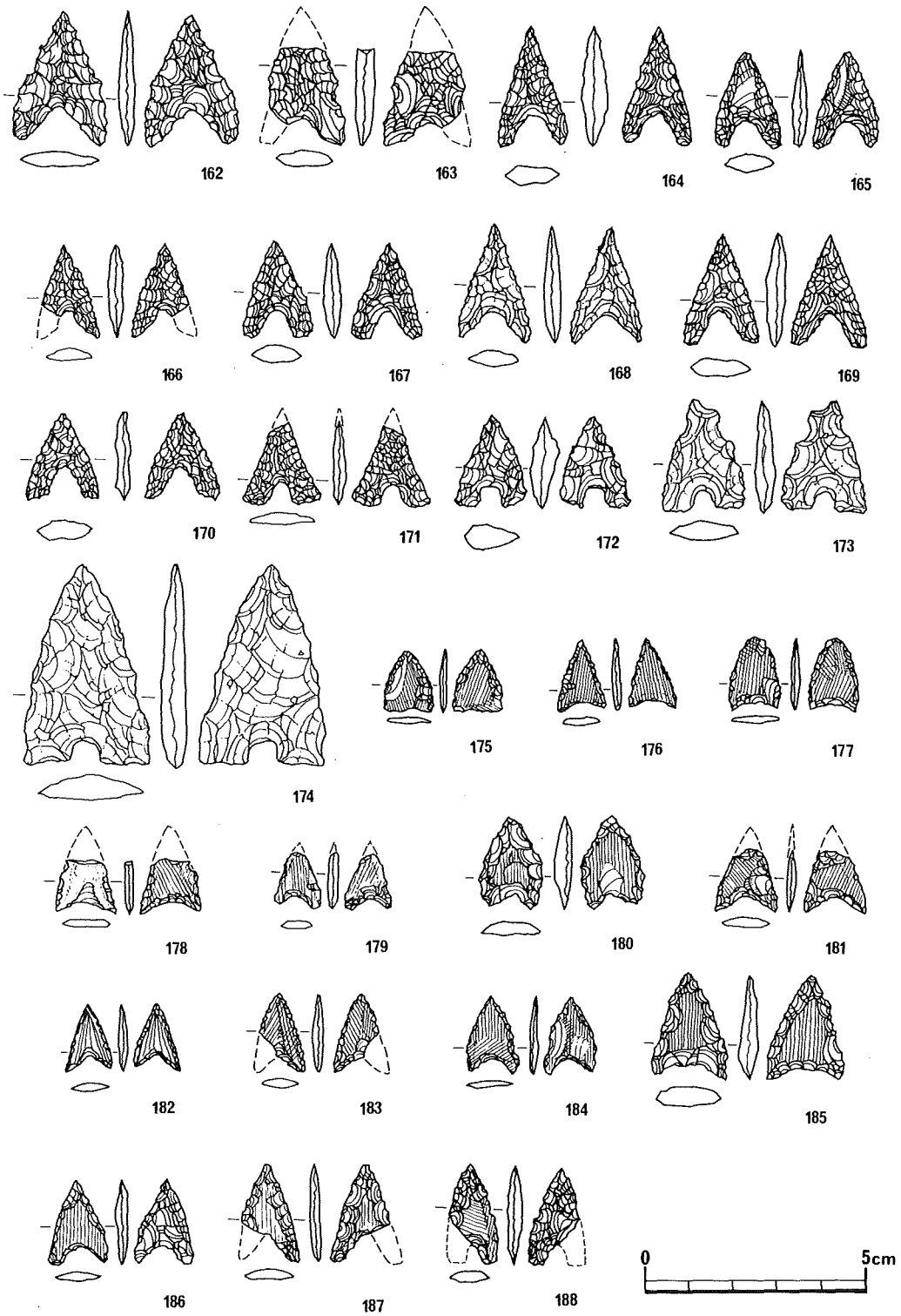


Fig. 69 縄文時代の石器—石鏃⑦ (2/3)

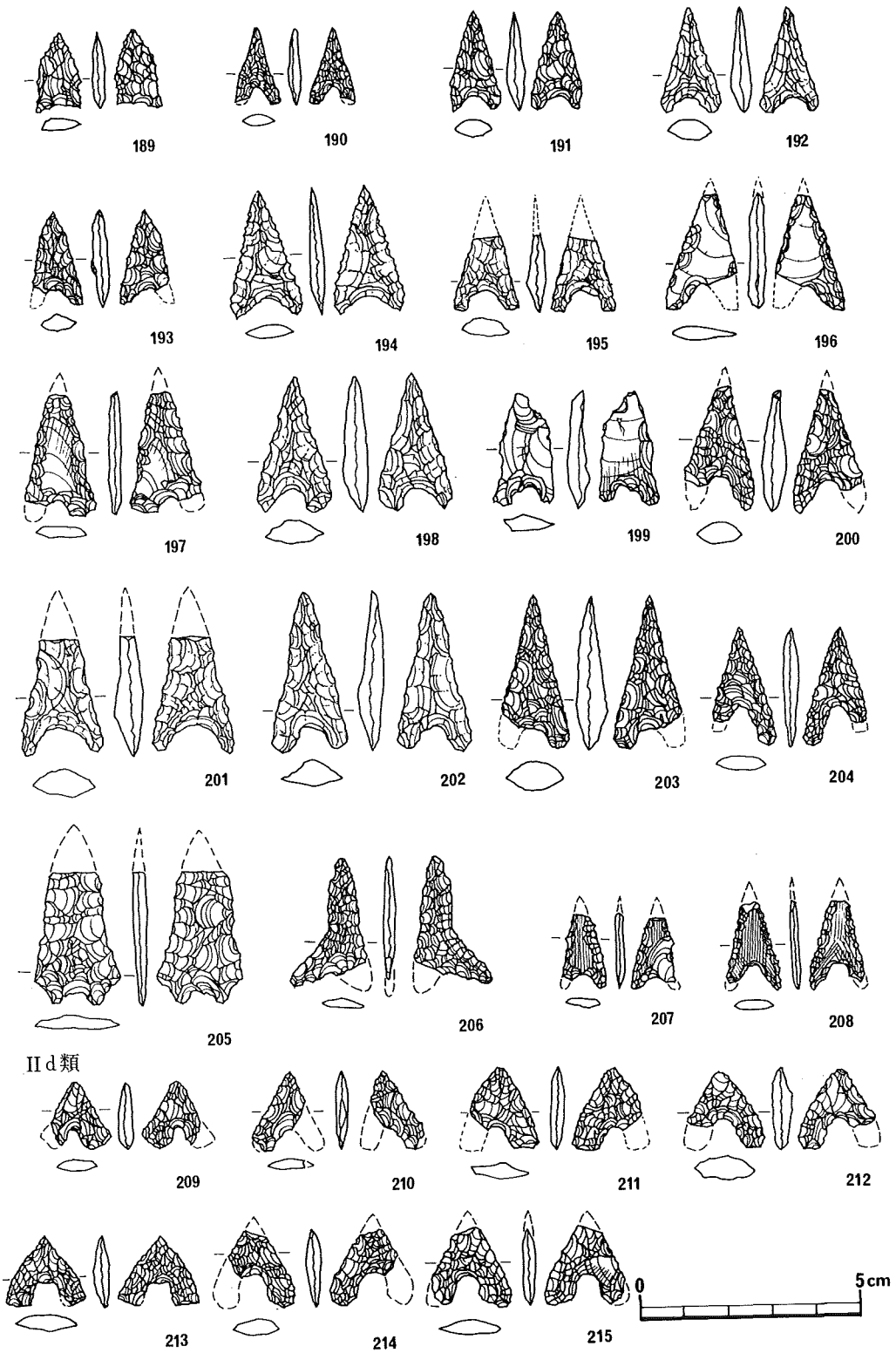


Fig. 70 縄文時代の石器—石鏃⑧ (2/3)

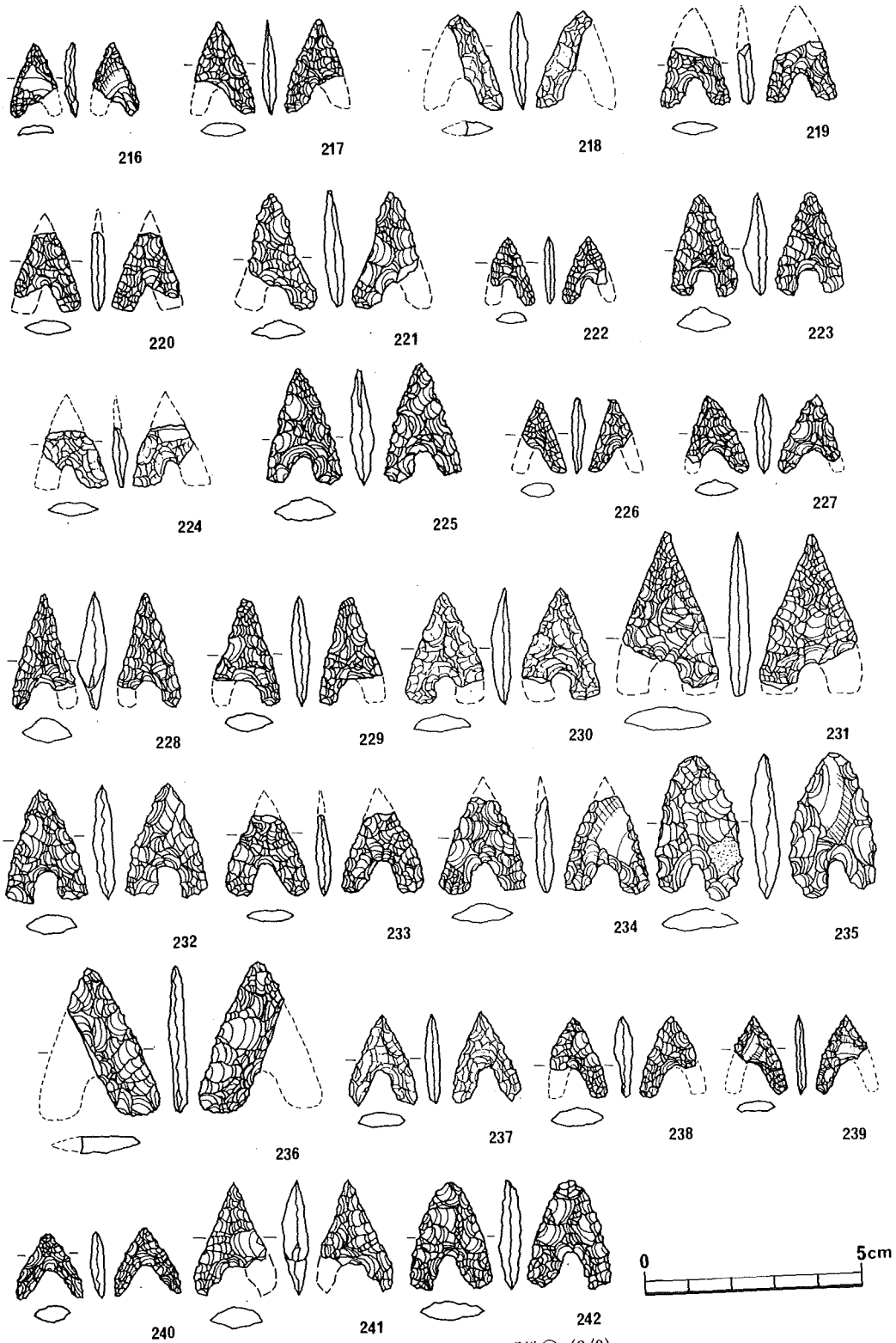


Fig. 71 縄文時代の石器—石鏃⑨ (2/3)

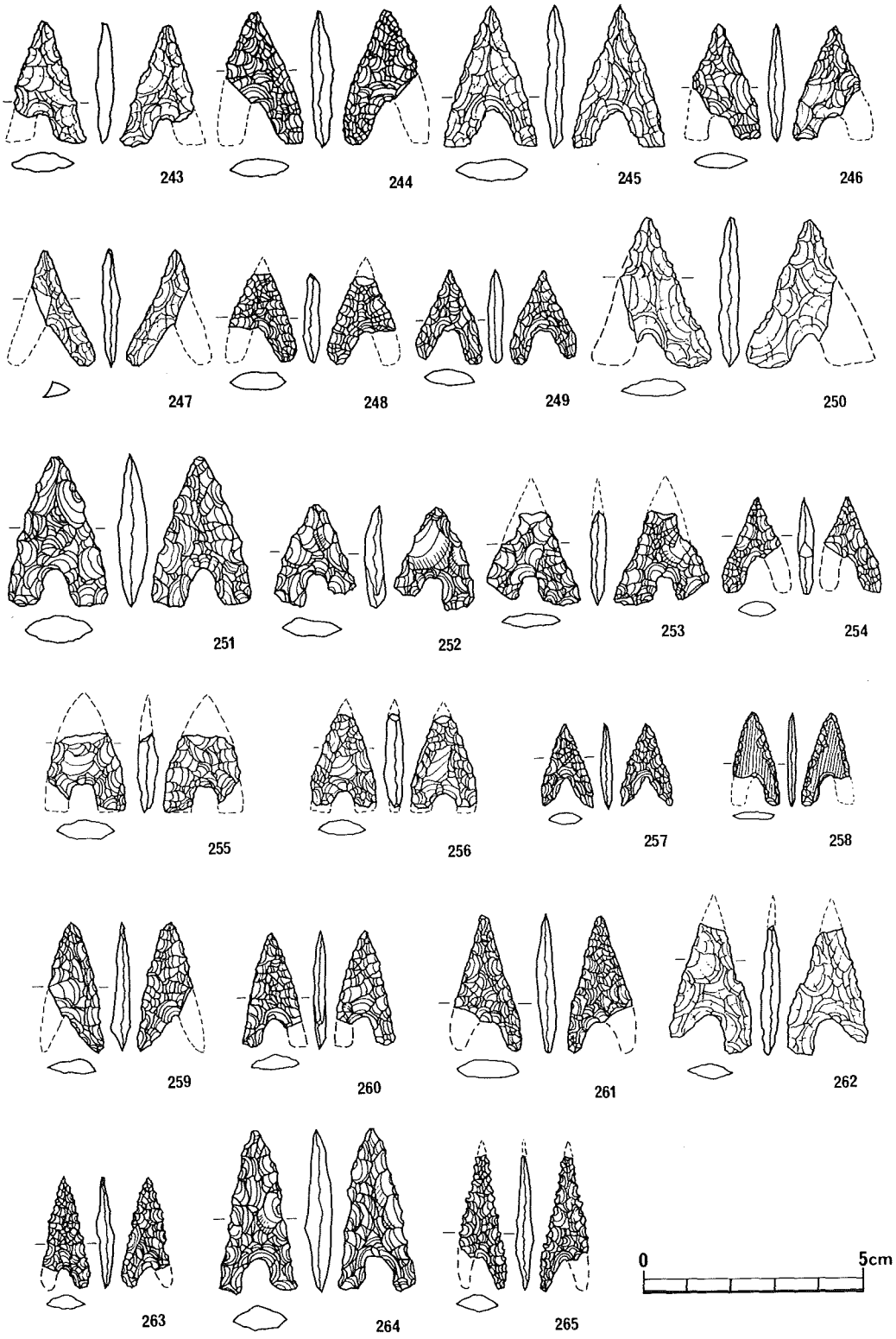


Fig. 72 縄文時代の石器－石鏃⑩ (2/3)

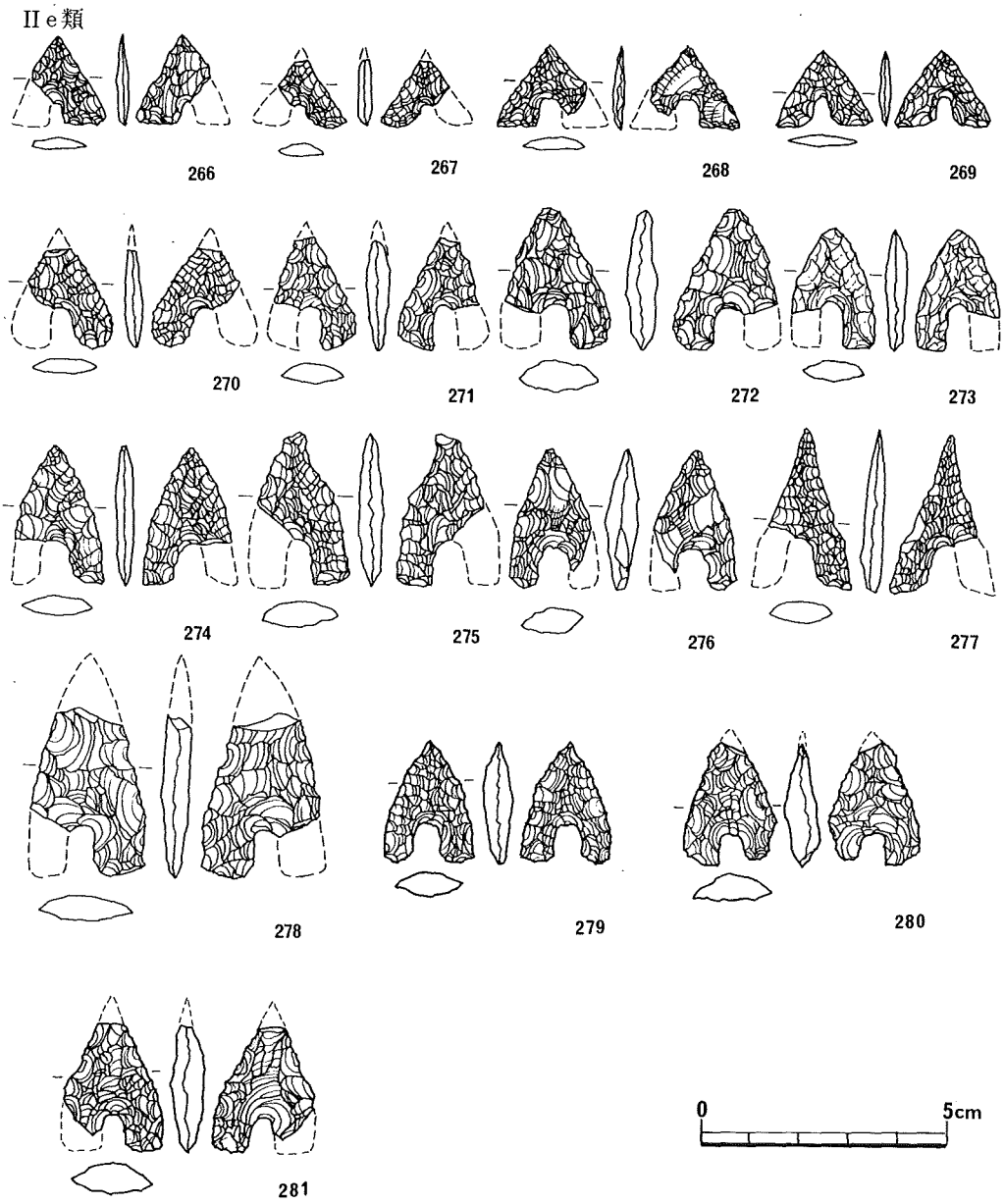


Fig. 73 縄文時代の石器—石鏃⑪ (2/3)

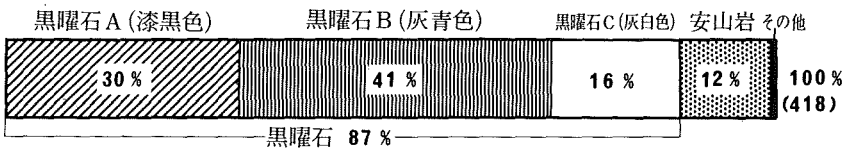


Fig. 74 石鏃石材別依存度

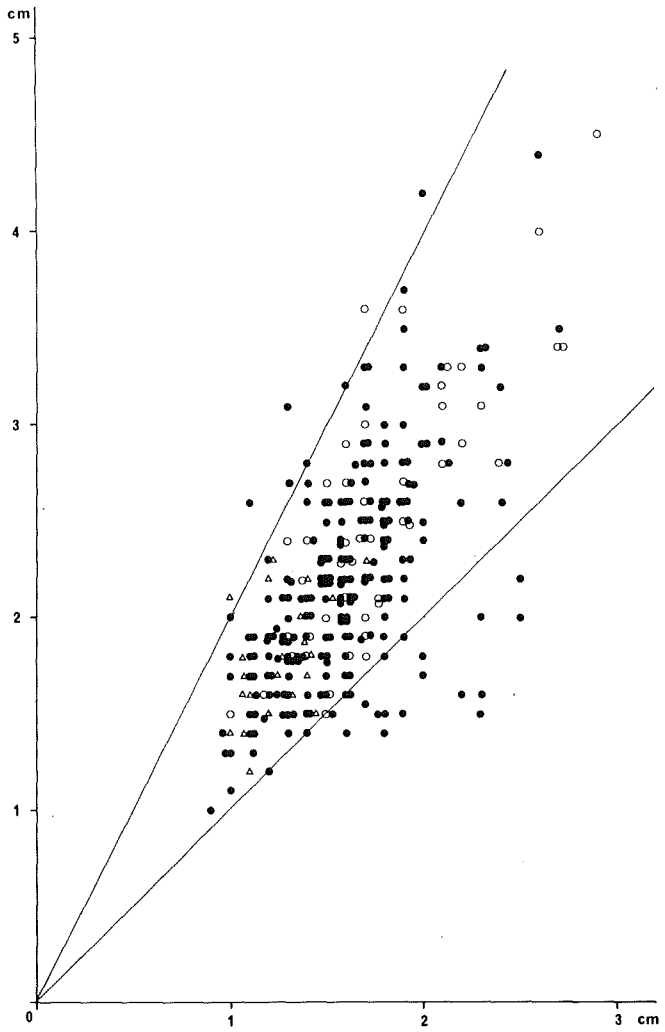


Fig. 75 石鏃長幅比

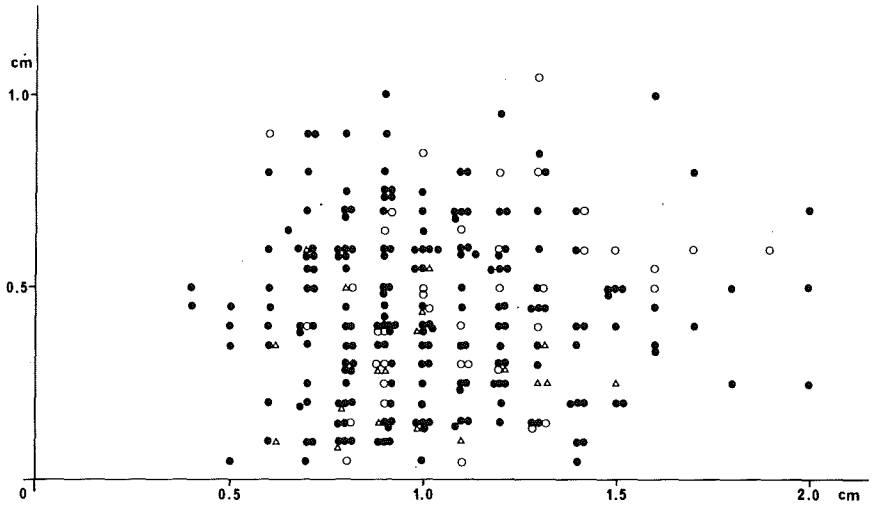


Fig. 76 石鏃抉り長幅比

Tab. 10　石鏃計測表　　〈 〉は推定値

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm) 長	幅	厚	抉り(cm) 深度	幅	先端角度	分類
1	J－15	赤褐色粘質土	黒曜石A	完	2.4	2.2	2.5	0.4			111°	Ⅰa$_1$
2	G－11	赤褐色粘質土	安山岩	完	1.1	1.8	1.7	0.4			75°	Ⅰa$_2$
3	E－9	黄褐色粘質土	黒曜石B	完	0.6	1.6	1.3	0.3			57°	〃
4	F－5	赤褐色粘質土	〃 A	A		〈1.6〉	1.25	0.3			〈55°〉	〃
5	D－8	赤褐色粘質土	〃 C	完		2.7	2.6	1.9	0.6		79°	Ⅰa$_3$
6	M－13	落ち込み	安山岩	完	6.3	3.3	2.2	0.9			82°	〃
7	E－8	黄褐色粘質土	〃	完	8.1	4.0	2.6	0.8			65°	〃
8	F－8	列石群	黒曜石B	完	0.5	1.9	1.25	0.45			70°	〃
9	P－17	ドーナツ状土壙	〃 C	A		〈2.5〉	1.8	0.4				〃
10	N－10	赤褐色粘質土	〃 A	完	0.6	1.8	1.1	0.2			54°	〃
11	N－15	赤褐色粘質土	〃 B	A		〈1.7〉	1.1	0.15				〃
12	G－7	赤褐色粘質土	〃 A	完	0.3	1.0	0.9	0.3			85°	Ⅰb$_2$
13	K－12	落ち込み	〃 A	完	0.5	1.6	1.3	0.35	0.05	1.0	73°	〃
14	K－7	黄褐色粘質土	〃 C	完	1.0	2.1	1.8	0.3			68°	〃
15	N－13	撹乱中	〃 C	完	0.35	1.75	1.6	0.35			90°	〃
16	F－10	黄褐色粘質土	〃 B	完	0.4	1.6	1.5	0.4			100°	〃
17	M－9	赤褐色粘質土	〃 B	A		〈2.1〉	1.6	0.65	0.05	0.7		〃
18	N－8	撹乱中	〃 C	C		1.2	〈1.1〉	0.15			52°	〃
19	Q－15	落ち込み	〃 A	完	0.4	1.3	1.0	0.3	0.05	0.5	60°	Ⅰb$_3$
20	N－18	ドーナツ状土壙	安山岩	完	0.4	1.6	1.2	0.2	0.05	1.1	65°	〃
21	M－10	撹乱中	〃	完	0.3	1.5	1.0	0.25	0.05	0.8	40°	〃
22	J－6	4号竪穴	黒曜石B	完	0.8	1.8	1.3	0.45			53°	〃
23	T－18	赤褐色粘質土	〃 B	完	1.4	2.0	1.6	0.5			66°	〃
24	H－11	ドーナツ状土壙	〃 C	A		〈1.8〉	1.1	0.3			44°	〃
25	F－6	ドーナツ状土壙	〃 C	A		〈1.5〉	1.1	0.3				〃
26	J－7	赤褐色粘質土	〃 B	完	0.4	1.8	1.1	0.2			48°	〃
27	I－5	撹乱中	〃 C	A		〈1.9〉	1.1	0.35				〃
28	R－12	赤褐色粘質土	〃 A	完	0.7	1.9	1.2	0.35			69°	〃
29	K－6	落ち込み	〃 A	C		2.5	〈2.0〉	0.45			49°	〃
30	O－12	撹乱中	〃 C	完	1.2	2.2	1.5	0.4			59°	〃
31	K－8	落ち込み	安山岩	完	0.9	2.3	1.6	0.3			50°	〃
32	M－10	落ち込み	黒曜石B	完	0.9	2.4	1.6	0.25			68°	〃
33	I－6	4号竪穴	〃 A	完	2.0	2.6	1.9	0.4	0.05	1.4	70°	〃
34	P－11	赤褐色粘質土	〃 A	完	1.0	2.2	1.3	0.45			39°	〃
35	E－2	赤褐色粘質土	〃 B	完	4.0	2.6	2.3	0.7	0.1	0.7	80°	Ⅱc$_1$
36	I－6	4号竪穴	〃 A	完	0.4	1.2	1.2	0.3	0.2	0.8	65°	〃
37	D－3	赤褐色粘質土	〃 C	A		〈1.6〉	1.6	0.2	0.2	1.4		〃
38	E－6	撹乱中	〃 B	完	0.3	1.55	1.7	0.3	0.1	1.4	67°	〃

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm) 長	幅	厚	抉り(cm) 深度	幅	先端角度	分類
39	N—15	撹乱中	黒曜石B	完	0.7	1.7	2.0	0.3	0.35	1.6	68°	IIc$_1$
40	I—12	ドーナツ状土壙	安山岩	完	0.4	1.6	1.5	0.3	0.3	1.1	54°	〃
41	L—14	赤褐色粘質土	黒曜石A	完	0.5	1.4	1.4	0.35	0.35	1.0	74°	〃
42	N—11	撹乱中	〃 A	C		2.0	〈2.5〉	0.4	〈0.5〉	〈1.5〉	70°	〃
43	E—2	赤褐色粘質土	〃 A	A		〈2.5〉	2.3	0.3	0.4	1.0		〃
44	J—14	撹乱中	〃 A	D		〈2.3〉	〈2.3〉	0.5	〈0.7〉	〈1.5〉		〃
45	N—9	撹乱中	〃 A	C		1.4	〈1.3〉	0.3	〈0.2〉	〈0.7〉	60°	IIc$_2$
46	O—16	赤褐色粘質土	〃 A	完	0.4	1.5	1.3	0.3	0.15	0.9	68°	〃
47	E—7	赤褐色粘質土	〃 A	完	2.1	2.6	1.8	0.6	0.1	0.6	56°	〃
48	L—15	赤褐色粘質土	〃 B	完	1.8	2.2	1.8	0.65	0.1	0.8	61°	〃
49	G—15	赤褐色粘質土	安山岩	A		〈2.0〉	1.7	0.4	0.15	1.3		〃
50	M—12	ドーナツ状土壙	〃	完	0.8	1.9	1.7	0.2	0.15	1.3	68°	〃
51	G—6	ドーナツ状土壙	黒曜石B	完	0.3	1.4	1.6	0.3	0.25	0.9	50°	〃
52	C—10	黄褐色粘質土	〃 A	完	0.5	1.8	1.6	0.25	0.25	1.2	68°	〃
53	Q—13	黄褐色粘質土	〃 C	C		1.9	〈1.9〉	0.4	〈0.3〉	〈1.3〉	56°	〃
54	H—14	ドーナツ状土壙	〃 C	C		2.1	〈1.9〉	0.3	〈0.4〉	〈1.5〉	75°	〃
55	G—10	赤褐色粘質土	〃 B	完	0.7	1.7	1.6	0.3	0.35	0.8	55°	〃
56	N—8	赤褐色粘質土	〃 B	完	0.7	1.9	1.7	0.3	0.45	1.3	65°	〃
57	D—7	黄褐色粘質土	〃 B	完	0.5	1.5	1.3	0.3	0.3	1.0	60°	〃
58	D—7	赤褐色粘質土	〃 B	完	0.3	1.6	1.2	0.2	0.25	1.0	60°	〃
59	K—6	4号土壙	〃 B	C		2.0	〈1.5〉	0.4	0.4	〈0.9〉	50°	〃
60	K—8	撹乱中	〃 A	C		1.7	〈1.5〉	0.3	〈0.4〉	〈0.9〉	68°	〃
61	E—3	赤褐色粘質土	〃 B	完	0.4	1.5	1.4	0.2	0.45	1.2	75°	〃
62	L—15	落ち込み	安山岩	A		〈2.1〉	1.8	0.3	0.5	1.0		〃
63	F—2	赤褐色粘質土	黒曜石A	完	0.6	1.5	1.4	0.4	0.45	0.8	51°	〃
64	K—6	4号土壙	〃 B	完	0.3	1.6	1.3	0.2	0.55	1.0	56°	〃
65	G—7	赤褐色粘質土	〃 A	C		1.1	〈1.0〉	0.25	〈0.2〉	〈0.6〉	76°	〃
66	I—8	ドーナツ状土壙	〃 A	C		2.2	〈1.8〉	0.4	〈0.6〉	〈1.4〉	71°	〃
67	H—10	黄褐色粘質土	〃 B	完	0.3	1.5	1.3	0.2	0.4	0.7	63°	〃
68	D—11	撹乱中	〃 B	C		2.6	2.4	0.4	0.6	1.0	93°	〃
69	P—12	赤褐色粘質土	〃 C	完	0.5	1.6	1.4	0.2	0.15	1.1	66°	〃
70	M—15	撹乱中	〃 C	完	0.6	2.1	1.3	0.3	0.1	0.7	80°	IIc$_3$
71	E—7	ドーナツ状土壙	〃 A	A		〈1.5〉	〈1.0〉	0.15	0.1	0.8		〃
72	N—16	4号集石	〃 C	完	0.2	1.4	1.0	0.15	0.1	0.8	56°	〃
73	U—18	赤褐色粘質土	〃 C	A		〈1.8〉	1.3	0.35	0.1	0.9		〃
74	K—16	落ち込み	〃 C	完	0.8	1.8	1.3	0.4	0.15	1.0	54°	〃
75	I—6	4号竪穴	安山岩	C		2.0	1.5	0.4	〈0.15〉	〈1.0〉	62°	〃
76	F—6	赤褐色粘質土	黒曜石A	C		2.0	〈1.6〉	0.25	〈0.15〉	〈1.3〉	60°	〃
77	F—6	ドーナツ状土壙	〃 B	A		〈2.5〉	1.7	0.3	0.1	1.4		〃

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm) 長	幅	厚	抉り(cm) 深度	幅	先端角度	分類
78	N—11	落ち込み	黒曜石A	C		1.7	〈1.3〉	0.4	〈0.15〉	〈1.1〉	60°	II c 3
79	D—7	赤褐色粘質土	〃 B	完	0.3	1.6	1.2	0.2	0.25	1.0	60°	〃
80	D—4	赤褐色粘質土	〃 C	C		1.3	1.0	0.15	〈0.15〉	〈0.8〉	34°	〃
81	H—14	赤褐色粘質土	〃 C	B				0.35			47°	〃
82	O—12	不明土壙	〃 C	完	0.5	2.0	1.4	0.25	0.15	1.2	45°	〃
83	K—6	落ち込み	〃 B	完	0.8	2.1	1.4	0.4	0.15	0.8	55°	〃
84	U—18	赤褐色粘質土	〃 A	完	0.6	1.8	1.4	0.4	0.25	1.1	66°	〃
85	E—10	列石群	〃 A	A		〈2.1〉	1.4	0.25	0.1	0.9		〃
86	T—18	赤褐色粘質土	〃 B	完	1.0	2.0	1.3	0.45	0.15	1.0	70°	〃
87	P—19	落ち込み	安山岩	完	0.6	1.9	1.4	0.25	0.3	1.2	55°	〃
88	I—6	4号竪穴	黒曜石B	A		〈1.8〉	1.3	0.3	0.2	1.2		〃
89	I—6	4号竪穴	〃 B	完	1.1	2.1	1.3	0.5	0.2	0.9	45°	〃
90	G—12	ドーナツ状土壙	〃 B	完	0.9	2.2	1.6	0.35	0.2	1.4	55°	〃
91	I—10	ドーナツ状土壙	〃 C	完	0.5	1.9	1.3	0.2	0.2	1.0	62°	〃
92	G—11	落ち込み	安山岩	完	1.6	2.3	1.6	0.5	0.15	0.8	50°	〃
93	J—8	炉穴	黒曜石B	完	0.2	1.4	1.1	0.15	0.2	0.8	29°	〃
94	M—11	撹乱中	〃 C	C		2.0	1.0	0.4	0.15	0.9	65°	〃
95	H—13	ドーナツ状土壙	安山岩	C		2.8	〈2.4〉	0.3	〈0.6〉	〈1.7〉	92°	〃
96	D—12	落ち込み	黒曜石A	A		〈2.5〉	1.6	0.5	0.2	1.5		〃
97	F—9	黄褐色粘質土	〃 A	A		〈3.3〉	1.9	0.3	0.2	1.4		〃
98	F—6	ドーナツ状土壙	〃 A	A		〈3.2〉	2.4	0.4	0.25	2.0		〃
99	D—4	赤褐色粘質土	〃 C	完	1.1	2.8	1.9	0.4	0.4	1.7	48°	〃
100	E—8	列石群	〃 A	A		〈1.4〉	1.0	0.2	0.2	0.7		〃
101	E—2	落ち込み	〃 A	完	2.0	2.8	1.7	0.6	0.25	1.2	55°	〃
102	F—11	落ち込み	安山岩	A		〈1.9〉	1.3	0.5	0.25	0.9		〃
103	G—9	黄褐色粘質土	黒曜石B	C		2.1	〈1.6〉	0.3	〈0.3〉	〈1.2〉	60°	〃
104	D—4	赤褐色粘質土	〃 C	完	5.2	3.5	2.7	0.6	0.25	1.8	69°	〃
105	H—13	赤褐色粘質土	〃 B	A		2.7	1.9	0.8	0.25	1.2	61°	〃
106	G—5	赤褐色粘質土	〃 C	完	1.7	2.2	1.6	0.6	0.25	1.1	70°	〃
107	G—8	黄褐色粘質土	〃 B	C		2.3	〈1.6〉	0.45	〈0.3〉	〈1.2〉	40°	〃
108	G—9	黄褐色粘質土	〃 A	完	0.7	1.9	1.3	0.45	0.3	0.8	40°	〃
109	C—10	赤褐色粘質土	〃 C	完	0.6	1.7	1.2	0.4	0.3	1.0	45°	〃
110	G—8	列石群	〃 C	完	0.7	2.1	1.4	0.35	0.3	0.8	50°	〃
111	K—12	赤褐色粘質土	安山岩	完	0.9	2.2	1.4	0.4	0.3	0.9	31°	〃
112	K—12	ドーナツ状土壙	黒曜石B	完	0.9	1.8	1.3	0.4	0.3	0.8	62°	〃
113	G—7	黄褐色粘質土	〃 B	A		〈1.9〉	1.3	0.5	0.35	1.1		〃
114	G—7	赤褐色粘質土	〃 B	C		2.0	〈1.4〉	0.2	〈0.35〉	〈1.2〉	46°	〃
115	F—5	赤褐色粘質土	〃 A	C		2.0	〈1.6〉	0.2	〈0.45〉	〈1.3〉	45°	〃
116	J—11	不明土壙	〃 C	完	0.5	1.9	1.5	0.25	0.35	1.4	50°	〃

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm) 長	幅	厚	抉り(cm) 深度	幅	先端角度	分類
117	E—11	黄褐色粘質土	黒曜石C	完	1.0	2.4	1.8	0.3	0.35	1.6	59°	IIc$_3$
118	H—10	落ち込み	〃 B	C		2.3	〈1.6〉	0.3	〈0.35〉	〈1.3〉	49°	〃
119	K—6	4号土壙	〃 B	C		1.9	〈1.6〉	0.4	〈0.35〉	〈1.1〉	50°	〃
120	J—8	炉穴	安山岩	完	0.8	1.8	1.4	0.4	0.4	1.1	55°	〃
121	K—15	撹乱中	黒曜石A	完	0.6	1.9	1.3	0.3	0.4	1.0	70°	〃
122	F—8	黄褐色粘質土	〃 B	完	0.9	1.8	1.5	0.5	0.4	0.9	55°	〃
123	F—2	赤褐色粘質土	チャート	完	1.2	2.4	1.6	0.3	0.3	0.9	65°	〃
124	I—6	4号竪穴	黒曜石A	C		2.4	〈1.4〉	0.3	〈0.4〉	〈1.0〉	58°	〃
125	G—10	赤褐色粘質土	〃 A	C		2.6	〈1.5〉	0.3	〈0.4〉	〈0.7〉	48°	〃
126	L—14	赤褐色粘質土	〃 B	完	1.9	3.0	1.8	0.5	0.4	1.4	55°	〃
127	N—13	落ち込み	〃 A	完	1.5	2.8	1.7	0.4	0.4	1.2	51°	〃
128	L—12	撹乱中	〃 A	D		〈2.6〉	〈1.8〉	0.4	〈0.4〉	〈1.0〉		〃
129	M—13	撹乱中	〃 B	A		〈2.5〉	2.0	0.55	0.6	0.8		〃
130	E—9	黄褐色粘質土	安山岩	D		〈2.4〉	〈1.7〉	0.5	〈0.2〉	〈0.9〉		〃
131	H—15	ドーナツ状土壙	〃	C		2.4	1.4	0.35	〈0.4〉	〈0.9〉	44°	〃
132	G—8	黄褐色粘質土	〃	完	1.3	2.5	1.9	0.4	0.45	1.2	50°	〃
133	G—11	赤褐色粘質土	黒曜石B	完	1.4	2.6	1.6	0.4	0.35	1.1	50°	〃
134	I—6	4号竪穴	〃 B	完	1.1	2.3	1.5	0.4	0.45	1.3	56°	〃
135	K—13	撹乱中	〃 B	C		2.2	〈1.5〉	0.45	〈0.4〉	〈0.7〉	54°	〃
136	C—8	赤褐色粘質土	〃 A	D		1.6	〈1.1〉	0.1	〈0.4〉	〈0.9〉		〃
137	F—6	ドーナツ状土壙	〃 B	完	1.2	2.1	1.6	0.5	0.4	1.2	57°	〃
138	F—11	赤褐色粘質土	安山岩	C		1.8	〈1.3〉	0.2	〈0.4〉	〈0.7〉	60°	〃
139	P—10	赤褐色粘質土	黒曜石A	C		1.9	〈1.1〉	0.3	〈0.4〉	〈0.8〉	44°	〃
140	J—8	赤褐色粘質土	〃 B	C		2.3	1.5	0.4	〈0.4〉	〈0.9〉	48°	〃
141	J—6	不明土壙	〃 A	C		2.3	〈1.5〉	0.5	〈0.45〉	〈1.0〉	41°	〃
142	S—15	赤褐色粘質土	安山岩	A		〈3.1〉	2.1	0.25	0.55	1.6		〃
143	K—14	撹乱中	黒曜石B	A		〈2.3〉	1.5	0.5	0.45	0.9		〃
144	F—7	列石群	安山岩	E		〈3.3〉	〈2.1〉	0.45	〈0.6〉	〈1.9〉		〃
145	J—11	赤褐色粘質土	黒曜石A	C		3.3	〈2.1〉	0.4	〈0.45〉	〈1.6〉	42°	〃
146	T—18	赤褐色粘質土	〃 A	C		2.4	〈1.8〉	0.3	〈0.5〉	〈1.5〉	47°	〃
147	G—10	黄褐色粘質土	安山岩	完	0.7	1.9	1.4	0.3	0.5	1.2	53°	〃
148	J—8	炉穴	黒曜石B	完	1.2	2.5	1.5	0.5	0.45	1.1	37°	〃
149	E—3	落ち込み	〃 C	完	0.6	2.2	1.7	0.3	0.5	1.5	52°	〃
150	H—10	ドーナツ状土壙	〃 B	C		3.4	〈2.3〉	0.3	〈0.5〉	〈1.8〉	64°	〃
151	M—13	落ち込み	〃 B	C		2.7	〈1.6〉	0.3	〈0.5〉	〈1.5〉	65°	〃
152	F—9	黄褐色粘質土	〃 A	C		2.6	〈1.6〉	0.5	〈0.55〉	〈1.2〉	45°	〃
153	L—9	撹乱中	〃 A	C		2.9	〈1.8〉	0.5	〈0.5〉	〈0.9〉	39°	〃
154	E—9	黄褐色粘質土	〃 A	C		2.9	〈1.7〉	0.3	〈0.5〉	〈1.1〉	48°	〃
155	P—15	赤褐色粘質土	〃 B	C		2.8	〈2.4〉	0.4	〈0.7〉	〈2.0〉	80°	〃

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm) 長	幅	厚	抉り(cm) 深度	幅	先端角度	分類
156	F－9	黄褐色粘質土	黒曜石B	完	0.6	2.2	1.3	0.3	0.4	0.8	46°	IIc$_3$
157	F－3	ドーナツ状土壙	〃 C	完	1.2	2.5	1.6	0.5	0.6	1.3	58°	〃
158	D－13	撹乱中	〃 B	完	0.4	3.3	2.3	0.4	0.5	2.0	55°	〃
159	E－12	ドーナツ状土壙	安山岩	完	3.3	3.1	2.3	0.6	0.5	1.3	65°	〃
160	E－9	黄褐色粘質土	黒曜石B	A		〈2.7〉	1.7	0.5	0.5	1.3		〃
161	L－11	撹乱中	〃 A	C		2.1	〈1.6〉	0.4	〈0.55〉	〈1.0〉	60°	〃
162	M－13	落ち込み	〃 B	完	1.5	2.9	2.2	0.35	0.8	1.7	55°	〃
163	P－16	撹乱中	〃 B	D		〈2.9〉	〈2.0〉	0.45	〈0.55〉	〈1.2〉		〃
164	D－7	不明土壙	〃 C	完	1.2	2.6	1.6	0.5	0.7	1.3	41°	〃
165	H－9	黄褐色粘質土	〃 A	完	0.8	2.2	1.5	0.4	0.6	1.1	60°	〃
166	K－8	落ち込み	〃 A	C		2.2	〈1.5〉	0.3	〈0.6〉	〈1.1〉	46°	〃
167	I－7	4号竪穴	〃 B	完	0.9	2.2	1.6	0.4	0.6	1.0	54°	〃
168	J－6	不明土壙	安山岩	完	1.3	2.6	1.7	0.4	0.6	1.4	41°	〃
169	E－2	赤褐色粘質土	黒曜石B	完	1.1	2.5	1.7	0.4	0.7	1.2	45°	〃
170	D－3	黄褐色粘質土	〃 B	完	0.8	2.0	1.6	0.4	0.7	1.4	61°	〃
171	G－12	ドーナツ状土壙	〃 B	A		〈2.2〉	1.7	0.35	0.5	0.9		〃
172	O－16	赤褐色粘質土	〃 B	完	1.1	1.9	1.6	0.5	0.35	0.6	66°	〃
173	Q－17	赤褐色粘質土	安山岩	完	2.1	2.5	1.9	0.5	0.5	0.8	60°	〃
174	E－8	黄褐色粘質土	〃	完	8.1	4.5	2.9	0.7	0.5	1.6	70°	〃
175	N－10	落ち込み	黒曜石B	完	0.3	1.4	1.1	0.1	0.1	0.6	64°	〃
176	P－18	赤褐色粘質土	〃 B	完	0.3	1.6	1.1	0.15	0.2	0.8	55°	〃
177	L－12	赤褐色粘質土	〃 C	完	0.4	1.6	1.1	0.2	0.15	1.0	58°	〃
178	S－15	赤褐色粘質土	〃 C	A		〈1.9〉	1.4	0.1	0.25	1.3		〃
179	H－16	赤褐色粘質土	〃 A	A		〈1.4〉	11	0.2	0.25	0.8	54°	〃
180	Q－13	ドーナツ状土壙	〃 B	完	0.9	2.1	1.5	0.35	0.3	0.9	75°	〃
181	K－17	落ち込み	〃 C	A		〈1.7〉	1.4	0.2	0.35	1.3		〃
182	E－6	赤褐色粘質土	〃 C	完	0.2	1.5	1.1	0.1	0.35	0.9	52°	〃
183	T－18	赤褐色粘質土	〃 A	C		1.8	〈1.3〉	0.2	〈0.3〉	〈1.2〉	61°	〃
184	L－12	赤褐色粘質土	〃 A	完	0.4	1.7	1.2	0.15	0.3	0.9	63°	〃
185	T－18	赤褐色粘質土	〃 C	完	1.6	2.3	1.7	0.4	0.25	1.5	60°	〃
186	K－14	赤褐色粘質土	〃 B	完	0.6	2.0	1.4	0.3	0.4	1.0	52°	〃
187	G－13	赤褐色粘質土	〃 C	C		2.1	〈1.5〉	0.2	〈0.55〉	〈1.0〉	56°	〃
188	E－9	黄褐色粘質土	〃 B	C		2.2	〈1.4〉	0.3	〈0.5〉	〈0.8〉	54°	〃
189	N－15	赤褐色粘質土	〃 C	完	0.6	1.8	1.0	0.3	0.15	0.9	60°	IIc$_4$
190	G－10	赤褐色粘質土	〃 A	C		1.7	〈1.1〉	0.3	〈0.45〉	〈0.6〉	38°	〃
191	J－6	不明土壙	〃 A	完	0.7	2.3	1.2	0.4	0.35	1.0	42°	〃
192	G－14	落ち込み	安山岩	完	1.0	2.4	1.3	0.5	0.4	0.9	31°	〃
193	E－8	黄褐色粘質土	黒曜石B	C		2.1	〈1.2〉	0.4	〈0.35〉	〈0.7〉	41°	〃
194	G－6	赤褐色粘質土	安山岩	完	1.0	2.9	1.6	0.3	0.4	1.3	43°	〃

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm) 長	幅	厚	抉り(cm) 深度	幅	先端角度	分類
195	J－6	4号竪穴	安山岩	完	0.9	2.7	1.5	0.4	0.45	1.0	30°	IIc$_4$
196	F－6	撹乱中	黒曜石B	D		2.8	〈1.65〉	0.3	〈0.6〉	1.1		〃
197	K－12	撹乱中	〃 B	D		〈3.2〉	〈1.6〉	0.3	〈0.35〉	〈0.8〉		〃
198	J－6	黄褐色粘質土	安山岩	A		〈3.0〉	1.7	0.55	0.5	1.0	35°	〃
199	F－12	ドーナツ状土壙	黒曜石B	完	1.3	2.6	1.4	0.5	0.4	0.9	52°	〃
200	F－7	赤褐色粘質土	〃 B	D		〈3.3〉	〈1.7〉	0.55	〈0.7〉	〈1.2〉		〃
201	I－6	4号竪穴	安山岩	A		〈3.6〉	1.9	0.6	0.6	1.5		〃
202	G－10	赤褐色粘質土	〃	完	2.1	3.6	1.7	0.6	0.6	1.2	38°	〃
203	E－9	黄褐色粘質土	黒曜石B	C		3.3	〈1.7〉	0.6	〈0.35〉	〈0.9〉	32°	〃
204	I－6	4号竪穴	〃 B	C		2.8	1.4	0.4	〈0.6〉	〈1.0〉	38°	〃
205	G－9	落ち込み	〃 B	A		〈4.2〉	2.0	0.3	0.3	0.9		〃
206	K－7	4号竪穴	〃 B	C		3.0	〈1.8〉	0.3	〈0.4〉	〈1.4〉	39°	〃
207	L－12	赤褐色粘質土	〃 B	D		〈2.1〉	1.0	0.2	〈0.35〉	〈0.6〉		〃
208	P－14	撹乱中	〃 C	A		〈2.3〉	1.2	0.2	0.45	1.0		〃
209	L－17	撹乱中	〃 A	C		1.5	〈1.5〉	0.3	〈0.4〉	〈0.5〉	75°	IId$_2$
210	I－14	赤褐色粘質土	〃 A	C		1.9	〈1.5〉	0.3	〈0.5〉	〈0.6〉	55°	〃
211	I－10	撹乱中	〃 B	C		1.9	〈1.7〉	0.35	〈0.5〉	〈0.75〉	70°	〃
212	I－7	4号竪穴	〃 B	C		1.8	〈1.8〉	0.4	〈0.7〉	〈0.9〉	72°	〃
213	J－8	ドーナツ状土壙	〃 A	完	0.5	1.5	1.8	0.3	〈0.6〉	〈0.9〉	64°	〃
214	O－11	撹乱中	〃 A	D		〈1.9〉	〈1.8〉	0.35	〈0.7〉	〈0.8〉		〃
215	L－12	赤褐色粘質土	〃 A	A		〈2.3〉	1.9	0.3	0.7	0.8		〃
216	F－5	赤褐色粘質土	〃 A	C		1.7	〈1.1〉	0.2	〈0.35〉	〈0.5〉	60°	IId$_3$
217	H－12	赤褐色粘質土	〃 B	C		2.2	〈1.5〉	0.3	〈0.5〉	〈0.7〉	55°	〃
218	M－13	落ち込み	安山岩	C		2.2	〈1.2〉	0.35	〈0.7〉	〈0.9〉	70°	〃
219	F－11	撹乱中	黒曜石A	A		〈2.1〉	1.6	0.3	0.6	1.0		〃
220	L－16	赤褐色粘質土	〃 A	D		〈2.4〉	1.6	0.3	0.6	0.7		〃
221	J－11	赤褐色粘質土	〃 B	C		2.7	〈1.9〉	0.4	〈0.55〉	〈0.8〉	52°	〃
222	S－15	赤褐色粘質土	〃 A	C		1.5	〈1.2〉	0.2	〈0.55〉	〈0.7〉	59°	〃
223	F－9	黄褐色粘質土	〃 B	完	1.2	2.3	1.6	0.6	0.6	0.6	51°	〃
224	I－15	赤褐色粘質土	安山岩	D		〈1.9〉	〈1.8〉	0.3	〈0.6〉	〈0.8〉	80°	〃
225	J－16	撹乱中	黒曜石A	完	1.4	2.6	1.7	0.5	0.6	0.9	60°	〃
226	F－9	黄褐色粘質土	〃 B	C		1.7	〈1.2〉	0.3	〈0.6〉	〈0.8〉	49°	〃
227	D－9	黄褐色粘質土	〃 B	C		1.9	〈1.4〉	0.35	〈0.6〉	〈0.8〉	64°	〃
228	I－9	赤褐色粘質土	〃 B	C		2.6	〈1.5〉	0.6	〈0.6〉	〈0.8〉	39°	〃
229	E－3	赤褐色粘質土	〃 B	C		2.5	〈1.7〉	0.45	〈0.6〉	〈0.8〉	52°	〃
230	G－10	赤褐色粘質土	〃 B	C		2.5	〈1.9〉	0.4	〈0.65〉	〈0.65〉	54°	〃
231	G－11	赤褐色粘質土	〃 A	B				0.5			44°	〃
232	G－14	赤褐色粘質土	〃 A	完	1.8	2.6	1.9	0.5	0.7	0.7	55°	〃
233	E－7	落ち込み	〃 B	A		〈2.5〉	1.8	0.3	0.8	1.1		〃

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm) 長	幅	厚	抉り(cm) 深度	幅	先端角度	分類
234	H—12	赤褐色粘質土	黒曜石B	A		〈2.6〉	1.9	0.4	0.7	1.1		IId$_3$
235	E—14	落ち込み	〃 A	完	3.2	3.2	2.0	0.6	0.75	0.9	68°	〃
236	D—4	赤褐色粘質土	〃 C	C		3.4	〈2.7〉	0.45	〈1.0〉	〈1.6〉	60°	〃
237	D—10	列石群	安山岩	完	0.7	2.1	1.6	0.3	0.8	1.2	60°	〃
238	D—8	赤褐色粘質土	黒曜石B	C		1.8	〈1.3〉	0.4	〈0.7〉	〈0.8〉	70°	〃
239	C—8	赤褐色粘質土	〃 A	C		1.8	〈1.5〉	0.2	〈0.75〉	〈1.0〉	64°	〃
240	N—18	赤褐色粘質土	メノウ	完	0.5	1.5	1.5	0.4	0.7	1.4	65°	〃
241	I—15	ドーナツ状土壙	黒曜石B	C		2.5	〈1.8〉	0.5	〈0.7〉	〈1.1〉	45°	〃
242	E—12	撹乱中	〃 B	完	1.6	2.4	1.8	0.45	0.8	1.1	72°	〃
243	E—3	落ち込み	安山岩	C		2.8	〈2.1〉	0.4	〈0.65〉	〈0.9〉	40°	〃
244	D—4	赤褐色粘質土	黒曜石B	C		2.9	〈2.0〉	0.5	〈0.95〉	〈1.2〉	53°	〃
245	E—2	ドーナツ状土壙	安山岩	完	2.2	3.2	2.1	0.5	0.8	1.3	50°	〃
246	K—13	撹乱中	黒曜石C	C		2.6	〈1.8〉	0.35	〈0.6〉	〈0.7〉	45°	〃
247	E—2	赤褐色粘質土	安山岩	C		2.7	〈1.9〉	0.4	〈1.05〉	〈1.3〉	42°	〃
248	E—3	赤褐色粘質土	黒曜石A	D		〈2.4〉	〈1.7〉	0.4	〈0.9〉	〈0.9〉		〃
249	E—7	ドーナツ状土壙	チャート	完	0.7	1.6	1.5	0.35	0.7	1.0	39°	〃
250	L—12	撹乱中	安山岩	C		3.4	〈2.7〉	0.4	〈0.85〉	〈1.0〉	46°	〃
251	M—15	撹乱中	黒曜石B	完	3.8	3.4	2.3	0.7	0.85	1.3	59°	〃
252	F—10	黄褐色粘質土	〃 B	完	1.1	2.3	1.9	0.5	0.6	1.0	55°	〃
253	E—11	黄褐色粘質土	〃 B	D		〈2.6〉	〈2.2〉	0.3	〈0.6〉	〈0.9〉		〃
254	J—7	赤褐色粘質土	〃 A	C		2.2	〈1.7〉	0.3	〈0.8〉	〈0.9〉	45°	〃
255	K—12	撹乱中	〃 B	D		〈2.5〉	〈1.8〉	0.4	〈0.6〉	〈1.0〉	76°	〃
256	F—7	撹乱中	〃 B	E		〈2.6〉	〈1.5〉	0.4	〈0.4〉	〈0.5〉		〃
257	J—16	ドーナツ状土壙	〃 C	完	0.4	1.9	1.2	0.25	0.7	1.1	54°	〃
258	F—6	黄褐色粘質土	〃 C	C		2.2	〈1.2〉	0.15	〈0.6〉	〈0.7〉	45°	IId$_4$
259	F—3	ドーナツ状土壙	〃 B	C		2.9	〈1.7〉	0.4	〈0.8〉	〈1.3〉	50°	〃
260	S—15	赤褐色粘質土	〃 B	C		2.7	〈1.4〉	0.25	〈0.6〉	〈0.7〉	53°	〃
261	G—10	黄褐色粘質土	〃 A	C		3.1	1.7	0.4	〈0.65〉	〈1.0〉	37°	〃
262	E—12	ドーナツ状土壙	〃 B	A		〈3.5〉	1.9	0.4	0.7	1.1		〃
263	H—12	ドーナツ状土壙	〃 B	C		2.6	〈1.1〉	0.3	〈0.45〉	〈0.5〉	40°	IId$_5$
264	I—12	ドーナツ状土壙	〃 B	完	1.9	3.8	1.7	0.6	0.75	0.9	60°	〃
265	H—11	黄褐色粘質土	〃 A	D		3.1	〈1.3〉	0.4	〈0.75〉	〈0.9〉	21°	〃
266	H—6	落ち込み	〃 B	C		1.8	〈2.0〉	2.0	〈0.5〉	〈0.4〉	64°	IIe$_1$
267	I—14	赤褐色粘質土	〃 B	D		〈1.5〉	〈1.8〉	0.3	〈0.45〉	〈0.4〉		〃
268	I—5	落ち込み	〃 A	C		1.6	〈2.2〉	0.2	〈0.6〉	〈0.7〉	62°	〃
269	F—3	ドーナツ状土壙	〃 C	完	0.5	1.5	1.9	0.2	0.8	0.6	80°	〃
270	U—18	赤褐色粘質土	〃 B	D		〈2.4〉	〈2.0〉	0.3	〈0.9〉	〈0.8〉		IIe$_2$
271	J—16	赤褐色粘質土	〃 B	D		2.2	〈1.9〉	0.4	〈0.8〉	〈0.6〉		IIe$_3$
272	M—15	撹乱中	〃 B	C		2.8	〈2.1〉	0.6	〈0.9〉	〈0.7〉	66°	〃

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm) 長	幅	厚	抉り(cm) 深度	幅	先端角度	分類
273	K－8	落ち込み	安山岩	C		2.4	〈1.7〉	0.4	〈0.9〉	〈0.6〉	69°	II e$_3$
274	M－13	赤褐色粘質土	黒曜石A	C		2.8	〈1.9〉	0.4	〈0.75〉	〈0.9〉	71°	〃
275	P－15	撹乱中	〃 A	C		2.9	〈2.1〉	0.5	〈0.8〉	〈0.7〉	70°	〃
276	I－12	ドーナツ状土壙	〃 A	C		2.8	〈1.8〉	0.6	〈0.75〉	〈0.8〉	59°	〃
277	I－7	ドーナツ状土壙	〃 B	C		3.2	〈2.0〉	0.4	〈0.9〉	〈0.7〉	30°	〃
278	K－16	落ち込み	〃 B	D		〈4.4〉	〈2.6〉	0.5	〈1.0〉	〈0.9〉		〃
279	J－14	赤褐色粘質土	〃 B	完	1.6	2.5	1.8	0.5	0.9	0.6	60°	II d$_3$
280	J－13	赤褐色粘質土	〃 B	D		〈2.8〉	〈2.2〉	0.5	0.7	〈0.5〉		〃
281	J－14	赤褐色粘質土	〃 A	D		〈2.7〉	〈2.1〉	0.4	0.7	〈0.5〉		〃
282	G－13	赤褐色粘質土	〃 B	A		〈1.6〉	1.6	0.25	0.15	1.0		〃
283	I－12	ドーナツ状土壙	安山岩	A		〈1.8〉	1.6	0.35	0.3	1.1		
284	M－8	赤褐色粘質土	黒曜石C	A		〈0.8〉	1.4	0.15	0.1	1.1		
285	M－14	落ち込み	〃 B	A		〈1.3〉	1.1	0.05	0.1	0.9		
286	D－4	赤褐色粘質土	〃 B	B				0.3			58°	
287	D－10	列石群	〃 A	B				0.2			31°	
288	E－2	赤褐色粘質土	〃 B	B				0.35			40°	
289	E－5	赤褐色粘質土	〃 B	B				0.3			80°	
290	F－2	15号集石	〃 B	B				0.3			50°	
291	F－3	ドーナツ状土壙	〃 B	B				0.6			49°	
292	F－11	撹乱中	〃 A	B				0.35			46°	
293	F－12	ドーナツ状土壙	〃 C	B				0.2			55°	
294	G－5	赤褐色粘質土	〃 A	B				0.2			43°	
295	G－13	ドーナツ状土壙	安山岩	B				0.35			45°	
296	H－6	落ち込み	黒曜石B	B				0.2			42°	
297	H－10	赤褐色粘質土	〃 B	B				0.6			92°	
298	I－13	落ち込み	〃 B	B				0.4			65°	
299	I－14	赤褐色粘質土	〃 B	B				0.2			57°	
300	J－10	撹乱中	〃 A	B				0.25			36°	
301	J－11	落ち込み	〃 C	B				0.25			71°	
302	K－7	4号竪穴	〃 A	B				0.3			66°	
303	K－8	落ち込み	〃 B	B				0.45			57°	
304	K－17	赤褐色粘質土	〃 B	B				0.35			56°	
305	L－13	ドーナツ状土壙	〃 C	B				0.2			53°	
306	L－14	赤褐色粘質土	〃 C	B				0.2			50°	
307	M－13	落ち込み	〃 B	B				0.35			59°	
308	M－13	赤褐色粘質土	〃 B	B				0.3			36°	
309	O－15	炉穴	〃 C	B				0.2			55°	
310	P－16	赤褐色粘質土	〃 C	B				0.2			64°	
311	Q－14	落ち込み	〃 A	B				0.4			55°	

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm) 長	幅	厚	抉り(cm) 深度	幅	先端角度	分類
312	T—18	赤褐色粘質土	黒曜石B	B				0.4			50°	
313	U—18	赤褐色粘質土	〃 B	B				0.5			30°	
314	E—6	撹乱中	〃 B	C		〈2.2〉	〈2.0〉	0.4	〈0.2〉	〈0.8〉	57°	
315	G—9	黄褐色粘質土	〃 B	C		〈3.0〉	〈2.8〉	0.5	〈0.4〉	〈0.6〉	59°	
316	J—10	撹乱中	〃 A	C		〈2.6〉	〈1.6〉	4.0	〈0.5〉	〈0.8〉	41°	
317	N—16	赤褐色粘質土	〃 C	C		〈2.4〉	〈2.1〉	0.3	〈0.3〉	〈0.7〉	62°	
318	H—7	赤褐色粘質土	〃 B	D		〈1.8〉	〈1.2〉	0.3	〈0.2〉	〈0.8〉		
319	I—14	赤褐色粘質土	〃 C	D		〈1.9〉	〈1.2〉	0.3	〈0.4〉	〈0.6〉		
320	J—6	4号竪穴	〃 B	D		〈2.2〉	〈1.5〉	0.25	〈0.15〉	〈1.3〉		
321	J—6	4号竪穴	安山岩	D		〈2.7〉	〈1.6〉	0.3	〈0.65〉	〈1.1〉		
322	K—7	4号竪穴	黒曜石A	D		〈1.4〉	〈1.8〉	0.3	〈0.15〉	〈1.1〉		
323	M—10	赤褐色粘質土	〃 C	D		〈1.7〉	〈1.3〉	0.2	〈0.3〉	〈0.8〉		
324	N—11	赤褐色粘質土	〃 C	E		〈1.7〉	〈1.6〉	0.15	〈0.2〉	〈1.0〉		
325	C—9	赤褐色粘質土	〃 A	E				0.4				
326	D—3	赤褐色粘質土	〃 B	E				0.5				
327	D—4	赤褐色粘質土	安山岩	E				0.25				
328	E—2	赤褐色粘質土	黒曜石A	E				0.3				
329	E—2	赤褐色粘質土	〃 A	E				0.3				
330	E—6	赤褐色粘質土	〃 A	E				0.4				
331	F—12	ドーナツ状土壙	〃 A	E				0.4				
332	F—13	ドーナツ状土壙	〃 A	E				0.4				
333	F—14	赤褐色粘質土	安山岩	E				0.5				
334	I—12	ドーナツ状土壙	黒曜石B	E				0.2				
335	I—12	赤褐色粘質土	〃 C	E				0.3				
336	K—10	赤褐色粘質土	〃 B	E				0.45				
337	K—10	10号集石	〃 B	E				0.2				
338	K—15	撹乱中	〃 B	E				0.4				
339	L—13	赤褐色粘質土	〃 A	E				0.4				
340	L—13	撹乱中	〃 B	E				0.3				
341	L—15	赤褐色粘質土	〃 C	E				0.25				
342	M—11	撹乱中	〃 C	E				0.2				
343	N—11	赤褐色粘質土	〃 B	E				0.5				
344	P—10	赤褐色粘質土	〃 B	E				0.1				
345	P—13	撹乱中	チャート	E				0.5				
346	P—16	撹乱中	黒曜石C	E				0.3				
347	B—8	赤褐色粘質土	〃 B	F								
348	B—9	赤褐色粘質土	〃 B	F								
349	C—9	赤褐色粘質土	〃 B	F								
350	D—3	赤褐色粘質土	〃 B	F								

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm) 長	幅	厚	抉り(cm) 深度	幅	先端角度	分類
351	D－4	赤褐色粘質土	黒曜石A	F								
352	D－7	3号竪穴	〃 A	F								
353	D－7	3号竪穴	〃 B	F								
354	D－7	3号竪穴	〃 A	F								
355	D－7	赤褐色粘質土	〃 B	F								
356	E－2	黄褐色粘質土	〃 C	F								
357	E－3	赤褐色粘質土	〃 B	F								
358	E－3	落ち込み	〃 C	F								
359	E－3	赤褐色粘質土	〃 A	F								
360	E－4	赤褐色粘質土	〃 B	F								
361	E－7	土壙	〃 B	F								
362	E－11	撹乱中	〃 B	F								
363	E－13	赤褐色粘質土	〃 A	F								
364	F－2	赤褐色粘質土	〃 B	F								
365	F－2	落ち込み	〃 B	F								
366	F－2	落ち込み	〃 A	F								
367	F－3	ドーナツ状土壙	〃 B	F								
368	F－3	ドーナツ状土壙	〃 A	F								
369	F－5	赤褐色粘質土	〃 B	F								
370	F－6	落ち込み	〃 A	F								
371	F－6	赤褐色粘質土	〃 B	F								
372	F－7	撹乱中	〃 A	F								
373	F－7	赤褐色粘質土	〃 A	F								
374	F－8	赤褐色粘質土	〃 A	F								
375	G－5	赤褐色粘質土	〃 A	F								
376	G－7	撹乱中	〃 A	F								
377	G－7	落ち込み	〃 A	F								
378	G－8	列石群	安山岩	F								
379	G－12	赤褐色粘質土	黒曜石B	F								
380	G－13	赤褐色粘質土	〃 A	F								
381	G－14	赤褐色粘質土	〃 A	F								
382	G－15	赤褐色粘質土	〃 A	F								
383	H－7	赤褐色粘質土	〃 A	F								
384	H－9	ドーナツ状土壙	〃 A	F								
385	H－10	落ち込み	〃 B	F								
386	H－14	ドーナツ状土壙	〃 A	F								
387	H－16	赤褐色粘質土	〃 C	F								
388	I－16	4号竪穴	〃 C	F								
389	I－6	4号竪穴	〃 B	F								

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm) 長	幅	厚	抉り(cm) 深度	幅	先端角度	分類
390	I－7	落ち込み	安山岩	F								
391	I－12	ドーナツ状土壙	黒曜石B	F								
392	I－14	赤褐色粘質土	〃 B	F								
393	I－16	ドーナツ状土壙	〃 B	F								
394	J－7	赤褐色粘質土	〃 A	F								
395	J－8	不明土壙	〃 A	F								
396	J－11	赤褐色粘質土	〃 A	F								
397	J－13	赤褐色粘質土	〃 B	F								
398	J－13	1号竪穴	〃 B	F								
399	J－13	1号竪穴	〃 A	F								
400	J－16	ドーナツ状土壙	〃 C	F								
401	K－13	赤褐色粘質土	〃 A	F								
402	L－10	赤褐色粘質土	〃 A	F								
403	L－11	赤褐色粘質土	〃 A	F								
404	L－13	赤褐色粘質土	〃 A	F								
405	L－15	落ち込み	〃 A	F								
406	L－15	落ち込み	〃 B	F								
407	M－13	赤褐色粘質土	〃 A	F								
408	M－14	赤褐色粘質土	〃 C	F								
409	M－14	土壙	〃 B	F								
410	N－10	赤褐色粘質土	〃 B	F								
411	N－13	赤褐色粘質土	〃 C	F								
412	O－17	落ち込み	〃 A	F								
413	P－3	赤褐色粘質土	〃 A	F								
414	P－14	赤褐色粘質土	〃 B	F								
415	Q－12	赤褐色粘質土	〃 B	F								
416	S－14	撹乱中	〃 A	F								
417	S－15	赤褐色粘質土	〃 B	F								
418	T－18	赤褐色粘質土	〃 C	F								

欠損品のため判然とはしないが，鈍い角度のある外湾する側縁を持つ。80・81は二次加工の状況は極めて簡単なもので，裏面はほとんど主要剝離面が占める。82は直線状に近い側縁をもち，均整のとれたものも二次加工も細く丁寧である。93は黒曜石B製，パテナが認められる。やや小型で，側縁は若干内湾する。101・104は表面に自然面を残す。123はチャート製。127は図でも明確なように鋭い鋸歯状の側縁を有している。144～146は側縁がわずかに内湾する。150は脚の一部を欠損する。剝片の

状態を大きく残しており，表裏ともに周縁のみに二次加工を施す。159は安山岩製，160は黒曜石Ｂ製で，２点とも左右の脚の加工状態が異なる。173は安山岩製のもので，先端を大きく突出した形をなす。

174は長さ4.5cmを測る安山岩製の大型のものである。全体の外観から一応石鏃として扱ったが，実質的には石槍的要素が考えられる。175～188は局部摩製石鏃である。

・IIc４　196・197・199は剝片の状態が表裏ともに残すもので周縁のみの二次加工である。204は片脚を欠損するが，脚そのものはかなり長いものである。205は黒曜石Ｂ製で扁平なものである。脚の形態に特徴がある。Ｂ地点の188と酷似する形をなす。206は歪んだ感じであり，小型の石匙としての可能性も考えられる。207・208は局部磨製石鏃で，特に207は磨製面のパテナが著しく認められる。

Ｉd類　基部の抉りがやや深くなるもので209～266までの57点をIId類に分類した。内209～215をIIｄ２，216～257をIIｄ３，258～262をIIｄ４，263～265をIIｄ５とした。

・IIｄ２　全体的に外観がハート型に近い形を呈する。212～215はいわゆる鍬型鏃で，特に214・215は脚の先端が若干丸くふくらんだ形を有する。

・IIｄ３　216・222・226は比較的小型のものである。225・228～234・237・242・245・246などは鍬形鏃の類に含まれるものと考えられる。231は両脚を多少欠損するものであるが，全体的に二次加工が丁寧で，側縁部においては，極めて細かく施している。240は本遺跡出土の石器の中で唯一メノウ製のもので，丁寧に二次加工を施工し長脚状に作り出している。245は安山岩製でパテナが定められる。249はチャート製。250・251は全体的に二次加工が粗雑である。252は左右の脚の長さがアンバランスで歪んだ感がある。黒曜石Ｂ製。257は黒曜石Ｃ製で先端及び脚端が鋭く尖り，側縁が若干内湾する感じで鋸歯状を成すものである。(西輪久道遺跡において何例か見られておりIIｆ類として分類したものもあるが，本遺跡では一点のみということもありあえて分類しなかった。)

・IIｄ４　258は最も細長の局部磨製石鏃である。262は安山岩製で脚の形態を異にする。

・IIｄ５　263・264・265の３点とも細長にするためか，二次加工で極めて丁寧で，鋸歯状の側縁を成している。特に265はその状態が著しい。

IIe類　脚の抉りが極めて深く入るもので，266～278の13点をIIe類に分類した。内266～269をIIe1，270をIIe2，271～281をIIe3とした。全体的に鍬形鏃としてとらえられよう。

・IIe1　266～269の4点ともややつぶれた二等辺三角形状を呈するもので，脚の外側も外へと角ばって張り出している。しかも扁平な剝片を用いていることがわかる。

・IIe2　270は黒曜石B製，パテナが認められる。先端と片脚を欠損。細かく丁寧な二次加工である。

・IIe3　271・272は黒曜石B製，273は安山岩製で3点ともパテナが著しい。274・275・276は黒曜石A製。277は先端が細長くなり，鋭い角度を有する。脚も外へ張り出すような形を成す。細かく丁寧な二次加工を施す。278は黒曜石B製，長さ4cmを上まわると推定される大型のものである。比較的薄い剝片を用い，粗雑な二次加工を施す。279～281はJ—13区の工房址内より出土したものである。特に280は二次加工が粗雑で裏面には火を受けた痕跡がある。形状が3点とも酷似し注目される。

石匙
(Fig. 77～78)
〔PL. 35〕

9点の出土である。安山岩製のものが7点（1～6・9），黒曜石製のものが2点（7・8）で圧到的に安山岩製が多い。

1は湾曲した薄い剝片を用いたもので形態的には横形に分類できよう。刃部・つまみ部を含む全体の二次加工が極めて粗雑で，裏面はほとんど主要剝離面のままの状況である。2は片方の側縁を欠損するが，もう片方の側縁は刃潰し状の加工を施している。刃部的な要素や，或いは欠損時における補修などいくつかの事が想定できようが判然としない。パテナが著しい。3はつまみ部分が大きく作り出されている。表面の中央にわずかに自然面を残す。4は一部を欠損する。つまみ部の加工状況も明確でなく，全体的に粗雑である。5はつまみ部全体を欠損するもので横長の形態である。二次加工は刃部及び周縁においては比較的に丁寧に施されている。6は横の長さ5.5cmを測る小型のもので，パテナが著しい。つまみ部はもちろん刃部を含む全体も丁寧に二次加工が施されている。7は黒曜石C製。中程より下端を欠損していると考えられるもので縦形の形態を成すものであろう。二次加工はつまみ部から側縁にかけて施こされており，剝片の時の状況を有している。8は黒曜石A製でパテナが若干認められる。つまみ部の一部と片側縁を欠損する。つまみ部はやや幅

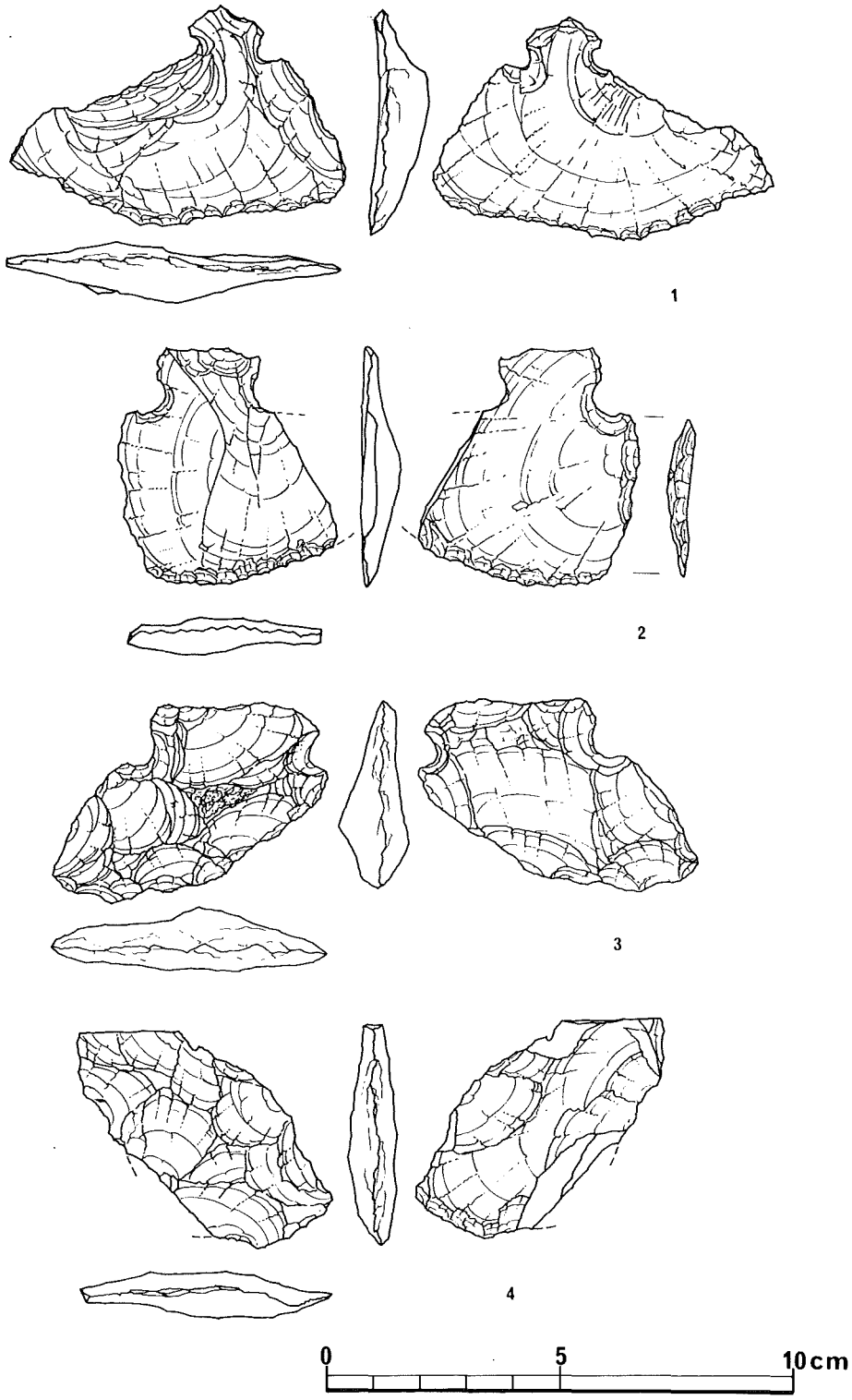


Fig. 77 縄文時代の石器—石匙① (2/3)

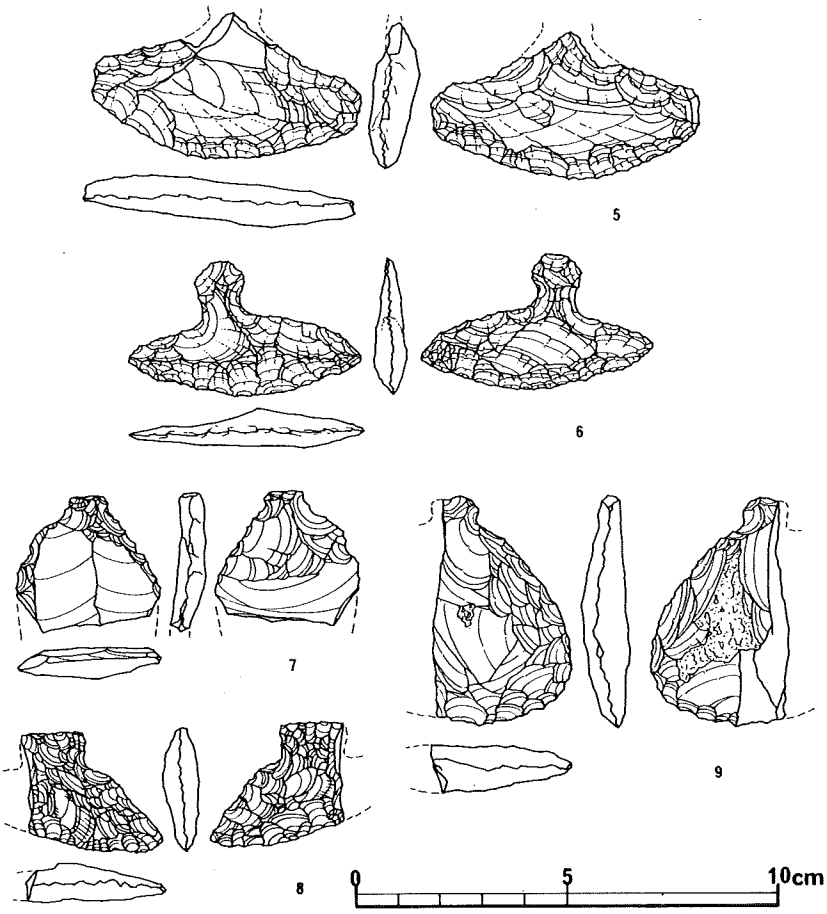


Fig. 78 縄文時代の石器—石匙② (2/3)

Tab. 11 石匙計測表 ( ) は現寸

挿図番号	分類	出土区	出土層位	石材	重さ(g)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備考
1	横形	F—2	赤褐色粘質土	安山岩	18.9	4.7	7.2	0.9	全体的に粗雑
2	〃	J—6	土壙	〃	15.6	5.1	(4.5)	0.8	片側に刃潰し状の加工
3	〃	J—6	土壙	〃	22.8	4.2	4.7	1.5	つまみ部が大きい
4	〃	S—15	赤褐色粘質土	〃	18.2	4.7	(3.9)	1.0	全体的に粗雑
5	〃	L—10	赤褐色粘質土	〃	19.6	(3.5)	6.4	1.1	つまみ部分欠損
6	〃	F—8	赤褐色粘質土	〃	7.6	3.2	5.5	0.8	パテナが著しい。
7	縦形	G—10	黄褐色粘質土	黒曜石C	6.6	(3.0)	(3.5)	0.7	下部欠損
8	横形	L—12	赤褐色粘質土	〃 A	6.4	2.8	(3.2)	0.8	一部欠損
9	縦形	H—10	落ち込み	安山岩	17.3	5.4	(3.3)	1.1	ほぼ半分欠損

広で上端は一直線状になる。二次加工は細く丁寧に施こされている。9はつまみ部を含め，ほぼ半分程を欠損するものである。刃部なども周側全体を使用した可能性も強く一応縦形の形態として扱った。

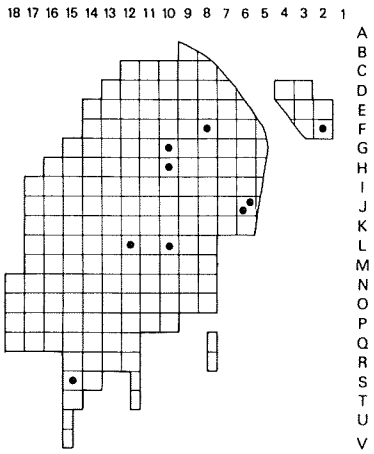


Fig. 79 各地区出土石匙

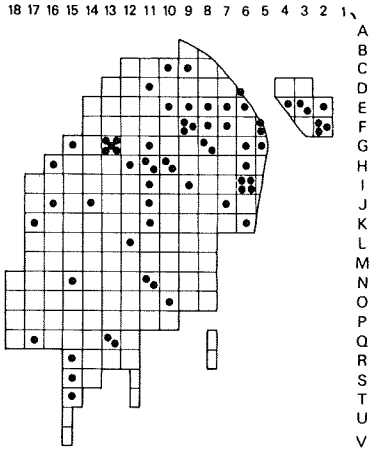


Fig. 80 各地区出土スクレイパー

スクレイパー (Fig. 81～86) (PL. 35～36)

65点の出土である。内49点を目化した。グリッド別 (Fig. 80) にみると，北東側一帯に多くみられるようである。石材においては，黒曜石製50点 (黒曜石A製16点，黒曜石B製28点，黒曜石C製 6 点)・安山岩製15点である。

1 は安山岩製。一側縁表面のみに粗雑な刃部加工を施しており，やや凹凸をなす。 2 も安山岩製で，ゆるやかな弧状の刃部を一側縁に施している。加工そのものは細やかである。 3 は黒曜石B製で，若干パテナが認められる。剝片の下端に刃部を施す。 4 は黒曜石B製で，やや厚身のものである。刃部加工はかなりの角度をもち，細かく丁寧に表面のみに施されている。 5 は黒曜石B製で，パテナが特に著しいものである。刃部加工は一側縁の表面のみに施されている。また，背部においては若干磨製を施した状況も認められる。 6 は黒曜石A製。一側縁の下部表面に丁寧な刃部加工を施す。 7 は安山岩製。全体的に粗雑な加工ではあるが，刃部においては一側縁の下部表面に比較的細やかな加工である。 8 は黒曜石A製。薄くしかも細身の縦長剝片を用いたもので，一側縁の表面のみに丁寧な刃部加工が認められる。 9 は黒曜石A製で，細やかな刃部加工を一側縁に施している。10は同グリッド内で出土したものが接合した例で，黒曜石C製である。刃部加工は細やかではあるが丁寧さにやや欠ける。背部において若干欠損している。11は黒曜石A製で下部と刃部の一部を欠損する。刃部加工は一側縁表面に施されている。12は黒曜石B製で，部分的に著しいパテナが認められる。刃部加工は 1 側縁表面のみに丁寧に施されている。13は安山岩製で，若干ではあるがパテナが認められる。

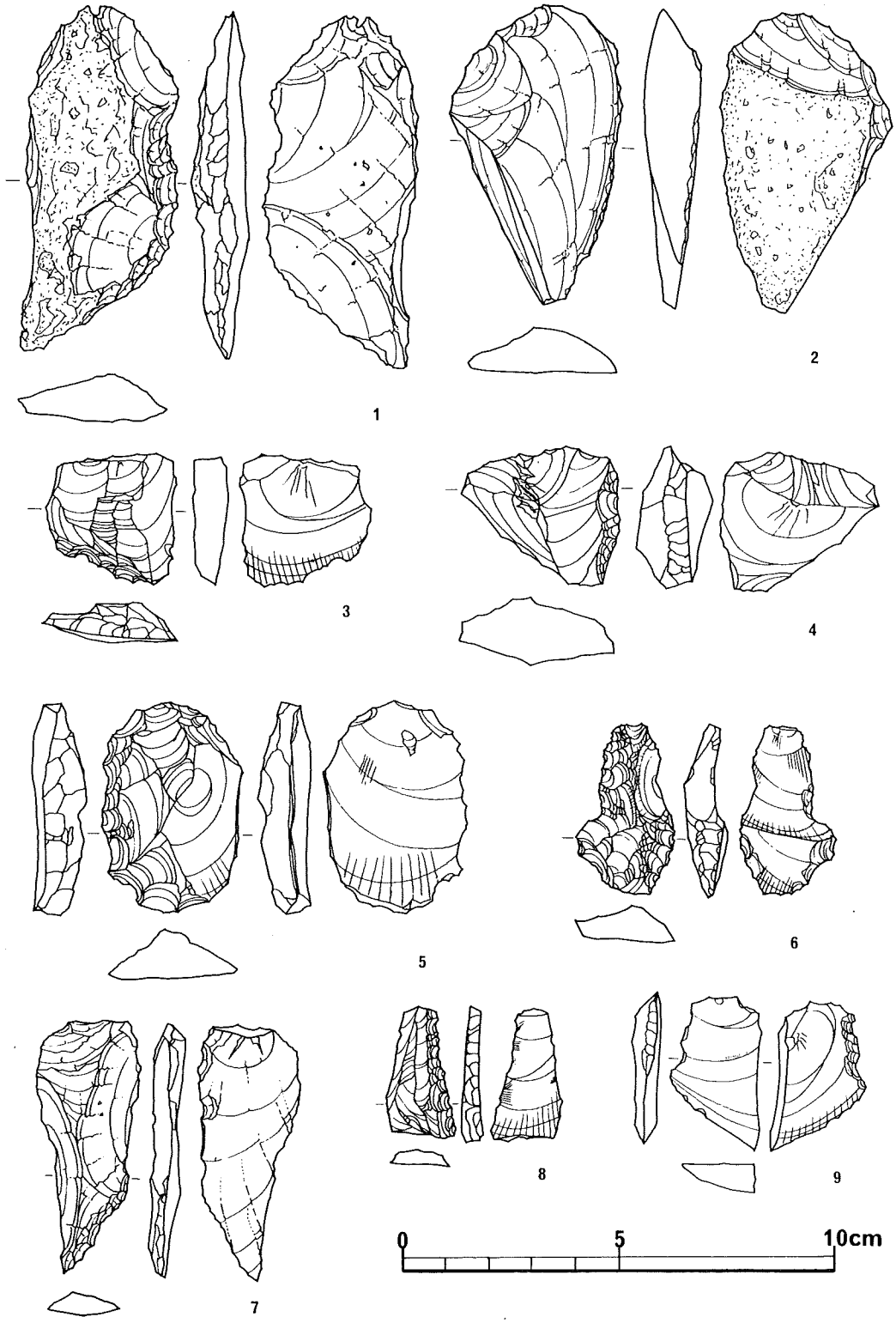


Fig. 81 縄文時代の石器—スクレイパー① (2/3)

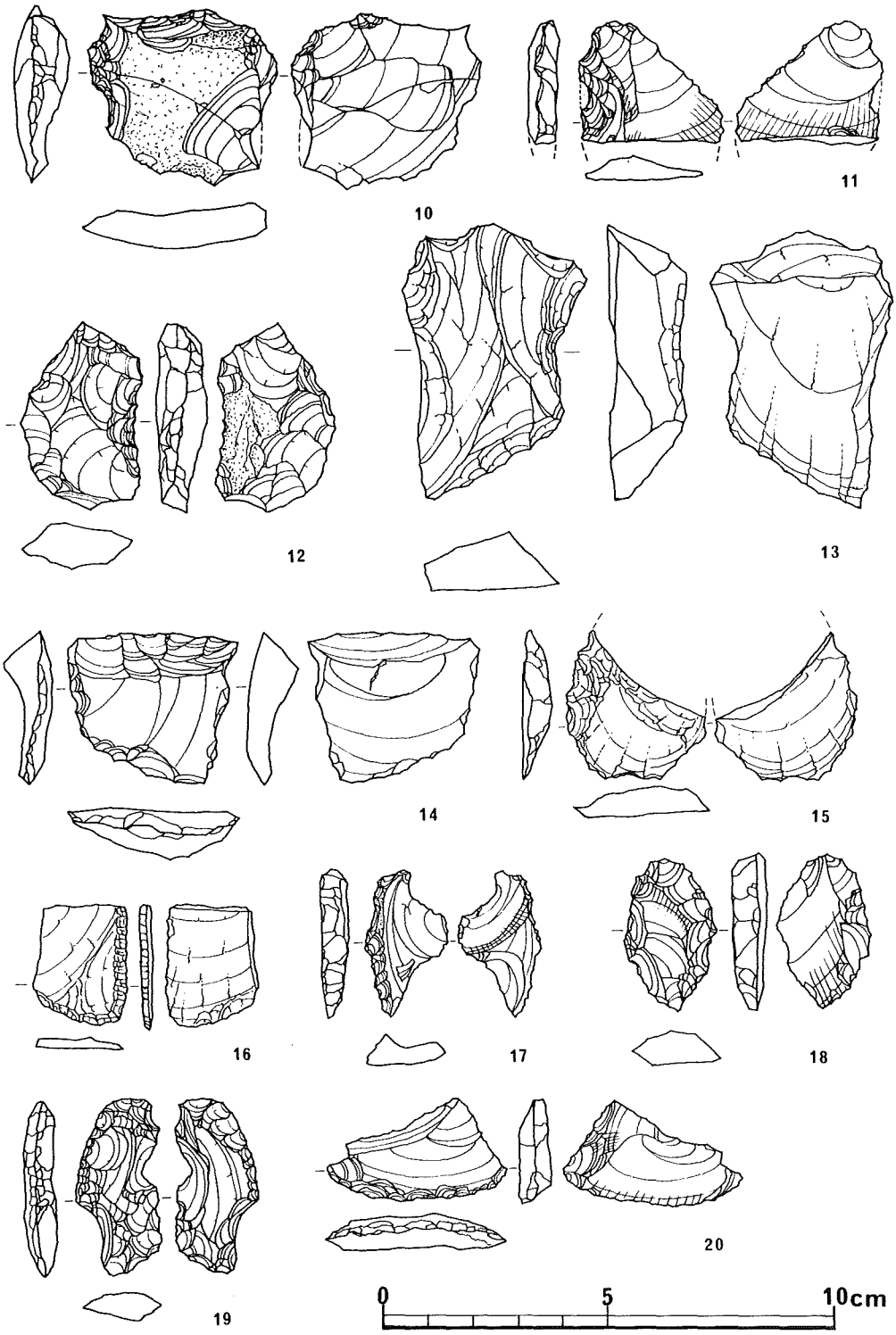


Fig. 82 縄文時代の石器—スクレイパー② (2/3)

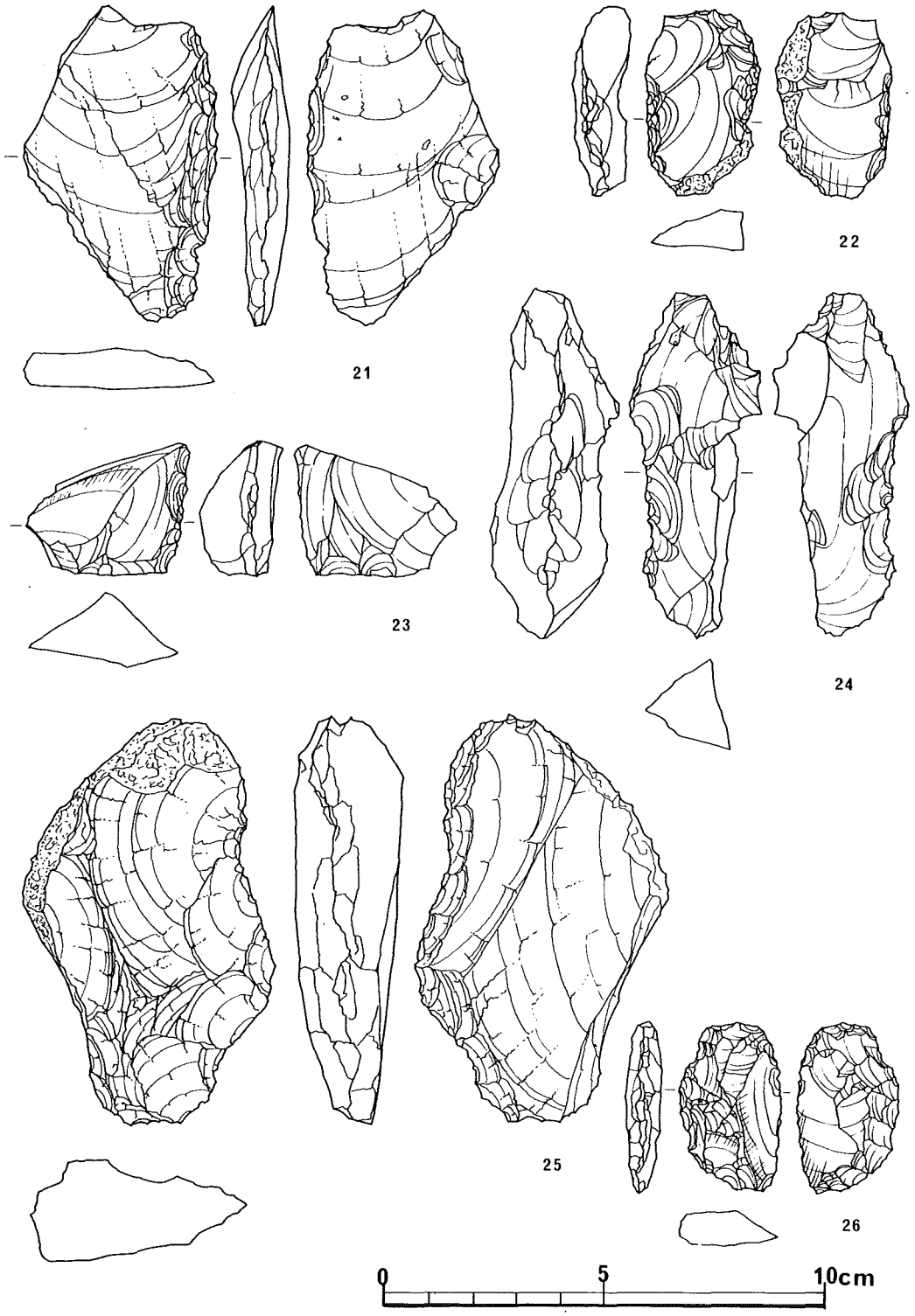


Fig. 83 縄文時代の石器—スクレイパー③ (2/3)

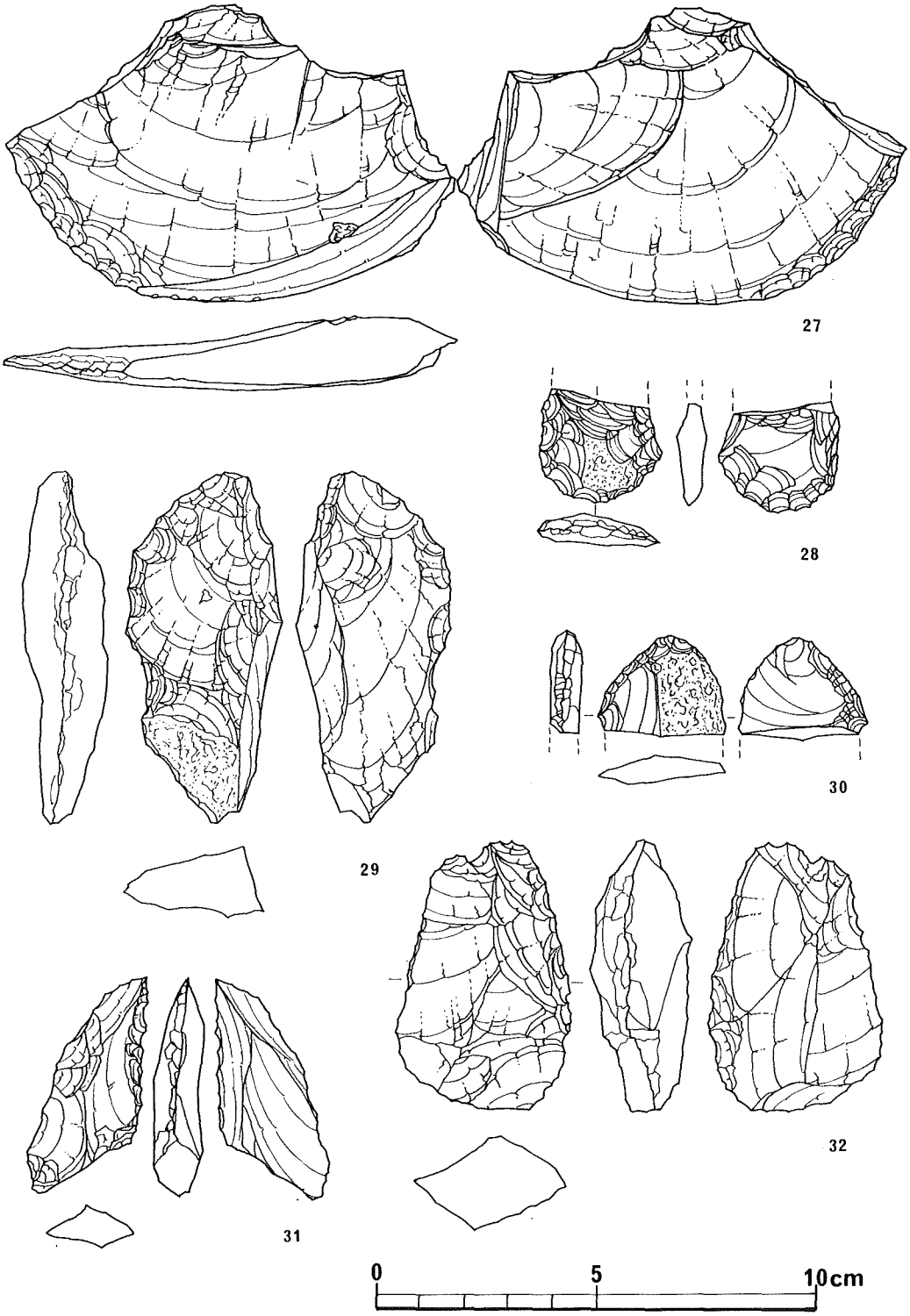


Fig. 84 縄文時代の石器—スクレイパー④ (2/3)

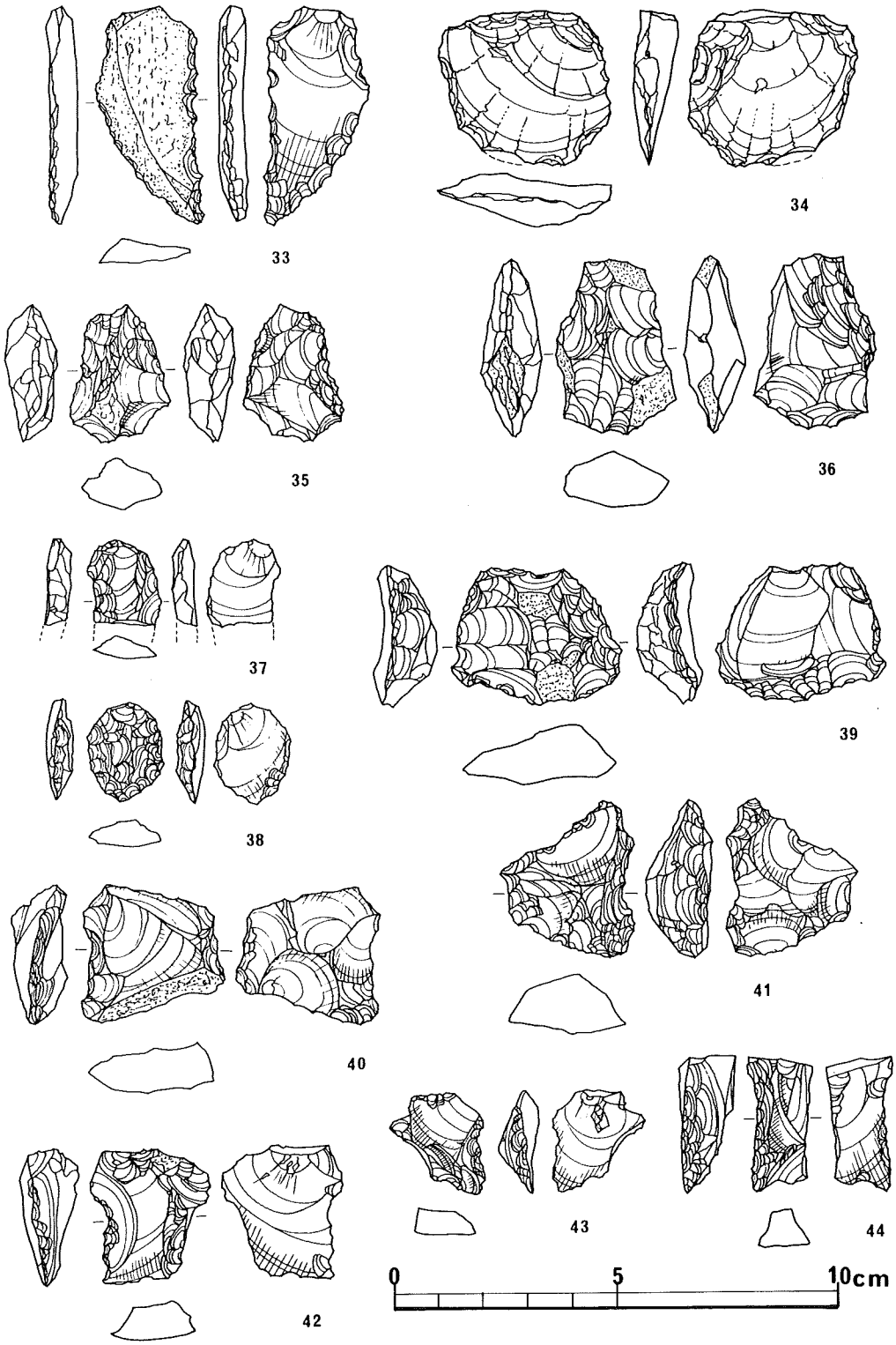


Fig. 85 縄文時代の石器—スクレイパー⑤ (2/3)

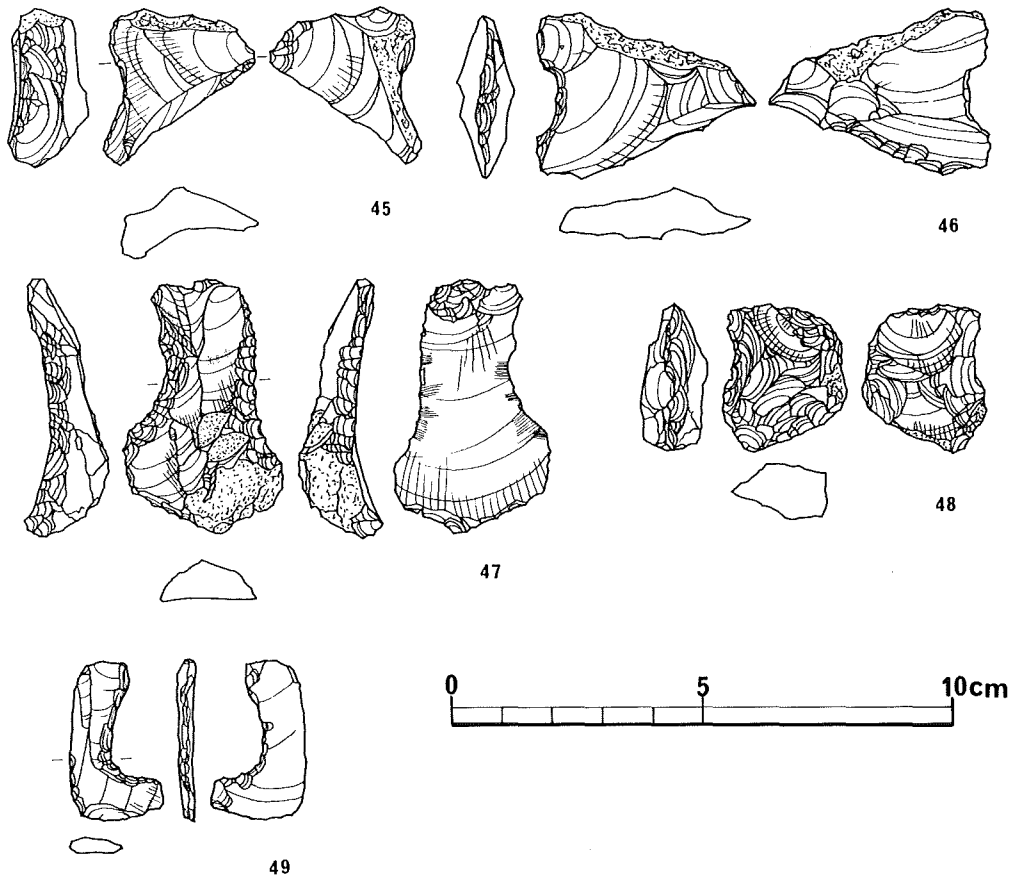


Fig. 86 縄文時代の石器—スクレイパー⑥ (2/3)

刃部加工は粗雑で表面のみに施されている。14は黒曜石B製で，パテナが著しい粗雑な刃部加工を有している。15は安山岩製で，上部を欠損する。粗雑な刃部加工である。16は非常に薄い安山岩のストレートな剝片を用いたもので，表面のみに逆L字状の丁寧な加工を施している。17は黒曜石B製で，部分的に若干パテナが認められる。刃部は断面が三角形状をなし，表面のみに加工がなされている。18は黒曜石A製で，部分的にパテナが認められる。刃部加工は一側縁表面のみに施されている。19は黒曜石B製で，パテナが著しい。刃部はゆるい孤状を成し表裏からの加工が認められる。20は黒曜石B製，若干パテナが認められる。横長の剝片を用いており，その一側縁をゆるい弧状に，表面のみ加工がなされている。21は安山岩製。刃部はほとんど表面からの加工であるが，裏面にも多少うかがえる。背部は自然面となる。22は黒曜石B製，パテナ

Tab. 12 スクレイパー計測表　　（ ）は現寸

挿図番号	出土区	出土層位	石材	重さ(g)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備考
1	E－2	ドーナツ状土壙	安山岩	29.1	8.0	3.4	1.2	全体的に粗雑
2	J－14	工房址	〃	28.9	6.9	4.0	1.0	一側縁に細かい刃部
3	G－5	赤褐色粘質土	黒曜石B	8.0	3.0	2.9	0.8	パテナ有り
4	G－13	落ち込み	〃 B	14.4	3.3	3.5	1.5	若干パテナ有り
5	F－9	黄褐色粘質土	〃 B	18.2	4.8	3.2	1.1	パテナが著しい
6	E－8	黄褐色粘質土	〃 A	4.7	4.0	2.2	0.8	刃部加工は丁寧
7	E－7	撹乱中	安山岩	7.8	5.9	2.3	0.5	一側縁の一部に刃部
8	K－6	4号土壙	黒曜石A	1.8	3.1	1.4	0.4	刃部加工は丁寧
9	I－6	4号遺構	〃 A	4.0	3.5	2.0	0.6	細かい刃部加工
10	S－15	赤褐色粘質土	〃 C	14.3	3.9	4.1	0.8	S－15，40と46の接合
11	D－11	黄褐色粘質土	〃 A	(4.5)	(2.7)	3.1	0.5	刃部の一部と下部を欠損
12	G－8	黄褐色粘質土	〃 B	9.8	4.2	2.5	1.0	部分的に著しいパテナ
13	K－17	落ち込み	安山岩	29.1	6.0	4.1	1.2	全体的に粗雑
14	H－10	落ち込み	黒曜石B	10.4	3.4	3.7	1.0	パテナが著しい
15	F－5	赤褐色粘質土	安山岩	(4.6)	(3.3)	3.0	0.6	上部を欠損
16	I－9	落ち込み	〃	2.2	2.8	2.1	0.3	細かい刃部加工
17	Q－13	ドーナツ状土壙	黒曜石B	2.1	3.3	1.8	0.7	刃部加工は丁寧
18	K－11	撹乱中	〃 C	5.1	3.5	2.0	0.7	粗雑な刃部
19	F－9	黄褐色粘質土	〃 B	4.2	3.9	1.9	0.6	刃部加工は丁寧
20	E－3	赤褐色粘質土	〃 B	5.3	2.3	4.0	0.7	細かい刃部加工
21	O－10	赤褐色粘質土	安山岩	35.0	8.0	4.3	0.9	一側縁に刃部
22	E－4	赤褐色粘質土	黒曜石B	14.2	4.3	2.6	0.9	背部は自然面
23	H－11	黄褐色粘質土	〃 B	13.7	3.0	3.8	1.7	パテナが著しい
24	G－6	赤褐色粘質土	〃 B	36.5	7.9	3.0	1.9	全体的に粗雑
25	G－13	ドーナツ状土壙	安山岩	138.0	9.2	58	2.3	背部の一部自然面
26	J－11	撹乱中	黒曜石A	7.8	3.9	2.3	0.8	一側縁に刃部
27	H－12	ドーナツ状土壙	安山岩	86.0	6.7	10.2	1.0	刃部加工は丁寧
28	T－15	赤褐色粘質土	〃	41.6	8.0	3.5	1.7	粗雑な刃部
29	I－6	4号遺構	黒曜石B	(4.3)	(2.3)	2.8	0.7	上部欠損
30	F－2	赤褐色粘質土	〃 B	(4.6)	(2.3)	2.9	0.6	下部欠損，パテナ有り
31	I－6	4号遺構	〃 B	10.2	5.0	2.5	0.8	パテナが著しい
32	G－13	ドーナツ状土壙	安山岩	43.6	6.1	3.9	1.9	全体的に粗雑
33	N－11	落ち込み	黒曜石C	6.1	4.9	2.5	0.5	表面は自然面
34	F－8	黄褐色粘質土	安山岩	12.9	3.5	3.8	1.0	全体的に粗雑
35	N－11	赤褐色粘質土	黒曜石B	6.2	3.1	2.2	1.1	若干，パテナ有り
36	G－15	ドーナツ状土壙	〃 A	10.4	4.0	2.7	1.2	部分的に自然面有り
37	R－15	赤褐色粘質土	〃 B	(1.7)	(2.0)	1.6	0.5	下部欠損
38	E－9	黄褐色粘質土	〃 B	1.9	2.3	1.7	0.6	側縁全体に刃部
39	C－9	黄褐色粘質土	〃 B	13.8	3.0	3.8	1.2	パテナが著しい

挿図番号	出土区	出土層位	石材	重さ(g)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備考
40	I－6	4号遺構	黒曜石B	10.7	3.1	3.1	1.0	抉入状の刃部
41	Q－17	赤褐色粘質土	〃 A	10.7	3.5	2.9	1.3	比較的肉厚
42	C－10	赤褐色粘質土	〃 A	0.3	3.0	2.7	0.8	全体的に粗雑
43	I－11	赤褐色粘質土	〃 A	2.8	2.3	2.1	0.6	抉入状になる若干の刃部
44	E－10	黄褐色粘質土	〃 A	5.5	3.0	1.5	0.8	断面が台形状をなす
45	G－8	黄褐色粘質土	〃 A	8.6	3.2	2.9	1.0	若干パテナ有り
46	H－6	赤褐色粘質土	〃 B	10.5	3.3	4.0	0.8	上部背部は自然面
47	H－16	赤褐色粘質土	〃 A	18.5	5.1	3.1	1.1	両側縁に刃部を持つ
48	J－7	赤褐色粘質土	〃 A	10.1	3.0	2.5	1.3	全体的に粗雑
49	G－13	落ち込み	〃 A	1.4	3.2	1.8	0.3	抉入状の刃部
50	D－6	赤褐色粘質土	〃 B	(4.3)	(3.3)	2.1	0.7	上部欠損
51	E－3	赤褐色粘質土	〃 B	13.3	3.6	2.7	1.3	粗雑な刃部
52	E－6	赤褐色粘質土	〃 C	(7.4)	(4.1)	2.2	1.3	一部欠損
53	F－2	赤褐色粘質土	〃 A	4.0	2.7	2.2	0.8	全体的に粗雑
54	F－2	黄褐色粘質土	〃 B	7.1	4.6	2.2	0.9	表面は自然面を多く残す
55	F－5	赤褐色粘質土	〃 A	2.5	2.2	2.3	0.6	細かい刃部
56	F－7	赤褐色粘質土	〃 B	6.0	3.9	1.3	1.0	一側縁全体に刃部
57	F－9	黄褐色粘質土	〃 B	6.1	2.8	3.2	0.8	パテナ有り
58	G－11	赤褐色粘質土	安山岩	(5.2)	(2.9)	3.4	0.5	一部欠損
59	G－13	赤褐色粘質土	〃	7.7	3.3	3.1	0.8	背部は自然面である
60	H－10	落ち込み	黒曜石B	(6.3)	(3.1)	2.3	0.9	一部欠損
61	H－11	赤褐色粘質土	〃 B	7.3	2.5	3.7	1.0	パテナ有り
62	J－16	ドーナツ状土壙	〃 C	1.5	2.8	1.4	0.6	細かい刃部加工
63	L－12	赤褐色粘質土	〃 B	11.2	3.6	3.0	1.2	パテナが著しい
64	N－15	赤褐色粘質土	安山岩	1.8	2.5	1.3	0.6	一側縁に刃部
65	Q－13	ドーナツ状土壙	黒曜石C	2.6	2.3	2.5	0.5	全体的に粗雑

が著しい。刃部加工は表裏よりなされている。背部はすべて自然面となる。23は黒曜石B製で，流文状のパテナが認められる。断面が三角形状をなす。やや肉厚の剝片の一側縁の表面に刃部加工を施している。24は黒曜石B製，部分的にパテナが著しい。断面が三角形状をなす。不定形の剝片を用いたもので，表裏よりやや粗雑な刃部加工をもつ。25は安山岩製で，138 g と最も重いものである。刃部加工は一側縁全体に表裏より行なわれている。背部はすべて自然面となる。26は黒曜石A製で，一側縁全体に表裏からの刃部加工がみられる。刃部の成す角度は最も鈍いものとなっている。27は大型の安山岩の剝片を用いたものである。やや幅広の剝片の一側縁の一部に表裏より丁寧な刃部加工がなされている。手に持って使用するのにほどよい感じである。28は黒曜石B製で，上部を欠

損する。部分的にパテナが著しい。表裏よりU字型に刃部加工を施している。29は安山岩製。一側縁表裏に刃部加工を施している。30は黒曜石B製。下部を欠損する。若干パテナが認められる。剝石の打面部より一側縁の表裏に刃部加工を有するものであると考えられる。31は黒曜石B製で，部分的にパテナが著しい。一側縁の表面のみを刃部加工を施している。32は安山岩製の肉厚の剝片を用いるもので粗雑な刃部加工が一側縁表裏になされている。33は黒曜石C製。表面はほとんど自然面が占める。刃部加工は二側縁に認められる。34は安山岩製の幅広の剝片を用いたもので，多少パテナが認められる。刃部の一部を若干欠損するが，ほぼ全体として弧状の刃部を呈する。35は黒曜石B製でやや肉厚の剝片を用いている。二側縁にそれぞれ表裏よりの粗雑な刃部加工が認められる。36も先の35と同じく二側縁にそれぞれ表裏に粗雑な刃部加工をもつ。黒曜石A製。37は黒曜石B製。下端を欠損する。わりと細身の縦長剝片の二側縁にそれぞれ表面からのみ刃部加工をもつものと考えられる。38・39は一応刃部の形成上，ラウンドスクレイパーとして扱ったものである。38は黒曜石B製。長さ2cm弱と小型ではあるが，ほぼ全周に及んで刃部加工が認められる。39は黒曜石B製で，パテナが著しい。上部裏面はさほどでもないが，ほぼ全体的に及んで刃部加工が認められる。40・41・42・43・44・45・46・47・48・49は刃部が孤状に入りこんでいて，しかも比較的鈍角な刃部角を有するもので，いわゆる抉入状石器と呼ばれるものであるが，本遺跡ではスクレイパーの範疇で扱った。40は黒曜石B製。パテナが認められる。刃部は比較的薄く，粗雑である。41・42・43・44・45は黒曜石A製である。41は抉入状を成す刃部。42は裏面は主要剝離面のままである。刃部加工は細かい。43は比較的小型で，刃部はやや凹凸がみられる。44は断面が台形状を呈するもので，刃部はやや厚くなる。45はパテナが著しい。刃部はゆるい抉入状を成し厚い。46は黒曜石B製で，パテナが認められる。刃部はわりと狭い範囲で抉入状に細かい加工を施している。47は黒曜石A製。長さ5cm前後の縦長剝片を用いており，長側縁の2縁にゆるい抉入状の刃部をもつ。刃部加工は，それぞれ表面のみに細かく丁寧に施されている。裏面には，削痕も若干ではあるが認めることができる。48は黒曜石A製。ゆるい抉入状の刃部を有す。背部は自然面が占める。49は黒曜石A製のしかもストレートな剝片を用いている。L字状の抉入した刃部を表裏より施している。

なお，50以降は計測表のみで図及び本文は省略した。

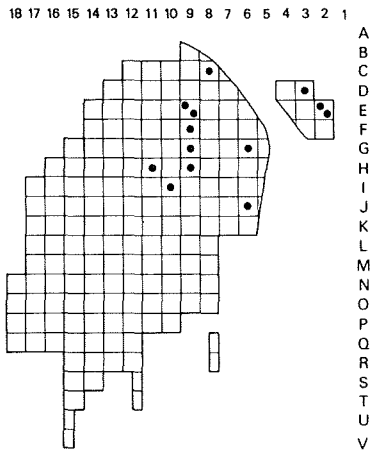


Fig. 87 各地区出土加工痕ある石器

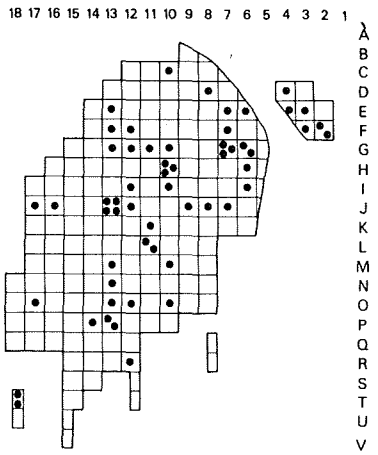


Fig. 88 各地区出土使用痕ある剝片

加工痕ある石器 (Fig. 89) 〔PL. 36〕

1は黒曜石B製でパテナが著しい。一側縁に刃部状の粗雑な加工を施す。2は安山岩製でパテナが部分的に著しい。全体に粗雑な加工を施す。3は黒曜石A製。4は黒曜石B製，一側縁に刃部状の加工を施す。5・6・7は安山岩製，3点とも全体的に粗雑な加工を施す。特に7はパテナが著しく認められる。8は黒曜石B製，やや厚い剝片を用いたものである。9は黒曜石A製，厚い剝片よりなる。全体的に粗雑な加工ではあるが，部分的には刃部状の加工も施しているようである。10は黒曜石B製の横長の剝片を用いている。11・12は黒曜石A製，2点とも薄い剝片よりなり，側縁に刃部状の加工を若干有する。13は黒曜石B製。一側縁の一部に刃部状の加工を施す。

使用痕ある剝片 (Fig. 90～92) 〔PL. 36～37〕

57点の出土である。内26点（14～39）を図化した。黒曜石製19点，安山岩製7点である。縦長の剝片が多くを占めるが，中には横長のものもみられるようである。そこで，側縁に認められる使用痕，つまり刃こぼれに注目し次の3タイプに分類してみた。先ず，一側縁の表面あるいは裏面のどちらかに使用痕が形成されているもの(14～32)。次に，一側縁の表裏の両面に形成されているもの(33)。そして，二側縁（両側縁）に形成されているもの（34～39）である。

14は黒曜石A製。15は安山岩製で若干パテナが認められる。比較的薄い剝片で，刃部はかなり鋭い角度を有する。16・17・18はすべて黒曜石B製のものである。3点とも，やや内湾する側縁にまばらで細い刃こぼれが認められる。特に17はパテナが著しい。19は安山岩製の横長の剝

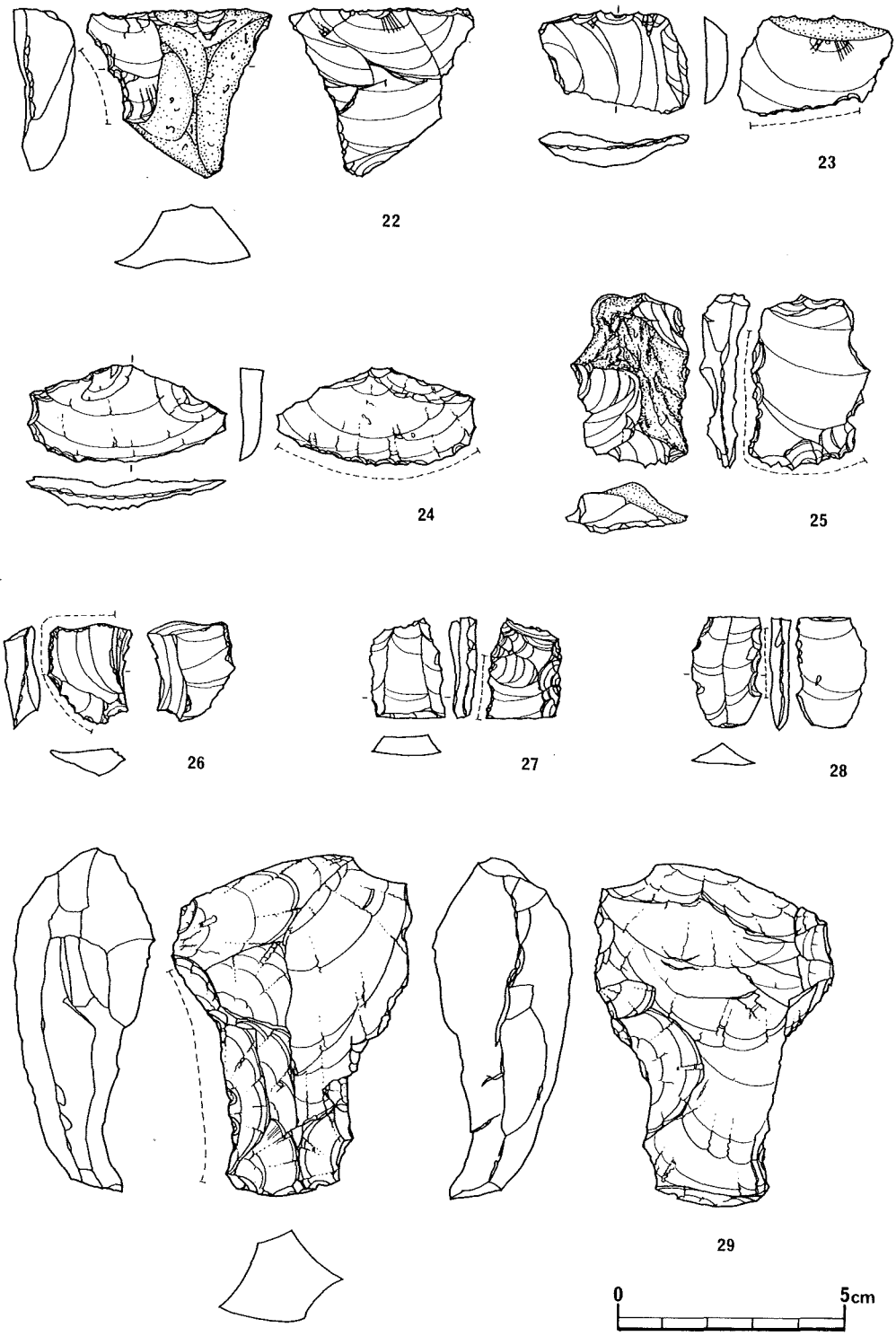


Fig. 91 縄文時代の石器—使用痕ある剥片② (2/3)

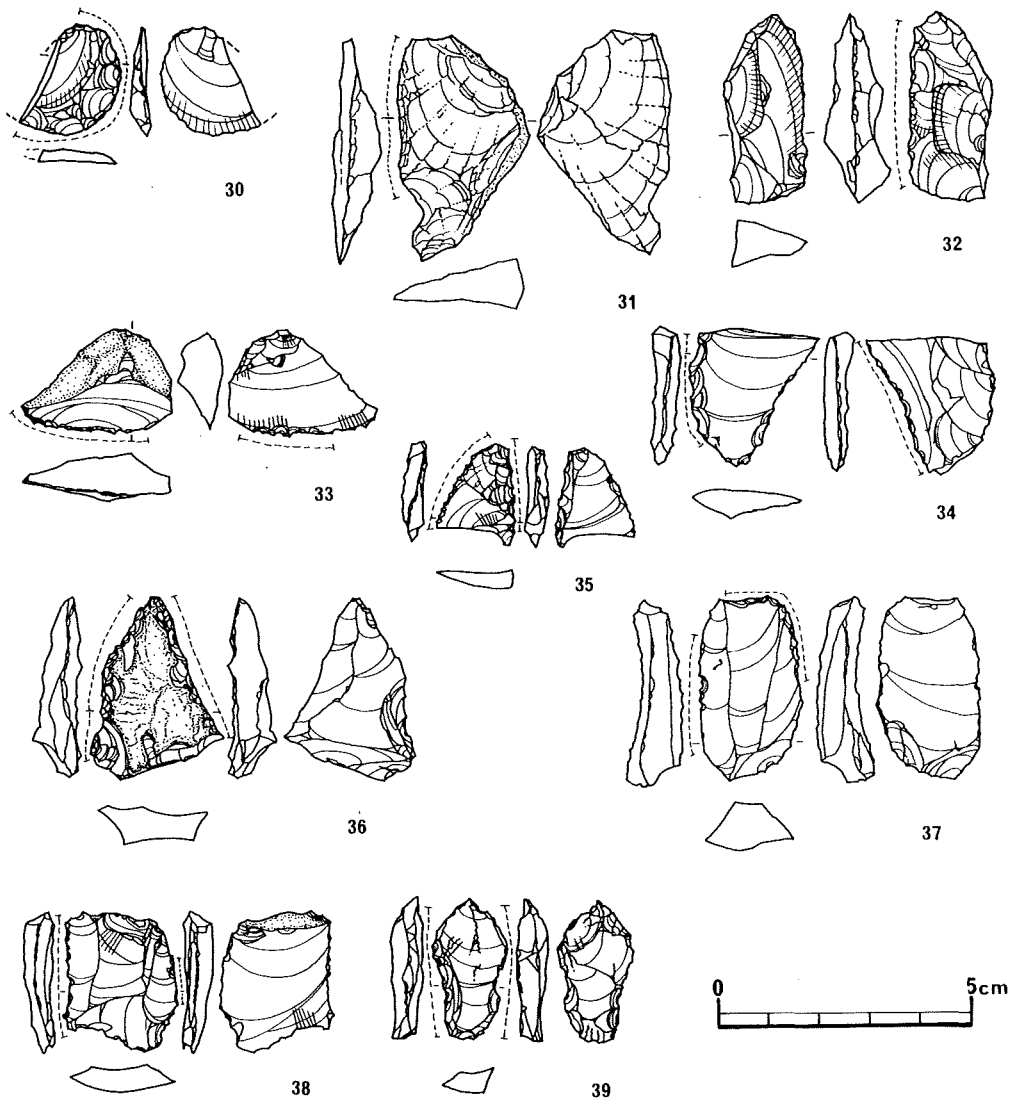


Fig. 92 縄文時代の石器—使用痕ある剝片③ (2/3)

片である。20は黒曜石A製。表面はそのほとんどが自然面である。大きな刃こぼれが2ケ所程みられる。21は黒曜石B製。細かい刃こぼれが幅広く認められる。背部はほとんどが自然面である。22は黒曜石B製，多少パテナが認められる。刃部は鋭角を成し，背部は自然面となる。23は黒曜石C製。自然面の打面より剝離された横長剝片で，下端に刃こぼれが認められる。24は安山岩製の横長剝片である。下端に幅広く刃こぼれが認められる。25は黒曜石B製で部分的にパテナが著しい。裏面にL字状に形成されている。26・27は黒曜石A製，特に27はパテナが著しい。28

34は黒曜石Ｂ製で，表裏それぞれの面の二側縁に刃こぼれが認められる。35・36は黒曜石Ａ製で２点とも表面の二側縁に形成されている。37は黒曜石Ｂ製でパテナが著しい。平坦打面より剝離された縦長剝片で表面の二側縁に形成されている。38は黒曜石Ａ製。自然打面より剝離されたやや幅広の剝片である。39は黒曜石Ｂ製でパテナが部分的に著しく認められる。

石槍
（Fig. 93）
〔PL. 37〕

３点の出土である。１は長さ4.0cm，幅（最大幅）3.5cmを測る安山岩製のものである。全体的にパテナが認められる。２は黒曜石Ａ製で長さ4.8cm，幅3.6cmを測る。特に側縁部の加工が丁寧である。1・2とも石材こそ異なるが全体観は酷似している。３は安山岩製で先端と下端を欠損する。推定の長さはおよそ８.0cm前後のものと考えられる。二次加工そのものは比較的丁寧である。

Tab. 14 石槍計測表　　（ ）は現寸

挿図	出土区	出土層位	石材	重さ(g)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備考
1	K－12	工房址	安山岩	14.4	4.0	3.5	1.0	ややパテナが認められる
2	F－2	赤褐色粘質土	黒曜石A	15.4	4.8	3.6	1.1	側縁に丁寧な加工
3	G－5	赤褐色粘質土	安山岩	10.1	(5.6)	1.7	1.0	先端と下端を欠損

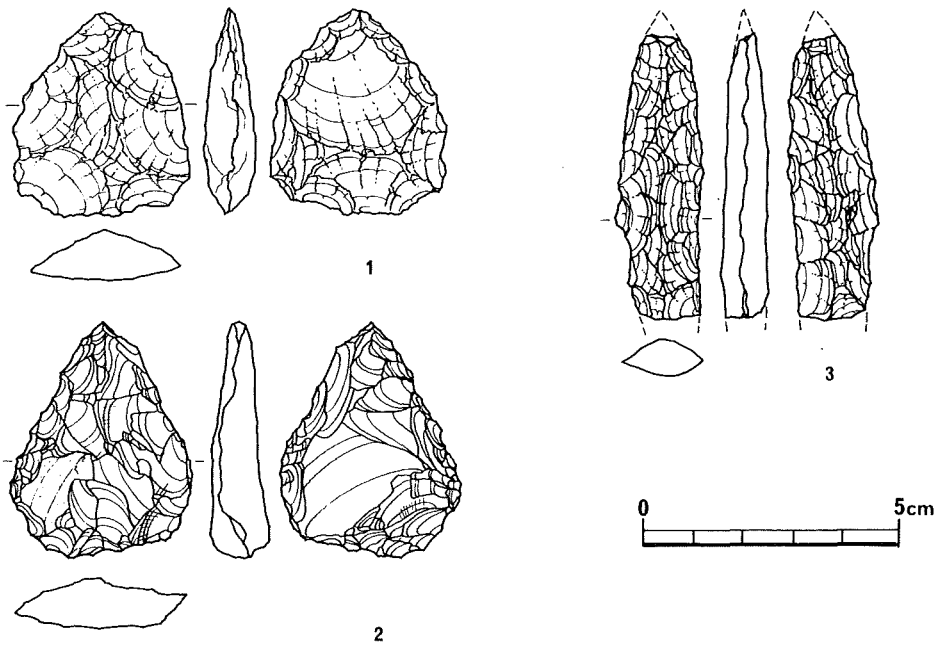


Fig. 93 縄文時代の石器―石槍（2/3）

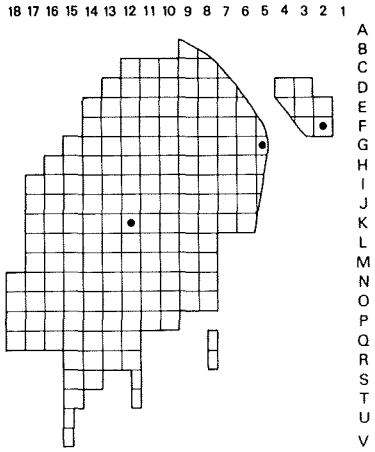


Fig. 94 各地区出土石槍

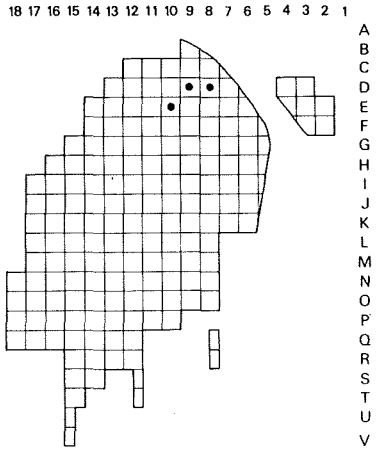


Fig. 95 各地区出土彫器

彫器
(Fig. 96)
〔PL. 37 〕

3点の出土である。1は安山岩製のものでややパテナが認められる。厚い剝片を用いており，先端を交錯するようにして両刃を形成している。2も1と同じように両刃を成すものである。平面形が菱形状をなし反対側も樋状剝離をもち刃部として使用された可能性も考えられる。3は剝片の状況を大きく残すもので表面全体は自然面が大半を占める。剝片先端(打面部)に一条の樋状剝離を有し刃部を形成させている。ややローリングを受けた痕跡が認められる。2・3は黒曜石C製。

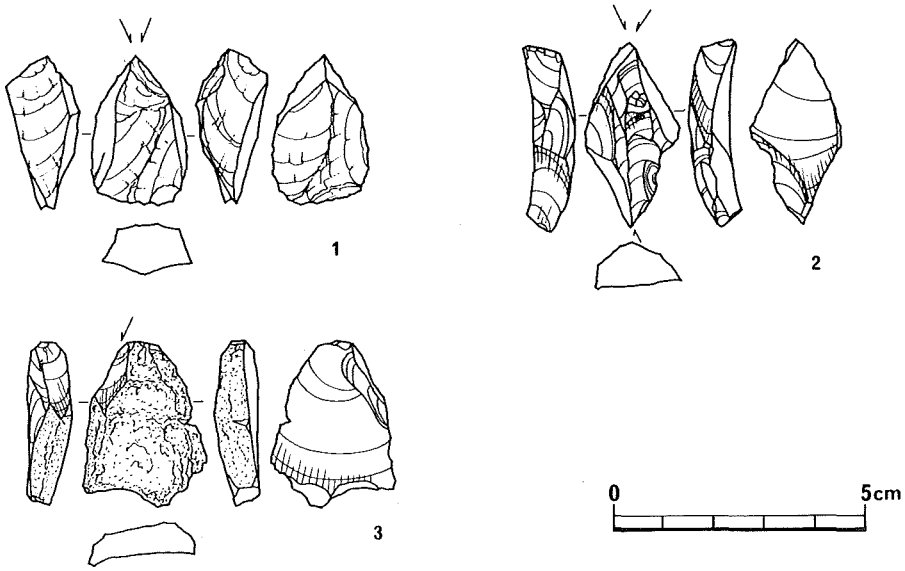


Fig. 96 縄文時代の石器—彫器 (2/3)

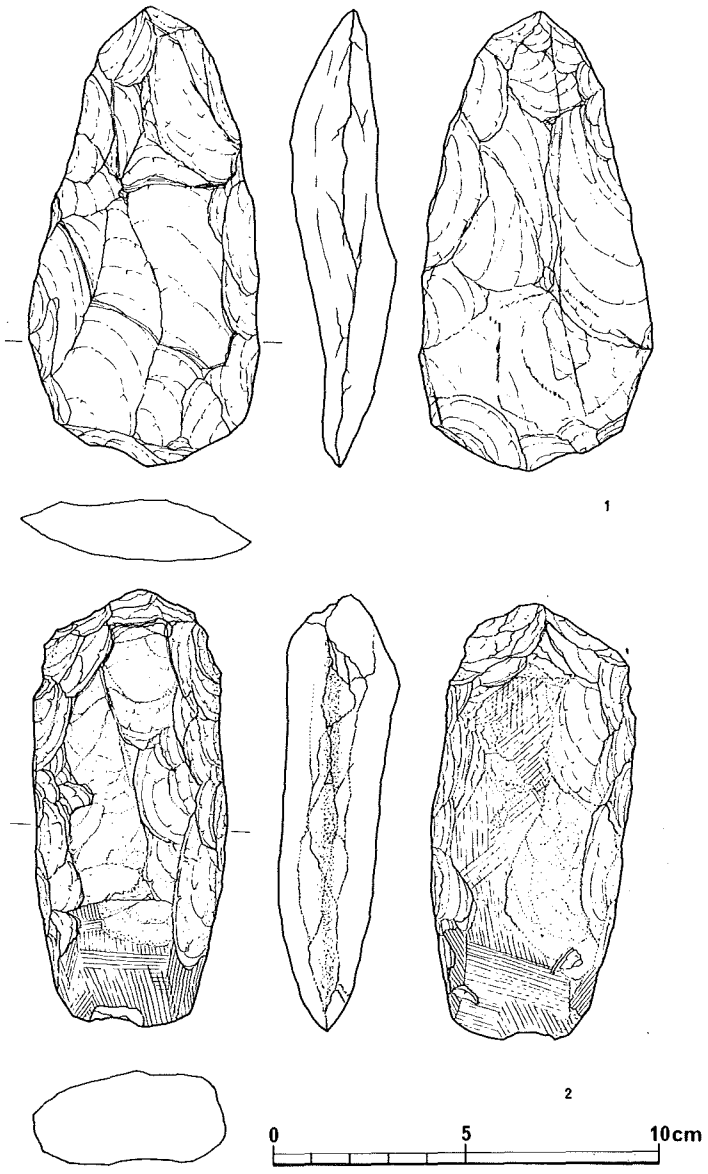


Fig.100 縄文時代の石器—石斧 (2/3)

Tab. 17　石斧計測表　　( ) は現寸

挿図番号	出土区	出土層位	石材	重さ(g)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備考
1	I－6	4号竪穴	安山岩	180.0	12.0	6.0	2.0	パテナが極めて著しい
2	J－14	工房址	〃	230.0	(11.3)	5.0	2.5	刃部を中心に研磨する

などは明確でないが，おおよそ長さ12～13cmを測ると推定される。研磨は刃部附近を中心に多方向より施こしている。

磨石
(Fig. 103)
〔PL.38〕

1～5は磨石である。2・5は非常に丁寧な研磨状況である。1・2は落ち込み内，3はドーナツ状土壙内，4は第4号竪穴状遺構内よりそれぞれ出土する。

敲石
(Fig.103～105)
〔PL.39〕

6～27は敲石である。すべて磨石を兼用しているものと考えられる。8・11・15・17・25は打面部を欠損する。6・8・15・17・21・23・26は握るのに程よい大きさである。14・16・19・20は小型である。また13・16・18は本来より割れたものを用いたと考えられるものでいわゆるスタンプ形を呈している。7・14は土壙内，8・12はドーナツ状土壙内，13・16・18は炉穴内，20・22は第4号竪穴状遺構内，23は第3号竪穴状遺構内よりそれぞれ出土する。

凹石
(Fig. 105)
〔PL. 39〕

28・29は凹石である。28は表面に数ケ所の凹面が認められる。29は扁平な砂岩製で表面中央に1ケ所浅い凹面がある。落ち込みより出土。

砥石
(Fig. 105)
〔PL. 37～39〕

30～36は砥石である。31のみ本来からの円礫を用いているもので残る6点は板状の砂岩を用いている。特に35は現存部のみで計測しても，長さ41cm，幅19cm，厚さ4.2cm，重量5,550gを計る大きなものである。周縁の一部に風化による剝落がやや認められる。磨製の状況は細かく丁寧である。36はほぼ完形と考えられるもので，長さ28cm，幅30.4cm，厚さ8.3cm重量11,500gを計るものがある。表面には石材からくるやや荒い磨製面ととも

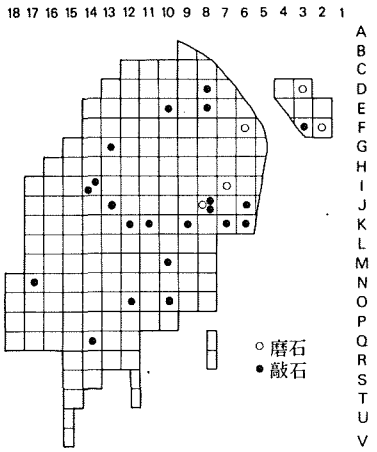


Fig.101 各地区出土磨石・敲石

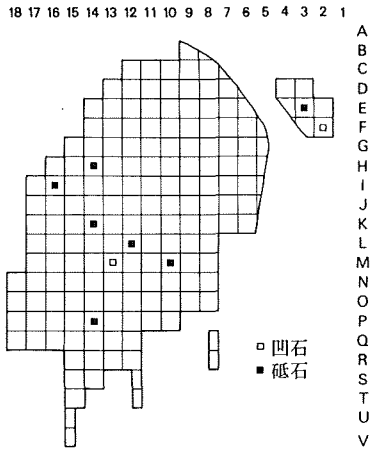


Fig.102 各地区出土凹石・砥石

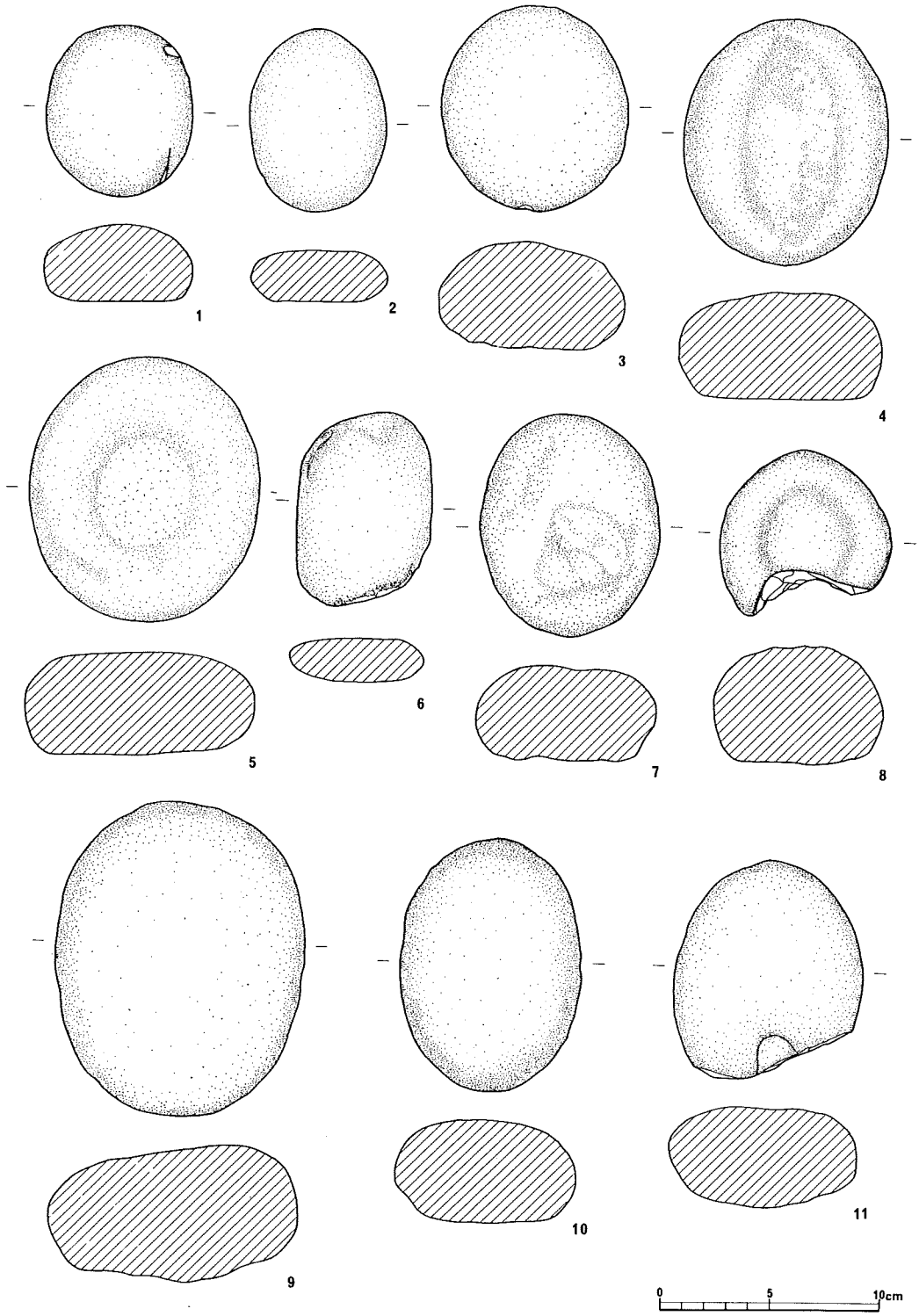


Fig.103 縄文時代の石器—磨石・敲石① (1/3)

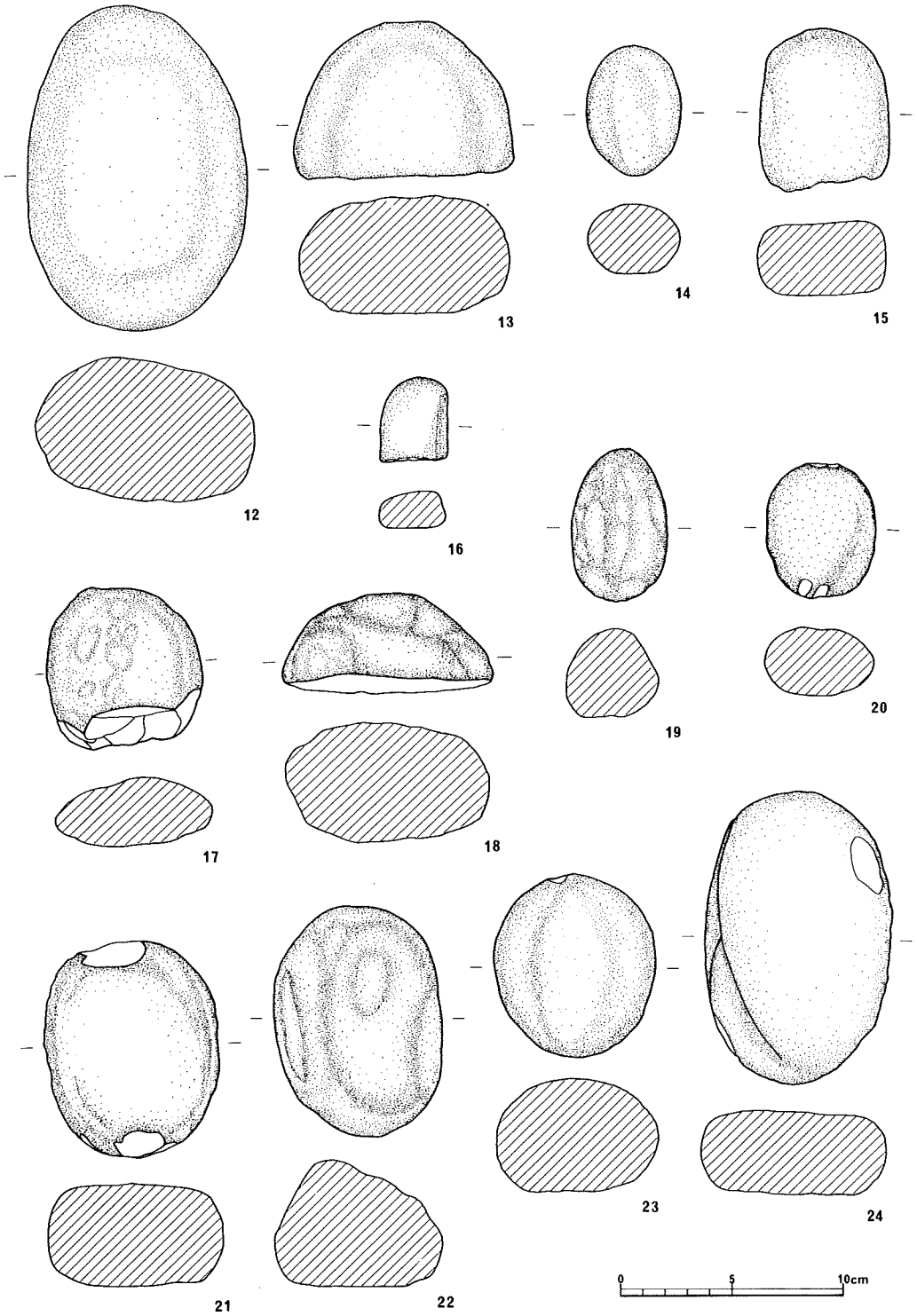


Fig.104 縄文時代の石器—敲石② (1/3)

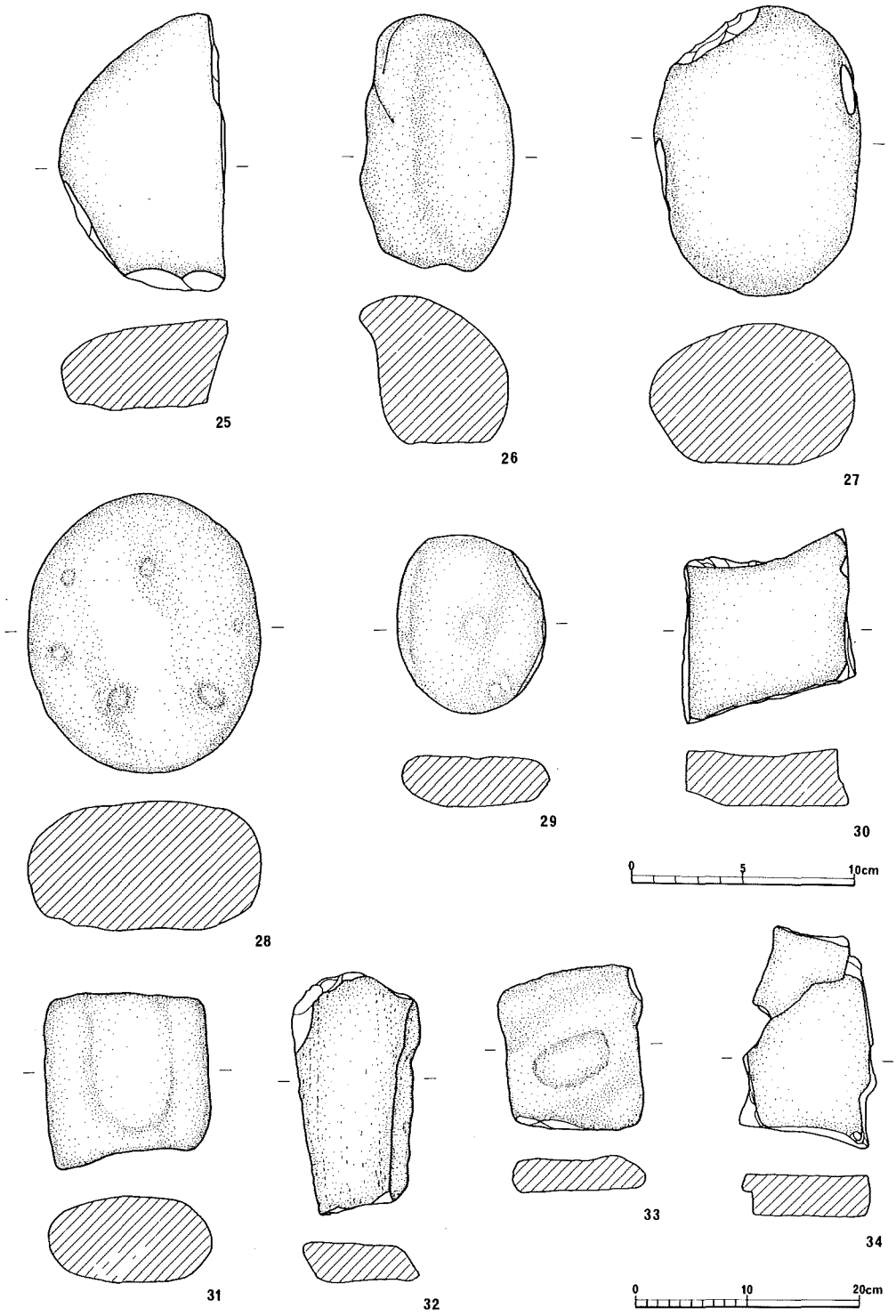


Fig.105 縄文時代の石器—敲石・凹石・砥石③ (1/3)

Tab. 18　磨石・敲石・凹石・砥石計測表

挿図番号	出土区	出土層位	器種	石材	重さ(g)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備考
1	D－3	落ち込み	磨石	硬質砂岩	250	7.8	7.1	3.5	ほぼ円形状
2	F－6	落ち込み	〃	〃	180	8.3	6.1	2.3	やや扁平
3	J－8	ドーナツ状土壙	〃	〃	500	9.3	8.4	4.8	ほぼ円形状
4	I－7	第4号竪穴状遺構	〃	〃	790	11.2	9.2	4.8	丁寧な研磨
5	F－2	赤褐色粘質土	〃	〃	850	12.0	10.4	4.7	ほぼ円形状
6	K－9	黄褐色粘質土	敲石	〃	140	8.9	6.1	2.0	火を受けた痕跡を持つ
7	J－13	黄褐色粘質土	〃	〃	500	10.1	8.2	4.3	楕円形状
8	F－3	ドーナツ状土壙	〃	砂岩	(380)	(7.7)	7.7	5.3	一部欠損
9	K－11	赤褐色粘質土	〃	〃	1,350	14.3	13.3	6.3	かなり大型
10	N－17	赤褐色粘質土	〃	硬質砂岩	620	11.4	8.2	4.7	長楕円形状
11	－	表採	〃	〃	(510)	(9.9)	8.6	4.6	一部欠損
12	O－10	ドーナツ状土壙	〃	砂岩	1,360	14.5	9.8	6.6	やや大型
13	J－8	炉穴	〃	〃	(500)	(7.1)	9.9	5.3	割礫を用いる
14	J－6	土壙	〃	硬質砂岩	100	5.9	4.2	3.1	小型の円礫
15	K－12	赤褐色粘質土	〃	砂岩	(200)	(7.3)	5.7	3.4	一部欠損
16	O－12	炉穴	〃	硬質砂岩	(20)	(3.9)	3.5	1.7	割礫を用いる
17	Q－14	撹乱中	〃	砂岩	(160)	(7.0)	7.3	2.9	一部欠損
18	J－8	15号炉穴	〃	〃	(280)	(4.5)	9.5	5.3	割礫を用いる
19	I－14	赤褐色粘質土	〃	硬質砂岩	120	6.8	4.1	4.0	風化が進む
20	K－6	第4号竪穴状遺構	〃	砂岩	110	6.0	4.9	3.1	小型の円礫
21	G－13	赤褐色粘質土	〃	〃	580	9.8	7.8	4.6	上下に剝落
22	K－7	第4号竪穴状遺構	〃	〃	540	10.3	7.5	5.6	風化が進む
23	D－8	土壙	〃	硬質砂岩	400	8.2	7.2	5.1	ほぼ円形状
24	E－10	黄褐色粘質土	〃	砂岩	630	13.1	8.2	3.7	やや扁平
25	I－14	赤褐色粘質土	〃	硬質砂岩	(440)	(12.3)	(7.4)	3.9	一部欠損
26	M－10	赤褐色粘質土	〃	〃	(620)	(11.5)	(6.9)	6.6	大きく欠損
27	E－8	黄褐色粘質土	〃	〃	1,300	12.9	9.2	6.3	一部剝落がある
28	F－2	黄褐色粘質土	凹石	〃	1,060	12.5	10.4	5.8	表面に凹が認められる
29	M－13	落ち込み	〃	砂岩	150	8.0	6.6	2.3	やや扁平
30	M－10	赤褐色粘質土	砥石	硬質砂岩	(220)	(8.7)	(7.7)	2.6	大きく欠損
31	L－12	赤褐色粘質土	〃	砂岩	(430)	(7.9)	7.2	3.9	一部欠損
32	K－14	撹乱中	〃	〃	(1,350)	(21.7)	(11.4)	3.6	大きく欠損
33	P－14	落ち込み	〃	硬質砂岩	(950)	(14.7)	12.8	3.0	一部欠損
34	E－3	赤褐色粘質土	〃	〃	(1,200)	(19.6)	(11.9)	3.6	風化が著しい
35	H－14	ドーナツ状土壙	〃	〃	(5,550)	(4.7)	(19.0)	4.2	かなり大型のもの
36	I－16	落ち込み	〃	〃	11,500	2.8	30.4	8.3	台石的要素を兼ねる

に多くの凹面が認められる。凹石と言うよりむしろ台石としての使用が考えられる。33・36は落ち込み内，35はドーナツ状土壙内より出土。

剝片
（Fig.106～108）
〔PL.40 〕

21点を選んで図化し記載した。21点の内，打面部の形状によって，自然面のもの１～８，平担なもの９～14，調整されたもの15～21の３つに分類した。

１は黒曜石Ｂ製，打面部を含む表面はほとんど自然面が占める。大型の母岩より剝離されたものと考えられる。２は黒曜石Ａ製，上端に自然面が残っている。表面に横からの大きな剝離痕が認められる。３は黒曜石Ｃ製，断面が三角形状を成すやや厚手のもので，表面に上から下へ大きな剝離痕が認められる。４は黒曜石Ｂ製でパテナが著しい。表面はすべて自然面が占める。５は黒曜石Ｃ製で多少パテナが認められる。この剝片より推察すると，母岩そのものが極めて丸いものであることが考えられる。６は安山岩製の厚い剝片である。断面が三角形状を成し，打面部から側縁，下端にかけて自然面が残る。また，表面は逆に向く大きな剝離痕が認められる。７は黒曜石Ａ製。打面部は極めて薄くなり，側縁にかけて自然面が残る。表面は横長の剝離痕を大きく残している。８は黒曜石Ｂ製で特に表面のパテナが極めて著しい。打面部のみに平担な自然面を残す。

９は安山岩製の大型の剝片である。パテナが著しく，剝離痕の状況が明確ではない。打面部は小さく，鈍い剝離角である。10は黒曜石Ａ製，側縁に自然面を残す。２度程の剝離痕がうかがえる。11は安山岩製でパテナが認められる。鋭角な剝離角を有する。12は黒曜石Ｂ製。断面が扁平な三角形状を呈する縦長剝片である。13は安山岩製の横長剝片でパテナが著しい。剝離角は鈍い。14は黒曜石Ｃ製，表面にいくつか剝離痕がうかがえる。やや鋭角な剝離角である。

15は黒曜石Ｂ製，やや幅広の剝片である。表面の半分程を自然面が占める。16は黒曜石Ｃ製，若干ではあるが調整痕が認められる。17～21の５点は黒曜石Ａ製。17は扁平な幅広のもので，表面にいくつか横からの剝離痕が認められる。18は表面に縦に走る陵線を２条有しており，従っていくつかの縦長剝片の剝離痕を有する。19は同グリッド内出土のものの接合資料である。小さく粗雑な剝離痕が認められる。20は微細な調整痕がうかがえる。21はややパテナが認められる。いくつかの剝離痕が多方向よりうかがえる。全体的にみて，比較的小型の剝片が多いように思われる。

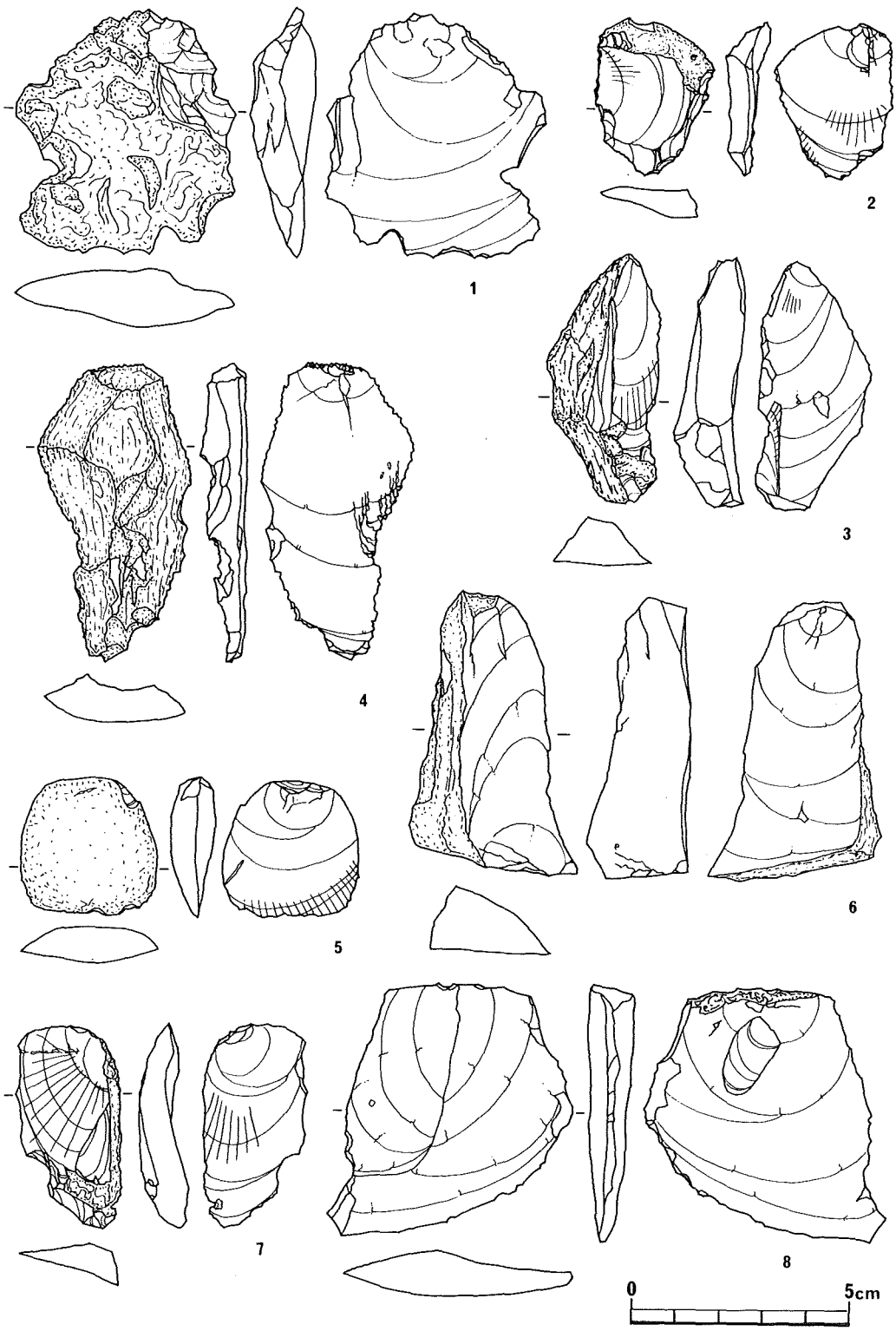


Fig.106 縄文時代の石器—剝片① (2/3)

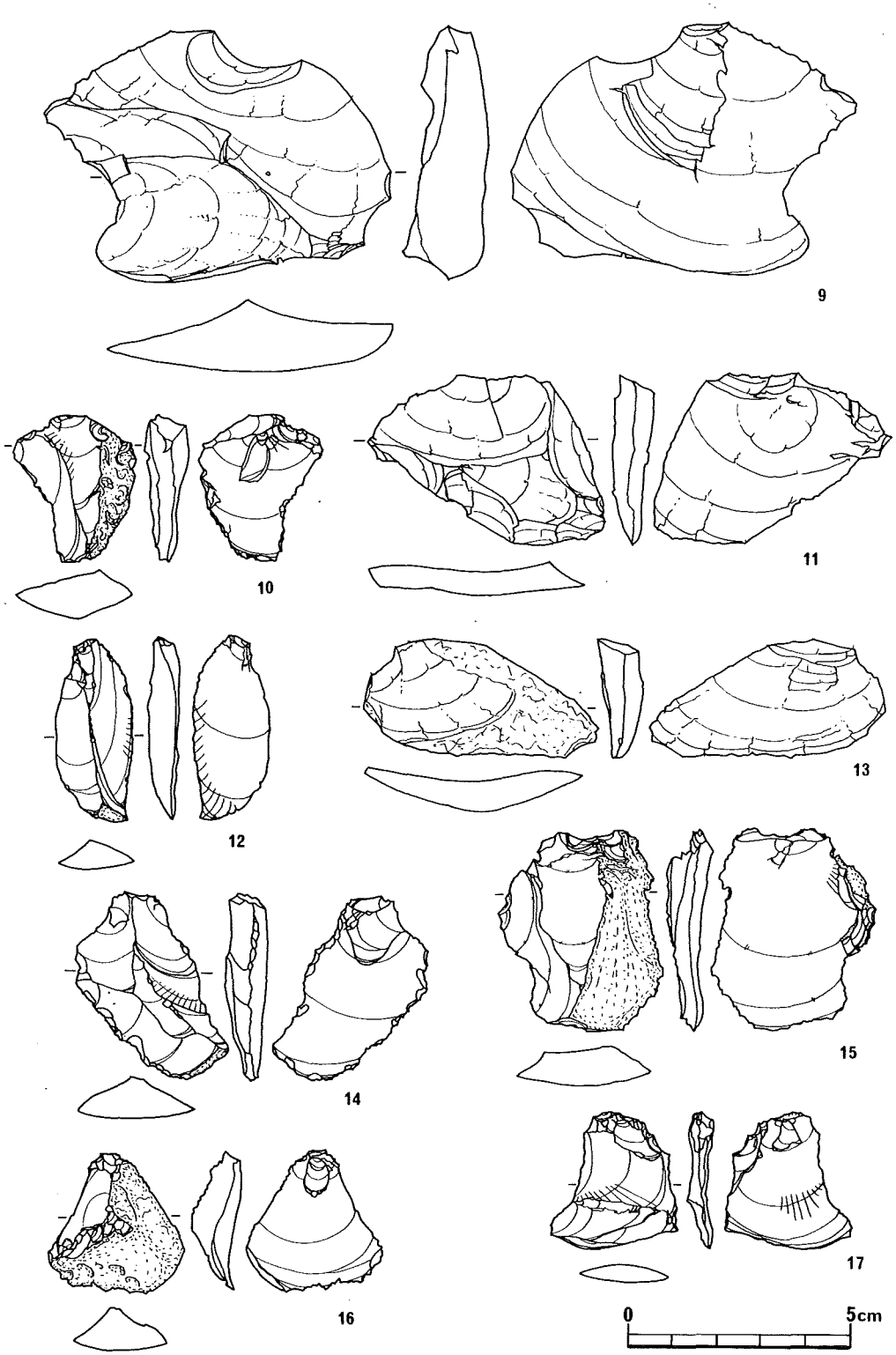


Fig.107 縄文時代の石器—剝片② (2/3)

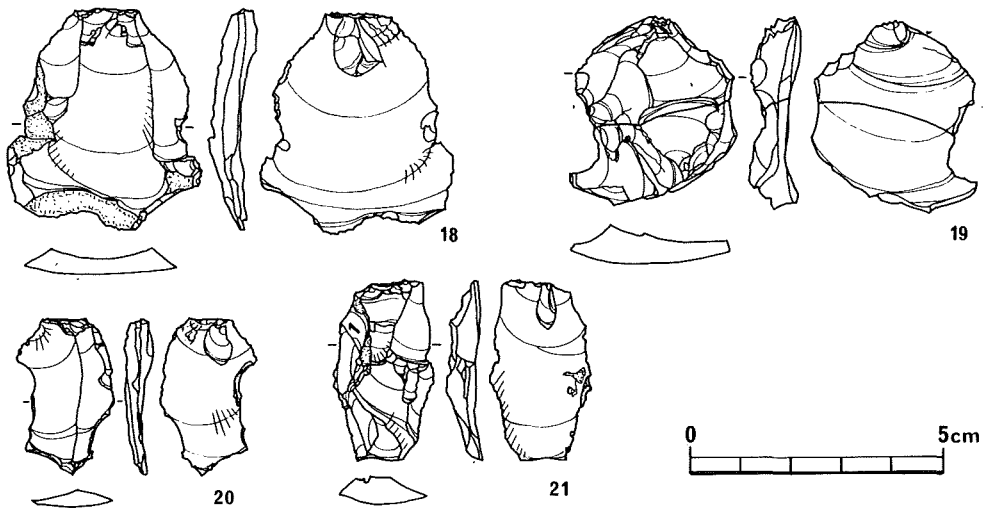


Fig.108 縄文時代の石器—剥片③ (2/3)

石核
(Fig.109・110)
〔PL.40〕

12点を選んで図化し記載した。剥片と同様に打面部の状況より，自然面のもの，平坦なもの，調整が行われているものの3つに分類した。

先ず，自然面のものは1～4の4点である。1は黒曜石A製，上部平坦な自然面より横長の剥片を剥離している。また下部は裏面の平坦面より小さい剥片取りを数度行っている。2は黒曜石A製で石核自体が薄く剥片状になっている。裏面はほぼ自然面が占め，表面において剥離された剥片は厚くヒンジを有するものであろう。3は黒曜石A製で若干パテナが認められる。全体的にやや幅広の剥片をいくつか剥離する。特に正面には比較的大きい剥片を取っていることがわかる。裏面は大半が自然面である。4は黒曜石A製，部分的にパテナが著しい。自然面，或いは平坦面を打面として，側面・裏面・下面とほぼ90度に近い状態で回転させなから剥片剥離を行っている。

平坦打面を有するものは5～9の5点である。5は黒曜石A製，表裏交互に平坦面を利用して小型の幅広の剥片を多く取りだしている。特に上部平坦面には打痕が3つ程明確に認めることができる。裏面の中部の一部に自然面を残す。6は裏面全体が剥離面となる剥片状の石核である。表面に部分的に自然面を残す。黒曜石B製，特に表面のパテナが顕著である。7は黒曜石A製，上部から表裏に互いに幅広もしくは横長の剥片をいくつか取り出している。裏面に一部自然面を残す。8は黒曜石B製，パテナが全体に著しい。若干調整を施こしたと考えられる痕

Tab. 19　剥片・石核一覧表

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	備考	重量(g)
1	E－12	ドーナツ状土壙	剥片	黒曜石B	表面は全て自然面が占める	27.4
2	F－12	ドーナツ状土壙	〃	〃 A	上端に自然面が残る	6.1
3	E－3	撹乱中	〃	〃 C	三角形状をなしやや厚手	15.5
4	H－10	ドーナツ状土壙	〃	〃 B	パテナが著しい	17.8
5	J－17	落ち込み	〃	〃 C	表面は全て自然面が占める	10.3
6	K－7	不明灰黒色	〃	安山岩	断面が三角形状をなし厚い	36.9
7	H－10	ドーナツ状土壙	〃	黒曜石A	打面部は極めて薄い	8.2
8	O－15	撹乱中	〃	〃 B	打面部は平担な自然面	26.3
9	G－6	ドーナツ状土壙	〃	安山岩	安山岩の大形の剥片	60.5
10	G－9	黄褐色粘質土	〃	黒曜石A	側縁に自然面を残す	6.1
11	G－11	赤褐色粘質土	〃	安山岩	鋭角の剥離角を有する	12.0
12	H－12	撹乱中	〃	黒曜石B	扁平な縦長剥片	3.9
13	I－10	撹乱中	〃	安山岩	横長剥片，パテナが著しい	10.5
14	Q－16	撹乱中	〃	黒曜石C	鋭角な剥離角を有する	8.6
15	E－7	ドーナツ状土壙	〃	〃 B	パテナが認められる	11.9
16	F－5	赤褐色粘質土	〃	〃 C	部分的にパテナが著しい	5.5
17	E－2	黄褐色粘質土	〃	〃 A	扁平な幅広の剥片	3.5
18	G－12	赤褐色粘質土	〃	〃 A	表面に縦長垂片の剥離痕を残す	9.3
19	C－8	赤褐色粘質土	〃	〃 A	接合資料	9.1
20	C－8	赤褐色粘質土	〃	〃 A	微細な調整痕	2.0
21	K－13	赤褐色粘質土	〃	〃 A	ややパテナが認められる	3.7
1	F－9	黄褐色粘質土	石核	黒曜石A	上部の自然面より横長の剥片を取る	19.7
2	E－14	赤褐色粘質土	〃	〃 A	剥離された剥片は，ヒンジを有する	13.4
3	F－8	黄褐色粘質土	〃	〃 A	裏面は大半が自然面	35.0
4	F－13	ドーナツ状土壙	〃	〃 A	部分的にパテナが著しい	12.9
5	D－4	赤褐色粘質土	〃	〃 A	上部平担面は打痕が明確に残る	17.6
6	F－5	赤褐色粘質土	〃	〃 B	剥片状をなす	14.1
7	L－11	赤褐色粘質土	〃	〃 A	幅広もしくは，横長の剥片取りを行う	11.4
8	H－11	黄褐色粘質土	〃	〃 B	パテナが全体に著しく認められる	24.6
9	G－8	列石	〃	〃 A	裏面はほとんど自然面	8.8
10	H－11	黄褐色粘質土	〃	〃 C	打面を多方向に転移しながら，剥片剥離を行う	5.5
11	M－17	赤褐色粘質土	〃	〃 C	小さな原石を用いる	20.2
12	E－4	赤褐色粘質土	〃	〃 A	パテナが著しい	8.5

跡を残すが基本的には平坦面を利用し幅広の剥片を剥離させている。9は黒曜石A製上部の平坦面よりやや大きめの剥片を取った後，側面の自然面より小かな剥片をいくつか取りだしている。10は黒曜石C製，全体

にパテナが著しい。打面を多方向に転移しながら剝片剝離を行っている。特に表裏に大きい剝片を取っている。11は黒曜石C製，自然面が表裏に認められ，小さい原石を用いたものである。上部に多少調整を施した後に小型の剝片をいくつか剝離しているようである。12は黒曜石A製，パテナが著しい。表裏において打面を形成しながら交互に剝離している。全体にやや幅広の剝片を取り出している。

なお，土器や各種石器については，A・B両地点を合わせて，鷹野遺跡全体としての遺物についての各資料や若干の考察を加え，「出土遺物について」の項においてまとめてみた。

(4) A地点の遺物の分布状況及び小結

本遺跡A地点における遺構や出土遺物の個々についてはこれまでに述べてきたとおりであるが，ここでは更に，全体的な土器・石器の出土分布について簡単にまとめを兼ねて述べてみたい。なお，A地点においては第II層（赤褐色粘質土層）中からないし第II層中の遺構からの遺物がほとんどであり，第III層（黄褐色粘質土層）が所によっては薄くしかも旧石器時代の遺物と混在して出土することなどにより，純粋な縄文時代の層である第II層のみについて触れることにした。

先ず土器については今までに述べたように非常に少い出土数で，多くは風化や磨滅が著しく，文様の判別ができないものがほとんどある。出土分布状況はFig. 111でもわかるようにA地点全体の広い調査範囲に万遍なく散在する感じである。強いて言うならば，若干ではあるが東側やや中央附近に幾つかのわずかなかたまりが認められる程度である。なお，西側の谷へ下る部分においては更に希薄な分布を成している。文様の判別できたものはJ—14区落ち込みより楕円押型文が，K—12区より条痕文土器が1点ずつである。N—12・F—3区より尖底の土器の底部が，F—5・E—3区より平底の土器の底部がそれぞれ出土する他は大半が細片である。

石器においてはFig. 112でも明確なように北東部のやや低い部分に著しく集中する。中でも，スクレイパー類（石匙・加工痕ある石器・使用痕ある剝片を含む）の出土がその分布状況を顕著に表わしているようである。特に，北東側の一帯には，住居址的性格と考えられる竪穴状遺構

（1～4号）が検出されている部分である。また，先にも述べた南西側の標高が上る部分には極めて希薄な遺物分布を成すが，楔形石器や砥石はこの一帯に目立って出土する。集石や炉穴が多く検出されている部分でもある。

このように各遺構といくつかの石器が共伴している状況を成すことは何らかの意味を示唆しているものであろうか。確かにA地点においては，あたかも竪穴状遺構（住居址）が北東側に群を成し，中央部や南西側に集石，炉穴が相対して群を成している観が認められる。従って，火を使用し調理等の機能が考えられる集石・炉穴は住居址より離れた所にあり，屋外炉として使用された可能性が高いものではないだろうか。つまり生活の場としての使い分け，或いは区別を行っていたということも考えられよう。換言するならば，集落としての形態を有しているものと言えないだろうか。

なお，地形図などより推察すると，北から東へ巡る生活道路としての小路があるが，この部分にも多くの遺物が出土し，竪穴状遺構等の存在していた可能性は大であろう。

本項の初めに述べたように，A地点全体としては第III層より旧石器時代の遺物と同時レベルで出土するため，遺物の隆出や沈淪なども考えられるが，縄文時代の単独の層とは考えにくく省いた。(第III層の遺物としては，石鏃やスクレイパーなどがいくつか出土しているようである。)

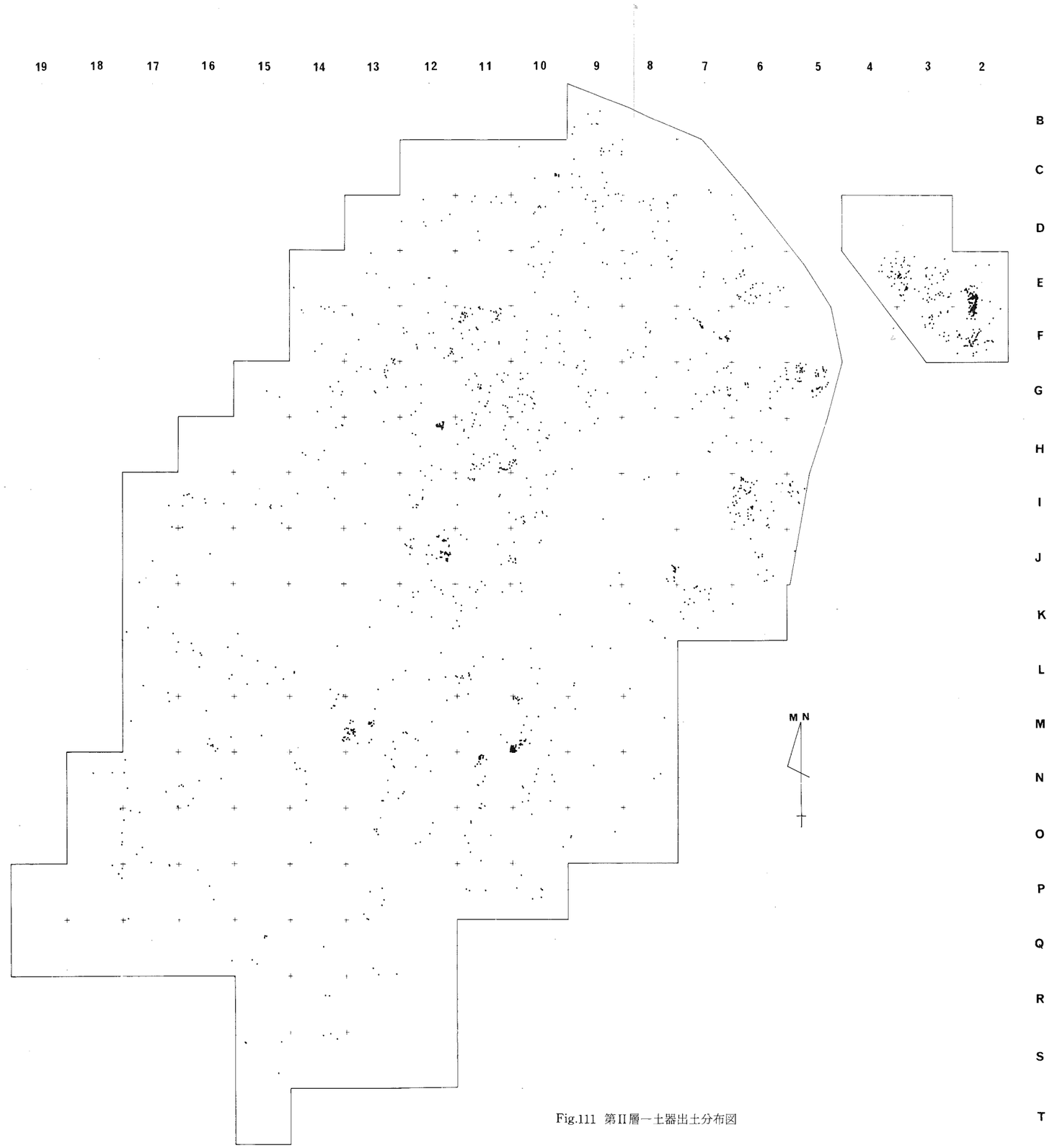


Fig.111 第II層一土器出土分布図

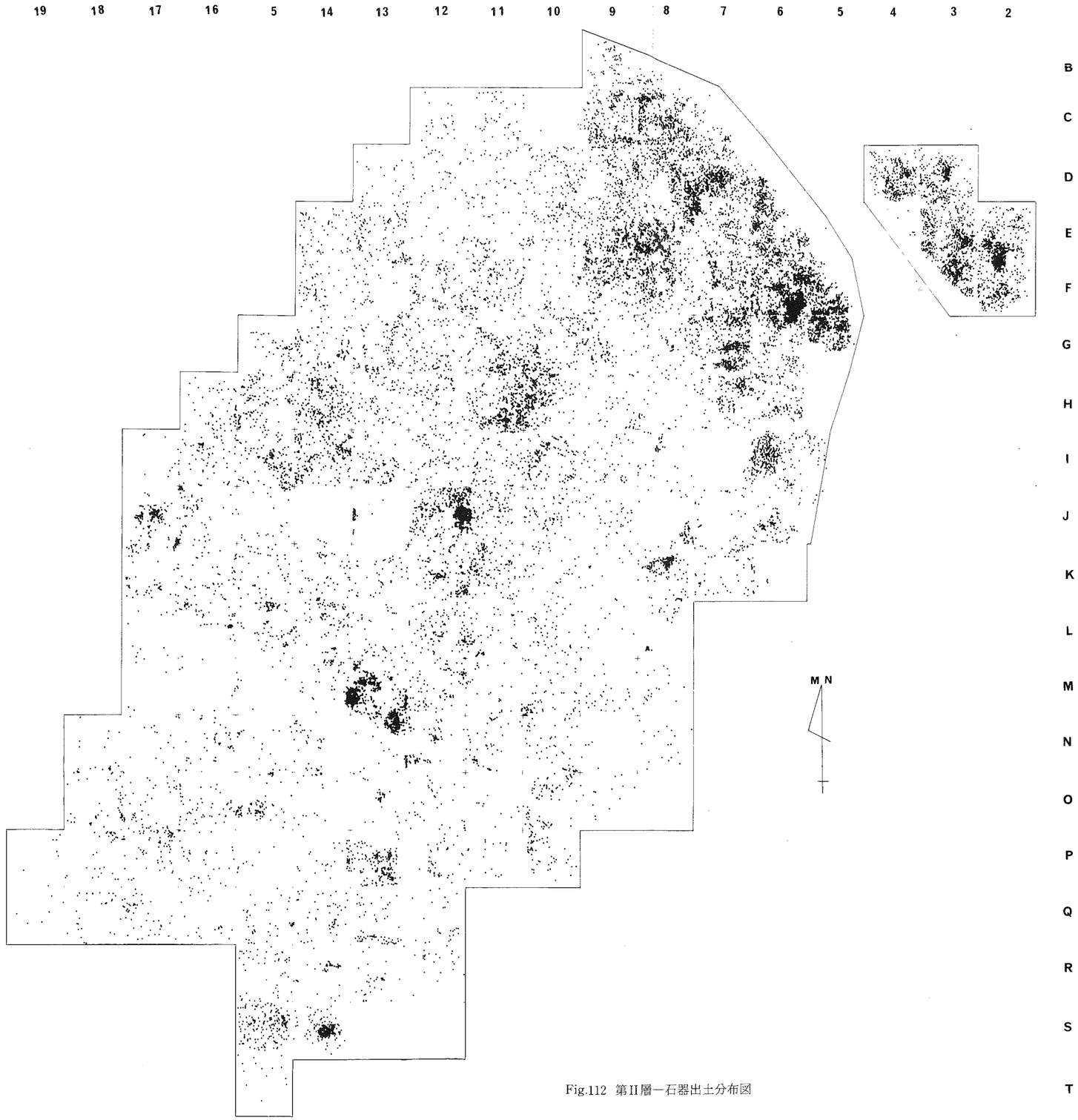


Fig.112 第II層一石器出土分布図

3．中・近世

(1) 遺　構

列石遺構　C～H－6～11区とD～G－12～14区で列石が確認された。

C～H－6～11区の列石（Fig.113）

遺跡の北端部分に構築されたもので，規模は南北28m×東西18m程の範囲に検出された。

遺構の東・西端部分に2条の溝状遺構が確認され，東端の溝は北西方向に長さ25m×幅1m×深さ0.25mで上端に大きな礫石を乗せ，暗渠状を呈す。溝はH－8区で終り，その箇所より一端東側へ曲り，更に東南へ2m程延び，その南側に1m程の幅で溝が走り，北東から北西へ同様な幅で続く。この溝の途中（F－7区）で径1.4m程の円形状の集石土壙が1基検出された。また，その溝の南～東側に礫石が敷かれた状況がみられ，南端部分は鋭角に近い角度で区画性を持って配石されている。

2条の溝状遺構に囲まれた中央部分は砂岩基盤上に埋土し，北側部分には拳大位の礫石が南北8m×東西7m程の範囲に敷かれている。

遺物は近世の陶磁器片が出土。

遺構の検出状況から見ると，2条の溝状遺構，水溜・井戸状遺構・敷石部分等を考慮すると，建物址とも考えられるが柱穴群や礎石，石垣等の付帯する遺構は検出されてない。またD～G－12～14区の列石と同様な暗渠を呈すものであるのか，遺構の性格付けははっきり出来なかった。

この遺構の構築の際に，先土器～縄文時代の遺構・遺物包含層を破壊されている。

D～G－12～14区の列石（Fig.113）

長さ21m×幅1m×深さ0.25m程で北東へ帯状に走る。土壙の掘り込みは浅く，5cm～40cm位の礫石が敷かれている。

この列石は農作業の耕作段階での水抜きのための構築物と考えられるが確証はない。

集石土壙（Fig.114）

F－7区の西側で，列石群の溝状遺構の東端部分で検出された。

土壙の規模は南北1.4m×東西1.1m×深さ0.65m程の円形状を呈す。

掘り込み部分のほとんどは砂岩の基盤を刳り貫いている。この中に拳大から頭大位の礫石がびっしり詰まり，その下から底面まで約17cm程は

濁黄褐色土の覆土が堆積している。

この遺構は列石群の東側の溝状遺構の中に検出されたもので，水溜めかあるいは井戸状の性格をもつものであろう。

Fig.113 列石群

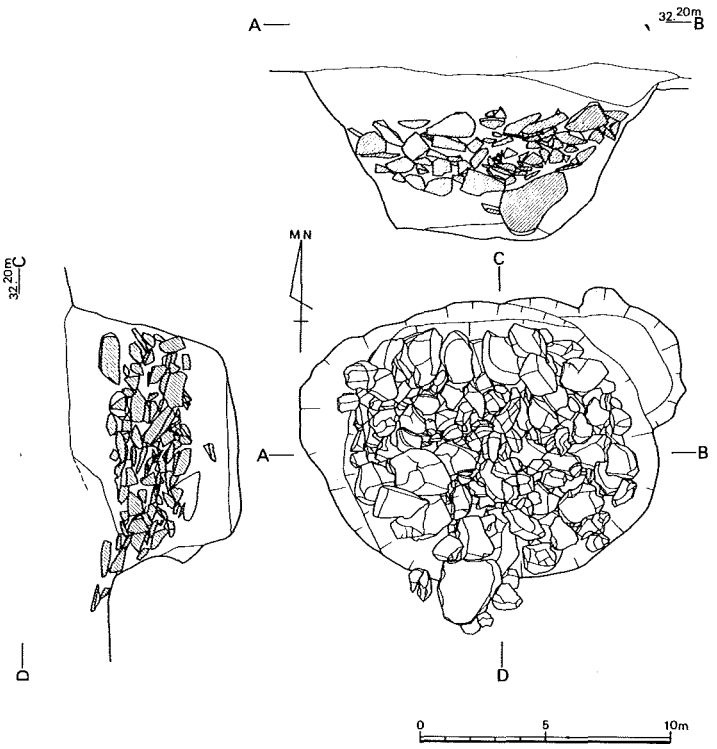


Fig.114 集石土壙

(2) 中・近世の遺物

中世の輸入陶磁　1，2は龍泉窯系青磁の碗である。胎土は灰白色で，オリーブ色の透明釉が掛かる。1の内面には片彫りの蓮華文が施される。2の内面には上位にヘラによる圏線が，下位には片彫りの蓮華文が施される。森田勉・横田賢次郎氏の分類(註1)によれば，1，2ともにⅠ－2類である。同一個体と思われる。1はQ－15区撹乱部より出土。2はJ－15区撹乱部分より出土。

近世の国産陶磁器　2は白磁碗底部である。高台径3.6cm，高台高0.8cmを測る。胴部下半にふくらみを持つ灰白色の胎に，緑がかった透明釉が畳付を除き掛かる。畳付には焼成の際の砂が付着する。F－2区撹乱部分より出土。4は白磁小碗の口縁部である。口径6.6cmを測る。僅かにふくらみを持つ胴から，外反した口縁に至る。口唇部は丸くしあげている。灰白色の胎に，気胞を全面に含むくすんだ白色の釉が掛かる。N－18区撹乱部分出土。5は白磁小碗の底部である。高台径2.8cm，高台高0.7cmを測る。胴部はふくらみを持ち，削り出しの高台で底部は厚い。灰白色の胎に，緑がかった白色の釉が畳付を除き掛かる。畳付には焼成の際の砂が付着

する。高台径2.8cm，高台高0.7cmを測る。S—15区撹乱部分より出土。6は染付鉢である。白色の胎に，胴部は花文，高台部に山形の連続文が描かれる。畳付の釉はふきとられており露胎。高台径10.4cm，高台高0.8cm。列石群内集石土壙より出土。7は白磁猪口である。口径5.4cm，器高1.9cm，高台径2.4cm，高台高0.3cmを測る。灰白色の胎に，気胞を全面に含む灰白色の釉が，畳付を除き厚く掛かる。見込の器表は灰がかりをしており荒れる。G—9区より出土。8は染付の猪口である。高台径2.4cm，高台高0.4cmを測る。白色の胎で，見込には紺色で幅0.8cmの帯が巡る。釉は白色で畳付を除き掛かる。R—12区撹乱部分より出土。9は陶器製の蓋である。蓋径10.2cm，蓋高2.3cm(折り込み高1.7cm)，折り込み径7.0cm。水びきの際に折り込み部を作る。茶色の胎で，蓋上面に緑色釉が掛かる。F—9区撹乱部分より出土。10は現川焼の小碗である。黒灰色の胎に，白色の化粧土をハケ塗り。O—11区撹乱部分より出土。11は瓦を使った泥メンコである。長径3.0cm，短径2.6cm，厚さ0.6cmを測る。I—16区撹乱部分より出土。

泥メンコ

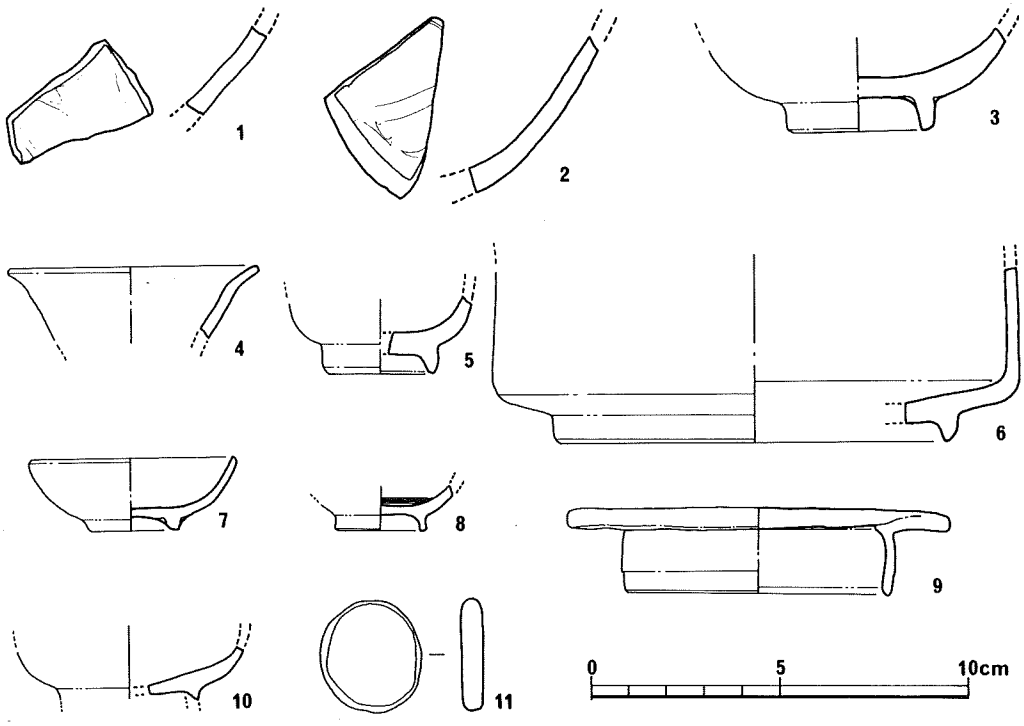


Fig.115 中・近世の遺物 (1/2)

VI. 鷹野遺跡B地点

1．先土器時代

(1) 出土遺物

B地点出土石器はナイフ形石器24点，台形・台形様石器11点，三稜尖頭器2点，削器1点，使用痕のある剝片2点，ブランティングチップ1点，石核1点，細石刃34点の総数77点を数える。

出土層位はA地点のナイフ形石器を主体とする石器群の遺物と同様に包含層は検出出来なかった。

ナイフ形石器
(Fig.116-1～20)

縦長剝片を利用し，斜行する刃部を残し他は刃潰し加工を施し，刃部長と器長の割合がほぼ半々で，細身の三角形状を呈すもの。基部裏面加工を施すものと施さないものがある(1～10)。石材利用は黒曜石A製5点，B製3点，C製2点。

切出形状を呈し，刃部長が器長に比べて短いもの(11)。黒曜石B製。

剝片を折断し，長くて斜行する刃部を残して刃潰し加工を施すもの(12～16)。黒曜石A製5点。

刃部から先端部を鋭利に尖るように刃潰し加工を施したもの(17～20)。黒曜石A製3点，B製2点。

以上のような特徴をもつナイフ形石器が他に4点出土している。

台形・台形様石器
(Fig.116-21～23,
Fig.117-24～31)

刃部と基部が平行で，側縁部および基部を刃潰し加工を施こしたもの(21～23)。「百花台型」の台形石器と呼称されているものの範囲であろう。石材利用は黒曜石A製2点，B製1点，C製1点。

直線的な刃部に斜行ないし，直交する刃部をもつもので，側縁部の2次加工は一方が湾曲するように主要剝離面側より，他方は器表面より調整加工を施している。その2次加工は錯交する剝離で幅狭な胴・基部を作り出し，器表面の一端より調整剝離が施されているもの(24—30)。黒曜石A製4点，B製1点，C製1点。

平行する刃部の両端が突出して尖り，逆三角形状を呈すもの(31)。黒曜石A製。

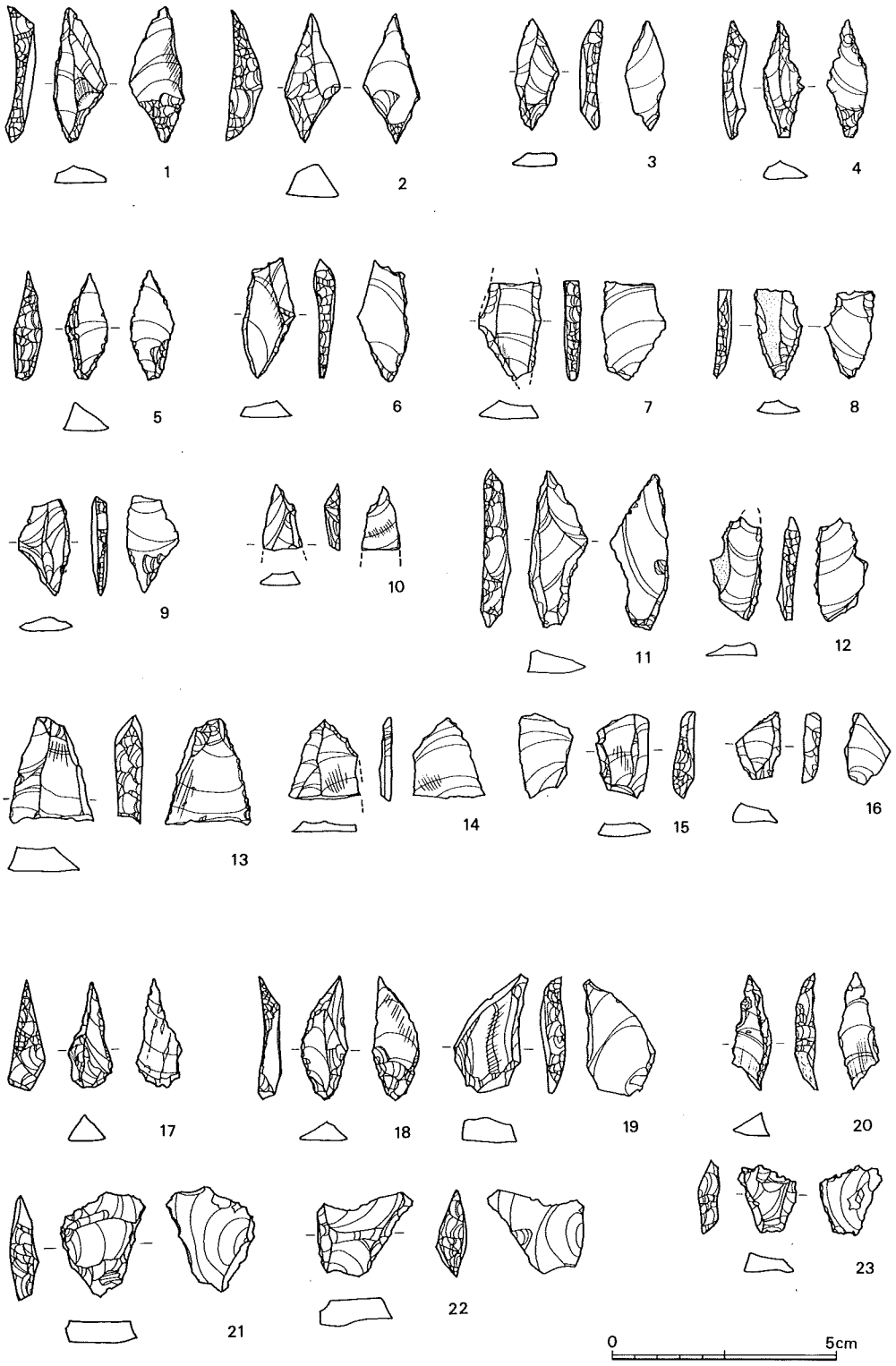


Fig.116 先土器時代・出土石器①

三稜尖頭器　32は縦長剝片を利用し，主要剝離面側より２次加工を施し，断面が三
(Fig.117-32，33)　角形状を呈すもので，石材は黒曜石Ｂ製。

33は横長剝片を利用し，同様に２次加工を施したもので，稜上に調整加工を施し平坦面を作り出している。先端，基部が尖り菱形状を呈す。石材は黒曜石Ｂ製。

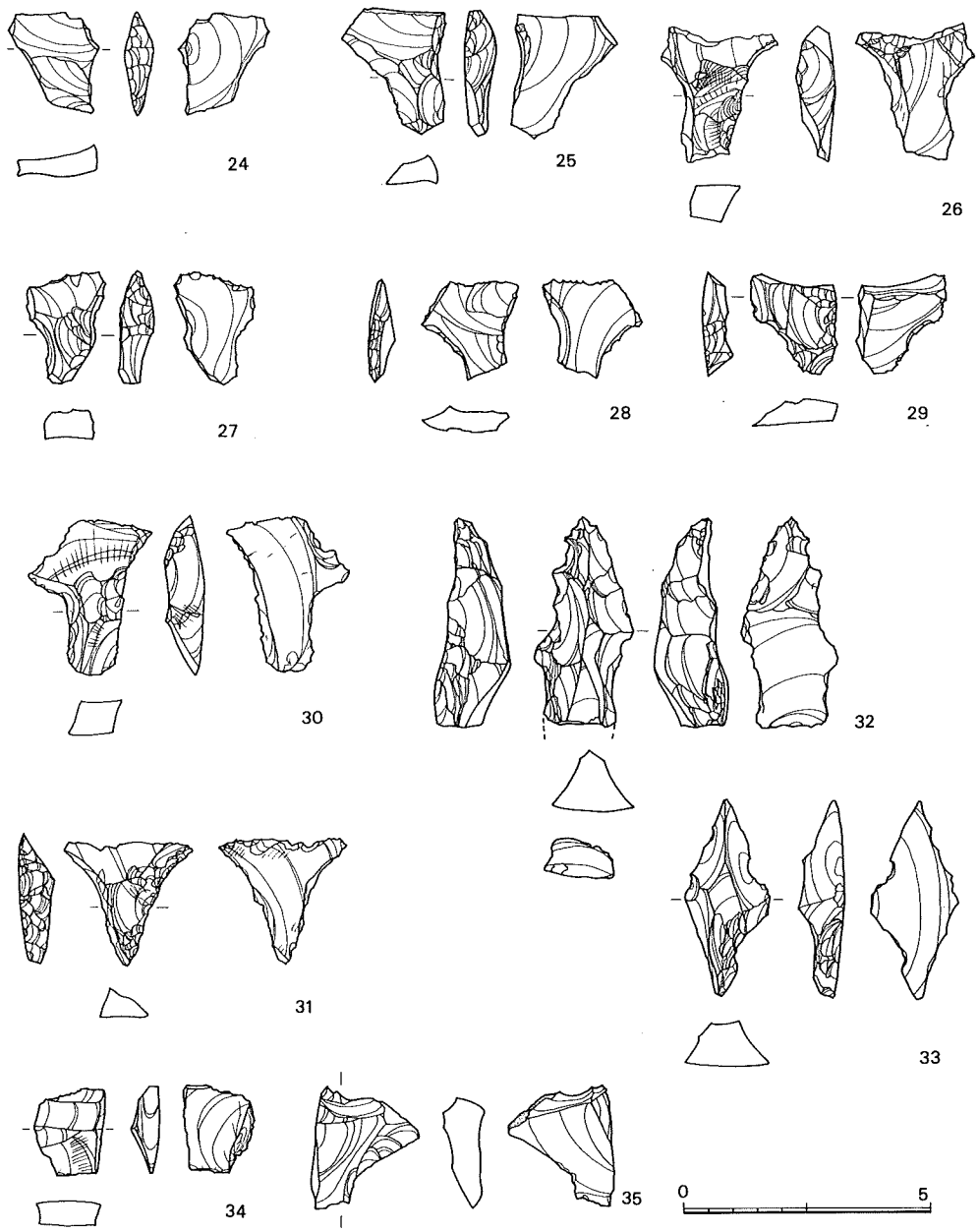


Fig.117 先土器時代・出土石器②

削器（Fig.117-35）　35は側縁部の一端を欠損し，抉入状の加工痕がみられる。黒曜石A製。

使用痕のある剝片（Fig.118-36，37）　36は肥厚する不定形剝片を利用し，縁辺に細かな刃毀れがみられる。石材はチャート製。

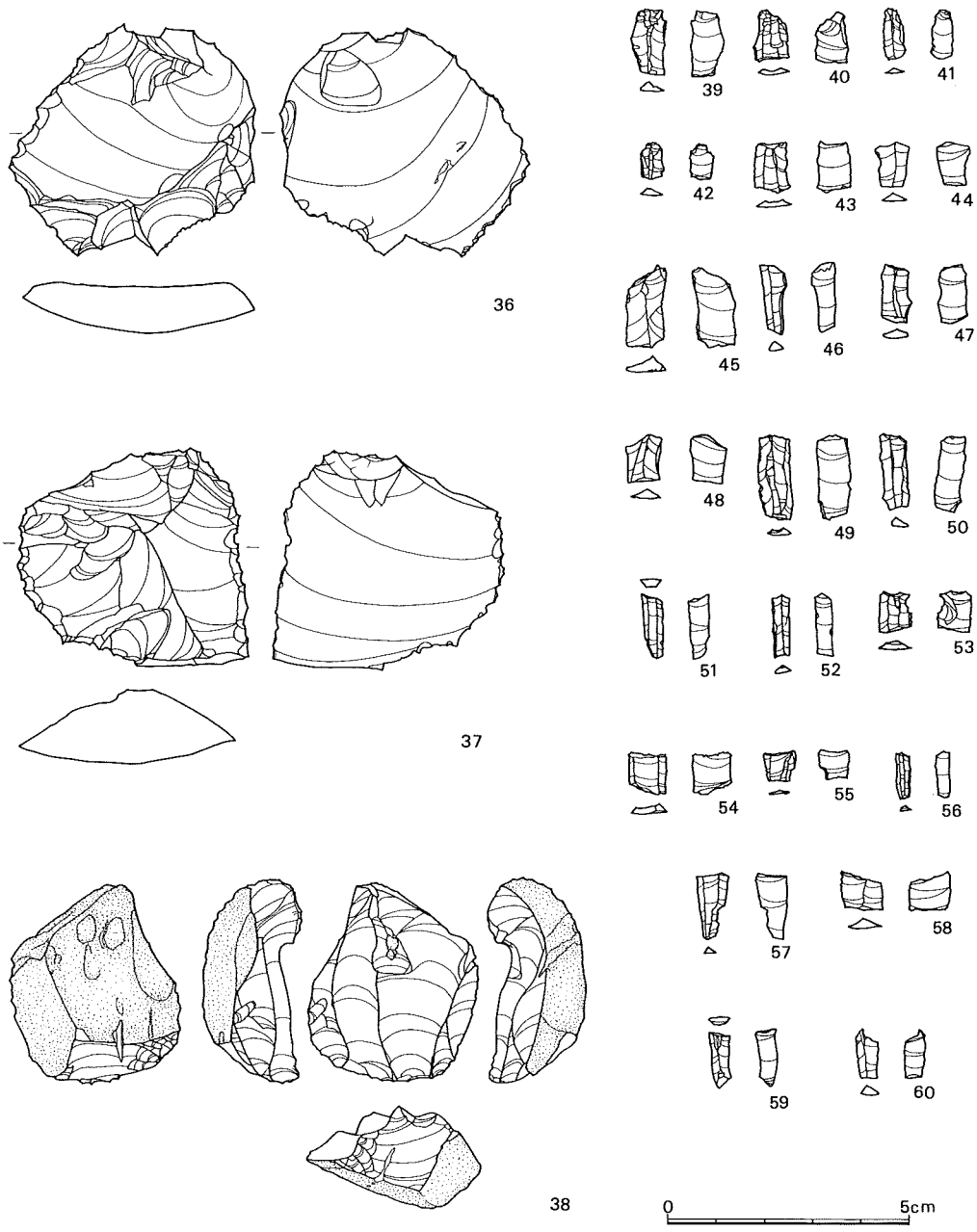


Fig.118 先土器時代・出土石器③

37も同様に肥厚する不定形剝片を利用し，両側縁部に刃毀れが顕著にみられる。頁岩製。

36，37共に利用剝片の打面は平坦打面で，A，B地点でこの種の石材利用は2点だけである。

石核　縦長剝片を剝片剝離した石核で，小円礫を利用し，打面は平坦で微細調整を行っている。背・側・底面に自然面を残す良質の黒曜石A製。(Fig.118-38)

細石刃　細身で幅狭の細石刃がほとんどを占める。出土部位は頭部6点，中間部26点，先端部2点の総数34点が出土し，内21点を図示した。利用石材は黒曜石A製14点，B製11点，C製9点。(Fig.118-39～60)

剝片　縦長剝片を折断したもので，2次加工はみられない。利用石材は黒曜石B製。(Fig.117-34)

以上，B地点出土器は大きく2つの石器群の所産に分れるようだ。

1．ナイフ形石器を主体とする石器群の遺物で，ナイフ形石器，台形・台形様石器，三稜尖頭器，削器，使用痕のある剝片，石核，剝片類である。この中でも，時間的な若干の差異があるようで，台形石器は「原ノ辻型」と呼ばれるものと三角形状を呈すものは他の器種形態からして，若干古く位置付けられ，他は西輪久道上層の石器群と同様な時期か，あるいは新しくなる段階の所産の遺物であろう。

2．細石器を主体とする石器群の遺物で，細石刃である。周辺と鷹野A地点，西輪久道上層石器群が検出されていることから，西大川流域での細石器文化段階での生活空間として捉えるべきであろう。

Tab. 20　先土器時代の石器計測表

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	形態分類	計測値 (cm・g) 全長	最大幅	厚さ	刃部長	重量
116-1	W35	II	ナイフ形石器	黒曜石A	I－3	2.9	1.1	0.38	1.9	0.9
2	V30	〃	〃	A	〃	2.75	1.1	0.54	1.7	1.1
3	Z35	〃	〃	C_1	〃	2.35	0.85	0.33	1.5	0.6
4	Y32	〃	〃	A	I－1	2.55	0.9	0.46	1.1	0.8
5	X30	〃	〃	B_2	I－3	2.35	1.0	0.53	1.5	0.9
6	ハ34	IV	〃	B_2	〃	(2.6)	1.15	0.34	1.6	0.9
7	Z33	III	〃	A	I－2	(2.15)	1.4	0.33	(1.4)	1.2
8	Y32	〃	〃	C_1	I－3	(1.95)	1.0	0.3	(1.27)	0.6
9	V31	II	〃	B_2	〃	(2.15)	1.15	0.28	(1.4)	0.6
10	X34	〃	〃	A	〃	(1.4)	0.85	0.32	(1.32)	0.3

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	形態分類	計測値 (cm・g)				
						全長	最大幅	厚さ	刃部長	重量
11	Z32	III	ナイフ形石器	黒曜石B_2	II－2	3.4	1.25	0.52	1.78	2.1
12	V34	II	〃	A	III	(2.2)	1.15	0.28	(1.2)	0.8
13	Y33	ドーナツ	〃	A	I－2	(2.4)	1.95	0.54	(2.4)	2.6
14	V35	II	〃	A	〃	1.75	1.6	0.3	1.9	0.7
15	ロ34	III	〃	A	III	(1.95)	1.15	0.43	(1.75)	0.8
16	Y33	II	〃	A	〃	(1.5)	0.9	0.37	(0.96)	0.5
17	X34	落ち込み	〃	A	I－1	(1.35)	0.95	0.65	1.95	0.9
18	Y31	III	〃	B_2	〃	2.7	0.95	0.39	1.6	0.8
19	X34	ドーナツ	〃	A	〃	2.7	1.4	0.47	2.18	1.8
20	Y31	落ち込み	〃	A	〃	2.5	0.75	0.38	2.05	0.6
21	X34	II	台形・台形様石器	C_2	I	(2.0)	(1.95)	0.57	(1.8)	2.1
22	W33	〃	〃	A	〃	2.05	2.1	0.6	1.74	2.6
23	Z36	〃	〃	B_2	〃	(1.45)	1.25	0.42	1.3	0.7
117-24	ニ35	IV	〃	A	III	1.85	1.85	0.47	1.4	1.3
25	Y34	落ち込み	〃	A	〃	(2.7)	2.1	0.58	(1.65)	2.0
26	W34	II	〃	A	〃	2.75	(2.35)	0.61	(2.2)	3.0
27	U34	〃	〃	C_2	〃	2.15	1.55	0.68	1.5	1.9
28	Z33	III	〃	B_2	〃	(1.9)	(2.05)	0.46	(1.4)	1.3
29	ニ35	V	〃	A	〃	(1.98)	1.7	0.55	(1.5)	1.6
30	ロ34	III	〃	A	〃	3.15	2.5	0.75	(1.6)	3.6
31	ニ34	I表土	〃	A	IV－4	2.55	2.5	1.32	2.55	2.2
32	U34	落ち込み	三稜尖頭器	B_2	II－1	4.15	1.65	0.63		8.2
33	X33	III	〃	B_2	〃	3.95	1.7	0.88		3.7
34	ロ34	〃	剝片	B_2		1.78	1.43	0.53		1.4
35	ホ35	IV	削器	A		2.46	2.1	0.95		3.3
118-36	ロ34	III	使用痕有剝片	チャート		4.62	5.16	1.33		31.6
37	ロ34	〃	〃	頁岩		4.39	4.78	1.64		25.6
38	Y31	〃	石核	黒曜石A		3.91	3.32	2.16		19.4
39	X34	ドーナツ	細石刃	B_2	頭	1.4	0.7	0.2		0.15
40	X33	II	〃	B_1	〃	1.05	0.65	0.14		0.1
41	ロ33	III	〃	A	〃	1.0	0.4	0.12		0.05
42	ハ34	II	〃	C_1	〃	0.7	0.5	0.14		0.05
43	X36	〃	〃	B_2	中	0.5	0.7	0.15		0.1
44	X35	〃	〃	B_1	〃	0.95	0.7	0.2		0.1
45	X35	〃	〃	B_2	〃	1.55	0.8	0.34		0.35
46	ニ34	IV	〃	B_2	〃	1.4	0.5	0.19		0.1
47	Z32	III	〃	B_2	〃	1.2	0.65	0.23		0.1
48	ハ34	II	〃	B_2	〃	0.95	0.7	0.2		0.15
49	X37	〃	〃	A	〃	1.7	0.7	0.15		0.25
50	X32	III	〃	A	〃	1.6	0.55	0.18		0.15
51	ロ34	〃	〃	A	〃	1.4	0.45	0.15		0.05
52	X31	III	〃	A	〃	1.25	0.35	0.18		0.1
53	W35	〃	〃	A	〃	0.8	0.7	0.17		0.1
54	Y31	II	〃	A	〃	0.9	0.85	0.18		0.15
55	Y32	III	〃	A	〃	0.65	0.65	0.06		0.05
56	Z33	〃	〃	A	〃	0.95	0.3	0.14		0.05
57	X33	III	〃	C_1	〃	1.35	0.65	0.15		0.1
58	V31	遺構	〃	C_1	〃	0.75	0.75	0.19		0.1
59	X35	II	〃	C_1	〃	1.15	0.4	0.16		0.1
60	ロ34	III	〃	A	頭	1.0	0.45	0.2		0.1

2．縄文時代

(1) 遺構

B地点の縄文時代の遺構は竪穴状遺構Ⅰ基，集石遺構10基，炉穴遺構20基，石蓋土壙1基，礫群3基，不明土壙3基が第Ⅱ層中に検出され，炉穴遺構内7基が第Ⅲ層中に検出されている。

① 竪穴状遺構　B地点の北端部分に2基検出された。

5号　5号はU・V－31・32区の第Ⅱ層面で検出された。

(Fig. 120)　規模は東西約6.2m×南北7.2m程の不定形状を呈す。土壙は北端部分で南北3m×東西1m×深さ40cm程の掘り込みがみられ，他は約20cmの浅い皿状を呈す。また径30cm×深さ約40cmの柱穴状の掘り込みが，北東隈に小礫が詰った状態で検出されているだけで，他にはないようだ。

土壙内に拳大から頭大位の礫石がみられる。また床面は凸凹面が著しく，他の竪穴状遺構と同様にマンガン・鉄分の沈着で黒褐色を呈し，固く締っている。

土壙内堆積土は①黒灰色砂質土，③赤銅色土である。

遺物は細石刃1点，石鏃11点，敲石1点，加工痕ある石器1点，掻器1点，石核2点，剥片135点，砕片174点，土器片1点の総数327点を数える。

6号　5号の約2m北側に位置し，T・U－31・32区の第Ⅱ層面が検出。

(Fig. 120)　規模は南北2.8m×東西1.6m程の不定形状を呈す。土壙は南端の周壁部分の立ち上りは約15cmで浅く，北端部分は更に浅く，輪郭を確認できる程度である。

土壙内の床面には拳大位の礫石が敷かれ，5号と同様に浅い凸凹面が著しく，マンガン・鉄分の沈着で固く締っている。

土壙内堆積土は①黄褐色土，②赤褐色土で浅い堆積を呈す。

遺物は土器片2点，石核1点，剥片23点，砕片15点の総数41点が出土。

また，北西隈に東西1m×南北0.7m×深さ8cm程の浅い楕円形状の掘り込みと，径20cm×深さ10cm，径15cm×深さ12cm程のピットが2基検出されている。更に5・6号竪穴状遺構の間に2号不明土壙が1基検出さ

れている。両遺構の西側に狭い範囲に遺物が集中する箇所がある。

竪穴状遺構は柱穴の未検出で不定形状を呈すために，竪穴状遺構とした。これらの性格は住居址と考えられる。

② **集石遺構**　遺構はW・X—35・36区，Y・Z—31～33区，ホ—34区と3群にまとまって検出されている。

A地点と同様に炉址の性格をもつものと考えられる。

7号　Y—31区の第II層で検出された。土壙部分は長径約1m×短径0.75m

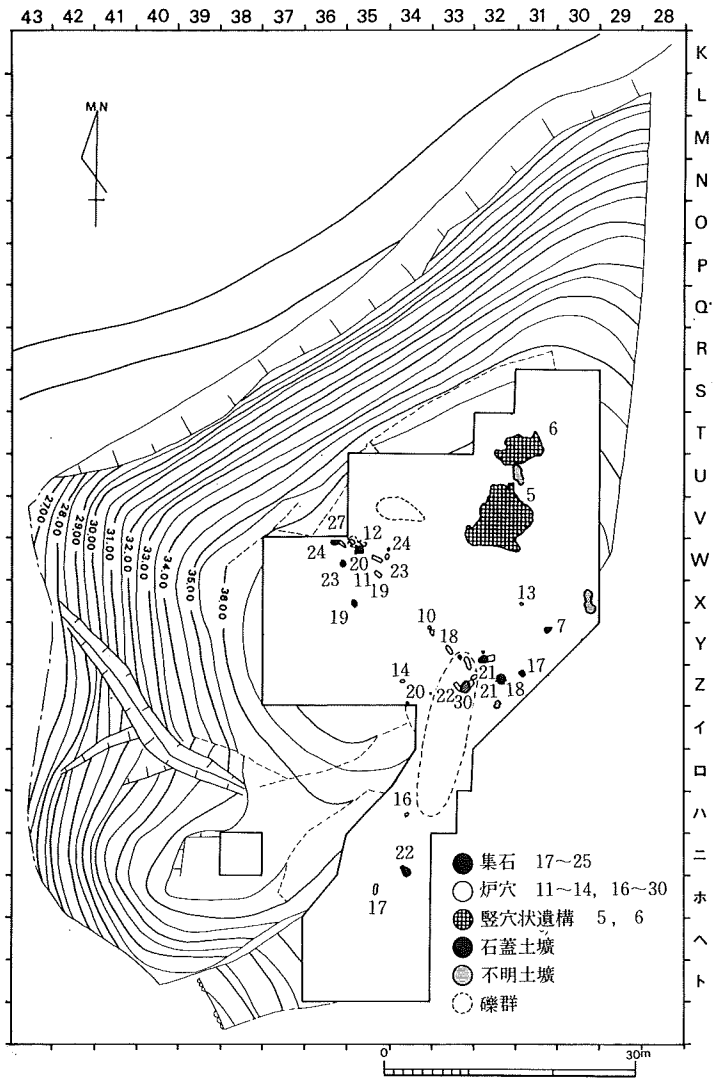


Fig.119 鷹野遺跡B地点遺構配置図

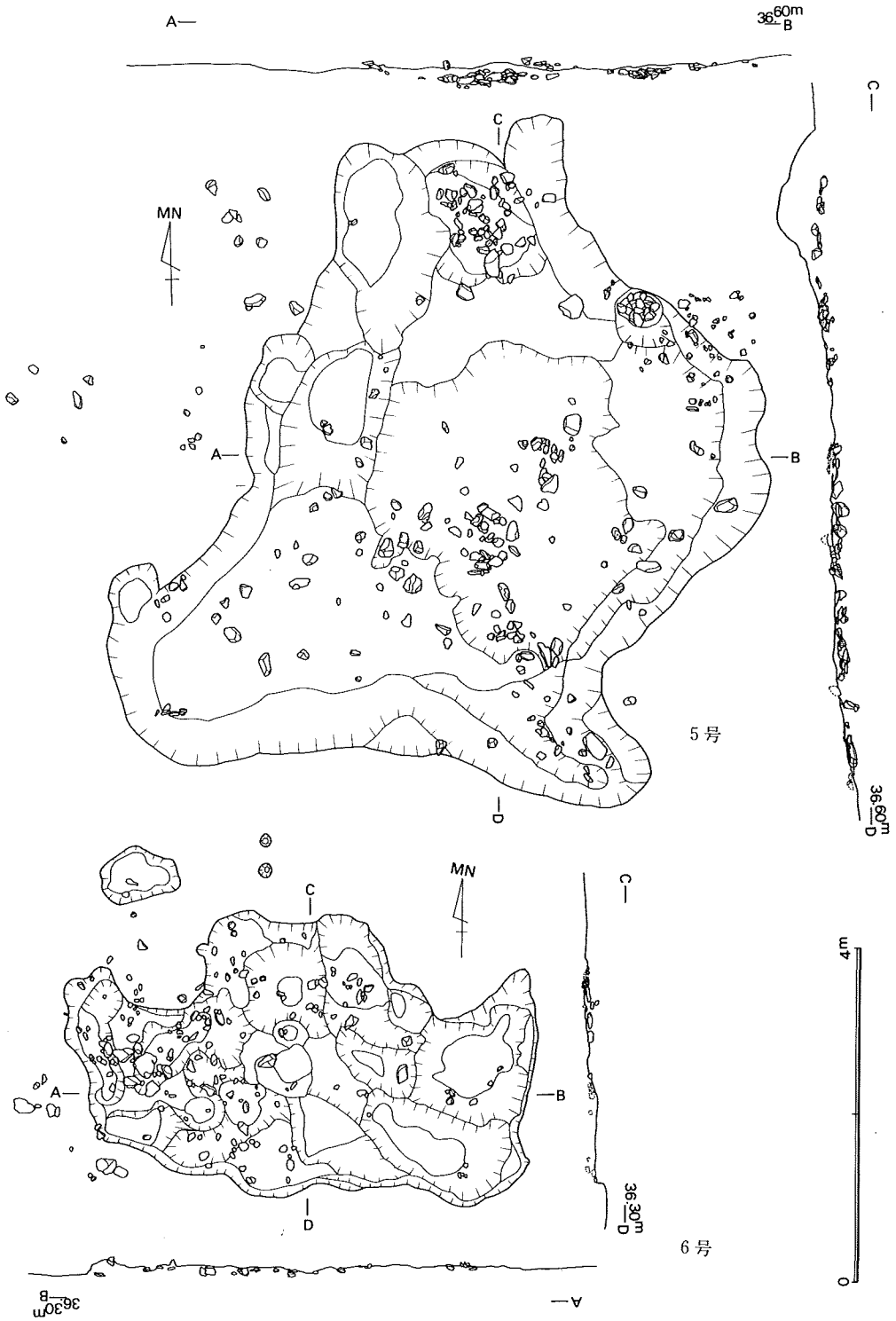


Fig.120　5・6号竪穴状遺構（1/80）

(Fig.121) で，東端に浅い掘り込みがみられるが，ほぼ円形状を呈す。

土壙の深さは22cm程の浅い皿状を呈し，土壙周壁は火熱で焼けている。

礫石は西側部分に固まって出土し，炉底には灰と炭化物が積り，礫石に混って多量の炭化物が検出された。

遺物は磨製石鏃3点が炉石の間より出土し，他に剝片7点，砕片111点を数える。

17号　Z－31区の第II層下部に検出された。土壙部分は径0.92m×0.84m×
(Fig.122) 深さ0.27m程で，ほぼ円形状を呈し，深めの掘り込みをもつ。

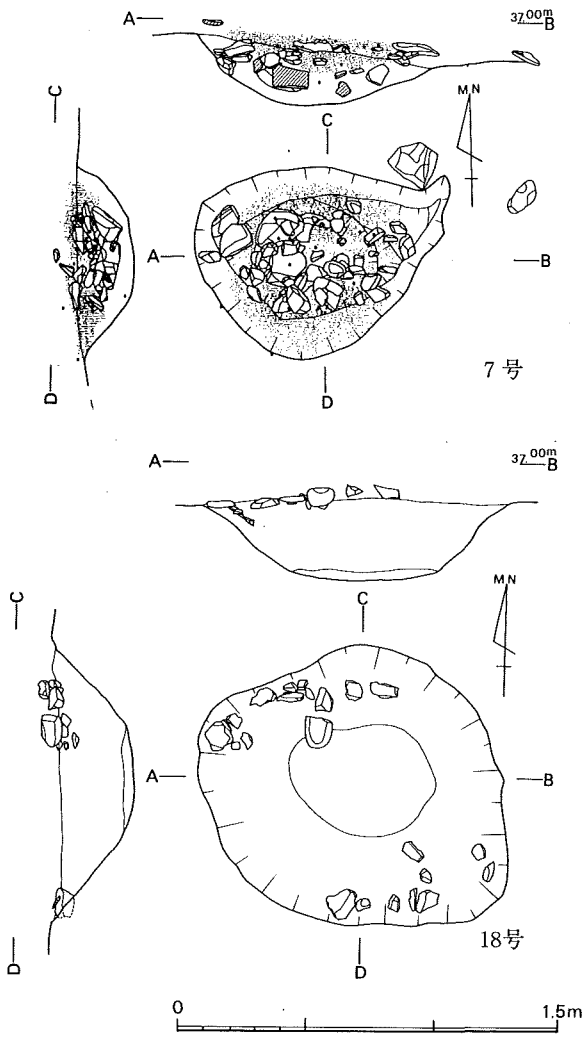


Fig.121 集石遺構① (1/30)

土壙縁および周壁部分は赤く焼け，炉底部分に大きくて扁平な砂岩の板状石を割り，底・周壁に花弁状に敷き並べている。(礫石の大部分が接合する。)この上に炭化物・灰を多量に含む黒色土（泥板状）の覆土が約5cm程堆積を示し，その上に拳大位の礫石が多数詰った状況で検出された。

この集石も2号と同様に目的物を取り出す前の状況下のものと考えられる。炭化物の樹種同定よりクヌギが使用されている。

遺物は礫石に混って無文土器片，砕片10点が出土。

C^{14}年代測定で9560±115Y.B.P.(9280±110Y.B.P) の年代を得ている。

18号　(Fig.121)

Z－32区の第II層で検出された。土壙部分は径1.2m×深さ0.3m程のほぼ円形状で，比較的深い掘り込みをもつ。

礫石は土壙部の南北端の上面に

23個程集中し，中心および土壙内にはみられない。礫石に敲石の破損品も利用している。

19号　X－35区のII層中に検出された。土壙部分は長径0.95m×短径0.7m
(Fig.123)　×深さ0.25m程の楕円形状で，浅い掘り込みをもつ。

礫石は西側に土壙の長軸に沿って扁平な砂岩の板状石を6個程立て，敷き並べられているが，他の周壁部分には認められないために，取り除かれた可能性もある。これらの板状石は接合する。その板状石の上に拳大位の礫石が詰った状態で検出された。礫石は赤変しているものもあり，土壙内に炭化物および遺物（砕片26点）が出土。

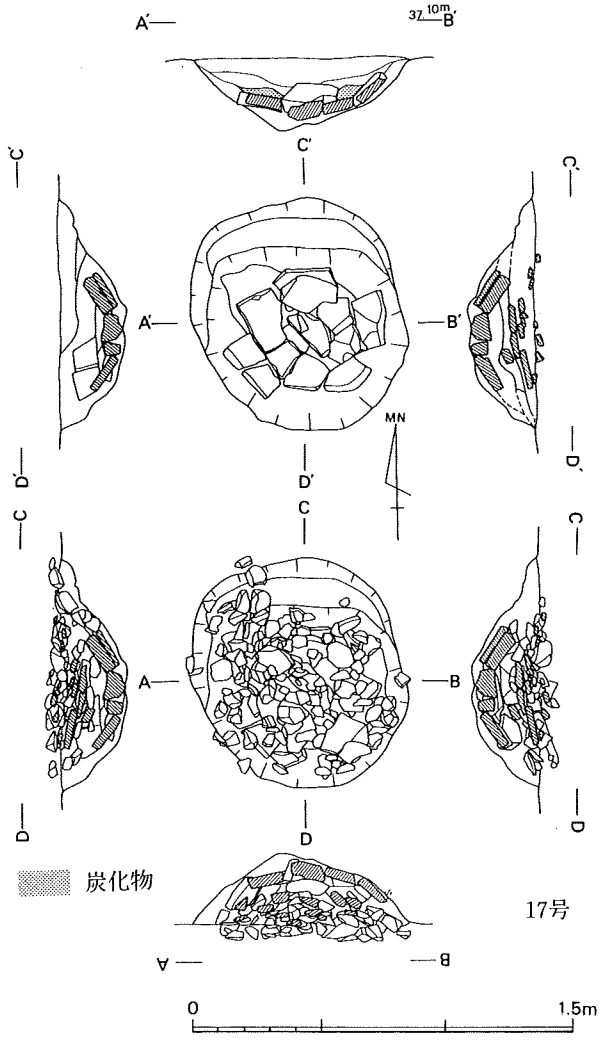


Fig.122 集石遺構②（1/30）

20号　(Fig.123)

W－35区で検出された。土壙の規模は径1.14m×深さ0.55m程の円形状で深い掘り込みをもつ。

土壙周壁は赤く焼け，炉底に拳大位かやや大きめの礫石を2重に渡し，丸く敷き並べた状況で検出され，その上に灰と炭化物を多量に含む土が約10cm程積り，更にその上に礫混在の炭化物を含む層があり，拳大位の礫石がまばらに点在している。炉底の礫石は火熱を受け赤変している。

遺物は剝片15点，砕片55点が出土。C^{14}年代測定で9510±95Y.B.P（9230±90YB;P）の年代を得ている。

この集石遺構は科学的処理後に切り取る作業を実施した。

21号　(Fig.124)

Y・Z－32区の第II層で検出。

土壙部分は径１ｍ×深さ42cm程の円形状を呈し，深い掘り込みをもつ。

礫石は土壙部の上面に集中し，周縁に沿って拳大よりやや大きめの礫があり，中央部に砂岩の板状石が検出された。

遺物は剝片２点，砕片16点が出土。

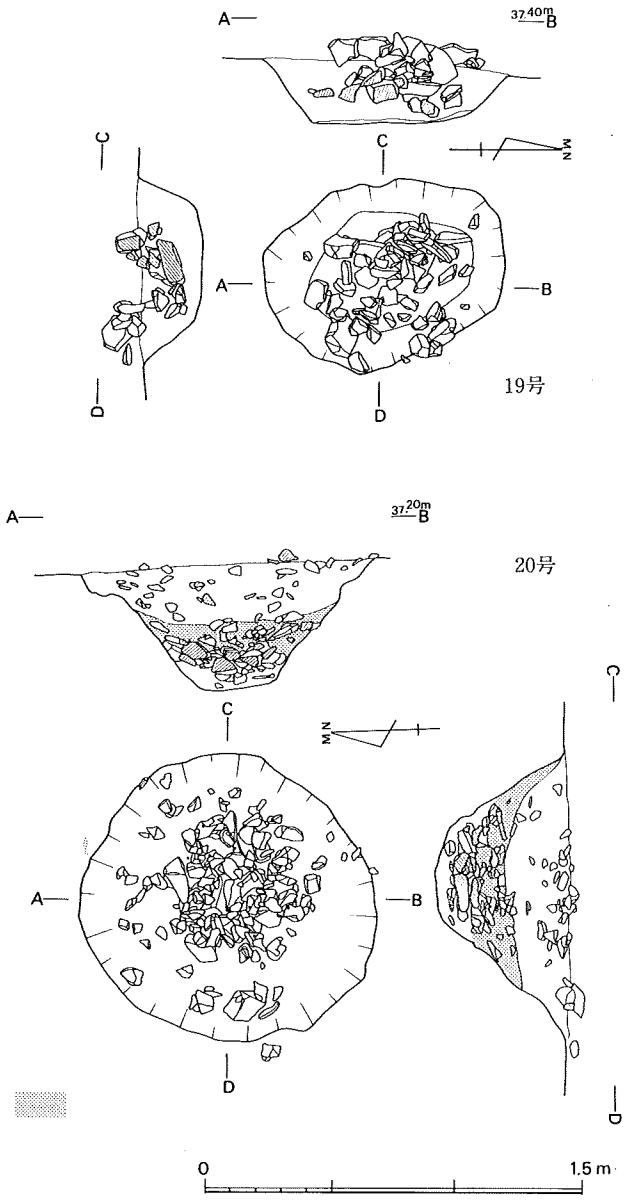


Fig.123 集石遺構③（1/30）

22号　（Fig.124）

ニ―34区のIV層面で検出。土壙は長径1.52m×短径1.15m程の楕円形状で，東端に浅い掘り込みの張り出し部分があり，主体部は径1.15m×深さ0.45m程の円形状を呈し，深い掘り込みをもつ。

礫石は土壙の周壁部分に９個の頭大位の大礫を利用して，ほぼ円形状に置き並べ，その内に拳大位の礫石がびっしり詰った状態で検出された（土壙部分の北側は若干掘りすぎたようだ）。

炉底と礫石下面には炭化物・灰を多量に含む土が約10cm程堆積している。炭化物の樹種同定の結果，シイノキが使用されている。

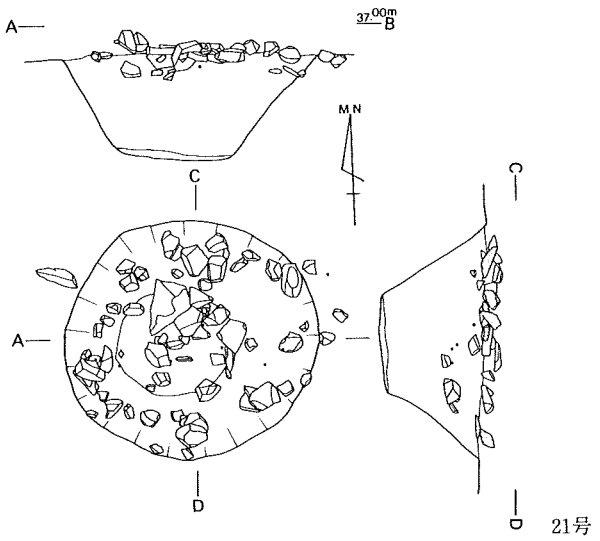
遺物は剝片３点，砕片３点出土。

C^{14}年代測定で7130±115 Y.B.P（6920±110 Y.B.P.）年代を得ている。

23号　W—35・36区の第II層で検出。土壙は径0.8m×深さ0.37mの円形状で，深い掘り込みをもつ。（Fig. 125）

土壙内の礫石は拳大から頭大位までを用い，下面になるほど大きい礫を利用している。

土壙の周壁および礫石も火熱を受けて赤変しており，礫石も5点程接合する。炭化物も検出され遺物（砕片3点）が出土。



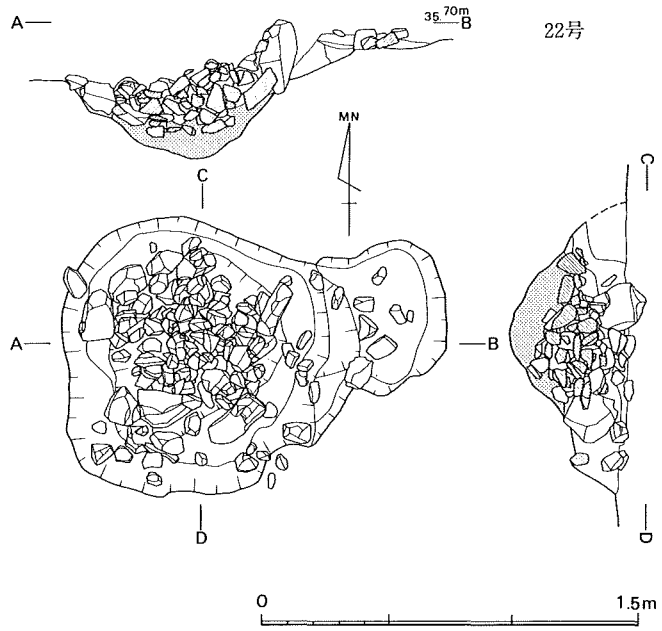
21号

24号　（Fig. 125）

W—36区の第II層で検出。土壙の規模は長さ1m×幅0.5m程の範囲に帯状に集石し，土壙の掘り込みはみられない。

礫石は拳大位のものを利用している。

遺物は石鏃1点，剝片1点，砕片6点出土。



22号

25号　（Fig. 125）

Y—33区の第II層中に検出。土壙は径0.63m×深さ01m程の円形状で浅い掘り込みをもつ。

礫石は少なく9個程で，土壙周壁も火熱を受け赤変し，炭化物を検出している。

遺物は土器片1点，剝片1点出土。

Fig.124　集石遺構④（1/30）

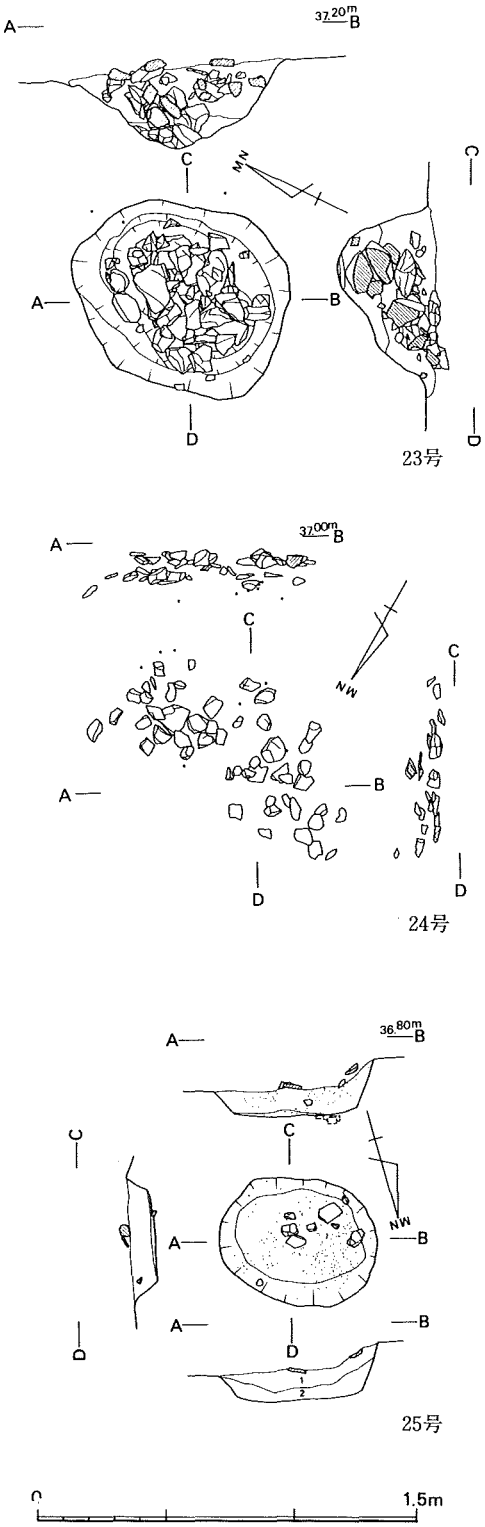


Fig.125 集石遺構⑤ (1/30)

以上のようにB地点の集石遺構は10基で，A地点と同様な形態を呈し，その特徴は，①円形で浅い皿状の土壙をもち，その中に礫石が詰った状況のもの（18, 19, 21, 25号）とそうでないもの（7, 23号）がある。②は①に比べて土壙部分が深く，炉底直上に礫石が敷き並べた状況で残存するもの(20号)。③は浅い土壙に砂岩の板状石を花弁状に置き並べ，その上に礫石が集石するもの（17号）と土壙内に頭大位の礫石をほぼ円形に囲みその中に礫石が集石するもの（22号）である。④は礫石が集石し，土壙部分の掘り込みがないもの（24号)。

以上のような形態に分れ，それぞれ土壙の底・周壁が焼け，礫石も赤変し，炭化物も多く検出されていることから，集石遺構は焼石を利用した調理用の炉址としての用途面をもつものと考えられる。

また，鷹野遺跡では24号は炉址としての用途面よりも，集石・炉穴遺構に利用する礫石が集石されたものとして，他の礫群と共に捉えられなくもない状況が窺われる。

Tab. 21　集石遺構一覧表

集石遺構	層位	形態分類	土壙形状	規模 上面プラン 長径×短径(m)	規模 深さ(m)	土壙焼成	礫数	炭化物	出土遺物
7	II	B	(円形)	0,98×0.75	0.22	○	54	○	石鏃3剝片7，砕片111（覆土中）
17	II	B	円形	0.84×0.92	0.27	○	190	○	砕片10，土器片
18	II	B	円形	1.20	0.30		23	×	
19	II	B	楕円形	0.95×0.70	0.25		78	○	砕片26
20	II	B	円形	1.14	0.55	○	146	○	剝片15，砕片55
21	II	B	円形	1.01	0.42		87	×	剝片2，砕片16
22	IV(III)	B	円形	1.52×1.15 1.15	0.45	○	120	○	剝片3，砕片3
23	II	B	円形	0.83	0.37	○	143	○	砕片3
24	II	B	ナシ	1.0 ×0.5		×	23	×	石鏃1，剝片1，砕片6
25	II	B	円形	0.63	0.11	○	9	○	剝片1，土器片1

③ **炉穴遺構**　集石遺構と同様にW・X—34～36区，Y～Z—32～34区，ハ～ホ—34・35区の3群に分かれて検出され，Y・Z区の遺構は層位的に2つの層に分かれて検出されている。A地点と同様に炉址の性格をもつ。

10号（Fig.126）　Y—33区で25号炉穴に隣接して，第II層で検出された。土壙は径0.4m×深さ0.17m程の円形状を呈す。土壙周壁部分も火熱を受けた痕跡があり，礫石も赤変して上面に集中する。

11号（Fig.126）　W—35区の第II層で検出。土壙の規模は長径1.3m×短径0.55m×深さ0.22m程の楕円形状を呈す。特に中央から東端部分にかけて炉底・周壁部分の焼土化が著しく，火熱を受けて赤変した礫石も集中する。

遺物は剝片5点，砕片15点，土器片2点出土し，炭化物も多量に検出。

この炉穴は科学的処理後に土壙部分を切り取る作業を行った。

12号（Fig.126）　20号集石に隣接し，W—35区の第II層に検出された。

検出時には東西に楕円形状に確認したが，更に北側へ掘り込み部分が拡がった。

土壙の規模は東西1.05m×南北1.05m×深さ0.5m程の深い掘り込みをもち，不定形状を呈す。土壙の南側部分に焼けた痕跡が著しく，礫石・炭化物も集中して検出した。

13号　X—31区の第II層で検出。土壙は東西0.44m×南北0.32m程の小形で

(Fig.126)　円形状を呈す。深さは0.13mと浅い。
炉底・周壁部分は熱を受け焼土化し，礫石は東端部に集中をみせる。
遺物は剝片１点，砕片17点出土。

14号　Ｚ－34区の第II層で検出。土壙の規模は東西0.6m×南北0.35m×深さ0.12m程で楕円形状を呈す。東端部分が深くなり，その部分に礫石も集中し，炉底・炉壁は赤く焼け，礫石も赤変している。
(Fig.126)
遺物は砕片２点出土。

16号　ハ－34区の第II層で検出。土壙は東西0.6m×南北0.53m×深さ0.2m程の小形で円形状を呈し，浅い掘り込みをもつ。炉壁・底も火熱を受けて焼土化し，礫石も西側に集中を示し，赤変したものもある。
(Fig.126)
遺物は石鏃１点，剝片３点，砕片７点が出土し，炭化物を検出した。

Tab. 22　炉穴遺構一覧表

炉穴遺構	層位	形態分類	土壙形状	規模 上面プラン長径×短径(m)	規模 深さ(m)	土壙焼成	礫数	炭化物	出土遺物
10	II	B	円形	0.43×0.37	0.17	○	12	○	
11	II	B	楕円形	1.30×0.55	0.22	○	30	○	剝片５，砕片15，土器片２
12	II	B	不定形	1.05×1.05	0.50	○	40	○	砕片13
13	II	B	円形	0.44×0.32	0.13	○	16	○	剝片１，砕片17
14	II	B	楕円形	0.60×0.35	0.12	○	18	○	砕片２
16	II	B	円形	0.58×0.53	0.19	○	29	○	石鏃１，剝片３，砕片７
17	IV(III)	B	楕円形	1.25×0.50	0.14	○	17	○	砕片１
18	II下面	B	楕円形	1.15×0.55	0.17	○	26	○	砕片61，土器片14
19	II	B	楕円形	(0.91)×0.50	0.25	○	4	○	剝片１，砕片３，土器片２
20	III	B	円形	0.35	0.07	×	1	○	砕片４
21	III	B	楕円形	0.92×0.42	0.15	○	0	○	土器片１
22	III	B	長楕円形	1.58×0.55	0.17	○	1	○	砕片９，土器片４
23	II	B	楕円形	0.70×0.50	0.25	○	11	○	剝片１，砕片８
24	II	B	円形	0.44×0.35	0.14	×	1	○	砕片７
25	II	B	円形	0.75×(0.5)	0.18	×	12	○	剝片１，砕片54
26	III	B	長楕円形	1.67×0.65	0.32	○	33	○	石鏃１，剝片４，砕片105，土器片５
27	II下面	B	楕円形	1.08×0.48	0.12	○	16	○	砕片11，土器片６
28	II下面	B	楕円形	(0.35)×0.41	0.14	○	1	○	砕片２
29	III	B	長楕円形	2.02×0.77	0.30	○	32	○	剝片５，砕片19，土器片10
30	III	B	楕円形	1.55×(0.70)	0.27	×	14	○	砕片６

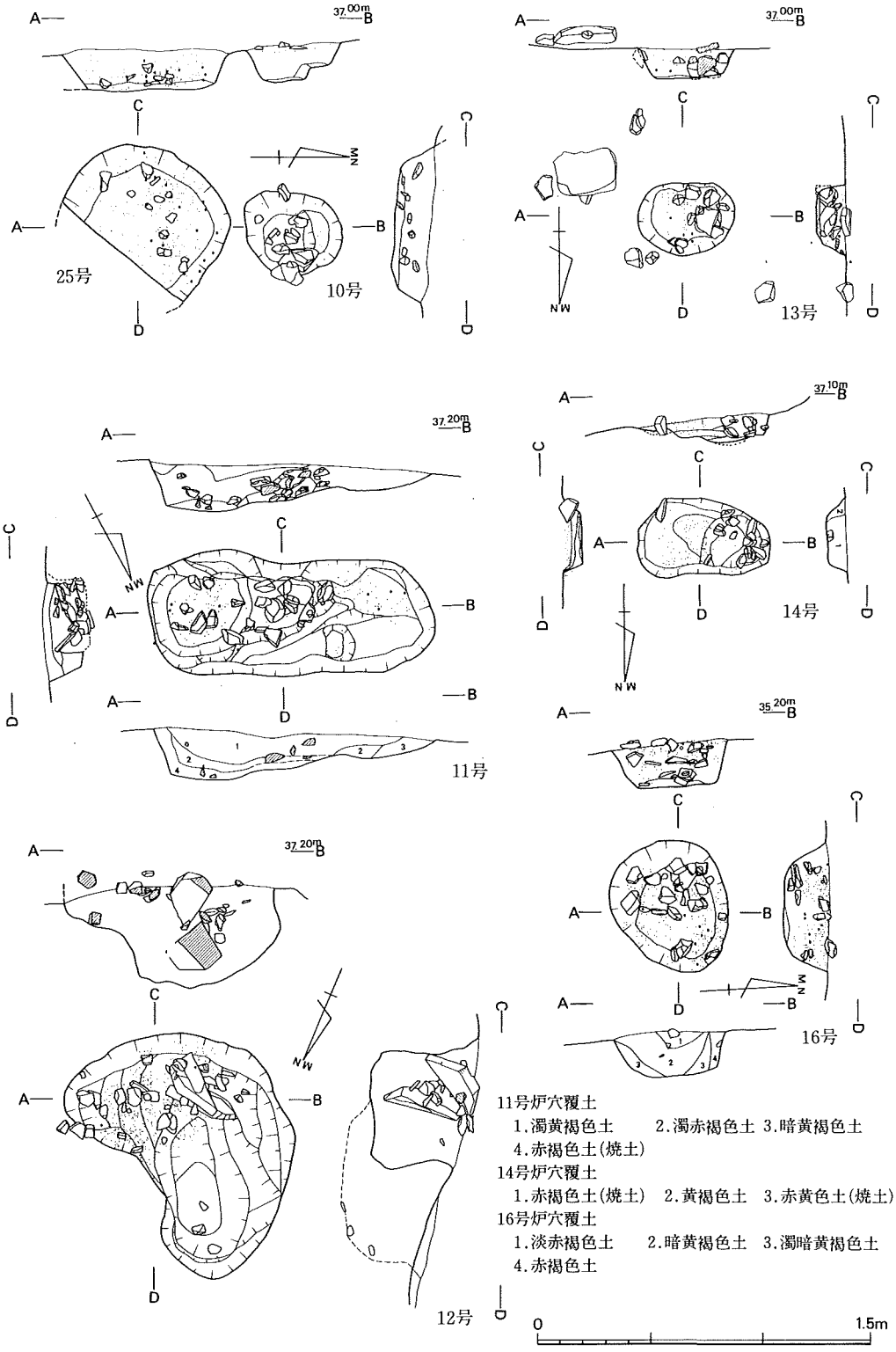
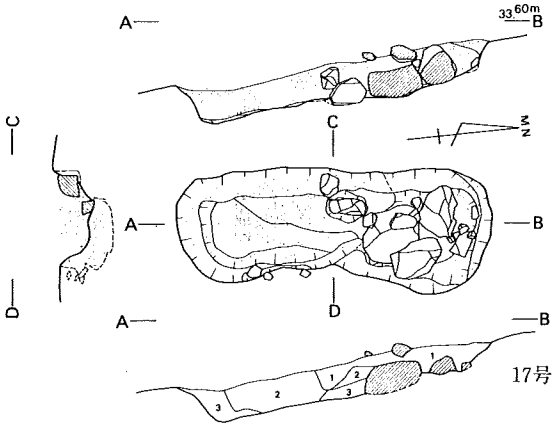
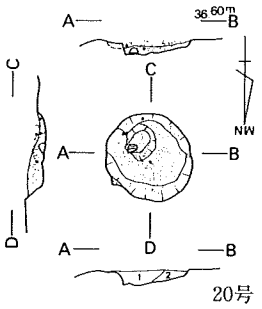


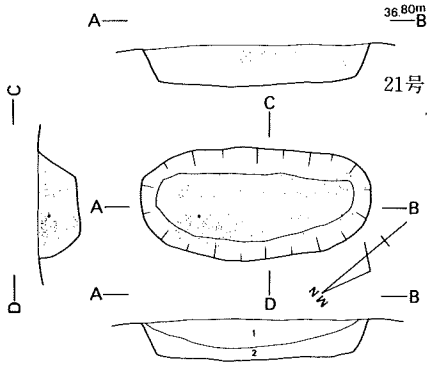
Fig.126 炉穴遺構① (1/30)

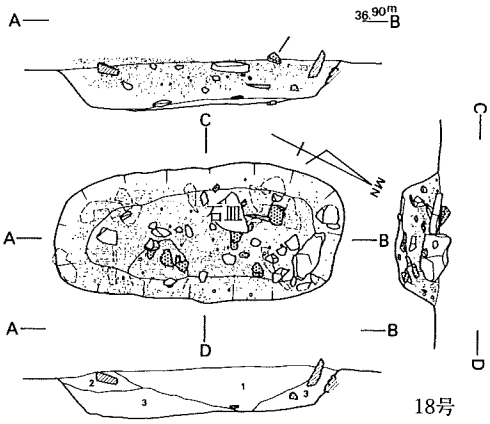


17号炉穴覆土
1.黄色土　2.砂岩粒混在赤褐色土(焼土、炭化物を含む)
3.暗黄褐色土



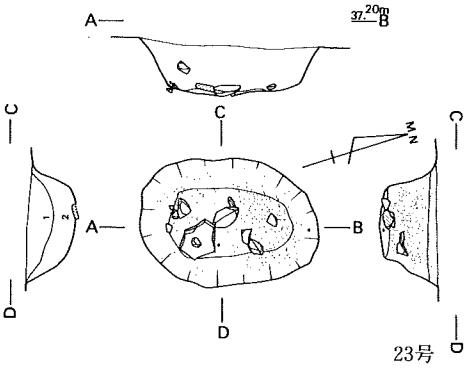
20号炉穴覆土
1.濁赤褐色土
2.はだいろ

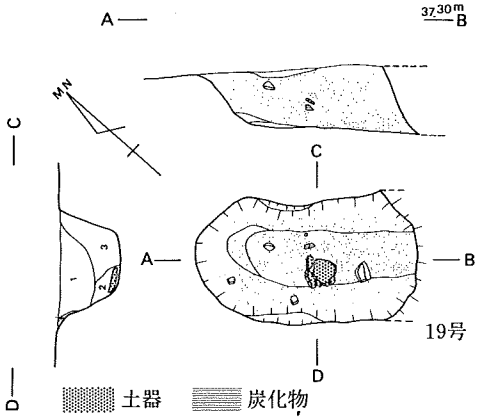




土器　炭化物　粘土

18号炉穴覆土
1.濁赤褐色土（炭化物混在）2.濁黄褐色土（炭化物混在）
3.濁黄色土





土器　炭化物

19号炉穴覆土
1.濁黄褐色土　2.暗黄褐色土　3.赤褐色土
(焼土、炭化物を含む)

21号炉穴覆土
1.赤褐色土　2.暗赤褐色土

23号炉穴覆土
1.黄褐色土　2.赤褐色土(焼土、炭化物を含む)

0　15m

Fig.127　炉穴遺構②（1/30）

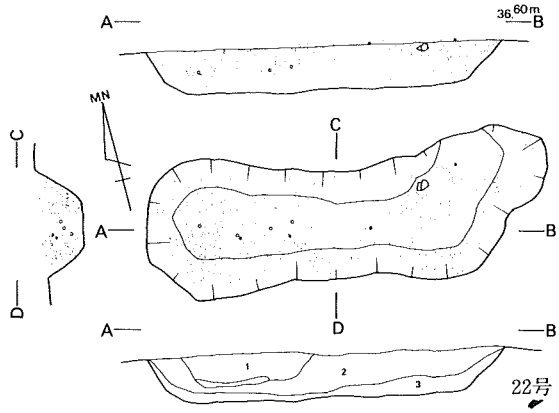
17号　B地点の遺構群の中で最南端に当り，ホ—35区の第II層下部で検出。
(Fig.127)　土壙は長径1.25m×短径0.5m×深さ0.14m程で，楕円形状を呈す。
土層堆積が北から南へ傾斜をしているが，この炉穴も同様な傾斜をもち，構築されている。
炉床・炉壁は焼土化し，土壙南端部より約0.9m程の範囲の炉床・壁が焼けている。
礫石は北端部分に頭大位の砂岩礫が詰った状態で検出された。
C¹⁴年代測定で 9520±105Y.B.P（9250±100Y.B.P）を得ている。

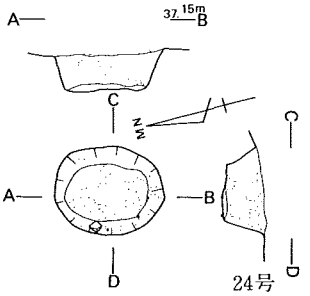
18号　Y—33区の第II層最下部で検出。土壙は長径1.15m×短径0.55m×深
(Fig.127)　さ0.17m程の楕円形状を呈す。
土壙上面に礫石が，その下面に粘土塊のブロックと赤く焼けた土器片が数多く検出され，石皿の砕片および炭化物も検出した。
遺物は土器片14点，石皿1点，砕片61点が出土し，周囲より無文の尖底土器片が出土している。
これらの粘土塊および土器片に顕著なことは，この炉穴の用途面で他と違った様相を示しているようだ。

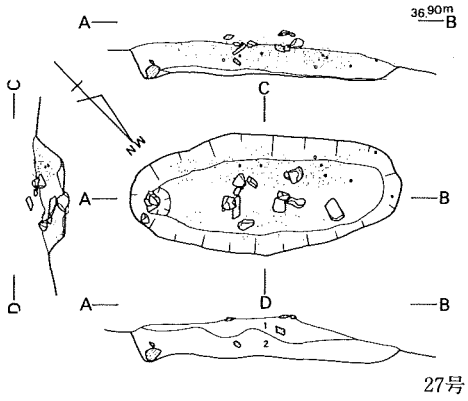
19号　W—35区の第II層で検出。遺構の南西部分はドーナツ状土壙のために
(Fig.127)　破壊されている。
土壙は長径0.91m×短径0.5m×深さ0.25m程の楕円形状を呈すものと思われる。炉床，周壁部分は火熱を受けて焼土化し，炉床面に土器片が張り付いた状況で検出され，礫石も焼けて赤変している。

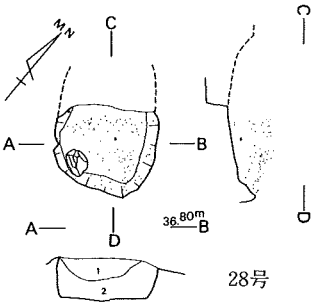
20号　Z・イ—34区の第III層で検出。土壙は径0.35m×深さ0.07m程の小形で
(Fig.127)　円形状を呈し，浅い掘り込みをもつ。(炉底は砂岩の基盤層)
赤変した礫石が炉底に1個と炭化物が検出された。
遺物は砕片4点出土。

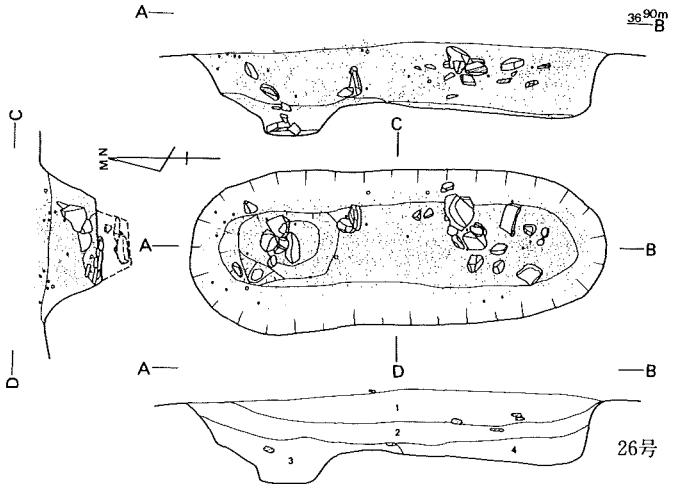
21号　Z—32・33区の第III層中に検出。土壙は長径0.92m×短径0.42m×深
(Fig.127)　さ0.15m程の楕円形状を呈す。
南壁・炉床に若干焼けた痕跡がみられるが，礫石は無く，炭化物を検出した。遺物を土器片1点出土。











22号炉穴覆土
1.暗赤褐色土
2.焼　土
3.濁黄褐色粘質土
4.黄褐色粘質土

26号炉穴覆土
1.濁黄褐色土
2.暗黄褐色土
(炭化物を含む)
3.焼土塊混在、赤褐色土
(炭化物を含む)
4.黄褐色土

27号炉穴覆土
1.濁黄褐色土
2.赤褐色粘質土
(炭化物を含む)

28号炉穴覆土
1.暗茶褐色土
2.褐色土

Fig.128　炉穴遺構③ (1/30)

22号　Z－33区の第III層中に検出。30号炉穴の東端部分の一部を壊して，構
(Fig.128)　築されている。土壙は長径1.58m×短径0.55m×深さ0.17mの長楕円形状を呈す。炉床・周壁の焼土化は余り明確でない。

礫石は土壙上面に1個と焼土塊，炭化物を検出した。

遺物は土器片4点，砕片9点が出土している。

23号　W－35区の第II層で検出。土壙は長径0.7m×短径0.5m×深さ0.25
(Fig.127)　m程の小形で楕円形状を呈す。炉壁，炉床に焼けた痕跡があり，炉床に扁平な砂岩，拳大位の小礫がみられ，炭化物も検出している。

遺物は剝片1点，砕片8点が出土。

24号　W－34・35区の第II層で，23号炉穴より北へ約30cm隣接して検出。
(Fig.128)　土壙は長径0.44m×短径0.35m×深さ0.14m程の小形で円形状を呈す。

炉内の焼土は明確でなかった。また礫石は土壙上面に1個と炭化物を検出した。遺物は砕片7個が出土。

25号　Y－33の区第II層で検出。土壙の1/3は調査時に掘りすぎて削平。
(Fig.126)　土壙は径0.75m×深さ0.18m程の円形状と考えられ，浅い掘り込みをもつ。炉底・炉壁の焼成は明確ではなかった。

26号　Y－33区の第III層中で検出。土壙は長径1.67m×短径0.65m×深さ0.3
(Fig.128)　m程の大形で長楕円形状を呈す。

炉底は北端部分が若干深く掘り込まれて，他は平担面を示している。北端部より0.9m程の範囲の炉底・炉壁の焼土化が著しい。

礫石は北端部分を除き，上面にあり，焼けて赤変しているものもある。

遺物は石鏃1点，剝片4点，砕片105点，土器片5点が出土。

27号　W－36区の第II層下部で検出。土壙は長径1.08m×短径0.48m×深さ
(Fig.128)　0.12m程の楕円形状を呈し，浅い掘り込みをもつ。炉底・炉壁には焼けた痕跡が残り，炭化物も検出された。

礫石は土壙上面に検出された。遺物は砕片11点，土器片6点が出土。

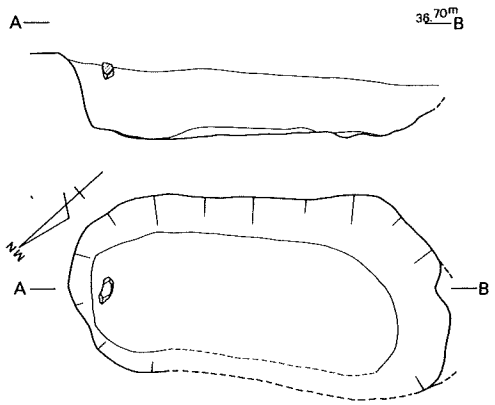
28号　Y－32区の第II層最下部で検出。遺構の北側部分の一部を調査の際に
(Fig.128)　掘りすぎたようだ。土壙は長径0.35m(現径)×短径0.41m×深さ0.14m

程で楕円形状を呈すと考えられる。

南端の炉壁に火熱を受けた痕跡が残り，礫石が１個と炭化物を検出。

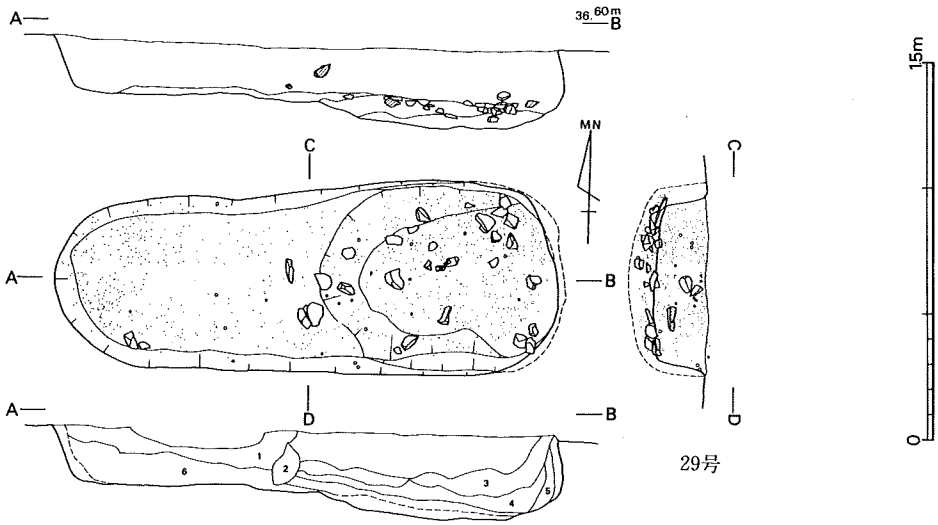
29号　　Y－32区の21号集石の直下の第Ⅲ層中で検出。土壙は長径2.02m×短
(Fig.129)　径0.77m×深さ0.77m程の大形で長楕円形状を呈す。

中央から東側部分は皿状の凹地が認められ，焼土とその上部に黒褐色の炭化物を多量に含む土が覆っていたが，西側部分の炉底面は炭化物をほとんど検出できなかった。また，東側部分の壁面は袋状になり，火熱を強く受けた痕跡が顕著に認められる。



29号炉穴覆土
1.褐色粘質土　2.黄褐色粘質土
3.淡黄褐色粘質土　4.黒褐色土
(炭化物を多量に含む)
5.赤褐色土(焼土)　6.明褐色粘質土

30号



29号

Fig.129 炉穴遺構④ (1/30)

この炉穴も他と同様に，遺構の一端で集中的に火を焚いた状況が窺われる。

東側部分に拳大位の礫石が集中するが少ない。

遺構検出炭化物の樹種同定により，コナラ・シイノキ・クヌキ・ハンノキが使用されたことがわかった。

遺物は剝片５点，砕片19点，土器片10点が出土。

30号　Ｚ－33区の第III層中に検出。

(Fig.129)　遺構は石蓋土壙直下に検出され，そのために遺構の大部分は石蓋土壙の掘り込みにおいて切られ，遺構東端部は割合原形をとどめ，覆土の観察もでき，炭化物も多量に含む土層を確認した。

その他の部分についてはどのような状態であったのか観察不能であったが，遺構炉底面については長軸断面部において原形をとどめる。

西端部分は22号炉穴と切り合い関係にあり，22号炉穴の構築の際に，30号炉穴の一部を壊して作られたものであろう。

土壙の規模は長径約1.55m×短径推定0.7m×深さ0.27m程で，楕円形状を呈すものであろう。炉内が焼けた痕跡は明確ではなかった。

以上のようにＢ地点の炉穴遺構は20基検出されている。Ａ地点と同様に土壙部分が火熱により焼けており，土壙内の礫石も火熱を受けているものが多く，炭化物が顕著に検出されることで炉址として捉えた。

炉穴は楕円形状を呈すものと円形状を呈すものに分かれる。

楕円形状を呈すものは長径1.2mを越す大形のもの（17，22，26，29，30号）とそれ以下のもの（11，12，18，19，21，27，28号）に分かれる。前者は第III層中に，後者は21号を除き第II層中に検出されている。

また円形状のものは径約60cmを越えるもの（14，16，23，25号）とそれ以下の小形のもの（10，13，20，24号）があるようだ。

炉穴の中でも炉址としての用途面での利用目的の相違が炉址の形状面に表われたのであろう。

④　石蓋土壙　Ｚ－33区の集石・炉穴遺構群の中で第II層で検出され，構築の際に第III層検出の21・30号炉穴遺構を壊して土壙部分が形成されている。

(Fig.130)　土壙の規模は南北1.27m×東西1.1m×深さ0.45m程の円形に近い形状を呈す。土壙上面に砂岩の板状石を置き並べた状態で検出された。

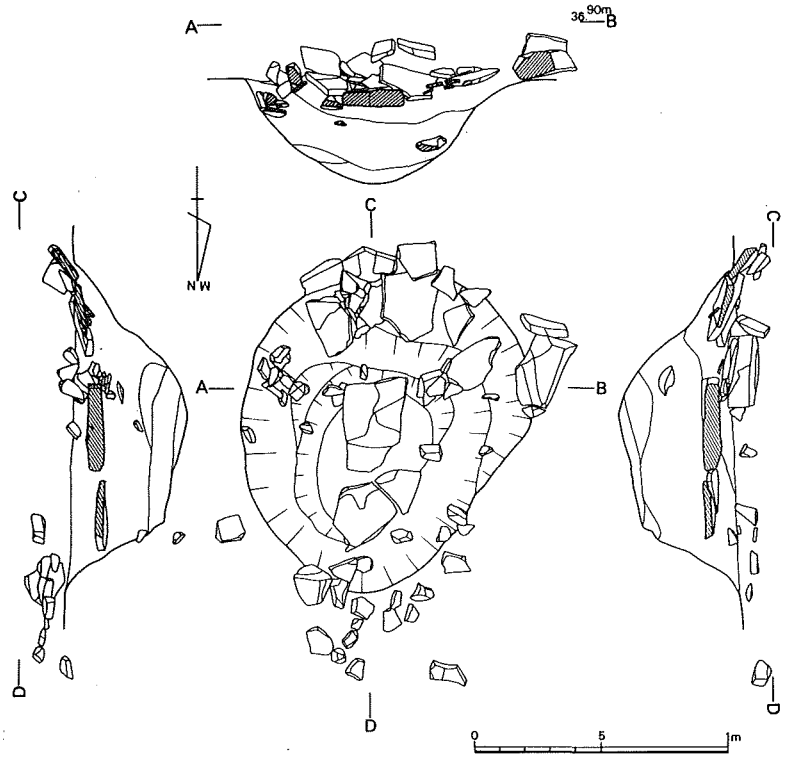


Fig.130 石蓋土壙（1/30）

この遺構は他と違っており，確定付けるものはないが，墓跡的な様相をもつものと考えられる。

Fig.131 1号礫群（1/40）

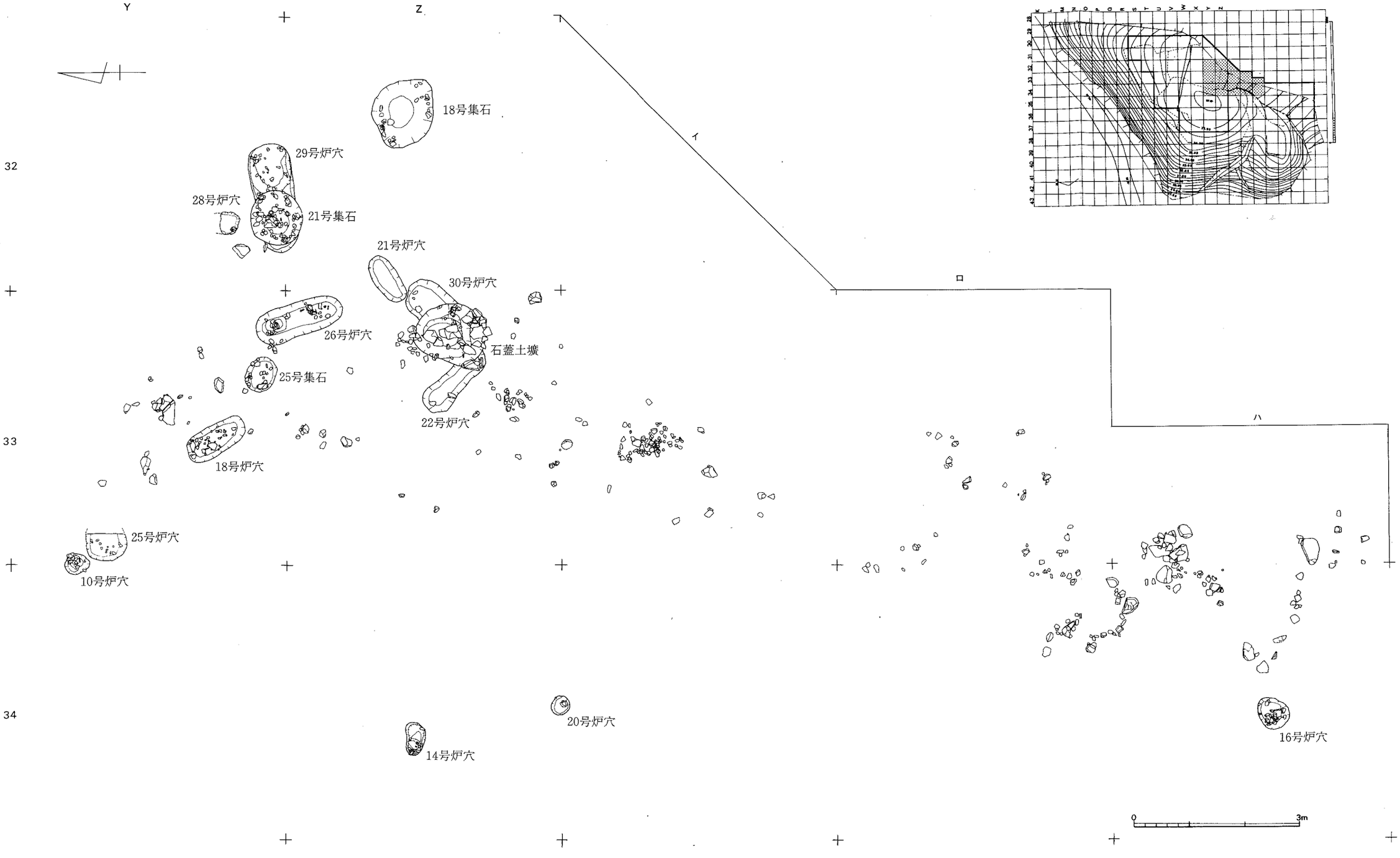


Fig.132 集石・炉穴遺構群と 2 号礫群 (1/80)

⑤ **礫群遺構**　B地点で1～3号礫群を検出した。

1号　V－34・35区の第II層面で，炉跡群の北側に礫石が集中したもので，
(Fig.131)　規模は東西2.6m×南北1m程の帯状に検出された。

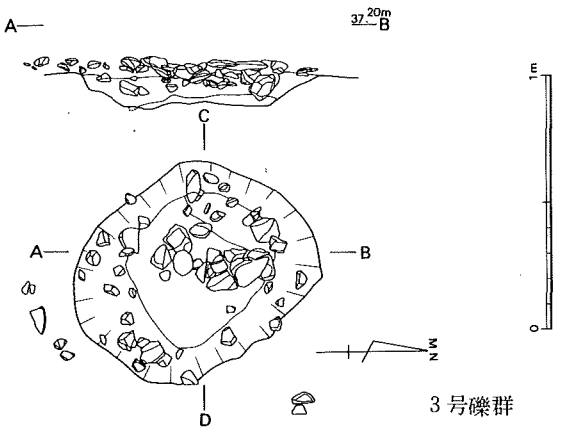
礫石は平担に集石し，玄武岩・砂岩がほとんどで，火熱を受けたのか赤変したものもみられる。

この礫群は集石・炉穴遺構群に近接しており，これらの遺構群に使用する礫石の集積地と考えられる。

2号　Y～ハ－32～34区の第II層面で，炉跡群の東側に近接して検出された。
(Fig.132)　規模は南北25m×東西5m程で，北→南側へ傾斜する斜面に長帯状に礫石が検出され，Z－33，イ－33，ロ・ハ－34，ハ－33・34区の4箇所に集中する傾向がみられる。ここでは他の集石・炉穴遺構とは様相が違い礫群として捉えることにした。

礫石は拳大から頭大位で火熱を受け赤変したものも混じる。

これらの礫群も集石・炉穴遺構群に利用された礫石と考えられる。



3号　(Fig.133)

W－35・36区で，炉址群が集中する範囲の第II層で検出された。

規模は東西2m×南北1.7m程の範囲に円形状に集石し，礫石は赤変しているものもみられる。

土壙は約10cm程の浅い皿状を呈しているが，明確な掘り込みではない。

この3号も炉址群に使用された礫石が置かれた場所と考えられる。

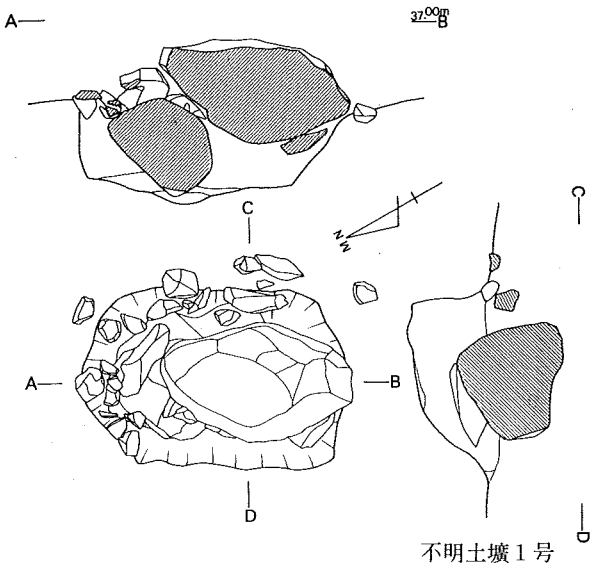


Fig.133　3号礫群・不明土壙 (1/30)

⑥ **不明土壙**　B地点で土壙部分の掘り込みをもつ，性格不明遺構が3基検出された。

1号　イ－32区の第II層で検出された。土壙は長径1.05m×短径0.7m×深さ0.45m程の楕円形状を呈す。

(Fig.133)　土壙内の北側に大礫が1個あり，その上に更に大礫を乗せ周囲に拳大

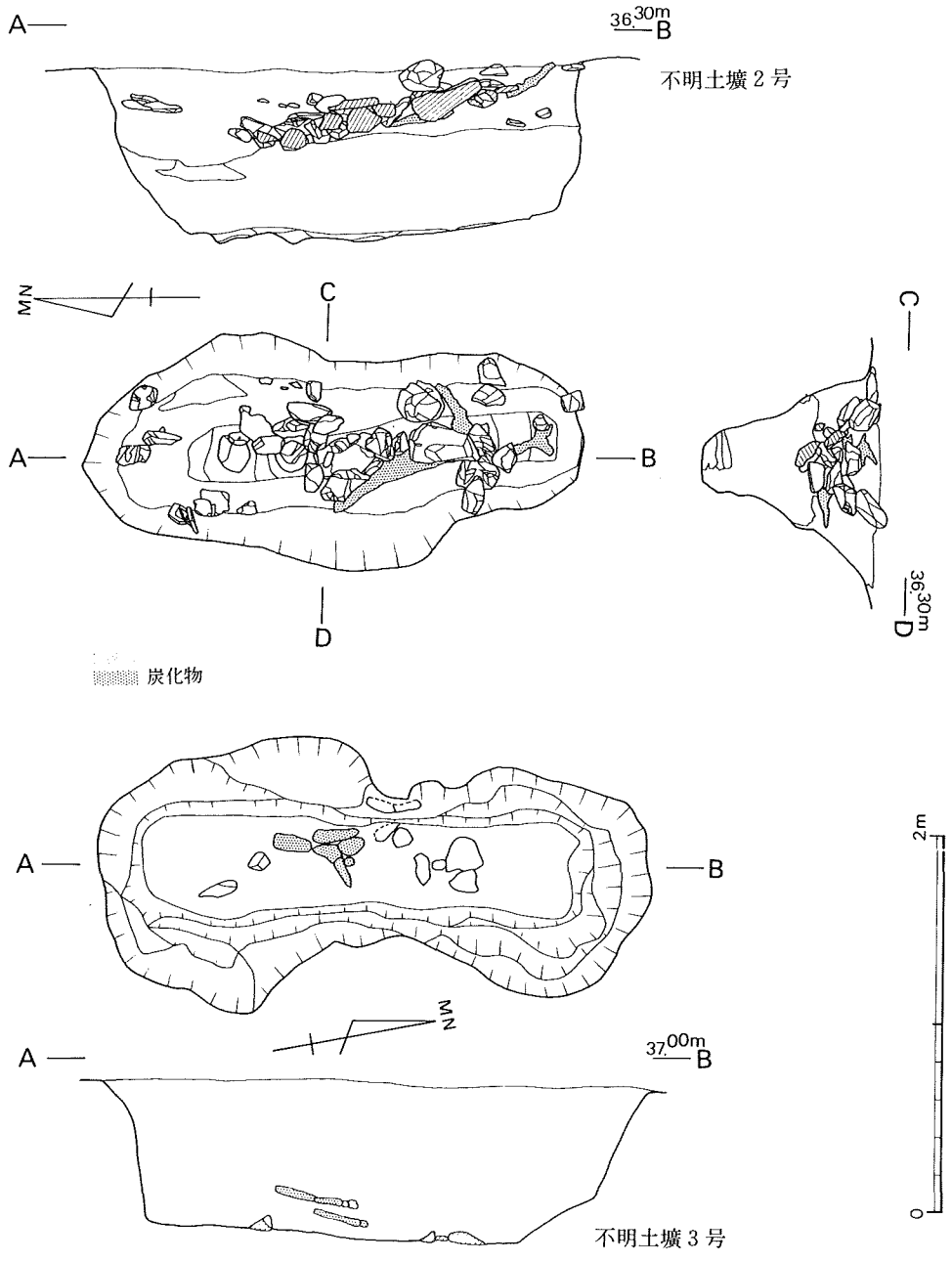


Fig.134 不明土壙 (1/40)

から頭大位の礫石が乗っている状況で検出された。遺物も無く，遺構の性格も不明であるが，墓址的な様相をもつものであろうか。

2号　U－31・32区の5・6号竪穴状遺構の間に検出された。
(Fig.134)　土壙は長径2.6m×短径1.1m×深さ0.9m程の楕円形状を呈す。
底面は2m×0.26mと狭く，砂岩の盤上に至り，その底に浅い凹みが並んで四個検出された。
土壙内には底面より50cm程上った面から上面にかけ拳大から頭大位の礫石が塊状の炭化物の上に乗った状態で検出された。
礫石は焼けたのか赤変している。

3号　X－30区の第II層で検出された。土壙は長径2.9m×最大短径1.3m，
(Fig.134)　最小短径0.7m×深さ0.8m程で，中央部分がくびれ分胴形状を呈す。深い掘り込みをもち，底面に礫石が置かれ塊状の炭化物が検出されている。

以上の不明土壙の内，2・3号は同様な性格を持ち，A地点でも同様な遺構が3基確認されている。
その特徴は①大きな楕円形状で，深い掘り込みをもつ土壙があること，②頭大位の礫石と塊状の炭化物が検出され，礫石は火熱を受け赤変しているものもあることの共通したものをもつが，性格は不明である。

B地点の遺構群の検出状況より，Y・Z－32・33区に第III層検出の長楕円形状の炉址群（炉穴6基）を使用した一群，その後の第II層の竪穴状遺構(住居址)の住居空間とW・X－34～36区の炉址群，Y・Z－32・33区の炉址群，ハ～ホ－34・35区の炉址群の3群に分けることができるようだ。

(2) 遺物出土状況

B地点は，A地点との間に浅い谷を挟み，南西側に形成された比較的狭い鞍部を有した標高36～38m程の低地丘陵である。特に南側を除けば全体的に36mを過ぎるあたりより急激な下り斜面となる。従って調査範囲そのものも狭くなるが遺物の出土はかなりの量を占める。土層は平担で比高差がわずかなためか極めて整然とした状況を成す。しかも第II層（黄褐色粘質土），第III層（黄褐色粘質土）それぞれにおいて遺物が多量に出土する。第IV層においても若干ではあるが遺物が出土する。しかし，あまり明確な資料を得ておらず，遺物の下降なども考えられよう。

土器は本地点でもやや少ない出土で保存状況はやはりよくない。確認できた文様は胴部片において押形文土器（格子目文）の1点のみにすぎない。形態としては円筒形もしくはそれに近いものである。底部はA地点と同様尖底と平底がみられるが，若干異なる感じである。特に尖底を成すものは，部厚く大型である。しかも第III層より出土する。ここでは詳細を省くが，時間的な差を考えられるものと思われる。石器もそれぞれの層より多数出土する。削片・剝片の他・石鏃・スクレイパー・加工痕ある石器・使用痕ある剝片・石槍・彫器・楔形石器・磨石・敲石・凹石・砥石・石皿・石核が出土する。これらの中には形態的や層位的に特徴を成すものがいくつかみられるようである。

(3) 出土遺物

① 土　器 (Fig.135) 〔PL. 43〕

B地点より出土する土器の内，11点を図化し記載した。

1は口縁部片（2点接合）である。風化が進み文様は判別できない。口唇部へ行くに従い薄くなる。形状は若干外へ開きぎみに直立するようである。口唇部も外側へ高くなる形を呈する。焼成はやや良好で，胎土には荒い砂粒子を含む。色調は内外ともに茶褐色である。2は1と同じく口縁の破片（2点接合）でやや外反する形状を呈する。口唇部は風化がひどく明確ではないが平担なようである。特に表面の風化が著しく，凹凸状を成す。文様は判別できない。焼成はあまり良くなく，胎土には細かい砂粒子を含む。色調は表面が茶褐色，裏面は一部黒色を帯びるが全体としては暗褐色である。3は胴部片（3点接合）である。微妙に内湾する形状を呈する。風化が著しく文様は不明。焼成はやや良好で，荒い

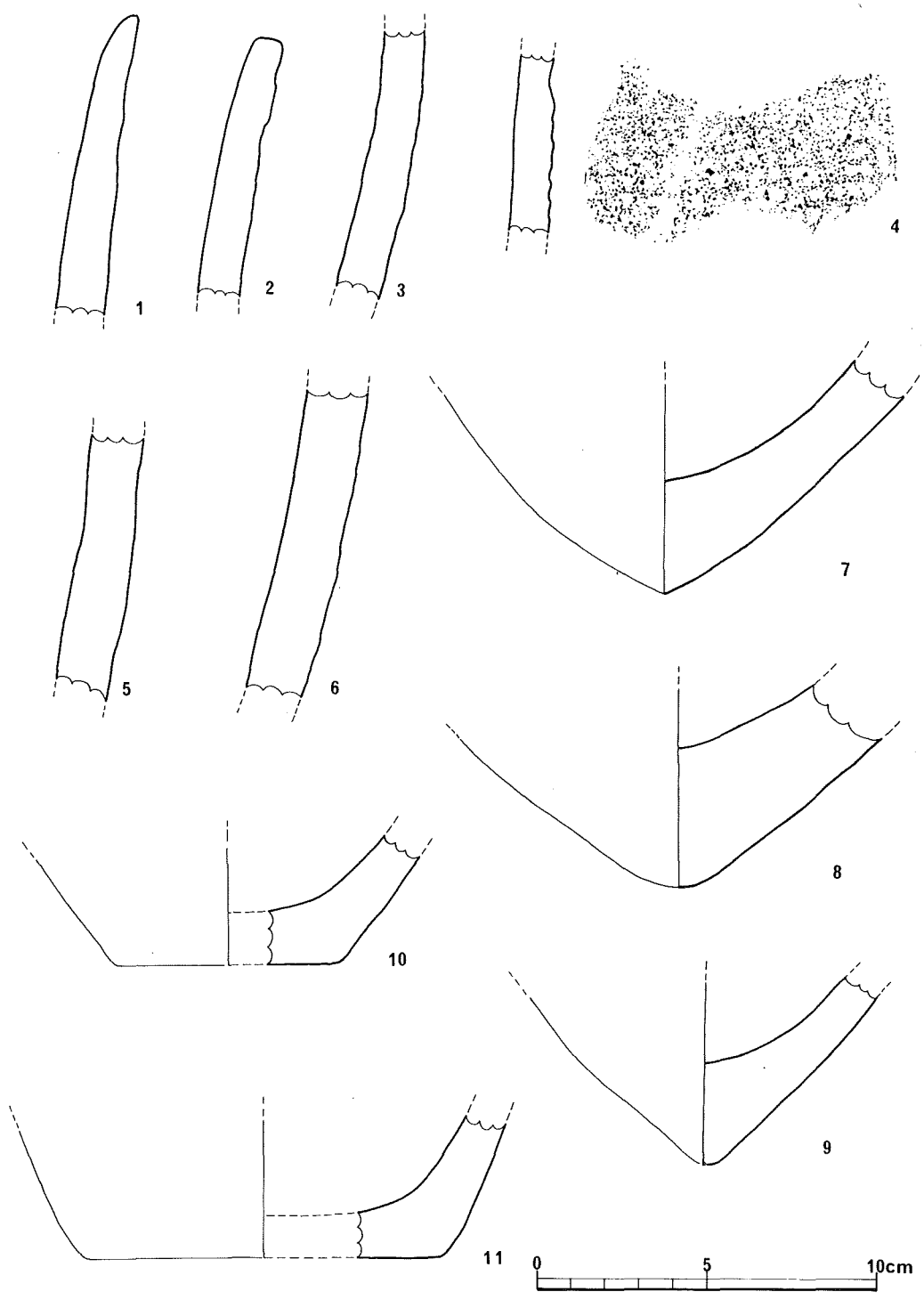


Fig.135 縄文時代の土器 (1/2)

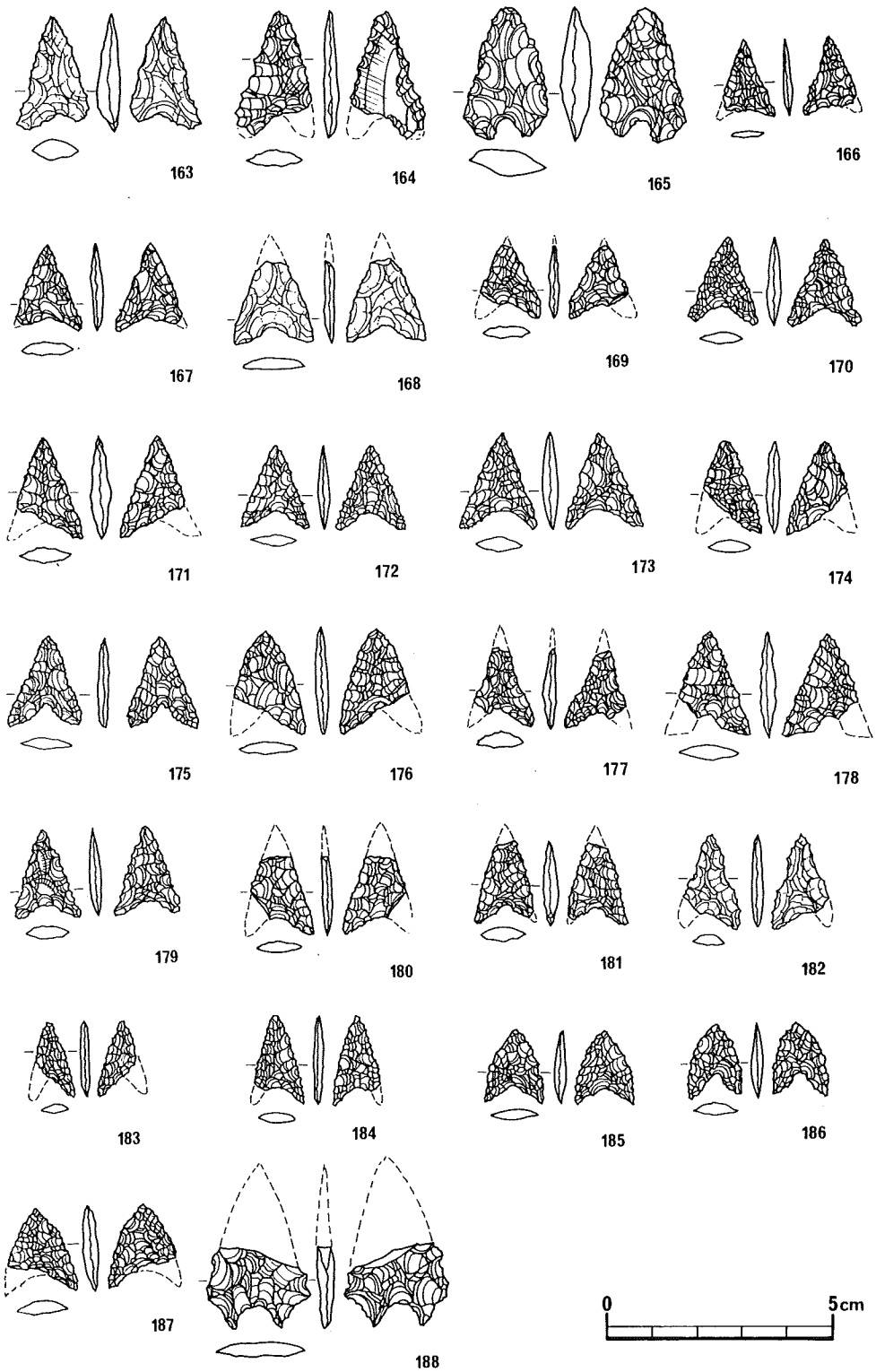


Fig.143 縄文時代の石器—石鏃⑦ (2/3)

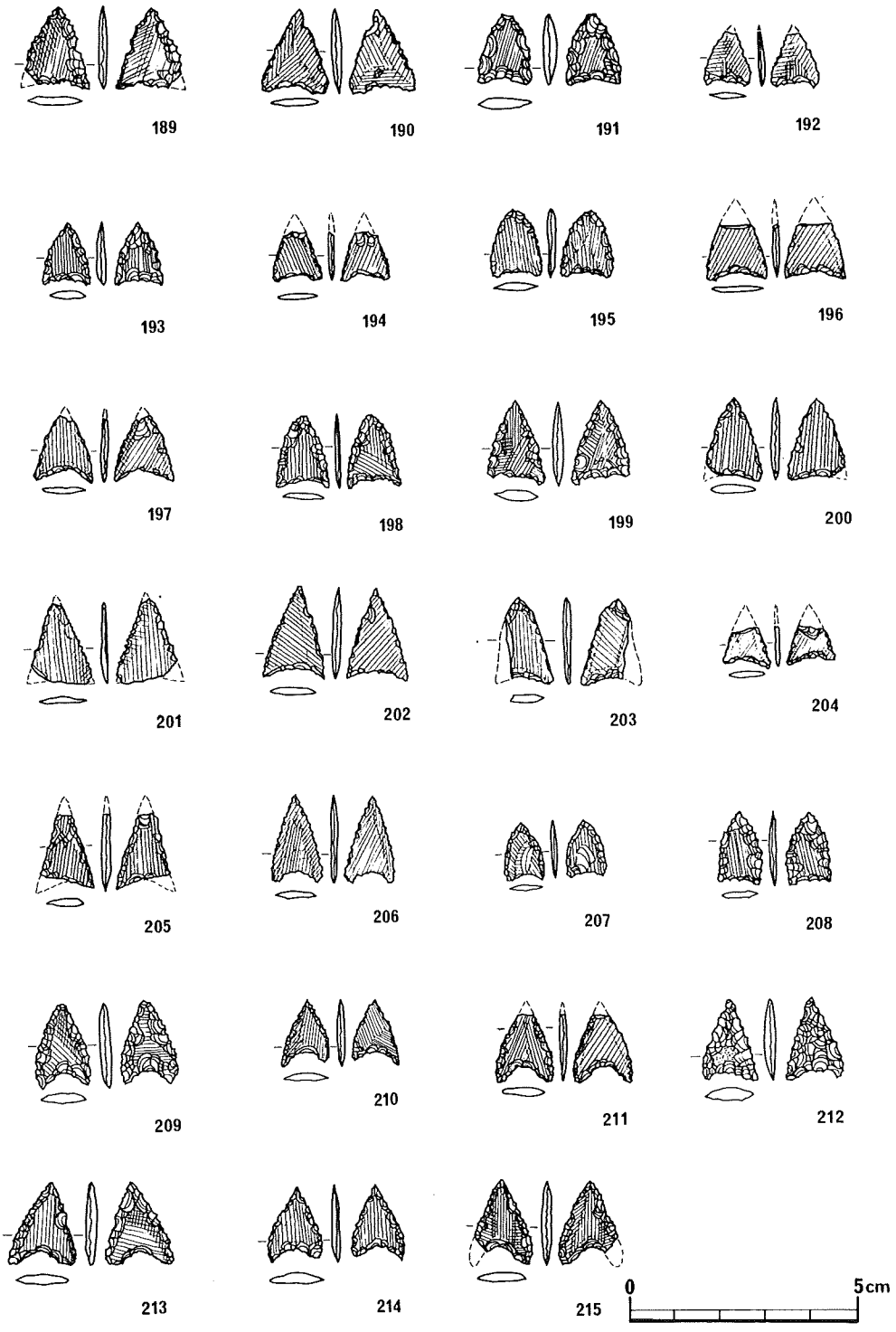


Fig.144 縄文時代の石器—石鏃⑧ (2/3)

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm) 長	幅	厚	抉り(cm) 深度	幅	先端角度	分類
39	ハ—34	炉穴	黒曜石C	A		〈1.3〉	1.0	0.25				$I b_3$
40	イ—33	黄褐色粘質土	〃 B	完	0.2	1.1	0.9	0.2			58°	〃
41	Z—33	黄褐色粘質土	〃 A	完	0.3	1.3	1.0	0.4	0.05	0.8	94°	〃
42	ホ—35	黄色粘質土	〃 C	完	0.5	1.6	1.1	0.25			45°	〃
43	Y—32	落ち込み	〃 A	完	0.5	1.5	1.2	0.3				〃
44	X—32	赤褐色粘質土	〃 C	完	0.9	1.7	1.4	0.5			60°	〃
45	X—31	赤褐色粘質土	〃 A	A		〈1.7〉	1.3	0.2	0.05	0.9		〃
46	W—33	ドーナツ状土壙	〃 A	完	1.0	1.8	1.3	0.5	0.05	0.7	66°	〃
47	Z—33	黄褐色粘質土	〃 B	完	0.7	1.8	1.1	0.4			85°	〃
48	Y—32	黄褐色粘質土	〃 B	C		2.6	〈2.1〉	0.6			75°	〃
49	Z—36	撹乱中	〃 C	A		〈2.0〉	1.4	0.3	0.05	1.1		〃
50	X—31	赤褐色粘質土	〃 C	完	0.5	1.6	1.3	0.4	0.05	1.3	47°	〃
51	ハ—34	黄褐色粘質土	〃 B	完	0.7	1.8	1.3	0.4			46°	〃
52	Y—33	黄褐色粘質土	〃 C	A		〈1.9〉	1.4	0.3				〃
53	ハ—34	黄褐色粘質土	〃 B	完	0.7	1.8	1.4	0.3	0.05	0.9	62°	〃
54	Z—35	赤褐色粘質土	〃 C	C		1.9	〈1.3〉	0.3	0.05	〈1.2〉	66°	〃
55	X—32	表採	〃 C	完	1.1	2.0	1.3	0.5	0.05	0.8	61°	〃
56	Y—32	黄褐色粘質土	〃 B	完	1.0	2.2	1.4	0.4	0.05	1.0	59°	〃
57	X—35	赤褐色粘質土	〃 C	完	0.9	2.0	1.3	0.5	0.05	0.9	50°	〃
58	ロ—34	黄褐色粘質土	〃 B	C		1.9	〈1.4〉	0.3	〈0.05〉	〈1.1〉	65°	〃
59	ハ—34	赤褐色粘質土	〃 B	A		〈2.2〉	1.6	0.25	0.05	1.5		〃
60	ホ—35	黄褐色粘質土	〃 B	C		2.8	〈2.0〉	0.4	0.05	1.8	68°	〃
61	X—32	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.3	1.3	1.0	0.2	0.05	1.0	64°	〃
62	Z—34	赤褐色粘質土	〃 C	完	0.4	1.4	1.1	0.2			90°	〃
63	V—35	赤褐色粘質土	〃 A	完	0.3	1.6	1.2	0.1			65°	〃
64	Y—35	黄褐色粘質土	〃 B	完	0.5	2.0	1.1	0.3	0.05	0.8	65°	$I b_4$
65	イ—34	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.3	1.8	1.1	0.2			45°	〃
66	U—32	赤褐色粘質土	〃 C	A		〈2.0〉	1.1	0.15	〈0.25〉	〈1.0〉		〃
67	V—32	赤褐色粘質土	安山岩	C		1.1	〈1.3〉	0.15	〈0.2〉	〈1.3〉	99°	$II c_1$
68	X—34	赤褐色粘質土	黒曜石A	完	0.2	1.0	1.1	0.2	0.1	0.9	92°	$II c_2$
69	W—31	黄褐色粘質土	〃 A	完	0.2	1.0	1.0	0.2	0.1	0.8	72°	〃
70	W—31	黄褐色粘質土	〃 A	C		1.1	〈1.3〉	0.2	〈0.35〉	〈0.9〉	70°	〃
71	V—30	黄褐色粘質土	〃 A	完	0.4	1.3	1.4	0.2	0.2	0.95	88°	〃
72	Y—35	黄褐色粘質土	〃 B	完	0.3	1.4	1.2	0.2	0.1	0.9	64°	〃
73	Y—32	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.3	1.3	1.1	0.15	0.15	0.8	59°	〃
74	Y—33	赤褐色粘質土	〃 A	D		〈1.5〉	〈1.3〉	0.2	〈0.1〉	〈1.0〉		〃
75	ニ—34	黄色粘質土	〃 C	完	0.3	1.3	1.2	0.25	0.15	0.8	70°	〃
76	X—31	赤褐色粘質土	〃 C	D		〈1.5〉	〈1.3〉	0.25	〈0.15〉	〈1.1〉		〃
77	W—33	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.6	1.4	1.3	0.35	0.1	0.8	74°	〃

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm) 長	幅	厚	抉り(cm) 深度	幅	先端角度	分類
78	Z—33	黄褐色粘質土	黒曜石B	完	0.4	1.5	1.5	0.3	0.15	1.2	64°	IIc$_2$
79	X—34	ドーナツ状土壙	〃 A	完	0.4	1.3	1.2	0.3	0.15	1.0	54°	〃
80	Y—32	赤褐色粘質土	〃 A	完	0.3	1.4	1.3	0.2	0.35	1.1	57°	〃
81	W—34	ドーナツ状土壙	〃 C	完	0.8	1.7	1.6	0.4	0.15	0.9	66°	〃
82	イ—34	赤褐色粘質土	〃 C	C		1.3	〈1.1〉	0.3	〈0.3〉	〈0.8〉	46°	〃
83	X—33	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.3	1.3	1.3	0.2	0.2	1.0	79°	〃
84	X—34	黄褐色粘質土	〃 C	C		1.6	〈1.4〉	0.2	〈0.2〉	〈1.2〉	54°	〃
85	Y—32	ドーナツ状土壙	〃 C	C		1.9	〈1.8〉	〈0.2〉	〈0.15〉	〈1.7〉	52°	〃
86	ロ—34	黄褐色粘質土	〃 C	C		1.3	〈1.1〉	0.3	〈0.1〉	〈0.8〉	59°	〃
87	X—34	赤褐色粘質土	〃 B	完	0.5	1.4	1.2	0.4	0.15	0.9	46°	〃
88	Y—33	黄褐色粘質土	〃 C	C		1.2	〈1.4〉	0.25	0.15	1.1	55°	〃
89	イ—33	黄褐色粘質土	〃 C	C		1.4	〈1.3〉	0.2	〈0.2〉	〈1.1〉	62°	〃
90	Z—32	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.3	1.3	1.3	0.25	0.4	0.8	68°	〃
91	イ—33	黄褐色粘質土	〃 C	C		1.7	〈1.6〉	0.3	〈0.2〉	〈1.5〉	64°	〃
92	Z—32	黄褐色粘質土	〃 C	C		1.9	〈1.7〉	0.4	〈0.1〉	〈1.0〉	76°	〃
93	Z—37	赤褐色粘質土	〃 A	C		〈2.8〉	〈2.5〉	0.3	〈0.35〉	〈1.8〉	55°	〃
94	X—35	赤褐色粘質土	安山岩	完	0.7	1.6	1.5	0.4	0.3	1.1	55°	〃
95	ハ—34	赤褐色粘質土	黒曜石A	完	0.4	1.6	1.4	0.2	0.4	1.3	64°	〃
96	イ—34	赤褐色粘質土	〃 C	C		1.7	〈1.7〉	0.25	〈0.1〉	〈1.4〉	66°	〃
97	Y—33	赤褐色粘質土	〃 B	A		〈2.9〉	2.6	0.4	0.25	1.6		〃
98	ニ—34	黄色粘質土	安山岩	完	0.4	1.5	1.4	0.2	0.3	1.1	75°	〃
99	イ—33	黄褐色粘質土	黒曜石C	C		1.5	〈1.4〉	0.2	〈0.3〉	〈1.0〉	76°	〃
100	V—32	第5号土壙	〃 A	完	0.7	1.5	1.5	0.25	0.15	1.1	82°	〃
101	U—32	落ち込み	〃 C	完	0.3	1.2	1.1	0.2	0.1	0.8	74°	〃
102	Y—33	赤褐色粘質土	〃 A	完	0.2	1.3	1.1	0.15	0.2	0.9	67°	〃
103	イ—33	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.4	1.5	1.3	0.2	0.15	1.1	84°	〃
104	W—34	赤褐色粘質土	〃 A	C		1.1	0.9	0.05	0.1	0.9	60°	〃
105	Z—34	赤褐色粘質土	〃 C	完	0.3	1.5	1.3	0.15	0.1	1.1	50°	〃
106	Z—33	赤褐色粘質土	〃 C	完	0.3	1.3	1.3	0.15	0.15	1.0	70°	〃
107	ロ—33	赤褐色粘質土	〃 C	完	0.2	1.1	1.0	0.2	0.15	0.8	84°	〃
108	W—31	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.2	1.1	1.2	0.1	0.2	0.9	72°	〃
109	イ—33	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.2	1.3	1.1	0.15	0.1	0.9	60°	〃
110	イ—33	黄褐色粘質土	〃 B	C		〈1.5〉	〈1.3〉	0.1	〈0.1〉	〈0.8〉	61°	〃
111	ニ—35	黄色粘質土	〃 C	C		1.5	〈1.3〉	0.15	0.1	〈1.1〉	70°	〃
112	V—32	第5号竪穴	〃 A	D		〈1.9〉	〈1.5〉	0.2	〈0.1〉	〈1.4〉		〃
113	ロ—34	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.2	1.4	1.2	0.1	0.55	1.1	80°	〃
114	X—34	赤褐色粘質土	〃 A	C		〈1.4〉	〈1.2〉	0.1	〈0.5〉	〈1.1〉	79°	〃
115	イ—33	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.1	0.9	0.6	0.15	0.1	0.5	66°	IIc$_3$
116	X—34	落ち込み	〃 A	完	0.3	1.1	0.9	0.1	0.1	0.8	59°	〃

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm) 長	幅	厚	抉り(cm) 深度	幅	先端角度	分類
117	X—31	赤褐色粘質土	黒曜石A	完	0.3	1.3	1.0	0.2	0.1	1.0	63	IIc$_3$
118	X—32	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.2	1.2	1.0	0.2	0.1	0.9	58°	〃
119	Y—32	黄褐色粘質土	〃 A	C		〈1.1〉	〈0.9〉	0.1	〈0.1〉	〈0.6〉		〃
120	Y—32	黄褐色粘質土	〃 C	A		〈1.5〉	1.2	0.45	〈0.1〉	〈0.7〉		〃
121	Y—31	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.3	1.4	1.1	0.2	0.1	0.8	60°	〃
122	U—34	赤褐色粘質土	〃 A	完	0.4	1.5	1.1	0.3	0.1	0.4		〃
123	X—32	ドーナツ状土壙	〃 A	完	0.6	1.7	1.1	0.4	0.15	0.9	74°	〃
124	T—30	落ち込み	安山岩	A		〈1.6〉	1.2	0.3	0.1	0.9		〃
125	ロ—34	赤褐色粘質土	黒曜石C	完	0.4	1.6	1.0	0.3	0.15	0.8	54°	〃
126	X—37	赤褐色粘質土	〃 C	完	0.4	1.5	1.1	0.3	0.15	0.7	89°	〃
127	X—33	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.6	1.6	1.3	0.4	0.1	0.8	75°	〃
128	Y—33	赤褐色粘質土	〃 C	完	0.8	1.7	1.2	0.45	0.1	0.7	59°	〃
129	ニ—35	黄褐色粘質土	〃 C	A		〈1.9〉	1.2	0.15	0.1	0.5		〃
130	Y—35	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.3	1.6	1.1	0.2	0.15	0.5	71°	〃
131	Z—35	赤褐色粘質土	〃 C	C		1.6	〈1.0〉	0.2	〈0.1〉	〈0.7〉	57°	〃
132	Y—32	落ち込み	〃 C	C		1.6	〈1.3〉	0.2	〈0.1〉	〈1.0〉	80°	〃
133	X—31	赤褐色粘質土	〃 B	完	0.7	1.8	1.3	0.35	0.15	1.2	60°	〃
134	Y—33	赤褐色粘質土	〃 B	完	0.5	1.5	1.2	0.4	0.25	0.9	65°	〃
135	ハ—34	赤褐色粘質土	〃 C	C		1.8	〈1.3〉	0.2	〈0.3〉	〈1.1〉	74°	〃
136	U—33	落ち込み	〃 C	完	0.7	1.6	1.3	0.3	0.15	1.0	80°	〃
137	Y—31	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.5	1.7	1.4	0.2	0.1	1.2	72°	〃
138	X—36	赤褐色粘質土	〃 A	C		1.6	〈1.4〉	0.2	〈0.1〉	〈1.2〉	50°	〃
139	X—34	赤褐色粘質土	〃 B	完	0.9	1.7	1.3	0.5	0.2	0.8	67°	〃
140	Y—34	落ち込み	〃 B	完	0.4	1.5	1.2	0.3	0.25	0.9	60°	〃
141	Y—32	黄褐色粘質土	〃 C	C		1.5	〈1.2〉	0.2	〈0.3〉	〈1.2〉	60°	〃
142	X—31	赤褐色粘質土	安山岩	完	0.9	2.0	1.4	0.4	0.1	1.2	49°	〃
143	イ—34	撹乱中	黒曜石C	C		1.7	〈1.4〉	0.2	〈0.25〉	〈1.2〉	46°	〃
144	X—33	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.9	1.7	1.4	0.5	0.1	1.0	65°	〃
145	X—33	赤褐色粘質土	〃 A	完	0.5	1.8	1.4	0.3	0.2	0.8	51°	〃
146	V—30	赤褐色粘質土	〃 A	完	1.0	1.8	1.5	0.3	0.2	1.1	66°	〃
147	U—35	赤褐色粘質土	〃 A	完	1.8	2.0	1.6	0.6	0.1	0.8	68°	〃
148	Y—33	黄褐色粘質土	〃 A	完	1.1	1.9	1.5	0.5	0.15	0.9	66°	〃
149	イ—34	黄褐色粘質土	〃 C	完	1.1	2.3	1.6	0.3	0.1	0.9	67°	〃
150	V—32	黄褐色粘質土	〃 C	C		〈2.2〉	〈1.6〉	0.5	〈0.3〉	〈1.1〉	90°	〃
151	ニ—34	黄褐色粘質土	〃 C	A		〈2.2〉	1.8	0.25	0.1	1.6		〃
152	イ—33	黄褐色粘質土	〃 A	A		〈1.9〉	〈1.5〉	0.3	0.1	1.1		〃
153	U—33	赤褐色粘質土	〃 A	B				0.2			40°	〃
154	ニ—34	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.4	1.9	1.3	0.2	0.2	1.0	56°	〃
155	X—34	赤褐色粘質土	〃 C	D		〈2.0〉	〈1.2〉	0.3	0.1	0.3		〃

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm)			抉り(cm)		先端角度	分類
						長	幅	厚	深度	幅		
156	ハ—34	赤褐色粘質土	黒曜石C	完	0.5	2.0	1.2	0.25	0.2	1.1	65°	IIc$_3$
157	Z—35	赤褐色粘質土	〃 C	完	0.6	2.0	1.4	0.25	0.2	1.2	65°	〃
158	ロ—33	黄褐色粘質土	〃 B	C		2.4	〈1.6〉	0.3	〈0.15〉	〈1.4〉	55°	〃
159	V—30	黄褐色粘質土	〃 B	完	1.9	2.4	1.8	0.5	0.1	1.5	74°	〃
160	T—30	赤褐色粘質土	安山岩	完	1.9	2.7	1.7	0.4	0.15	1.4	80°	〃
161	ニ—34	黄褐色粘質土	〃	完	1.0	2.3	1.5	0.4	0.25	1.3	60°	〃
162	ニ—35	黄褐色粘質土	〃	完	0.9	2.3	1.7	0.3	0.2	1.3	39°	〃
163	W—35	赤褐色粘質土	〃	完	1.5	2.5	1.6	0.5	0.25	1.1	51°	〃
164	W—31	黄褐色粘質土	黒曜石C	C		2.6	〈1.9〉	0.3	〈0.35〉	〈0.9〉	48°	〃
165	Y—33	赤褐色粘質土	〃 B	完	2.7	2.9	1.9	0.6	0.45	0.7	69°	〃
166	イ—33	黄褐色粘質土	〃 C	C		1.7	〈1.4〉	0.2	〈0.1〉	〈1.2〉	42°	〃
167	Z—35	赤褐色粘質土	〃 C	C		1.8	〈1.5〉	0.25	〈0.3〉	〈1.1〉	55°	〃
168	Y—32	黄褐色粘質土	安山岩	A		〈2.1〉	1.7	0.2	0.35	1.6		〃
169	Y—33	赤褐色粘質土	黒曜石B	C		〈1.7〉	〈1.3〉	0.2	〈0.4〉	〈1.1〉	55°	〃
170	ハ—34	黄褐色粘質土	〃 A	完	0.5	1.9	1.6	0.3	0.35	1.3	54°	〃
171	Y—32	赤褐色粘質土	〃 C	C		〈2.2〉	〈1.5〉	0.3	〈0.3〉	〈1.4〉	54°	〃
172	ハ—34	赤褐色粘質土	〃 B	完	0.5	1.8	1.5	0.25	0.4	1.4	56°	〃
173	Z—33	黄褐色粘質土	〃 B	完	0.8	2.1	1.7	0.35	0.4	1.5	60°	〃
174	X—32	黄褐色粘質土	〃 A	C		2.0	〈1.5〉	0.3	〈0.4〉	〈1.4〉	48°	〃
175	V—33	赤褐色粘質土	〃 B	完	0.6	2.0	1.6	0.2	0.5	1.5	65°	〃
176	Z—35	赤褐色粘質土	〃 A	C		〈2.3〉	〈1.6〉	0.25	〈0.6〉	〈1.4〉	76°	〃
177	Y—34	赤褐色粘質土	〃 A	D		〈2.2〉	〈1.3〉	0.25	〈0.45〉	〈1.2〉		〃
178	X—32	ドーナツ状土壙	〃 B	C		2.3	〈1.9〉	0.3	〈0.4〉	〈1.2〉	50°	〃
179	Z—33	赤褐色粘質土	〃 B	完	0.6	1.9	1.5	0.3	0.3	1.2	50°	〃
180	Z—32	黄褐色粘質土	〃 B	D		2.2	〈1.5〉	0.25	〈0.35〉	〈1.3〉		〃
181	イ—33	黄褐色粘質土	〃 B	A		〈2.1〉	1.4	0.45	〈0.35〉	〈1.1〉		〃
182	ニ—34	黄褐色粘質土	〃 B	C		2.0	〈1.4〉	0.25	〈0.3〉	〈0.9〉	50°	〃
183	ニ—35	黄褐色粘質土	〃 C	C		1.6	〈1.1〉	0.15	〈0.5〉	〈1.0〉	40°	〃
184	ハ—34	赤褐色粘質土	〃 C	C		1.9	〈1.1〉	0.2	〈0.35〉	〈1.0〉	49°	〃
185	ハ—34	赤褐色粘質土	〃 A	完	0.5	1.6	1.3	0.3	0.35	1.2	66°	〃
186	Y—33	黄褐色粘質土	〃 A	完	0.4	1.7	1.2	0.3	0.5	1.0	58°	〃
187	ホ—35	黄褐色粘質土	〃 B	C		1.9	〈1.6〉	0.25	〈0.3〉	〈1.3〉	69°	〃
188	Z—32	黄褐色粘質土	〃 B	A		〈3.7〉	2.3	0.4	0.5	1.0		〃
189	X—33	赤褐色粘質土	〃 A	C		1.8	〈1.5〉	0.15	〈0.2〉	〈1.3〉	60°	〃
190	イ—33	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.4	1.8	1.4	0.15	0.15	0.9	50°	〃
191	U—32	第5号炉穴	〃 C	完	0.5	1.5	1.2	0.3	0.15	0.9	65°	〃
192	T—30	落ち込み	〃 C	A		〈1.4〉	1.0	0.2	0.1	0.8		〃
193	ハ—34	表採	〃 C	完	0.3	1.4	1.0	0.2	0.1	0.9	65°	〃
194	Y—34	落ち込み	〃 C	A		〈1.5〉	1.1	0.1	0.2	0.9		〃

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm) 長	幅	厚	抉り(cm) 深度	幅	先端角度	分類
195	Y—31	炉穴	黒曜石C	完	0.3	1.4	1.1	0.1	0.1	0.8	82°	IIc$_3$
196	W—31	赤褐色粘質土	〃 C	A		⟨1.8⟩	1.3	0.1	0.15	1.2		〃
197	イ—32	黄褐色粘質土	〃 C	A		⟨1.7⟩	1.3	0.15	0.3	1.1		〃
198	ニ—34	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.3	1.6	1.1	0.1	0.15	1.0	61°	〃
199	ニ—34	赤褐色粘質土	〃 C	完	0.5	1.8	1.3	0.2	0.1	1.0	60°	〃
200	イ—33	黄褐色粘質土	〃 C	C		1.8.	⟨1.2⟩	0.2	⟨0.1⟩	⟨0.9⟩	53°	〃
201	X—37	赤褐色粘質土	〃 B	C		1.8	⟨1.5⟩	0.1	⟨0.1⟩	⟨1.2⟩	45°	〃
202	W—31	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.4	2.0	1.4	0.15	0.2	1.2	45°	〃
203	ニ—35	黄褐色粘質土	〃 B	C		1.9	⟨1.3⟩	0.15	⟨0.15⟩	⟨1.2⟩	75°	〃
204	Y—33	黄褐色粘質土	〃 C	A		⟨1.2⟩	1.0	0.1	0.2	0.8		〃
205	Y—33	ドーナツ状土壙	〃 C	D		⟨1.8⟩	⟨1.2⟩	0.2	⟨0.2⟩	⟨1.2⟩		〃
206	X—34	落ち込み	〃 B	完	0.3	1.9	1.1	0.1	0.25	0.8	44°	〃
207	Z—33	黄褐色粘質土	〃 A	完	0.2	1.2	0.9	0.1	0.1	0.7	74°	〃
208	ロ—33	赤褐色粘質土	〃 C	完	0.3	1.6	1.0	0.15	0.1	0.8	64°	〃
209	Z—35	赤褐色粘質土	〃 C	完	0.5	1.8	1.2	0.2	0.3	0.9	50°	〃
210	Y—33	ドーナツ状土壙	〃 C	完	0.2	1.4	1.0	0.2	0.35	0.9	57°	〃
211	W—36	礫群	〃 C	A		⟨1.7⟩	1.2	0.15	0.35	1.0		〃
212	Z—33	黄褐色粘質土	〃 C	完	0.5	1.8	1.2	0.3	0.15	1.0	45°	〃
213	V—34	赤褐色粘質土	〃 B	完	0.6	1.8	1.5	0.2	0.3	1.2	52°	〃
214	Y—33	赤褐色粘質土	〃 C	完	0.4	1.6	1.2	0.2	0.3	1.0	55°	〃
215	イ—34	赤褐色粘質土	〃 A	C		1.8	⟨1.4⟩	0.2	0.4	1.0	54°	〃
216	X—34	赤褐色粘質土	〃 C	A		⟨2.2⟩	1.3	0.2	0.35	0.9	55°	〃
217	Y—34	落ち込み	〃 C	完	0.5	2.1	1.4	0.2	0.4	1.0	54°	〃
218	イ—33	黄褐色粘質土	〃 B	D		⟨2.4⟩	1.6	0.2	⟨0.45⟩	⟨1.2⟩		〃
219	Z—35	赤褐色粘質土	安山岩	C		2.4	⟨1.9⟩	0.25	⟨0.5⟩	⟨1.6⟩	60°	〃
220	イ—34	黄褐色粘質土	黒曜石C	C		1.7	⟨1.2⟩	0.2	⟨0.35⟩	⟨0.9⟩	51°	〃
221	Z—35	赤褐色粘質土	〃 C	完	0.4	1.8	1.3	0.2	0.4	0.9	55°	〃
222	ハ—34	赤褐色粘質土	〃 B	D		⟨2.0⟩	⟨1.2⟩	0.2	⟨0.3⟩	⟨1.0⟩		〃
223	Y—32	黄褐色粘質土	〃 B	完	0.4	1.7	1.4	0.2	0.4	1.1	55°	〃
224	ハ—35	黄褐色粘質土	〃 B	C		⟨1.5⟩	1.9	0.2	⟨0.45⟩	⟨1.1⟩	75°	〃
225	Y—32	黄褐色粘質土	〃 B	完	0.2	1.5	1.2	0.15	0.35	0.9	49°	〃
226	X—32	ドーナツ状土壙	安山岩	C		1.7	1.2	0.15	⟨0.5⟩	⟨0.6⟩	55°	〃
227	ハ—34	黄褐色粘質土	黒曜石B	C		1.6	⟨1.3⟩	0.15	⟨0.5⟩	⟨1.1⟩	77°	〃
228	V—34	赤褐色粘質土	〃 A	完	0.2	1.5	1.1	0.1	0.4	0.9	60°	〃
229	X—33	赤褐色粘質土	〃 B	完	0.3	1.6	1.2	0.15	0.45	1.1	70	〃
230	Y—32	撹乱中	〃 A	C		2.8	⟨1.8⟩	0.45	⟨0.6⟩	⟨7.8⟩	40°	〃
231	ハ—34	黄褐色粘質土	〃 B	C		1.8	⟨1.5⟩	0.25	⟨0.5⟩	⟨0.9⟩	76°	〃
232	ハ—35	赤褐色粘質土	〃 B	完	0.7	2.1	1..	0.35	0.6	0.9	50°	〃
233	ホ—35	黄褐色粘質土	〃 A	C		2.9	⟨2.0⟩	0.3	⟨0.9⟩	⟨1.8⟩	55°	〃

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm) 長	幅	厚	抉り(cm) 深度	幅	先端角度	分類
234	イ—33	赤褐色粘質土	黒曜石C	C		1.6	〈1.0〉	0.2	〈0.1〉	〈0.7〉	57°	IIc$_3$
235	ハ—33	黄褐色粘質土	安山岩	A		〈3.1〉	1.8	0.35	0.35	1.6		IIc$_4$
236	Y—32	黄褐色粘質土	〃	完	0.5	2.1	1.2	0.3	0.3	1.0		〃
237	ハ—35	黄褐色粘質土	〃	完	0.8	2.7	1.6	0.2	0.25	1.2	56°	〃
238	ロ—33	赤褐色粘質土	〃	A		〈2.7〉	1.6	0.4	0.25	1.2		〃
239	V—32	第5号竪穴	黒曜石A	完	0.7	2.4	1.3	0.3	0.35	1.1	43°	〃
240	V—31	赤褐色粘質土	〃 A	A		〈2.9〉	1.4	0.25	〈0.15〉	〈1.1〉		〃
241	V—34	赤褐色粘質土	〃 B	完	0.2	2.8	1.3	0.45	0.5	0.8	38°	〃
242	X—36	赤褐色粘質土	チャート	完	1.4	2.9	1.4	0.4	0.45	0.7	41°	〃
243	X—33	黄褐色粘質土	黒曜石B	B				0.4			35°	〃
244	イ—33	黄褐色粘質土	〃 C	A		〈1.9〉	1.0	0.1	0.1	0.9	34°	IIc$_4$
245	V—32	第5号竪穴	〃 C	A		〈2.3〉	1.3	0.15	0.35	1.1		〃
246	V—31	赤褐色粘質土	〃 C	D		〈2.3〉	〈1.2〉	0.2	〈0.3〉	〈1.1〉		〃
247	W—33	落ち込み	〃 B	C		2.3	〈1.8〉	0.2	〈0.65〉	〈1.5〉	46°	IIc$_3$
248	Z—35	赤褐色粘質土	〃 C	完	1.3	2.6	1.3	0.4	0.4	0.9	60	IIc$_4$
249	Y—33	撹乱中	〃 A	C		2.0	1.3	0.2	0.5	0.8	45°	〃
250	W—33	黄褐色粘質土	〃 A	C		2.4	〈2.1〉	0.4	〈0.75〉	〈1.1〉		
251	ニ—35	黄褐色粘質土	〃 B	完	1.0	2.3	1.7	0.4	0.65	1.0	55°	IId$_3$
252	X—35	赤褐色粘質土	〃 A	完	0.9	2.2	1.4	0.35	0.6	0.8	45°	〃
253	U—34	落ち込み	〃 C	D		〈3.0〉	1.6	0.4	〈0.5〉	〈0.5〉		IId$_4$
254	U—33	落ち込み	〃 B	完	1.4	3.0	1.8	0.5	0.6	0.6	59°	〃
255	Y—32	黄褐色粘質土	安山岩	C		3.1	〈1.7〉	0.5	0.6	0.7	45°	〃
256	X—33	黄褐色粘質土	黒曜石B	D		〈3.0〉	〈1.5〉	4.0	〈0.6〉	〈0.6〉		〃
257	イ—33	赤褐色粘質土	安山岩	A		〈2.5〉	1.6	0.4	0.75	0.7		〃
258	V—32	赤褐色粘質土	黒曜石B	A		〈1.5〉	1.3	0.2	0.15	1.3		
259	Y—32	黄褐色粘質土	〃 A	A		〈1.7〉	1.1	0.2	〈0.3〉	〈1.1〉		
260	Y—32	赤褐色粘質土	〃 C	A		〈1.1〉	1.0	0.1				
261	Z—33	赤褐色粘質土	〃 B	A		〈2.0〉	1.3	0.2	0.35	0.9		
262	Z—33	黄褐色粘質土	〃 B	A		〈1.6〉	1.2	0.1	0.1	1.1		
263	Z—33	炉穴	〃 C	A		〈1.9〉	1.4	0.1	0.25	1.2		
264	Z—34	赤褐色粘質土	〃 A	A		〈1.7〉	1.3	0.15	〈0.3〉	〈1.1〉		
265	イ—33	黄褐色粘質土	〃 C	A		〈1.7〉	1.3	0.3	〈0.3〉	〈1.1〉		
266	イ—33	黄褐色粘質土	〃 A	A		〈1.5〉	1.3	0.1	0.1	0.7		
267	イ—33	黄褐色粘質土	〃 C	A		〈1.7〉	1.3	0.15	0.15	0.9		
268	ハ—34	黄褐色粘質土	〃 B	A		〈1.8〉	1.3	0.2	〈0.1〉	〈1.0〉		
269	ハ—35	黄褐色粘質土	〃 A	A		〈1.3〉	1.1	0.2	0.2	0.9		
270	ハ—35	赤褐色粘質土	〃 C	A		〈2.2〉	1.5	0.2	0.4	1.3		
271	ニ—34	黄褐色粘質土	〃 A	A		〈2.0〉	1.6	0.3				
272	U—30	黄褐色粘質土	〃 A	B				0.3			65°	

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm) 長	幅	厚	抉り(cm) 深度	幅	先端角度	分類
273	U—34	赤褐色粘質土	黒曜石A	B				0.15			55°	
274	W—32	第5号竪穴	〃 C	B				0.3			55°	
275	W—33	赤褐色粘質土	〃 A	B				0.5			64°	
276	X—31	赤褐色粘質土	〃 B	B				0.1			61°	
277	X—35	赤褐色粘質土	〃 B	B				0.2			61°	
278	Y—31	ドーナツ状土壙	〃 C	B				0.1			50°	
279	Y—31	10 炉	〃 C	B				0.15			49°	
280	Y—32	赤褐色粘質土	〃 B	B				0.15			50°	
281	Y—32	黄褐色粘質土	〃 C	B				0.2			55°	
282	Y—33	赤褐色粘質土	〃 C	B				0.15			66°	
283	Y—33	黄褐色粘質土	〃 C	B				0.2			37°	
284	Y—35	黄褐色粘質土	〃 C	B				0.2			55°	
285	Z—32	黄褐色粘質土	〃 A	B				0.2			80°	
286	Z—33	黄褐色粘質土	〃 C	B				〈0.15〉			56°	
287	Z—33	黄褐色粘質土	〃 C	B				0.15			35°	
288	Z—33	黄褐色粘質土	〃 A	B				0.2			75°	
289	Z—35	ドーナツ状土壙	〃 C	B				0.2			61°	
290	イ—33	黄褐色粘質土	〃 B	B				0.2			60°	
291	イ—33	黄褐色粘質土	〃 C	B				0.15			53°	
292	イ—34	赤褐色粘質土	〃 B	B				0.3			46°	
293	ロ—34	黄褐色粘質土	〃 B	B				0.25			79°	
294	ハ—34	黄褐色粘質土	〃 C	B				0.2			42°	
295	ニ—34	黄褐色粘質土	〃 A	B				0.3			79°	
296	S—31	赤褐色粘質土	〃 B	C		〈1.4〉	〈1.2〉	0.1			60°	
297	V—32	第5号竪穴	〃 C	C		〈1.7〉	〈1.5〉	0.2	〈0.3〉	〈1.0〉	60°	
298	W—34	落ち込み	〃 C	C		〈1.3〉	〈1.2〉	0.2			60°	
299	X—34	赤褐色粘質土	〃 A	C		〈1.6〉	〈1.5〉	0.25	〈0.2〉	〈0.8〉	55°	
300	X—34	落ち込み	〃 C	C		〈1.6〉	〈1.5〉	0.35	〈0.1〉	〈0.9〉	63°	
301	X—34	ドーナツ状土壙	〃 C	C		〈1.5〉	〈1.5〉	0.3			50°	
302	Y—32	黄褐色粘質土	〃 C	C		〈1.8〉	〈1.4〉	0.15	〈0.1〉	〈1.0〉	50°	
303	Y—32	黄褐色粘質土	〃 C	C		〈1.2〉	〈1.1〉	0.1	〈0.05〉	〈1.0〉	64°	
304	Y—32	黄褐色粘質土	〃 C	C		〈1.8〉	〈1.4〉	0.2	〈0.2〉	〈1.4〉	60°	
305	Y—33	黄褐色粘質土	〃 C	C		〈1.7〉	〈1.3〉	0.1	〈0.2〉	〈0.8〉	40°	
306	Z—32	黄褐色粘質土	〃 A	C		〈1.5〉	〈1.3〉	0.15	〈0.2〉	〈0.9〉	60°	
307	Z—34	黄褐色粘質土	〃 B	C		〈2.0〉	〈1.3〉	0.2	〈0.3〉	〈0.6〉	40°	
308	イ—33	黄褐色粘質土	〃 B	C		〈2.2〉	〈1.2〉	0.2	〈0.4〉	〈1.0〉	58°	
309	イ—33	黄褐色粘質土	〃 C	C		〈1.3〉	〈1.3〉	0.2	〈0.2〉	〈1.0〉	70°	
310	ハ—34	赤褐色粘質土	〃 C	C		〈1.7〉	〈1.3〉	0.15	〈0.3〉	〈1.2〉	52°	
311	ハ—35	黄褐色粘質土	〃 C	C		〈2.3〉	〈1.2〉	0.15	〈0.15〉	〈0.8〉	39°	

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm) 長	幅	厚	抉り(cm) 深度	幅	先端角度	分類
312	ニ—34	赤褐色粘質土	黒曜石B	C		〈2.3〉	〈2.1〉	0.45	〈0.2〉	〈1.7〉	85°	
313	W—31	黄褐色粘質土	〃 A	D		〈1.7〉	〈1.3〉	0.2	〈0.3〉	〈0.8〉		
314	W—31	ドーナツ状土壙	〃 C	D		〈1.9〉	〈1.4〉	0.2	〈0.25〉	〈1.2〉		
315	W—31	第5号竪穴	〃 C	D		〈1.7〉	〈1.2〉	0.15	〈0.4〉	〈0.6〉		
316	W—34	赤褐色粘質土	〃 C	D		〈1.9〉	〈1.5〉	0.25	〈0.35〉	〈1.2〉		
317	X—31	赤褐色粘質土	〃 C	D		〈2.0〉	〈1.2〉	0.25	〈0.2〉	〈1.1〉		
318	X—34	赤褐色粘質土	〃 C	D		〈1.9〉	〈1.4〉	0.2	〈0.3〉	〈1.4〉		
319	Y—32	黄褐色粘質土	〃 C	D		〈1.6〉	〈1.3〉	0.15	〈0.2〉	〈1.1〉		
320	Y—33	赤褐色粘質土	〃 B	D		〈2.2〉	〈1.2〉	0.3	〈0.5〉	〈1.0〉		
321	Z—32	黄褐色粘質土	〃 C	D		〈1.7〉	〈1.2〉	0.15	〈0.3〉	〈0.8〉		
322	Z—33	黄褐色粘質土	〃 C	D		〈2.1〉	〈1.4〉	0.2	〈0.5〉	〈0.9〉		
323	Z—34	撹乱中	〃 A	D		〈1.7〉	〈1.3〉	0.3	〈0.2〉	〈0.9〉		
324	イ—33	黄褐色粘質土	〃 C	D		〈1.6〉	〈1.2〉	0.1	〈0.3〉	〈1.0〉		
325	ロ—33	黄褐色粘質土	〃 B	D		〈2.1〉	〈1.6〉	0.25	〈0.65〉	〈1.4〉		
326	ハ—34	赤褐色粘質土	〃 B	D		〈2.2〉	〈1.5〉	0.3	〈0.4〉	〈1.2〉		
327	U—33	赤褐色粘質土	〃 A	E				0.15				
328	W—32	第5号竪穴	〃 C	E				0.2				
329	W—33	ドーナツ状土壙	〃 B	E				〈0.2〉				
330	W—34	黄褐色粘質土	〃 C	E				0.2				
331	X—31	撹乱中	〃 C	E				0.1				
332	Y—32	黄褐色粘質土	〃 A	E				0.25				
333	Y—32	黄褐色粘質土	〃 C	E				〈0.15〉				
334	Y—32	黄褐色粘質土	〃 C	E				〈0.1〉				
335	Y—33	黄褐色粘質土	〃 C	E				〈0.2〉				
336	Y—34	黄褐色粘質土	〃 C	E				0.15				
337	Z—33	黄褐色粘質土	〃 C	E				0.1				
338	イ—33	黄褐色粘質土	〃 A	E				0.1				
339	イ—33	黄褐色粘質土	〃 A	E				0.4				
340	ニ—34	黄褐色粘質土	〃 B	E				0.4				
341	S—31	赤褐色粘質土	〃 A	F								
342	U—32	赤褐色粘質土	〃 A	F								
343	U—32	第5号竪穴	〃 C	F								
344	W—31	第5号竪穴	安山岩	F								
345	W—33	落ち込み	黒曜石A	F								
346	W—34	落ち込み	〃 C	F								
347	X—31	赤褐色粘質土	〃 C	F								
348	X—31	赤褐色粘質土	〃 C	F								
349	X—32	ドーナツ状土壙	〃 B	F								
350	X—32	ドーナツ状土壙	〃 C	F								

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm)			抉り(cm)		先端角度	分類
						長	幅	厚	深度	幅		
351	X－33	赤褐色粘質土	黒曜石C	F								
352	X－33	黄褐色粘質土	〃 C	F								
353	X－33	落ち込み	〃 C	F								
354	X－33	黄褐色粘質土	〃 C	F								
355	X－33	ドーナツ状土壙	〃 C	F								
356	X－33	黄褐色粘質土	〃 C	F								
357	X－33	黄褐色粘質土	〃 B	F								
358	X－34	赤褐色粘質土	〃 B	F								
359	X－34	赤褐色粘質土	〃 B	F								
360	X－36	黄褐色粘質土	〃 B	F								
361	Y－31	黄褐色粘質土	〃 A	F								
362	Y－31	赤褐色粘質土	〃 C	F								
363	Y－32	赤褐色粘質土	〃 B	F								
364	Y－32	黄褐色粘質土	〃 A	F								
365	Y－32	黄褐色粘質土	〃 C	F								
366	Y－32	黄褐色粘質土	〃 C	F								
367	Y－32	黄褐色粘質土	〃 A	F								
368	Y－32	黄褐色粘質土	〃 C	F								
369	Y－32	黄褐色粘質土	〃 C	F								
370	Y－32	黄褐色粘質土	〃 C	F								
371	Y－32	赤褐色粘質土	〃 C	F								
372	Y－33	赤褐色粘質土	〃 B	F								
373	Y－33	赤褐色粘質土	〃 C	F								
374	Y－33	赤褐色粘質土	〃 C	F								
375	Y－33	赤褐色粘質土	〃 B	F								
376	Y－33	黄褐色粘質土	〃 C	F								
377	Y－33	黄褐色粘質土	〃 C	F								
378	Y－33	赤褐色粘質土	〃 C	F								
379	Y－33	黄褐色粘質土	〃 C	F								
380	Y－34	赤褐色粘質土	〃 B	F								
381	Y－35	黄褐色粘質土	〃 B	F								
382	Y－35	落ち込み	〃 A	F								
383	Y－35	落ち込み	〃 B	F								
384	Z－33	黄褐色粘質土	〃 C	F								
385	Z－33	黄褐色粘質土	〃 C	F								
386	Z－33	黄褐色粘質土	〃 A	F								
387	Z－36	赤褐色粘質土	〃 B	F								
388	イ－33	黄褐色粘質土	〃 B	F								
389	イ－33	黄褐色粘質土	〃 A	F								

挿図番号	出土区	出土層位	石材	破損部位	重さ(g)	大きさ(cm) 長	幅	厚	抉り(cm) 深度	幅	先端角度	分類
390	イ—33	黄褐色粘質土	黒曜石B	F								
391	イ—33	黄褐色粘質土	〃 B	F								
392	イ—33	黄褐色粘質土	〃 B	F								
393	イ—33	黄褐色粘質土	〃 C	F								
394	イ—33	黄褐色粘質土	〃 C	F								
395	イ—33	黄褐色粘質土	〃 C	F								
396	イ—34	赤褐色粘質土	〃 A	F								
397	ロ—33	赤褐色粘質土	〃 C	F								
398	ロ—33	黄褐色粘質土	〃 A	F								
399	ロ—34	赤褐色粘質土	〃 B	F								
400	ロ—34	黄褐色粘質土	〃 B	F								
401	ロ—34	黄褐色粘質土	〃 B	F								
402	ロ—34	黄褐色粘質土	〃 B	F								
403	ロ—34	黄褐色粘質土	〃 C	F								
404	ハ—34	黄褐色粘質土	〃 C	F								
405	ハ—34	赤褐色粘質土	〃 B	F								
406	ハ—34	赤褐色粘質土	〃 C	F								
407	ハ—34	黄褐色粘質土	〃 B	F								
408	ハ—35	赤褐色粘質土	〃 C	F								
409	ニ—35	黄褐色粘質土	〃 C	F								
410	ホ—34	黄褐色粘質土	安山岩	F								
411	ホ—35	黄褐色粘質土	黒曜石A	F								
412	ホ—35	黄褐色粘質土	〃 C	F								

Ⅰb類　19～66の48点は基部がほぼ一直線状になるもの，あるいは，わずかに内湾するもので，Ⅰb類に分類し内19をⅠb1，20～32をⅠb2，33～63をⅠb3，64～66をⅠb4とした。

・Ⅰb1　19は小型で薄い。

・Ⅰb2　27・29は局部磨製石鏃である。28は長さ0.8cmを測る小形鏃である。31はやや厚い剝片を用いたもので，二次加工そのものも粗雑である。32はやや側縁の張った三角形で，左右の均等もよく整い二次加工も丁寧である。

・Ⅰb3　34～41は全体的にやや小型で，形も近似している。61～63は局部磨製石鏃である。

・Ⅰb4　64は黒曜石B製で，全体にパテナが著しい。両側縁とも微妙な抉りが入り，特異的な形をなしている。二次加工は比較的丁寧である。

66は先端を欠損する局部磨製石鏃であるが，全体的に特に磨製面の占める割合が強く，周縁全体にわずかに二次加工による調整がうかがえる。

IIc類　67～245までの178点と極めて多い分類となったもので，内67をIIc1，68～114をIIc2，115～230をIIc3，231～245をIIc4とした。

・IIc1　67の1点のみで，ゆるやかな孤状に若干内湾する。横長の形を成す。局部磨製石鏃である。

・IIc2　68は黒曜石A製。細かく丁寧な二次加工が施されている。84・85などは加工も細かく側縁もほぼストレートで，ほぼ三角形状に近い形を呈している。90は黒曜石C製で，側縁の加工が細かい鋸歯状を成している。93は黒曜石A製で片脚を欠損するものである。全体的に大型で二次加工も丁寧に施されている。94・98は，安山岩製のものであるが，その二次加工そのものは風化が激しく判然としない。97は，黒曜石B製で先端を欠損する。やや大型の石鏃ではあるが，若干，二次加工の丁寧さに欠ける。100～114は，局部磨製石鏃である。

・IIc3　115・116は，長さ1cm前後を測る小型のもので，特に115は著しい。117は，黒曜石A製で比較的小型ではあるが均整もとれ，二次加工も極めて丁寧である。145は，左右の側縁が非対称で歪んだ感じである。156・157は，2点とも黒曜石C製で，二次加工が丁寧に施されている。164は，側縁がわずかに鋸歯状を成す。165は黒曜石B製で，二次加工が簡単に行われており，未製品的なものも考えられる。175・180・182は，若干ではあるが側縁が内湾しているものである。185・186は，外湾する側縁をもつ。188は下部のみで，全体観は明確ではないが，長さ4cm前後を測るものと考えられる。特に脚部の形態に注目される。黒曜石B製の189～229は，局部磨製石鏃で，かなりの数を占める。脚の抉りが少なく，おおよそ二等辺三角形を呈する。極くわずかに磨製面を有するが，多くは全磨製，或いはそれに近い状況のものである。230は，先端がやや間延びしている感じである。234は，基部が斜めになるものである。

・IIc4　235～238は，安山岩製で4点ともパテナが著しく認められる。241は，左右の脚の形態が異なるものである。242は，チャート製である。244～249は，局部磨製石鏃である。

IId類　基部の抉りが深くなるもので，250～257までの8点である。内250をIId2，251・252をIId3，253～260をIId4とした。

・IId2　250の1点のみで黒曜石A製・二次加工は丁寧に施されている。

・IId3　251は，左右の脚の長さが異なり不均等な感じを与える。

・IIｄ4　253は，やや外湾した鋸歯状の側縁をもつ。254・255は細身で，脚が角ばっているものである。256は，抉り部が奥に丸く入っており特徴ある形態を成す。257は，安山岩製で著しく抉りの深いものである。

なお，後述において，A地点・B地点でそれぞれより出土する石鏃について，各計測値を比較してみた。

スクレイパー
(Fig. 151・152)
〔PL. 54〕

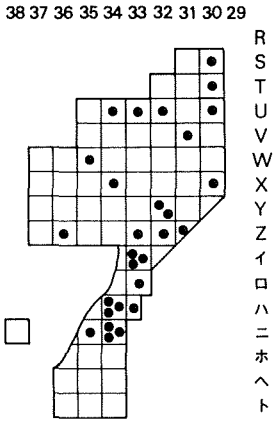


Fig.150 各地区出土スクレイパー

28点の出土である。内16点を図化し記載した。グリット別(Fig. 152)に出土状況をみると，南側にやや多く認められるようである。石材別にみると，黒曜石製24点（黒曜石A製2点，黒曜石B製4点黒曜石C製18点)，安山岩製4点である。1は黒曜石C製で若干擦痕が観察できる。一側縁の表面にしっかりとした刃部をもつ。背部は全体が自然面となる。2は黒曜石B製，一部欠損するがB地点出土のものの中で最も大型である。刃部加工は表裏の両面より丁寧に施されている。3は黒曜石B製でパテナが著しい。刃部断面は三角形状を呈し，表面のみに加工を施す。4は黒曜石C製で下部を欠損する。全体の断面形は扁平な二等辺三角形状を呈する。刃部加工は表面のみに細かく施されている。5は黒曜石A製。刃部加工は一側縁の裏面のみに施され，背部は自然面となる。6は黒曜石A製の欠損するものである。薄い剝片を用い加工を施したものと考えられる。刃部加工は一側縁表面に細かく丁寧に施す。7は安山岩製。かなり粗雑な刃部加工を一側縁の表裏より施す。8は黒曜石C製で多少パテナが認められる。一側縁の表裏両面から細やかな刃部加工を施す。9は黒曜石C製。小型ではあるが，刃部加工は表裏より丁寧に施している。10は黒曜石C製で一部欠損する。刃部加工は表裏より細かく丁寧に施されている。11は安山岩製。平面観が不等四辺形状を呈し，三側縁に刃部と考えられる加工が施されている。12も安山岩製で上端部を欠損する。13は黒曜石C製。14は安山岩製。3点ともやや粗雑な刃部を二側縁に有する。15は黒曜石B製でパテナが著しく認められる。刃部は丁寧で表面の一側縁に抉入状加工を施す。16は黒曜石C製で先の15と同様抉入状の刃部を有する。背部は自然面となる。

なお，17以降は計測表のみで図及び本文は省略した。

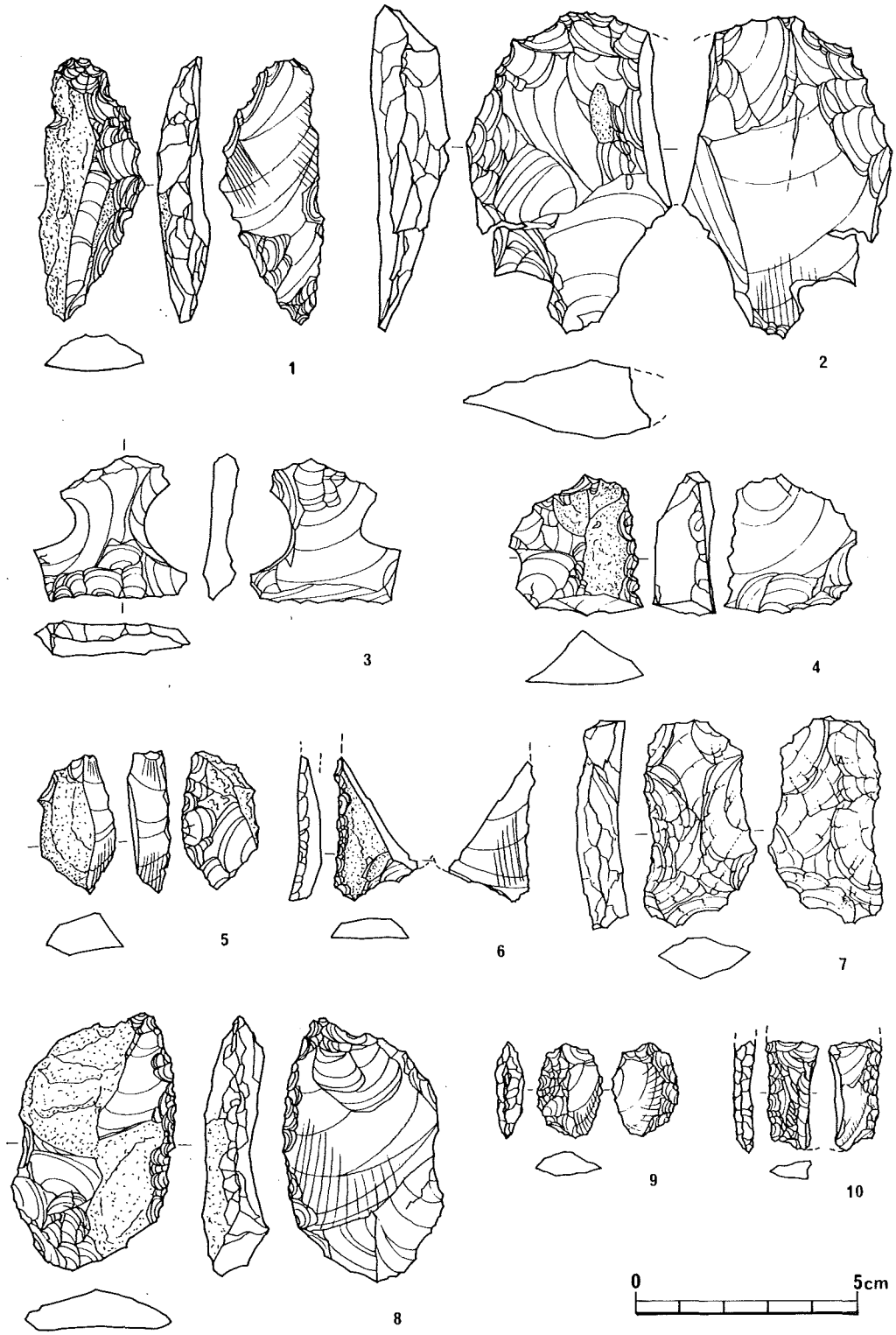


Fig.151 縄文時代の石器—スクレイパー① (2/3)

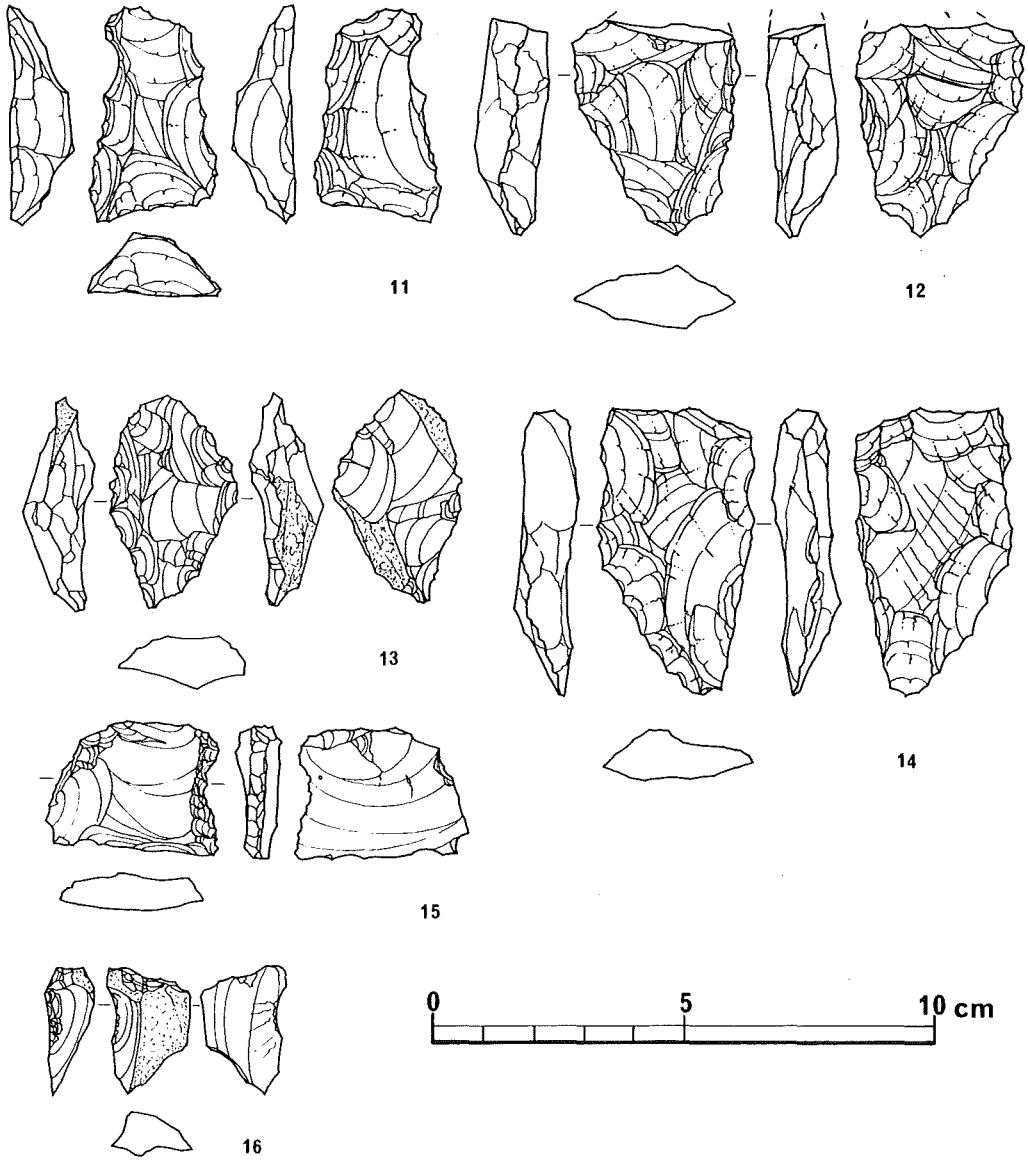


Fig.152 縄文時代の石器—スクレイパー② (2/3)

加工痕ある石器
(Fig. 155)
〔PL. 54 〕

1は黒曜石C製でパテナが多少認められる。一部に自然面を残すが，全体に荒い加工を施す。2は黒曜石C製。横長の剝片で表面に若干の加工を施す。裏面は主要剝離面を大きく残す。3は黒曜石B製パテナが認められる。側縁部に刃部状の加工を施す。4は黒曜石A製。片面はすべて自然面で，側縁の一部に刃部状の加工を施す。5は黒曜石A製でパテナが著しく認められる。しかも，全体的にかなりローリングを受け

Tab. 26　スクレイパー計測表　　（　）は現寸

挿図番号	出土区	出土層位	石材	重さ(g)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備考
1	ニ—34	赤褐色粘質土	黒曜石C	11.7	6.0	2.4	0.8	一側縁全体に刃部を有する
2	S—30	赤褐色粘質土	〃 B	(44.0)	7.3	(4.6)	1.8	一部欠損，パテナあり。
3	T—30	赤褐色粘質土	〃 B	6.0	3.3	3.5	0.8	パテナ著しい。
4	イ—33	黄褐色粘質土	〃 C	9.7	3.2	3.0	1.2	自然面あり。
5	V—31	5号土壙	〃 A	4.5	3.2	1.7	0.8	自然面あり。
6	ロ—33	黄褐色粘質土	〃 A	(2.5)	(3.3)	(1.9)	0.4	刃部加工は丁寧。
7	Z—37	赤褐色粘質土	安山岩	11.6	4.7	2.6	0.9	全体的に粗雑。
8	イ—33	黄褐色粘質土	黒曜石C	21.7	5.9	3.7	0.8	自然面あり
9	Z—32	黄褐色粘質土	〃 C	1.6	2.3	1.2	0.4	小型で一側縁全体が刃部。
10	Y—32	黄褐色粘質土	〃 C	(1.4)	(2.5)	(1.5)	0.5	一部欠損。
11	ハ—33	黄褐色粘質土	安山岩	10.6	4.3	2.5	1.2	両側縁に粗雑な刃部
12	U—34	落ち込み	〃	(17.7)	(4.1)	3.3	1.3	一部欠損，パテナあり。
13	ニ—34	赤褐色粘質土	黒曜石C	9.9	4.2	2.5	1.0	両側縁に粗雑な刃部。
14	ニ—34	赤褐色粘質土	安山岩	17.3	5.7	3.1	1.0	パテナが著しい。
15	Y—32	赤褐色粘質土	黒曜石B	7.3	2.6	3.4	0.7	抉入状の刃部。
16	ハ—34	黄褐色粘質土	〃 C	2.8	2.5	1.6	0.8	抉入状に若干の刃部。
17	U—30	黄褐色粘質土	〃 C	2.5	2.9	1.6	0.8	一側縁に刃部。
18	U—32	赤褐色粘質土	〃 C	3.0	3.0	1.1	0.8	若干のパテナあり。
19	U—33	黄褐色粘質土	〃 B	4.5	2.8	2.2	1.0	一側縁に粗雑な刃部。
20	W—35	赤褐色粘質土	〃 C	4.9	3.5	1.9	0.9	部分的にパテナが著しい。
21	X—30	不明土壙	〃 C	3.0	2.5	1.9	0.9	自然面あり。
22	X—34	赤褐色粘質土	〃 C	(3.4)	(2.9)	1.8	0.7	一部欠損。
23	Z—31	落ち込み	〃 C	(1.4)	(2.5)	(1.7)	0.4	一部欠損。
24	Z—33	黄褐色粘質土	〃 C	3.6	3.3	1.6	0.7	一側縁に粗雑な刃部。
25	イ—33	黄褐色粘質土	〃 C	2.9	2.1	2.0	0.8	全体的に粗雑。
26	ハ—34	赤褐色粘質土	〃 C	(2.1)	(2.5)	1.3	0.6	一部欠損，自然面あり。
27	ハ—34	赤褐色粘質土	〃 C	4.1	2.7	2.3	0.8	二側縁に刃部。
28	ニ—35	黄褐色粘質土	〃 C	3.1	3.3	1.2	0.7	一側縁に粗雑な刃部。

ており，稜線はシャープさに欠ける。一側縁は刃部状の加工を施す。6は黒曜石A製。比較的薄い剝片で，表面の一部に多少加工を施している。7は黒曜石C製。表裏全体に加工を施す。8は黒曜石C製で部分的にパテナが認められる。表面の側縁の一部（下端）に刃部状の加工を施す。9は安山岩製でパテナが全体的に著しく認められる。部分的に粗雑な加工を施す。

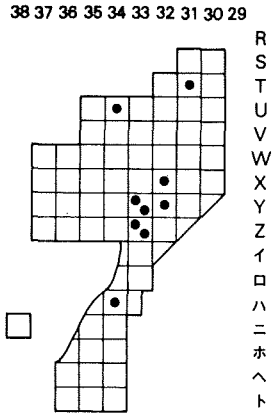


Fig.153 各地区出土加工痕ある石器

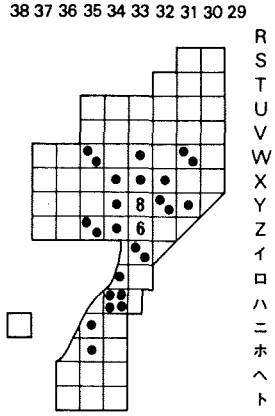


Fig.154 各地区出土使用痕ある剝片

使用痕ある剝片 (Fig.155～157) 〔PL. 54〕

38点の出土である。内22点（10～31）を図化し記載した。黒曜石製33点，安山岩製3点である。A地点と同様，3タイプに分類した。一側縁の表面あるいは裏面のどちらかに使用痕（刃こぼれ）が形成されているもの（10～21）。一側縁の表裏の両面に形成されているもの（22～29）。二側縁（両側縁）に形成されているもの（30・31）である。

10は安山岩製の横長剝片で下端縁部に刃こぼれが形成されている。11も安山岩製で断面形が三角形状を成す。平坦な打面より剝離された縦長剝片で背部は自然面を大きく残す。12は表面全体に自然面を残す。黒曜石C製でパテナが多少認められる。13は黒曜石C製。L字状をした不定形剝片で，内湾する一側縁に刃こぼれが認められる。14・15・17も黒曜石C製で3点とも表面の一部に自然面を残す。特に14はパテナが著しい。16は黒曜石A製，断面形が三角形状をなすやや厚い剝片である。18は黒曜石A製。小型の剝片で若干ではあるが，内湾した側縁に形成されている。19は黒曜石A製。やや幅広の剝片で表面は部分的に自然面を残す。20・21は黒曜石B製で2点ともパテナが著しい。20は自然打面より剝離された縦長剝片で下端に形成されている。

22は黒曜石C製のやや幅広の剝片。表面の方が刃こぼれが広く形成されている。23は黒曜石B製で部分的にパテナが認められる。裏面にみられる刃こぼれは，表面に対して広く形成されているが細かく間ばらである。24は黒曜石C製。自然打面より剝離されたやや小型の縦長剝片である。25は黒曜石A製。裏面の刃こぼれがより顕著であり，細かい凹凸が全体に及ぶ。26は黒曜石C製。平面形が三角をした幅広の剝片である。表裏面ともに間ばらに細かい刃こぼれば認められる。27は黒曜石C製。平坦打面より剝離されたもので，小さく内湾した側縁部に細かく形成さ

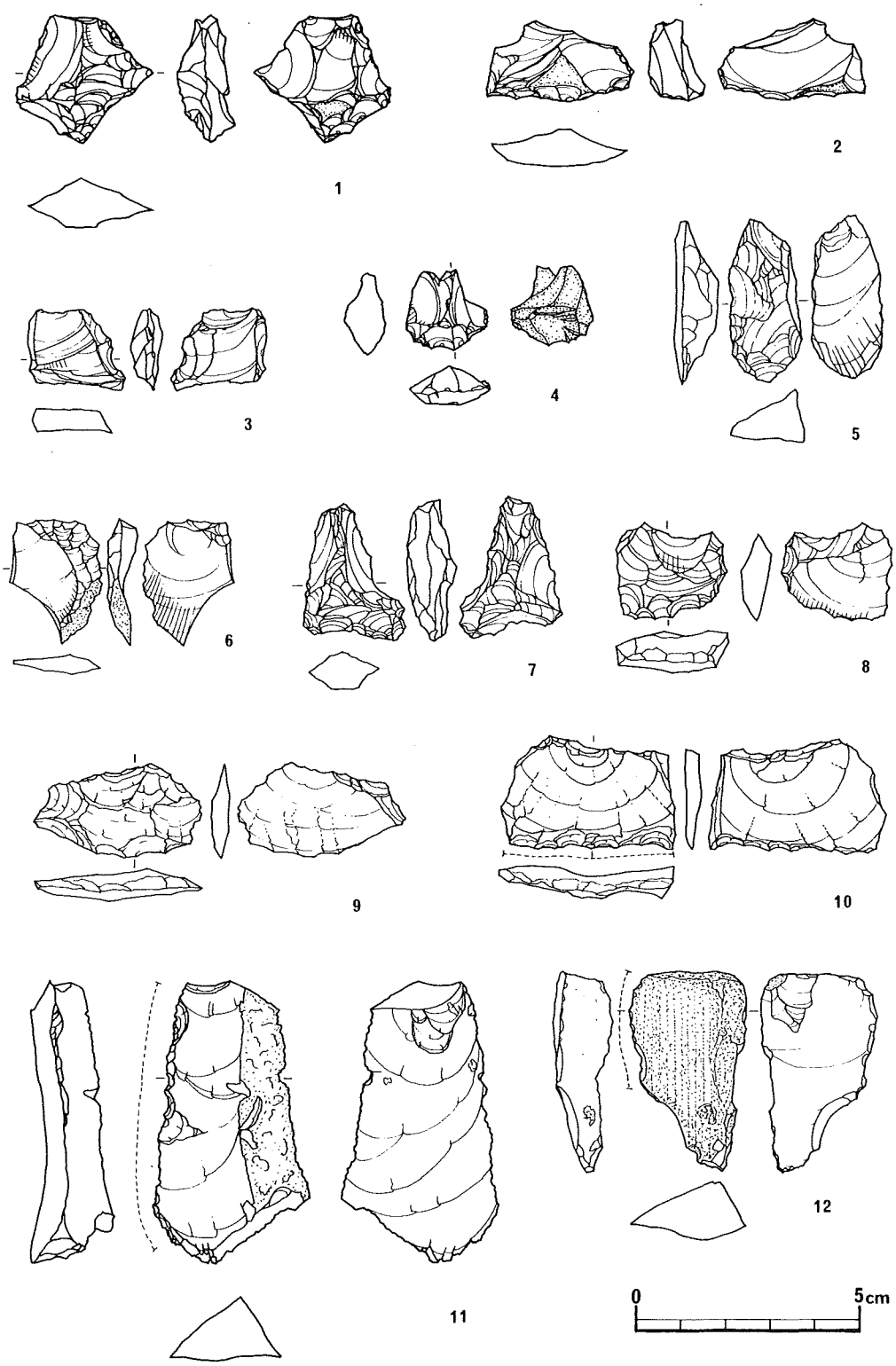


Fig.155 縄文時代の石器—加工痕ある石器・使用痕ある剝片① (2/3)

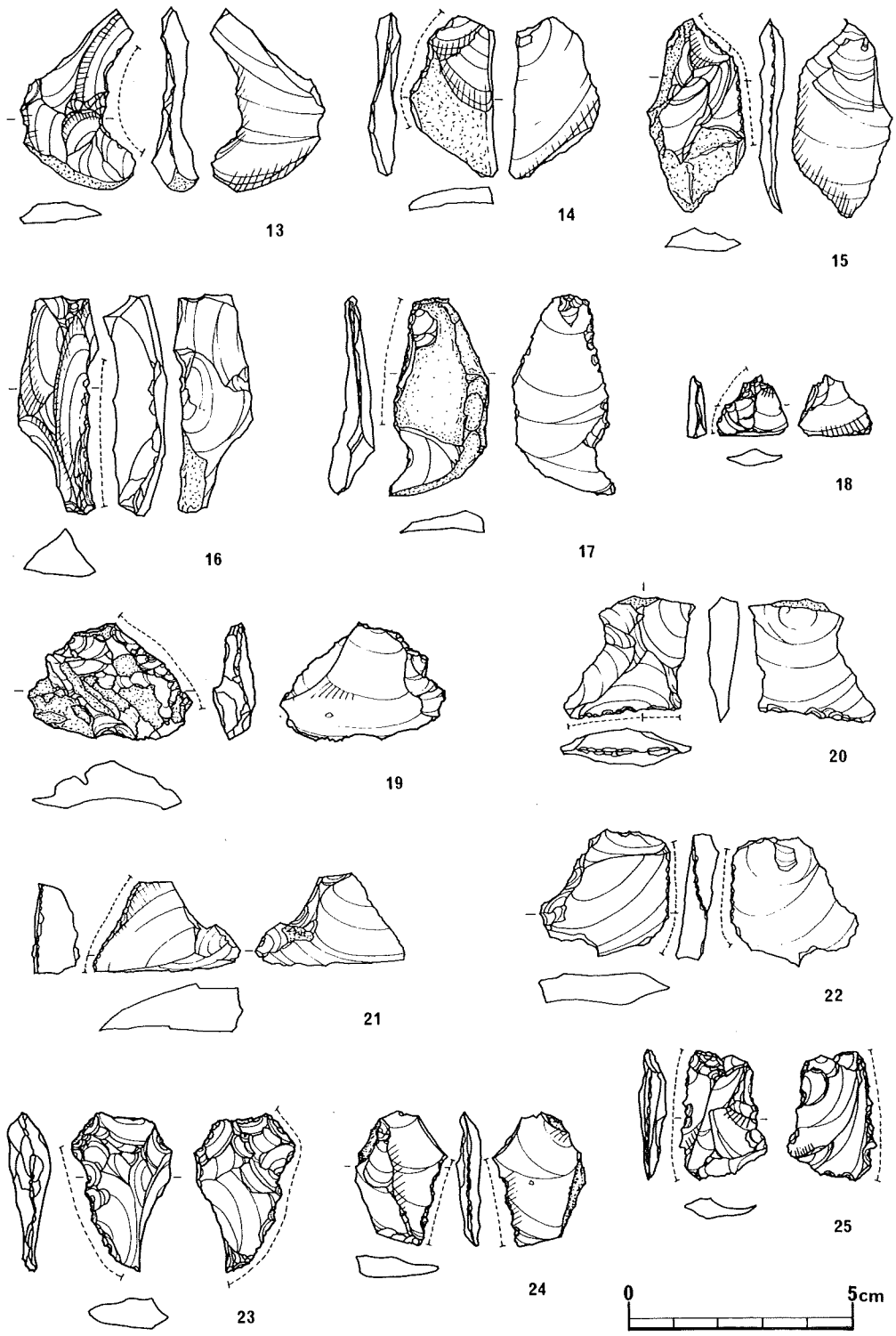


Fig.156 使用痕ある剝片② (2/3)

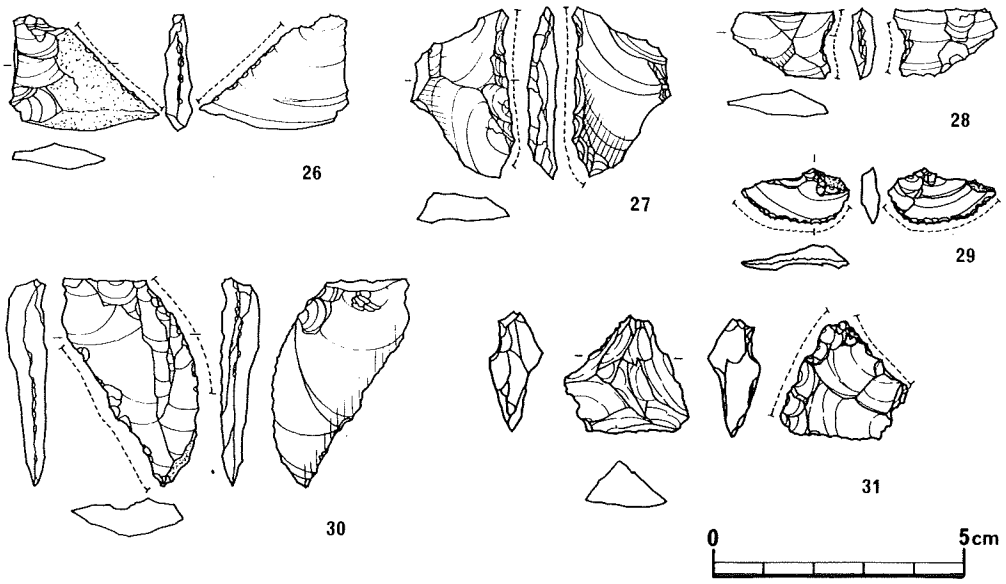


Fig.157 使用痕ある剝片③ (2/3)

れている。29は小型の横長剝片で微細な刃こぼれが鋸歯状に形成されている。

30は黒曜石C製で平坦打面より剝離された縦長剝片である。両側縁とも表面に顕著な刃こぼれが認められる。31は黒曜石B製でパテナが著しい。両側縁とも裏面に認められる。

Tab. 27 加工痕ある石器・使用痕ある剝片一覧表

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	備考	重量(g)
1	Y—33	ドーナツ状土壙	加工痕ある石器	黒曜石C	パテナ有り，全体に荒い加工	6.3
2	Y—32	黄褐色粘質土	〃	〃 C	裏面は主要剝離面を大きく残す	5.2
3	Y—33	赤褐色粘質土	〃	〃 B	側縁の一部に刃部状の加工	2.6
4	X—32	ドーナツ状土壙	〃	〃 A	刃部状の加工	1.8
5	U—34	赤褐色粘質土	〃	〃 A	全体的にかなりのローリングを受ける	4.6
6	T—31	不明土壙	〃	〃 A	薄い剝片を用いる	2.2
7	Z—33	赤褐色粘質土	〃	〃 C	表裏全体に粗雑な加工	4.9
8	ハ—34	黄褐色粘質土	〃	〃 C	下端に刃部状の加工	4.3
9	Z—33	黄褐色粘質土	〃	安山岩	全体的にパテナが著しい	4.1
10	ロ—34	黄褐色粘質土	使用痕ある剝片	安山岩	横長剝片，パテナ有り	5.5
11	ホ—35	黄褐色粘質土	〃	〃	断面が三角形状をなす	28.0
12	W—35	20号集石	〃	黒曜石C	表面全体は自然面	10.8
13	Z—35	黄褐色粘質土	〃	〃 C	内湾する側縁に刃こぼれ	4.3

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	備考	重量(g)
14	ハ—34	黄褐色粘質土	〃	〃 C	薄い剝片	2.8
15	Z—34	不明土壙	〃	〃 C	表面の一部に自然面を残す	3.2
16	Z—33	黄褐色粘質土	〃	〃 A	断面が三角形状をなす	8.3
17	Y—33	赤褐色粘質土	〃	〃 C	表面の一部に自然面を残す	5.0
18	W—33	落ち込み	〃	〃 A	小形の剝片	0.7
19	Y—32	黄褐色粘質土	〃	〃 A	幅広の剝片	6.5
20	Y—32	黄褐色粘質土	〃	〃 B	パテナが著しい	4.4
21	X—33	赤褐色砂礫	〃	〃 B	パテナが著しい	4.7
22	W—31	ドーナツ状土壙	〃	〃 C	一側縁表裏に刃こぼれ	4.4
23	Y—33	黄褐色粘質土	〃	〃 B	部分的にパテナが著しい	4.6
24	ニ—35	黄褐色粘質土	〃	〃 C	小形の縦長剝片	2.5
25	Y—33	ドーナツ状土壙	〃	〃 A	裏面の刃こぼれがより顕著	2.6
26	Z—35	赤褐色粘質土	〃	〃 C	表裏共にまばらな刃こぼれ	2.5
27	W—35	赤褐色粘質土	〃	〃 C	平坦打面より剝離された剝片	2.8
28	Y—34	赤褐色粘質土	〃	〃 C	内湾する側縁に刃こぼれ	1.2
29	Y—33	赤褐色粘質土	〃	〃 B	小形の横長剝片	0.6
30	ハ—34	赤褐色粘質土	〃	〃 C	二側縁に刃こぼれ	4.9
31	X—34	落ち込み	〃	〃 B	二側縁共，裏面に刃こぼれ	3.2
32	W—31	ドーナツ状土壙	〃	〃 C	一側表面に刃こぼれ	3.9
33	X—32	黄褐色粘質土	〃	〃 A	自然打面より剝離されたもの	3.6
34	Y—33	赤褐色粘質土	〃	〃 C	一側縁表面に顕著な刃こぼれ	1.1
35	Y—33	赤褐色粘質土	〃	安山岩	一側縁裏面に刃こぼれ	4.6
36	Y—31	赤褐色粘質土	〃	〃	小形の横長剝片	1.7
37	Y—33	赤褐色粘質土	〃	黒曜石C	小形の縦長剝片	0.4
38	Y—33	赤褐色粘質土	〃	安山岩	薄い縦長剝片	2.6
39	Z—33	黄褐色粘質土	使用痕ある剝片	黒曜石B	二側縁に刃こぼれ	1.0
40	Z—33	黄褐色粘質土	〃	〃 C	縦長剝片で下部欠損	3.2
41	Z—33	黄褐色粘質土	〃	〃 A	表面一側縁の一部に刃こぼれ	2.1
42	Z—33	黄褐色粘質土	〃	〃 C	表面，一側縁の一部に刃こぼれ	2.5
43	Z—33	26号炉穴	〃	〃 C	扁平な縦長剝片	1.3
44	イ—33	黄褐色粘質土	〃	〃 C	一側縁表裏に刃こぼれ	3.5
45	イ—33	黄褐色粘質土	〃	〃 A	薄い剝片	1.45
46	ハ—34	赤褐色粘質土	〃	〃 C	若干，刃こぼれ有り	4.3
47	ハ—34	赤褐色粘質土	〃	〃 C	小形の縦長剝片	2.3

石槍
(Fig. 158)
〔PL. 55〕

B地点より出土した石槍は10点ですべて図化した。A地点と異なり，出土数も多く，特徴的な形態のものもみられる。特に1～6は推定のものも含めて，基部に脹みをもつ木葉形を呈するもので注目される。1

～4・6の5点は安山岩製，残る5・7～10の5点は黒曜石製である。

1は長さ7.2cm，幅（最大幅）1.8cmを測る完形のものである。図を見ても明らかなように，若干ではあるが左右の不均等感がある。加工は丁寧である。2は先端を小さく欠損するもので，推定の長さ7.7cm，幅2.5cmを測る。ほぼ中央部に最大幅をもつ。多少部分的にパテナが認められる。3は下端を欠損する。推定の長さ9cm，最大幅2.4cmを測り，中央部やや下に最大幅をもつ。4は先端を欠損するが，推定の長さ11.8cmを測り，最も大きいものである。先の1～3までのものと比較するとやや細身でスマートな形態である。ほぼ中央部に最大幅をもつ。5は片方の側縁が欠損しているようにみえるが，自然面となっており，完形のものである。本来であれば1～4の木葉形を呈するものであろうが，条件の限られた剝片より無理に作成したという感じである。長さ4.8cm，幅1.3cmを測る。黒曜石B製でパテナが著しく認められる。6は石槍自身の中央部のみのものである。二次加工の状態などは1～4によく似ている。7は長さ3.8cm・幅1.9cmを測る。黒曜石B製のものである。先端も鈍い角度で，二次加工そのものも極めて簡単に施こしている。特に裏面には主要剝離面を大きく残す。8は黒曜石A製，下端を欠損するものである。推定の長さはおよそ5～6cmのものと考えられる。二次加工は細かく丁寧である。9は黒曜石C製で先端をわずかに欠損するものである。推定の長さおよそ5cmで，幅2.7cmを測る。下部に最大幅をもつ。表面には自然面を多く残す。10は先端のみのもので黒曜石C製。

Tab. 28　石槍計測表　　（　）は現寸〈　〉推定値

挿図番号	出土区	出土層位	石材	重さ(g)	長(cm)	幅(m)	厚(m)	備考
1	Y－32	黄褐色粘質土	安山岩	7.2	5.7	1.8	0.8	若干，歪んだ感である。
2	ハ－33	黄褐色粘質土	〃	(15.3)	(7.2)〈7.7〉	2.5	0.9	ほぼ中央で最大幅をもつ。
3	ハ－34	黄褐色粘質土	〃	(15.5)	(8.0)〈9.0〉	2.4	1.0	下端部を欠損する。
4	Z－33	黄褐色粘質土	〃	(32.0)	(10.2)〈11.8〉	2.6	1.0	全体的に丁寧な加工である。
5	ハ－34	黄褐色粘質土	黒曜石B	3.8	4.8	1.3	0.5	パテナが著しい。
6	ホ－35	黄褐色粘質土	安山岩	(4.8)	(2.3)	(2.0)	(0.8)	パテナあり。
7	Z－33	黄褐色粘質土	黒曜石B	4.0	3.6	2.1	0.6	粗雑な二次加工。
8	Z－33	黄褐色粘質土	〃　A	(8.4)	〈3.8〉	1.9	1.1	下端を欠損する。
9	Z－33	黄褐色粘質土	〃　C	(7.5)	(4.5)〈5.1〉	2.7	0.8	上端部を欠損する。
10	Z－34	赤褐色粘質土	〃　C	(3.4)	(2.5)	(2.1)	(0.7)	先端部のみ。

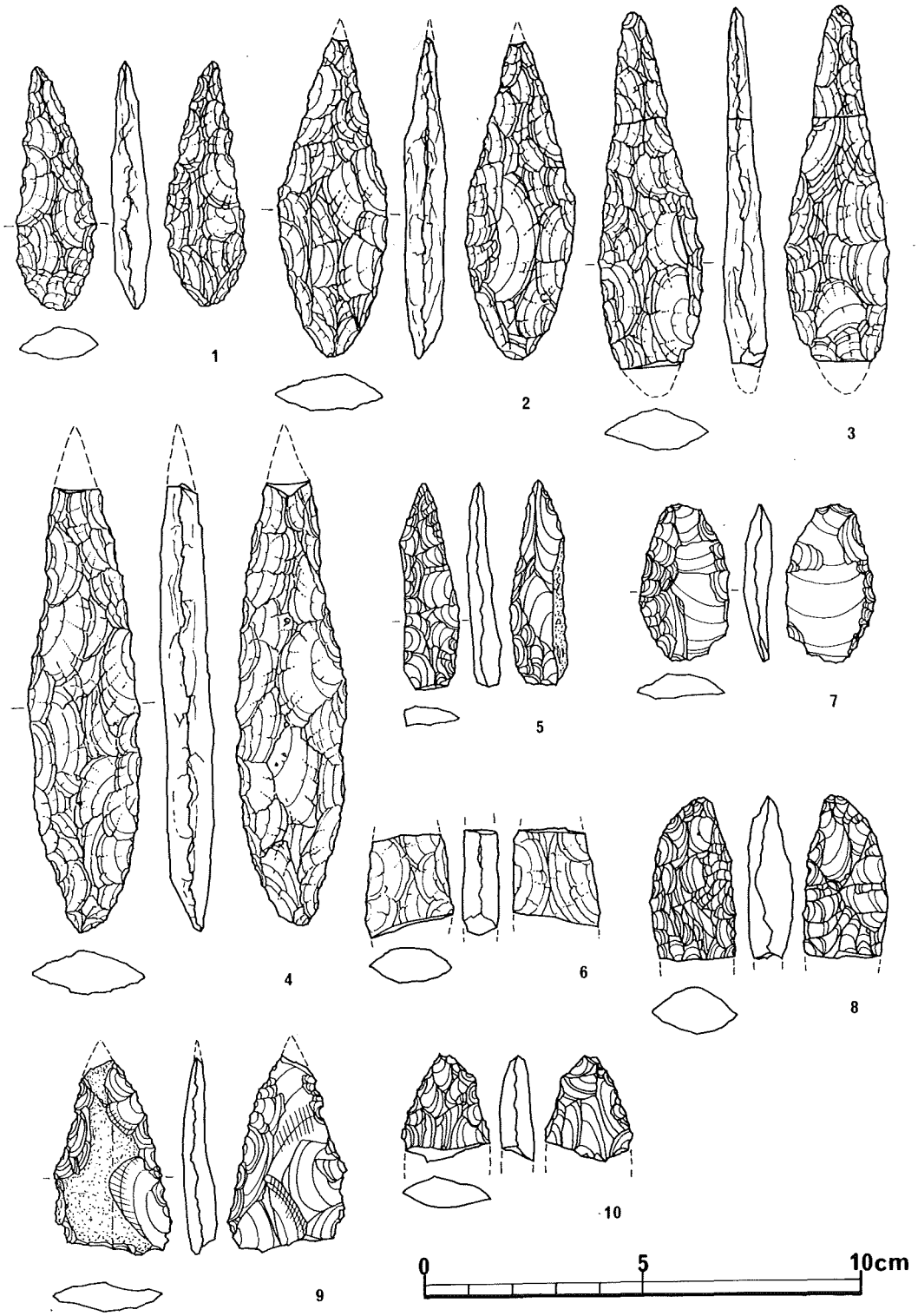


Fig.158 縄文時代の石器—石槍 (2/3)

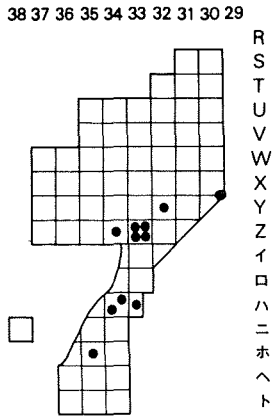


Fig.159 各地区出土石槍

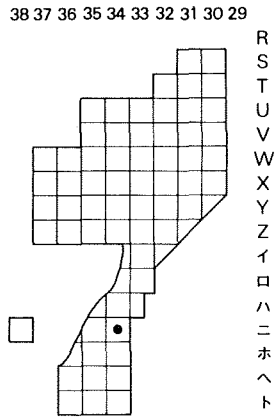


Fig.160 各地区出土彫器

彫器
(Fig. 161)
〔PL. 56〕

B地点からの彫器の出土は1点のみである。黒曜石C製でやや湾曲した剝片を用いている。A地点の1・2でもみられたように，先端を交錯するようにして両刃を形成している。また側面の一部には自然面が若干残る。計測値は次の通りである。長さ3.1cm，幅1.7cm，厚さ0.8cm，重量4.4gを計測する。

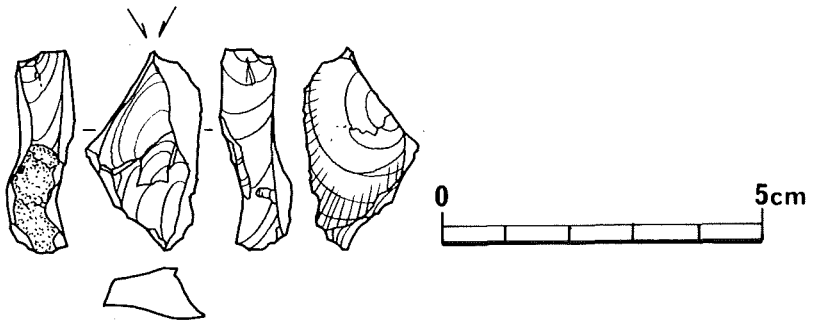


Fig.161 縄文時代の石器—彫器 (2/3)

楔形石器
(Fig. 162・163)
〔PL. 56〕

出土した17点すべて図化し記載した。石材はすべて黒曜石製のものである。

1は黒曜石C製で表面に多少自然面を残す。やや縦長で上作業部（打面）はやや丸のみ状に，下部は尖る。2は黒曜石C製。パテナが著しくローリングを受けているものと考えられる。上下に若干剝落痕をもつ。3はかなり小型のもので，すべての面が裁断面として考えられる。断面形も不整な六角形状を呈する。上下作業部は互いに直交する状況を成す。黒曜石C製。4は黒曜石B製。作業部は一直線状を成しかなり鋭い角度をもつ。5は黒曜石C製。両側に裁断面をもつ。上下ともに作業部は直

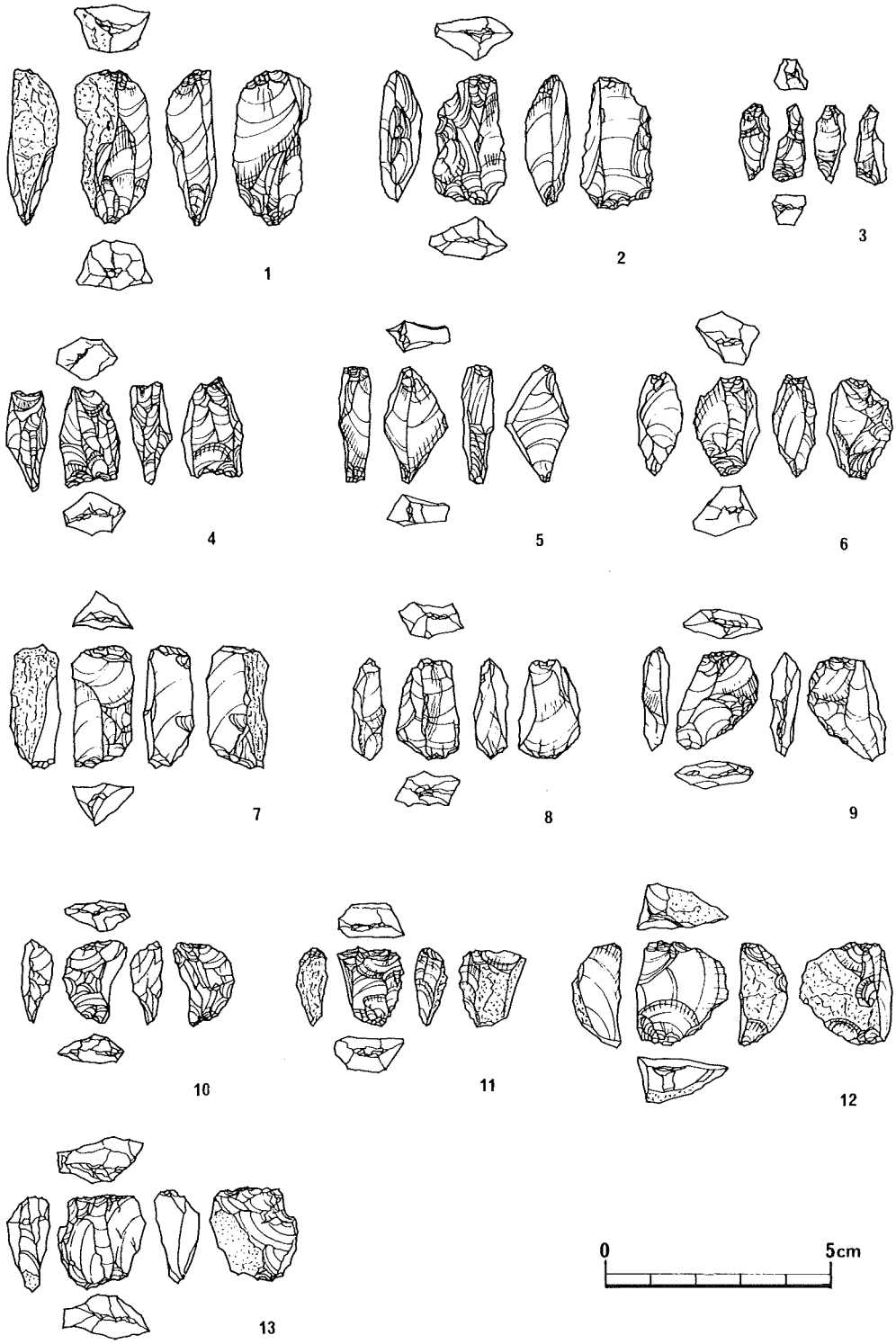


Fig.162 縄文時代の石器—楔形石器① (2/3)

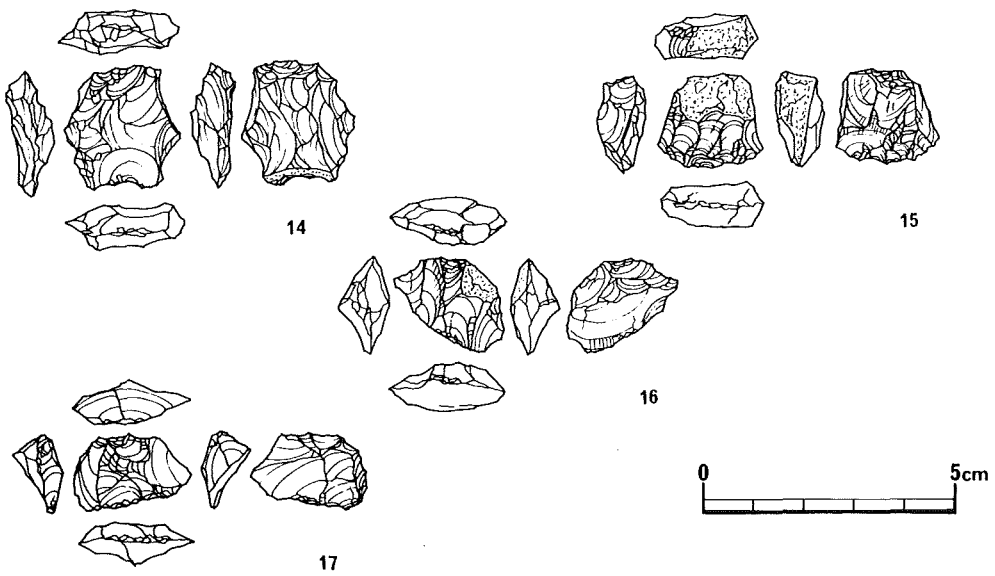


Fig.163 縄文時代の石器—楔形石器② (2/3)

Tab. 29　楔形石器計測表

挿図番号	出土区	出土層位	石材	重さ(g)	長(m)	幅(m)	厚(m)	備考
1	W—35	黄褐色粘質土	黒曜石C	5.7	3.4	1.6	1.1	表面に自然面を残す。
2	W—35	赤褐色粘質土	〃 C	4.2	2.9	1.6	0.9	ローリング痕が認められる。
3	W—35	赤褐色粘質土	〃 C	0.7	2.2	0.7	0.7	小型のもの
4	W—35	赤褐色粘質土	〃 B	2.2	2.2	1.3	0.9	鋭い一直線状の作業面。
5	W—31	黄褐色粘質土	〃 C	1.9	2.1	1.4	0.8	両側に裁断面をもつ。
6	Z—32	赤褐色粘質土	〃 C	2.7	2.2	1.5	1.0	上下に乱れた剝落。
7	Z—33	撹乱中	〃 C	3.6	3.2	1.4	1.1	三角形状の断面形
8	ハ—33	赤褐色粘質土	〃 A	2.3	2.3	1.4	0.8	裁断面を有する。
9	ニ—35	黄褐色粘質土	〃 C	2.2	2.2	1.6	0.6	扁平な断面形。
10	Z—32	赤褐色粘質土	〃 C	1.2	1.8	1.5	0.7	側面を一部欠損。
11	Z—32	黄褐色粘質土	〃 A	1.8	1.8	1.5	0.7	自然面を多少残す。
12	イ—34	赤褐色粘質土	〃 C	4.0	2.3	2.1	1.1	自然面を大きく残す。
13	イ—33	黄褐色粘質土	〃 B	3.5	2.0	1.9	0.9	パテナが著しい。
14	ハ—34	赤褐色粘質土	〃 C	3.7	2.5	2.3	0.8	平面形が六角形状を呈す。
15	W—32	赤褐色粘質土	〃 C	1.8	1.9	2.1	1.0	自然面が多くを占める。
16	ロ—33	黄褐色粘質土	〃 C	2.4	1.7	2.2	1.0	下作業部は斜め。
17	Z—32	黄褐色粘質土	〃 C	1.9	1.4	2.3	0.8	全体的に粗雑。

交するようになっている。6は黒曜石C製。上下にかなり乱れた剝落痕をもつ。断面形は多角形を呈する。7は黒曜石C製。三角形状の断面を

呈し一面は自然面となる。下作業部は丸のみ状となる。8は黒曜石A製。一条の裁断面を有する。9は黒曜石C製で，やや扁平なものである。下作業部は斜めにやや片寄った所に形成されている。10は黒曜石C製。側面は裁断面というよりむしろ，使用の際に剝落欠損したものと考えられる。11は黒曜石A製。自然面を多少残している。一条の裁断面を有する。12は黒曜石C製。自然面を広く残し，大きな裁断面を有する。13は黒曜石B製。パテナが著しい。上下ともに一直線状の作業部を有する。14は平面形が不整の六角形状を呈す。上下作業部はほぼ一直線状となる。また下作業部は片面わずかな自然面を残す。黒曜石C製。15は上部及び上作業部（打面）はすべて自然面でおおわれる。下部はやや外湾しており微細な剝落（つぶれ）を有しており，一応楔形石器とした。16・17は黒曜石C製。比較的粗雑な感じの横長のものである。2点とも下端刃部は斜めになっている。

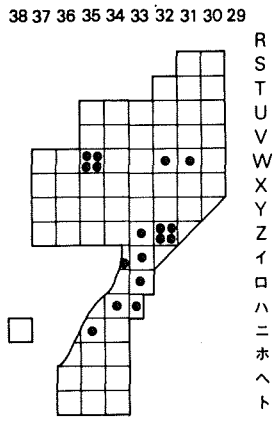


Fig.164 各地区出土楔形石器

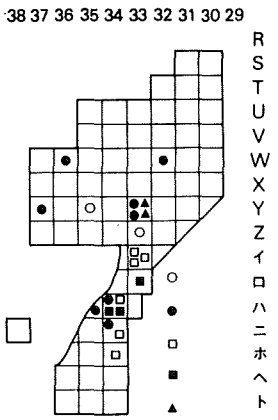


Fig.165 各地区出土磨石・敲石・凹石・砥石・石皿

磨石
(Fig. 166)
〔PL. 57〕

1・2は磨石である。特に1は長さ3.6cm，幅2.8cm，厚さ2.2cm，重量30gを計る小型のものである。研磨の状況は丁寧ですべすべしている。

敲石
(Fig. 166)
〔PL. 57〕

3～9は敲石である。表面は研磨面で覆われており磨石的な要素も兼ねているものと考えられる。中でも4・5・9は打面部が欠損するものでかなりの打激を受けたものであろう。5はドーナツ状土壙内より，7は第5号竪穴遺構内よりそれぞれ出土する。

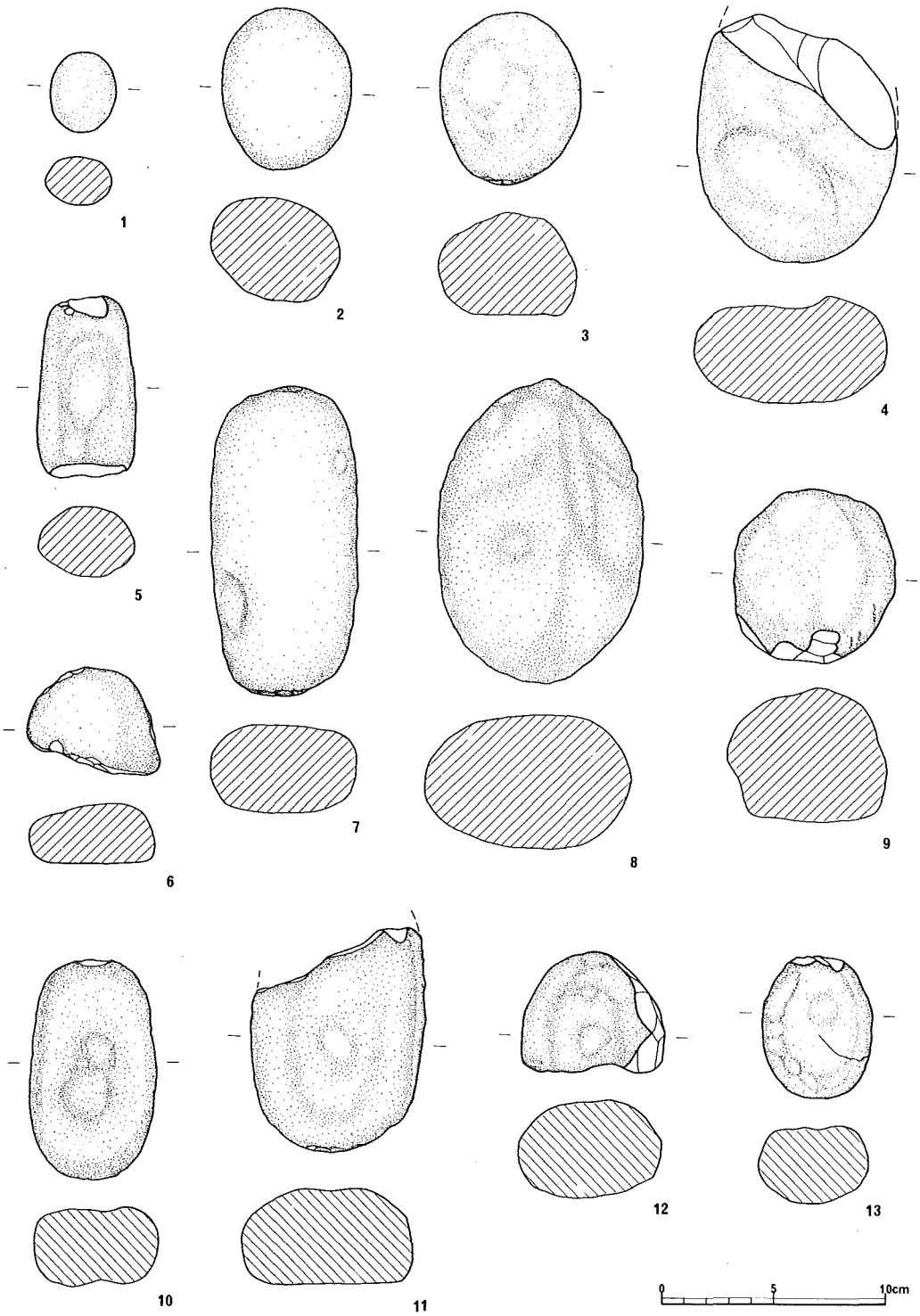


Fig.166 縄文時代の石器—磨石・敲石・凹石① (1/3)

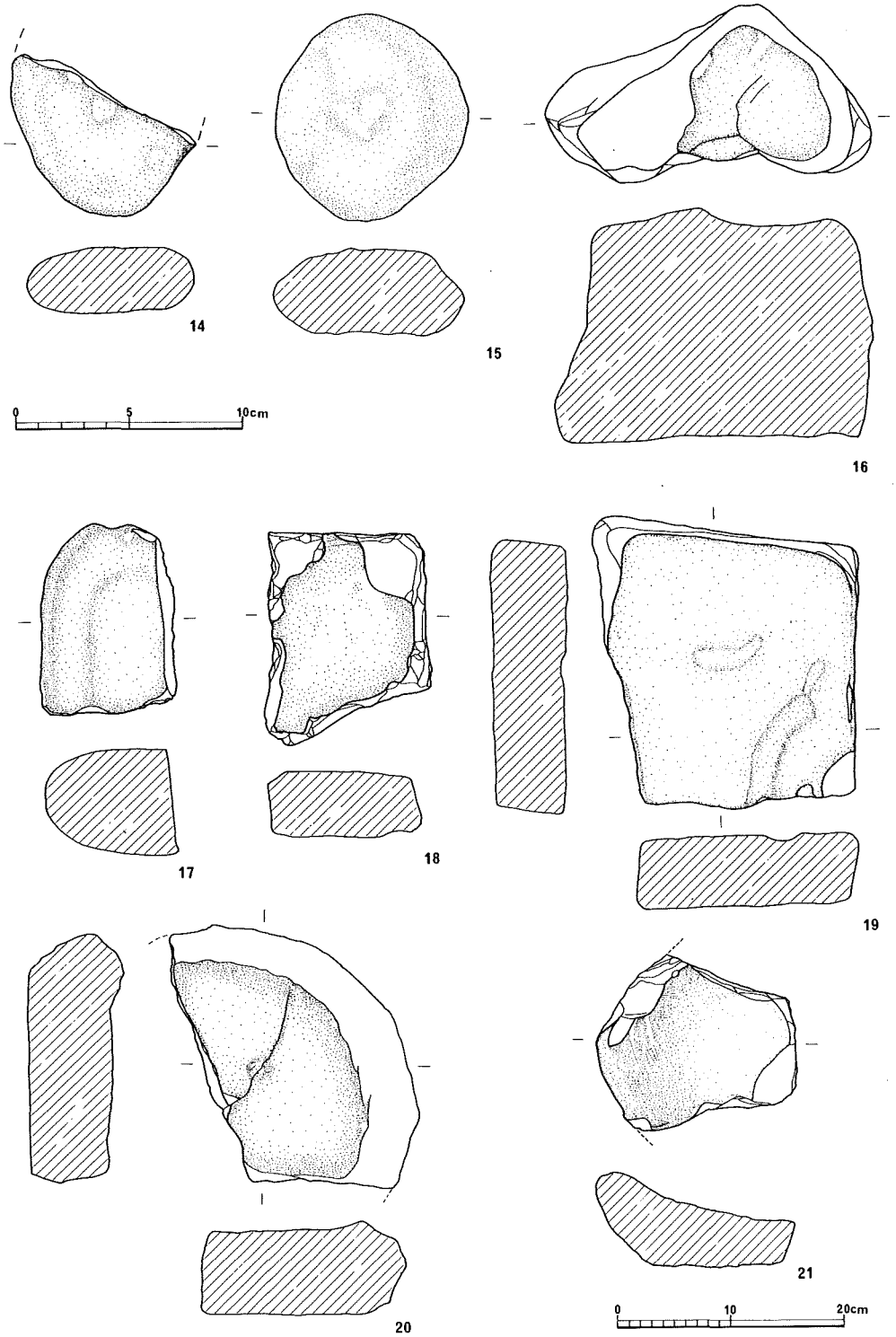


Fig.167 縄文時代の石器—凹石・砥石・石皿②（1/3）〔18～21は(1/6)〕

Tab. 30　磨石・敲石・凹石・砥石・石皿計測表

挿図番号	出土区	出土層位	器種	石材	重さ(g)	長(m)	幅(m)	厚(m)	備考
1	Y—35	黄褐色粘質土	磨石	硬質砂岩	30	3.6	2.8	2.2	非常に小型
2	Z—33	黄褐色粘質土	〃	〃	260	7.2	5.8	4.6	研磨は丁寧
3	W—36	撹乱中	敲石	砂岩	300	7.7	6.2	4.5	表面がやや荒い
4	Y—33	黄褐色粘質土	〃	〃	(670)	(11.0)	8.9	4.8	一部欠損
5	Y—33	ドーナツ状土壙	〃	硬質砂岩	(180)	(8.1)	4.4	3.1	両端を欠損
6	ハ—34	赤褐色粘質土	〃	砂岩	(80)	(4.8)	5.9	3.7	一部欠損
7	W—32	第5号竪穴	〃	〃	500	13.8	6.5	4.0	長楕円形を呈す
8	Y—37	撹乱中	〃	〃	1,080	13.6	9.1	5.9	やや大型
9	ニ—34	赤褐色粘質土	〃	〃	410	7.8	7.2	6.0	一部欠損
10	イ—33	黄褐色粘質土	凹石	〃	240	9.8	5.7	3.5	二ケ所の凹面
11	ホ—34	黄色粘質土	〃	〃	(530)	(10.2)	7.8	4.4	一部欠損
12	イ—33	黄褐色粘質土	〃	〃	(190)	(5.3)	6.4	4.4	一部欠損
13	イ—33	黄褐色粘質土	〃	硬質砂岩	130	6.4	4.9	3.5	剝落を持つ
14	ニ—34	赤褐色粘質土	〃	砂岩	(150)	(7.1)	8.1	3.0	一部欠損
15	ハ—35	赤褐色粘質土	〃	硬質砂岩	340	9.2	8.4	3.8	表面がやや荒い
16	ロ—33	赤褐色粘質土	砥石	〃	950	7.2	14.1	10.2	厚い石材を用いる
17	ハ—34	黄褐色粘質土	〃	〃	(350)	(8.3)	(6.0)	4.8	一部欠損
18	ハ—34	赤褐色粘質土	〃	〃	(1,950)	(18.8)	(14.6)	5.9	風化がやや進む
19	ハ—34	赤褐色粘質土	〃	〃	(6,900)	(26.2)	(23.3)	6.2	溝状の凹面を持つ
20	Y—33	黄褐色粘質土	石皿	〃	(4,600)	(22.7)	(22.1)	8.2	大型のものが推定される
21	Y—33	黄褐色粘質土	〃	〃	(1,880)	(15.6)	(17.5)	6.0	内面はやや深い

凹石
(Fig.166·167)
〔PL. 57〕

10～15は凹石である。10は長楕円形状を呈するもので，明確な凹面を表面に，2ケ所程認めることができる。また，先端はややつぶれた状況を成しており敲石を兼ねているものと考えられる。11・12・14は欠損するものである。13はやや小型のもので一つの凹面をもつ。先の10と同様に先端の小さな剝落やつぶれが認められる。

砥石
(Fig. 167)
〔PL. 57〕

16～19は砥石である。16は平面形が三角形状，断面が四角形状を成す厚いもので，表面にわずかに磨製面が認められる。17は本来は円礫と思われるものを用いており大幅に欠損を成す。18・19は板状の砂岩を使用している。19は表面に溝状の磨製面を2ケ所認めることができる。

石皿
(Fig. 167)
〔PL. 57〕

20・21は石皿である。2点とも第III層（黄褐色粘質土層）より出土する。20は欠損するがかなり大型であることがわかる。現存においては扇形に近い形で残っている。ひび割れがいくつか見られ風化が進んでいる。

磨製面はやや浅いが細かく平担である。21も20と同様欠損するもので，やや小型となる。磨製面は比較的に深く，ゆるやかなスロープ状を描く断面形を成す。

剝片
(Fig. 168・169)
〔PL. 58 〕

23点を選んで図化し記載した。23点の内，打面部が自然面なもの1～12，平担なもの13～17，調整されたもの15～21の3つに分類した。

1は黒曜石C製の扁平な小型の縦長のものである。打面部のみに自然面を残す。2は黒曜石C製でパテナが部分的に著しく認められる。打面部は平担な自然面である。3は黒曜石C製，やや幅広のものである。打面部を含む上端のみに自然面を残す。4は黒曜石C製，表面及び打面部はすべて自然面でパテナが著しい。5は安山岩製でパテナが著しい。打面部のみに平担な自然面を残す。6は黒曜石B製，打面部と表面のほとんどを自然面が占める。部分的にパテナが認められる。7・8は黒曜石C製で2点とも打面部から側縁にかけて自然面を残す。9は黒曜石B製，打面部と側縁の一部に自然面を残す。10は黒曜石A製，横長の剝片で打面部と表面下部に自然面を残す。また表面にはいくつかの剝離痕が認められる。11は黒曜石B製の扁平な小型横長剝片である。上端部のみに平担な自然面を残す。12は安山岩製の横長剝片でパテナが著しい。上端から側縁の一部にかけて自然面を残す。

13・15は黒曜石C製で表面はほとんど自然面が占める。2点ともやや鈍角な剝離角である。14は黒曜石B製，表面はすべて自然面である。鋭角な剝離角を有する。16は黒曜石A製で表面は自然面が多くを占めるがいくつかの小さい剝離痕も認められる。17は黒曜石C製，表面から側縁にかけて自然面を残す。表面は2度ほどの剝離痕が認められる。

18は黒曜石A製，微細な調整痕が認められる。数度の剝離痕が認められる。19は黒曜石C製でパテナが認められる。扁平なストレートの縦長剝片である。若干ではあるが打面調整の痕がうかがえる。表面の下端に一部自然面を残す。20は安山岩製でパテナが著しい。やや幅広の剝片で上端全体に調整痕が認められる。21は黒曜石B製の横長剝片でパテナが著しい。いくつかの剝離痕が認められる。22は黒曜石C製。かなりのローリングを受けていると思われるもので陵線の磨滅が目立つ。若干ではあるが打面調整を行っている。23は黒曜石B製，扁平な幅広の剝片である。

石核
(Fig.170～172)
〔PL. 58〕

23点を選んで図化し記載した。剥片と同様に，打面部が自然面のもの（1～14），平担なもの（15～22），調整が行われているもの(23)の3つに分類した。

1は小型の原石を用いており上部の平担な自然面より90度に回転させ2度の剥片剥離が行われている。2～5は1度のみの剥片剥離が行なわれているものである。6は上下から小さな剥片を数度剥離している。7・9は上部の平担な自然面より2度程の剥離を行っている。8は上からと横に90度転回するようにして数度の剥片剥離を行っている。10・11は上下よりやや幅広，もしくは横長の剥片を剥離した痕を残す。12は大きな剥離面の上に小形の横長剥片を上部の平担な自然面より剥離している。13はほぼ一直線状になる上部の自然面と裏面の下部より剥片剥離を行う。14は小型の縦長剥片を上部より2度程剥離している。15～18はほとんど残核化してしまっているもので，打面を転移しながら多方向より小型の剥片をとりだしている。16・17は一部に自然面が残りその状況より母材自体もかなり小型のものであったものと考えられる。18はややパテナが認められるもので，自然面を多く残す。正面上からやや小型の横長剥片を剥離する他に多方向よりいくつかの剥片取りが行なわれている。20は上下に平端面をもつ，上から幅広の剥片を剥離している。21は唯一安山岩製の石核である。上下に平担面を有し，上下よりやや幅広の剥片を剥離している。21はローリングを受けた痕跡を有する。23は上部は自然打面を有する剥片剥離であるが下部は表裏より交互に打面を整えつつ剥片取りを行ったものと考えられるもので，全体観は亀甲状を呈する。21を除く他はすべて黒曜石C製で，B地点全体でみても圧到的に多くを占める。特に非常に小型で残核化しているものが目立つのも特徴といえよう。また，図の2～5のように，1度のみの剥離面を持つものもかなり多い。

なお，A・B両地より出土した遺物は後の「出土遺物について」の項で資料と若干の考察を加えてみた。

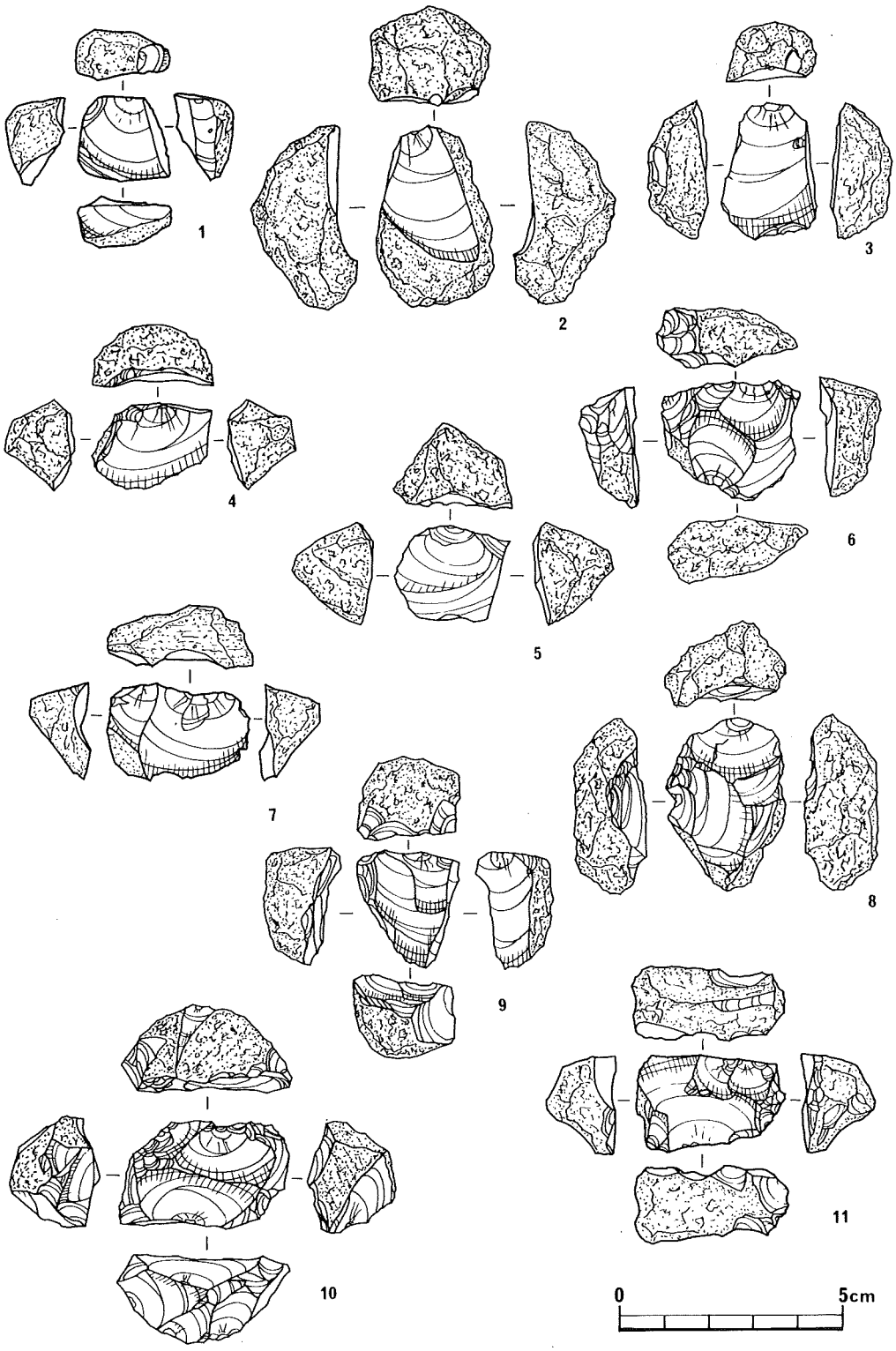


Fig.170 縄文時代の石器—石核① (2/3)

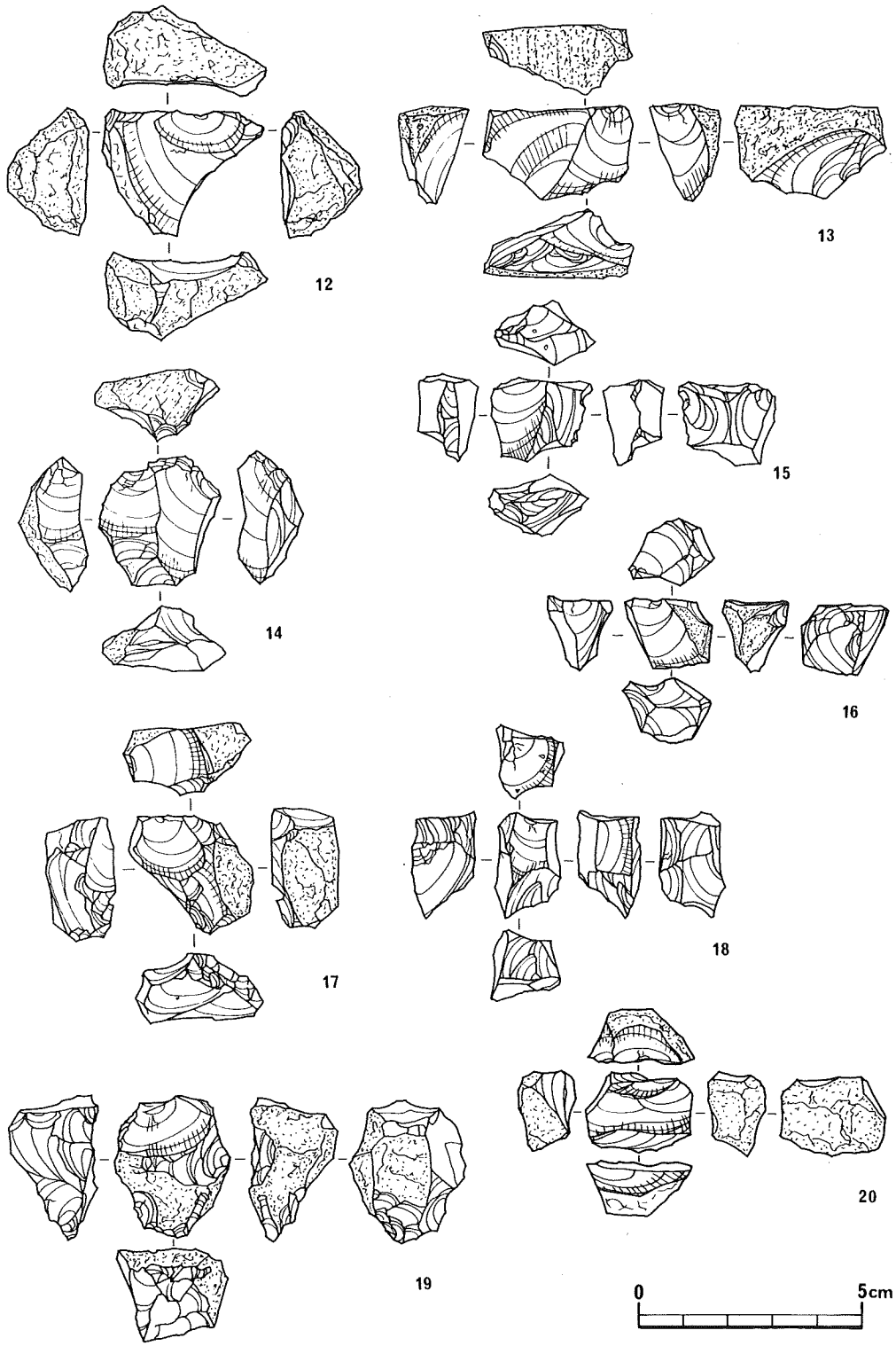


Fig.171 縄文時代の石器—石核② (2/3)

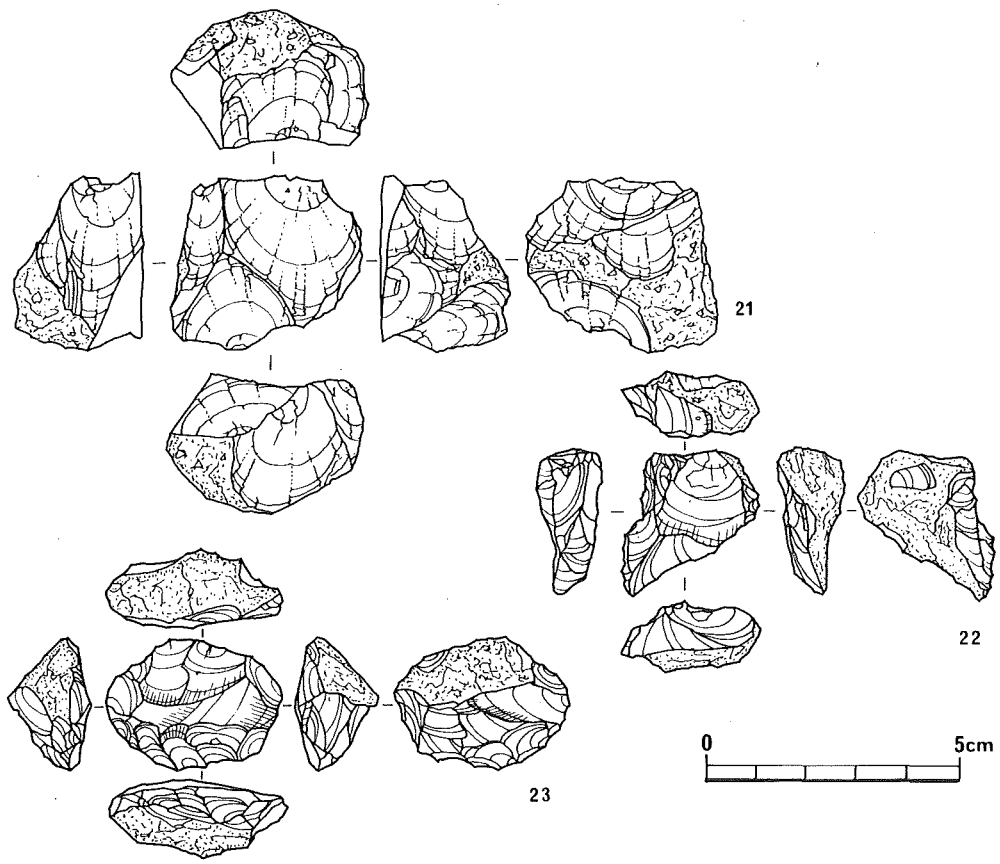


Fig.172 縄文時代の石器—石核③ (2/3)

Tab. 31 剝片・石核一覧表

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	備考	重量(g)
1	Z—33	黄褐色粘質土	剝片	黒曜石C	扁平な小型の縦長剝片	1.7
2	ロ—34	黄褐色粘質土	〃	〃 C	パテナが部分的に著しい	3.9
3	ニ—34	赤褐色粘質土	〃	〃 C	上端のみに自然面	4.3
4	Y—32	黄褐色粘質土	〃	〃 C	パテナが著しい	3.2
5	ロ—34	黄褐色粘質土	〃	安山岩	打面部は平担な自然面	4.2
6	ハ—35	赤褐色粘質土	〃	黒曜石B	表面はほとんど自然面	7.9
7	ハ—34	黄褐色粘質土	〃	〃 C	打面部から側縁にかけて自然面	6.5
8	ニ—35	黄褐色粘質土	〃	〃 C	打面部から側縁にかけて自然面	11.0
9	Z—34	赤褐色粘質土	〃	〃 C	打面部と側縁の一部に自然面	7.4
10	イ—33	黄褐色粘質土	〃	〃 A	横長剝片	8.2
11	V—30	黄褐色粘質土	〃	〃 B	扁平な小型の横長剝片	1.9
12	イ—33	黄褐色粘質土	〃	安山岩	上端から側縁の一部にかけて自然面	4.1

挿図番号	出土地区	出土層位	器種	石材	備考	重量(g)
13	イ—33	黄褐色粘質土	〃	黒曜石C	表面はほとんど自然面	13.5
14	ニ—34	黄褐色粘質土	〃	〃 B	鋭角な剝離角度	4.2
15	Z—33	黄褐色粘質土	〃	〃 C	表面はほとんど自然面	3.1
16	ロ—34	黄褐色粘質土	〃	〃 A	表面に小さい剝離痕有り	6.9
17	ホ—35	黄褐色粘質土	〃	〃 C	表面に2度程の剝離痕有り	4.9
18	ハ—34	赤褐色粘質土	〃	〃 A	微細な調整痕	5.9
19	Z—33	黄褐色粘質土	〃	〃 C	扁平なストレート剝片	3.7
20	Z—33	黄褐色粘質土	〃	安山岩	パテナが著しい	4.7
21	W—33	赤褐色粘質土	〃	黒曜石B	横長剝片	7.0
22	ロ—34	黄褐色粘質土	〃	〃 C	ローリング痕が認められる	3.3
23	イ—33	黄褐色粘質土	〃	〃 B	扁平な幅広の剝片	1.0
1	Y—32	黄褐色粘質土	石核	黒曜石C	小型の原石を用いる	4.3
2	Y—36	黄褐色粘質土	〃	〃 C	小型の原石で1度のみの剝離	21.7
3	Y—32	黄褐色粘質土	〃	〃 C	小型の原石で，1度のみの剝離	8.1
4	ハ—34	赤褐色粘質土	〃	〃 C	小型の原石で，1度のみの剝離	6.3
5	イ—34	赤褐色粘質土	〃	〃 C	小型の原石で，1度のみの剝離	7.4
6	Z—34	黄褐色粘質土	〃	〃 C	上下から小さな剝離を行う	9.7
7	X—33	落ち込み	〃	〃 C	上部は平担な自然面	6.7
8	イ—33	黄褐色粘質土	〃	〃 C	上と横からの剝離	15.1
9	ロ—34	黄褐色粘質土	〃	〃 C	上部は平担な自然面	9.6
10	U—34	落ち込み	〃	〃 C	上下より横長剝片を剝離	14.7
11	W—31	表土	〃	〃 C	上下は平担な自然面	12.2
12	ニ—35	黄褐色粘質土	〃	〃 C	上部は平担な自然面	11.4
13	X—33	落ち込み	〃	〃 C	上部平担面は一直線上をなす	7.9
14	N—37	赤褐色粘質土	〃	〃 C	小型の縦長剝片を剝離	7.7
15	イ—33	黄褐色粘質土	〃	〃 C	多方向より小型の剝片を剝離	4.8
16	ニ—35	黄褐色粘質土	〃	〃 C	小型の原石を用いる	3.5
17	T—32	6号竪穴	〃	〃 C	自然面が多入残る	9.3
18	W—37	黄褐色粘質土	〃	〃 C	残核に近い状況	4.6
19	ハ—34	赤褐色粘質土	〃	〃 C	全体に自然面を多少残す	13.3
20	W—32	5号竪穴	〃	〃 C	上下に平担面を持つ	5.0
21	Y—32	黄褐色粘質土	〃	安山岩	ローリング痕が若干認められる	32.0
22	イ—33	黄褐色粘質土	〃	黒曜石C	小型の原石を用いる	7.3
23	Y—31	落ち込み	〃	〃 C	表裏交互に打面調整	10.6

(4) B地点の遺物の分布状況及び小結

B地点からの土器や石器の出土はA地点と異なり，第II層（赤褐色粘質土層），第II層（黄褐色粘質土層）の両層によってかなりの出土数である。ここではそれぞれの層において，全体的な土器石器の出土分布について簡単にまとめを兼ねて述べてみたい。

第II層において，土器の出土状況をみるとかなり希薄な出土で，全体に広く散在する分布を成す（Fig. 173）。文様の判別できたものは1点も無く，ロ—34区より尖底土器の底部が，X—35区より平底土器の底部がそれぞれ1点ずつ出土している。他はすべて細片で磨滅が著しいものばかりである。

石器はFig. 174でもわかるように，標高37m程の丘陵鞍部を中心に幅広く分布するものと，南側にやや傾斜した所に集中する部分が認められる。中央部は特に石鏃のほかに加工痕ある石器，使用痕ある剝片などのスクレイパー類とともに敲石・砥石の出土が目立つ。ただしスクレイパーそのものの出土はほとんど無い。ところが，南側緩斜面に遺物（石器）が集中する部分においてはスクレイパーが多く出土する分布状況である。特に第II層においては，北側に2基の竪穴状遺構（住居址）の他に，集石と炉穴が群を成して中央部と北西側に認められている。中央部の集石・炉穴群においては先のようにいくつかの石器が共伴しているが，北西側の集石・炉穴群と北側の2基の竪穴状遺構の附近にはわずかしか遺物は出土していない。

A地点においては，竪穴状遺構（住居址）群とともに多くの遺物が共伴していたが，B地点では同じ第II層でありながらも異なっていることがわかる。これらの状況は地点こそ異なれ，同遺跡同一の層であるにもかかわらず，遺構と生活との関係において何ら意味の相意を表わしているものであろうか。とは言え，B地点における第II層の状況も，竪穴状遺構（住居址）と離れた所に，屋外炉的な集石・炉穴等の遺構がありA地点と同様の状況であると考えられる。以上のことより，B地点第二層を想定するならば，南側にスクレイパーが多く，捕獲した動物等の解体そして中央部の集石・炉穴において調理したのであろう？。また，北側に竪穴状遺構があり，同一の丘陵上の一帯でありながらも，場の区別（使い分け）を行っていると考えられよう。

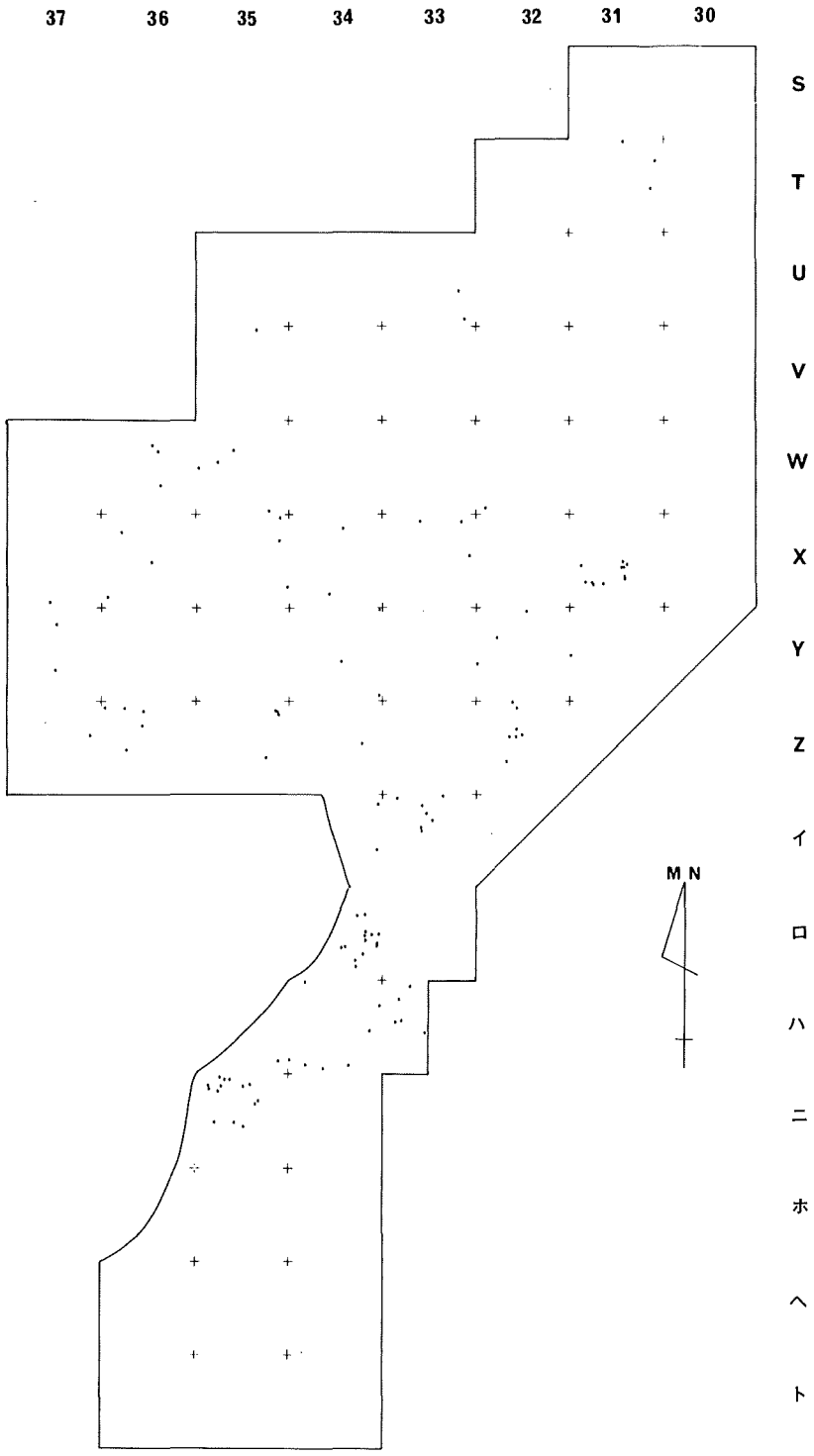


Fig.173 第II層一土器出土分布図

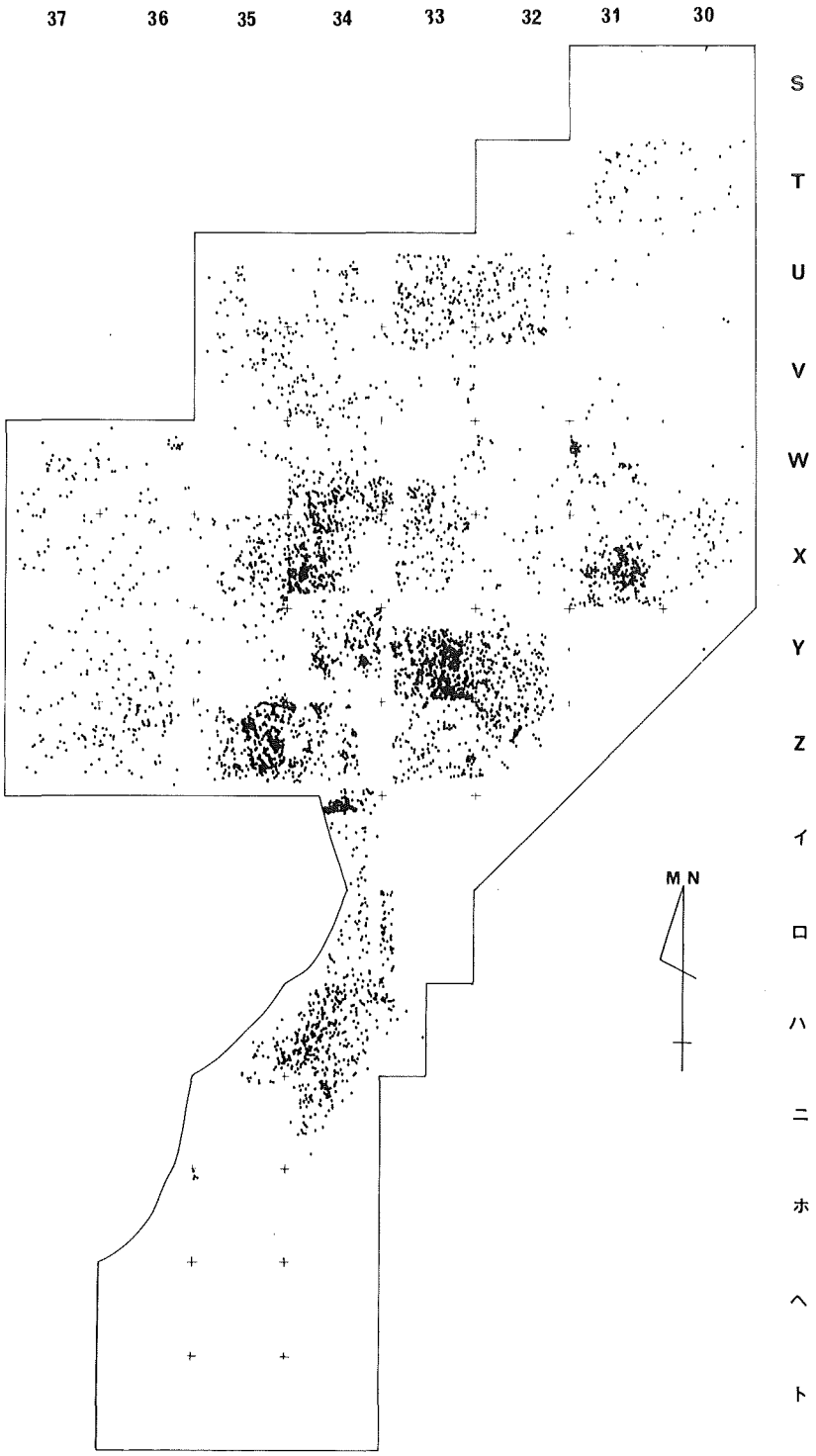


Fig.174 第II層一石器出土分布図

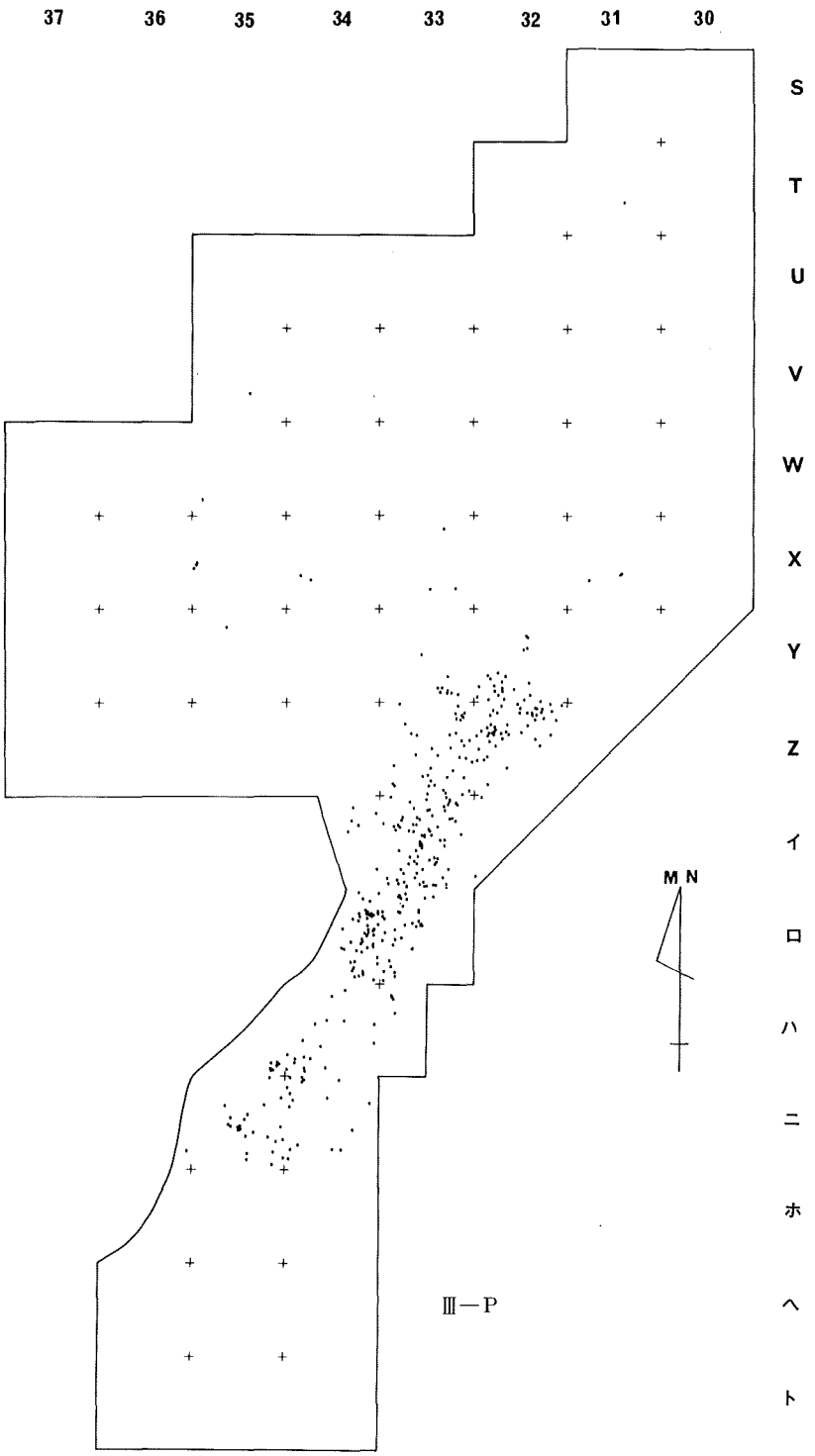


Fig.175 第Ⅲ層一土器出土分布図

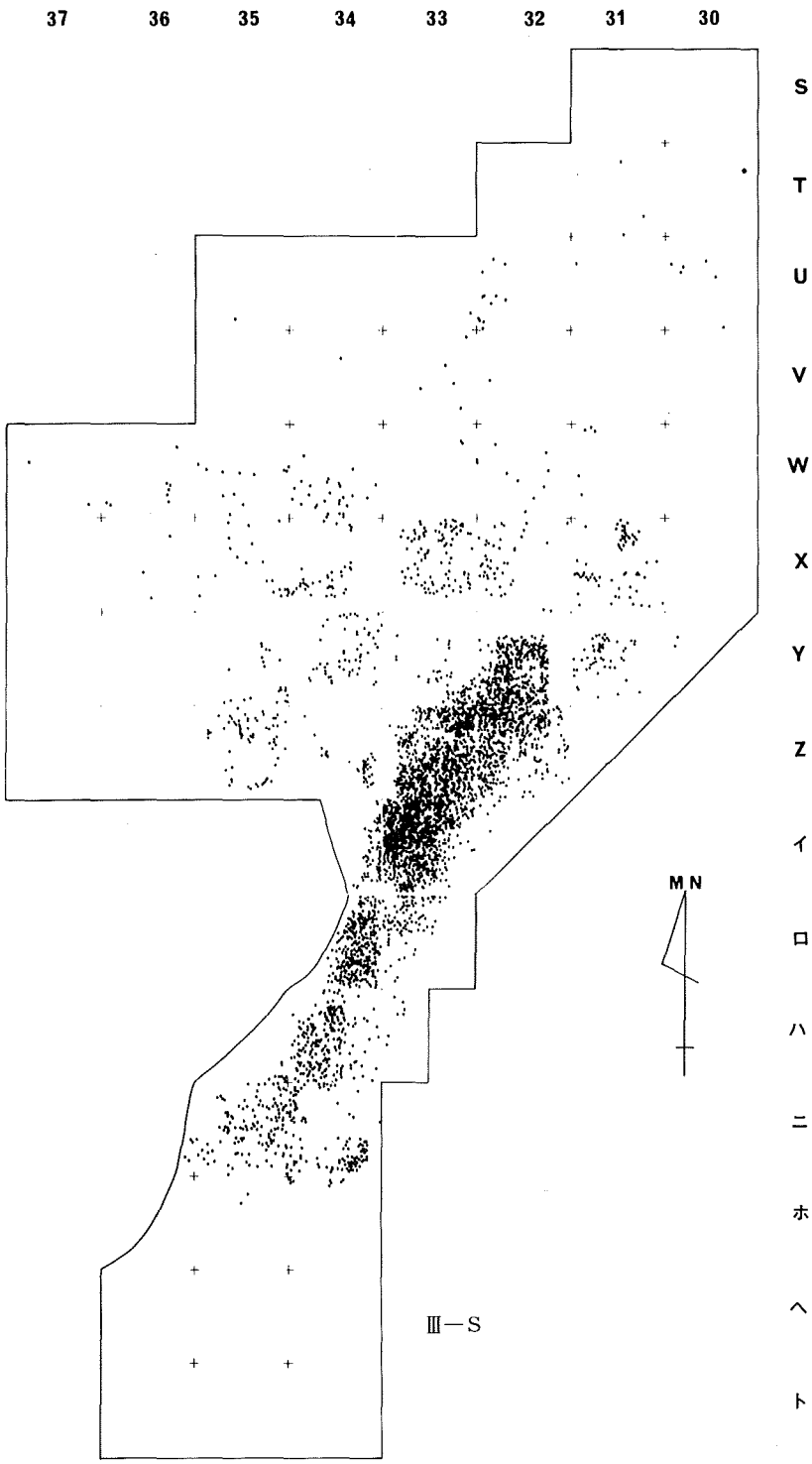


Fig.176 第Ⅲ層一石器出土分布図

第Ⅲ層においては，土器，石器ともに中央部から南緩斜面にかけて帯状に分布する。土器はここでも希薄な出土を成す（Fig. 175）。文様の判別できるものは1点のみで，格子目押型文がイ—33区より出土。またイ—33・Y—33区より尖底の土器の底部が1点ずつ出土している。他はすべて風化が著しい。

石器は石鏃をはじめ，スクレイパー類（加工痕ある石器・使用痕ある剝片を含む）や石槍・石皿の出土が目立つ。特に石鏃においては，幾分ではあるが局部磨製石鏃や小型の三角鏃などが多く出土する傾向にある。また，石槍においても安山岩製の木葉形の形状を呈するものが数点認められ，10点中9点までが第Ⅲ層より出土する。

なお，第Ⅲ層においては，竪穴状遺構・集石の検出は無く，Y—32・33，Z—32・33区を中心に炉穴が集中して認められるだけである。遺物の集中している所と一致する。従ってB地点第Ⅲ層においては，遺物よりみると石鏃や石槍の物（動物）への捕獲を目的とする道具とスクレイパー類の解体を目的とする道具との二者の組成を成す。しかも，炉穴という限られた遺構と共伴をなし全く独自の状況をうかがわせている。

上記の事より，B地点における第Ⅱ層と第Ⅲ層との各要素の違いは，延いては，文化層としての相位であるものと思われる。従ってより下層に形成された第Ⅲ層における各々の要素がより古いものであろう。

なお，B地点においては第Ⅳ層として黄色及び赤色の粘質土があるが，ほぼ中央附近において，数点の土器・石器の遺物が認められた。しかし，土器も細片で判別不明であり，石器も削片・剝片であったので省略した。

3．中世の遺構

(1) 遺　構

不明土壙　ホ—35区の第II層面より検出された。

(Fig. 177)　土壙は1.7m×南北1.5m×深さ0.17m程で隈丸方形を呈し，浅い掘り込みをもつ。床面は平担で，北西側に熱を受けた痕跡が著しく，南壁面側に炭化物片が集中する。また礫石が18個程みられ，熱を受けて赤変している。

遺構内堆積土は①淡灰黒色土（炭化物を含む），②黒色土（炭化物の粉末を多量に含む），③淡灰黄色土で，遺物は出土していない。

遺構の時期については確定出来ないが，近接している平遺跡でも同様な遺構が3基程検出されC¹⁴年代測定で905±75Y.B.P.(880±70Y.B.P.)の測定結果が出ており，これらの遺構は時期的には中世に構築され，炭焼き窯に関連した生活遺構であろう。

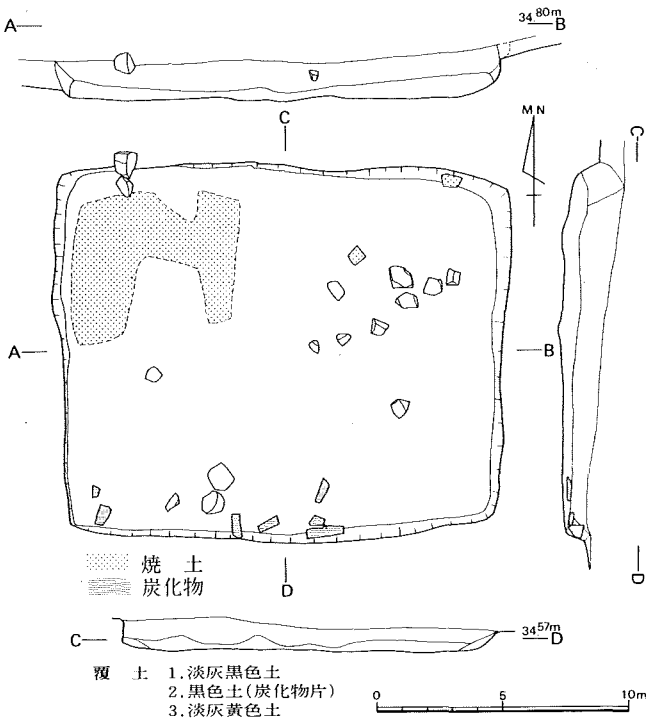


Fig.177 不明土壙（1/30）

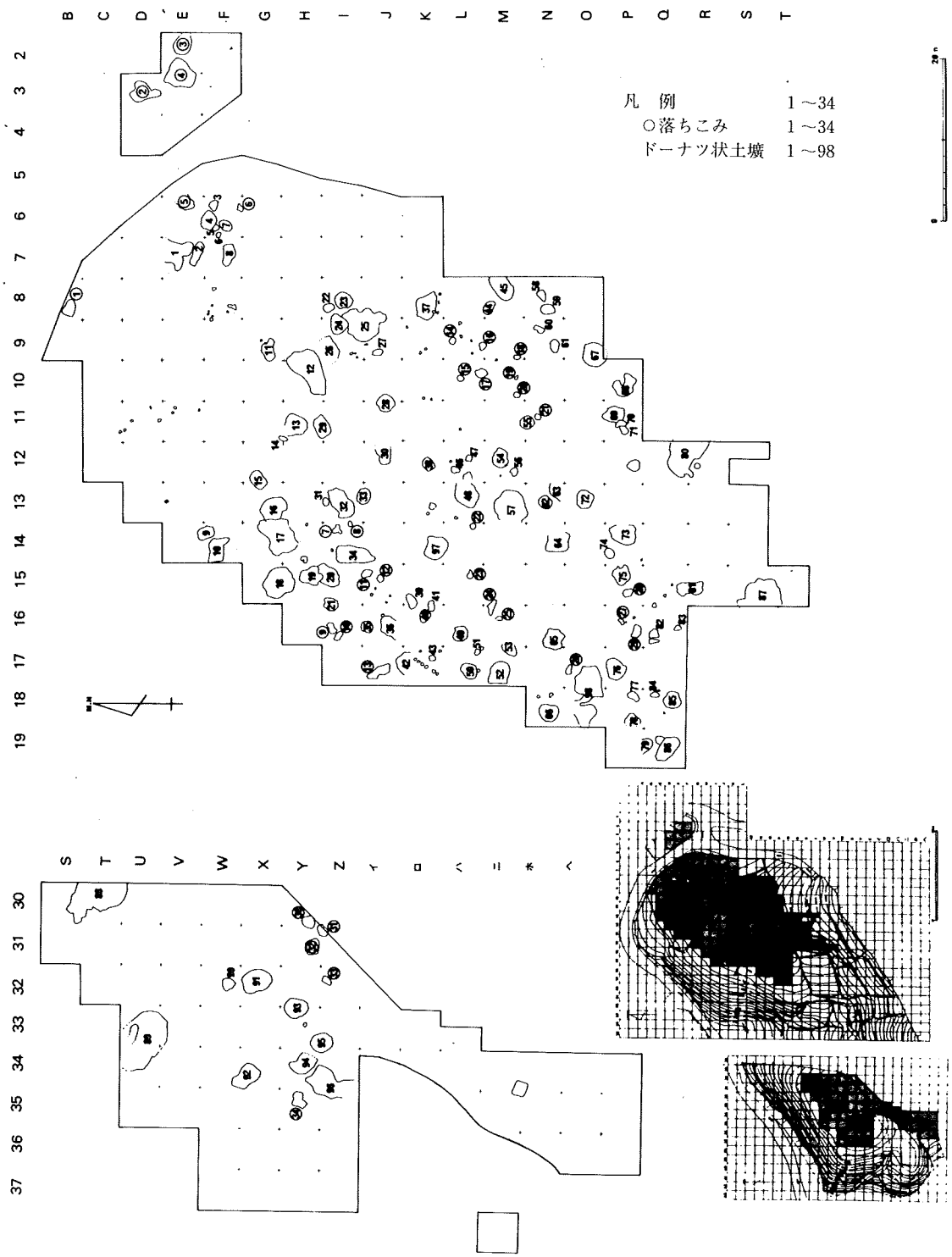


Fig.178　落ち込み・ドーナツ状土壙配置図

Ⅶ. 落ち込み・ドーナツ状土壙について

鷹野遺跡検出の落ち込みとドーナツ状土壙は形成状況が似かよっているが，覆土の堆積状況が相異を呈すために区別した。これらの状況は隣接する西輪久道，平遺跡でも同様である。

落ち込み

鷹野A地点で1～29号まで検出されている(Tab.)。範囲は調査区の北東側（D～F－2～6区）に1～6号と西側（I・J－14～17区）に7～13号，（L・M－14～16区)に22～25号，（O・P－15～17区)に26～29号と，更に東側に(L～N－9～11区）に14～21号と5箇所に4～8基固まった状況で検出されている。

規模は長径が3mを越えるもの3基と1mを越えるもの17基，それ以下のもの10基で全体的に深さは11cm～71cm程と浅い。形状は楕円形状のもの11基，円形状のもの12基で他は不定形状を呈す。

出土遺物は13基の覆土に含まれ，特に2～4号に多量に含まれ，4号では先土器時代の遺物と縄文早期の石鏃，加工痕ある石器他114点と土器片2点が出土している。

B地点で30～34号と5基が検出され，Y・Z－30～32区に4基固まっており，規模は長径が1m～2mの間で，深さも1m以下と浅い。形状は円形3基，楕円形，不定形各1基で，縄文早期の遺物が覆土より出土している。

以上の落ち込みの性格については不明であるが，覆土内遺物より縄文早期中葉～終末にかけての時期が考えられよう。

ドーナツ状土壙

ドーナツ状土壙の呼称は仮称で，土壙平面観で覆土があたかもドーナツ状を呈すので呼んでいるもので，西輪久道，平遺跡でも同様にドーナツ状土壙として取扱った。

A地点のドーナツ状土壙は89基で，調査区のほぼ全域で検出されている。ただ，B～G－8～10区では近世の列石群で，砂岩の基盤層まで削平されており形成は不明であるが，基盤層までの堆積土が浅いのも関係しているようだ。またG～K－5～7区は縄文早期の4号竪穴状遺構，15号炉穴遺構が構築されている範囲ではドーナツ状土壙はみられないようだ。このことは，1・3号竪穴状遺構の範囲も同様である。

B地点でS～Z－30～35区で9基検出されている。またW・X－34区

で19号炉穴遺構の東側部分がこの現象で壊われている。

ドーナツ状土壙は形状的，および土壙内覆土の堆積状況に若干の相違を呈すので，AB類の2つに分類を行った。

土壙内覆土について，土壙底面と同一層の覆土を①，上層からの流入で形成された覆土を②とする。

A類は土壙内覆土の堆積状況が，半円形状で整層状況を呈す覆土①の下底面に，覆土②が全周するように堆積するものである。

B類は覆土①が土壙の片側に，他方に覆土②が堆積したものである。

ドーナツ状土壙の形状は検出時の平面観で，円形，楕円形，長楕円形，不定形状に分け記した。

土壙内覆土の堆積状況はA類(11，33，41，54，67，72，85，92号等)多く，B類（57号等）は少ない。

また，17～19，52，66号など複数のドーナツ状土壙が形成されている。これらの規模は径3mを越えるもの26基，径1m以下のもの4基，その他68基で，深さは1mを越えるもの10基で，他はそれ以下で浅い。

形状は円形が43基，楕円形は29基，その他の不定形が16基と形状的に円形が多いようだ。

土壙内覆土からの出土遺物は先土器時代～縄文時代早期の石器類，土器片が出土し，特に1～4号，18，48，57，89，93号に多量に検出した。このことは，遺物の遺存状況で密な部分と粗の部分に形成された違いによるものと考えられる。

ドーナツ状土壙は各地で検出され，地層の逆転現象，ローム盛土遺構[註1]その他の各称で呼ばれているもので，この現象は長崎県内および全国的に先土器時代～縄文時代と形成時期差はあれ，同様な状況がみられる。

その成因については几例木痕説[註2]があり，平遺跡[註3]の検出状況より自然的現象によると考えられる状況が窺われ，西輪久道遺跡も同様に．この鷹野遺跡においても，人為的な構築ではなく，自然的な要因によって起きた現象と考えられる。

鷹野遺跡でも多数の土壙が検出され，往時の古環境で樹木が繁っていたことは諸々の科学分析結果より明らかで，自然環境を生かした生活空間利用が，遺構の検出状況より明らかである。この中で，環境変化が起き，結果的にこのような状況が生じたのであろう。

註1　長崎県内では鷹野，平，雀の倉，牛込A・B，峰の原，平山B，百花台遺跡などで検出され，鷹野遺跡のR－12区のドーナツ状

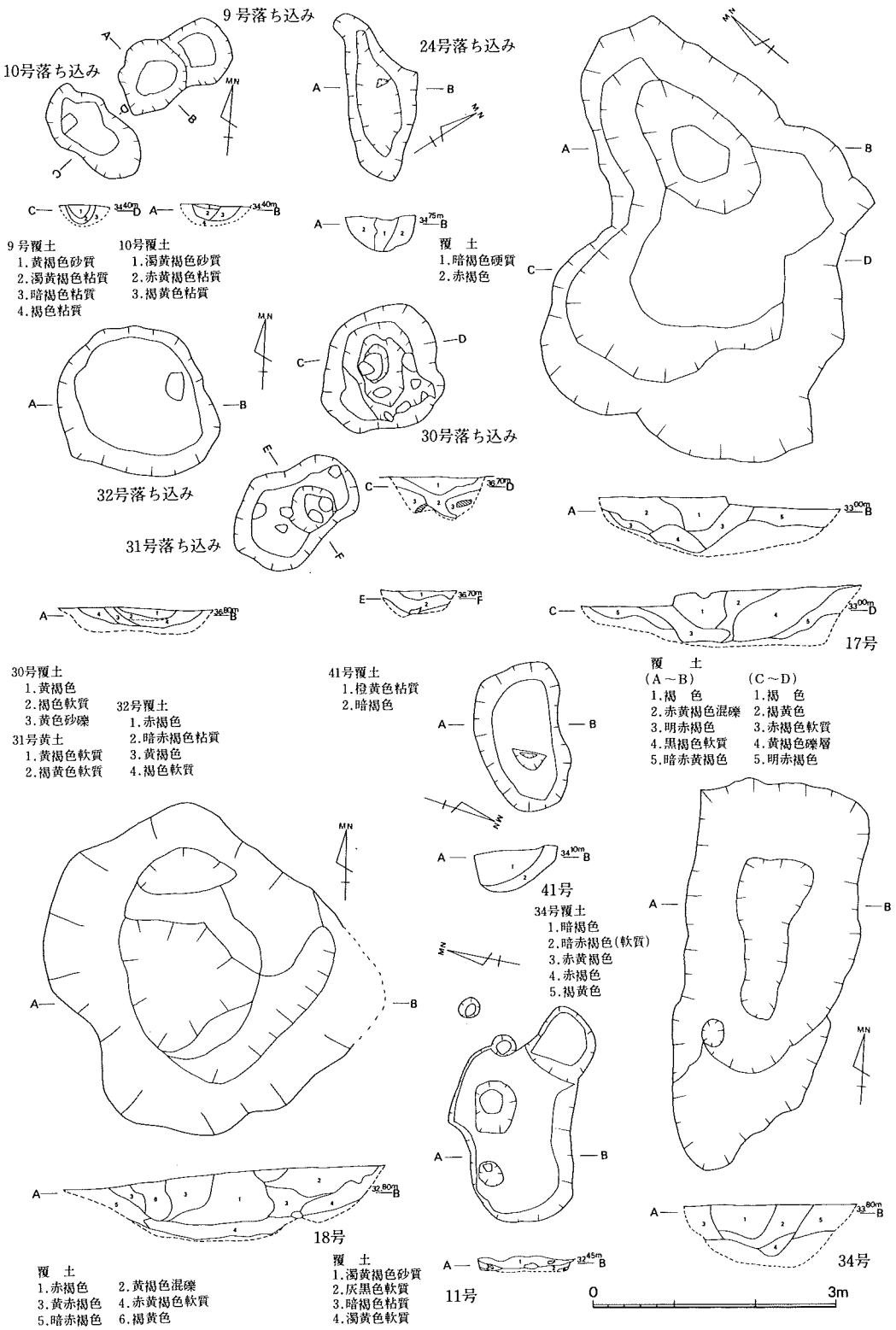


Fig.179 落ち込み・ドーナツ状土壙①（1/60）

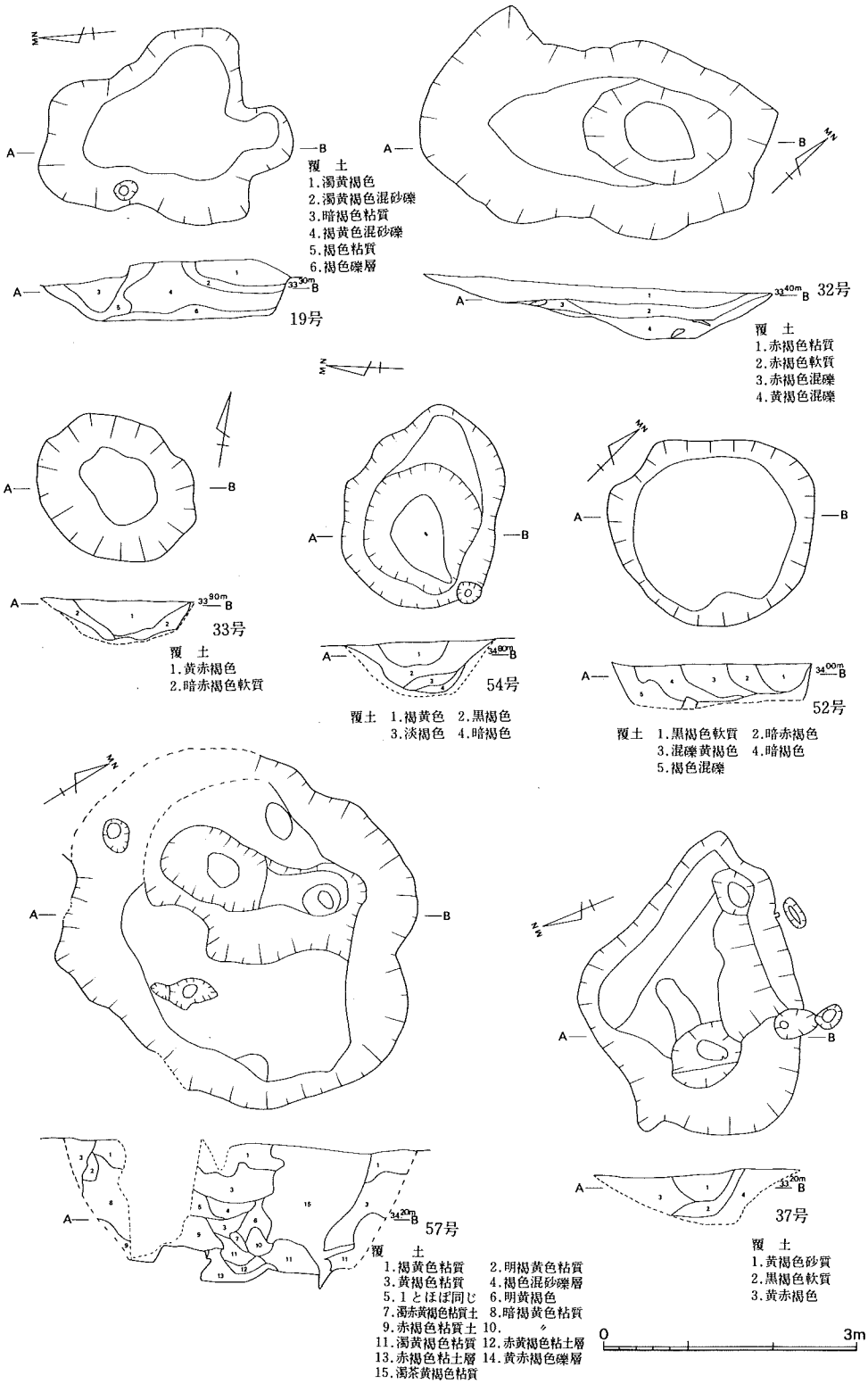


Fig.180　ドーナツ状土壙②（1/60）

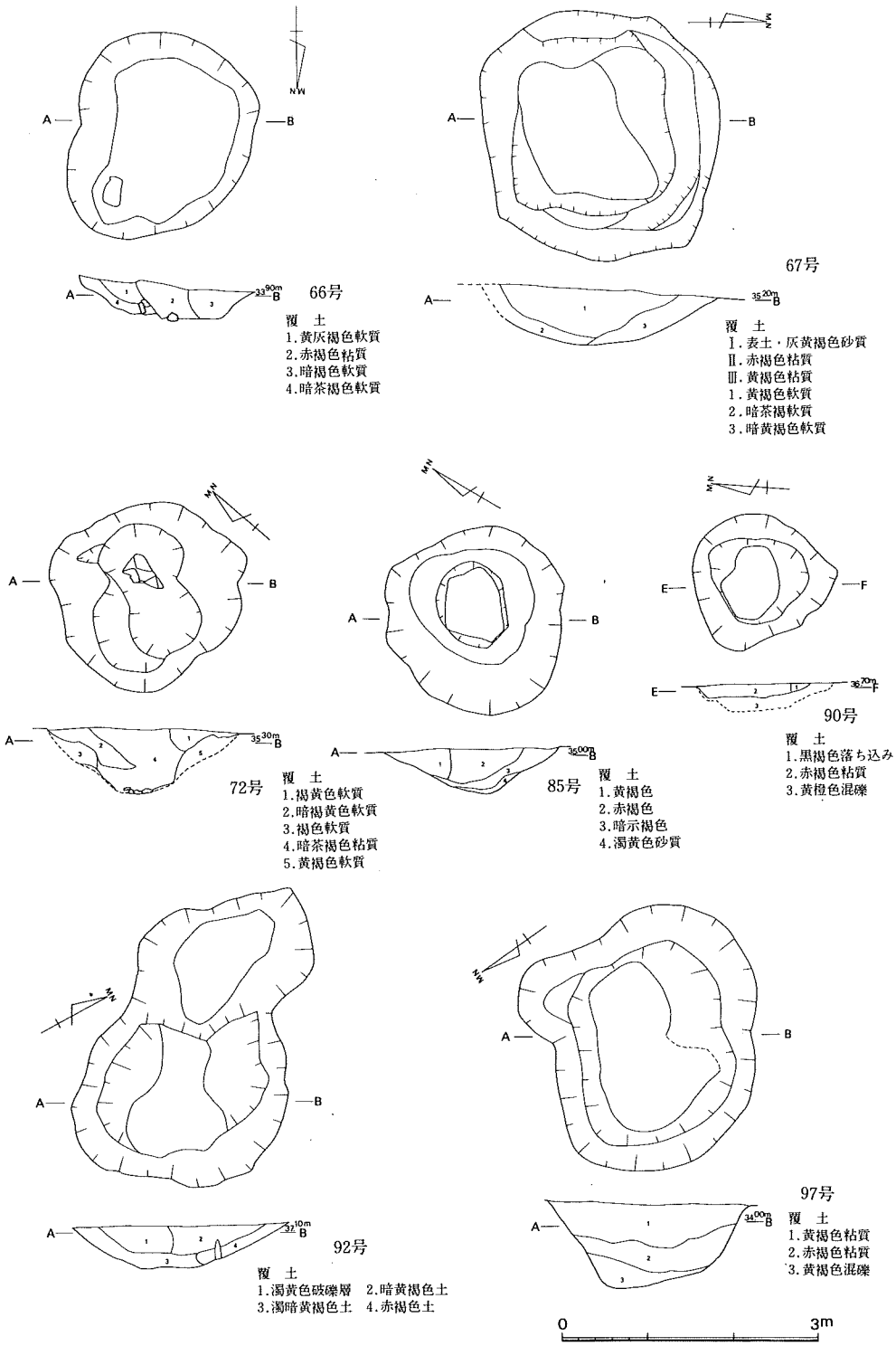


Fig.181　ドーナツ状土壙③（1/60）

土壙のC_{14}年代測定で，＞37,800Y.B.Pの年代が得られ，平山B遺跡では古墳時代以降の所産とされ，他は縄文早期末～前期にかけての所産とされている。

註2　能登健　1974「発掘調査と遺跡の考察―いわゆる性格不明の落ち込みを中心として」信濃26巻3号

註3　長崎県教育委員会　1983「平遺跡」諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書1

Tab. 32　落ち込み一覧表

番号	形状分類	形状	法量			出土遺物
			長径(m)	短径(m)	深さ(m)	
1		楕円形	2.2	1.7	0.71	剝片3
2		木定形	(3.5)	2.3	0.30	剝片8・砕片17・土器2
3		不定形	2.8	2.1	0.61	細石刃1・加工痕ある石器1・石鏃1・石核2・剝片1 砕片1
4		楕円形	4.1	3.4	0.60	台形様石器1・細石刃1・スクレイパー1・加工痕ある石器1 石鏃2・石核再生剝片1・剝片63・砕片46・土器2
5		不定形	(1.7)	1.6	0.32	細石刃4・剝片1・砕片7・土器2
6		楕円形	1.1	0.6	0.26	石鏃1・剝片3・砕片11・土器1
7		不定形	1.2	1.1	0.63	
8		円形	0.7	0.6	0.20	
9		楕円形	1.5	0.8	0.29	剝片2・砕片11
10		楕円形	1.4	0.8	0.28	石鏃1・砕片3・土器2
11		楕円形	(1.3)	1.0	0.29	
12		円形	1.0	0.9	0.20	
13		楕円形	3.1	1.2	0.57	加工痕ある石器1・剝片2・砕片14
14		円形	0.9	0.9	0.24	
15		円形	0.8	0.8	0.19	剝片1
16		円形	1.0	(0.4)	0.27	
17		円形	1.7	1.1	0.59	
18		円形	0.9	0.6	0.26	
19		円形(2個)	0.5	0.3	0.15	
20		円形	0.8	(0.6)	0.17	土器2
21		円形	0.9	0.8	0.13	
22		円形	0.9	(0.7)	0.27	
23		円形	1.1	0.8	0.14	剝片1・砕片2
24		不定形	2.2	0.9	0.26	
25		楕円形	0.8	0.5	0.38	
26		楕円形	1.4	0.7	0.30	
27		楕円形	0.9	0.5	0.11	
28		円形	1.3	1.1	0.36	
29		楕円形	1.7	1.2	0.39	剝片1・砕片2
30		円形	1.6	1.5	0.52	砕片3
31		円形	1.7	1.1	0.44	加工痕ある石器1・剝片1・砕片3
32		円形	1.9	1.8	0.25	石鏃1・剝片1・砕片12・原石1
33		楕円形	1.3	0.6	0.49	剝片5・砕片5・土器1
34		不定形	1.9	1.8	0.28	石鏃1・剝片3・砕片2

Tab. 33　ドーナツ状土壙一覧表

番号	形状分類	形状	法量			出土遺物
			長径(m)	短径(m)	深さ(m)	
1		不定形	4.2	3.5	0.41	細石刃5・石鏃2・剥片25・砕片61・土器4
2		楕円形	3.0	1.0	0.41	石核1・剥片3・砕片5・土器1
3		楕円形	1.4	1.1	0.36	石核調整剥片1・剥片10・砕片22・土器1
4		円形	2.4	(1.8)	0.45	ナイフ形石器1・細石刃1・敲石1・剥片8・砕片16 土器1
5		円形	0.9	0.7	0.35	残核1・砕片2
6		円形	(0.4)	0.5	0.58	剥片1
7		楕円形	(1.4)	1.3	0.37	剥片5・砕片10
8		楕円形	2.9	1.6	0.48	細石刃1・剥片4・砕片3
9		楕円形	(1.8)	1.6	0.39	土器2
10		不定形	3.9	2.4	0.64	剥片1・砕片1
11		不定形	2.8	1.7	0.40	石鏃1・剥片7・砕片4
12		不定形	6.4		0.66	剥片22・砕片13・土器1
13		円形	3.0	2.9	1.14	剥片3・砕片3・土器2
14		楕円形	1.1	0.6	0.27	
15		楕円形	2.4	1.7	0.72	剥片6・砕片1・土器3
16		円形	3.6	2.8	0.81	ナイフ形石器1・掻器2・石核1・剥片13・砕片12・土器1
17		不定形	5.7	4.1	1.06	石鏃2・石核1・石皿1・剥片29・砕片12・土器4
18		円形	4.1	3.8	0.94	ナイフ形石器1・加工痕ある石器1・残核1・スポール1 剥片30・砕片47・未整品1・土器11
19		不定形	3.0	2.3	0.81	細石刃1・石鏃1・石核1・剥片34・砕片79
20		楕円形	(2.5)	2.2	1.30	剥片10・砕片27・土器2
21		円形	2.0	1.6	0.42	砕片2
22		楕円形	(1.2)	1.1	0.30	
23		円形	2.4	2.1	0.99	掻器1
24		不定形	2.7	2.3	0.61	剥片1・土器1
25		不定形	5.7	4.1	2.66	掻器1・使用痕ある剥片1・石鏃1・剥片9・砕片5
26		不明	3.4	(1.3)	0.56	剥片1・砕片1
27		楕円形	1.4	0.9	0.22	
28		円形	2.3	2.2	0.62	掻器1・剥片1・砕片9・土器2
29		楕円形	(2.6)	(1.5)	0.51	土器1
30		不定形	2.5	2.1	0.74	ナイフ形石器1・剥片3・土器5
31		円形	1.0	(0.6)	0.24	
32		楕円形	4.3	2.6	0.80	
33		円形	2.1	1.7	0.60	石鏃1・剥片2・砕片7
34		楕円形	4.9	2.3	0.86	剥片8・砕片15・土器1
35		円形	(1.4)	1.4	0.88	使用痕ある剥片1・剥片4・砕片3・土器1
36		不定形	3.3	2.2	0.58	掻器1・石鏃2・石核調整剥片1・石核1・剥片2 砕片5・石英片1
37		不定形	3.7	2.7	0.64	石鏃1・剥片6・砕片18・土器1
38		円形	1.8	1.4	0.46	石鏃1・剥片7・砕片14・土器1
39		楕円形	1.9	1.2	0.68	剥片3・砕片3
40		円形	1.6	(1.0)	0.43	石鏃1・剥片1・砕片2
41		楕円形	1.4	0.9	0.33	剥片2・砕片4
42		不明	2.8	(1.9)	0.89	剥片4・砕片8・土器1
43		円形	0.8	0.7	0.27	摩製石鏃1・砕片2
44		楕円形	(1.1)	1.3	1.21	剥片1・砕片1
45		楕円形	3.8	2.2	1.22	台形様石器1・剥片2・砕片2
46		円形	1.2	0.8	0.30	剥片1
47		円形	1.0	0.9	0.26	砕片2
48		円形	(3.3)	2.7	0.77	石鏃1・剥片14・砕片17・土器1

番号	形状分類	形状	法量			出土遺物
			長径(m)	短径(m)	深さ(m)	
49		円形	2.1	1.9	0.49	土器2
50		円形	2.2	1.8	0.61	剥片1・砕片2・土器1
51		円形	0.8	0.7	0.32	
52		円形	2.4	2.4	0.84	
53		楕円形	(1.5)	1.3	0.35	
54		円形	(2.2)	1.8	0.70	石鏃1・剥片6・砕片15・土器1
55		円形	(0.9)	1.4	1.16	剥片4・砕片4・土器13
56		円形	1.1	0.9	0.27	剥片1・砕片1
57		円形	4.4	4.1	1.95	細石刃2・使用痕ある剥片2・掻器1・石鏃6・石核2 石槍1・凹石2・剥片108・砕片304・土器44
58		楕円形	1.5	1.1	0.51	
59		楕円形	1.8	1.0	0.54	剥片1
60		楕円形	1.4	0.8	0.57	
61		楕円形	1.6	1.1	0.54	土器1
62		円形	1.7	1.5	0.63	石鏃1・剥片1
63		不明		(1.5)	0.53	残核1・剥片2・砕片13・土器4
64		円形	3.5	(2.9)	0.75	剥片5・砕片6
65		円形	2.4	2.2	0.79	
66		円形	2.5	2.3	0.57	石鏃1
67		円形	3.2	2.9	0.96	磨石1
68		不定形	(2.8)	2.6	2.12	
69		円形	2.9	2.1	0.77	剥片2・土器1
70		楕円形	1.4	0.8	0.30	
71		楕円形	1.3	0.9	0.49	
72		円形	2.3	2.2	0.72	使用痕ある剥片1・剥片12・砕片6
73		円形	3.5	2.7	0.45	石核1・凹石1・剥片3・砕片4
74		円形	1.3	(0.6)	0.44	剥片1
75		円形	2.6	2.3	0.17	
76		円形	2.8	2.4	0.76	剥片8・砕片7・土器3
77		楕円形	1.6	0.9	0.29	
78		不明	2.0	1.3	0.68	剥片1・砕片3
79		不明	(0.8)	(1.1)	0.49	
80		不明	5.8	4.7	0.90	土器1
81		楕円形	3.4	1.8	1.58	土器2
82		不定形	1.4	1.2	0.62	
83		円形	0.8	0.7	0.21	
84			1.1	0.7	0.20	
85		円形	2.3	2.2	0.53	剥片2・砕片1
86		楕円形	3.6	2.0	0.68	石核1・剥片1
87		円形(?)	5.7	3.2	1.53	剥片6・砕片2・土器1
88		不定形	(7.0)	(3.1)	0.77	石鏃2・剥片1・砕片10
89		不定形		5.0	0.89	石鏃1・残核1・石槍未製品1・剥片34・砕片24・土器1
90		円形	1.6	1.5	0.31	剥片5・砕片7
91		楕円形	2.9	(2.8)	(0.61)	加工痕ある石器1・石鏃5・剥片28・砕片66・土器4
92		楕円形	3.4	2.0	0.55	ナイフ形石器2・石鏃1・剥片13・砕片16
93		円形	(3.1)	2.4	0.63	掻器1・残核1・石核再生剥片1・剥片10・砕片18・土器2
94		不定形	(3.1)	2.6	0.23	楔形石器1・石鏃1・剥片12・砕片32・土器2
95		円形(?)	2.9	(2.1)	0.50	
96		不定形	(5.4)	3.4	0.64	石核再生剥片1・剥片13・砕片32
97		円形	3.2	3.0	1.00	剥片2・砕片3
98		不定形	3.9 3.0	3.4 2.8	1.05 0.74	細石刃1・石鏃1・剥片18・砕片3・土器3

Ⅷ．ま と め

1．鷹野遺跡の成果と問題

(1) 先土器時代

鷹野A，B地点において，細石器を主体にする石器群とナイフ形石器を主体にする石器群の遺物が多量に検出された。

A地点では細石文化の包含層（第Ⅲ層）が確認され，遺物集中範囲が2箇所で検出された。集石遺構（1基）を中心に遺物が分布し，細石刃の接断面接合が十数例みられる。出土遺物は「野岳型」半円錐形の細石核，細石核再生剝片，細石核ブランク，細石刃等がある。

B地点ではA地点程の出土をみない。

A・B地点共にナイフ形石器を主体とする石器群が検出されたが，包含層は確認出来なかった。

出土遺物より一側縁および二側縁加工のナイフ形石器，「原の辻型」，「枝去木型」の台形様石器，三稜尖頭器，角錐状石器を石器組成にもつ石器群と二側縁加工の小形のナイフ形石器，「百花台型」の台形石器，三稜尖頭器，尖頭状石器等を石器組成にもつ石器群の所産のものと考えられ，両者は若干の時間的差異があるようだ。

細石器を主体にする石器群は西輪久道上層でまとまって検出され，鷹野は時間的に若干古く位置付けられよう。

また，西輪久道上・下層石器群にナイフ形石器を主体にする石器群が検出されており，鷹野遺跡の一側縁および二側縁加工のナイフ形石器を主体とする石器群は西輪久道下層併行頃で，小形のナイフ形石器を主体とする石器群は西輪久道上層に位置付けられよう。

(2) 縄文時代

① 検出遺構について

鷹野A地点の遺構は竪穴状遺構4基と集石・炉穴遺構26基，礫群遺構5基，その他の遺構が丘陵に沿って配置され，集落址を形成していたことが窮われ，B地点の遺構はA地点程に区画性がないが，竪穴状遺構2基，集石・炉穴遺構30基，礫群遺構3基，その他の遺構が3群に分れて検出された。

竪穴状遺構は4号を除いて柱穴は明らかでないが，台石・敷石状況より住居址と考えられる。

集石・炉穴遺構は石蒸しの調理用炉址としての用途が窺われ，相互に補完する状況（炉址に用いる礫石を焼く場所と調理用の炉址）が推察され，遺構周囲の礫群は炉址用の礫石の集積地ではなかろうか。

集石・炉穴遺構は炉址形態より3つに分類される。（この分類および集石・炉穴遺構については別の機会に記載したい。）

これらの炉址群は層位的に大形の炉穴遺構が第III層に，他の集石・炉穴遺構が第II層中に検出され，時間的な変遷が考えられる。

鷹野B地点は縄文早期中頃で，A地点は早期末頃と考えられる。

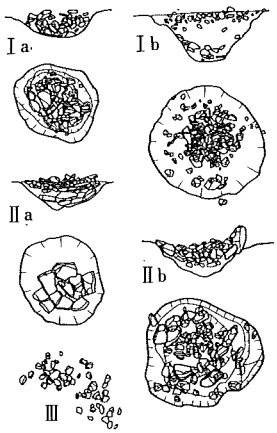


Fig.182 集石遺構模式図

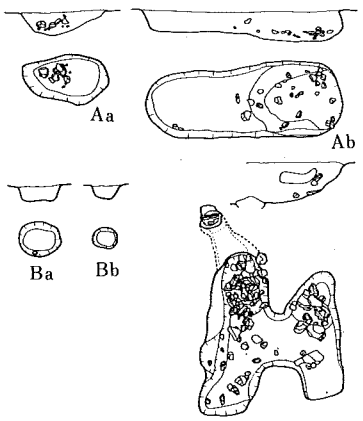


Fig.183 炉穴遺構模式図

② 出土遺物について

本項では，これまでに述べたA地点・B地点における各遺物の総括とし，土器及び各種石器について全体的に，若干の考察や資料を加えてみた。

土器

本遺跡より出土する土器は石器に対して極めて希薄な出土で小さな土器片ばかりである。しかもその大半が著しく風化を受けており文様を判別できるものは数点しか認められない状況である。A地点においては，楕円形押型文と条痕文の文様が確認され，ラッパ状に外反する口縁や円筒形の直立する口縁などがみられる。底部形態も尖底のものと平底のものの2つがみられる。B地点では格子目押型文の文様のある土器片1点しか確認ができなかった。口縁の形状も直立ないし若干外反するものがみられる。底部形態もA地点と同じく尖底のものと平底のものがみられる。両地点の土器の状況を比較してみると一見似たような感じをもつが十分に観察すると多々その違いをみることができる。先ず，全体的に比べるとA地点の土器の方がやや希薄である。このことは特に尖底の底部において特徴をなしている。相方とも，尖底の形態と言う点では一致するが，その厚さ，規模を考えると明らかにB地点の方が大型の土器を想定することができる。従ってB地点にみられる厚い胴部片や口縁片はこれらの土器に属するものと考えられる。出土層をみてもB地点のものは尖底の3点中2点が第III層より，残る1点が第II層より，A地点は2点中1点が第II層，残る1点が第II層よりのドーナツ状土壙内である。数が少ないため断言はできないが，B地点の方が下層から出ている傾向にあり，より古いものと考えられる。そこでこれらの厚い口縁・胴部片を含めた大型の尖底土器の時期であるが，表面が風化し文様が磨滅するものか本来より無文のものが風化しているものか判然とせず，不明な点が多いのであるが，酷似するものとして，大分県玖珠郡九重町に所在する二日市洞穴の資料の中に求めることができよう。また平底土器については両地点とも円筒形の土器と考えられる。若干ではあるがA地点の方が広い底面を有する感じである。これらの土器は縄文時代早期頃の遺跡に時々みられる。荒く，整った横位方向の条痕文を施す土器であろう。(西輪久道遺跡にも出土している。)本遺跡では第II層を主体に出土する。

以上の事より，本遺跡で出土する土器の編年的時期はB地点の第III層を主体に出土する厚手の尖底土器が縄文時代草期中葉頃に，A・B両地点

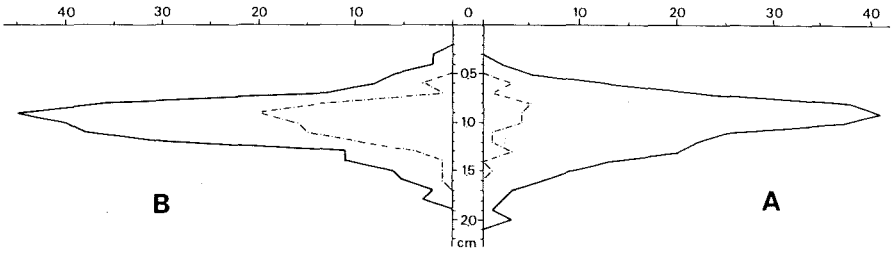


Fig.187　A・B地点石鏃抉り幅対比グラフ

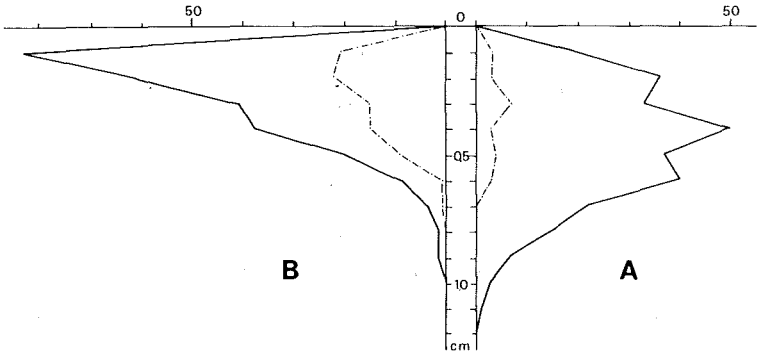


Fig.188　A・B地点石鏃抉り深度対比グラフ

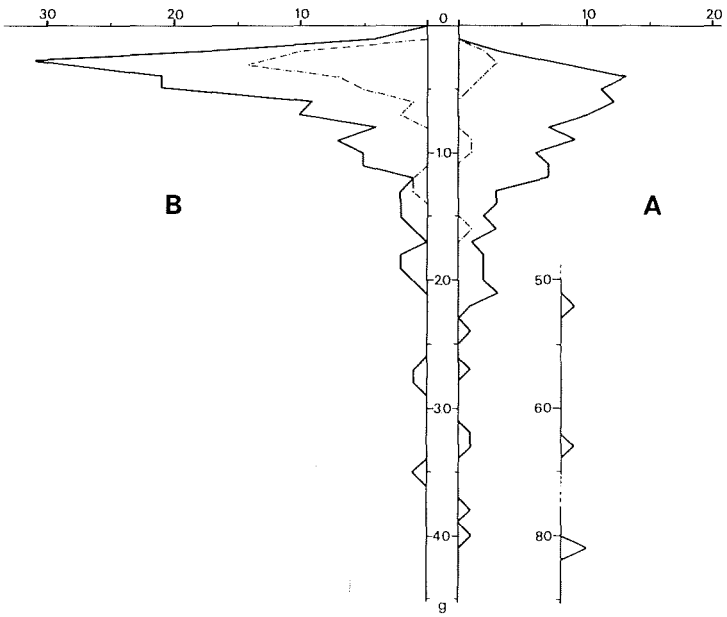


Fig.189　A・B地点石鏃重量対比グラフ（完形品のみ）

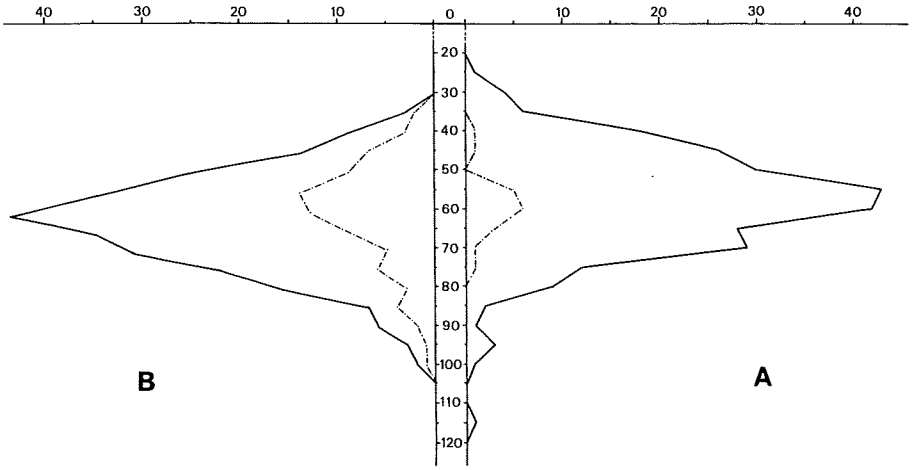


Fig.190　A・B地点石鏃先端角度対比グラフ

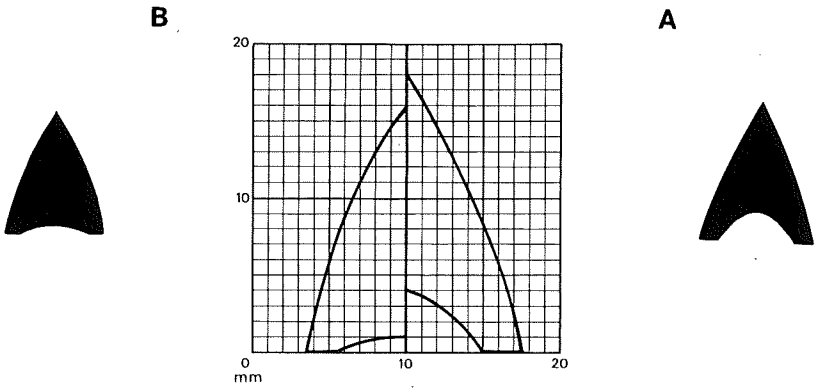


Fig.191　A・B地点石鏃平均形

いると言えよう。このような状況は，各グラフからも察せられるが，ほとんど局部磨製石鏃の影響を受けるものである。換言するならば鷹野遺跡，特にB地点の局部磨製石鏃は，石材の選別が意図され，規制的とも言うべき形状を呈していると考えられる。層位的にみると，第III層に幾分多く認められるようである。

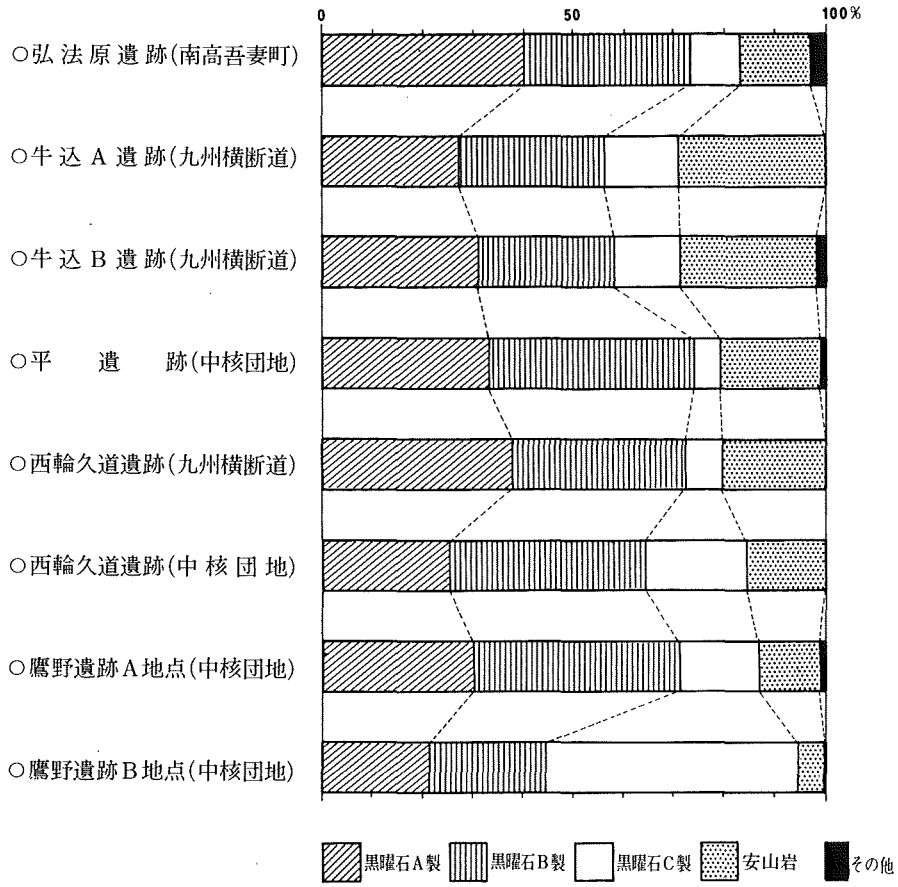


Fig.192　各遺跡出土石鏃の石材別依存度

1	弘法原遺跡
2	牛込A遺跡
3	牛込B遺跡
4	平遺跡
5	西輪久道遺跡(横断道)
6	西輪久道遺跡
7	鷹野遺跡A地点
8	鷹野遺跡B地点

Fig.193　各遺跡位置図

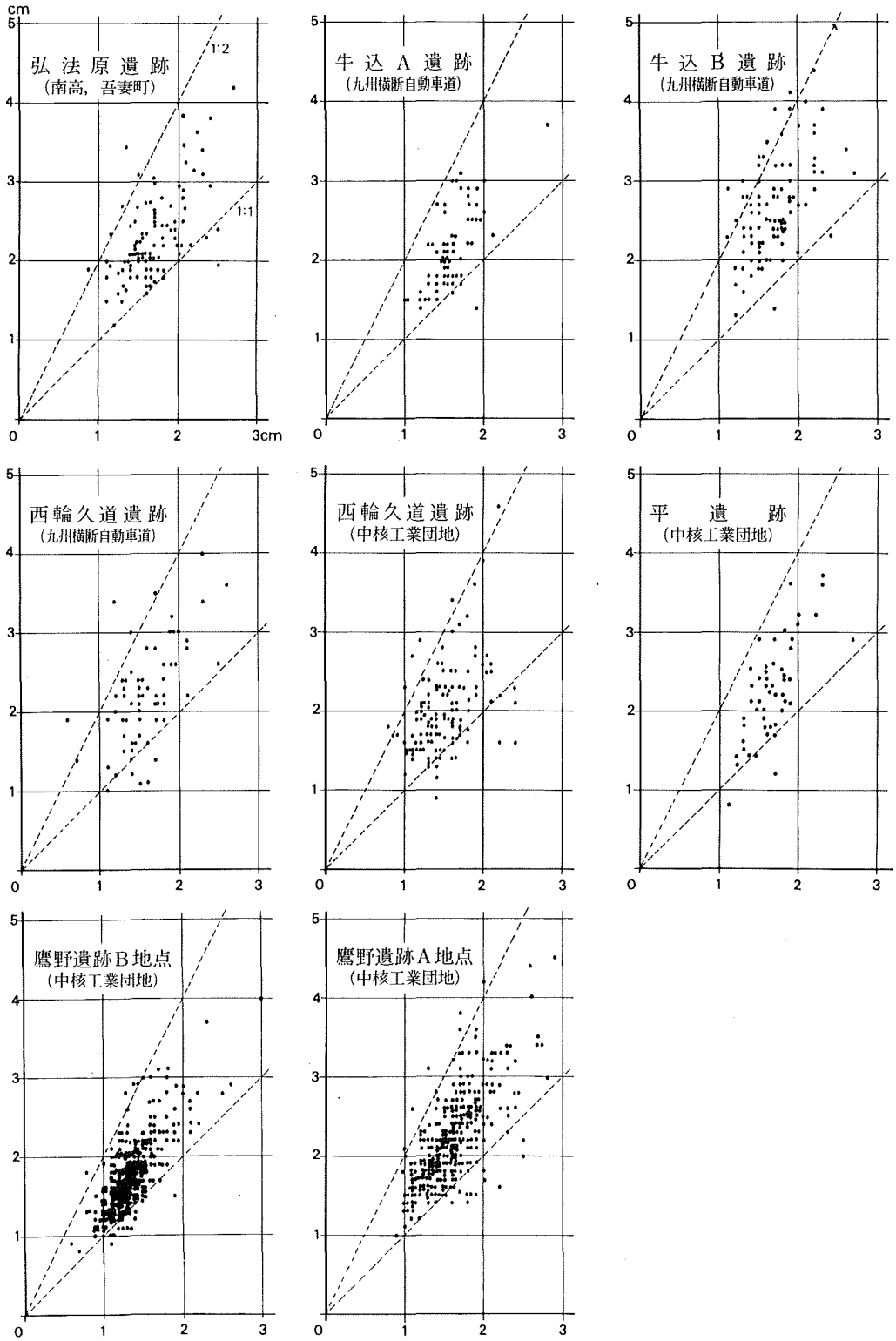


Fig.194 各遺跡出土石鏃の長幅比

局部磨製石鏃　本県内でも局部磨製石鏃を出土する遺跡は最近になり多く知られてきている。中でも佐世保市の岩下洞穴など代表的な例としてあげられよう。しかし，本遺跡出土のものは岩下洞穴などでみられるものと多少形状を異にする。先にも述べたように画一的な形状で，若干外湾する側縁とゆるやかに浅く内湾する基部を有する。磨製の状況も全磨製に近いものや周縁にわずかな二次加工を加えるだけのものが，かなり多くを占め，規模も，長さ1.5～2.0cm，幅1.0～1.5cmのものがほとんどである。また研磨することにより，0.2mm前後とかなり薄い仕上りを成す。このように本遺跡において同一的要素を多分に含み，かなりの数を出土することなどより，一つのタイプとして言うことができるのではないだろうか。特にB地点のIIc3類に属するものはその典型と言えよう。今日に至って，局部磨製石鏃における，研磨面のもつ意味についてはまだ判然としたものがない。ただ，石鏃自身を扁平小型にし整形のためだけに研磨という作業を施こしたものであろうか。筆者自身浅識のため不明な点が多く不完全とは思いつつもいくつかその可能性を考えてみた。先ず本遺跡のものは，灰白色の黒曜石が大半を占めるという事実である。これは石質自体が漆黒のものと比べてやや軟質な感じを与えるもので加工（研磨）に適してたのではないか，しかもその石材が石核などにも多く比較的に獲得しやすかったものであろうと考えられる。また研磨により薄くし，魚鱗状の剝離を省略している。特に薄い事により基部の抉りが浅いものとすれば，同じ早期頃の押型文に伴出してみられる鍬型鏃などと比べて，装着がかなり困難と思われ，これらをカバーするために研磨を丁寧に施こすことも考えられるのではないだろうか。或いは，薄く小型化するため非常に軽量となりその石鏃としての機能も限られたものになる。つまり物理的にも遠方へ射ることは難しいものと考えられ，何ら対象物が限定されたものであろうか。このようにいくつか想定したがあくまで，決定的根拠のあるものではなく，今後一層の資料の蓄積とともに，より詳細な観察が必要となってくるであろう。

石鏃の未製品　石鏃の未製品と考えられるものがA・Bそれぞれの地点より1点ずつ出土する。1は黒曜石B製，歪んだ三角状の平面形を成す。一部に自然面を有するが，側縁と基部に若干の二次加工が認められる。J—13区の工房址内より出土する。2は黒曜石C製，表面の半分程を自然面が占める。まだ剝片の状況を大きく残すものでやや幅広の薄いもので自然打面

より剝離されていることがわかる。剝片の形状を利用し末端を石鏃の先端状に二次加工を施している。ニ—35区，第III層（黄褐色粘質土層）中より出土する。なおこの2点の他にも未製品的な可能性のあるものとしてB地点出土の165なども考えられよう。

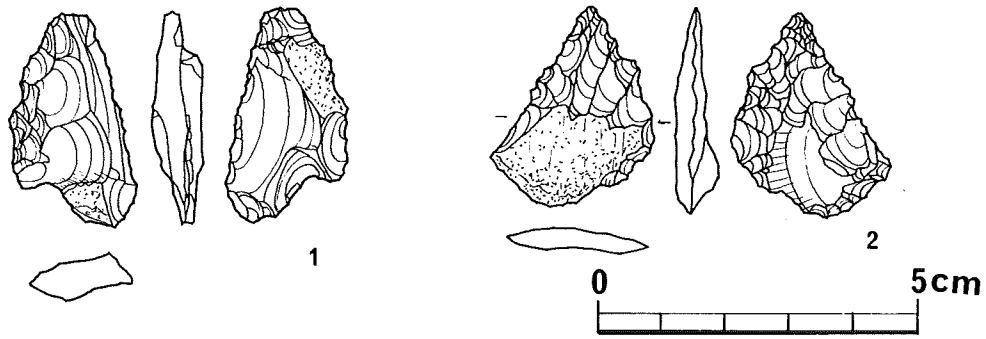


Fig.195 石鏃未製品（2/3）

石匙

A地点のみより9点出土する。B地点よりの出土は無い。9点中3点は土壙や落ち込み内より，1点が第III層中より，残る5点は第II層中より出土する。形状でみると，横形のものが7点，縦形のものが2点である。これまで平遺跡や西輪久道遺跡でみられたものと異なり，打面部に自然面を有せず大型のものが出土していない。しかも，剝片の状況を大きく残すものが多く，全体的に粗雑な二次加工である。

スクレイパー

A地点より65点（内49点を図化），B地点より28点（内16点を図化）計93点の出土である。本遺跡出土のスクレイパーは全体的に粗雑な感じのものが多い。これは石材の依存による影響である。つまり大型の剝片を必要とするために，多くは安山岩に依存しており，材質的に大まかな二次加工になってしまうためで，加えて風化を受けやすいことなどにもよる。刃部の形成に至っては，縦長剝片・横長剝片のそれぞれの長側縁に施すものが多く，いわゆるサイドスクレイパーが主体を占め，掻器的機能要素が強いものであろうと推察される。また，両地点に出土するが特にA地点に目立つものとして，側縁に内湾状の刃部を有しており，抉入状石器とも呼称されるもので，削器的機能を有すると考えられる。本遺跡では，一応スクレイパーの範疇としてとり扱った。なお，後述する加工痕ある石器，使用痕ある剝片も機能的にはスクレイパー的要素のものであると言えよう。

加工痕ある石器　多少でも二次加工の痕跡があるものはかなりの数を占めその中より，A地点13点，B地点９点，計22点を選んで図化し記載した。全体的におおよそ刃部的な加工要素を有するものが多く，スクレイパー的な機能を強く有するものがほとんどであると考えられる。

使用痕ある剝片　A地点より57点（内26点図化），B地点より38点（内22点図化），計95点の出土である。使用痕である，いわゆる刃こぼれについてはその痕跡が著しいもの，或いは間ばらなもの，微細なものなどいくつかの度合かみられる。本遺跡で対象としたものはそれらを肉眼で観察できたものである。従がって，ルーペなどによる詳細な観察は行っておらず，他にも多分に使用痕を残すものがあった可能性もある。また，使用痕の形成面について３つに分類（表裏どちらかの一側縁にあるもの，表裏の両面にあるもの，二側縁にしてあるもの）したが，両地点とも片面の一側縁にあるものが多く，全体的に剝片の俊正な縁部を使用している。しかも長側縁に多く認められ，それらはほとんどがサイドスクレイパー的機能を有したと考えられる。なお，表裏両面に明確に刃こぼれが認められるものや一側縁に認められるものなどは，回数的・時間的な便における頻度の量をうかがえるもので，剝片ではあれど，石器（Tool）としての性格を有したものと考えられよう。

石槍　A地点より３点，B地点より10点，計13点出土する。A地点のものは３点中２点が第II層中より，１点が工房址内より出土。B地点のものは10点中９点までが第III層中より，１点のみ第II層中から出土する。このように出土層位においては明確な差を面地点においてそれぞれ有している。特にこの層位的な差は土器においてもみられたように多少の時期差をもつものであろう。従って層位的にも，伴出の土器においてもB地点第III層の石槍がより古いことは確かであろう。また，B地点の石槍においては，中程ないし，やや下部に最大幅をもち先端が細くなる木葉形の特異的な形状を呈する。これらは同一時期の所産である可能性が極めて強いものと考えられる。類似する資料としては，土器と同様，大分県九重町の二日市洞穴にみられる。またA地点でみられる２点はやや幅広の大型の石鏃に似た形状を有している。これらも何ら共通性をもつものだろうか。

彫器

A地点より3点，B地点より1点，計4点の出土である。大きさはすべて3㎝～3.5㎝程に至るものである。石材は3点が黒曜石C製，1点が安山岩製とここでも灰白色の黒曜石が少ない数の中からではあるが優位を占める。また4点中3点までが，交錯するようにして両刃を形成させているもので，同一の形態を成すものと言えよう。このような加工を施す彫器は他にも九州横断自動車道に伴った西輪久道遺跡にも報告されており，本遺跡との同一時期に比定できるものであろうか。

石斧

A地点より2点出土するのみである。2点とも，4号竪穴状遺構と工房址の遺構内の覆土より出土する。石材こそ安山岩製で共通するものの，加工状況や形状は異なる。特に工房址内より出土した局部磨製のものは上部を欠損し，しかも刃部わずかに欠損をみせており，かなりの打撃もしくは力が加わったものと考えられる。

楔形石器

楔形石器はA地点で7点，B地点で17点，計24点の出土をなす。その石材の依存度をみると，24点中，黒曜石A製が2点，黒曜石B製が2点，黒曜石C製が20点である。特にA地点の7点はすべて黒曜石C製であり，このように楔形石器においては黒曜石C製（灰白色の黒曜石）を石器の石材として選択を行なっているのではないかとも考えられる。またこのような傾向は，最近，県下の各遺跡で出土しているものにも言えよう。特に柿崎遺跡などにおいてもその指摘がなされている。確かに本遺跡において黒曜石C製の石器類は他の遺跡に比べても圧到的に多いのであるが，単なる石材の供給や量的なものだけでなく，楔形石器としての機能をより効果的に得るための目的なども想定できるであろう。

磨石

A地点より5点，B地点より2点，計7点出土する。特にA地点の5点中4点までが，落ち込み・ドーナツ状土壙・4号竪穴状遺構などの遺構内から出土し注目される。石材としては高質の砂岩をすべて用いており表面の研磨状況は極めて微細に丁寧な感じである。磨石そのものの機能としては砥石や石皿とのセットをなし，物を砕く，潰す，こねる，磨ぐ等が考えられるが，本遺跡のも同様のものと考えられる。

敲石

A地点より22点，B地点より7点，計29点が出土する。ドーナツ状土壙・竪穴状遺構・炉穴などからの出土がいくつかみられるようである。

ほぼ円礫に近いものや細長の円礫，或いはあらかじめ円礫の欠損し半円状になったものなどいくつかの形を有するようである。特に半円状に欠損した円礫を用いたものは一種のスタンプ形状を呈し広い面を使って敲くというよりは，むしろ潰す的な要素が強かったものではないだろうか。また，作業面としてとらえられる所は細かい潰れを認められるものの他に大きく剝落欠損を成し旧形状をとどめないものがあり，かなりの敲打を受けたことが考えられる。なお，西輪久道遺跡などにおいても認められたように，本遺跡のものも含めて，敲石は単一の機能でなく磨石的な要素を多分に要しているものである。

凹石

A地点より2点，B地点より6点，計8点出土する。A地点の2点中1点が落ち込み内よりの出土で残る5点はすべて層位中出土のものである。凹石における凹の浅深や数など，直接的な要因は敲石などの使用によるものであろうが，他にも石材の硬質性も考慮しておく必要があろうと思われる。また本遺跡出土の凹石において，礫の縁部において潰れ，剝落の認められるものがあり敲石等を兼ねたと考えられる。

砥石

A地点より7点，B地点より4点，計11点出土する。A地点の7点中3点は落ち込みやドーナツ状土壙より，3点は第II層中より，1点は撹乱中より出土する。B地点の2点は第III層より出土する。石材は板状の硬質砂岩を用いたものが多くを占め，かなり大型のものも認められる。磨製の状況は，わずかなものからかなり使用したと考えられるものもある。中には磨製面の上に敲打面がいくつも認められるものがあり，凹石や台石的要素を兼ねたと考えられる。なお，先にも述べたように局部磨製石鏃がかなり多く出土するが，明確にそのために使用したと判別できる痕跡を有するものは認められない。しかし，これらの砥石等を使用し研磨したことは推察できるものではないだろうか。

石皿

A地点からの出土は無い。B地点より2点出土する。2点ともY—33区の第III層中より出土する。同区内・同層より出土する点において注目される。欠損品で，推定ではあるが30～40cm前後を測るものと思われ，かなり大型の石皿であったと考えられる。また石皿の機能を考えると欠損するという状況は極めて考えにくく，何ら人為的なものによるものであろうか。

剝片　　数多く出土した剝片中，B地点より21点，B地点より23点，計44点と選んで打面部の形状により3つに分類（自然打面・平担打面・調整打面）した。A地点においては，安山岩製の剝片はもちろん，黒曜石製の剝片B地点のものと比べて，やや大型のものが多く，しかも平担打面を有するものが目立つような感じである。従って，B地点においては小型の剝片が多く，かつ自然打面を有するものが多い。このような状況は石核においても明確に傾向として認めることができる。

石核　　A地点より12点，B地点より23点，計35点を選び，剝片と同様，打面部の形状によって3つに分類し，図化記載した。A地点の石核を全体的にみると(記載しなかったものを含む)，規則的な剝離行程を有するものはほとんどなく，大半は打面を転移しながら多方向よりの剝片剝離を行なっている。従がって，調整を施すものも数点みられるのみで，自然打面・平担打面を有するものが多くを占める。B地点においては，母材そのものが著しく小さなもので，特に黒曜石C製のものがほとんどである。また，1度ないし2度程の剝離面を有するものが多く，かなり小型で，しかも自然打面を有し，表面の全体がすべて自然面となる剝片であることが予想される。このように地点によって石材の明確な相違が認められるのは，母材の供給の差の他に何ら理由のあるものであろうか。

2．西大川沿いの遺跡群について

(1) 先土器時代

碁盤の辻，高岳の丘陵部に形成された侵食谷に源を呈す西大川が大村湾に注ぎ，その流域の標高40～20m程の低丘陵上に先土器時代～縄文時代早期にかけての遺跡群が立地する。

ナイフ形石器を主体にする石器群は西輪久道下・上層石器群，柿崎，平，長牟田，牛込A・B，雀ノ倉，鷹野遺跡の発掘調査が実施され，報告書が刊行されている。

中でも，西輪久道下層石器群はⅠ，Ⅱ群に分れ，礫群を伴っている。Ⅰ群はナイフ形石器と台形様石器が伴い，Ⅱ群はナイフ形石器，台形石器，台形様石器(原の辻型，日の岳型類似)，剝弓尖頭類器が伴う石器群が明らかにされ，西輪久道上層石器群はナイフ形石器，台形・台形様石器，剝片尖頭器，三稜尖頭器，角錐状石器，尖頭状石器が伴うⅢ～Ⅴ群とその上層にⅥ群が検出され時間的な差異があきらかにされ，柿崎遺跡でもナイフ形石器，台形様石器を伴う良好な石器群が検出されている。

細石器を主体にする石器群は西輪久道上層，鷹野，東大久保遺跡がある。

鷹野遺跡では細石核(野岳型)，細石核ブランク，細石刃が集石遺構1基と共に検出され，西輪久道上層でも半円錐形状の細石核，細石刃が検出されている。

西大川流域での遺跡群の時間的差異は，西輪久道下層（Ⅰ，Ⅱ群）→道上層（Ⅲ～Ⅴ群）・柿崎遺跡→西輪久道上層（Ⅵ群）→鷹野遺跡（細石器を主体にする石器群）・西輪久道上層（細石器を主体にする石器群）の編年が考えられるようだ。

また，百花台遺跡第Ⅵ層石器群が西輪久道下層石器群に併行するか，あるいは古く位置付けされ，百花台遺跡第Ⅶ層石器群がＡＴ下位に検出されている。

西輪久道下層石器群はＡＴ火山灰降下後に位置付けされよう。

(2) 縄文時代

本項では，鷹野遺跡を中心として，隣近に立地する牛込遺跡，平遺跡，長牟田遺跡，西輪久道遺跡をとりあげ，西大川に沿った遺跡の全体的な様相の複元と，各遺跡の出土遺物や検出遺構等を比較してそれぞれの営なまれた時期を想定して編年的要素を考えてみた。

牛込遺跡・平遺跡・長牟田遺跡・西輪久道遺跡・鷹野遺跡はそれぞれ縄文時代早期～同前期に編年される遺跡である。これらの遺跡は，皆大村湾に注ぐ西大川に沿った低い丘陵または段丘の上に立地している。しかも河川の反乱源より比高があり生活の場としては，悪くなかったと考えられる。また，各遺跡とも小さな凹地ないし小谷を脇にかかえており，これらの地形を利用（湧水点等が考えられる所）し，より円滑な生活を営んでいたものであろう。なお，各種土器・石器とともに多様の遺構が明確に残存しており，自然災害の被害等を大きく受けていないものと考えられる。つまり，当時も今日においても基本的な地形環境は然程変化していないと言うことである。当時の植生も花粉分折の結果報告等により，広葉樹花粉（コナラ等）が多く繁茂していたことを示している。推察するに，気温そのものも現在よりやや寒い程度では現在と大きく変わっていないようである。遺物よりみると，各遺跡とも石鏃等他にスクレイパー類の出土が極立っているようであり，狩猟的な要素を大きく示唆するものと考えられる。しかも，集石・炉穴など遺構が更に強い裏付となろう。換言するならば，西大川を媒介として，動物（獲物）の，捕獲➡解体➡調理の様子を察することができるものである。特に鷹野遺跡においてはA・Bの両地点第II層に，集落址的な遺構の構成がうかがえ，あたかも場所の区別を意図している様相さえ考えられる。

そこで，上記の各遺跡について再度まとめ，後に時期をより細かに考えてみたい。

○牛込遺跡

・出土土器—条痕文土器・押型文土器・塞ノ神式土器

・出土石器—石鏃（局部磨製石鏃・鍬型鏃を含む）・石匙・凹石他。

・検出遺構—集石・炉址等。

○平遺跡

・出土土器—押型文土器・塞ノ神式土器

・出土石器—石鏃（局部磨製石鏃・鍬型鏃を多少含む。）・石匙・スク

レイパー類（加工痕ある石器・使用痕ある剝片を含む）
楔形石器・石斧・磨石・敲石等。

・検出遺構—集石・炉穴等。

○長牟田遺跡

・出土土器—コブ状凸起をもつ無文土器。（1点）

・出土石器—石鏃等。

○西輪久道遺跡（九州横断自動車道建設に伴った部分も含める）

・出土土器—押型文土器・塞ノ神式土器・条痕文土器・轟式系土器。

・出土石器—石鏃（局部磨製石鏃・鍬型鏃を含む）・石匙・スクレイパー類・石槍・石錐・異形石器・磨石・敲石・凹石・砥石・石皿等。

・検出遺構—集石・炉址・溝状遺構等。

なお西輪久道遺跡においては，第II層・第III層においてそれぞれ多少異なった遺物の出土・遺構の検出が認められる。

・第II層—押型文土器を主体に轟式系土器・塞ノ神式土器。
石器はスクレイパー類・石匙・石槍が目立つ。
遺構は，集石が5基・石組の炉址1基・溝状遺構1基。

・第III層—轟式系土器を主体に塞ノ神式土器・押型文土器。
石器は石鏃・石槍・磨石・石錐・異形石器・石皿が目立つ。遺構は集石1基・炭化物の集中する炉址2基。

各層は乱れも少く，遺構等も各層位において検出されている。すなわち，西輪久道遺跡においては，各々の層において文化層的要素を有する。従って当然第III層の方がより古い文化層としてとらえられよう。

○鷹野遺跡A地点

・出土土器—押型文土器（1点）・条痕文土器（1点）・平底土器の底部・尖底土器の底部。

・出土石器—石鏃（局部磨製石鏃・鍬形鏃を含む。）・スクレイパー類・石匙・石槍・彫器・楔形石器・石斧・磨石・敲石・凹石・砥石等。

・検出遺構—竪穴状遺構（住居址）・集石・炉穴

なお鷹野遺跡A地点では前にも述べたように，第III層は旧石器の遺物と混在しており，層位的判別は困難である。従って第II層のみ縄文時代の単独の文化層として扱った。

○鷹野遺跡Ｂ地点

・出土土器―押型文土器（１点）・平底の土器の底部・大型の尖底土器の底部。

・出土石器―石鏃（局部磨製石鏃・鍬形鏃を含む。）・スクレイパー類・石槍・彫器・楔形石器・磨石・敲石・凹石・砥石等

・検出遺構―竪穴状遺構（住居址）・集石・炉穴

鷹野遺跡Ｂ地点では，第II層・第III層において明確に２つの文化層としてそれぞれとらえることができた。

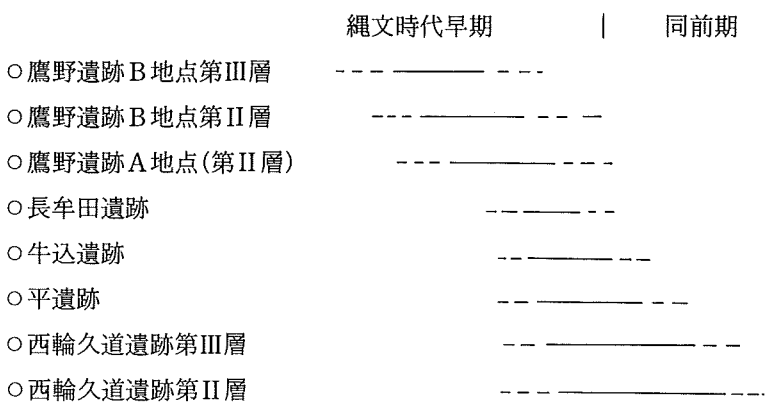
・第II層―平底の土器を主体にスクレイパー類の出土がやや多く，竪穴状遺構・集石はすべてこの層に検出されている。

・第III層―大型の尖底の土器を主体に，局部磨製石鏃・石槍の出土が目立つ。炉穴が中央に集中してみられる。

このように，Ｂ地点・第II層・第III層においては，土器・石器遺構のどれをとっても異なる傾向にあるといっても過言ではない。つまり，第III層の方が古い文化層と言えよう。

以上，隣近する各遺跡について簡単にまとめてみた。先ず全体的に言える事は，時期がほぼ同一ないし多少前後はあるだろうが，遺物等より考えると，縄文時代早期～同前期の初頭頃にかけてであると思われる事，しかも地形的にみても，西大川に沿う低地丘陵もしくは段丘上に立地するという事等である。そこで更に各遺跡・各文化層においての細かい編年を考えてみたい。土器を中心とした遺物より推察するならば，最も古いと考えられるのが，鷹野遺跡Ｂ地点の第III層と考えられる。つまり，大型尖底土器や木ノ葉形の石槍・局部磨製石鏃等よりみて，縄文時代早期中葉頃ではないだろうか。大分県の二日市洞穴の資料と酷似する面が多々みられることにより同時期の可能性が最も強いと考えられる。次に，鷹野遺跡Ｂ地点第II層あるいは鷹野遺跡Ａ地点第II層と考えられる。遺構の状況（配石や工房址等）の面や，石器の組成からみると，Ａ地点第II層の方がやや多様性も有しバラエティーに富むことなどより，若干Ｂ地点第II層が古い感じもある。長牟田遺跡は性格が完全にはつかめていないが，出土土器より早期後半の時期である。そして，条痕文土器（厚手の同筒形の粗雑な横位の条痕文）や局部磨製石鏃等より牛込遺跡が考えられる。残る平遺跡・西輪久道遺跡第II層・第III層は，轟式系の土器を考えると，やはり一段新しいものと考えられる。従って平遺跡の方が土器の面よりみると若干古いと言えよう。すなわちこれらを箇条にま

とめると次のようになる。



以上の様に，鷹野遺跡のまとめを兼ねて，西大川に沿って立地する数列の遺跡と比較し検討してきたが，まだ問題点は多種多様にわたり多くの疑問を残している。なお，筆者の認識・努力不足の点において満足の至るものはないが，記載した各資料等が今後活かされ，参考となるならば幸いであります。

参考文献　長崎県教育委員会　九州横断自動車道に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　I～V

長崎県教育委員会　諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書　I・II

地域振興整備公団・長崎県教育委員会　1981「西輪久道遺跡・鷹野遺跡」

長崎県吾妻町教育委員会　1983　「弘法原遺跡」　吾妻町の文化財 7

橘　昌信　1980　「大分県二日市洞穴発掘調査報告書」

下川達彌　1973　「局部磨製石鏃について―長崎県佐世保市岩下洞穴出土資料をとりあげて――」　長崎県立美術博物館研究紀要 1

松永幸男　1984　「押型文土器にみられる様相の変化について」

古文化談叢　第13集　九州古文化研究会

…… 他。

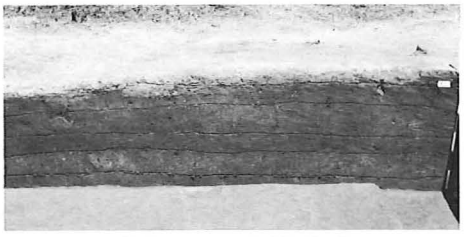
PLATES

調査前の遺跡周辺航空写真（日本道路公団提供）

遠　景（南側より）

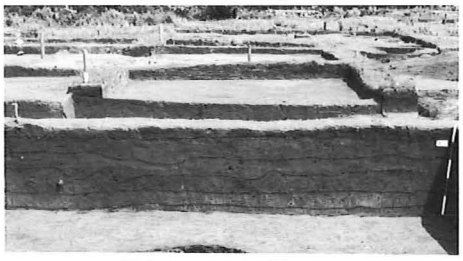
鷹野遺跡遠景（北側より）

遠　景（北側より）



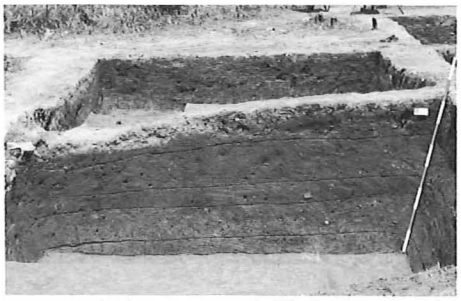
A地点 M－13区（北壁面）

調査近景



A地点 O－12区（北壁面）

試掘調査



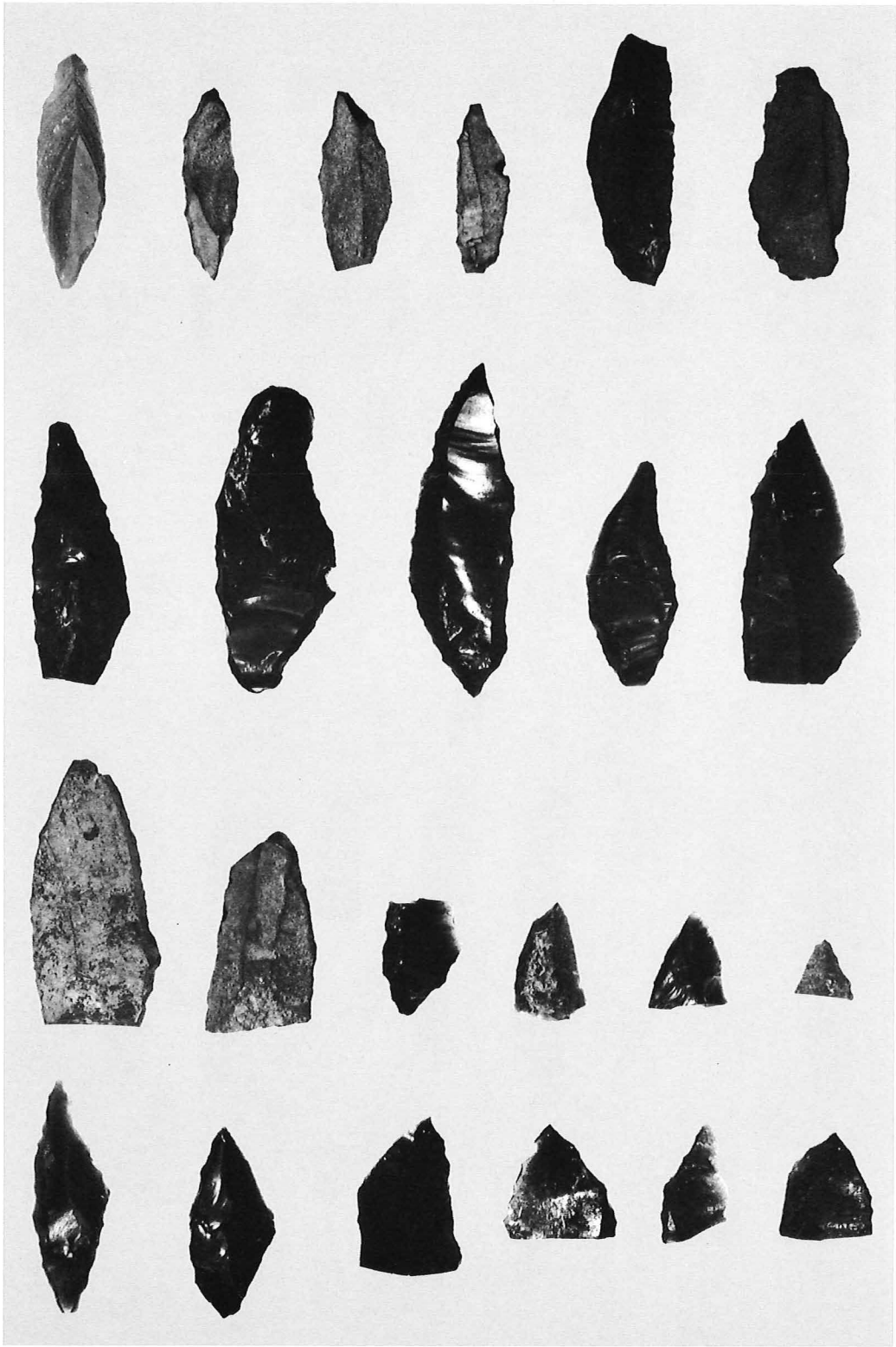
A地点 S－16区（北壁面）

鷹野遺跡遠景，試掘調査，調査風景，壁面写真

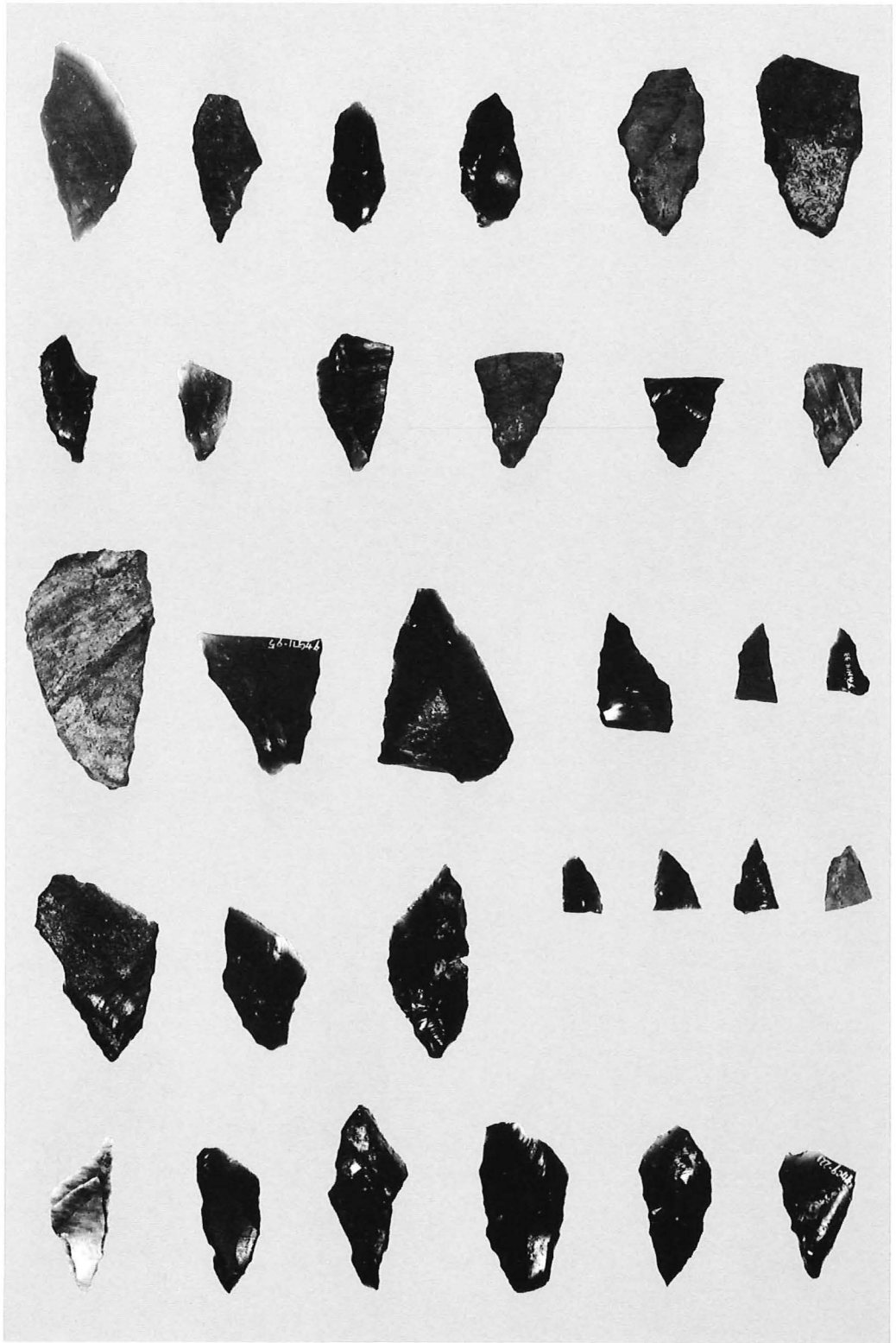
C－8区壁面写真（東壁）

先土器時代の集石遺構

C－8区壁面写真・先土器時代の集石遺構

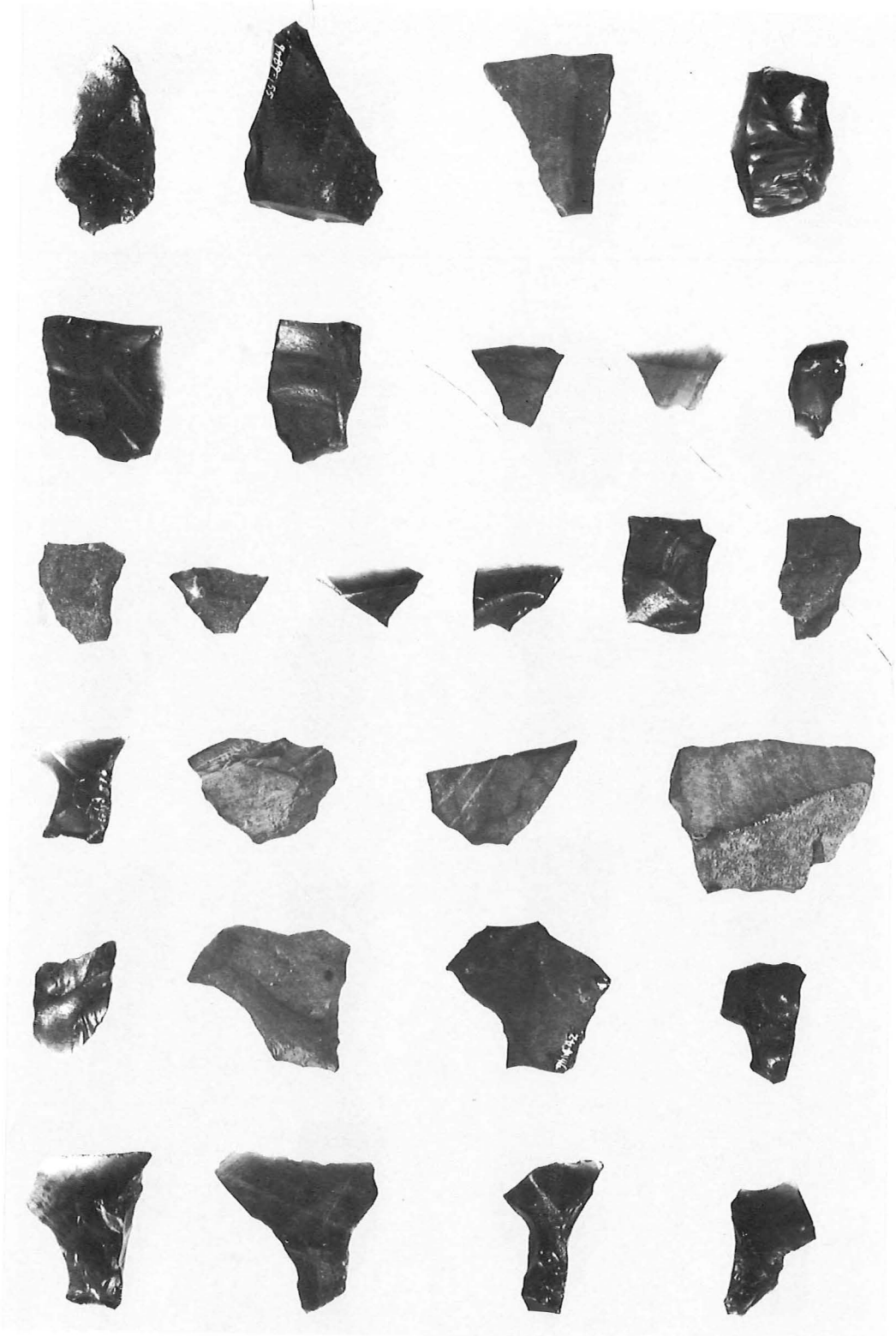


先土器時代・出土石器⑥（1/1）

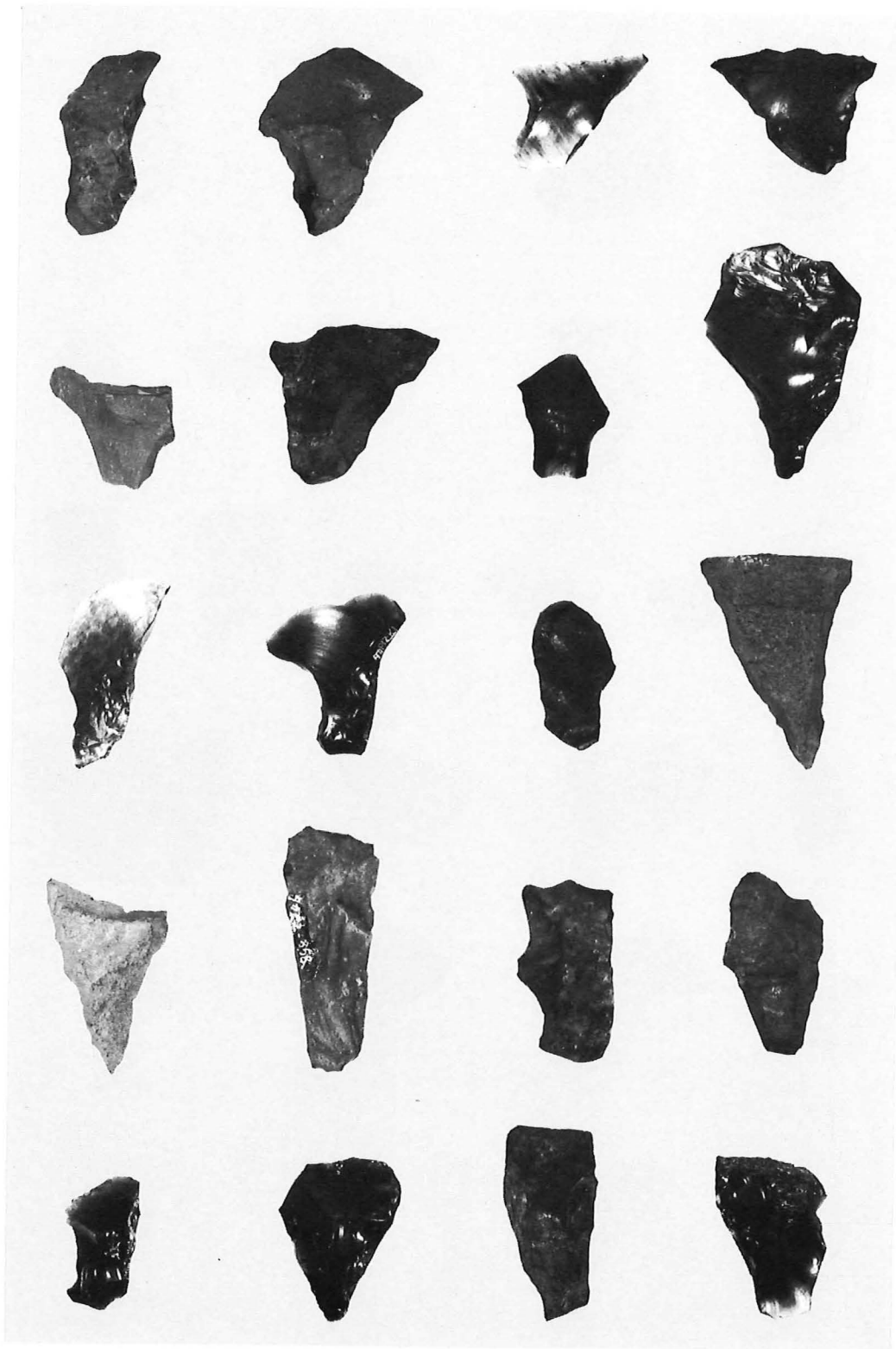


先土器時代・出土石器⑦（1/1）

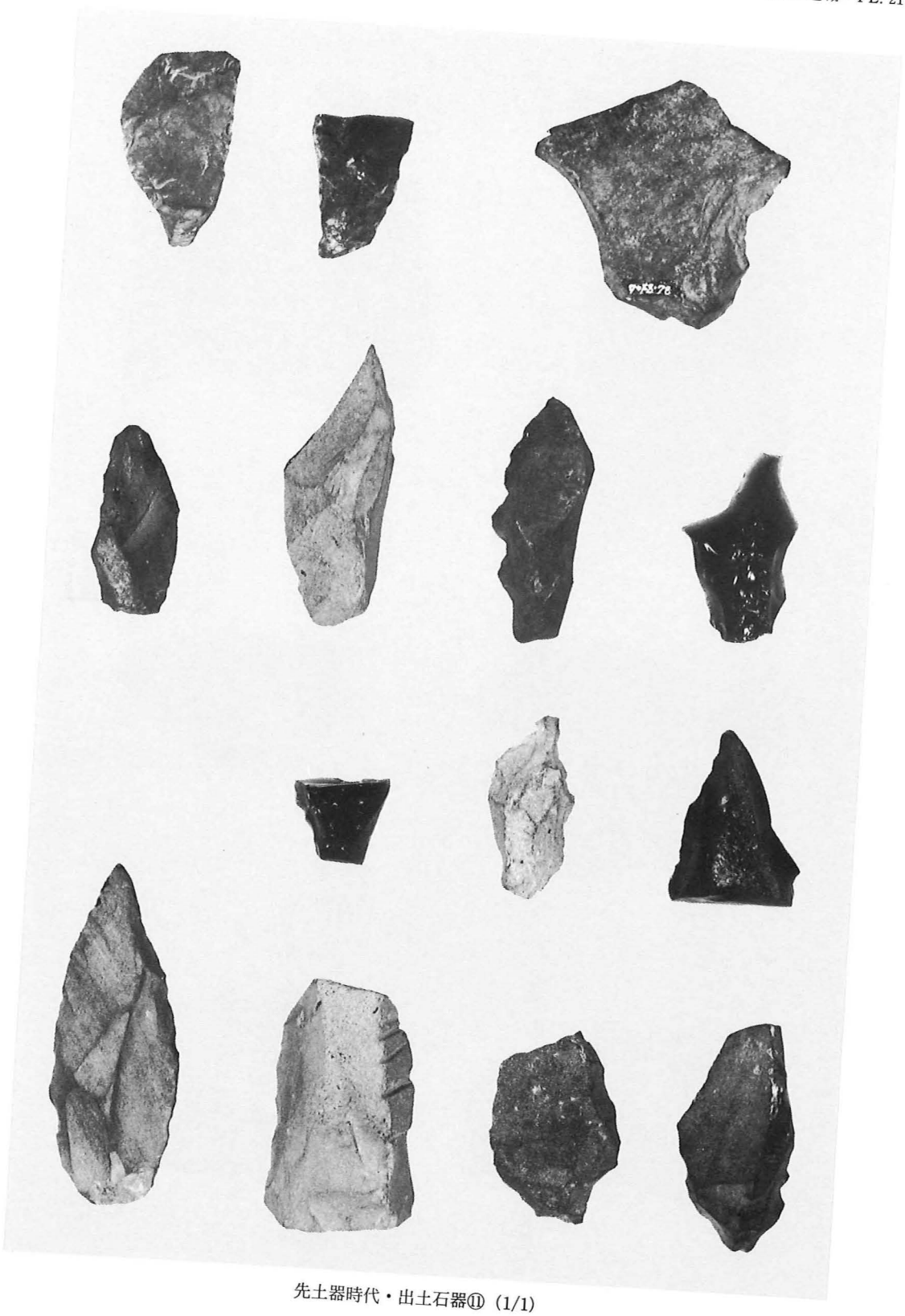
先土器時代・出土石器⑧ (1/1)



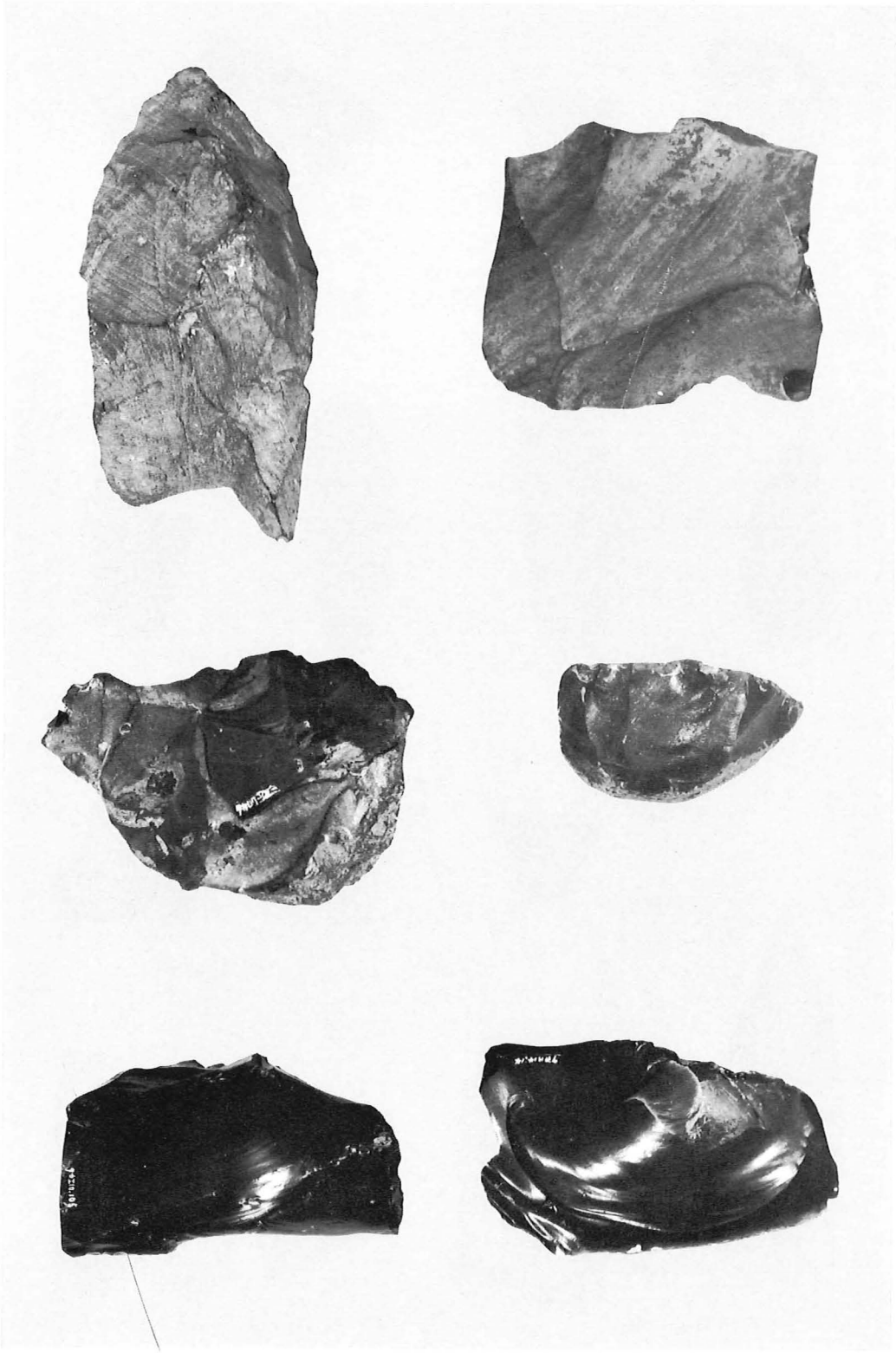
先土器時代・出土石器⑨（1/1）



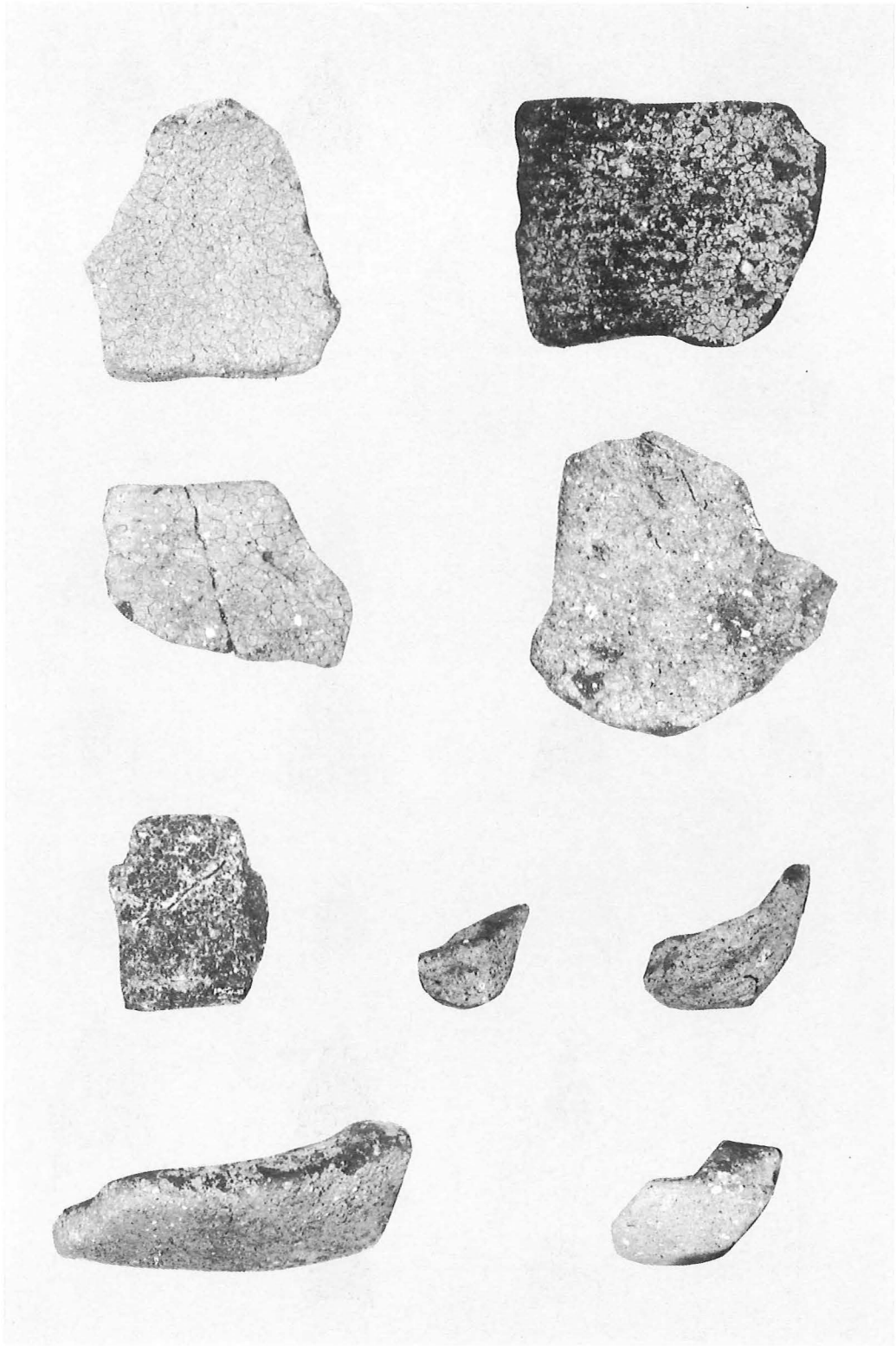
先土器時代・出土石器⑩ (1/1)



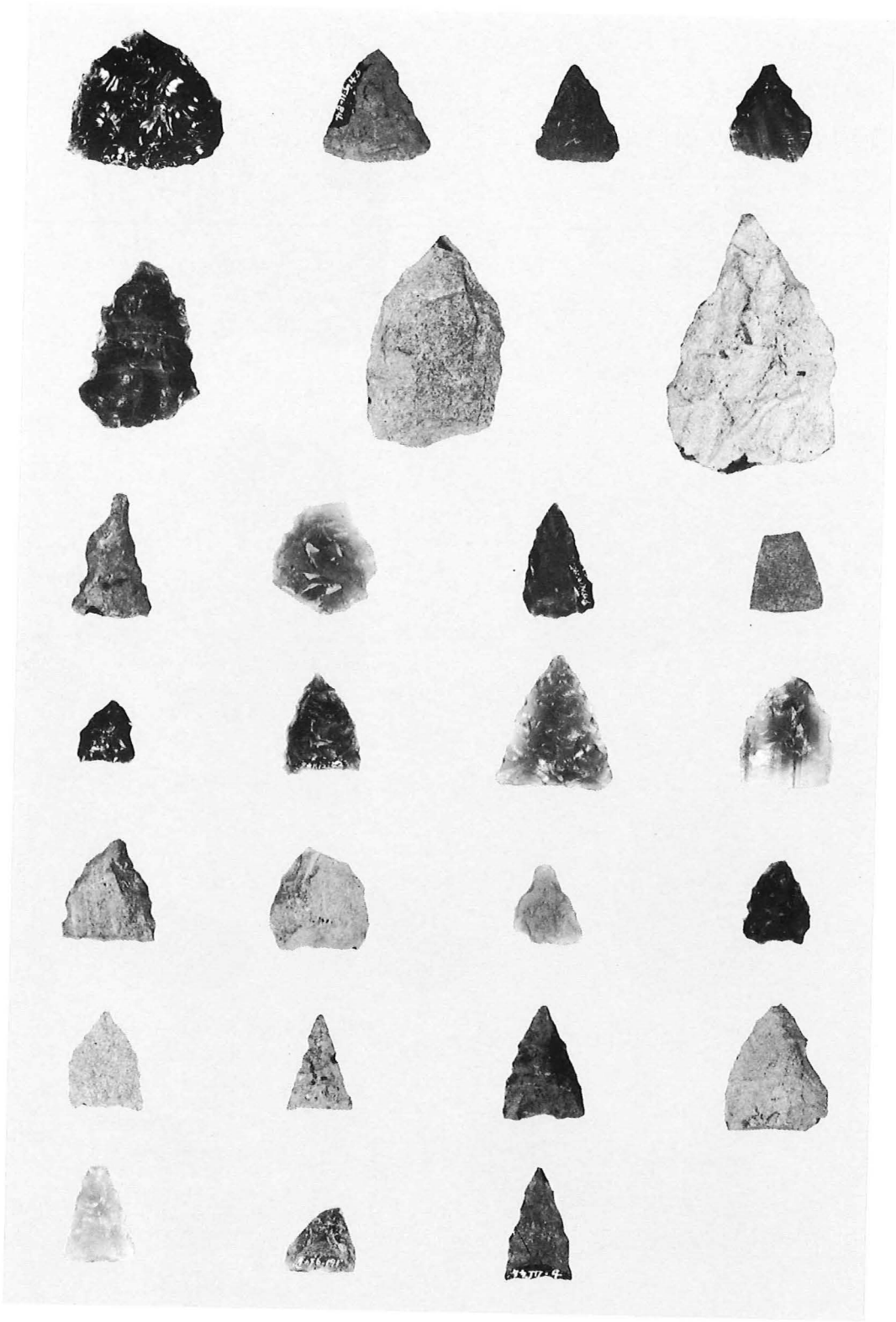
先土器時代・出土石器⑪ (1/1)



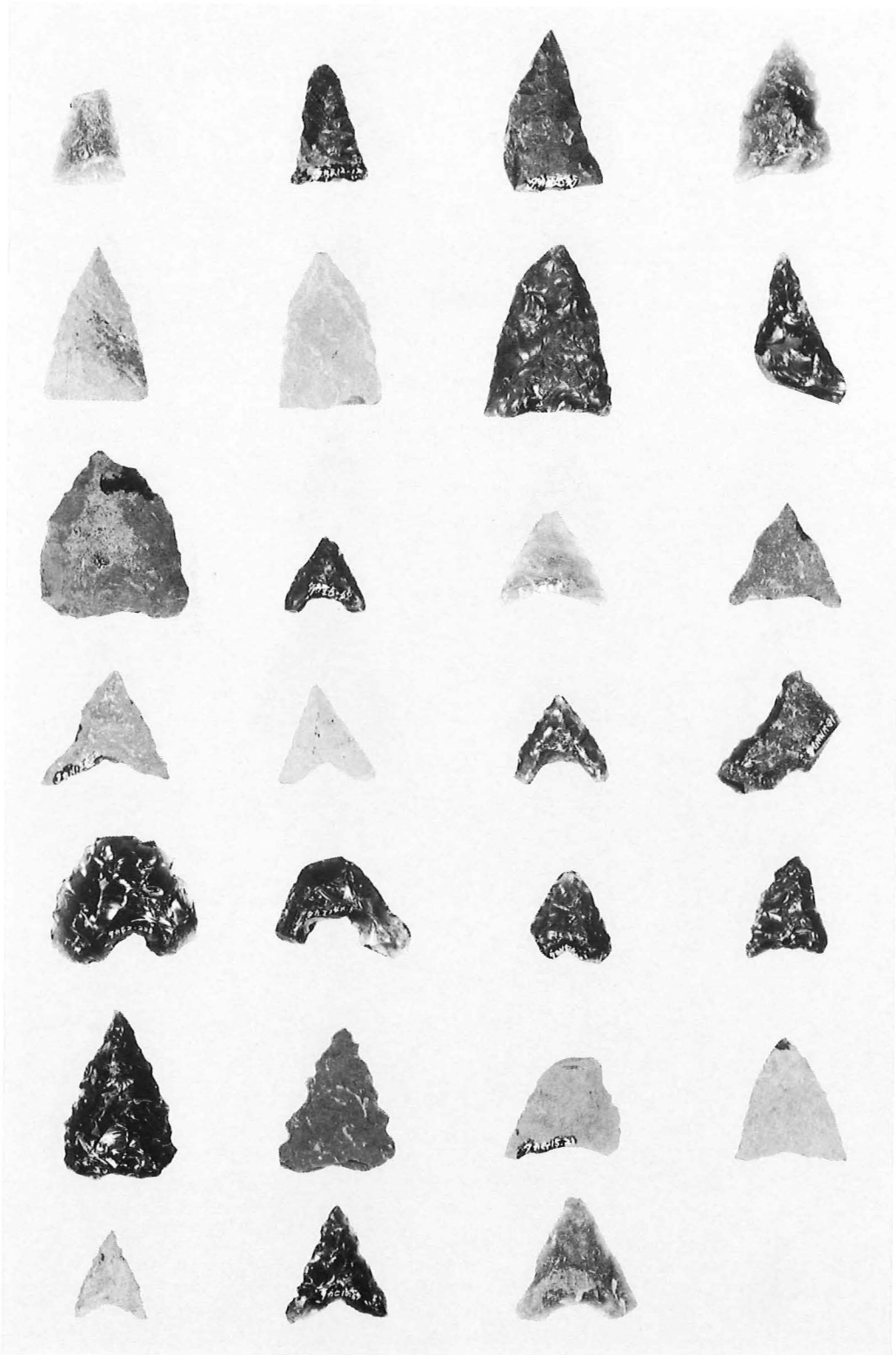
先土器時代・出土石器⑫（1/1）



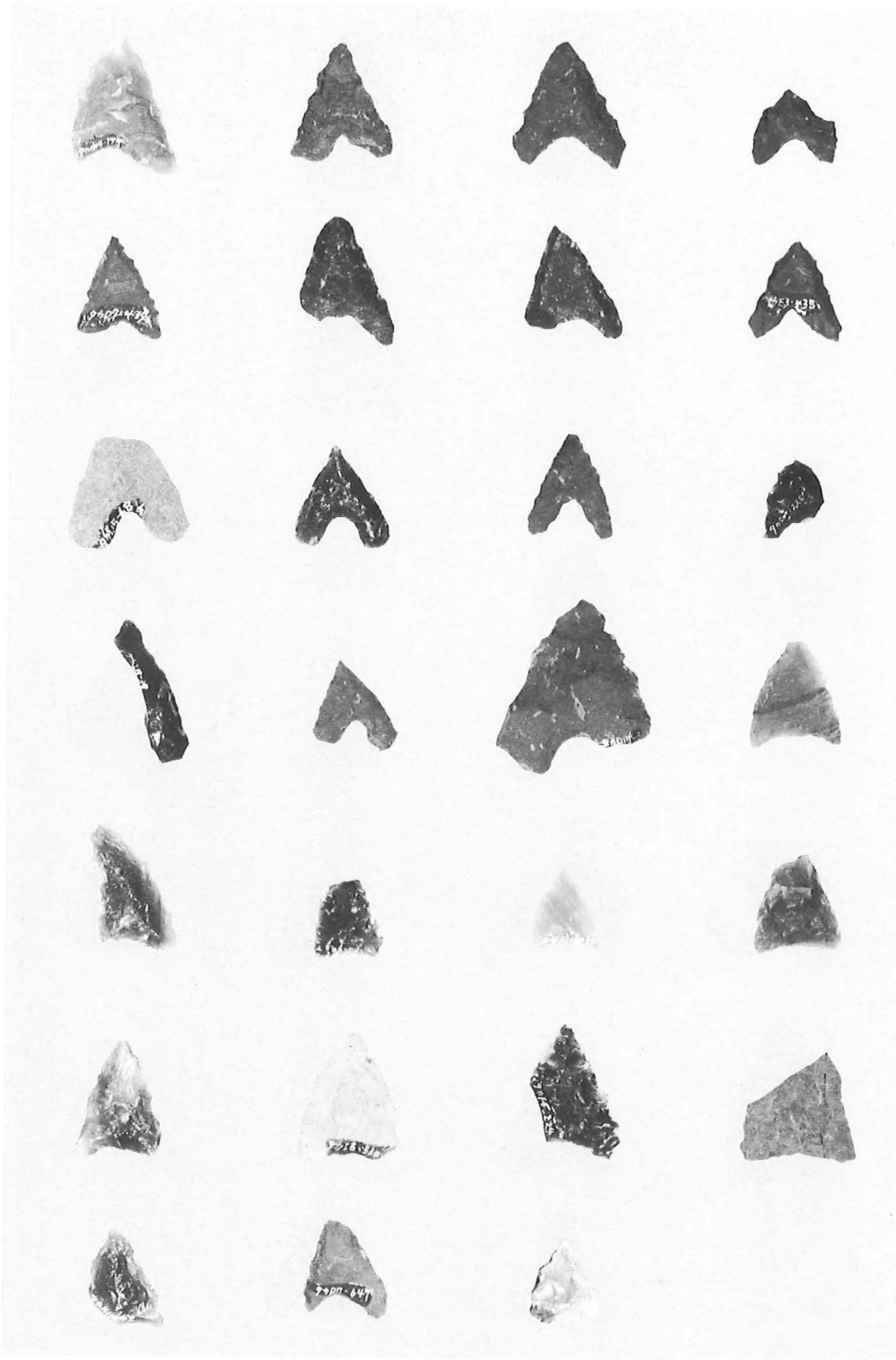
縄文時代の土器（1/2）



縄文時代の石器―石鏃①（1/1）



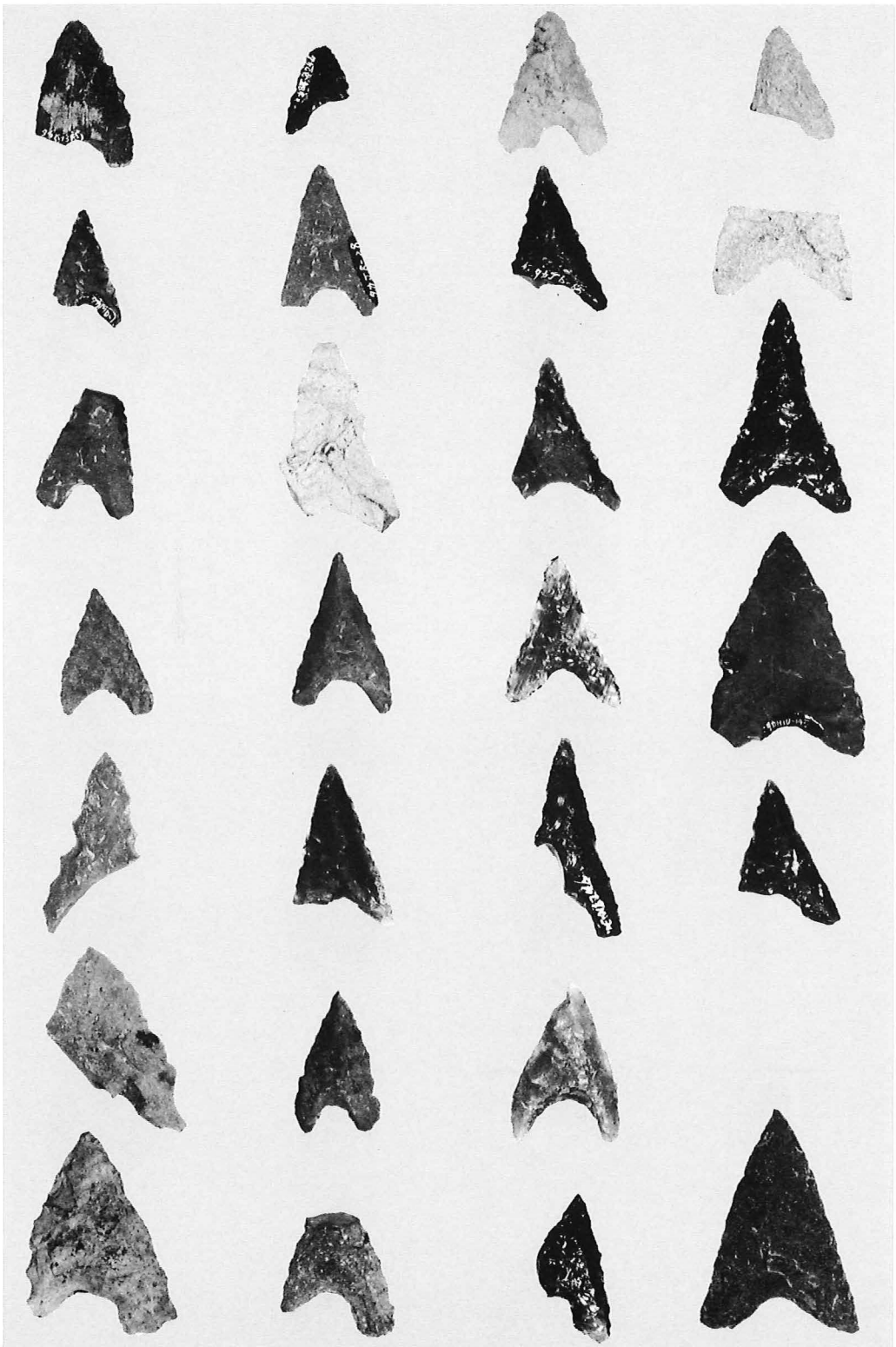
縄文時代の石器—石鏃②（1/1）



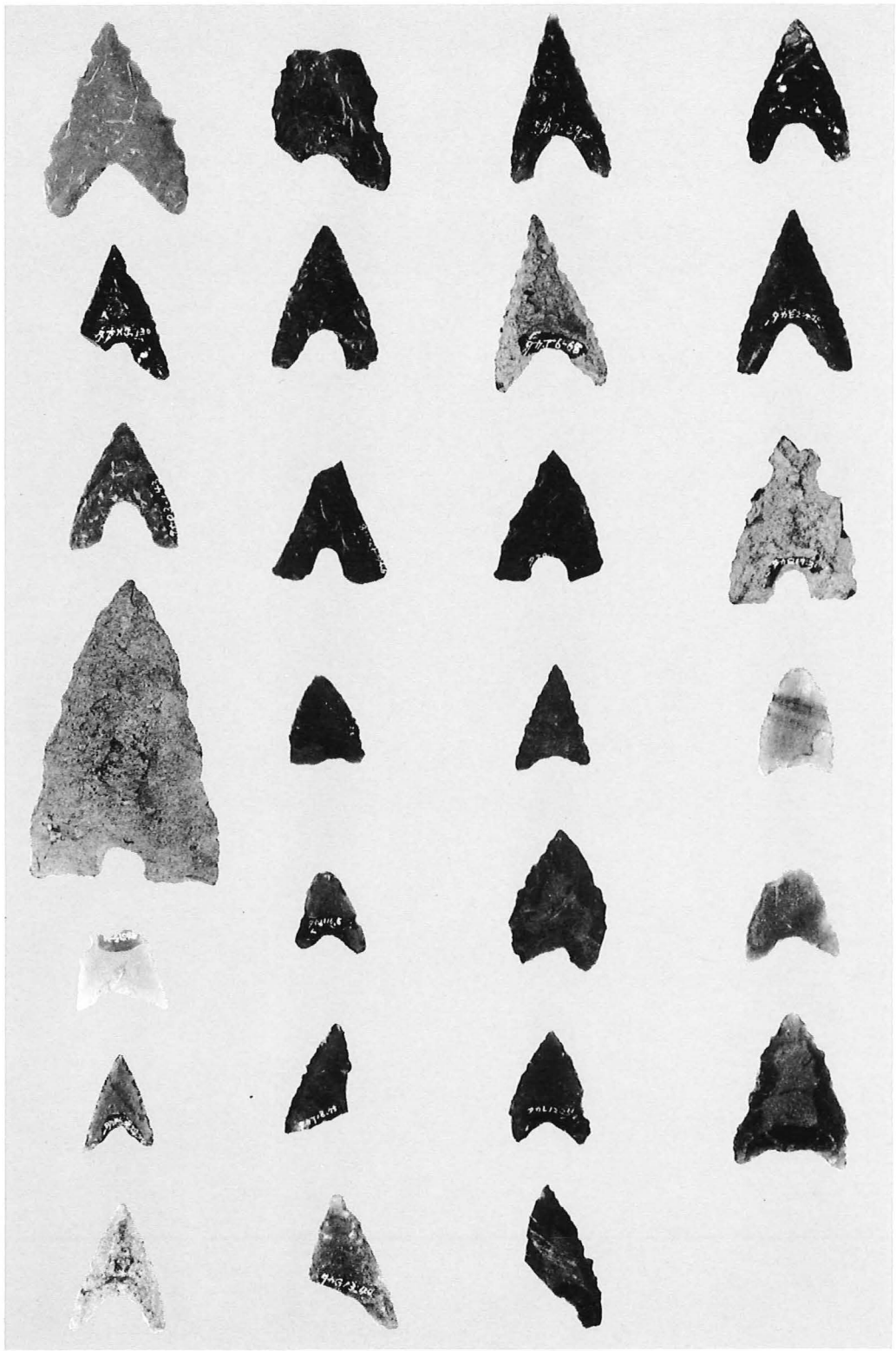
縄文時代の石器―石鏃③（1/1）

縄文時代の石器—石鏃④（1/1）

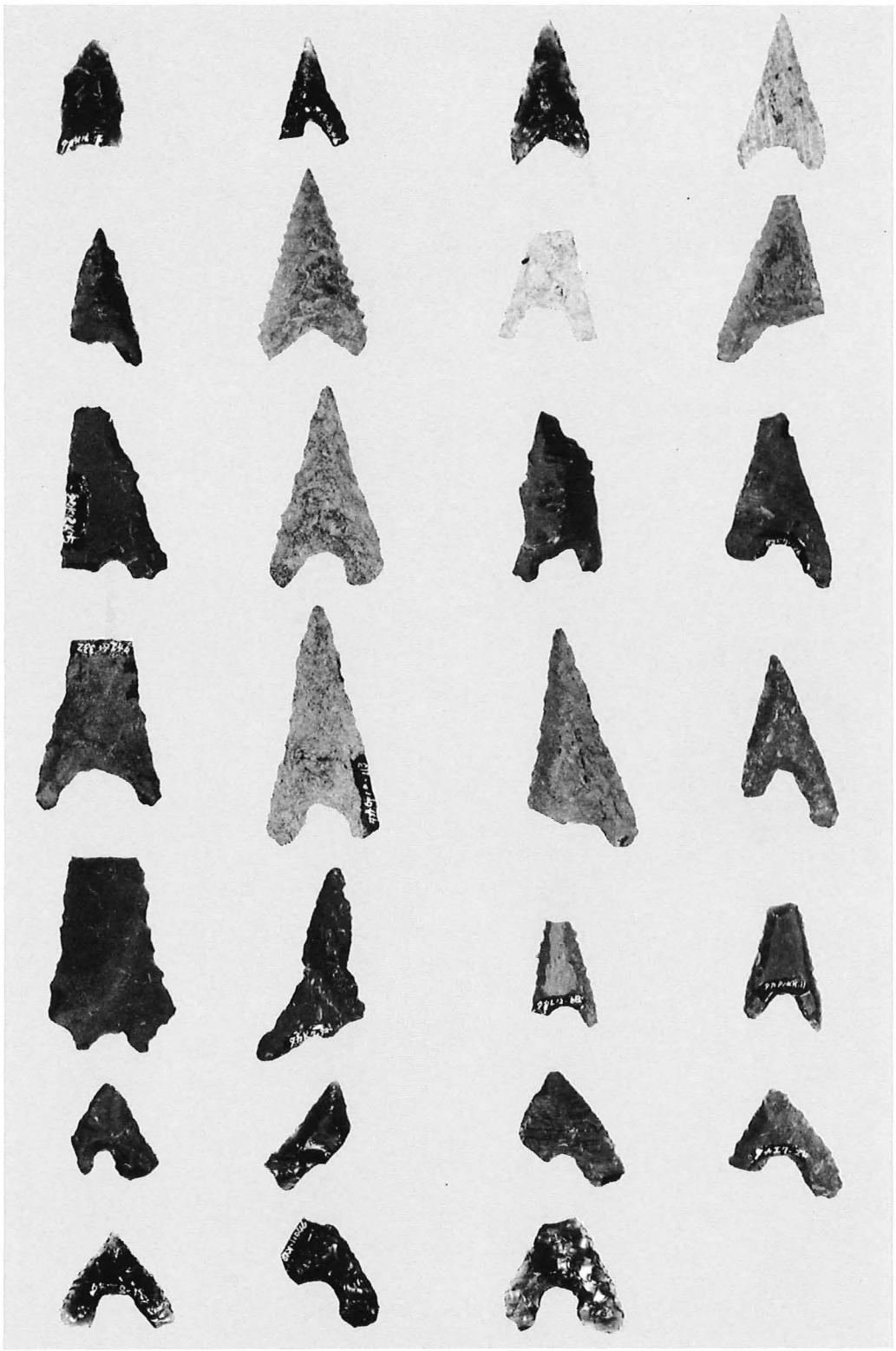
縄文時代の石器―石鏃⑤（1/1）



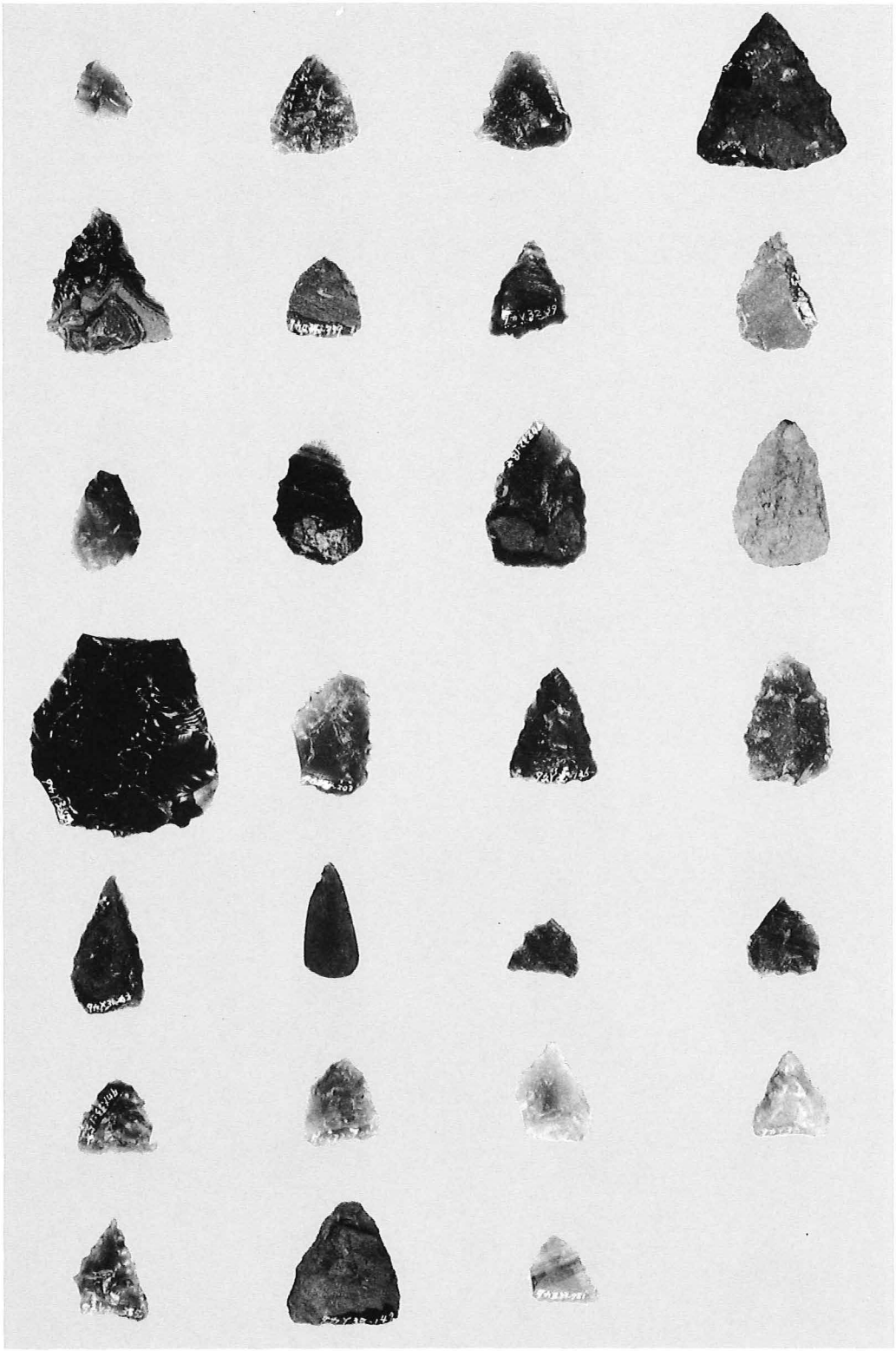
縄文時代の石器—石鏃⑥（1/1）



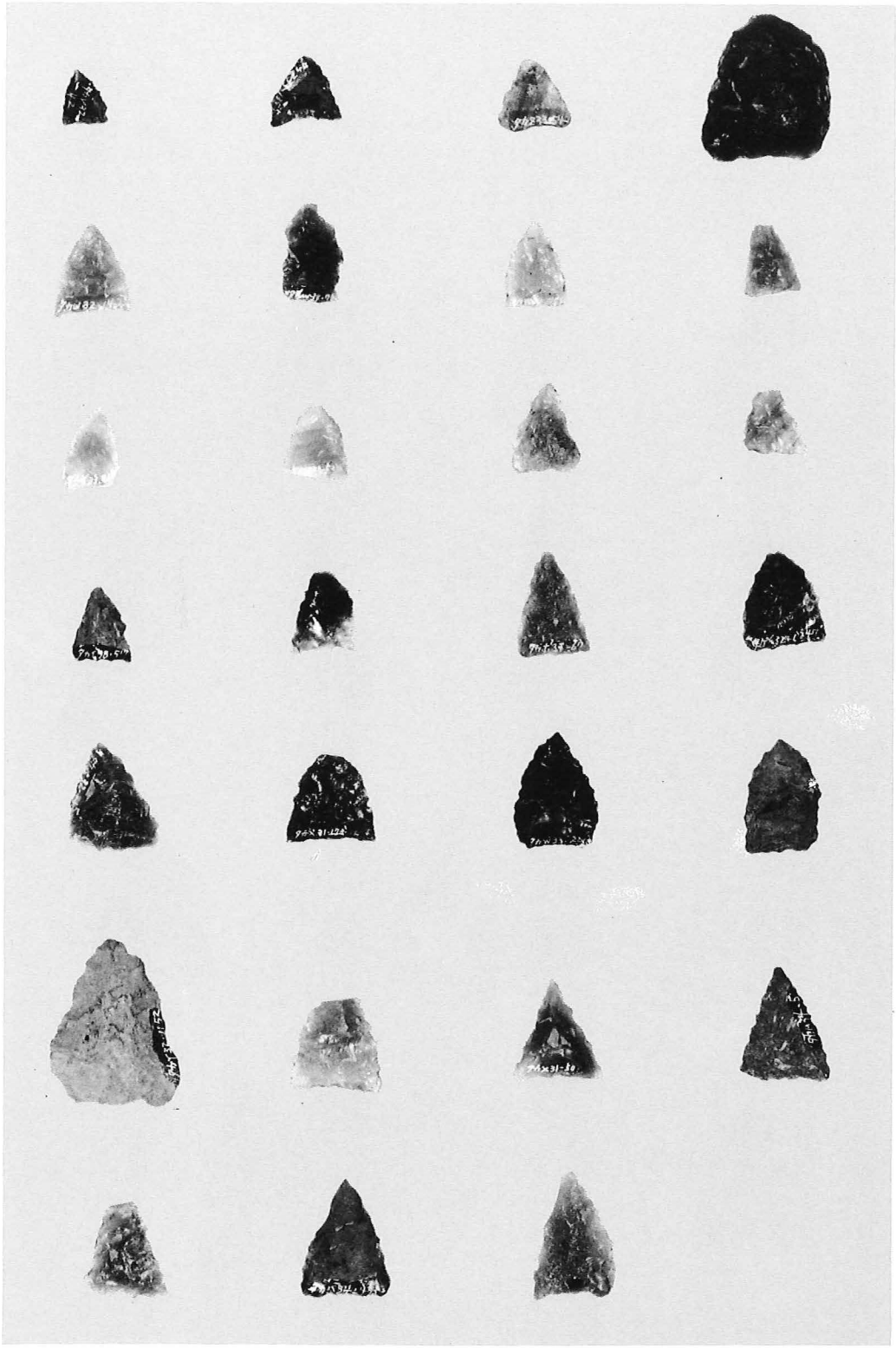
縄文時代の石器―石鏃⑦（1/1）



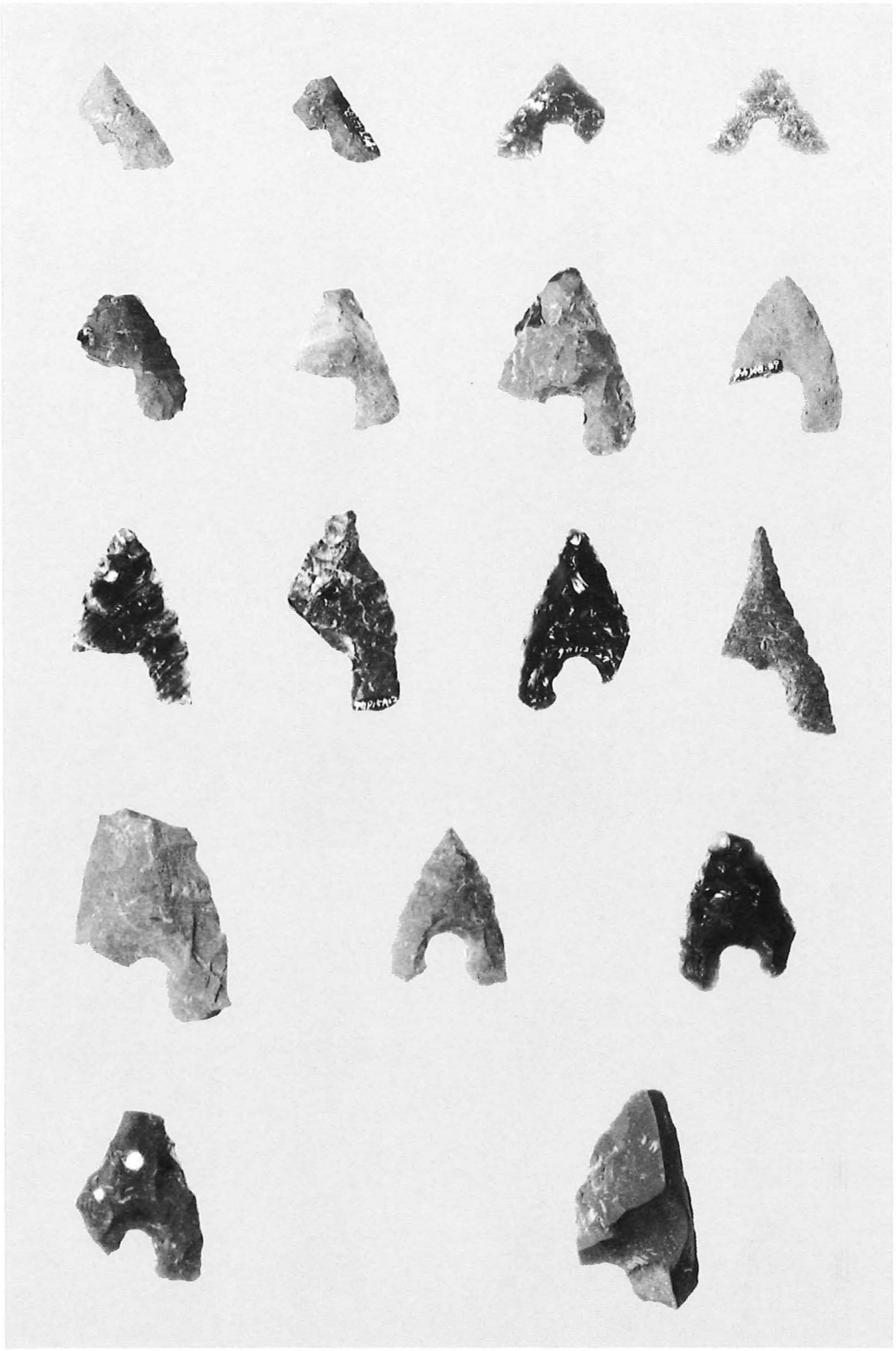
縄文時代の石器―石鏃⑧（1/1）



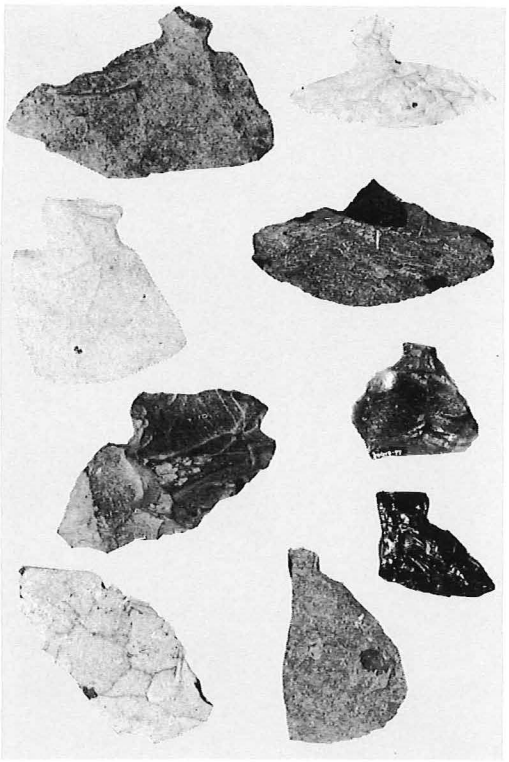
縄文時代の石器―石鏃⑨（1/1）



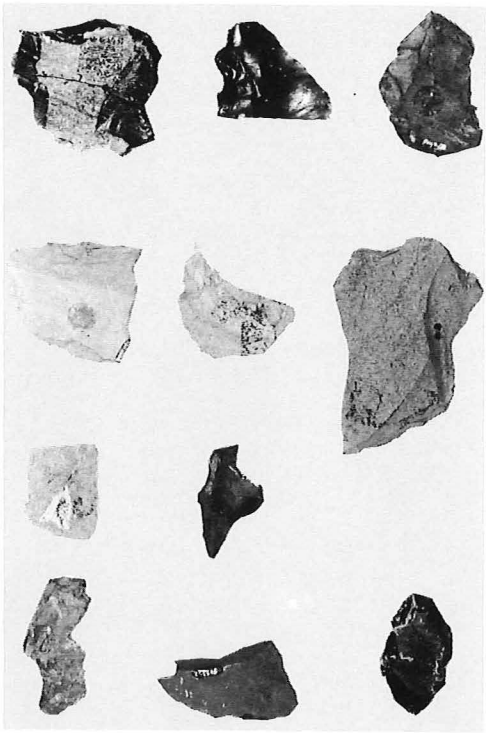
縄文時代の石器―石鏃⑩（1/1）



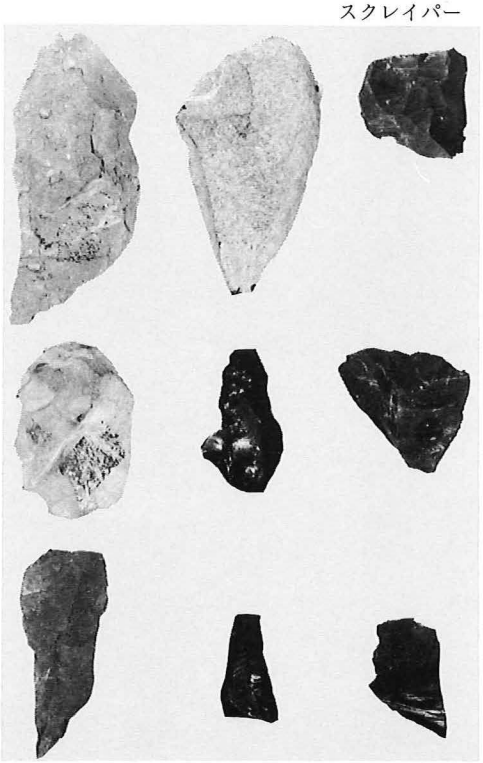
縄文時代の石器―石鏃⑪（1/1）



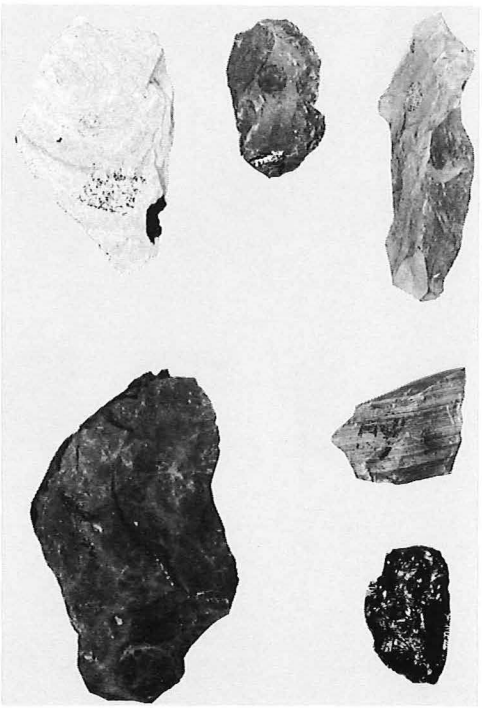
石匙
スクレイパー



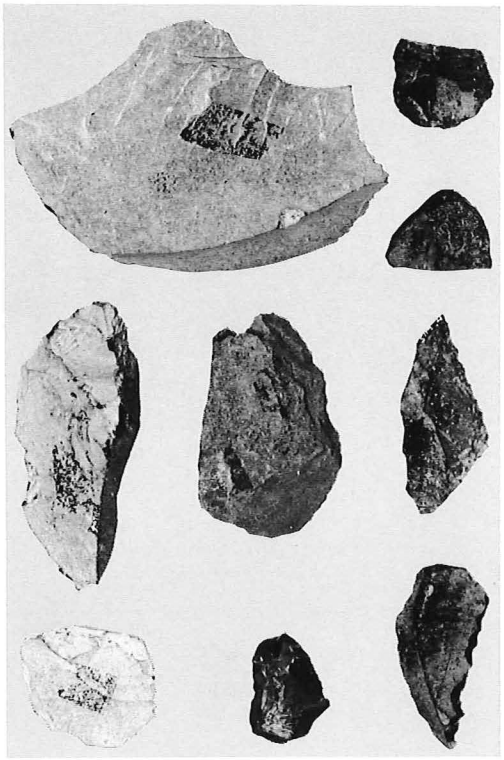
スクレイパー



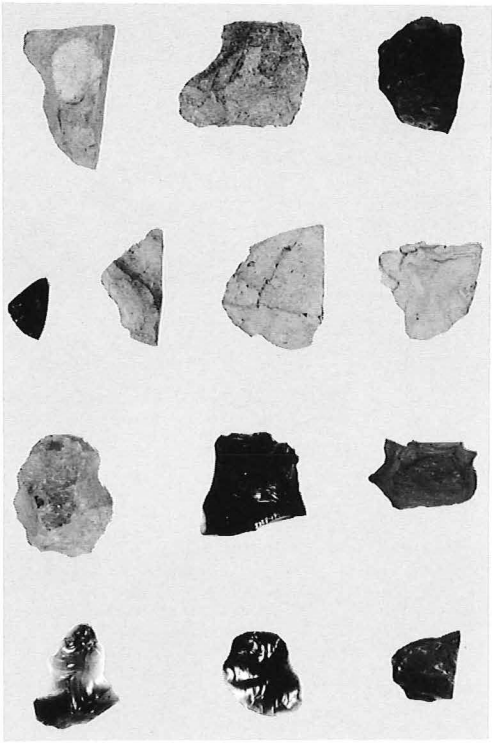
スクレイパー



縄文時代の石器―石匙・スクレイパー①（1/2）

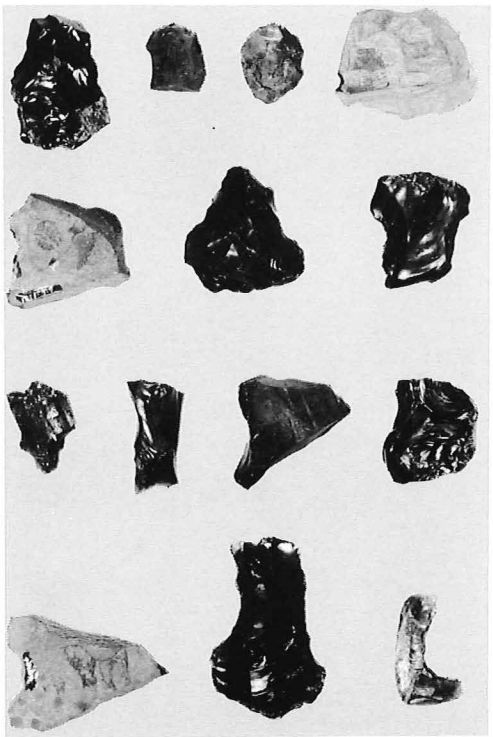


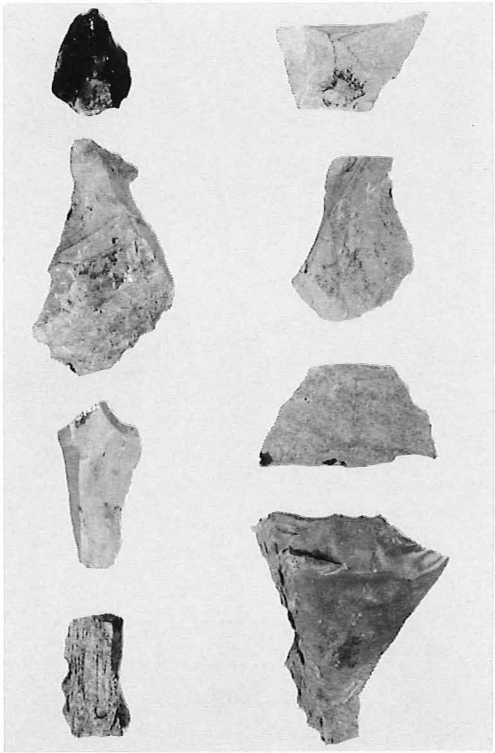
スクレイパー



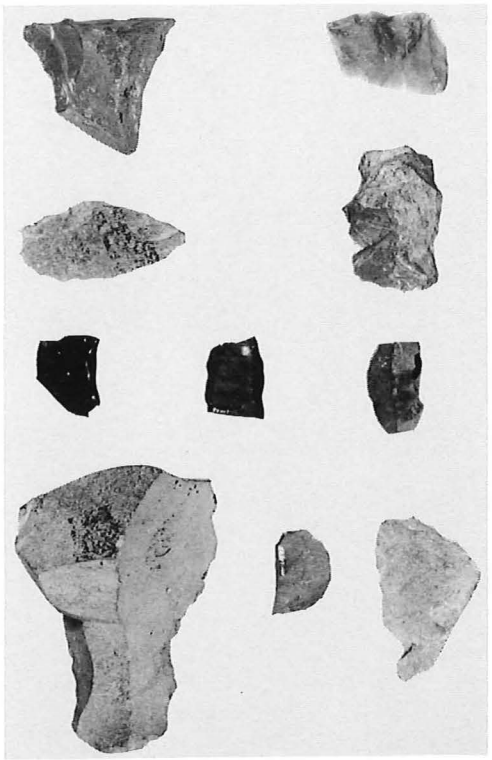
加工痕ある石器
使用痕ある剝片

スクレイパー



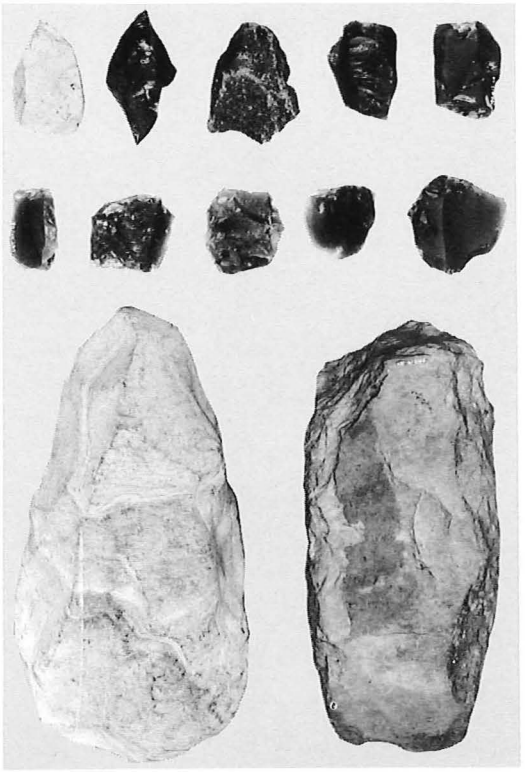


縄文時代の石器―スクレイパー②　使用痕ある剝片①・加工痕ある石器 (1/2)



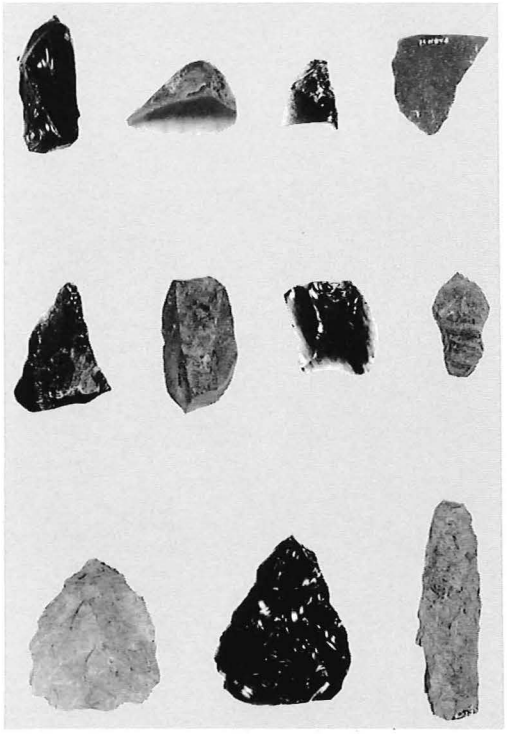
使用痕ある剝片

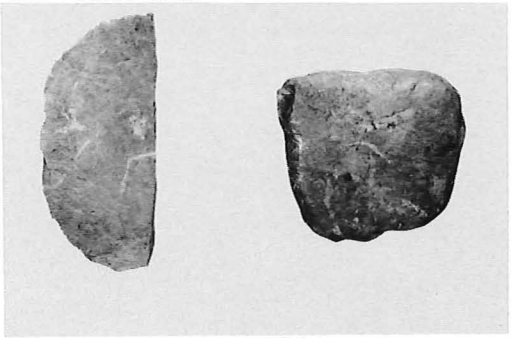
使用痕ある剝片・石槍



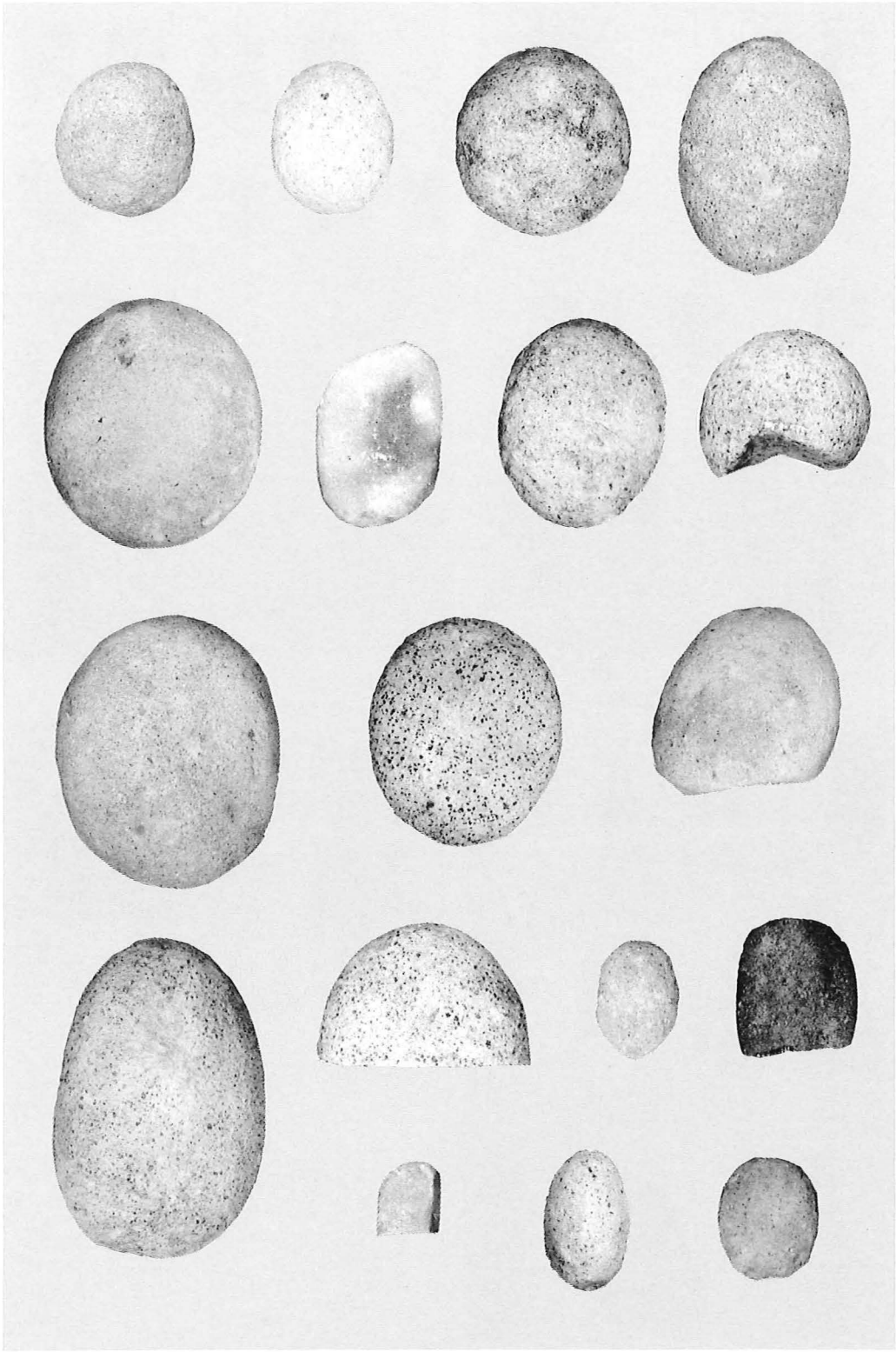
彫器・楔形石器・石斧

砥石・中近世の遺物

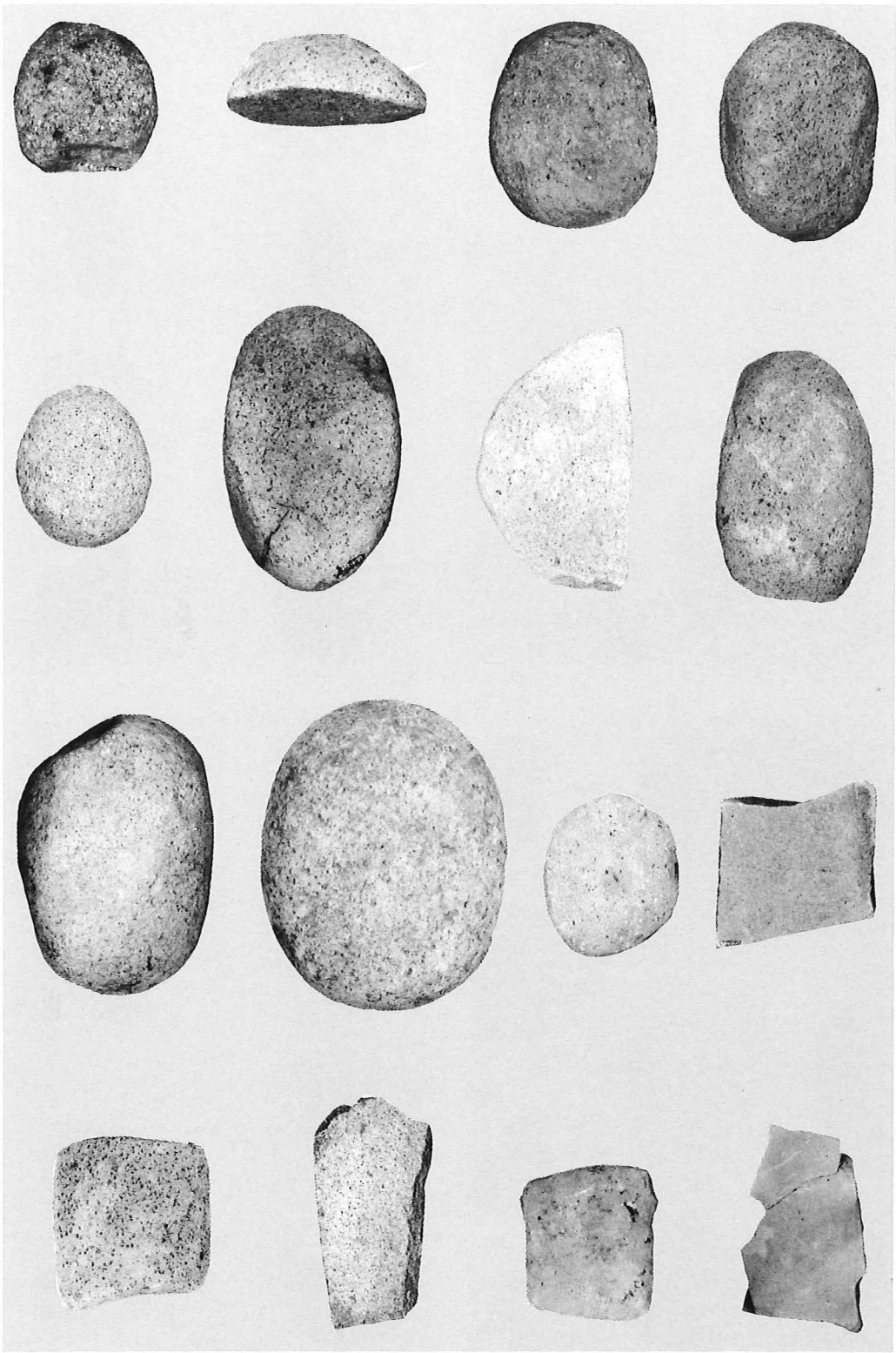




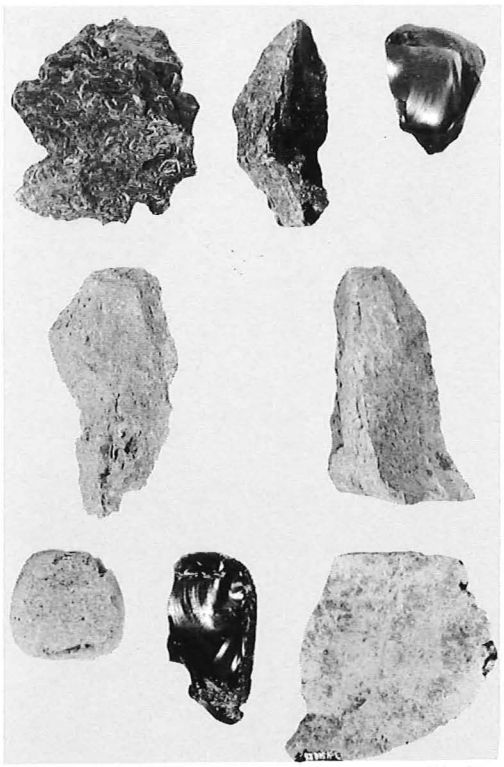
縄文時代の石器―使用痕ある剝片②・石槍・彫器・楔形石器・石斧（1/2），砥石①（1/12）



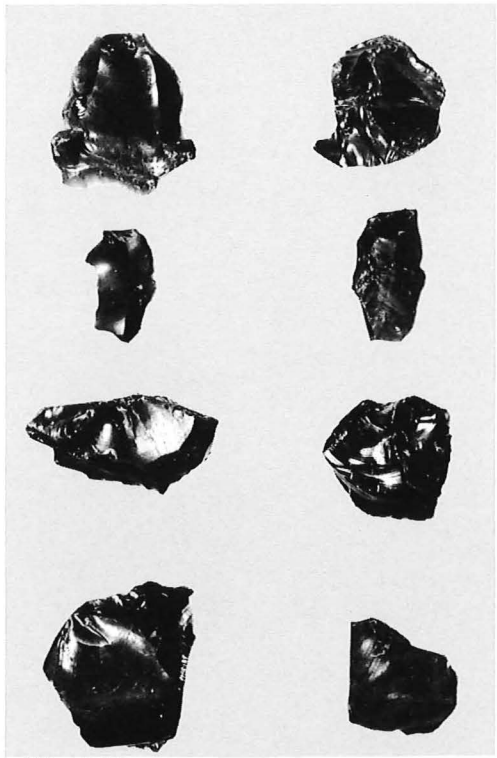
縄文時代の石器—磨石・敲石① (1/3)



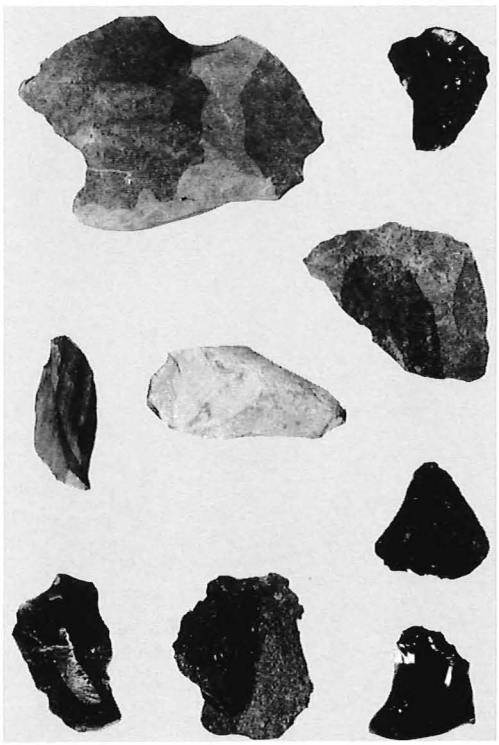
縄文時代の石器—敲石・凹石・砥石②(1/3, 1/6)

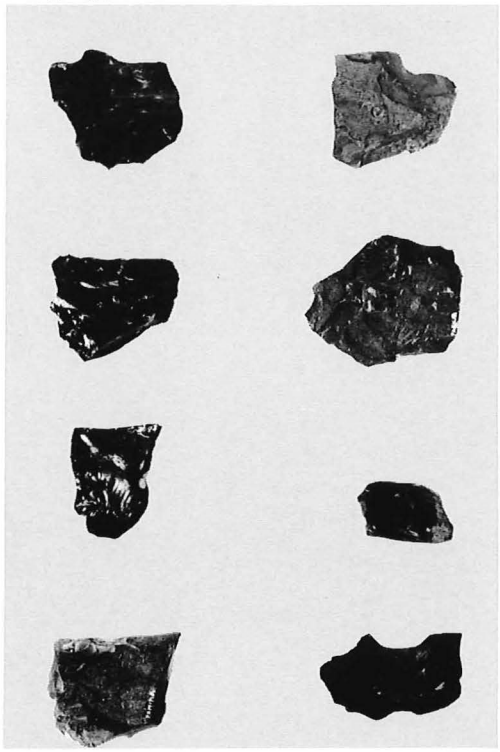


剝　片
剝　片

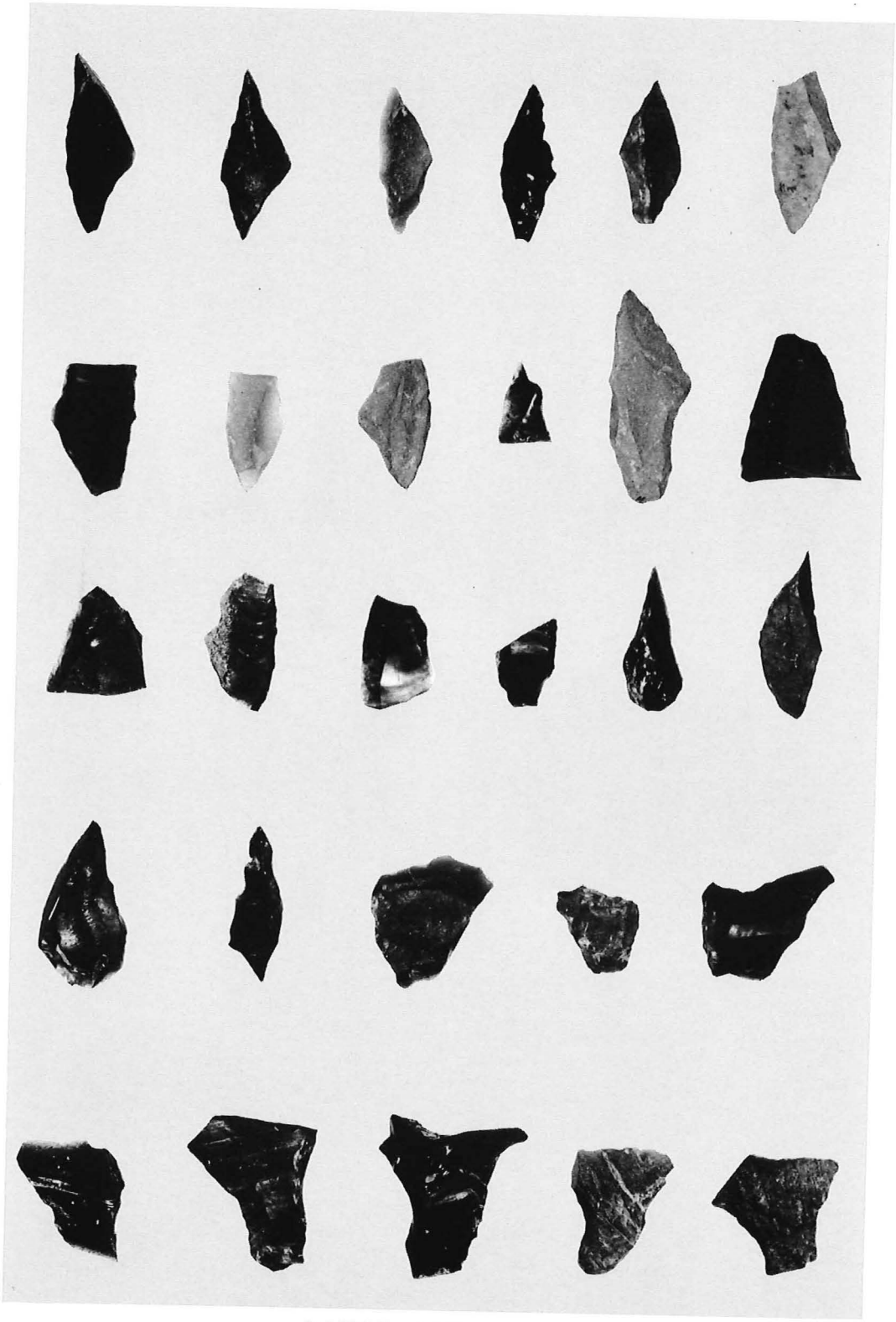


剝片・石核
石　核

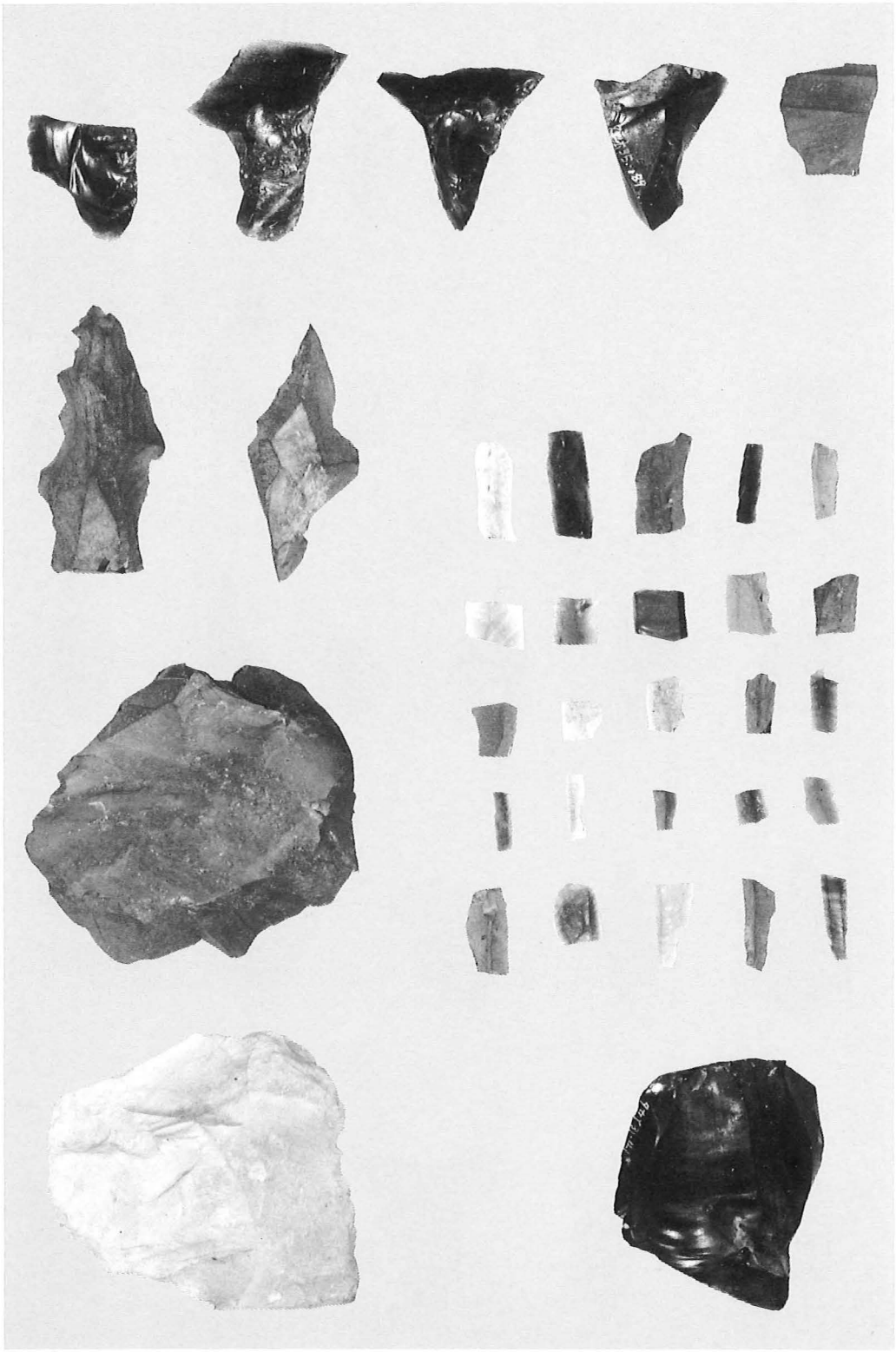




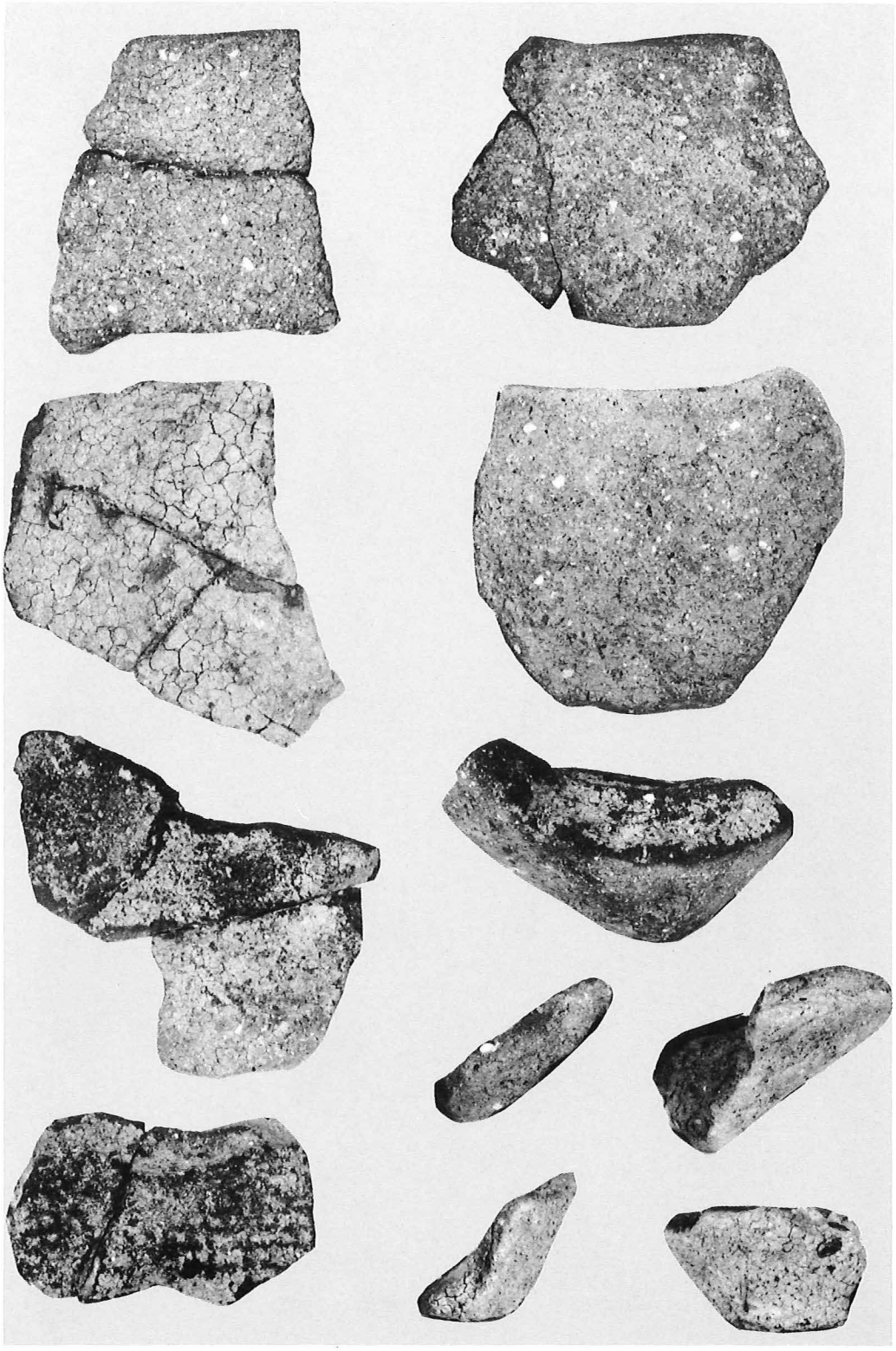
縄文時代の石器—剝片・石核（1/2）



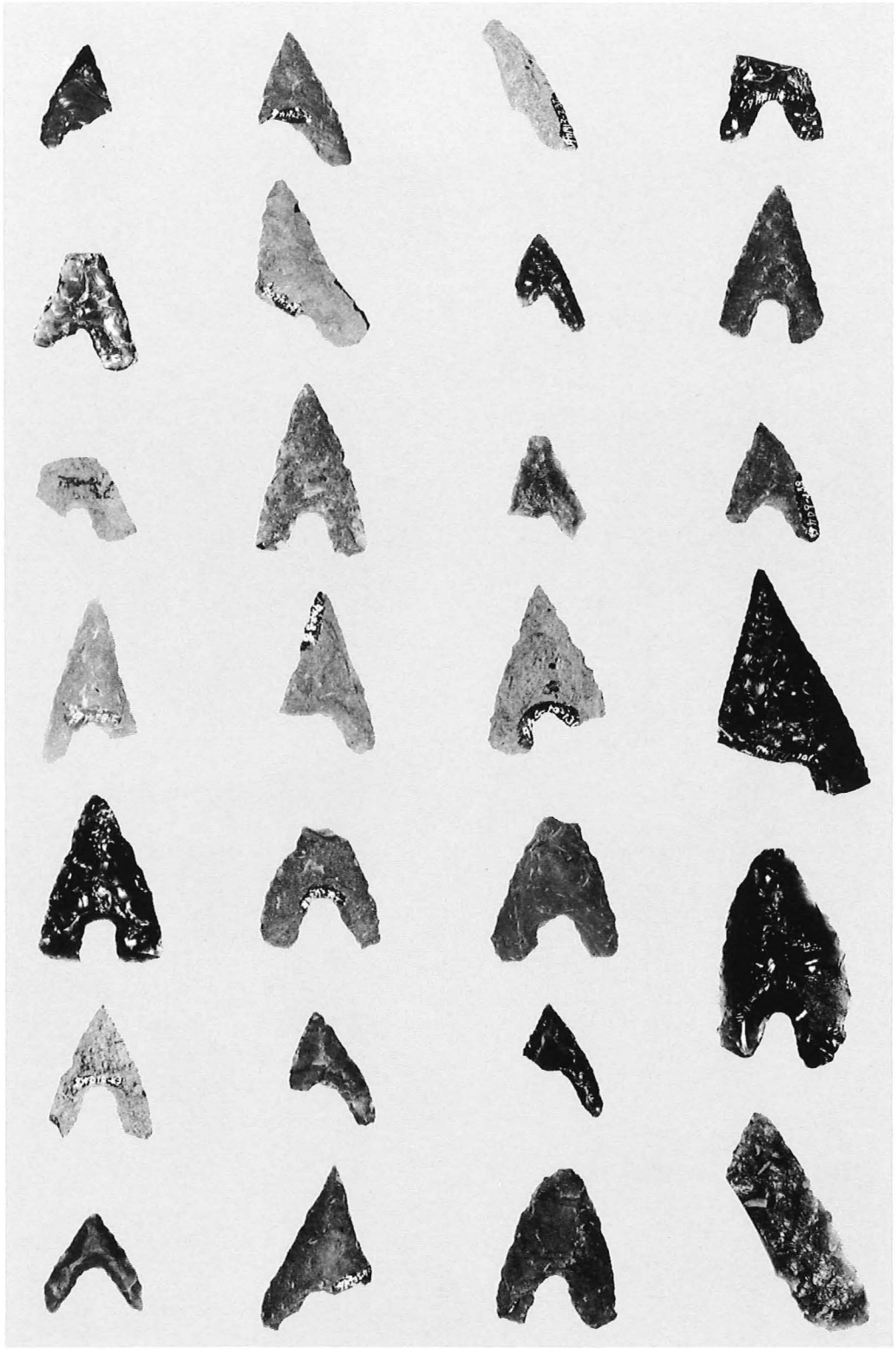
先土器時代・出土石器① (1/1)



先土器時代・出土石器②（1/1）

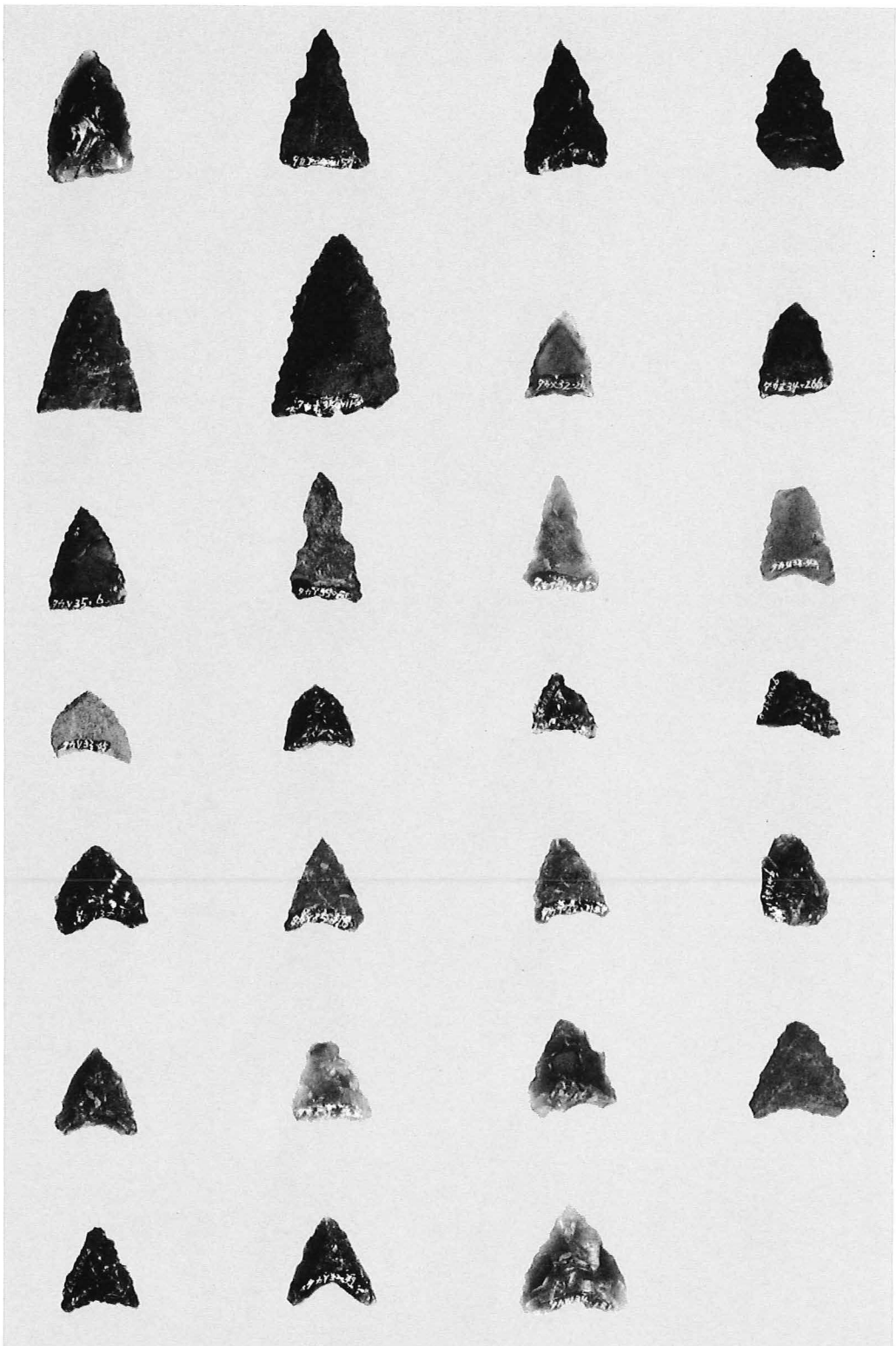


縄文時代の土器（1/2）

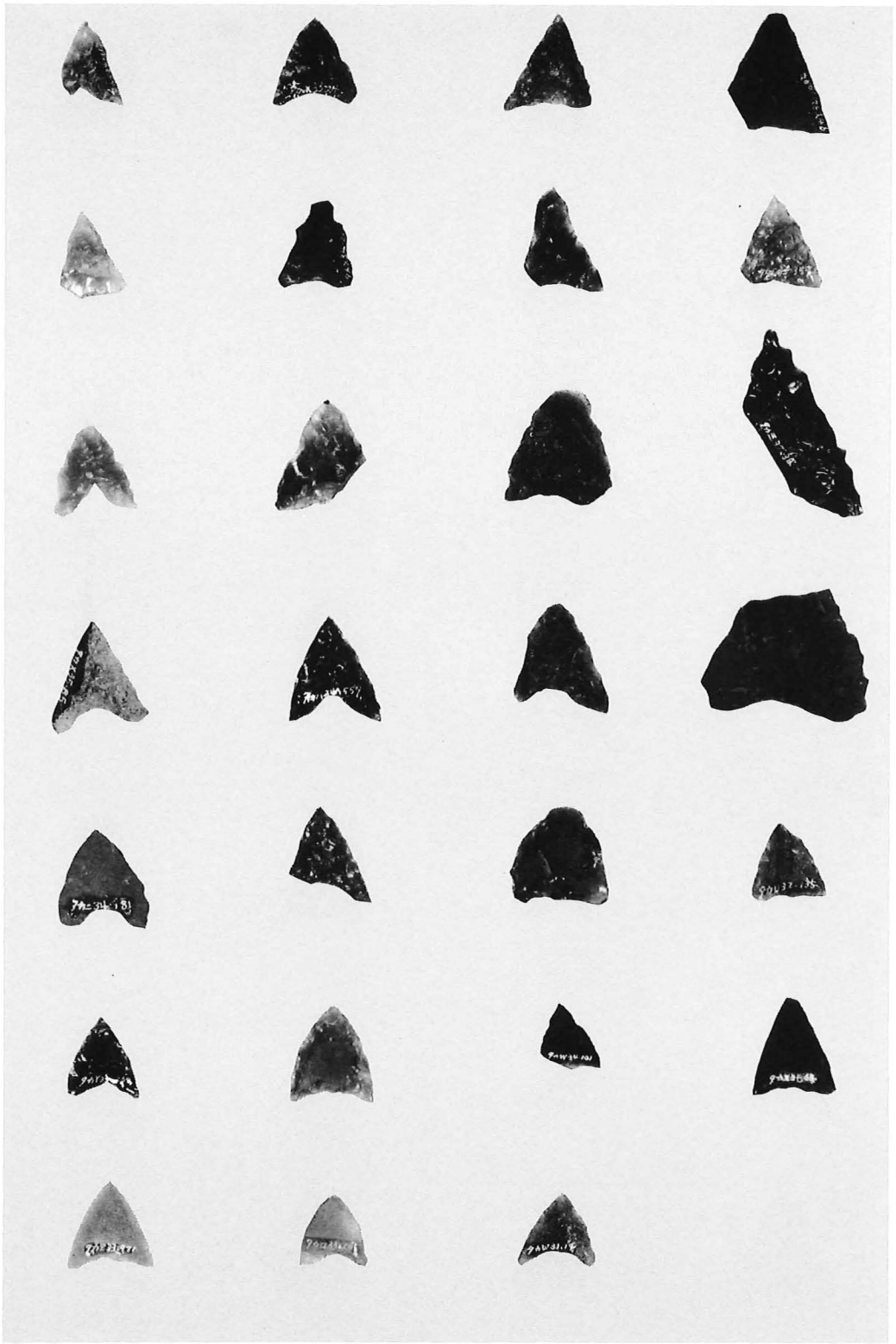


縄文時代の石器―石鏃①（1/1）

縄文時代の石器―石鏃②（1/1）

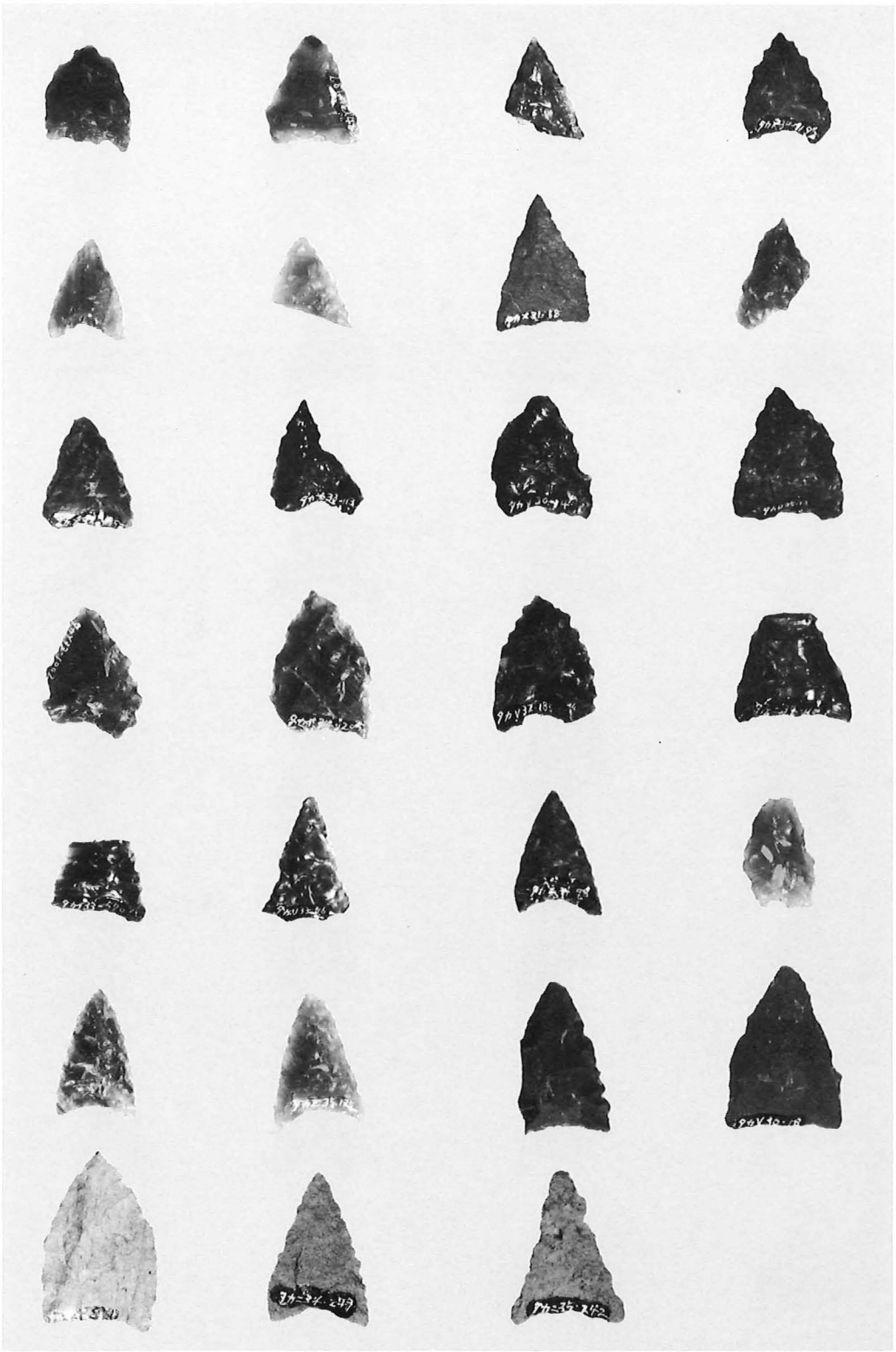


縄文時代の石器―石鏃③（1/1）

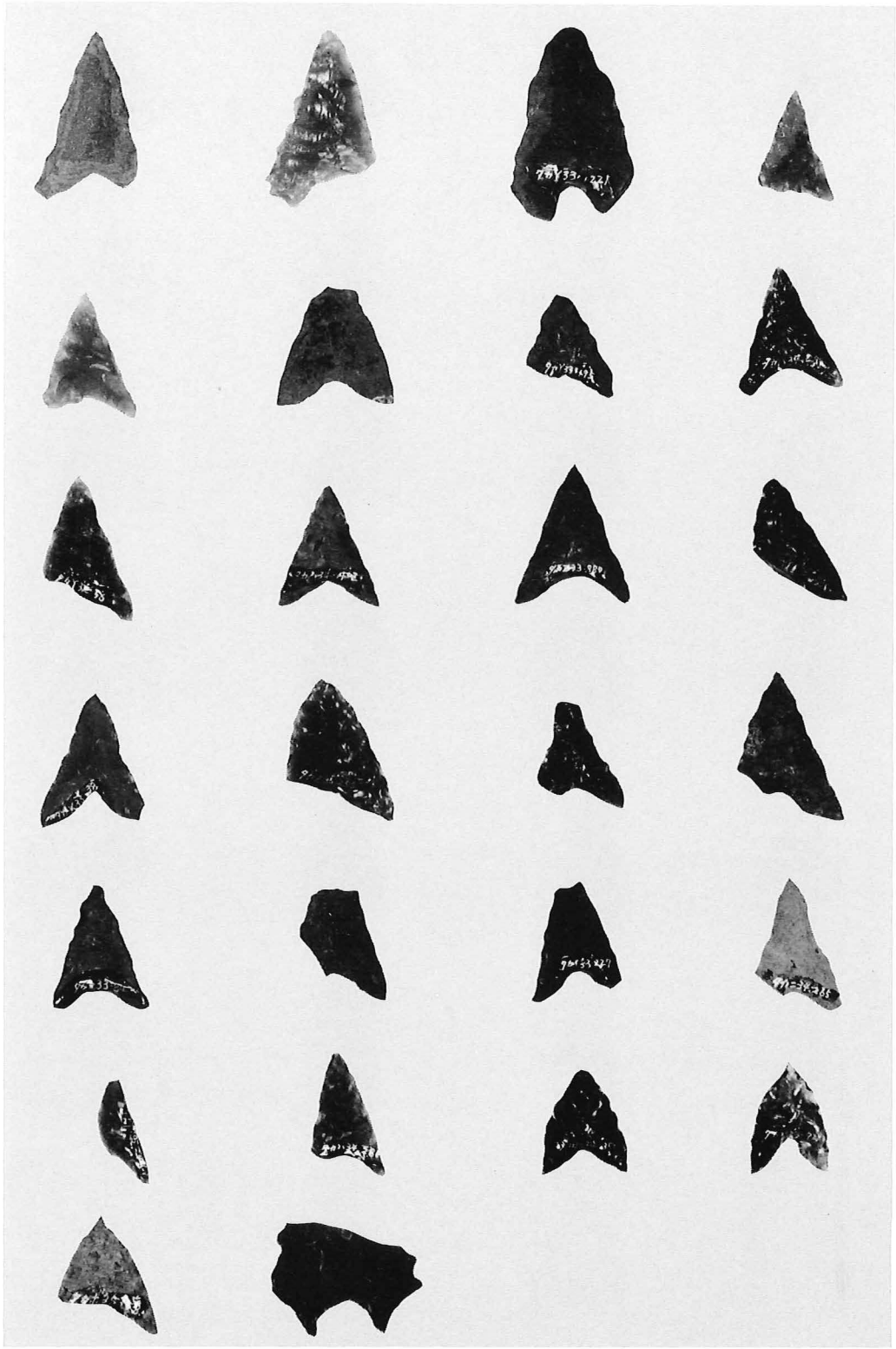


縄文時代の石器—石鏃④（1/1）

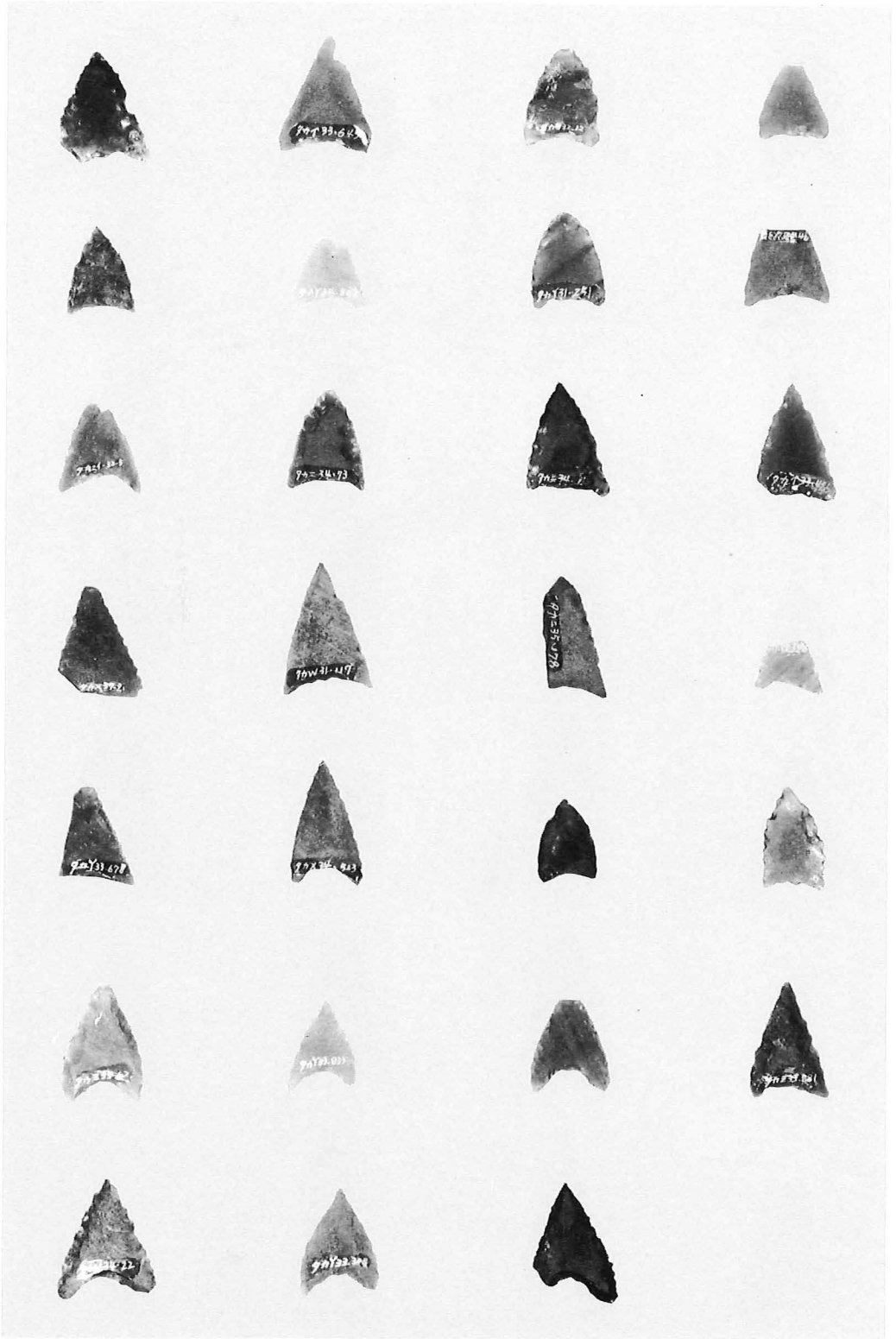
縄文時代の石器―石鏃⑤（1/1）



縄文時代の石器―石鏃⑥（1/1）

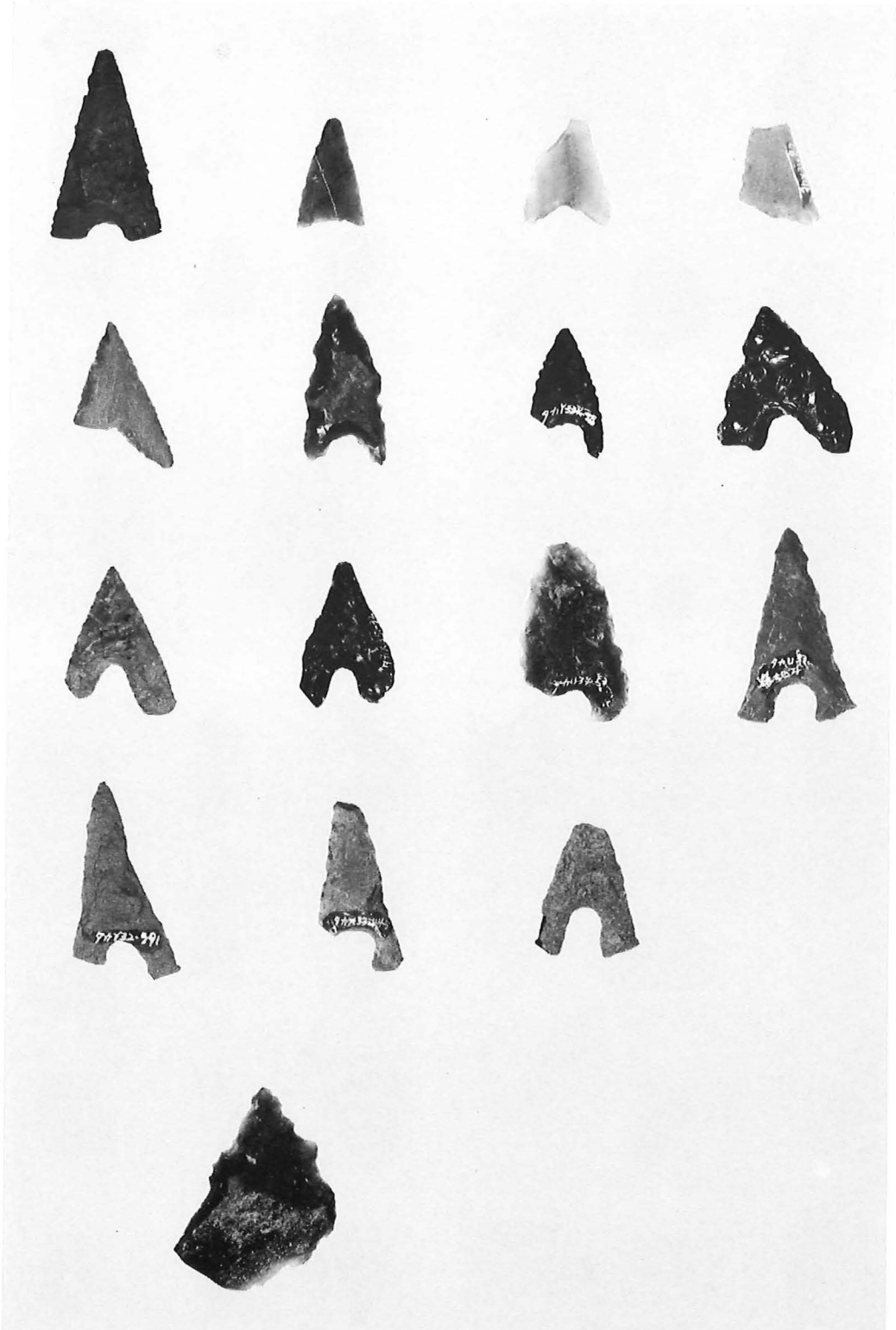


縄文時代の石器―石鏃⑦（1/1）

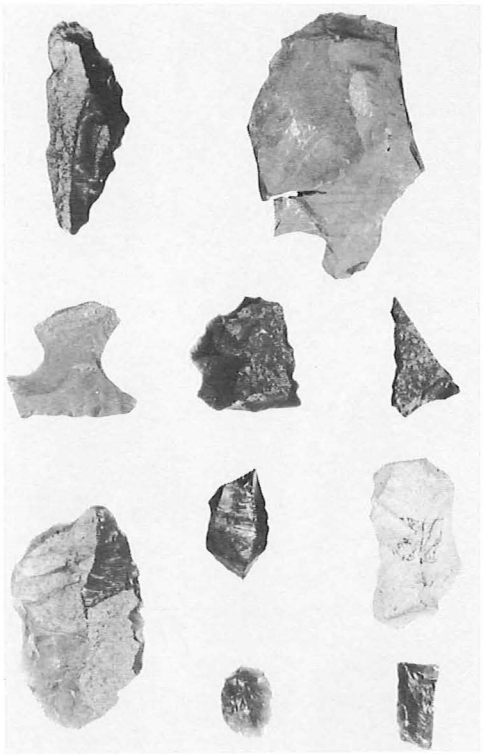


縄文時代の石器―石鏃⑧（1/1）

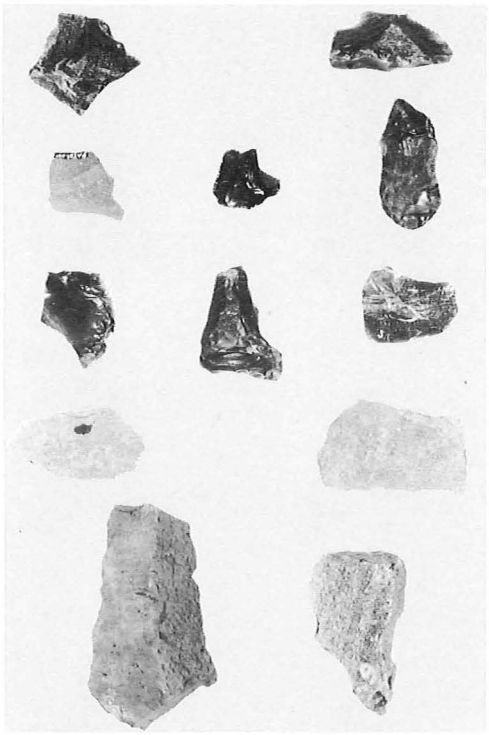
縄文時代の石器―石鏃⑨（1/1）



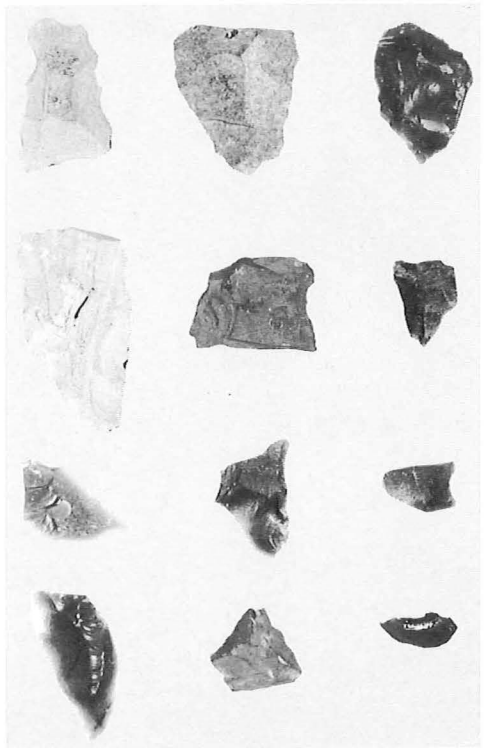
縄文時代の石器―石鏃⑩（1/1）

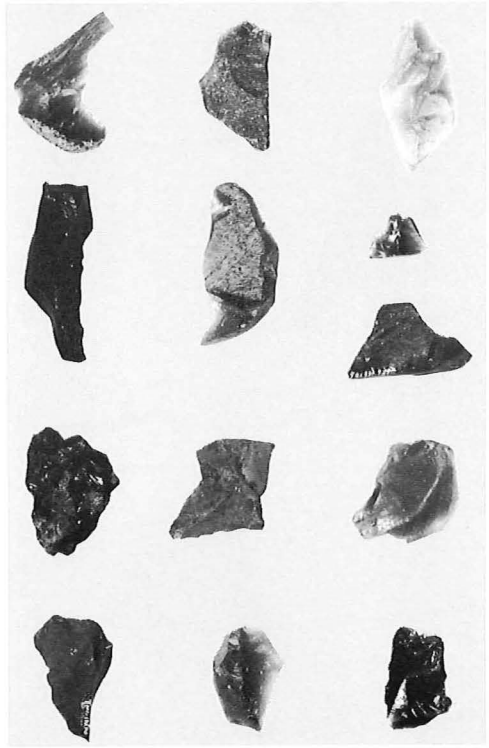


スクレイパー
スクレイパー・使用痕ある剝片

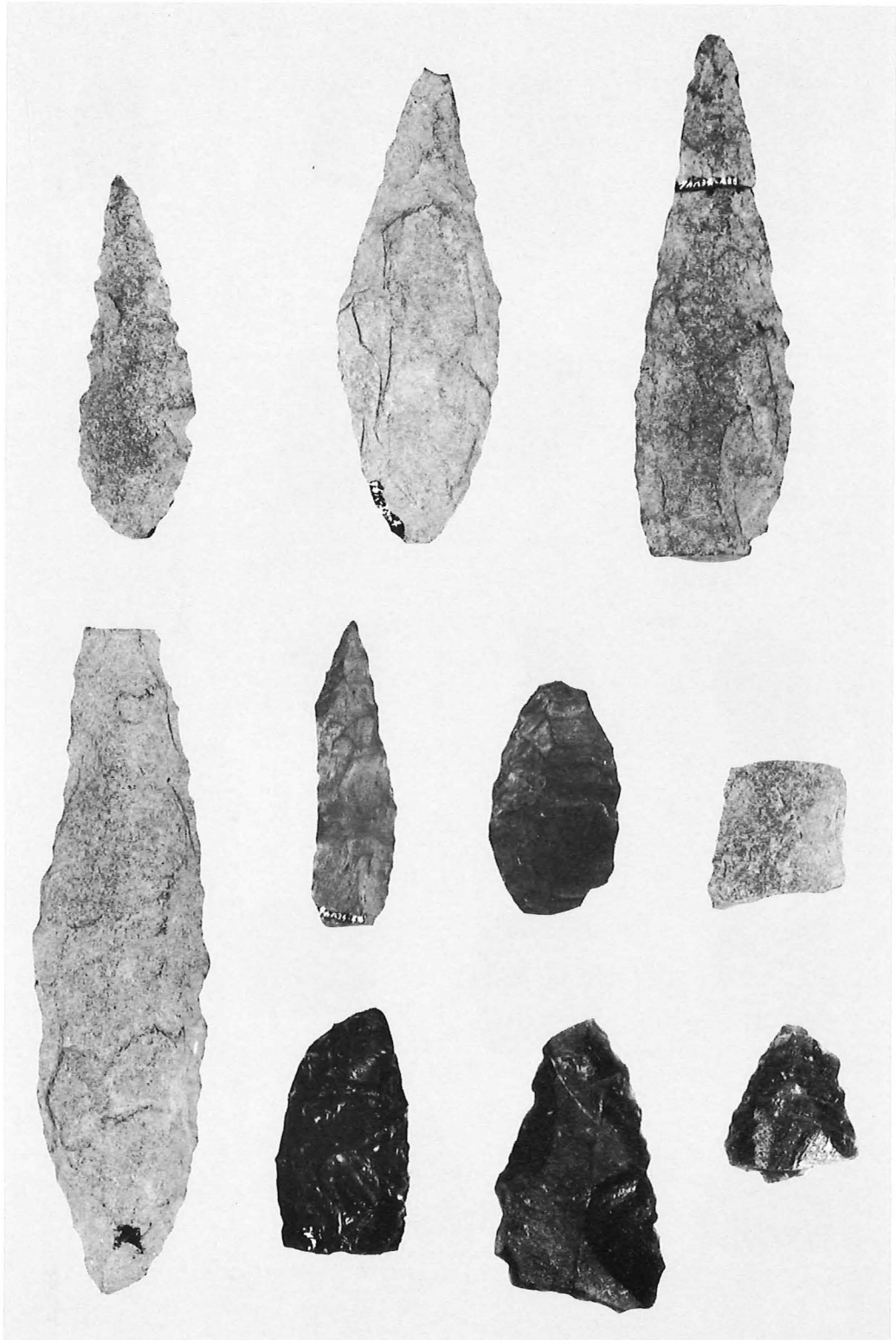


加工痕ある石器・使用痕ある剝片
使用痕ある剝片



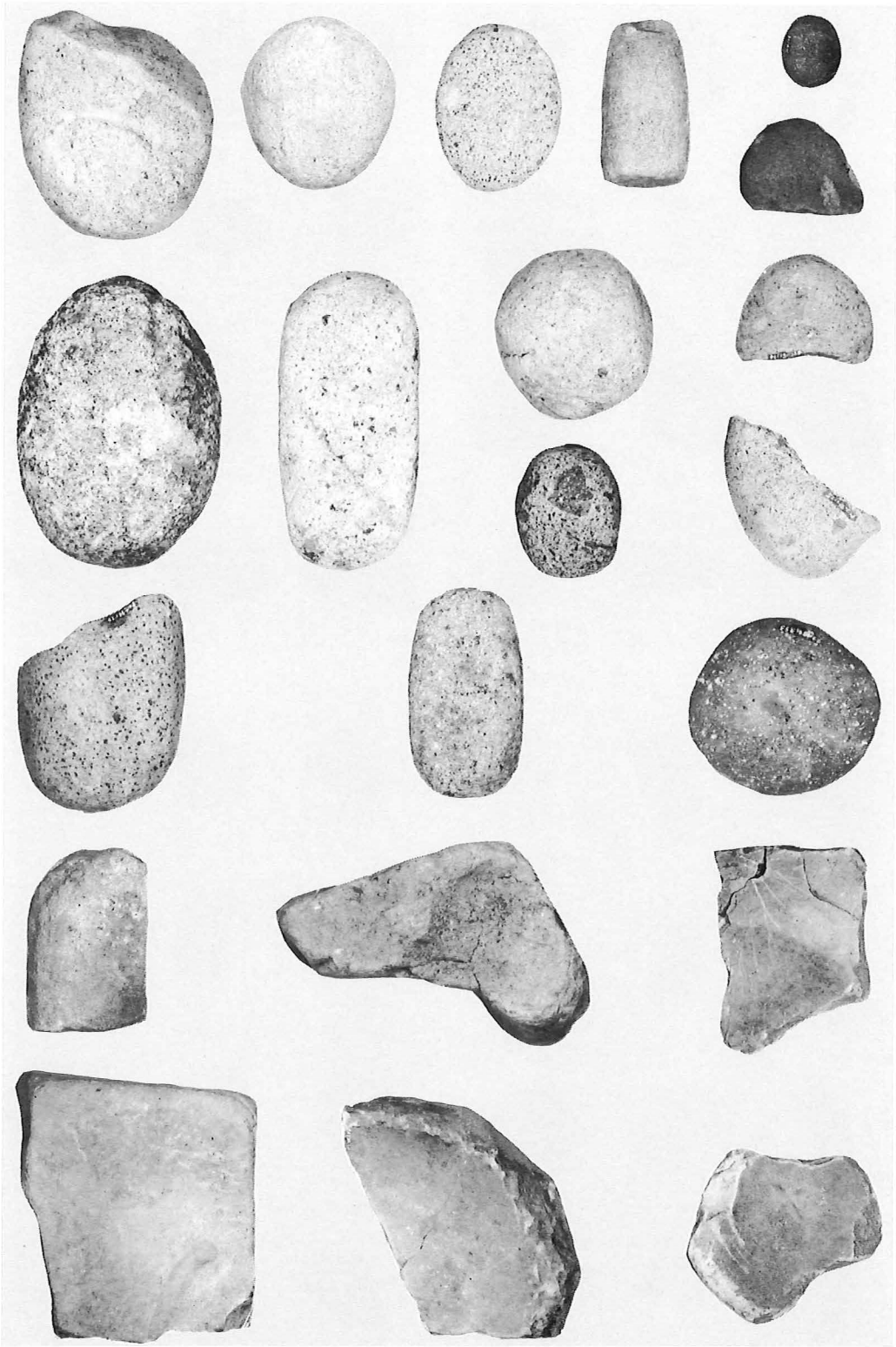


縄文時代の石器―スクレイパー・加工痕ある石器・使用痕ある剝片（1/2）

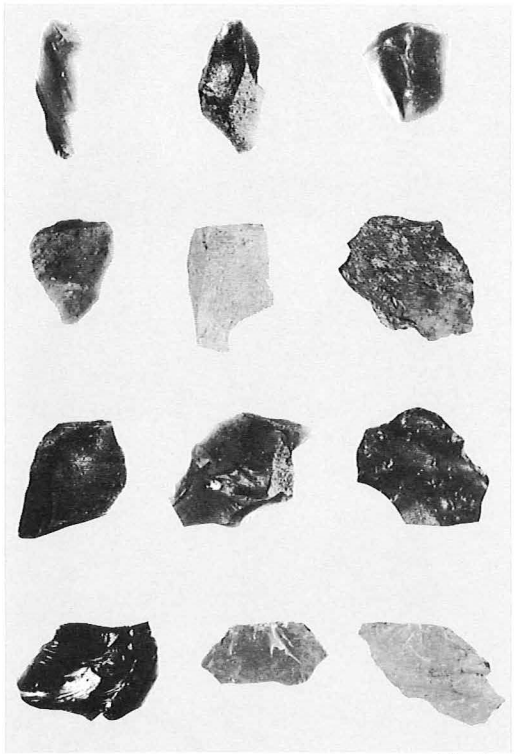


縄文時代の石器―石槍（1/1）

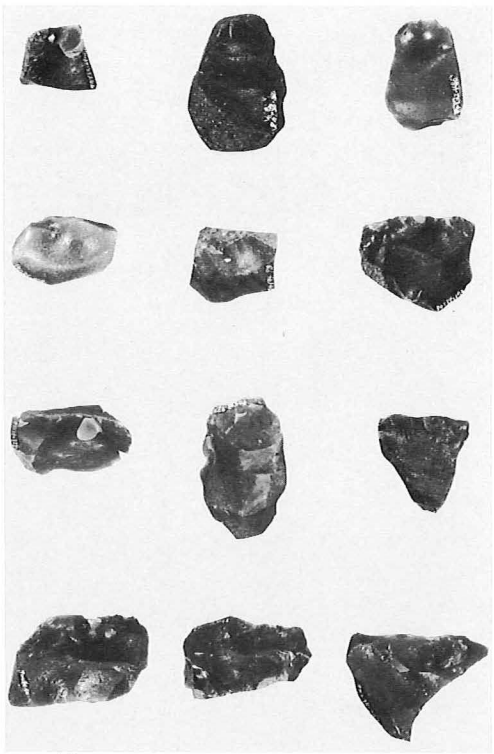
縄文時代の石器―楔形石器・彫器（1/1）



縄文時代の石器―磨石・敲石・凹石・砥石・石皿(1/6)

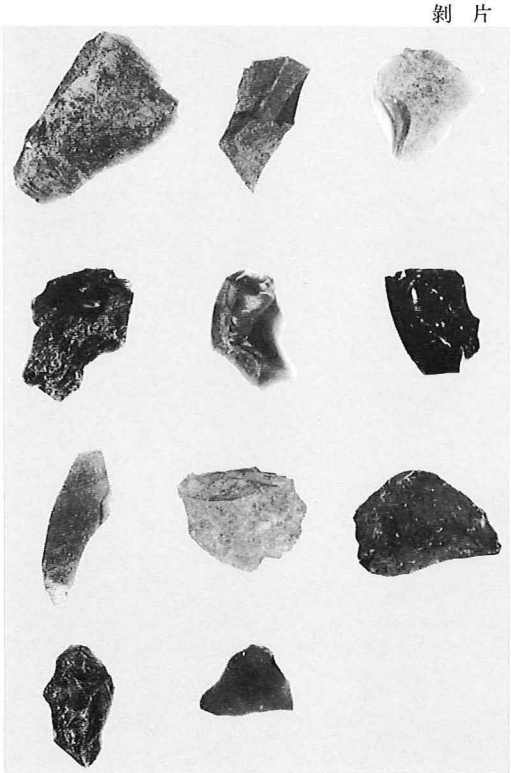


剝　片

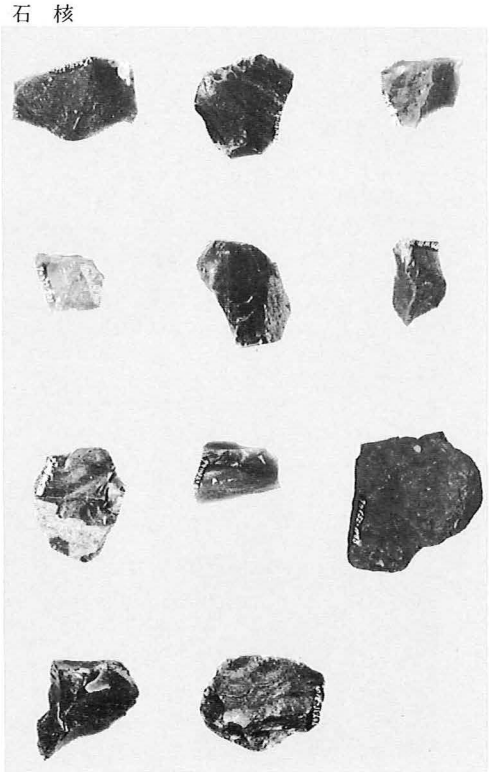


石　核

剝　片



石　核



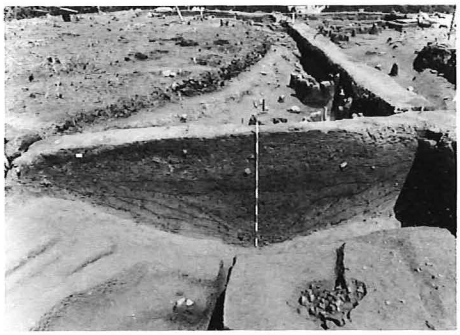
縄文時代の石器―剝片・石核（1/2）

土層・遺構検出状況（Y—32・33区）

集石・炉穴遺構検出状況（W—35・36区）

（Z—34・イ—34区）

20号集石・11号炉穴検出状況



（ニ—34・35区）

集石・炉穴遺構検出状況（Y・Z—32・33区）

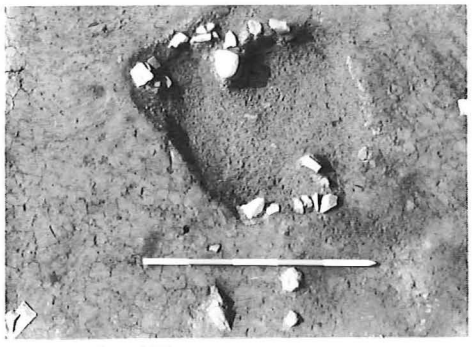
22号集石・17号炉穴検出状況（ニ・ホ—33・34区）

第Ⅲ層炉穴遺構検出状況（Y・Z—32・33区）

壁面写真・遺構検出状況

5号 竪穴状遺構

6号 竪穴状遺構



18号 集石遺構

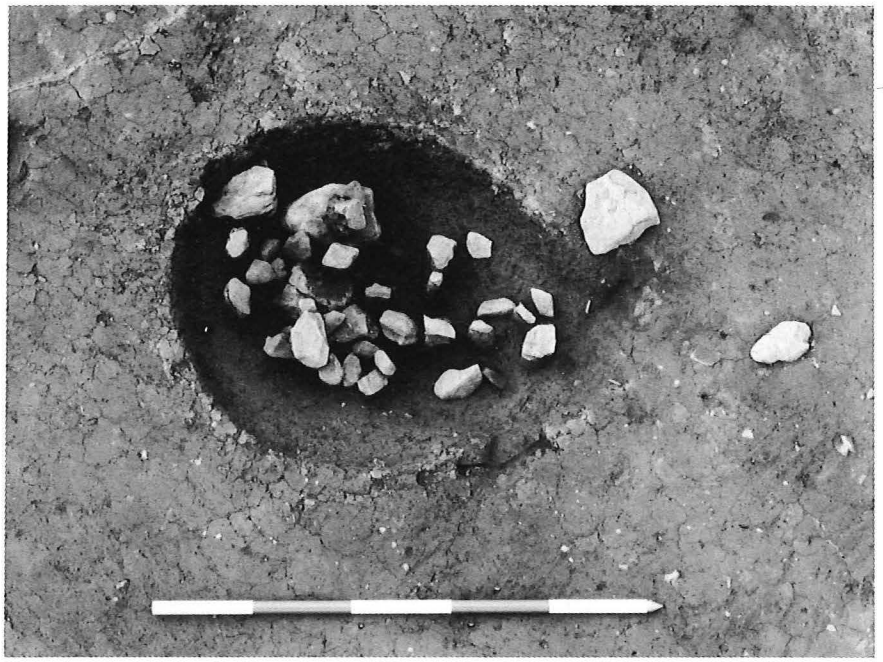
19号 集石遺構

21号 集石遺構

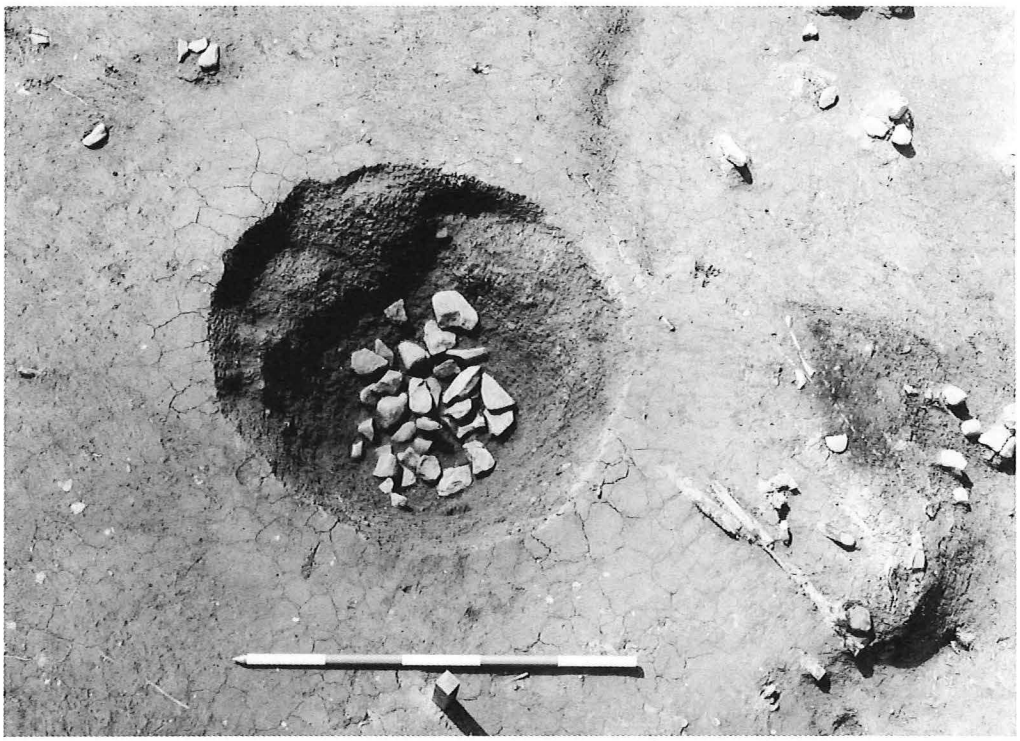
23号 集石遺構

24号 集石遺構

5・6号竪穴状遺構，18・19・21・23・24号集石遺構

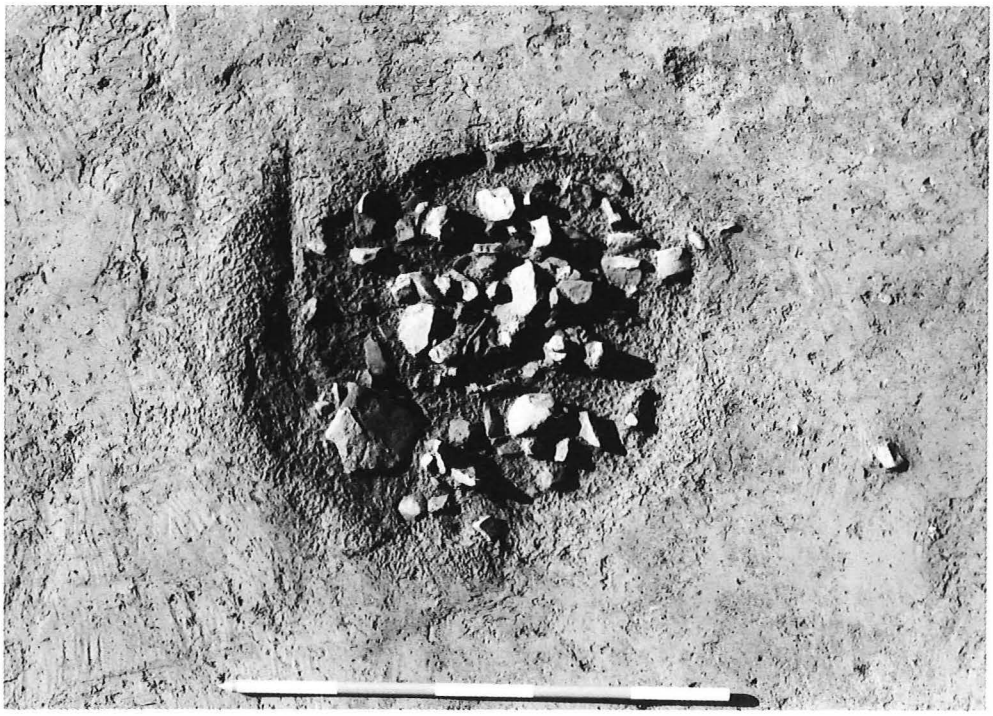


7 号集石遺構

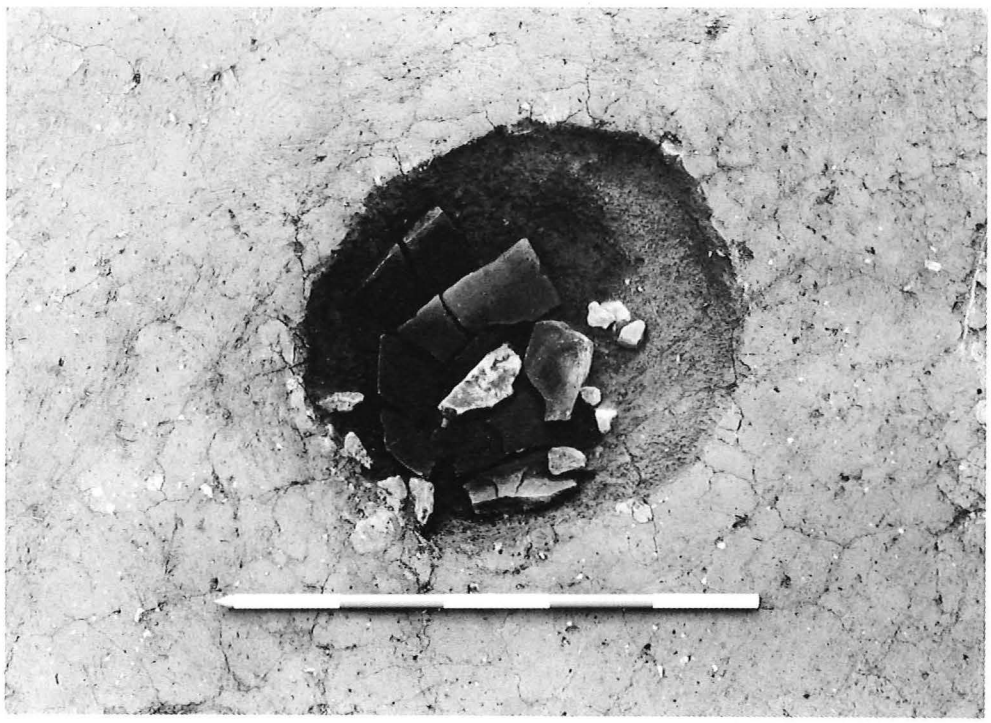


20号集石遺構

7 ・20号集石遺構



17号集石遺構



17号集石遺構（炉床）

17号集石遺構

22号集石遺構

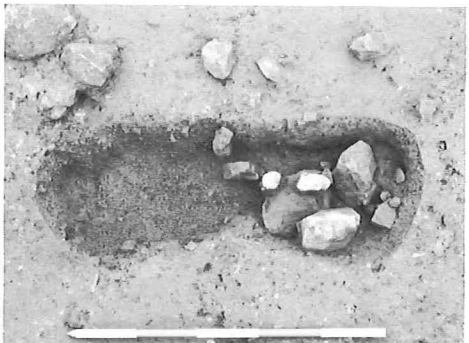
22号集石遺構（炉石）

22号集石遺構

11号炉穴遺構

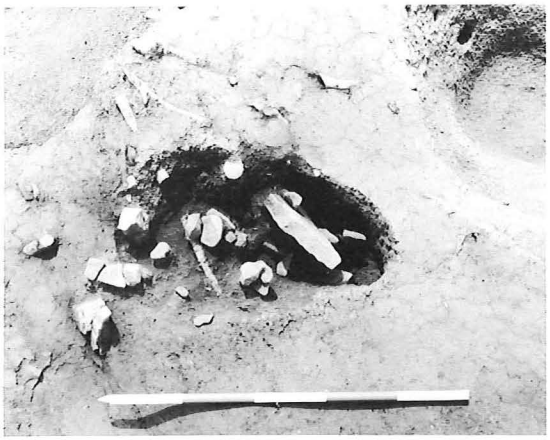
16号炉穴遺構

12号炉穴遺構



17号炉穴遺構

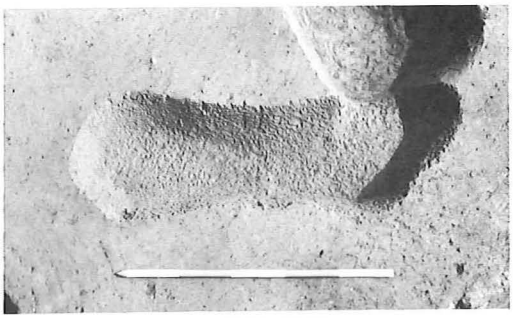
18号炉穴遺構



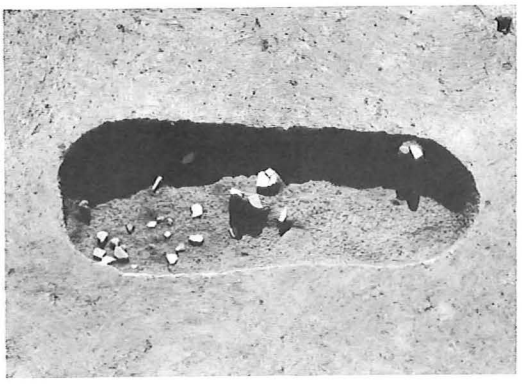
14号炉穴遺構

19号炉穴遺構

11・12・14・16～19号炉穴遺構

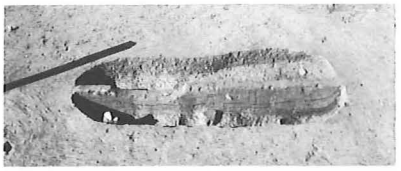


22号炉穴遺構

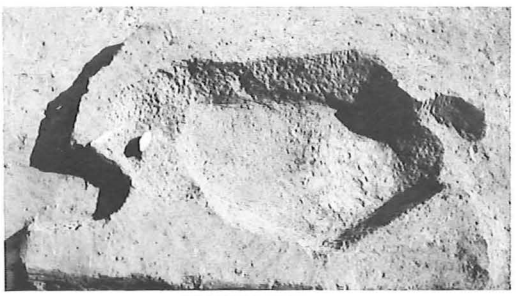


30号炉穴遺構

23号炉穴遺構



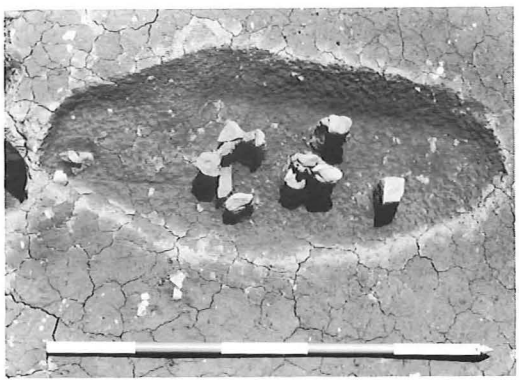
29号炉穴遺構（覆土）



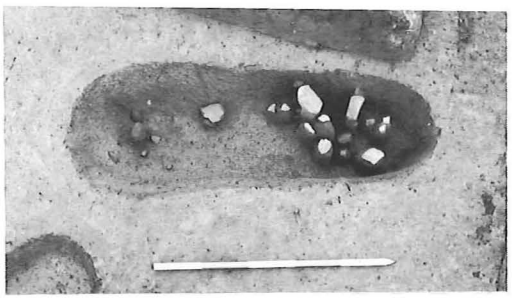
29号炉穴遺構

10・25号炉穴遺構

26号炉穴遺構（覆土）

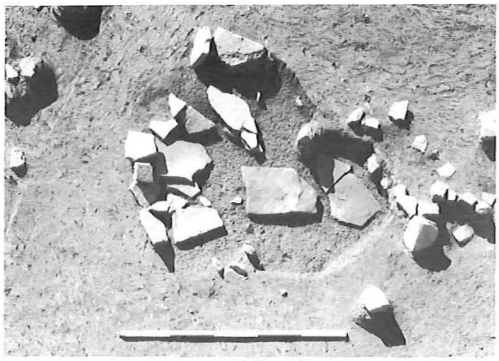


27号炉穴遺構



26号炉穴遺構

10・22・23・25～27・29・30号炉穴遺構

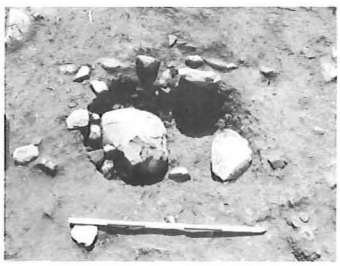


石蓋土壙

2 号不明土壙

石蓋土壙（土壙部分）

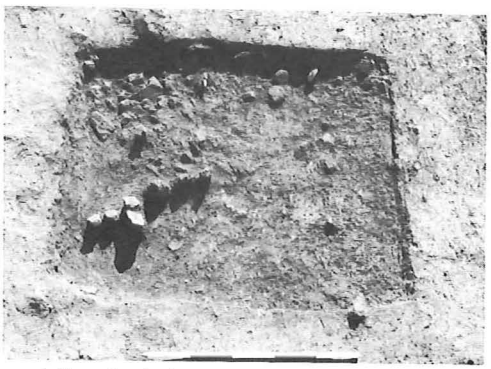
3 号不明土壙



1 号不明土壙

1 号不明土壙

1 号礫群



中世の不明土壙

石蓋土壙・1号礫群・1～3号不明土壙・中世の不明土壙

調査風景①

遺構調査①

調査風景②

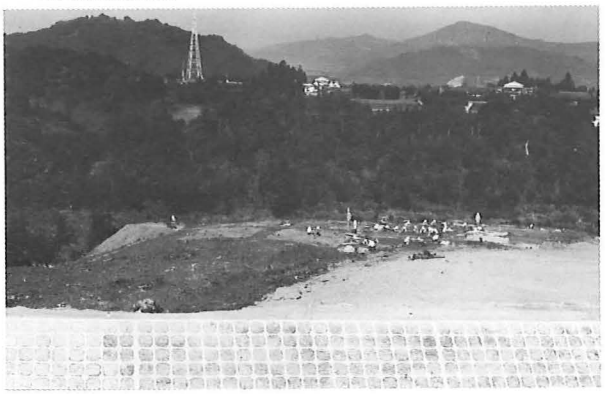
遺構調査②

調査風景③

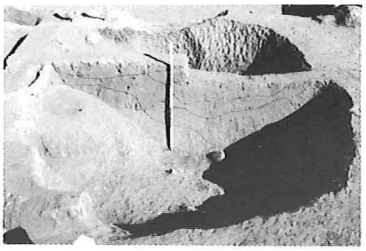
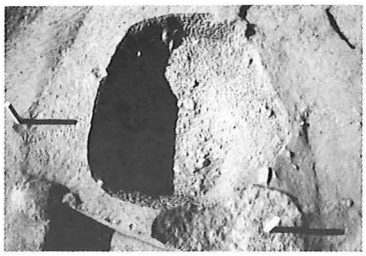
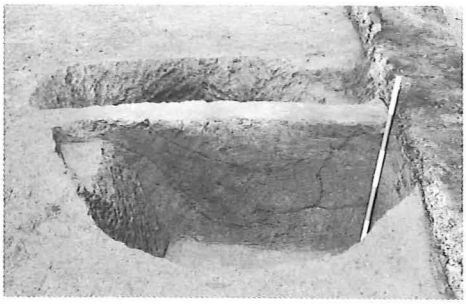
遺構調査③

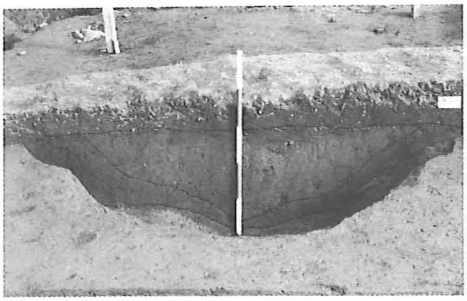
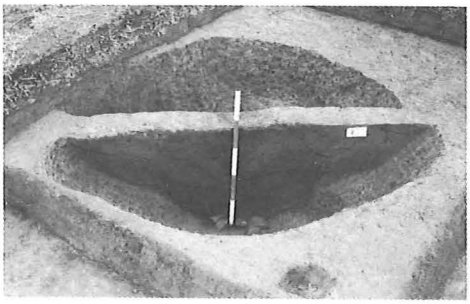
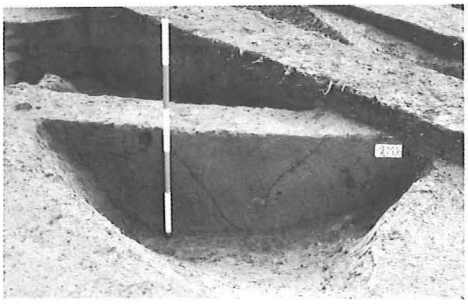
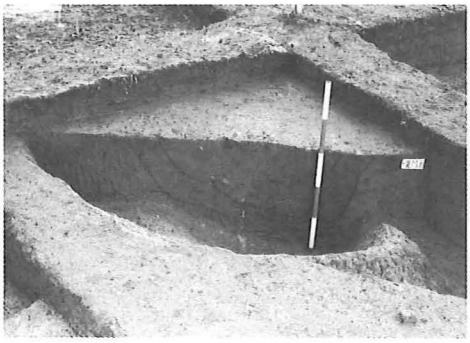
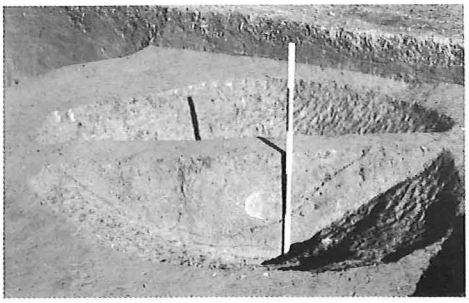
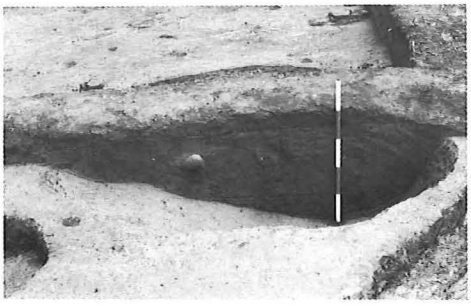
B地点調査風景

調査風景④



調査風景・遺構調査

ドーナツ状土壙

IX　科学分析による古環境復元

1　長崎県鷹野遺跡試料花粉分析報告

長崎県教育委員会殿より，諫早市鷹野遺跡試料の花粉分析の御依頼を受けました。このほど分析を完了しましたので，その結果を御報告申し上げます。

1．試料　分析に供した試料は9点である。それらの試料の内容については下記の表－1試料の如くである。

2．分析方法　試料20ｇ秤量→Hcl処理→ＨＦ処理→重液分離→アセトリシス処理→ＫＯＨ処理→封入→鑑定

3．分析結果及び考察　花粉分析の結果は，花粉・胞子化石が少なかったので，検出された花粉･胞子化石の個数で表示し，表－2を作成した。写真図版は主な花粉･胞子化石と，主な試料のプレパラートの状況をPLATE－1，2に示した。

今回の分析で検出された花粉・胞子化石は下記の如くである。

≪ＡＰ－1（針葉樹花粉)≫

Pinus（マツ属)，Cryptomeria（スギ属)

≪ＡＰ－2（広葉樹花粉)≫

Salix（ヤナギ属)，Alnus（ハンノキ属)，Corylus（ハシバミ属)，Lepidobalanus（コナラ亜属)，Cyclobalanopsis（アカガシ亜属)，Mallotus（アカメガシワ属)，Ilex（モチノキ属)，Symplocos（ハイノキ属)，Lonicera（スイカズラ属)

Tab. 34鷹野遺跡試料表

地　区	遺　　構	土　　層	土　　質	･花粉胞子化石産出傾向
J－13	東　壁　土　層	II層 上　部	黄橙色土	R　R
		II層 上　部	〃　〃	R　R
		III層	〃　〃	R　R
		IV層	〃　〃	R　R
		IV層 下部～V層土部	〃　〃	R　R
J－13	1号竪穴状遺構	2′層 下部～2層土部	黒褐色土	R　R
		2″層	〃　〃	R　R
		3層	暗褐色土	R　R
		4層	黄褐色土	R　R
W－35	23号炉穴遺構	側壁部分	赤褐色土	

Mallotus（アカメガシハ属）もII層中より検出されている。アカメガシハ属は中国東北部～日本列島～台湾にかけて分布している。分布上比較的暖い地域に分布し，中国東南部，静岡県南部等に生育していることが知られている。

III層以下は上述の属がほとんどみられず比較はできない。

当地方の縄文時代の古気候環境は上述の僅かなデータよりの推定では，現生植生図と比較しても現生と大差ない植物群の構成ではなかったかと考えられ，温暖環境であったと推定したい。

現在諫早周辺の植生は，山地頂上部にはスギ・ヒノキ植林，山地の傾斜面にはシイ・カシ萌芽林が存在し，その他の低地・平地は水田・果樹園・畑地等に変っている。

Ｊ—13・１号竪穴状遺構

各層いずれも花粉が集積された状況を示すようで，比較的多くの花粉化石が検出されている。樹木花粉としてはここでもハイノキ属が最も多く検出されている。

Ｊ—13東壁土層産花粉群と若干異なる点はCorylus（ハシバミ属）とLepidobalanus（コナラ亜属），Ilex（モチノキ属）等が見られることである。

モチノキ属を含むモチノキ科は非常に多くの種を有しているが，全般的に温帯から熱帯にかけて分布しているもので，これらの検出は竪穴中に集積した土層の形成時はやはり温暖環境であったと推定したい。

23号炉穴の側壁部分W—35　№23

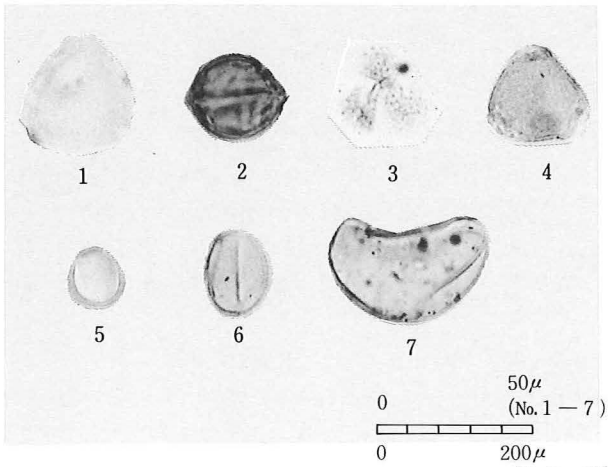
花粉・胞子は１個体も検出されなかった。状況写真に見られるように黒色の植物片はほとんど認められず，大半が褐色の植物片である。従って焼土とは考えにくい。

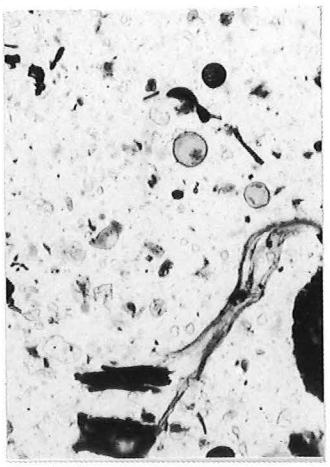
参考文献

地域振興整備公団　西輪久道遺跡
長崎県教育委員会　鷹野遺跡　：　（1981．６）
現存植生図　諫早・大村　環境庁　（５万分の１）

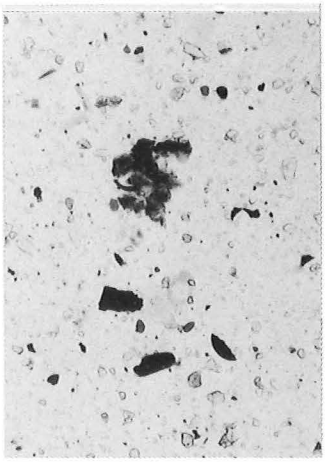
Tab. 35　鷹野遺跡試料花粉分析結果

地区・遺構		J-13 東壁土層					J-13 1号竪穴状遺構（工房址）			
Pollen and Spores ＼ 土層		II層上部	II層下部	III層	IV層	IV層下部 V層上部	2'層下部 2層上部	2"層	3層	4層
AP1	pinus		1							
	Cryptomeria		1	1		1	2			
AP2	Salix	1								
	Alnus							1		
	Corylus	1	1	2			3	2	4	4
	Lepidobalanus	1	2		1			3	1	4
	Cyclobalanopsis									1
	Mallotus	1								
	Ilex						1	6	2	4
	Symplocos	3	1				1	1	3	15
	Lonicera						1			
NAP	Haloragis						4		1	
	Artemisia	1		1			15	28	45	20
	Carduoideae						3	1	2	
	Gramineae						2	1	1	
FP	Trizonoporate pollen								3	3
	Trizonocolpate pollen	8	6	5						1
	Trizonocolporate pollen	7	3	5			5	2	2	20
	Tetrazonocolporate p.		1							
	Inaperturate pollen							1		
FS	Polypodiaceae							2	1	3
	Monolete spore		1				6	5	1	37
	Trilete spore			1			4			
TOTAL	ΣAP－1	0	2	1	0	1	2	0	0	0
	ΣAP－2	7	4	2	1	0	6	13	10	28
	ΣNAP	1	0	1	0	0	24	30	49	20
	ΣFP	15	10	10	0	0	5	3	5	24
	ΣFS	0	1	1	0	0	10	7	2	40
	ΣAP	7	6	3	1	1	8	13	10	28
	ΣPollen &Spores	23	17	15	1	1	47	53	66	112



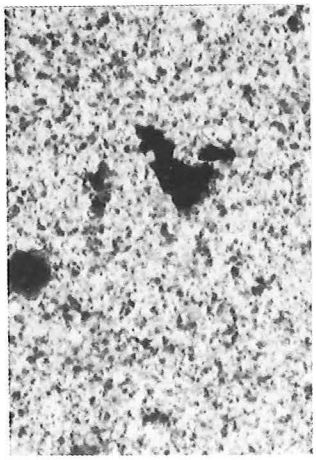


8　東壁土層Ⅱ層上部状況写真



9　東壁土層Ⅱ層下部状況写真

1. 1号竪穴状遺構　3層　Corylus
2. 東壁土層　Ⅱ層上部　Mallotus
3. 1号竪穴状遺構　3層　Ilex
4. 〃　4層　Symplocos
5. 〃　3層　Artemisia
6. 〃　〃　A.
7. 〃　4層　Monoletespore



10 東壁土層Ⅳ層下部～Ⅴ層上部状況写真

11 1号竪穴状遺構2層下部～2層上部状況写真

12　1号竪穴状遺構4層状況写真

花粉・胞子化石名・状況写真

2．鷹野遺跡並に西輪久道遺跡の熱ルミネッセンス年代

奈良教育大学　市　川　米　太

今回，鷹野遺跡出土の石器と無文土器，並に西輪久道遺跡出土の石器について熱ルミネッセンス法によって年代を測定した。西輪久道遺跡出土の楕円押型文土器（II層出土）も試料として呈供されたが大きさがあまりに小さく測定することができなかった。測定法は石英粗粒子法で，石器や土器の中から，粉砕，篩い分け，酸処理，電磁分離などの試料調整を行って直径0.1ミリメートル程度の石英粒子を取り出して試料として，試料がこれまで受けてきた蓄積線量を求めた。図には，蓄積線量を求めるための熱発光曲線の例が示してある。この図において，Nは石英粒子をそのまま加熱したときに見られる熱発光曲線であり，N＋2,000は石英粒子にコバルト60の人工照射を2,000ラドしたときの熱発光曲線であり，N＋4,000は4,000ラド照射したときの熱発光曲線である。蓄積線量はN曲線の発光強度をN＋2,000，N＋4,000の発光強度で較正するこ

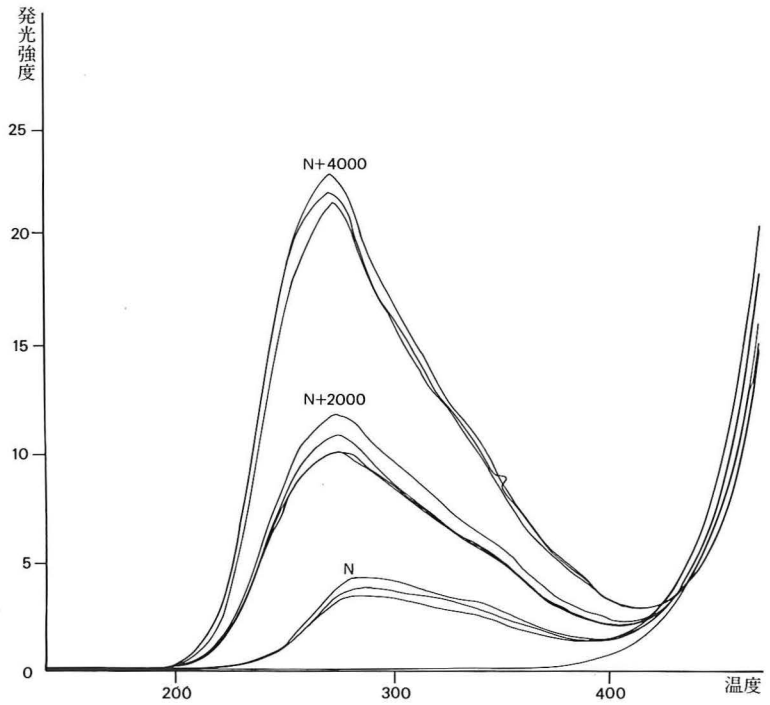


Fig.196　熱発光曲線

Tab. 36鷹野遺跡並に西輪久道遺跡の熱ルミネッセンス年代

試料	蓄積線量（ラド）	年間線量（ラド／年）	TL年代（年.B.P.）
鷹野　15号炉穴　No.30石器	3210	0.390	8.230
〃　7号炉穴　No.1石器	3220	0.433	7.440
7号炉穴　No.7石器	不焼		
〃　III層出土無文土器	1690	0.242	6.980
〃　IV層出土無文土器	1620	0.247	6.560
西輪久道　石組炉跡E－1	1780	0.254	7.010

とによって求めた。

年間線量の評価には CaSo 4 ；Tm の結晶粒子を使って熱ルミネッセンス線量測定法によって測定した。年間線量の中周囲の土からくるガンマ線量は上記の熱ルミネッセンス線量計を遺跡に約 4 ケ月間埋め込んで放置した後，取り出して測定した。また，石器や土器中のベータ線量は石器や土器の粉末を円板状に整形したものの間に熱ルミネッセンス線量計を拡げて約 6 週間放置した後測定した。

今回測定した石器 4 個，土器 2 個の熱ルミネッセンス年代が表に示されている。熱ルミネッセンス年代は蓄積線量を年間線量でわることによって求めてある。この中，7 号炉穴，No. 7 の石器はその熱発光曲線から，加熱されていないことが判明した。

3．鷹野遺跡より出土した炭化物の樹種について

（財）元興寺文化財研究所　松　田　隆　嗣

1．はじめに

鷹野遺跡の集石内・炉内等より出土した炭化物は78個をかぞえられたが，炭化物の多くは極めて脆弱なものが多く樹種の同定が行えた炭化物は42点である。同定により明らかとなった樹種としては，クヌギ・コナラ・カシ・ケヤキ・タイミンタチバナである。

2．同定方法

一般の出土木材の同定は資料の木口，柾目，板目面の切片を作成し，これを光学顕微鏡により内部形態的特微観察することにより樹種同定を行っている。しかし，炭化物は出土木材のように切片を作成することができない。このため，炭化物の樹種同定には資料の木口・柾目・板目面を走査電子顕微鏡を用いて直接に観察することにより行っている。観察を行う面は土や砂による汚染がなく，組織の崩壊が少ないできるだけ新鮮な面を観察するため各資料の木口・柾目・板目面の各面をできるだけ平坦になるように破断し，この面を走査電子顕微鏡により観察し同定を行った。

3．同定理由

同定の結果明らかとなった樹種はすべて広葉樹でありクヌギ・コナラ・カシ・ケヤキ・タイミンタチバナ・不明１～３の８種である。

観察の結果明らかとなった内部形態的特徴は次のとおりである。

クヌギ Quercus acutissima Carruth （ブナ科 Fagaceae）

楕円形の大きな道管が年輪界にそって配列する（環孔材）。孔圏外で道管は急激にその径を減じ放射方向に配列する。道管はすべて孤立管孔よりなる。穿孔は単穿孔。放射組織は同性で単列放射組織と広放射組織よりなる。

しかし，炭化物によっては資料が小さく大道管の配列状況やあるいは広放射組織が確認できなかった資料もあるが，他の観察結果からクヌギと考えられるものはクヌギ？とした。

コナラ　Q. serrata Murray （ブナ科 Fagaceae）

楕円形の大きな道管が年輪界にそって配列する。孔圏外で道管は急激にその径を減じ，火炎状に配列する。孔圏外の道管の径はクヌギに比較しその径は極めて小さい。穿孔は単穿孔。放射組織は同性で単列放射組織と広放射組織よりなる。

カシ　Q（cyclobalanopsis）spp　（ブナ科　Fagaceae）

楕円形の大きな道管が放射方向に配列する（放射孔材）。道管はすべて孤立管孔よりなる。穿孔は単穿孔。放射組織は同性で単列放射組織と広放射組織よりなる。

ケヤキ　Zelkova serrata Makino（ニレ科　Ulmaceae）

楕円形の大きな道管が年輪界にそって1列に配列する。孔圏外で道管はその径を減じるとともに多数が不規則に集合し，斜線状に配列する。穿孔は単穿孔。放射組織は異性で，1～7細胞幅。紡錘型放射組織の上下両端は大型である。

タイミンタチバナ　Myrsine seguinii Léveillé（ヤブコウジ科　Myrsinaceae）

道管はほぼ均等に分布する（散孔材）。道管の多くは2～5個が放射方向に複合するとともに道管径は春材から夏材への移行により若干減少する。放射組織はほとんどが直立細胞よりなるが，一部に平伏細胞も存在し異性である。細胞幅は1～5列であるが炭化時の収縮により判断しがたい。

不明1

楕円形の大きな道管が年輪界にそって1列に配列する。孔圏外で道管は急激にその径を減じるが，炭化時の組織の変形により道管の正確な配列状況は判断しがたい。また，年輪幅も比較的狭い。穿孔は単穿孔。放射組織の状況は組織の変形が著しく観察できなかった。

不明2

炭化時に変形をかなり受けているため，組織の状況を正確に判断することは不可能であるが，その特徴は円形～楕円形の大きな道管が年輪界にそって配列する。大きな道管は所々で跡切れるようであり環孔材か放

射孔材かが明らかではない。孔圏外で道管はその径を急激に減じるが，その配列状態は判断しがたい。穿孔は単穿孔。放射組織は異性がかるが正確に観察しがたい。細胞幅は単列あるいは一部において集合する。

不明3

やや角ばった楕円形の小さな道管がほぼ均等に配列する(散孔材)。道管の径は春材から夏材への移行により若干減少する。放射組織は異性で1～2細胞幅。穿孔は単穿孔か階段穿孔か判断できなかった。全体的な

Tab. 37　鷹野遺跡出土炭化物樹種鑑定結果一覧表

No.山土地点	樹　　種	No.出土地点	樹　　種
1－①	コナラあるいはシイノキ	21－③	タイミンタチバナ
②	クヌギ	④	コナラ
2	クヌギ	⑤	タイミンタチバナ
3		22－①	コナラ
4	クヌギ？	②	コナラ？
5	クヌギ	③	コナラ
6		④	コナラ
7－①	クヌギ	⑤	コナラ
②	クヌギ？	⑥	コナラ
8	クヌギ？	⑦	コナラ
9	クヌギ	⑧	コナラ
10－①	クヌギ	⑨	コナラ
②	クヌギ	⑩	コナラ
③	クヌギ	⑪	コナラ
11	クヌギ	⑫	コナラ
12	クヌギ	⑬	コナラ
13－①	カシ？	⑭	コナラ
②	カシ	⑮	コナラ
③	不明（広葉樹）資料小さく固定不可能	⑯	コナラ
14	クヌギ	⑰	コナラ
15－①	クヌギ	23－①	不明1
②	クヌギ	②	不明2
16	クヌギ	③	ケヤキ
17		24－①	不明3
18		②	不明3
19	クヌギ	③	タイミンタチバナ？
20－①	クヌギ	④	タイミンタチバナ？
②	クヌギ	25	コナラ
③	クヌギ	26	クヌギ
④	クヌギ	27	ハンノキ
⑤	クヌギ	28	シイノキ
21－①	タイミンタチバナ	29	コナラ
②	タイミンタチバナ	30	コナラ

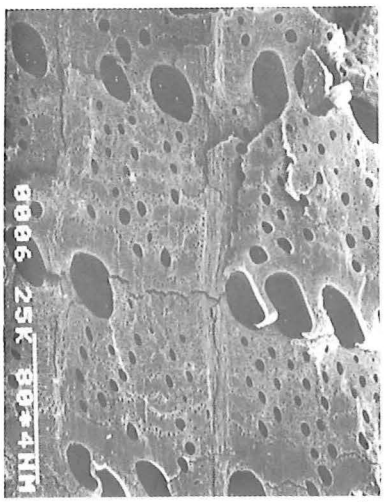
感じとしてシキミあるいはユズリハに似ている。

4．結果

鷹野遺跡より出土した炭化物の炭素14年代の測定結果から，炭化物の多く(９点中７点)はおおよそ9000年前の年代を示すことが明らかとなっている。

この9000年前という時代は，現在に比較してやや乾冷な気候であったことが花粉分析の結果などにより明らかとなっている。この時代には西日本の低地や丘稜にはコナラを主とする落葉広葉樹が優位を占め，その中にカシなどの常緑樹がわずかに生育していたとされている。

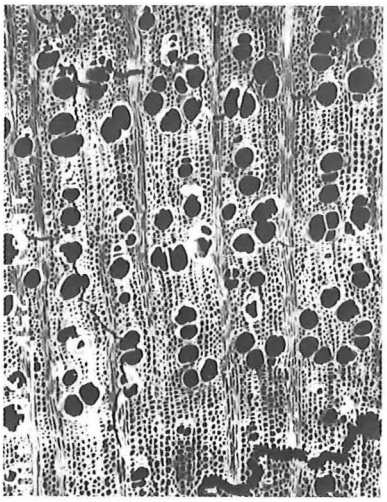
鷹野遺跡から出土した炭化物は，本来，燃料として利用された樹木の炭化した部分が腐朽せずに残ったものである。燃料としての樹木の利用を考える時，手近にあった樹木を無作為に用いたとすれば鷹野遺跡における当時の樹木の生育状況を知る手がかりを与えているとも考えられる。ただ，これらの炭化物から正確に量的な判断を下すことはかなりむつかしいが，クヌギ，コナラといった落葉広葉樹が高い出現率を示し，次にタイミンタチバナ，カシといった常緑広葉樹が見られることから，クヌギ・コナラといった落葉広葉樹が優位を占めていた可能性が示唆される。



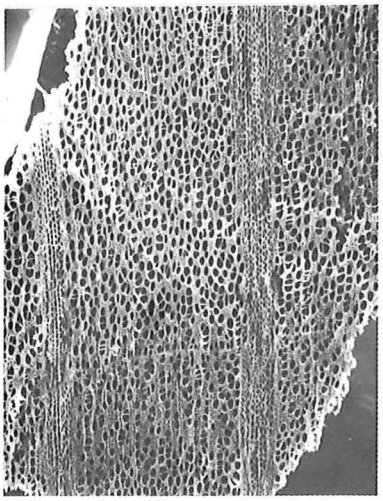
1

2

3



4



5

1．　クヌギ（鷹野No.22　Z—31
17号集石内）

2．　コナラ（鷹野No.16
3号集石内）

3．　シイノキ（鷹野No.10　O—10
2号集石内No.1）

4．　サクラ（鷹野No.9　O—10
2号集石内No.9）

5．　ハンノキ（鷹野No.27）

樹種同定写真

4．鷹野遺跡より出土した炭化物の種子について

大阪市立大学　粉　川　昭　平

縄文早期の鷹野遺跡の植物遺物は、すべて木炭化している。同定はむつかしい。予察的結果は次のようである。更に精査する必要がある。

No.1（N－16）3号集石――ユリ科の球根1個，ミズキ？の破片1個。
No.2（X－35）19号集石――シロバイ？の破片2個，他の1個不明。
No.3（ニ－34）22号集石――不明のタール状炭化物3個。
No.4（O－12）1号炉穴――カラスザンショウ1個，他は不明。
No.5（O－12）2号炉穴――材片と樹皮片数個。
No.6（O－12）3号炉穴――ミズキ？6個，サンショウ属の小片1個。
No.7（O－15・16）5号炉穴――クマ，ミズキ？とカラスザンショウの小片数個。
No.8（N－13）6号炉穴――ユリ科の球根？の破片小量。
No.9（P－18）7号炉穴――カラスザンショウ？の破片3個，他の1個不明。
No.10（W－35）11号炉穴――樹皮？1個。
No.11（W－35）12号炉穴――タール状炭化物5個，不明。
No.12（J－7）15号炉穴――ユリ科の球根，材片。
No.13（Y－33）18号炉穴――ミズキ？，ヤマボウシ？，カラスザンショウ。
No.14（W－35）19号炉穴――カラスザンショウ？の破片多数。
No.15（W－35）20号炉穴――ユリ科の球根2個。
No.16（Z－33）22号炉穴――シロバイ2片，カラスザンショウ破片数個。
No.17（W－35）23号炉穴――ユリ科の球根？その他不明。
No.18（Y－33）25号炉穴――ミズキ？の小片1個，その他不明。
No.19（Z－33）26号炉穴――多量のユリ科の球根。
No.20（W－36）27号炉穴――タデ属？1個，樹皮片2個。
No.21（Y－32）28号炉穴――歪形で1室の不明1個。
No.22（J－13・14）工房址――條線のある小種子3片，他の炭化物片

も不明。

No.23（G－10）――クスノキ？の破片1個。

No.24（H－10）――不明の種子5個。

No.25（H－10・11）――樹皮片5個。

No.26（L－10）II層――不明の種子1個。

No.27（M－14）――イネ科？の地下茎2個。

No.28（N－16）――ユリ科の球根？1個，樹皮片数個。

No.29（T－13・14）土壙内――不明2個。

No.30（N－16）4号集石――材片数個。

No.31（L－11）5号集石――材片4個。

No.32（Y－31）10号炉穴――ユリ科の球根？の破片1個，材片。

No.33（F－11・12）方形土壙内――カシ属？の子葉片1個。

No.34（Q・R－12）――ユリ科の球根？少量と多くのタール状塊。

以上をみると、ユリ科の球根らしいものに注目される。

かなりの出土例があるが，正確な同定はむつかしい。

他は，サンショウの類やミズキ？シロバイ？など，小さな漿果(ベリー)がかなり多い。これらの小鳥の好む小さな果実である。ドングリらしいものは，No.33しか見当らない。

5．C^{14}年代測定結果報告書

年代は^{14}Cの半減期5730年（カッコ内はLibbyの値5568年）にもとづいて計算され，西暦1950年よりさかのぼる年数（years B. P.）として示されています。付記された年代誤差は，放射線計数の統計誤差と，計数管のガス封入圧力および温度の読取の誤差から計算されたもので，^{14}C年代がこの範囲に含まれる確率は約70%です。この範囲を2倍に拡げますと確率は約95%となります。なお^{14}C年代は必らずしも真の時代とひとしくない事に御注意下さい。

当該団地造成に伴う発堀調査で検出した遺構および堆積土中の炭化物のC^{14}年代測定を実施した。

その結果，2号集石遺構の測定結果が他に比べて，年代差がありすぎるような結果を得ている。ここでは資料として提示し，熱ルミネッセンス法の測定年代結果と合わせ，今後の問題点として検討したい。

Tab. 38　C14年代測定結果報告書

試料コード	採　集	地　区	アイソトープ協会コード	C－14　年　代	測定依頼日
鷹　野　No.1	2号　集石	0－10	N－3695	6210±100YB.P.(6.030＋95YB.P.)	S54.11.22
〃　No.2	1号　炉穴	O－12	N－3696	9680±170 〃 (9.400±165 〃)	〃
〃　No.3	Ⅲ層	P－12	N－3697	+2.420 +2.400 36200 〃(35.200 〃) −1.880 −1.820	〃
〃　No.4	3号　集石	N－16	N－4578	9390±115 〃 (9.120±110 〃)	S57. 6 .25
〃　No.5	17号　集石	Z－31	N－4579	9560±115 〃 (9.280±110 〃)	〃
〃　No.6	20号　集石	W－35	N－4580	9510±95 〃 (9.230±90 〃)	〃
〃　No.7	22号　集石	ニ－34	N－4581	7130±115 〃 (6.920±110 〃)	〃
〃　No.8	15号　炉穴	J－7.8	N－4582	8970±90 〃 (8.710±90 〃)	〃
〃　No.9	17号　炉穴	ホ－35	N－4583	9520±105 〃 (9250 ±100 〃)	〃
〃　No.10	29号　炉穴	Y－29	N－4584	9700＋115 〃 (9.420±110 〃)	〃
〃　No.12	ドーナツ	R－12	N－4586	＞37.800 〃	〃
西輪久道 No.1	Ⅱ層	H－14	N－3469	5060±105 YB.P.(4.910±100YB.P.)	S52.11.15
〃　No.2	ピット	N－15	N－3470	2260±75 〃 (2.200±70 〃)	〃
〃　No.3	Ⅲ層（No.1）	K－13	N－3471	7470±105 〃 (7.260±100 〃)	〃
〃　No.4	炉穴（No.2）	K－13	N－3472	7740±105 〃 (7.520±100 〃)	〃
〃　No.5	最下層埋れ木	D－19	N－3698	＞37.800 〃	S54.11.22
平　No.1	不明遺構	O－10	N－4587	905±75 YB.P.(880±70 YB.P.)	S57. 6 .25

X　遺構の保存処理

1．遺構の写真測量及び遺構の切取り

鷹野遺跡A地点の1号竪穴状遺構の地上写真測量とA地点の2号集石遺構とB地点の20号集石遺構，11号炉穴遺構を切取り科学的処理を施こした。また，集石・炉穴遺構の用途を想定し，実験を行った。

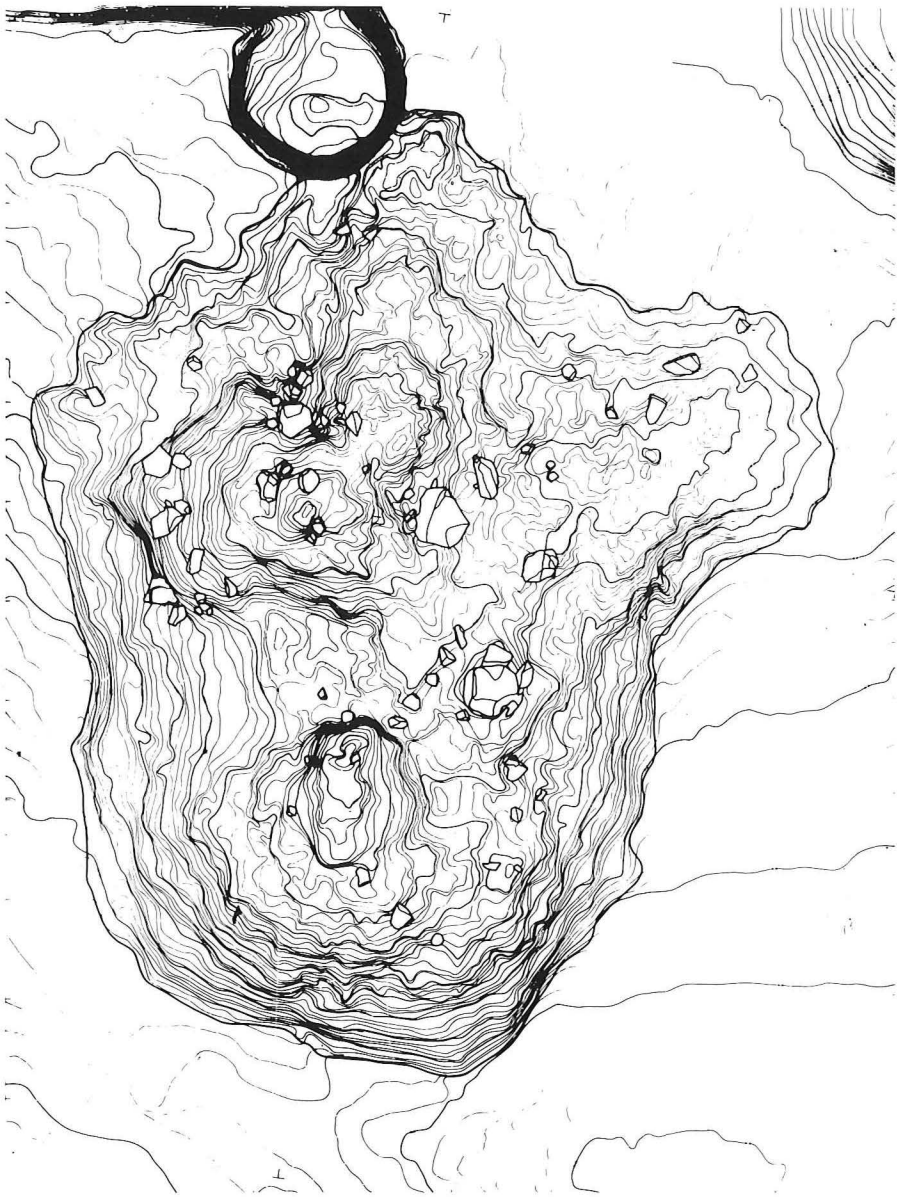
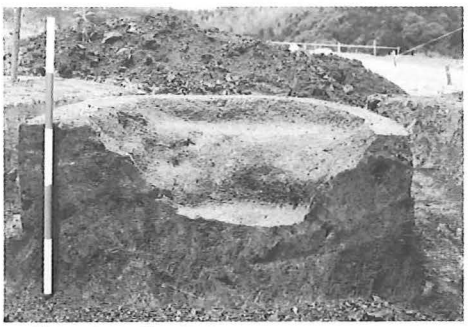


Fig.197　1号竪穴状遺構写真測量成果資料（1/40）

1　切り取りのための遺構の周囲を掘り込む。



2　科学的処理前の段階。

3　遺構表面より裏面に残す土の厚さを一定にするためにツマヨウジを打ち込む。

4　遺構表面の保護のため不織布を密着させ、材を入れ、ウレタン樹脂を吹き付ける。

5　上面、側面をウレタン樹脂で覆った状況。

6　側面からボーラーで穴をあける。

7　穴にウレタン樹脂を充填して補強する。

8　遺構を反転し、裏面を上に向ける。

遺構の切り取り作業①

9　ウレタン樹脂や遺構裏面についた余分な土を取り除き、遺構面に沿って薄く土を残す。

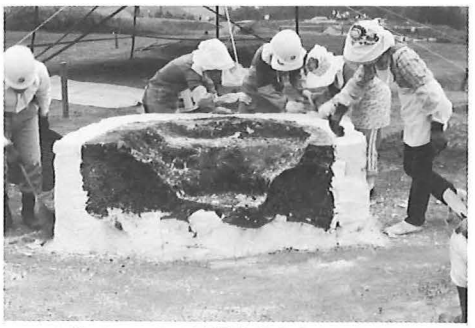
10　エポキシ樹脂とグラスファイバークロスを交互に重ね裏うちを行なう。

11　裏うち作業の完了。

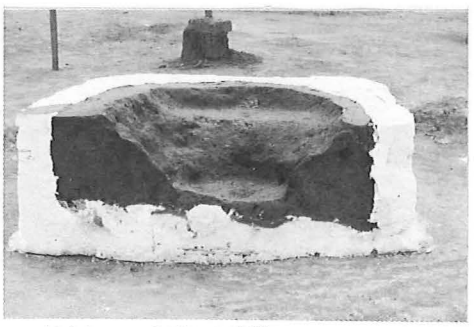
12　乾燥させた後、遺構を正位置に戻し、上部を覆ったウレタン樹脂をはぎ、遺構面を露出する。

13　遺構面にイソシアネート溶液を繰り返し散布し表面の保存処理を行なう。

14　エポキシ樹脂と土を混ぜたものをウレタン面に塗りヒビなどを補修し仕上げる。



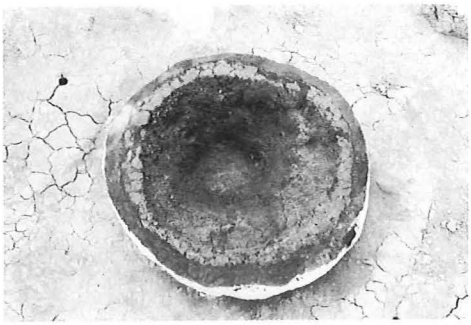
15　遺構面の入念な清掃を行なう。



16　保存処理の完了した遺構。

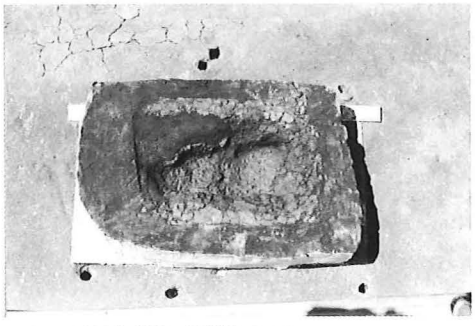
遺構の切り取り作業②

17　20号集石遺構の検出状況。

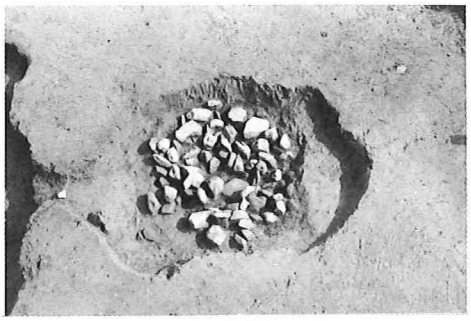


18　20号集石遺構の科学的処理後。

19　11号炉穴遺構の検出状況。

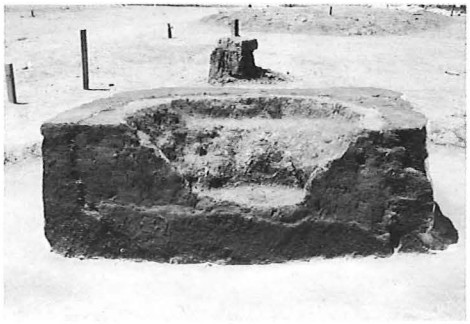


20　11号炉穴遺構の科学的処理後。

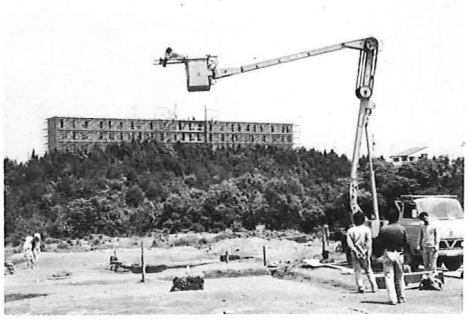


21　2号集石の検出状況。

22　2号集石の科学的処理後（上面）。



23　2号集石の科学的処理後（横面）。



24　1号竪穴状遺構の空中写真測量状況。

遺構の切り取り作業③・空中写真測量

1　集石・炉穴に雑木と礫石を入れる。

2　同時に燃やす。

3　集石炉に焼けた礫石を敷き並べ，目的物を入れ
その上に炉穴で焼いた石を入れる。

4　実験を小学校の生徒が見学。

5　約30～40分後，上に乗せた礫石を取り除く。

6　蒸し上った状況。

7　試食をしているところ。

実験考古学
鷹野遺跡の発掘調査中に数回に渡り，集石・炉穴遺構を復原し，ジャガイモを使用して実験を行った。
集石・炉穴で礫石を熱し，ジャガイモを入れ，礫石を乗せて約30～40分で石蒸しができた。
実験途中で，雨が降ったが，少々の雨なら関係ないようだ。
また，目的物は植物の葉でくるまないとこがれてしまう。

実験考古学

長崎県文化財調査報告書　第85集

諫早中核工業団地造成に伴う
埋蔵文化財緊急発掘調査報告書

III

昭和61年３月

発　行　長崎県教育委員会
長崎市江戸町2—13

印　刷　康　真　堂　印　刷
大村市小路口本町363-6